『取扱説明書』、『メンテナンスノート』は、いつも愛車へ！
いざというとき、お役に立ちます。

- 販売店で取り付けられた装備品の取り扱いについては、添付されている取扱説明書を必ずお読みください。
- ご不明な点がございましたら、《日産販売会社》におたずねください。
- お車をゆずられるときは、次に所有されるかたのために本書とメンテナンスノートを必ずつけておいてください。

本書をお読みになるにあたって

- 本文中で使用されている ⚠ 危険 ⚠ 警告 ⚠ 注意 アドバイス 知識 の箇所は、本文とあわせて良くお読みください。

  特に ⚠ 危険 ⚠ 警告 ⚠ 注意 のマークの箇所は、取り扱いを誤ったり、守らなかったりすると思わぬケガや事故にいたる可能性があります。本文とあわせて必ずお読みください。
- 本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合もあります。
- 仕様変更などにより、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。
- 車の仕様違いにより、説明に使用しているイラストが、お客様のお車と一致しない場合があります。

本書の中で使用されているマーク

危　険

記載事項を守らないと、生命の危険や重大な傷害につながります。

警　告

記載事項を守らないと、生命の危険や重大な傷害･車両火災につながるおそれがあります。

注　意

記載事項を守らないと、傷害や事故につながるおそれがあります。

アドバイス

記載事項を守らないと、車両故障･破損につながるおそれがあります。

知　識

車両をご使用いただくために知っておいていただきたいこと。
車両をご使用いただくために知っておくと便利なこと。

参照ページ

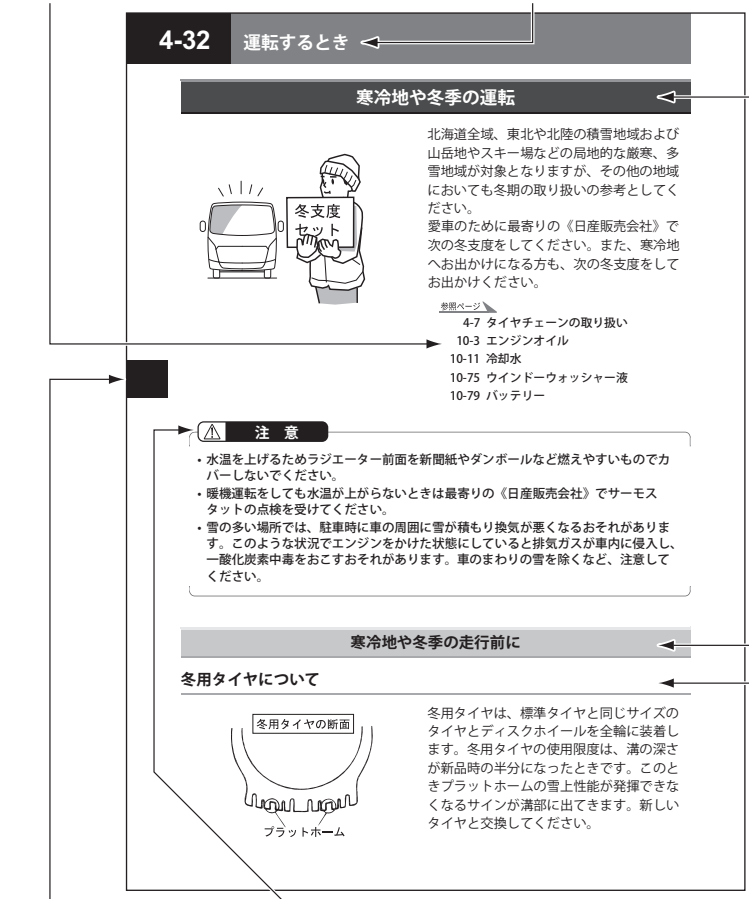
各項目の関連ページを記載しています。
参照ページと合わせてお読みください。

章タイトル

各章のタイトルを
案内しています。

項目タイトル

各項目のまとまりを
区別しています。



インデックス

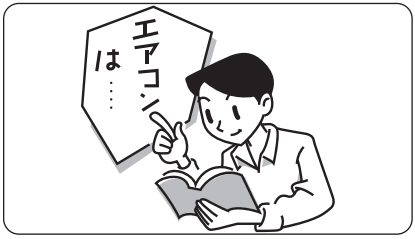
各章を案内しています。
表紙の目次タイトルと
合わせてお使いください。

マーク

危 険　注 意
警 告　アドバイス　知 識

前ページ参照

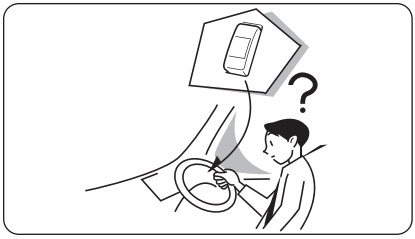
本書では新計量法の施行に伴い国際単位系（略称：SI単位）を基本に記載し、
従来単位を｛ ｝内に記載してあります。
＊このページはサンプルですので記載内容は実際のお車とは異なります。



タイトルから探す

➡ 4 ページ

「総目次」「各章のはじめの目次」から目的のページを検索できます。

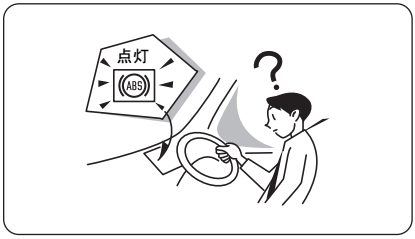


イラスト目次から探す

➡ 23 ページ

イラスト目次

スイッチ類などの名称がわからないときにイラストから目的のページを検索できます。

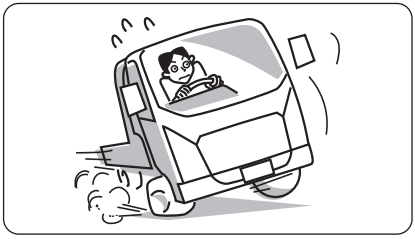


警告灯、表示灯から探す

➡ 3-7 ページ

警告灯 / 表示灯一覧

メーター内などのランプ（警告灯、表示灯）が点灯したときに目的のページを検索できます。



故障かな？と思ったときは

➡ 11-1 ページ

万一のとき



名称から探す

➡ 12-1 ページ

さくいん

巻末のさくいんから検索できます。

第 0 章 はじめに 0-1

● 保証について 0-2

● 点検・整備について 0-2

● 全国サービス網 0-2

● 車台番号･エンジン番号 0-3
- 車台番号 0-3
- 車台番号（VIN） 0-3
- オプションコード 0-4
- エンジン番号 0-5

● 警告ラベルについて 0-6
- 注意･警告ラベル（キャブ内貼り付け位置） 0-7
- 注意･警告ラベル（キャブ外貼り付け位置） 0-10
- 注意･警告ラベル（燃料タンク部貼り付け位置） 0-14
- 注意･警告ラベル（エンジンルーム内貼り付け位置） 0-16

● 車両データの記録について 0-17
- 運転状況の記録について 0-17
- EDR 機能について 0-17

● お車の故障を防ぐために 0-18

第 1 章 安全のために 1-1

● シートベルト 1-2
- お子様を乗せるときの注意 1-3
- シートベルト装着時の注意 1-4
- シートベルトの警告・表示 1-4
- 3 点式シートベルト 1-5
- 2 点式シートベルト（センターシート）★ 1-7

● プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステム 1-9
- お子様を乗せるときの注意 1-12
- SRS エアバッグの警告・表示 1-12
- プリテンショナー付シートベルト 1-13
- SRS エアバッグ 1-14
- SRS エアバッグの展開 1-15
- プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグの作動について 1-16

● お子様を乗せるときは 1-19
- 車から離れるときはお子様もご一緒に 1-19
- ドアの開閉やロックは必ず大人が行ってください 1-19
- 窓から顔や手などを出させないで 1-20
- お子様にもシートベルトを 1-20
- チャイルドシートをお使いになる前に 1-21
- SRS エアバッグがふくらんだ時のために 1-24

● 妊娠中のかたや疾患のあるかたを乗せるときは 1-25

第 2 章
各部の開閉と調整 2-1

● キー 2-2
- キーの種類 2-2
- キーに関する注意事項 2-3
- 使用箇所 2-4
- リモコンキーの作動範囲（キーレスエントリー・インテリジェントキー付車） 2-5
- リモコンキーの電池交換 2-6
- イモビライザー機能 2-11

● キーレスエントリー★ 2-11
- リモコンキーによる施錠・解錠 2-12

● インテリジェントキー★ 2-14
- リクエストスイッチによる施錠･解錠 2-15
- カスタマイズ機能について 2-17
- 節電モード 2-17
- インテリジェントキーの警告・表示 2-18
- インテリジェントキーの警報 2-21

● ドア 2-25
- ドアの施錠･解錠 2-26
- 助手席スライドドアの施錠･解錠★ 2-28
- リヤドアの施錠･解錠（ダブルキャブ車） 2-29
- パワードアロック（集中ドアロック） 2-29
- フロントドアの開閉 2-30
- 助手席スライドドアの開閉★ 2-32
- リヤドアの開閉（ダブルキャブ車） 2-34

● グリップおよびステップ 2-35

● シート 2-36
- ドライバーシート 2-38
- パッセンジャーシート / センターシート★ 2-42
- リヤシート★ 2-43

● チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル） 2-48
- ハンドルの位置調整 2-49

● ミラー 2-49
- ルームミラー★ 2-50
- 電子インナーミラー★ 2-51
- バックアイモニター★ 2-63
- サイドミラー / アンダーミラー 2-63
- ワイドビューミラー★ 2-64
- 電動格納ミラースイッチ★ 2-65
- ミラーヒータースイッチ★ 2-66

● **ウインドー** **2-66**
- パワーウインドー 2-66
- OK ウインドー★ 2-73

● **燃料給油口** **2-74**
- 指定された燃料を使用してください 2-74
- セルフ式ガソリンスタンドを利用するときは 2-75
- 燃料補給のタイミング 2-75
- 燃料補給のしかた 2-76

● **荷台★** **2-78**
- 積み降ろしをするには 2-78
- 木製平荷台 2-83
- あおり開閉補助装置 2-85
- 鳥居立て 2-85
- 水平チェーン 2-86

● **車外ツールボックス★** **2-86**

第 3 章
メーターの見かた **3-1**

● **メーター配置** **3-2**

● **スピードメーター（速度計）** **3-2**

● **タコメーター（エンジン回転計）** **3-3**

● **水温計（テンプメーター）** **3-4**

● **フューエルメーター（燃料計）** **3-5**

● **尿素水量計** **3-6**

● **警告灯 / 表示灯一覧** **3-7**
- 警告灯 / 表示灯 3-7
- メーターディスプレイ 3-13

● **警告灯 / 表示灯** **3-34**
- ブレーキ警告灯 3-35
- バキューム警告灯 3-35
- ステアリングシステム警告灯★ 3-36
- 油圧警告灯 3-36
- 油圧異常 3-37
- 充電警告灯 3-37
- 電圧低下 / 過電圧 3-38
- エンジン制御警告灯 3-39
- SVS 警告灯 3-39
- マスター警告灯 3-40
- 通信システム異常 3-40
- スターター 3-41
- 省燃費アドバイス 3-41

● メーターディスプレイ 3-42
- メーターディスプレイスイッチ 3-43
- メーターディスプレイの画面構成 3-43
- 設定 3-52
- 車両情報 3-61

第 4 章
運転するとき 4-1

運転時のアドバイス

● 運転する前に 4-3
- お出かけ前には『日常（運行前）点検』を 4-3
- 休養は十分にとっていますか 4-3
- 正しい運転姿勢をとるために 4-4
- 長期間使用していない車両について 4-4
- 燃料の入った容器や、スプレー缶類を車内に持ち込まないで 4-5
- ウインドーガラスなどにアクセサリーを取り付けないで 4-5
- 運転席足元付近の整理整頓 4-6
- インストルメントパネルに液体をこぼさないでください 4-6
- フロアマットを正しく敷いていますか 4-7
- スイッチを必要以上に押し続けないで 4-7
- タイヤチェーンの取り扱い 4-8

● 運転するときは 4-10
- 車を動かすときは 4-10
- 安全に運転するためには 4-12
- 登り坂・下り坂の走行 4-15
- 長距離を走るときは休憩を 4-17
- 高速道路 4-17
- 夜間の走行 4-18
- 通常路外を走行するとき 4-19
- 悪天候時は 4-20
- 冠水路走行後や洗車後は 4-22
- 運転中に異変を感じたときは 4-23
- 走行中はエンジンを切らないで 4-23
- 携帯品を扱うときは 4-24
- 経済的な運転 4-25

● 駐車や停車するときは 4-25
- 排出ガスには十分に気をつけて 4-26
- やけどや火災に気をつけて 4-27
- 坂道駐車は確実に 4-28
- パーキングブレーキをかけるときは 4-28
- オートブレーキホールドや HSA 装置（坂道発進補助装置）を使って駐車しないで 4-29
- シフトレバーの『P』位置のみで駐車しないで 4-29
- ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないで 4-30
- 車内で仮眠するときは 4-30
- エンジンをかけたまま駐停車するときは 4-31
- 停車中はシフトレバーを動かさないで 4-31
- 車から離れるときは 4-31

● 寒冷地や冬季の運転 4-32
- 寒冷地や冬季の走行前に 4-32
- 寒冷地や冬季走行時の注意 4-36
- 寒冷地や冬季の駐車について 4-37
- 雪道走行後の手入れについて 4-39
- 寒冷地や冬季の油脂液類の取り扱い 4-39

● 炎天下や夏季の運転 4-42

エンジンの始動・停止

● エンジンの始動・停止のしかた 4-43
- スタータースイッチ 4-43
- エンジンの始動方法 4-46
- エンジン始動後は適切な暖機を 4-50
- エンジンの始動ができないときは 4-50
- エンジンの停止方法 4-51

● アイドリングコントロールノブ★ 4-52

● 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車） 4-53
- 暖機システムの警告・表示 4-54

● 暖機システム（RZ4E 型エンジン車） 4-54
- 暖機システムの警告・表示 4-54

● ecostop（エコストップ）★ 4-55
- ecostop の作動について 4-55
- ecostop の警告・表示 4-56
- エンジンを自動的に停止、再始動させるには 4-60
- エンジンが自動的に停止しないとき 4-63
- ecostop キャンセルスイッチ 4-66

● オイルパンヒーター用コンセント★ 4-66

操縦のしかた

● ペダル類 4-67
- ブレーキ操作 4-68

● パーキングブレーキ★ 4-68
- パーキングブレーキレバーの操作方法 4-69
- パーキングブレーキの警告・表示 4-70
- パーキングブレーキの警報 4-71

● 電動パーキングブレーキ★ 4-71
- 電動パーキングブレーキスイッチの操作方法 4-73
- 電動パーキングブレーキの自動作動と自動解除 4-74
- 電動パーキングブレーキの自動作動機能の設定 4-76
- 電動パーキングブレーキの警告・表示 4-77

● シフトレバー 4-81
- マニュアルトランスミッション車★ 4-81
- デュアルクラッチ式 AMT 車★ 4-83
- オートマチックトランスミッション車★ 4-84

● デュアルクラッチ式 AMT ★ 4-87
- デュアルクラッチ式 AMT の使い方 4-88
- ECONO モード 4-95
- デュアルクラッチ式 AMT の警告・表示 4-96
- デュアルクラッチ式 AMT の故障時 4-99
- シフトロック機能について 4-102

● オートマチックトランスミッション車★ 4-104
- オートマチックトランスミッションの使い方 4-105
- オートマチックトランスミッションの警告・表示 4-114
- オートマチックトランスミッション車の故障時 4-117
- シフトロック機能について 4-117

走行装置

● 灯火装置 4-120
- ライティングスイッチ 4-120
- ターンシグナルスイッチ（方向指示器） 4-123
- ヘッドランプレベリングスイッチ★ 4-124
- ハザードスイッチ 4-124
- フォグランプスイッチ★ 4-125
- ヘッドランプウォッシャースイッチ★ 4-126
- ヘッドランプオートレベリング★ 4-126

● ワイパー･ウォッシャースイッチ 4-127
- ワイパースイッチ 4-127
- ウインドーウォッシャースイッチ 4-128

● ホーンボタン 4-129

● バックブザー OFF スイッチ★ 4-129

● 左折＆バック音声警報 ON/OFF スイッチ★ 4-130

● START ASSIST スイッチ
（マニュアルトランスミッション車）★ 4-131

● **ECONO モードスイッチ（マニュアルトランスミッション車）★** **4-131**
- ECONO モードの一時解除 4-132

● **HSA（坂道発進補助装置）★** **4-132**
- HSA OFF スイッチ 4-133
- HSA の警告・表示 4-134
- HSA の使いかた 4-136
- HSA の調整 4-138
- HSA の初期調整（マニュアルトランスミッション車） 4-141

● **オートブレーキホールド★** **4-144**
- オートブレーキホールドスイッチ 4-145
- オートブレーキホールドの警告・表示 4-146
- オートブレーキホールドの使いかた 4-149
- オートブレーキホールドの調整 4-153
- オートブレーキホールドの初期調整（マニュアルトランスミッション車） 4-156

● **排気ブレーキスイッチ（4JZ1 型エンジン車）** **4-159**
- 排気ブレーキの警告・表示 4-160
- 排気ブレーキが作動しない条件 4-160

● **ABS** **4-160**
- ABS の作動と異常時の警告 4-162
- ABS 装着車の運転上の注意 4-163

● **制動力アシスト機能★** **4-164**
- 失陥助勢機能 4-164
- 高 G 助勢機能★ 4-164

● **ブレーキアシストシステム★** **4-164**

● **EBD** **4-164**

● **ASR** **4-165**
- ASR の警告・表示 4-166
- ASR 装着車の運転上の注意 4-167

● **VDC** **4-167**
- VDC の警告・表示 4-169
- VDC OFF スイッチ 4-170
- VDC の作動確認、作動、異常 4-172
- VDC 装着車の運転上の注意 4-172

● **緊急制動表示灯（ESS）** **4-173**

● **スピードリミッター（速度抑制装置）★** **4-174**
- スピードリミッターの特性 4-174

● **可変スピードリミッター★** **4-175**
- 可変スピードリミッターのメーターディスプレイ表示内容 4-176
- 希望の上限車速をセットするとき（走行中） 4-177
- 希望の上限車速をセットするとき（停車中） 4-178
- 上限車速の変更 4-179
- 可変スピードリミッターを解除するとき 4-180
- 可変スピードリミッターを復帰させたいとき 4-181
- セットスイッチ 4-181
- リジュームスイッチ 4-182
- モードスイッチ 4-182
- キャンセルスイッチ 4-182
- 可変スピードリミッターの警報 4-183

後処理装置

● **DPD** **4-184**
- DPD の警告・表示 4-186
- DPD の警報音 4-187
- DPD の自動再生 4-188
- DPD スイッチ 4-190
- DPD の手動再生手順 4-190
- DPD の任意手動再生手順 4-193
- 長時間のアイドリングや PTO 使用時の DPD 再生について 4-195
- DPD の点検と整備 4-196

● **尿素 SCR システム** **4-197**
- 尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い 4-198
- 指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください 4-198
- 尿素水（AdBlue® 相当）を保管するとき 4-198
- 尿素水量表示 4-199
- 尿素 SCR システムの警告・表示 4-199
- 尿素水（AdBlue® 相当）の補給 4-203
- 尿素水（AdBlue® 相当）を廃棄するとき 4-206

特殊装置

● **作業用ブレーキロック★** **4-207**
- 作業用ブレーキロックスイッチ 4-207
- 作業前の確認 4-208
- 作動方法 4-208
- 解除方法 4-209
- 作業用ブレーキロックの警告・表示 4-209
- 異常時の処置 4-210

● **PTO ★** **4-211**
- PTO の操作について 4-211
- PTO の警告・表示 4-212
- PTO アイドル回転数設定★ 4-213
- レバー式 PTO（デュアルクラッチ式 AMT 車） 4-213
- レバー式 PTO（マニュアルトランスミッション車） 4-216
- スイッチ式 PTO（デュアルクラッチ式 AMT 車（除く消防車）） 4-218
- スイッチ式 PTO（マニュアルトランスミッション車） 4-219
- スイッチ式 PTO（デュアルクラッチ式 AMT 車（消防車）） 4-222
- PTO 非常用スイッチ（デュアルクラッチ式 AMT 車（消防車）） 4-223
- ダンプレバー★ 4-223
- ダンプレバーの基本操作について★ 4-224

運行・車両管理装置

● **タイヤ空気圧モニタリングシステム★** **4-231**
- タイヤ空気圧、温度の確認 4-232
- タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告・表示 4-234

● **アナログタコグラフ★** **4-236**

● **デジタルタコグラフ★** **4-237**
- 各部の名称 4-238
- デジタコカードの挿入のしかた 4-239
- 運行情報の記録のしかた 4-240
- デジタルタコグラフ内部の時計の合わせかた 4-242

第 5 章
先進運転支援システム **5-1**

● **先進運転支援システムについて** **5-2**
- お車に装着される先進運転支援システム 5-3
- 先進運転支援システムの注意事項 5-6
- 先進運転支援システムに異常があったとき 5-7

● **プリクラッシュブレーキ（PCB）** **5-11**
- プリクラッシュブレーキシステムの作動 5-13
- プリクラッシュブレーキシステムの作動条件 5-15
- プリクラッシュブレーキシステムの設定 5-17
- プリクラッシュブレーキシステムの作動停止と自動解除 5-18
- プリクラッシュブレーキシステムが正常に作動しないとき 5-19

● **車間距離警報** **5-20**
- 車間距離警報の作動 5-21
- 車間距離警報の警告・表示 5-22
- 車間距離警報の設定 5-23
- 警報音量を調整するとき 5-24
- 車間距離警報が正常に作動しないとき 5-24

● ブラインドスポットモニター★ **5-25**
- ブラインドスポットモニターの作動 5-26
- ブラインドスポットモニターの作動条件 5-30
- ブラインドスポットモニターの警告・表示 5-31
- ブラインドスポットモニター機能の ON/OFF 5-33
- ブラインドスポットモニターが正常に作動しないとき 5-35

● 先行車発進お知らせ機能 **5-36**
- 先行車発進お知らせ機能の作動 5-36
- 先行車発進お知らせ機能の警告・表示 5-37
- 先行車発進お知らせ機能の設定 5-38
- 先行車発進お知らせ機能の作動停止 5-39
- 先行車発進お知らせ機能が正常に作動しないとき 5-39

● 誤発進抑制機能★ **5-40**
- 誤発進抑制機能の作動 5-41
- 誤発進抑制機能の設定 5-42
- 誤発進抑制機能の一時解除 5-43
- 誤発進抑制機能の作動停止と自動解除 5-43
- 誤発進抑制機能が正常に作動しないとき 5-45

● オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★ **5-46**
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズの作動内容 5-48
- 全車速車間クルーズと連動して作動するシステム / 機能 5-55
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズのメーターディスプレイ表示内容 5-57
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズ中の警報音について 5-60
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズの開始 5-61
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズのセット車速の変更 5-63
- 全車速車間クルーズを希望の車間にセットするとき 5-65
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズの解除 5-66
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズの一時解除 5-67
- 全車速車間クルーズ / オートクルーズが正常に作動しないとき 5-68

● 標識認識機能★ **5-69**
- 標識認識機能の作動 5-70
- 標識認識機能の警報 5-73
- 標識認識機能のメーターディスプレイ表示内容 5-75
- 標識認識機能の設定 5-77
- 標識認識機能が正常に作動しないとき 5-82

● 標識連動型スピードリミッター★ **5-83**
- 標識連動型スピードリミッターの作動 5-84
- 標識連動型スピードリミッターの警告・表示 5-86
- 標識連動型スピードリミッターの設定 5-88
- 標識連動型スピードリミッターの解除 5-89
- 標識連動型スピードリミッターと可変スピードリミッターの切り替え 5-89
- 標識連動型スピードリミッターが正常に作動しないとき 5-89

● 車線逸脱警報（LDWS） **5-90**
- 車線逸脱警報（LDWS）の作動条件 5-90
- 車線逸脱警報（LDWS）の警告・表示 5-91
- 車線逸脱警報（LDWS）の設定 5-94
- 車線逸脱警報（LDWS）が正常に作動しないとき 5-95

● レーンキープアシスト★ 5-96
- レーンキープアシストの作動内容 5-98
- レーンキープアシストのメーターディスプレイ表示内容 5-102
- レーンキープアシストの警告・表示 5-105
- レーンキープアシストの ON/OFF 5-107
- 車線維持支援システム作動中の車線逸脱警報 (LDWS) 5-108
- レーンキープアシストの一時解除 5-110
- レーンキープアシストの故障時 5-111
- レーンキープアシストが正常に作動しないとき 5-111

● ふらつき警報 5-112
- ふらつき警報の作動 5-113
- ふらつき警報の設定 5-114
- ふらつき警報が正常に作動しないとき 5-115

● ドライバーステータスモニター★ 5-116
- ドライバーステータスモニターの作動 5-117
- ドライバーステータスモニターの作動条件 5-119
- ドライバーステータスモニターのメーターディスプレイ表示内容 5-120
- 顔認証機能について 5-121
- メーターディスプレイスイッチ 5-122
- ドライバーステータスモニターの設定 5-123
- ドライバーステータスモニターが正常に作動しないとき 5-131
- ドライバーステータスモニターの故障時 5-132

● ドライバー異常時対応システム（EDSS）★ 5-132
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動の流れ 5-133
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）の警告・表示 5-137
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動と解除 5-138
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）と同時作動する場合があるシステムについて 5-142
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両について 5-143
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）が正常に作動しないとき 5-143

● 可変配光型ランプ★ 5-145
- 可変配光型ランプの作動 5-145
- 可変配光型ランプの作動条件 5-146
- 可変配光型ランプの警告・表示 5-146
- 可変配光型ランプの設定 5-147
- 可変配光型ランプが正常に作動しないとき 5-148

第 6 章 快適装備 6-1

● フロント吹き出し口 6-3
- 風向き調整レバー 6-3

● リヤ吹き出し口★ 6-4
- 風向き調整つまみ（リヤクーラー）★ 6-5

● ヒーター / マニュアルエアコン★ **6-6**
- スイッチ、レバーの使いかた 6-6
- 換気 6-8
- ヒーター（暖房）の使いかた 6-9
- フロントウインドーガラスの曇り取り 6-11
- 冷房 6-12

● オートエアコン★ **6-13**
- スイッチの使いかた 6-14
- オート（自動）で使用する場合 6-17
- マニュアル（手動）で操作する場合 6-18
- オートエアコンの各種設定 6-22
- 温度感知装置 6-25

● リヤクーラー★ **6-26**
- ノブの使いかた 6-26
- 冷房 6-26

● リヤヒーター★ **6-27**
- ノブの使いかた 6-27
- 暖房 6-27

● クーラーガス（冷媒量） **6-28**

● ルームランプ（室内灯） **6-28**
- 室内灯スイッチ★ 6-28
- 室内灯（LED）★ 6-29
- マップランプ（LED） 6-29

● ステップランプ★ **6-30**

● サンバイザー（日よけ） **6-31**

● アクセサリーソケット **6-31**

● USB チャージャー★ **6-32**

● ポケット（小物入れ）★ **6-33**

● センターポケット **6-34**

● カメラカバーポケット **6-34**

● グローブボックス（小物入れ）★ **6-35**

● 助手席カップホルダー＆ポケット **6-35**

● センターコンソールボックス（小物入れ）★ **6-36**

● シートバックポケット **6-37**

● シートサイドトレイ★ **6-38**

● ヘッダートレイ★ **6-38**

● センターシートバックトレイ★ **6-39**

● カップホルダー★ **6-39**

● バックパネルトレイ（小物入れ）★ 6-39
● リヤトレイ★ 6-41
● シートバックスペース★ 6-41
● ハンガーフック★ 6-42
● ETC2.0 車載器★ 6-42
• セットアップについて 6-43
• 各部の名称 6-43
• ETC2.0 車載器の使いかた 6-44
• 走行中の取り扱い 6-51
• アンテナ外れ警告機能 6-53
• VICS 情報の音声案内機能 6-54
• ETC カード差し忘れ警告機能・ETC カード有効期限通知機能 6-55
• ETC カード抜き忘れ警告機能 6-57
• セットアップ情報通知機能 6-58
• 音量の調整 6-59
• 利用履歴の確認 6-61
• ETC2.0 車載器の警報 6-62
• オープンソースソフトウェア（OSS）について 6-65
● ラジオ（USB/Bluetooth® 付き）★ 6-66
• コントロールパネル 6-67
• 機能設定モード 6-70
• チューナーモードの操作 6-77
• USB の操作 6-79
• Bluetooth® オーディオの操作 6-84
• AUX の操作 6-90
● ハンズフリー操作 ★ 6-93
• ハンズフリーシステムの操作 6-94
● オーディオシステムの使用★ 6-102
• ラジオ 6-102
• USB デバイス 6-103
• Bluetooth® について 6-106
• 商標 6-106
● アンテナ 6-107

第 7 章
点検・整備の前に 7-1

● 点検整備について 7-2
• 定期点検整備を必ず行ってください 7-2
● 点検･調整をするときの注意 7-3
● 廃棄部品、廃棄油脂液類 7-4

● **日産純正部品について** **7-4**
- 純正油脂類 7-5

● **車載工具** **7-6**
- シングルキャブ・スペースキャブ車の格納場所 7-7
- ダブルキャブ車の格納場所 7-8
- 車載工具の名称（シングルキャブ・スペースキャブ車の標準キャブ車） 7-8
- 車載工具の名称（除くシングルキャブ・スペースキャブ車の標準キャブ車） 7-13

● **ジャッキ** **7-15**
- ジャッキの取り扱い 7-15
- ジャッキの操作 7-16
- 前輪ジャッキアップポイント 7-18
- 後輪ジャッキアップポイント 7-21

● **点検口★** **7-22**
- エンジン点検口★ 7-23
- 補助点検口★ 7-24
- リヤ点検口（ダブルキャブ車）★ 7-26

● **キャブチルト★** **7-28**
- キャブチルトの警告・表示 7-29
- キャブを上げるとき 7-30
- キャブを下げるとき 7-31

第 8 章
サービスデータ **8-1**

● **メンテナンスデーター覧** **8-2**

● **整備基準値一覧** **8-3**

● **タイヤ空気圧一覧** **8-3**

● **定期点検整備一覧** **8-16**

● **定期交換部品一覧** **8-17**
- 油脂液類 8-17
- エレメント類 8-20
- ゴム・樹脂部品など 8-20
- ウインドーウォッシャー液 8-21
- その他 8-21
- グリース 8-22

● **サービスコネクターについて** **8-24**

第 9 章
日常点検 9-1

● お出かけ前には『日常（運行前）点検』を 9-2

● 日常（運行前）点検一覧 9-3

● 前回の運転で異常のあった箇所の点検 9-4

● エンジン冷却水量の点検 9-4

● ランプ類の汚れ、損傷がないか点検 9-7

● ウインドーウォッシャー液量の点検 9-8

● エンジンオイルの点検 9-8
- エンジンオイル量の点検 9-10

● ファンベルトの点検 9-11

● タイヤの点検 9-12
- タイヤの空気圧の点検 9-12
- タイヤの亀裂、損傷の点検 9-14
- タイヤの溝の深さ、異常摩耗の点検 9-14
- 長期使用タイヤの点検 9-15

● バッテリー液量の点検 9-16
- シングルキャブ・スペースキャブ車 9-16
- ダブルキャブ車 9-17
- 消防車 9-17

● ブレーキフルードの点検 9-18

● ランプ類の点灯・点滅の点検 9-19

● エンジンのかかり具合･異音の点検 9-21

● ワイパー･ウインドーウォッシャーの点検 9-21

● パーキングブレーキレバーの引きしろの点検 9-21
- 除く電動パーキングブレーキ付車 9-21
- 電動パーキングブレーキ付車 9-22

● クラッチの作用の点検 9-23

● ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合の点検 9-23

● エンジンの低速と加速の状態の点検 9-24

第 10 章
車両の整備・手入れ 10-1

エンジン関連の整備・手入れ

● エンジン 10-3
- エンジンのかかり具合･異音の点検 10-3
- エンジンの低速と加速の状態の点検 10-3

● エンジンオイル 10-3
- エンジンオイルの警告・表示 10-4
- エンジンオイルの点検 10-5
- エンジンオイルの補給 10-5
- エンジンオイルの交換 10-7

● エンジンオイルフィルター 10-10
- エンジンオイルフィルターの警告・表示 10-11
- エンジンオイルフィルターの交換 10-11

● 冷却水 10-15
- ロングライフクーラントの取り扱い 10-17
- 冷却水の点検 10-18
- 冷却水の補給 10-18
- 冷却水の交換 10-20

● ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄 10-31

● ファンベルト 10-32
- ファンベルトの点検 10-32

● エアクリーナー 10-32
- エアクリーナーの警告・表示 10-32
- エアクリーナーの点検 10-33
- エアクリーナーの清掃･交換 10-33

● フューエルフィルター 10-37
- フューエルフィルターの警告・表示 10-37
- 水抜きのしかた 10-38
- フューエルフィルターの交換 10-41
- エア抜きのしかた 10-52

● DPD（ディーゼル･パティキュレート･ディフューザー） 10-55
- DPD の点検、清掃 10-55

シャシ関連の整備・手入れ

● ブレーキ 10-56
- ブレーキペダルの踏みしろ（遊び量）の点検 10-56
- ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合の点検 10-57

● ブレーキフルード 10-57
- ブレーキフルードの点検 10-58

● **パーキングブレーキ** **10-58**
- パーキングブレーキレバーの引きしろ 10-58
- パーキングブレーキの効き具合 10-58

● **ディスクブレーキ★** **10-60**
- ブレーキパッドの摩耗の点検 10-60

● **ドラムブレーキ★** **10-61**
- ブレーキライニングの摩耗の点検 10-62

● **タイヤ** **10-63**
- タイヤの点検 10-63

● **タイヤのローテーション** **10-63**
- タイヤのローテーションの警告・表示 10-65

● **タイヤの交換** **10-66**
- タイヤの取り外し 10-66
- タイヤの取り付け 10-69
- ホイールナットの増し締め 10-71

● **スペアタイヤ** **10-74**
- スペアタイヤの点検 10-74
- スペアタイヤの取り外し･取り付け 10-75

● **クラッチ★** **10-77**
- クラッチの点検 10-77

● **クラッチフルード★** **10-78**
- クラッチフルードの点検 10-78

● **トランスミッションオイル** **10-79**
- トランスミッションオイルの警告・表示 10-80
- トランスミッションオイルの点検 10-80
- トランスミッションオイルの交換 10-82

● **オートマチックトランスミッションオイル★** **10-84**
- オートマチックトランスミッションオイルの警告・表示 10-84

● **デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル★** **10-85**
- デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの警告・表示 10-86
- デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの点検 10-86
- デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの交換 10-88

● **デファレンシャルオイル** **10-89**
- デファレンシャルオイルの警告・表示 10-90
- デファレンシャルオイルの点検 10-92
- デファレンシャルオイルの交換 10-92

● **フロント PTO ギヤオイル（消防車）★** **10-94**
- フロント PTO ギヤオイルの点検 10-94
- フロント PTO ギヤオイルの交換 10-95

● パワーステアリングフルード 10-95
- パワーステアリングフルードの警告・表示 10-96
- パワーステアリングフルードの点検 10-97
- パワーステアリングフルードの補給 10-97

その他の整備・手入れ

● ウインドーウォッシャー液 10-98
- ウインドーウォッシャーの点検 10-98
- ウインドーウォッシャー液量の点検 10-98
- ウインドーウォッシャー液の補給 10-98
- ウインドーウォッシャー液の混合割合 10-99

● ワイパーブレードとウインドーガラス 10-99
- ワイパーの点検 10-99
- ワイパーブレードの交換 10-99
- ワイパーゴムの交換 10-101
- ウインドーガラスの手入れ 10-102

● エアコンフィルター 10-102
- エアコンフィルターの点検 10-102
- エアコンフィルターの清掃 10-103

● バッテリー 10-104
- バッテリーの取り扱い上の注意 10-104
- バッテリー液量の点検 10-110
- バッテリー液の補給 10-110
- ターミナル部の点検 10-110

● ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器） 10-111
- ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）の点検 10-112
- ランプ（バルブ）の容量 10-113
- ヘッドランプ、フォグランプ★、クリアランスランプ / デイライトの交換 10-114
- ターンシグナルランプの交換 10-114
- リヤターンシグナルランプ、テールランプ＆ストップランプ、バックアップランプの交換 10-115
- ナンバープレートランプの交換 10-116
- マップランプの交換 10-117
- ステップランプの交換★ 10-117
- 室内灯の交換★ 10-118

● 車外の手入れ 10-118
- 洗車 10-118
- 洗車のしかた 10-119
- 車の保管について 10-121
- ワックスのかけかた 10-121

● 車内の手入れ 10-122
- シートベルトの手入れ 10-123
- シート（布地）、カーペットの手入れ 10-124

第 11 章
万一のとき 11-1

● 走行中、車が故障したとき 11-2
- 発炎筒（緊急保安炎筒） 11-2

● 走行中エンジンが停止したとき 11-4

● ブレーキが効かなくなったとき 11-4

● パンクしたとき 11-5

● 踏切内で動けなくなったとき 11-6

● エンストをして再始動ができなくなったとき 11-7

● バッテリーがあがったとき 11-7

● 燃料切れしたとき 11-10
- エア抜きのしかた 11-10

● 尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき 11-11
- 再始動の手順 11-12

● シフトレバーが『P』の位置から動かなくなったとき 11-12

● 電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき 11-14

● 悪路に落ち込んだとき 11-16

● オーバーヒートしたとき 11-17
- オーバーヒートしたときの点検･処置 11-17

● インテリジェントキーが正常に作動しないとき 11-19
- ドアの施錠･解錠 11-19
- エンジンの始動 11-20

● 警告灯、表示灯が点灯（点滅）したとき 11-21

● 警告ブザーが鳴ったとき 11-21
- 警報音★ 11-22
- 音声警報★ 11-36

● ヒューズとリレーの交換 11-39
- ヒューズとリレーの位置 11-39

● ヒューズ、リレーの配置 11-42

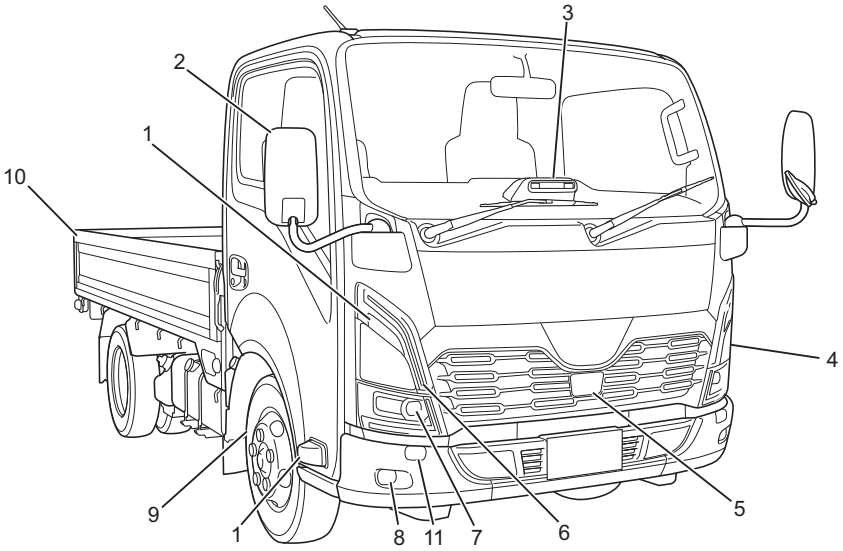
● スローブローヒューズが溶断したとき 11-46

● 事故をおこしたとき 11-47

● けん引するとき 11-48

イラスト目次

外観



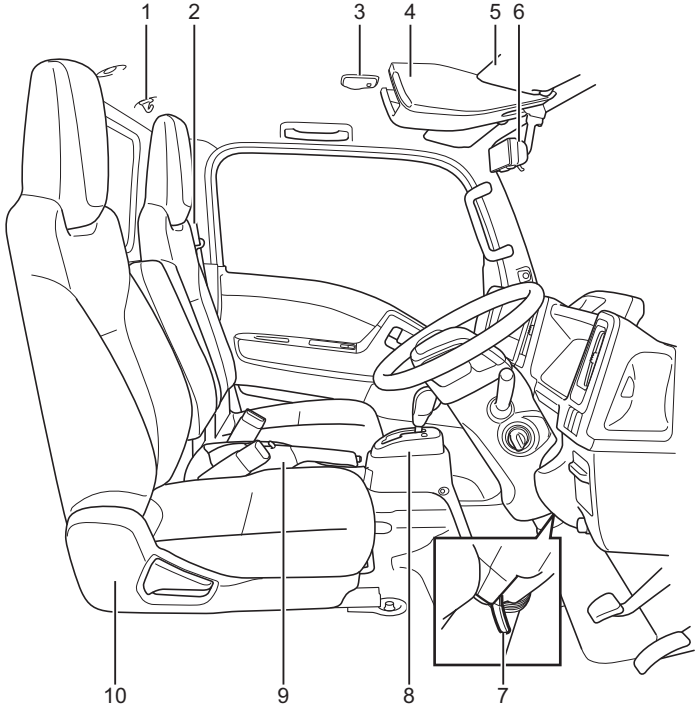
No.	装置名	参照ページ
1	ターンシグナルランプ（方向指示器）	10-113
2	サイドミラー	2-63
	ワイドビューミラー★	2-64
3	カメラ	5-2
4	レーダーセンサー★	5-2
5	フロントブラインドスポットモニター用レーダーセンサー★	
6	クリアランスランプ（車幅灯）/ デイライト	10-113

No.	装置名	参照ページ
7	ヘッドランプ（前照灯）	10-113
	可変配光型ランプ★	5-145
8	フォグランプ（前部霧灯）★	10-113
9	タイヤ	10-63
10	荷台★	2-78
11	ヘッドランプウォッシャー★	4-126

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

室内

標準キャブ

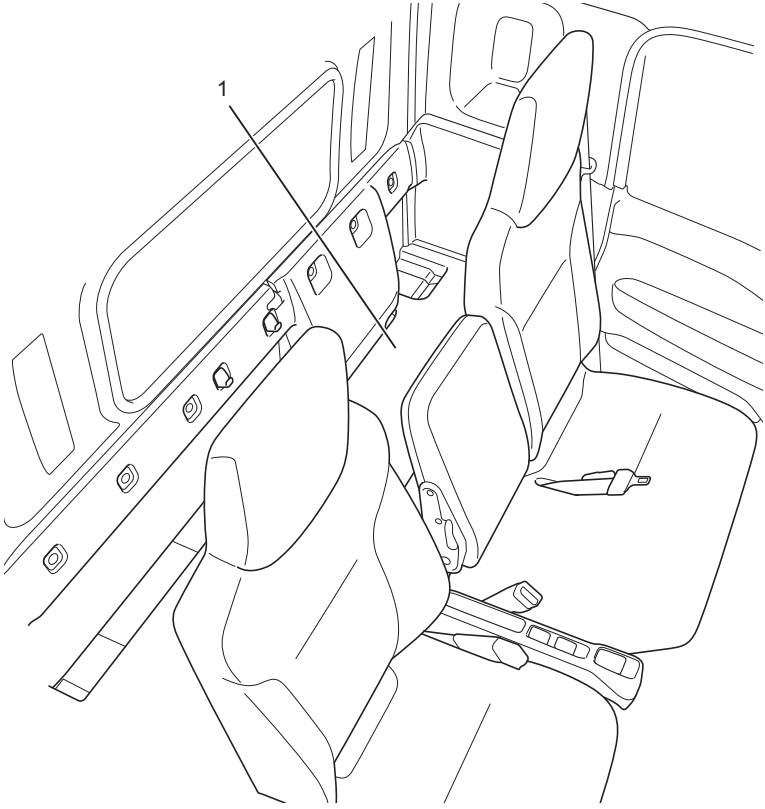


No.	装置名	参照ページ
1	ハンガーフック★	6-42
2	シートベルト	1-2
3	マップランプ（LED）	6-28
4	ヘッダートレイ★	6-38
5	サンバイザー（日よけ）	6-31
6	ルームミラー★	2-50
	電子インナーミラー★	2-51
	バックアイモニター★	2-63

No.	装置名	参照ページ
7	チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル）	2-48
8	シフトレバー	4-81
9	パーキングブレーキ★	4-68
	電動パーキングブレーキ★	4-71
10	シート	2-36

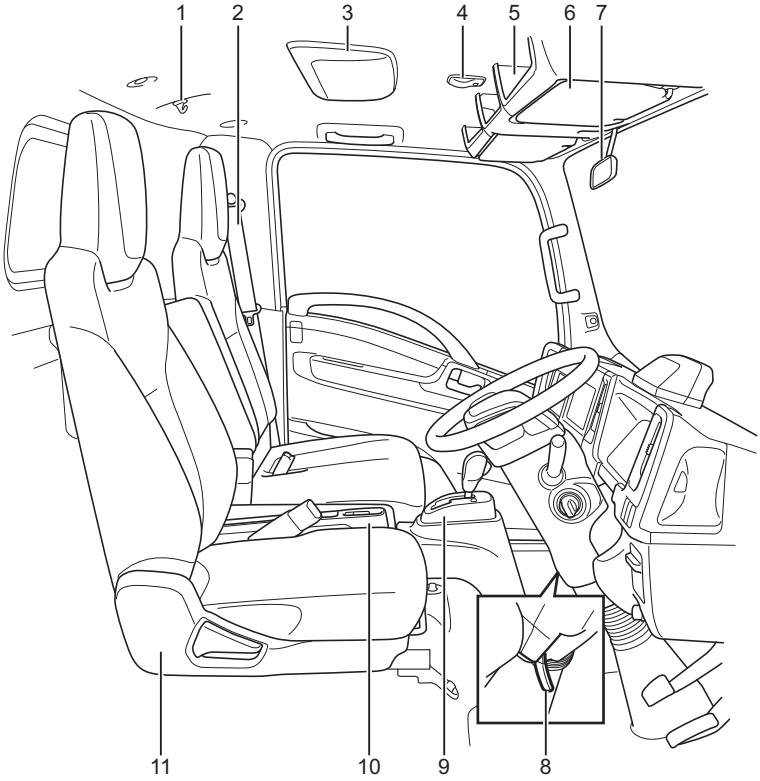
★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

スペースキャブ車



No.	装置名	参照ページ
1	シートバックスペース	6-41

ハイキャブ・ワイドキャブ

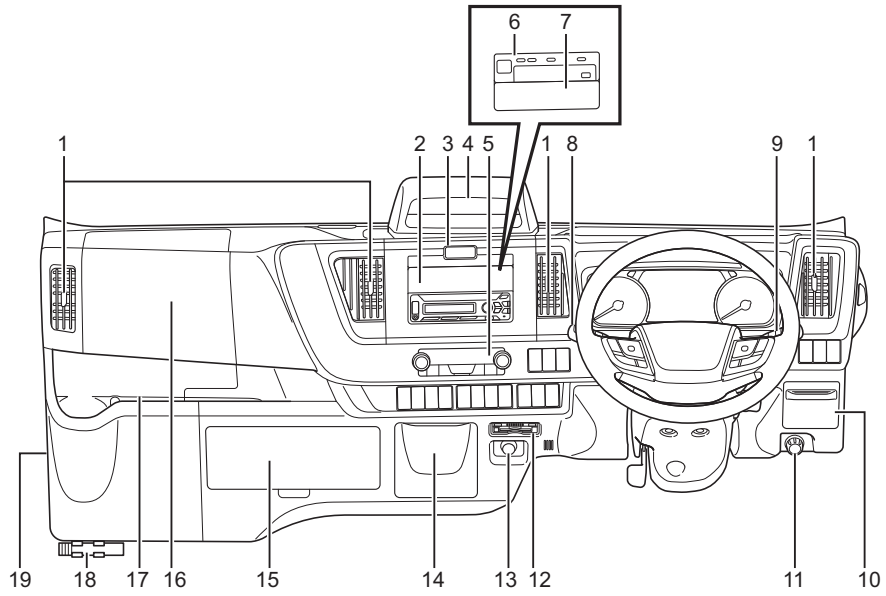


No.	装置名	参照ページ
1	ハンガーフック★	6-42
2	シートベルト	1-2
3	室内灯（LED）★	6-29
4	マップランプ（LED）	6-28
5	ヘッダートレイ★	6-38
6	サンバイザー（日よけ）	6-31
7	ルームミラー★	2-50
	電子インナーミラー★	2-51
	バックアイモニター★	2-63

No.	装置名	参照ページ
8	チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル）	2-48
9	シフトレバー	4-81
10	パーキングブレーキ★	4-68
	電動パーキングブレーキ★	4-71
11	シート	2-36

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

インストルメントパネル（標準キャブ・ハイキャブ）

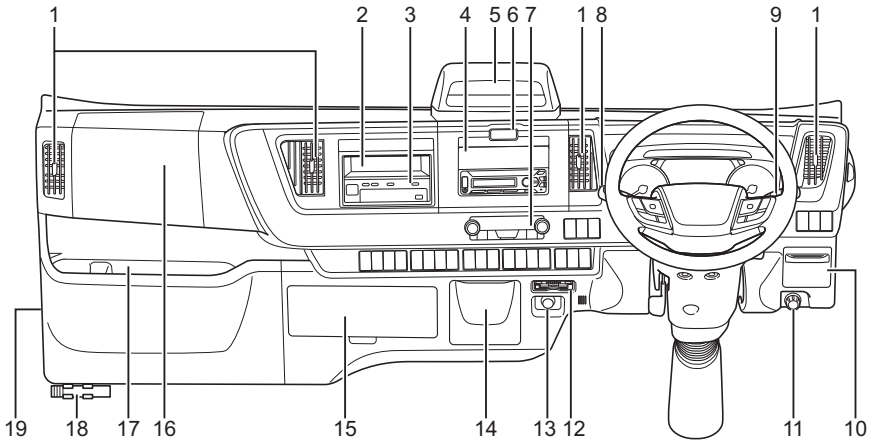


No.	装置名	参照ページ
1	風向き調整レバー	6-3
2	ラジオ（USB/Bluetooth® 付き）★ ハンズフリー操作 ★	6-66 6-93
3	ドライバーステータスモニター★	5-116
4	カメラカバーポケット	6-34
5	ヒーター / マニュアルエアコン★	6-6
	オートエアコン★	6-13
6	アナログタコグラフ★	4-236
7	ポケット（小物入れ）★	6-33
8	排気ブレーキスイッチ★	4-159
	ワイパー･ウォッシャースイッチ	4-127
	ヘッドランプウォッシャースイッチ★	4-126
9	ライティングスイッチ	4-120
	ターンシグナルスイッチ	4-123
	フォグランプスイッチ★	4-125

No.	装置名	参照ページ
10	カップホルダー★	6-39
11	アイドリングコントロールノブ★	4-52
12	ETC2.0 車載器★	6-42
13	アクセサリーソケット	6-31
14	センターポケット	6-34
15	リレーボックス	11-42
16	助手席用 SRS エアバッグ★	1-14
	グローブボックス（小物入れ）★	6-35
17	助手席カップホルダー＆ポケット	6-35
18	発炎筒（緊急保安炎筒）	11-2
19	ウインドーウォッシャー液タンク	10-98

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

インストルメントパネル（ワイドキャブ）

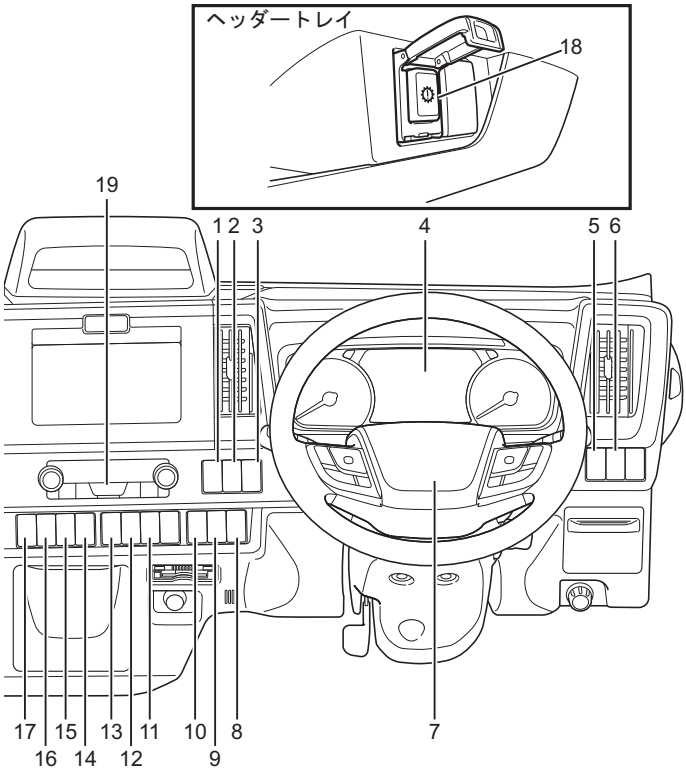


No.	装置名	参照ページ
1	風向き調整レバー	6-3
2	ポケット（小物入れ）★	6-33
3	アナログタコグラフ★	4-236
4	ラジオ（USB/Bluetooth® 付き）★ ハンズフリー操作 ★	6-66 6-93
5	カメラカバーポケット	6-34
6	ドライバーステータスモニター★	5-116
7	ヒーター / マニュアルエアコン★	6-6
	オートエアコン★	6-13
8	排気ブレーキスイッチ★	4-159
	ワイパー･ウォッシャースイッチ	4-127
	ヘッドランプウォッシャースイッチ★	4-126
9	ライティングスイッチ	4-120
	ターンシグナルスイッチ	4-123
	フォグランプスイッチ★	4-125

No.	装置名	参照ページ
10	カップホルダー★	6-39
11	アイドリングコントロールノブ★	4-52
12	ETC2.0 車載器★	6-42
13	アクセサリーソケット	6-31
14	センターポケット	6-34
15	リレーボックス	11-42
16	助手席用 SRS エアバッグ★	1-14
	グローブボックス（小物入れ）★	6-35
17	助手席カップホルダー＆ポケット	6-35
18	発炎筒（緊急保安炎筒）	11-2
19	ウインドーウォッシャー液タンク	10-98

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

スイッチレイアウト（標準キャブ・ハイキャブ）



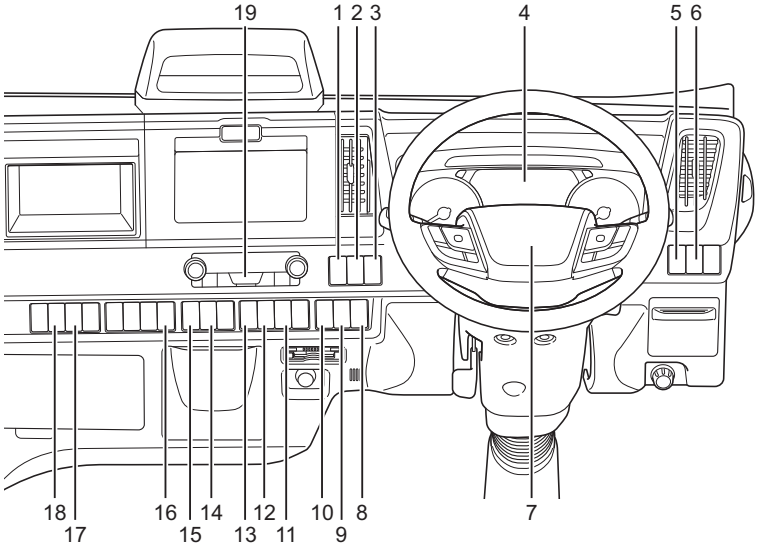
No.	装置名	参照ページ
1	暖機スイッチ★	4-53
	ecostop キャンセルスイッチ★	4-66
2	EDSS キャンセルスイッチ★	5-140
3	EDSS 作動スイッチ★	5-138
4	メーター、警告灯、表示灯	3-2 3-7
5	ヘッドランプレベリングスイッチ★	4-124
6	バックブザー OFF スイッチ★	4-129
	左折＆バック音声警報 ON/OFF スイッチ★	4-130
	室内灯スイッチ★	6-28

No.	装置名	参照ページ
7	ホーンボタン	4-129
	運転席用 SRS エアバッグ	1-14
8	ECONO モードスイッチ★	4-131
	DPD スイッチ	4-190
9	START ASSIST スイッチ★	4-131
10	ミラーヒータースイッチ★	2-66
11	フロントブラインドスポットモニター OFF スイッチ★	5-34
12	VDC OFF スイッチ	4-170
13	HSA OFF スイッチ★	4-133
	LDWS スイッチ	5-94
14	PTO 非常用スイッチ（消防車）★	4-223
	作業用ブレーキロックスイッチ★	4-207

No.	装置名	参照ページ
15	PTO スイッチ（除く消防車）★	4-218 4-219
	PTO スイッチ（消防車）★	4-222
16	デジタルタコグラフ★	4-237
17	USB チャージャー★	6-32
18	デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチ★	4-100
19	ハザードスイッチ	4-124

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

スイッチレイアウト（ワイドキャブ）

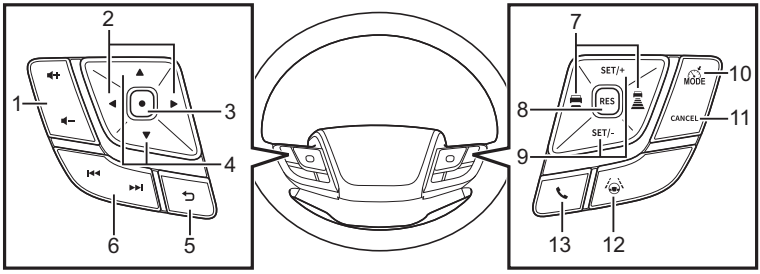


No.	装置名	参照ページ
1	暖機スイッチ	4-53
	ecostop キャンセルスイッチ★	4-66
2	EDSS キャンセルスイッチ★	5-140
3	EDSS 作動スイッチ★	5-138
4	メーター、警告灯、表示灯	3-2 3-7
5	ヘッドランプレベリングスイッチ★	4-124
6	バックブザー OFF スイッチ★	4-129
	左折＆バック音声警報 ON/OFF スイッチ★	4-130
	室内灯スイッチ★	6-28
7	ホーンボタン	4-129
	運転席用 SRS エアバッグ	1-14
8	ECONO モードスイッチ★	4-131
	DPD スイッチ	4-190

No.	装置名	参照ページ
9	START ASSIST スイッチ★	4-131
10	ミラーヒータースイッチ★	2-66
11	フロントブラインドスポットモニター OFF スイッチ★	5-34
12	VDC OFF スイッチ	4-170
13	HSA OFF スイッチ★	4-133
	LDWS スイッチ	5-94
14	PTO スイッチ★	4-218 4-219
15	作業用ブレーキロックスイッチ★	4-207
16	デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチ★	4-100
17	デジタルタコグラフ★	4-237
18	USB チャージャー★	6-32
19	ハザードスイッチ	4-124

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

スイッチレイアウト（ステアリングスイッチ）

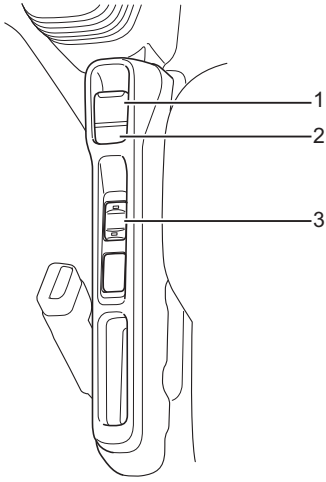


No.	装置名	参照ページ
1	音量調整スイッチ★	3-43 6-66
2	RIGHT/LEFT スイッチ	
3	ENTER スイッチ	
4	UP/DOWN スイッチ	
5	RETURN スイッチ	
6	選局 / トラックスイッチ★	

No.	装置名	参照ページ
7	車間設定スイッチ	5-2
8	リジュームスイッチ★	
9	セットスイッチ★	
10	モードスイッチ★	
11	キャンセルスイッチ★	
12	LKA スイッチ★	
13	通話スイッチ★	6-93

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

パーキングブレーキまわり



No.	装置名	参照ページ
1	電動パーキングブレーキスイッチ★	4-71
2	オートブレーキホールドスイッチ★	4-144

No.	装置名	参照ページ
3	シートヒータースイッチ★	2-41

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

はじめに 0

● 保証について 0-2
● 点検・整備について 0-2
● 全国サービス網 0-2
● 車台番号･エンジン番号 0-3
● 警告ラベルについて 0-6
● 車両データの記録について 0-17
● お車の故障を防ぐために 0-18

別冊の「メンテナンスノート」に、保証の内容及び点検･整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

保証について

万一材料上、あるいは製造上の責任で故障が生じたときは、お車を保証書に記載されている範囲で無償修理させていただきますので保証書をお読みのうえ、最寄りの《日産販売会社》へお申し付けください。保証書はメンテナンスノートにとじ込まれています。
取り扱い上の不注意やメンテナンスノートに記載されている点検整備を怠ったために生じた故障および事故については保証できません。
《日産販売会社》の所在については「全国サービス網案内」を参照してください。

点検・整備について

- 車を最良の状態でお使いいただくため、点検・整備は必ず実施してください。メンテナンスノートに点検・整備のしかたや時期などを記載しています。
- 点検・整備は実施することが法律で義務づけられています。
- 点検・整備を実施したときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入してください。
- 購入後 1 か月（又は 1,000km 走行時）は無料で点検が受けられます。

全国サービス網

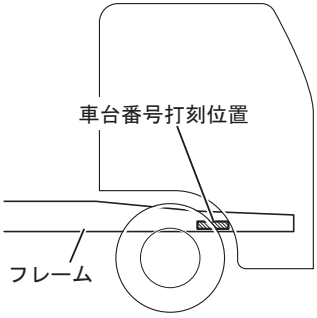
「メンテナンスノート巻末」に、全国の日産販売会社の所在地が記載されています。
定期点検整備や一般整備は最寄りの《日産販売会社》をご利用ください。

車台番号･エンジン番号

車台番号･エンジン番号は車両の登録･検査のとき必要です。また、修理や部品注文のときも《日産販売会社》へこれらの番号をご連絡いただければより適切な処理ができます。

車台番号

車台番号



フレーム右側面前方に打刻してあります。

ID プレート



車両型式、車台番号等が記されたプレートが助手席側のドア開口部に取り付けてあります。

車台番号（VIN）

ID プレートには車台番号（VIN）が記載されています。
車台番号からお車の車型、エンジン等を知ることができます。

A	K	R	8	8	Y	—	7	0	0	0	0	0	4
1			2		3		4						

No.	内容
1	車型記号 AHR: 4×2 トラック AJR: 4×2 トラック AKR: 4×2 トラック ALR: 4×2 トラック AMR: 4×2 トラック ANR: 4×2 トラック APR: 4×2 トラック

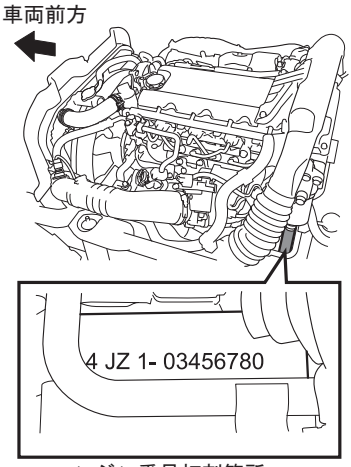
No.	内容
2	エンジン記号 87: RZ4E エンジン 88: 4JZ1 エンジン
3	Y: 車両総重量 7.5 トン超車 無 : 上記以外
4	一連番号

オプションコード

ID プレートにはお車に装着されている装置のオプションコードが記載されています。
オプションコードは 3 桁のアルファベットおよび数字で表されています。
メンテナンスの時など、お車のエンジン、トランスミッションおよびその他装備を知る必要がある場合には、《日産販売会社》へお問い合わせください。

エンジン番号

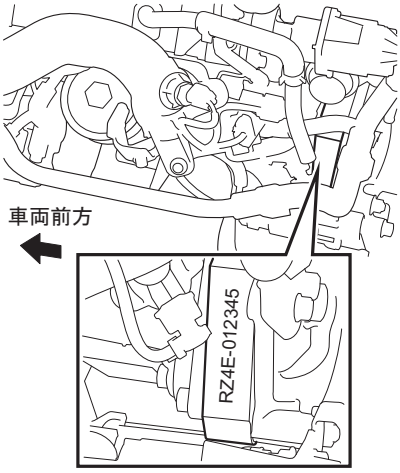
4JZ1 型エンジン車



エンジン番号打刻箇所

シリンダーブロック左側面後方に打刻してあります。

RZ4E 型エンジン車



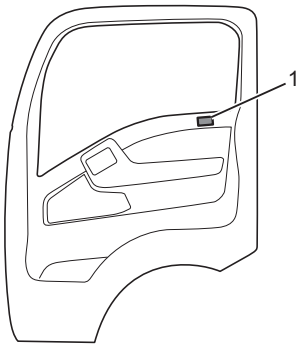
エンジン番号打刻箇所

警告ラベルについて

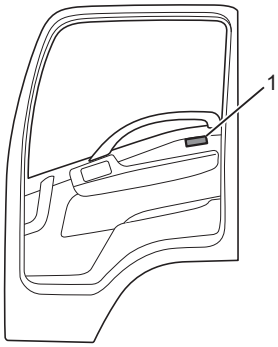
- 注意、警告ラベルにはお車を使用する上で、重要な内容が記載されています。お車を使用する前に必ずお読みください。
- 各ラベルの記載事項がかすれていたり、損傷があるもの、はがれているものがあるときは、《日産販売会社》にお問い合わせください。
- 注意、警告ラベルは車両本体についてのみ記載してあります。架装物の注意、警告ラベルについては、架装メーカーの取扱説明書をご覧ください。
- 次に示すラベルは一例です。ラベルの記載内容は車種により異なる場合があります。
- 警告ラベルの貼り付け位置は変更される場合があります。

注意･警告ラベル（キャブ内貼り付け位置）

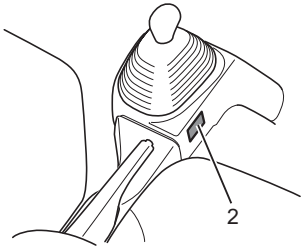
標準キャブ車



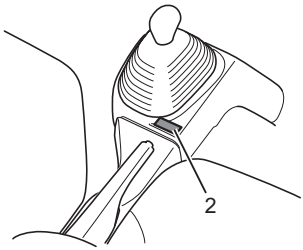
ハイキャブ・ワイドキャブ車

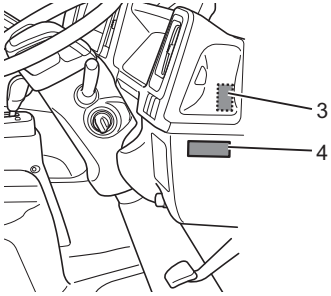


標準キャブ・ワイドキャブ車



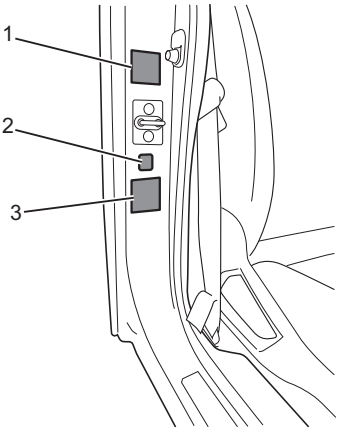
ハイキャブ車



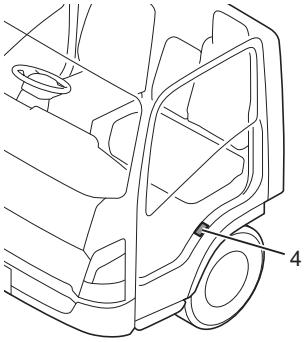


1	パワーステアリング（塵芥車）
2	トランスミッション　シフティング（6 速 M/T 車）
3	ブレーキフルード
4	ダンプ、PTO

運転席側ドア部

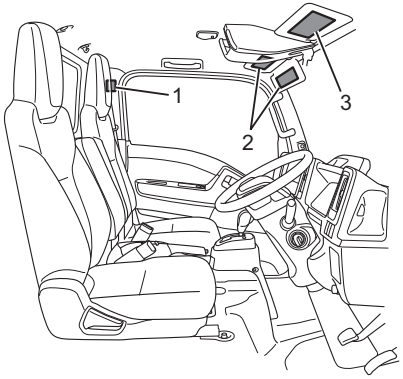


助手席側ドア部

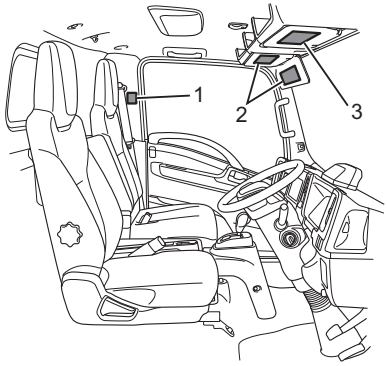


1	タイヤ空気圧モニタリングシステム
2	SRS
3	タイヤ空気圧
4	エンジンカバー（助手席点検口付車）

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



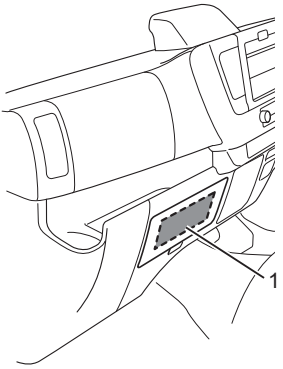
1	エンジン（定期点検）
2	助手席用 SRS エアバッグ *1
3	運転席用 SRS エアバッグ、後部架装物、HSA/ オートブレーキホールド、デュアルクラッチ式 AMT、DPD、ecostop、先進運転支援システム



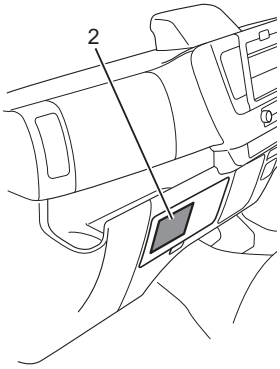
*1: 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

参照ページ
1-12 お子様を乗せるときの注意
1-20 お子様にもシートベルトを

ヒューズボックスカバー（裏面）

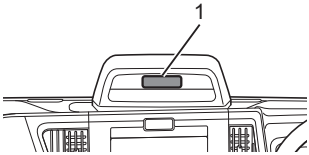


ヒューズボックスカバー（表面）

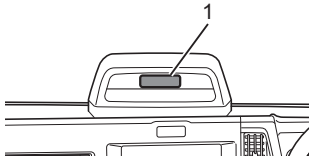


1	ヒューズ、リレー
2	尿素 SCR

標準キャブ車



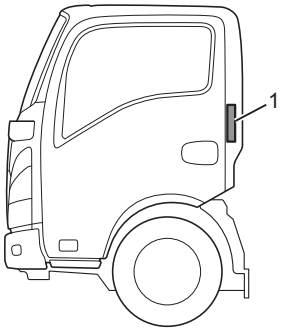
ハイキャブ・ワイドキャブ車



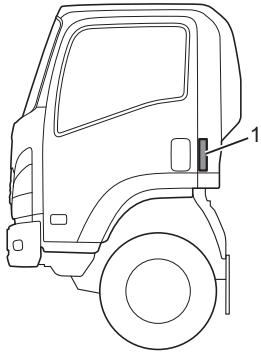
1	カメラ

注意･警告ラベル（キャブ外貼り付け位置）

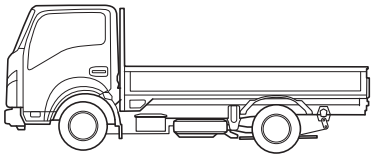
標準キャブ車

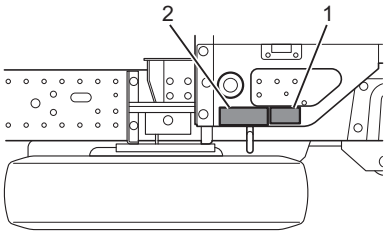


ハイキャブ・ワイドキャブ車

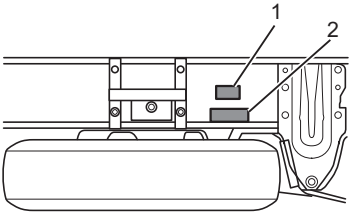


1	キャブチルト操作方法（チルトキャブ車）

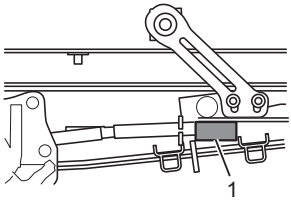




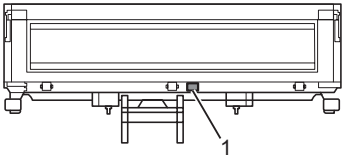
標準キャブ車
リアダブルタイヤ
フラットロー



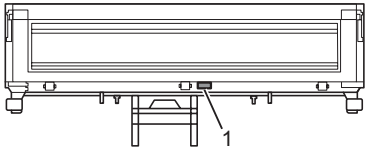
標準キャブ・ハイキャブ車
スペアタイヤ　サイド格納型（1のみ）
スペアタイヤ　サイドおよび
荷台後部格納型



標準キャブ・ハイキャブ車
スペアタイヤ　荷台後部格納型
リアシングルタイヤを除く

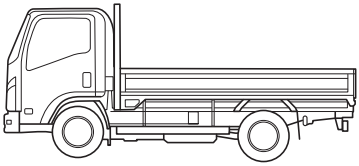


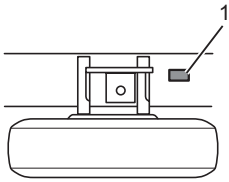
標準キャブ車
リアシングルタイヤ



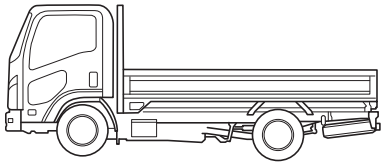
標準キャブ車
リアダブルタイヤ
フラットロー　フラット荷台

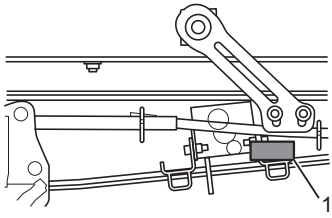
1	スペアタイヤ（巻き上げ / 脱着）
2	スペアタイヤ（前輪用）



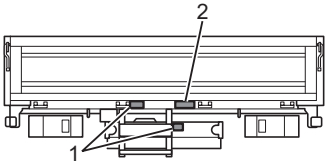


ワイドキャブ車
スペアタイヤ　サイド格納型



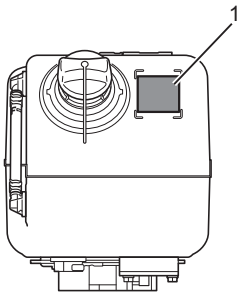


ワイドキャブ車
スペアタイヤ　荷台後部格納型
リアシングルタイヤを除く



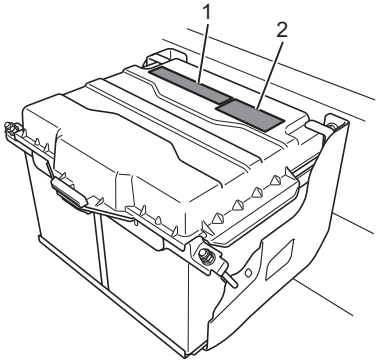
ワイドキャブ車
スペアタイヤ　荷台後部格納型
リアダブルタイヤ

1	スペアタイヤ（巻き上げ / 脱着）
2	スペアタイヤ（前輪用）



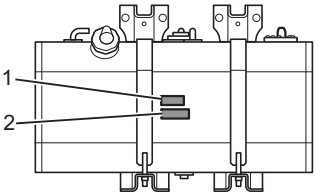
尿素水タンク
14Lタイプ

1	尿素水タンク（燃料、水注入の禁止）

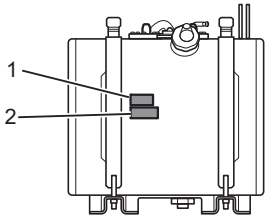


1	バッテリーターミナル（脱着時の清掃・脱脂）
2	バッテリーターミナル（マイナス側ターミナルの取り外し）

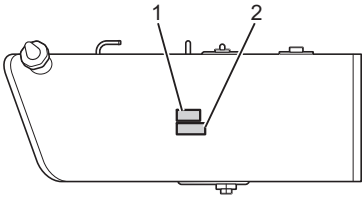
注意･警告ラベル（燃料タンク部貼り付け位置）



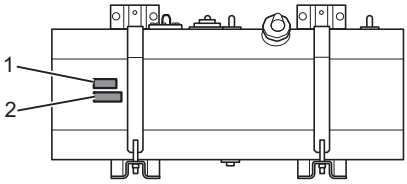
AHR型車
(クルーキャブ車)
50Lタンク



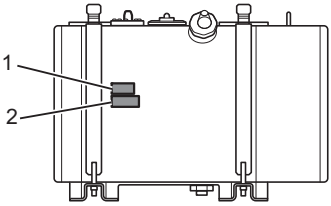
AJR・AKR型車
(シングルキャブ車・スペースキャブ車)
AMR型車
50Lタンク



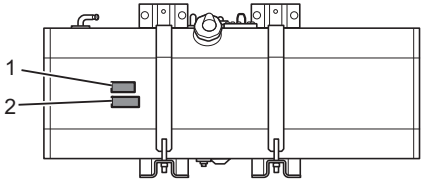
AJR・AKR型車
(ダブルキャブ車)
50Lタンク



AMR・ALR型車
65Lタンク

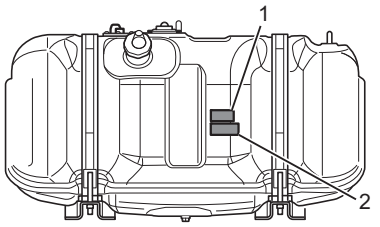


AJR・AKR・ALR・AMR型車
（Eホイールベース塵芥車・バキューム車・
高所作業車、Fホイールベース）
70Lタンク

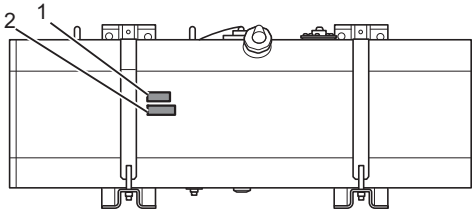


AHR・AJR・AKR・ALR・AMR型車
（除くEホイールベース塵芥車・高所作業車・
バキューム車・Fホイールベース）
70Lタンク

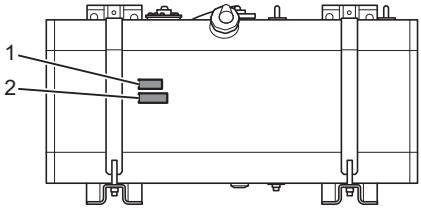
1	ディーゼル＆軽油
2	燃料タンク（添加剤、水抜き剤等の注入禁止）



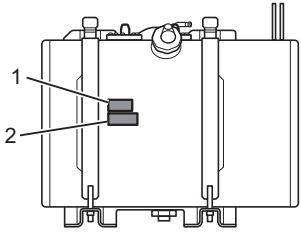
AJR・AKR型車
71Lタンク



AJR・AKR・ALR・AMR型車
100Lタンク



ANR・APR型車
100Lタンク

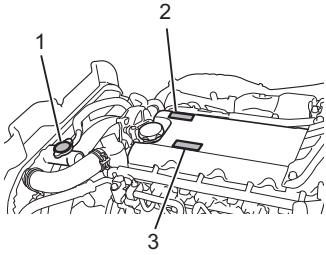


ANR・APR型車
68Lタンク

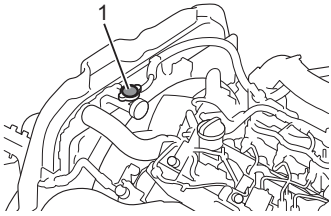
1	ディーゼル＆軽油
2	燃料タンク（添加剤、水抜き剤等の注入禁止）

注意･警告ラベル（エンジンルーム内貼り付け位置）

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



1	ラジエーターキャップ
2	エンジンオイル
3	フューエルフィルターエレメント

車両データの記録について

この車両は、車両の制御や操作に関するデータを記録しています。
日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、日産自動車の車両安全性能の向上のため、または機能に作動不良があった場合の原因解析のため、記録されたデータを取得・利用することがあります。
取得したデータは上記の目的以外には使用いたしません。また、以下の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。
- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関等に提供する場合

運転状況の記録について

この車両は、ドライバーステータスモニターを制御するコンピュータを搭載しています。
このコンピュータは、機能の作動状況により、次のデータを記録･蓄積します。
- 運転者の状況に応じて発せられた警報･車両情報
- 警報が発せられたときに撮影した画像

EDR 機能について

この車両は、SRS エアバッグシステム（SRS エアバッグシステム装着車）、プリクラッシュブレーキおよび誤発進抑制機能（デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車）を制御するコンピュータを搭載しています。
このコンピュータは、SRS エアバッグシステム、プリクラッシュブレーキおよび誤発進抑制機能が正常に作動しているかどうかを常に診断しています。SRS エアバッグシステムについては車両が衝突したときや衝突に近い状態のときの車両データを、プリクラッシュブレーキシステムおよび誤発進抑制機能については作動時の車両データを記録･蓄積する EDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。

EDR の記録

知　識

- EDR は、一般的なデータレコーダとは異なり、会話等の音声や映像は記録しません。

SRS エアバッグシステム

EDR は、衝突したときや衝突に近い状態のときに、次の情報を記録します。

- 運転席のシートベルト装着の有無
- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- 運転状態

プリクラッシュブレーキ / 誤発進抑制機能★

EDR は、プリクラッシュブレーキシステムおよび誤発進抑制機能が作動したときに次の情報を記録します。

- 車両前方のセンシング情報
- 車速
- ハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダル等の操作状況
- その他の車両状態

お車の故障を防ぐために

⚠ 警 告

【電装品を自分で取り付けないで】

- **カーナビゲーションシステムや無線機、その他市販のオーディオなど電装品の電気配線は、サービスコネクターより指定の方法で行ってください。不適切な配線を行うと、他の電装品に悪影響を与え故障の原因になるおそれや、電線の過熱により火災を招く危険があります。また、SRS エアバッグが思いがけずにふくらんだりして危険です。電装品の取り付け、取り外しは必ず《日産販売会社》で行ってください。**

参照ページ
8-24 サービスコネクターについて

⚠ 注 意

【改造はしないで】

- **車の性能や機能に適さない部品を取り付けると、思わぬ故障や事故を招くおそれがあります。エンジンなどの調整や、部品の取り付けについては、《日産販売会社》にご相談ください。**
- **日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると違反になることがあります。アクセサリーなどを取り付けるときは《日産販売会社》にご相談ください。**

アドバイス

【エンジンの上に乗らないで】

- エンジンルームはお車の心臓部です。エンジンに足をかけたり、乗ったりしないでください。ヘッドカバー、各種コネクターの破損など故障につながるおそれがあります。

【無線機を取り付けるときは】

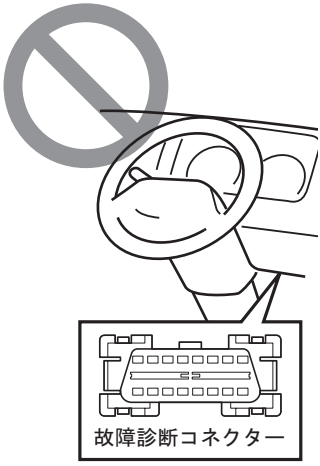
- 認可されていない無線機、または規格外の無線機やアンテナは取り付けないでください。無線機から出るノイズは、車両の電子部品等のシステムに電波障害を与えるため、車両故障や各電子部品の誤作動の原因となるおそれがあります。無線機の取り付けについては、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

【電気溶接をするときは】

- 不用意に車両各部に電気溶接を行うと溶接電流が車両のアース回路を逆流し、各種電装品、電子部品を破損させ正常な機能を果たせなくなるおそれがあります。電気溶接をするときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

【故障診断コネクターに故障診断用装置以外を接続しないで】

- 故障診断コネクターは点検整備のための故障診断用装置を接続するためのものです。それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーが上がるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



安全のために 1

● シートベルト 1-2

● プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステム 1-9

● お子様を乗せるときは 1-19

● 妊娠中のかたや疾患のあるかたを乗せるときは 1-25

シートベルト



シートベルトは正しく装着しないと、効果が半減するだけでなく危険な場合があります。
走行前に運転者は必ず装着し、同乗者にも必ず装着させてください。
シートベルトの使用方法および注意事項を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身につけてください。

⚠ 警 告

- シートベルトは必ず走行前に装着してください。シートベルトの装着は法律により義務づけられています。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けて装着しないと正常に機能しません。また走行中、シートを大きくリクライニングさせた状態でシートベルトを装着すると万一のとき、非常に危険です。背もたれを起こし、シートに深く腰掛けた状態でシートベルトを正しく装着してください。
- 『カチッ』と音がするまでタングをバックルに確実に差し込みます。正しく差し込まれていないと万一のときシートベルトが外れてケガをするおそれがあります。
- シートベルトは顔、あご、首にあたらないように装着してください。
- ベルトの装着は腹部をさけ、腰骨のできるだけ低い位置にかかるように装着してください。腹部に着用すると万一のとき強い圧力を受けて腹部に深刻な傷害を負うことがあります。
- シートベルトはねじれた状態で使用しないでください。万一事故が起きたとき衝撃が分散せず、本来の働きをしないおそれがあります。
- 妊娠中の女性や疾患（胸部、腹部）のあるかたも、シートベルトを使用してください。ただし、使い方によっては万一のとき強い圧力を受けて胸部や腹部にケガをすることがありますので、医師に注意事項を確認してください。
- シートベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 組のベルトを使用しないでください。シートベルトが正常に機能しません。
- シートベルトにほつれ、すり切れができたり、バックル部などが正常に作動しないときはベルトを《日産販売会社》で交換してください。
- シートベルトを装着した状態で万一、事故などにあいシートベルトに衝撃を受けたときは、シートベルトの外観上に異常がなくても《日産販売会社》で点検･交換をしてください。
- バックルやベルトの巻き取り装置部の中に異物などが入らないように注意してください。
- シートベルトやバックルは、シートやドアに挟んで損傷しないよう注意して取り扱ってください。

警告 （続く）

警告（続き）

- **運転者は同乗者にもシートベルトを装着させる義務があります。緊急自動車、その他特例で認められている車両は装着義務が免除されますが、できるかぎりシートベルトを装着することをお奨めします。**

参照ページ
2-36 シート
10-123 シートベルトの手入れ

お子様を乗せるときの注意

お子様を乗せるときは市販の保護具（チャイルドシートなど）の使用をお奨めします。

参照ページ
1-20 お子様にもシートベルトを
1-21 チャイルドシートをお使いになる前に

⚠ 警 告

- **シートベルトが首やあごにあたる場合や、腰骨にしっかりとかからない小さいお子様の場合は、万一のとき危険ですからシートベルトは装着せず市販のベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。**
- **ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートをセンターシートに装着しないでください。お子様の体格に合ったものを使用してください。取り付けはベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートの取扱説明書に従って確実に取り付けてください。**

シートベルト装着時の注意



	シートベルト装着時の注意	なぜ？
A	腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にくるように装着	万一のとき、各部に強い圧迫を受け危険
B	肩部ベルトは首、あご、顔に触れないよう肩に十分にかかるように装着	
C	シートベルトにねじれの無いことを確認して装着	最大の効果を発揮

シートベルトの警告・表示

シートベルト未装着警告灯（フロント）

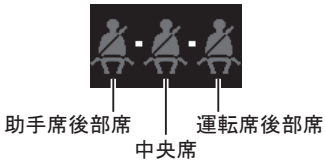


スタータースイッチが『ON』位置のときに運転席、助手席、中央席のいずれかがシートベルト未装着の場合に点灯します。
警告灯が点灯した状態で車速 20km/h を超えると、警告灯が点滅します。同時にブザー『ピーピー』が鳴ります。

知　識

- この警告灯は運転者、助手席および中央席乗員がシートベルトを装着すれば消灯します。
- シートに荷物などを載せると、人が座っていないにもかかわらずこの警告灯が点灯する場合があります。

シートベルト未装着警告灯（リヤ）★



AHR 型車
スタータースイッチを『ON』位置にしたとき、運転席後部席、助手席後部席、中央席のいずれかがシートベルト未装着の場合に点灯します。

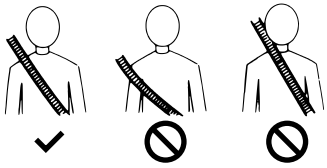
知　識

- 後部座席の乗員がシートベルトを装着、またはスタータースイッチを『ON』位置にしてから 95 秒経過すると消灯します。

車速 20km/h 以上で走行中に後部座席の乗員がシートベルトを外すと、該当する席の警告灯がメーターディスプレイ内で点滅し、同時にブザー『ピーピー』が鳴ります。
シートベルトを再度装着、またはシートベルトを外してから 95 秒経過すると消灯しブザーも鳴りやみます。

3 点式シートベルト

センターシートを除き装備されています。身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときにはシートベルトが自動的にロックされ、身体を拘束します。



警　告

- **肩部ベルトは首や顔に触れないように、また、肩に十分かかるようにしてください。衝突や、急ブレーキをかけたとき、ケガをするおそれがあります。**

装着のしかた

1. 正しい姿勢でシートに座ります。



2. タングを持って引き出し、シートベルトにねじれが無いことを確かめタングをバックルに『カチッ』と音がするまで確実に差し込みます。さらに、ベルトを引いてタングが装着されているか確認します。

アドバイス

【シートベルトがロックしたときは】

- シートベルトをゆるめてから、再度ゆっくりと引き出してください。
  それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。



3. 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着するように装着してください。

外しかた



バックルのボタンを押すと外れます。ベルトは自動的に巻き取られますのでタングを持ってゆっくり戻すようにします。

アドバイス

- シートベルトは自動的に巻き取られます。巻き込む勢いでボデーやウインドーガラスなどを傷つけないようタングを手で持ってゆっくり戻すようにしてください。
- シートベルトをドアやシートレールにはさまないように注意してピンと張った状態で収納してください。
- 助手席シートベルトが格納された後（または未使用時）、ストッパーの位置はベルトが完全に張っている状態で保持していることを確認してください。

⚠ 注 意

- **ハンドル周辺、インストルメントパネル周辺、センターコンソール周辺、ブレーキ・クラッチペダル周辺、運転席および助手席シートベルトの修理や用品・オーディオ機器の取り付けはプリテンショナー付シートベルトや SRS エアバッグシステムに悪影響を与え不意にシートベルトが巻き込んだり SRS エアバッグがふくらみケガをするおそれがあります。必ず最寄りの《日産販売会社》で行ってください。**

知 識

- 運転席シートと助手席シート（助手席 SRS エアバッグ装着車）にはプリテンショナー機能が付いています。
- 3 点式シートベルトには ELR 機能がついています。
  運転席用シートベルトと助手席シートベルト（助手席 SRS エアバッグ装着車）には併せてロードリミッター機能も付いています。

【ELR 機能】

- 通常は身体の動きに合わせて自由に伸縮しますが衝突や急ブレーキで身体が前に倒れるようなときはベルトがロックされ身体を拘束します。
- ベルトを勢い良く引き出そうとすると ELR により、ベルトが固定されます。このようなときは一旦ベルトを戻し再度ゆっくり引き出してください。

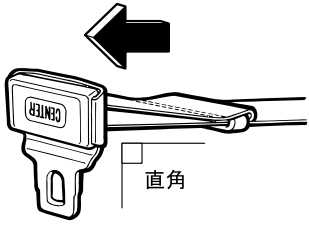
【ロードリミッター機能】

- ベルトにかかる荷重を一定に保ちながらシートベルトが伸びだすことで乗員の胸部にかかる衝撃を緩和します。

参照ページ
1-9 プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステム

2 点式シートベルト（センターシート）★

装着のしかた



1. 正しい姿勢でシートに座ります。
2. タング側のシートベルトをあらかじめ少し長めにのばしておきます。（タングとシートベルトを直角にして行うと容易です。）

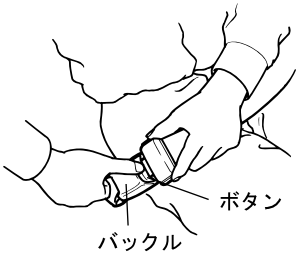


3. シートベルトにねじれの無いことを確かめてタングをバックルに『カチッ』と音がするまで確実に差し込みます。



4. シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、ベルトの折り返し部（上側）を引っぱり長さを調整し、腰部に密着させます。

外しかた

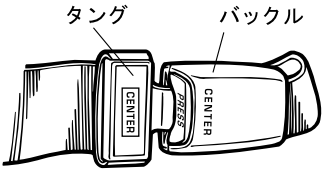


バックルのボタンを押すと、外れます。

知　識

【センターシートの着用について】

・窓側用（ELR 3 点式）と、センターシート用（長さ調整式 2 点式）との相互着用はできない構造となっています。
また、誤装着を防止するため、センターシート用シートベルトのタングおよびバックルには『CENTER』のマークをつけて区別してあります。



プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステム



プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステムは、一定以上の衝撃が加わる前面衝突時に、プリテンショナー付シートベルトと SRS エアバッグを作動させ、運転者や助手席乗員（助手席用 SRS エアバッグ装着車）の身体をシートに確実に拘束しつつ、乗員への衝撃を緩和させる装置です。プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグの衝撃により、命にかかわる重大なケガをしないよう次のことを必ずお守りください。

⚠ 警 告

- 運転をする前に、正しい運転姿勢になるようにシートの位置を調整し、シートベルトを正しく着用してください。必要以上にハンドルに近づいたり、もたれかかったりしないでください。また、助手席用 SRS エアバッグ付車ではインストルメントパネルに手や足を載せたり、顔や胸を近づけた姿勢で座らないでください。
  エアバッグが作動したときの衝撃により、腕や顔面などにやけどや、重大なケガをするおそれがあります。
- パッド部やインストルメントパネル上部に、強くたたくなど過度な力をかけないでください。SRS エアバッグの正常な作動がさまたげられるおそれがあります。
- ひざの上にものをかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。SRS エアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔に当たったり、SRS エアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。
- 不正な改造や用品を取り付けるとプリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが正常に作動しない場合があります。
- 正規以外のハンドルに交換したり、パッド部にステッカーなどを貼ると作動不良やステッカーが飛ぶおそれがあり危険です。またインストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、周辺にアクセサリーや芳香剤など物を置いたり、傘を立てかけたりしないでください。フロントガラスにアクセサリーを取り付けることもしないでください。正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。





警告 （続く）

警告（続き）

- 下記の事項を行う場合は特別な処置が必要になる場合がありますので、ご自分で行わず必ず《日産販売会社》にご相談ください。プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが不意に作動し、シートベルトが巻き込んだり、SRS エアバッグがふくらみ命にかかわる重大なケガをするおそれがあります。またシステムに悪影響を与え作動不良や故障の原因になります。
  - ハンドル、インストルメントパネル、センターコンソール、ダッシュボード、クラッチペダル、ブレーキペダル周辺の修理･交換する場合
  - プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグの修理･交換･廃棄、またプリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグ装着車を廃棄する場合
  - オーディオ機器や用品の取り付け、また架装などを行う場合
  - 車両前部（バンパー / フレーム）の改造や装置（スノープラウ）などの取り付け、フレームの改造、車高の改造を行う場合。またその際に不正な改造や用品の装着を行った場合
  - 車両前部、キャブの板金塗装を行う場合

⚠ 注 意

- 下記の場合はただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。
  - SRS エアバッグ警告灯が消灯しないときや、たびたび点灯する場合
  - プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動した場合（SRS エアバッグ警告灯が点灯します）
  - プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動しなかった場合でも、ある程度の衝撃を車両前方から受けた場合
  - シートベルトにほつれやすり切れがある場合
  - ステアリングパッド表面に傷、亀裂、その他表面に衝撃が加わった場合
  - インストルメントパネル表面に傷、亀裂、その他表面に衝撃が加わった場合

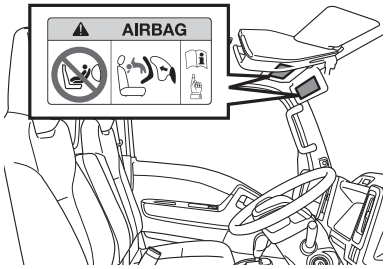
参照ページ
1-2 シートベルト
2-36 シート

お子様を乗せるときの注意

お子様を同乗させるときは、必ず次のことをお守りください。SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様の生命にかかわる重大な傷害をうけるおそれがあります。また、お子様を乗せるときは市販の保護具（チャイルドシートなど）の使用をお奨めします。

⚠ 警 告

- **お子様を助手席用 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態で走行しないでください。助手席用 SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃をうけ危険です。**
- **助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。**
  助手席のサンバイザー（日よけ）にも同内容の警告ラベルが貼られています。



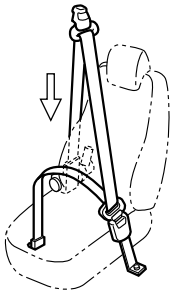
SRS エアバッグの警告・表示

SRS エアバッグ警告灯



SRS エアバッグ警告灯が点灯すると、万一のとき、プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。

プリテンショナー付シートベルト



前面衝突時、一定以上の衝撃を受けたとき装着しているシートベルトが瞬時に巻き取られ、シートベルトのたるみを取り去り乗員をシートへ確実に拘束しシートベルトの効果を高める装置です。

参照ページ
1-2 シートベルト

⚠ 警 告

- **プリテンショナー付シートベルトは、前方からの一定以上の衝撃を受けたときなど万一のときに、乗員の重大な傷害を減らすための装置です。シートベルトを正しく装着することで最大の効果を発揮します。**
- **プリテンショナーが作動すると、シートベルトのたるみを瞬間的に巻き取ります。このとき擦り傷やこすれによる軽いやけど、軽い打撲症などを負うことがあります。**

⚠ 注 意

- **シートベルトの取り外し、分解は行わないでください。誤作動により部品が飛散しケガを負うことや作動不良の原因になります。**

アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは衝突時に作動すると再使用はできません。ただちに最寄りの《日産販売会社》で交換をしてください。

知 識

- プリテンショナー機能が万一故障しても通常のシートベルト（ELR 付）として作動し、シートベルトの機能は確保されます。
- プリテンショナー機能が作動する瞬間に音がでます。
- プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動すると警告灯が点灯します。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ（補助拘束装置）は、一定以上の衝撃の前面衝突時に作動しエアバッグをふくらませ、プリテンショナー付シートベルトの作動とともに乗員の身体への衝撃を分散･緩和させるシートベルトの補助装置です。

⚠ 警 告

- **SRS エアバッグは、前方からの一定以上の衝撃を受けたときなど万一のときに、乗員の重大な傷害を減らすためプリテンショナー付シートベルトと併せて作動する補助装置です。シートベルトを正しく装着した場合に最大の効果を発揮します。**
- **SRS エアバッグはシートベルトに代わるものではありません。必ずシートベルトを装着してください。**
- **SRS エアバッグは、重大な傷害を減らすために瞬時にかなりの力でふくらみます。このとき、擦り傷や、こすれによる軽いやけど、軽い打撲症などを負うことがあります。**
- **SRS エアバッグがふくらんだ直後は、SRS エアバッグをふくらます金属部などが高温になっているため、さわらないでください。やけどなど重大なケガをするおそれがあります。**
- **エアバッグの取り外し、分解は行わないでください。誤作動や、作動不良の原因になります。**
- **SRS エアバッグ付近に物を置かないでください。SRS エアバッグがふくらむ力で物が飛びケガをするおそれがあります。**
- **ハンドルを枕代わりにしたり、また手足を乗せて休息をとらないでください。スタータースイッチが『ON』位置のとき停車中に一定以上の衝撃を前面に受けたとき、SRS エアバッグがふくらみ強い衝撃を受け、ケガをするおそれがあります。**
- **SRS エアバッグセンサー部へ水をかけたり、衝撃を与えないでください。誤作動の原因となり危険です。**



アドバイス

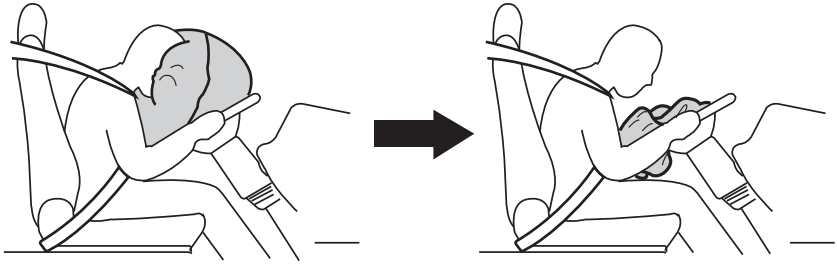
- SRS エアバッグがふくらむと音がし、白煙がでますが火災ではありません。また、この白煙は人体に影響はありません。ただし、残留物（ガスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたなどまれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRS エアバッグは一度ふくらむと再使用することはできません。ただちに《日産販売会社》で交換をしてください。

知　識

- SRS は Supplemental Restraint System（サプリメンタル･レストレイント･システム：補助拘束装置）の略です。
- SRS エアバッグは展開後、すぐにしぼみ視界を妨げることはありません。
- プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動すると SRS エアバッグ警告灯が点灯します。

SRS エアバッグの展開

一定以上の衝撃の前面衝突時に、SRS エアバッグシステムは作動し瞬時にエアバッグがふくらみます。すぐにしぼみ視界を妨げることはありません。



プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグの作動について

プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグは一定以上の衝撃を前面衝突時に受けたときに作動します。衝突時に衝撃が緩和されたり、衝撃を受ける強さや、方向により作動しない場合があります。また、衝撃により車両前部が大きく変形しても、座席への衝撃は大きくならない場合があります。このような場合、SRS エアバッグを必要としないと判断して作動しないことがあります。

プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動する場合

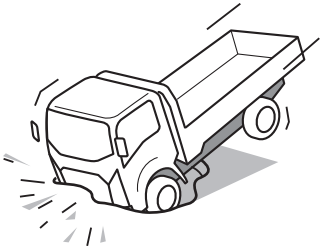
駐停車している車両や走行中の車両に一定以上の衝撃で、前面衝突したとき



堅固な壁に一定以上の衝撃で、前面衝突したとき



衝突以外でプリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動することがある場合



- 道路に開いた穴や溝に落ちたとき
- 路上の突起物などの障害物に強く衝突したとき
- 高速で縁石などに衝突したとき
- 車両がジャンプして地面に衝突し、車両下部に強い衝撃を受けたとき

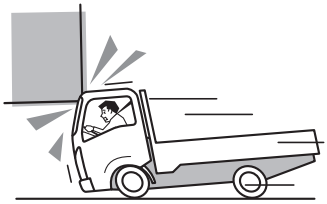
プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動しないことがある場合

次の場合、プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステムが正常であっても作動しにくいことがあります。

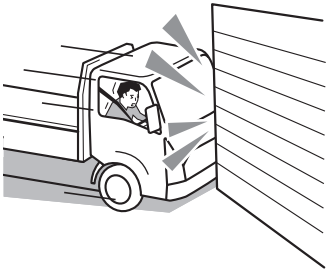
電柱、立ち木などへ衝突したとき



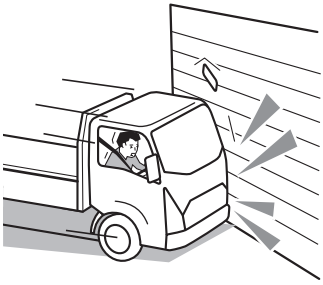
障害物や車両などの下にもぐり込んだとき



オフセット衝突（片側衝突）したとき



斜め前方から衝突したとき



乗用車と衝突したとき



プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動しない場合

次の場合、プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステムが正常であっても作動しません。

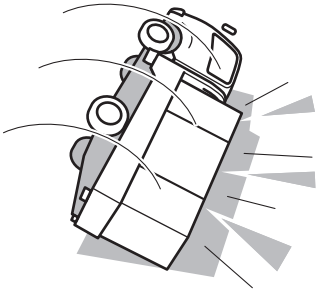
車両後方から衝突されたとき



横方向から衝突されたとき



車両が横転や、転覆したとき



お子様を乗せるときは

車から離れるときはお子様もご一緒に



⚠ 警 告

- 必ず、お子様を一緒に連れて出てください。お子様のいたずらによる発進、火災など思わぬ事故を起こすこともあります。また、炎天下での車内は大変高温となり危険です。

ドアの開閉やロックは必ず大人が行ってください



⚠ 警 告

- お子様が手や首をはさむことがあり危険です。ドアの開閉および、ドアロックは必ず大人が行ってください。また、お子様がパワーウインドースイッチをいたずらして、手や首をはさむと危険ですので注意してください。お子様を乗せるときはパワーウインドーの開閉操作は必ず運転席側のスイッチで行ってください。
- お子様が同乗するときはパワーウインドーロックスイッチをロック位置にして、運転席側からしか操作できないようにしてください。

参照ページ
2-25 ドア
2-66 パワーウインドー

窓から顔や手などを出させないで



⚠ 警 告

- 走行中、停車中を問わず、車の窓から顔や手、体の乗り出しは思いがけない障害物に当たるなど危険がありますので、させないでください。

お子様にもシートベルトを

⚠ 警 告

- この車に装備されているシートベルトは大人用です。シートベルトが首やあごにあたる場合や腰骨にかからないお子様や 6 才未満の幼児の場合は、ベビーシート、チャイルドシートやジュニアシートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。また、ひとりで座ることのできない小さなお子様はチャイルドシートを使用してください。
- ベビーシート、チャイルドシートやジュニアシートをセンターシートに装着しないでください。運転操作に支障をきたすおそれがあります。
- 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

参照ページ
1-2 シートベルト
1-21 チャイルドシートをお使いになる前に

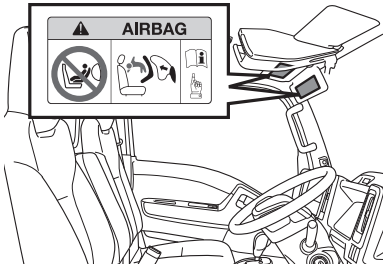
チャイルドシートをお使いになる前に



チャイルドシートをご使用になる前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類などを記載しています。チャイルドシートの取り付けかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご確認ください。

⚠ 警 告

- **ベビーシート、チャイルドシートやジュニアシートをセンターシートに装着しないでください。運転操作に支障をきたすおそれがあります。**
- **助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。**
  助手席のサンバイザー（日よけ）にも同内容の警告ラベルが貼られています。



知　識

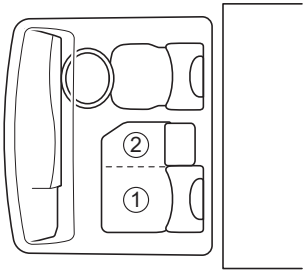
- ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートは、お子様の体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。
  チャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない場合があります。車に合ったチャイルドシートを使用してください。
  ※ 詳しくはベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

チャイルドシート選択の目安

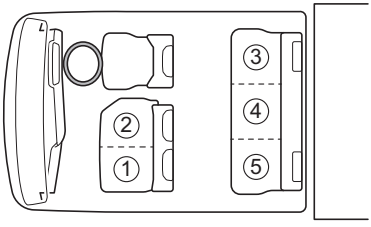
シートの種類	体重 (kg)	身長 (cm)	参考年齢
ベビーシート	～10 未満	～75 以下	～12ヵ月
チャイルドシート	9 ～ 18 未満	75 ～ 105 以下	9ヵ月～ 4 才
ジュニアシート	15 ～ 32 以下	100 ～ 135 以下	4 才～ 10 才

シート位置別チャイルドシートの適合性について（AHR 型車）

シングルキャブ車



ダブルキャブ車



車両 シート位置	シングル キャブ	ダブル キャブ
①	X	X
②	X	X
③	–	X
④	–	X
⑤	–	X

U ：車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L ：推奨チャイルドシートと適合性一覧表に記載されたチャイルドシートに適合しています。

X ：チャイルドシートの取り付けには適していません。

チャイルドシートの取り付けに関する詳細情報（AHR 型車）

シート位置の番号	着座位置				
	①	②	③	④	⑤
ユニバーサル （汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置 （有 / 無）	無	無	無	無	無
アイサイズ着座位置 （有 / 無）	無	無	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×	×
搭載可能なう しろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	×	×	×	×
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	×	×	×	×
搭載可能なジュニアシートの治具 （B2/B3）	×	×	×	×	×

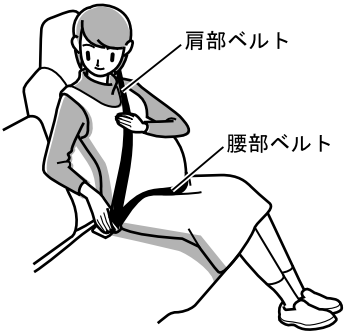
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない、もしくは必要な情報が表の中にない場合は、チャイルドシートの車種別適合リストを参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き ・形状 ・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

SRS エアバッグがふくらんだ時のために

参照ページ
1-12 お子様を乗せるときの注意

妊娠中のかたや疾患のあるかたを乗せるときは



⚠ 警 告

- 妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
  ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、シートベルトを使うときは、医師に注意事項を確認してください。
  - 妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
  - 妊娠中のかたは、シートベルトを着用するときに腰部のベルトがかかる場所を腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。
  - シートベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児まで、生命の危険や重大な傷害につながるおそれがあります。

参照ページ
1-2 シートベルト

各部の開閉と調整 2

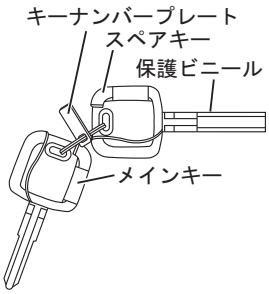
- キー 2-2
- キーレスエントリー★ 2-11
- インテリジェントキー★ 2-14
- ドア 2-25
- グリップおよびステップ 2-35
- シート 2-36
- チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル） 2-48
- ミラー 2-49
- ウインドー 2-66
- 燃料給油口 2-74
- 荷台★ 2-78
- 車外ツールボックス★ 2-86

キー

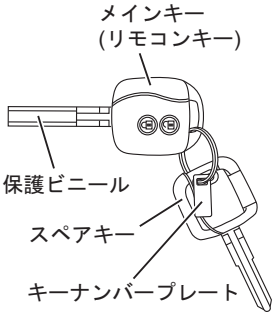
キーの種類

キーは溝が左右対称になっていますので、裏表を問わず差し込むことができます。お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーナンバープレートにキーナンバーが打刻してあります。

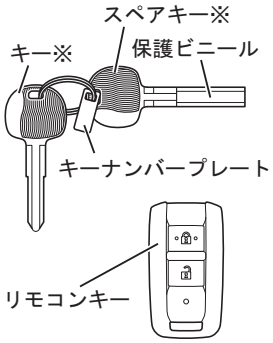
キー

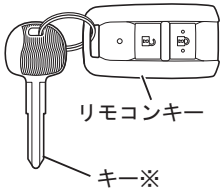


キーレスエントリーキー



インテリジェントキー





知　識

- ※ 印のキーを除くすべてのキーにイモビライザー機能が搭載されています。

【インテリジェントキー付車】

- リモコンキーの電池切れや故障などを考慮し、キーとリモコンキーは一緒に携帯してください。

参照ページ
2-11 イモビライザー機能

キーに関する注意事項

⚠ 警 告

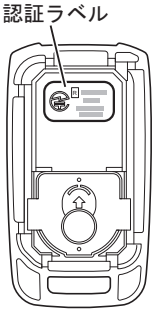
【インテリジェントキー付車】

- 航空機にリモコンキーを持ち込む場合は、航空機機内でリモコンキーのボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも簡単にボタンが押されないように保管してください。
- ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注 意

【キーレスエントリー付車・インテリジェントキー付車】

- リモコンキーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
  - 電池交換時以外は、リモコンキーを分解しないでください（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）。
  - 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルの無いリモコンキーの使用は禁止されています（インテリジェントキー付車のみ）。



  - 必ず日本国内で使用してください。

【インテリジェントキー付車】

- 車両を使用しないときは盗難防止のため、リモコンキーは車両から 2m 以上離しておいてください。

アドバイス

- キーを紛失したときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- リモコンキーの電池交換以外でイモビライザー機能付キーを分解しないでください。
- イモビライザー機能付キーをダッシュボードの上など高温（60 ℃以上）になる場所へ放置しないでください。
- イモビライザー機能付キーを、磁気を帯びたものに近づけないでください。

【キーレスエントリー付車・インテリジェントキー付車】

- リモコンキーを水にぬらしたり、落としたり、ぶつけたり、踏んだりすると故障の原因になります。
- リモコンキーをダッシュボードの上など高温（60 ℃以上）になる場所に置かないでください。電池寿命の低下や故障の原因になります。

【インテリジェントキー付車】

- リモコンキーをテレビやパソコンなどの電気製品の近くに置かないでください。電池を著しく消耗することがあります。

使用箇所

使用箇所	目的
スタータースイッチ	エンジン始動･停止
フロントドア	施錠･解錠
燃料給油口	

アドバイス

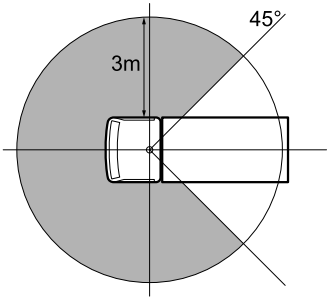
- キーを使用する際は、汚れやゴミなどをふき取ってからご使用ください。

知　識

- 盗難防止のため、キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一キーを紛失したときは、キーナンバーを《日産販売会社》へご連絡いただければ、同じものを作ることができます。
- 車両をゆずられるときは、次に所有されるかたのために、キーナンバープレートを必ずつけておいてください。

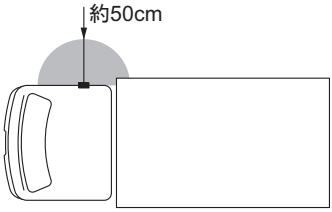
リモコンキーの作動範囲（キーレスエントリー・インテリジェントキー付車）

リモコンキーの操作によるドアの施錠・解錠



リモコンキーは、キャブから 3m 以内で作動します。

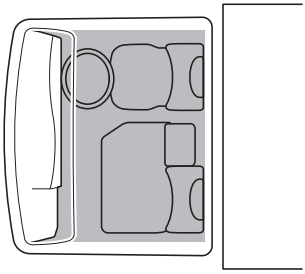
リクエストスイッチでのドアの施錠・解錠（インテリジェントキー付車）



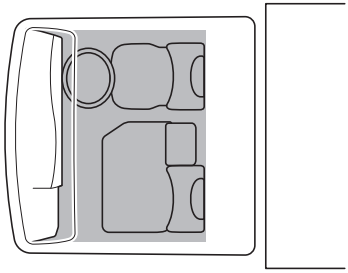
運転席側ドアハンドルの周囲約 50cm 以内にリモコンキーがあるときに作動します。

エンジンの始動（インテリジェントキー付車）

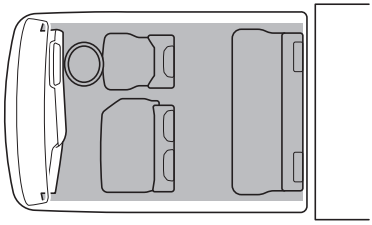
シングルキャブ車



スペースキャブ車



ダブルキャブ車



作動範囲内にリモコンキーがあるとき、エンジンを始動することができます。

知　識

- 作動範囲は、インストルメントパネル上やグローブボックス、フロア、シート後ろ（運転席･助手席）およびドアポケットなどの各種小物入れ、シートバックスペース（スペースキャブ車）を除く車内です。周囲の環境によっては作動しにくい場所があります。その場合、キーを移動させてエンジンを始動してください。
- 作動範囲内にリモコンキーがあるときは、リモコンキーの表示灯が点滅します。

リモコンキーの電池交換

作動が不安定になったり、作動しなくなったときは、リモコンキーの電池の消耗が考えられます。また、インテリジェントキー付車の場合はリモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯が点灯したときやリモコンキーの表示灯が点灯しないときも電池の消耗が考えられます。新しい電池に交換してください。

参照ページ
2-18 リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯

アドバイス

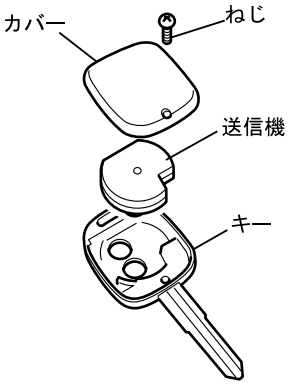
- 交換後の電池の処理はお子様のいたずら、環境保護などに配慮されたうえ、地方自治体の条例または規則に従って適切に処置してください。
- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。

キーレスエントリーキーの電池交換

使用電池	
リチウム電池 CR1620	1 個

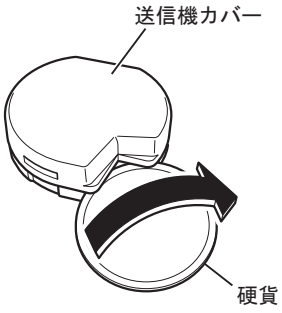
知　識

- 電池の寿命は使用条件により異なります。

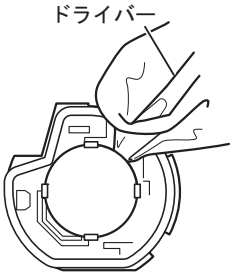


1. 精密ドライバーでねじをゆるめて、カバーを外します。

2. 送信機本体を取り出します。



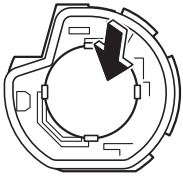
3. 硬貨などで送信機のカバーを外します。



4. 送信機の凹部にマイナスドライバーなどを差し込み、古い電池を取り外します。

知　識

- カバーに傷が付かないようにマイナスドライバーの先端に布またはテープを巻いておきます。



5. 新品の電池を取り付けます。電池は⊕側を上にして取り付けてください。

6. 送信機カバーを閉じます。

アドバイス

- 送信機カバーを閉じるときに、ゴミや髪の毛等をはさみ込まないでください。防水性能が低下してリモコンが破損する原因になります。

7. 送信機をキーにはめ込み、カバーをねじで取り付けます。

インテリジェントキーの電池交換

使用電池	
リチウム電池 CR2032	1 個

知　識

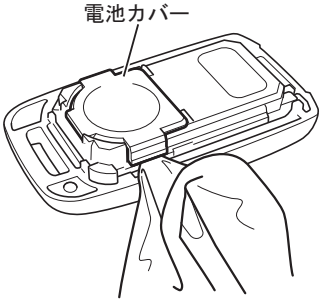
・リモコンキーは車両と通信を行うため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況により異なりますが、1 ～ 2 年程度です。



1. カバーの切り欠き部をマイナスドライバーなどでこじってカバーを開けます。

知　識

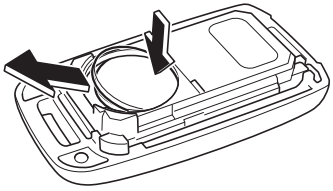
・カバーに傷が付かないようにマイナスドライバーの先端に布またはテープを巻いておきます。



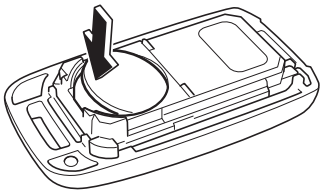
2. 電池カバーの左右をマイナスドライバーなどでこじってカバーを外します。

知　識

・カバーに傷が付かないようにマイナスドライバーの先端に布またはテープを巻いておきます。



3. 古い電池を取り出します。電池を上から押し、少し持ち上げてから引き出します。



4. 新品の電池を取り付けます。電池は⊕側を上にして取り付けてください。

アドバイス

- 新しい電池を取り付けるときは、電極を曲げないように注意してください。

5. カバーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

アドバイス

- カバーを閉じるときに、ゴミや髪の毛等をはさみ込まないでください。防水性能が低下してリモコンキーが破損する原因になります。

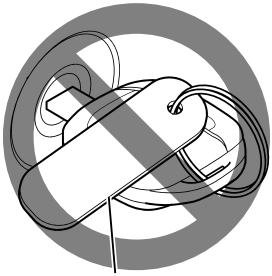
イモビライザー機能

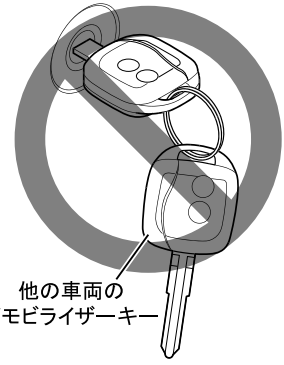
キーにはイモビライザー機能（車両盗難防止装置）が付いています。
イモビライザー機能とは、キーに信号を発信する部品を組み込みあらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにした機能です。

エンジンが始動できないとき

次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。金属製のキーホルダーなどが原因でエンジンが始動できない場合は、キーを正常な状態に戻した後、もう一度スタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしてから、再度スターターを回してエンジンを始動してください。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき。
- キーの本体部分が金属に触れていたり、覆われているとき。
- 他の車両のイモビライザー機能付のキーが近くにあるとき。





⚠ 警 告

- **スターターを約 10 秒以上連続して回し続けないでください。バッテリー、スターターの故障の原因や過熱など火災の原因になるおそれがあります。**

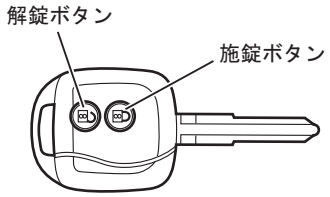
キーレスエントリー★

キーレスエントリーとは、リモコン操作によりキーを差し込まずにドアの施錠、解錠ができるシステムです。

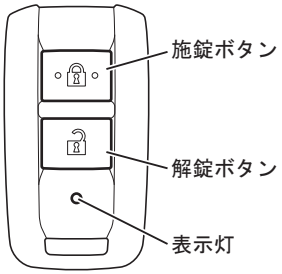
参照ページ
2-2 キー

リモコンキーによる施錠・解錠

リモコンキー（キーレスエントリーキー）



リモコンキー（インテリジェントキー）



ドアの解錠

リモコンキーの解錠ボタンを 1 秒以上押し続けてから離します。車両がリモコンキーの信号を受け取ると左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 2 回点滅します。またマップランプスイッチの位置が『DOOR』のとき、マップランプが約 20 秒間点灯します。

ドアの施錠

リモコンキーの施錠ボタンを 1 秒以上押し続けてから離します。車両がリモコンキーの信号を受け取ると左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 1 回点滅します。

アドバイス

- リモコンキーのボタン操作で施錠したときは、必ずドアハンドルを引いて、施錠していることを確認してください。
- 施錠、解錠の繰り返し動作を連続して 10 回以上行うと保護回路が作動し、動かなくなることがありますが、少し時間をおくと再び施錠、解錠ができるようになります。
- 万一、装置に異常が生じた場合は、キーによる施錠、解錠を行い、《日産販売会社》で点検を受けてください。

知　識

- 解錠ボタン、施錠ボタンは 1 秒以上確実に押し続けてください。
- インテリジェントキー付車は、施錠ボタンまたは解錠ボタンを押すと、リモコンキーの表示灯が点灯します。
- 解錠ボタンを押してドアが解錠しても、約 30 秒以内にドアを開けない場合は、盗難防止のためオートロック機構が作動して、自動的にドアは施錠されます。
- マップランプスイッチの位置が『DOOR』の場合、マップランプが点灯しているときに施錠を行うと、ランプが消灯します。
- TV 塔や発電所、放送局など電波の強い地域や、車両の周囲の状況、電波ノイズなどにより作動範囲が変わったり、作動しない場合があります。

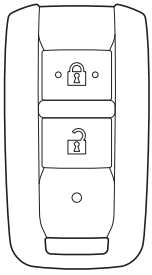
【インテリジェントキー無車】

- 次の場合、キーレスエントリーは作動しません。
  - スタータースイッチが『ON』位置のとき
  - スタータースイッチにキーが差し込まれているとき
  - ドアが開いているとき

【インテリジェントキー付車】

- 次の場合、キーレスエントリーは作動しません。
  - スタータースイッチが『ACC』または『ON』位置のとき
  - ドアが開いているときに施錠ボタンを押したとき

インテリジェントキー★



インテリジェントキーのシステムは、リモコンキーを携帯することでキーを取り出すことなくドアの施錠･解錠やエンジンの始動を行うことができるシステムです。また、キーレスエントリーのリモコンキーとしても機能します。フューエルキャップの施錠･解錠およびリモコンキーの電池切れの際にドアの施錠･解錠を行うためのキーが付いています。

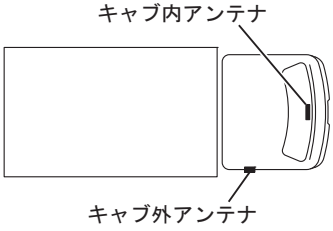
参照ページ
2-2 キー
2-11 キーレスエントリー★
4-43 エンジンの始動・停止のしかた

警 告

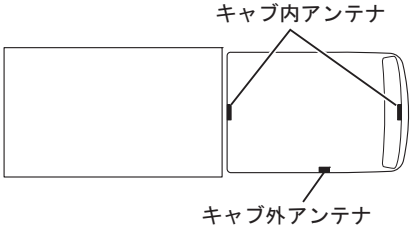
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用している方は、車両に搭載されているアンテナから 22 cm以内に近づかないでください。インテリジェントキーで発信されている電波が機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。なお、カスタマイズ機能によりインテリジェントキーを非作動にすることができます。

参照ページ
2-17 カスタマイズ機能について

シングルキャブ・スペースキャブ車



ダブルキャブ車



アドバイス

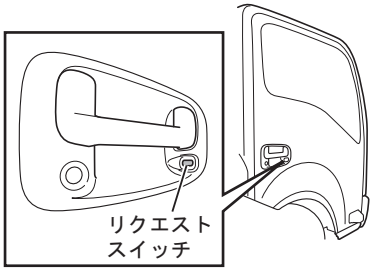
- 施錠、解錠の繰り返し動作を連続して 10 回以上行うと保護回路が作動し、動かなくなることがありますが、少し時間をおくと再び施錠、解錠ができるようになります。
- 万一、装置に異常が生じた場合は、キーによる施錠、解錠を行い、《日産販売会社》で点検を受けてください。

知　識

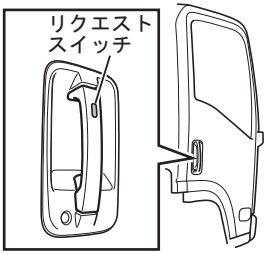
- リモコンキーが作動範囲内にあれば、リモコンキーを携帯している人以外でも以下のことができます。
  - ドアの施錠･解錠
  - エンジンの始動
- リモコンキーは運転者が携帯し、車内に残したまま車から離れないでください。

リクエストスイッチによる施錠･解錠

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



リモコンキーの作動範囲内で、リモコンキーを携帯しているときに操作できます。

参照ページ
2-5 リモコンキーの作動範囲 （キーレスエントリー・インテリジェントキー付車）

ドアの解錠

ドアが施錠されているとき、ドアハンドルのリクエストスイッチを押すと解錠します。同時にアンサーバックブザー『ピピッ』が鳴り、左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 2 回点滅します。またマップランプスイッチの位置が『DOOR』のとき、マップランプが約 20 秒間点灯します。

ドアの施錠

ドアが解錠されているとき、ドアハンドルのリクエストスイッチを押すと施錠します。同時にアンサーバックブザー『ピッ』が鳴り、左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 1 回点滅します。

アドバイス

- 施錠したときは、必ずドアハンドルを引いて施錠していることを確認してください。

知　識

- 作動範囲にリモコンキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもリクエストスイッチで施錠･解錠ができます。
- 施錠後、約 3 秒間はリクエストスイッチを押しても解錠は行われません。
- 解錠後、約 2 秒間はリクエストスイッチを押しても施錠は行われません。
- ドアを開けるときは、リクエストスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。リクエストスイッチを押しながらドアハンドルを引くと解錠されないことがあります。解錠されない場合は、ドアハンドルを戻してから再度リクエストスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアを開けてください。
- ドアハンドルより約 50cm 以内の距離でもリモコンキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- リモコンキーがドアやガラスに近づきすぎた状態では作動しないことがあります。
- リモコンキーで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと再び自動的に施錠されます。
- マップランプスイッチの位置が『DOOR』の場合、マップランプが点灯しているときに施錠を行うと、ランプが消灯します。
- リモコンキーの電池が切れたときや車両のバッテリーがあがったときは、キーを使用してください。
- リモコンキーを使用してドアの施錠･解錠をするときやエンジンを始動するときは、システムがキーの確認を行うため車両から電波が発信されます。そのため次のような場合、インテリジェントキーが正常に動作しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。
  - 近くに強い電波を発信する設備があるとき
  - 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒にリモコンキーを携帯しているとき
  - リモコンキーが金属物のそばにあったり、金属に覆われていたりするとき
- 次のような場合、リクエストスイッチを押しても施錠はされません。
  - スタータースイッチが『LOCK』位置以外のとき
  - リモコンキーが車内にあるとき
  - ドアを開けているとき

カスタマイズ機能について

インテリジェントキーの以下の機能は、設定を変更することができます。設定の変更については《日産販売会社》にご相談ください。

機能	初期設定	設定範囲
インテリジェントキー	ON	ON/OFF
アンサーバックブザー	ON	ON/OFF
アンサーバックブザー音量	大	小 / 中 / 大
自動ドアロック	OFF	ON/OFF

自動ドアロックを『ON』にしたときの機能

機能	初期設定	設定範囲
自動ドアロックが作動するまでの時間	10 秒	1/3/5/10 秒
自動ドアロックのアンサーバックブザー	OFF	ON/OFF

アドバイス

- 自動ドアロックを『ON』に設定したときは、必ずリモコンキーを携帯してから車を離れてください。周囲の電波状況やリモコンキーの電池残量、リモコンキーの位置によってはキー閉じ込み防止機能が働かず、リモコンキーを車内に閉じ込める場合があります。

知　識

- インテリジェントキーを『OFF』に設定しているときのドアの施錠･解錠、およびエンジンの始動は『インテリジェントキーが正常に作動しないとき』を参照してください。

【自動ドアロックとは】

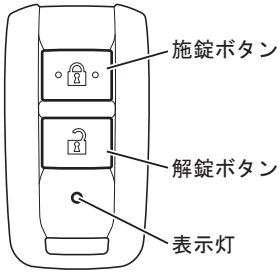
- スタータースイッチが『LOCK』位置のとき、全てのドアを閉めてから設定時間が経過すると、自動でドアの施錠を行う機能です。

参照ページ
11-19 インテリジェントキーが正常に作動しないとき

節電モード

長期間車両を使用しないときは、節電モードにすることでリモコンキーの機能を停止し、リモコンキーの電池の消耗を抑えることができます。

節電モードにするとき



リモコンキーの施錠ボタンを押しながら、解錠ボタンを 2 回押します。リモコンキーの表示灯が 4 回点滅すれば設定は完了です。表示灯が点滅しない場合は、再度操作してください。

知　識

- 節電モード中はリモコンキーの機能が停止するため、インテリジェントキーを使用することができません。インテリジェントキーを使用するときは、節電モードを解除してください。

節電モードを解除するとき

リモコンキーの施錠ボタンまたは解錠ボタンを押せば節電モードが解除されます。

インテリジェントキーの警告・表示

リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯

キー電池残量低下

キーの電池残量が
低下しています。
電池を交換して下さい。

リモコンキーの電池残量が少なくなると、エンジンを停止したときにメーターディスプレイに約 10 秒間表示されます。「キー電池残量低下」が表示されたときは、リモコンキーの電池を交換してください。

参照ページ
2-9 インテリジェントキーの電池交換

アドバイス

- 電池残量の確認は、エンジン始動後約 20 分経ってから行っています。エンジンの始動と停止が 20 分程度の運行を繰り返している場合は、電池が消耗してもリモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯が点灯しない場合があります。
- インテリジェントキーの作動が不安定なときや、施錠、解錠ボタンを押してもリモコンキーの表示灯が点灯しないときは電池が消耗しています。電池の交換を行ってください。
- この警告灯が点灯したときは、早めに電池を交換してください。電池を交換せずに使用を続けると、リモコンキーの電池が切れ、インテリジェントキーによるドアの開閉およびエンジンの始動ができなくなります。

参照ページ
11-19 インテリジェントキーが正常に作動しないとき

インテリジェントキー警告灯



スタータースイッチが次の位置のとき、点灯･点滅･消灯します。

『LOCK』位置	遅い点滅（約 2 秒間隔）
『ACC』位置	消灯
『ON』位置	点灯し、約 3 秒間後に消灯すれば正常です（システムチェック）

また、次の状況の場合にも点滅（約 1 秒間隔）します。

- スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、リモコンキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたとき（同時に警報音『ピッピッピッ』が鳴ります）

参照ページ
2-21 インテリジェントキーの警報

注 意

- **スタータースイッチを『LOCK』位置以外にしても消灯しないときやたびたび点滅するとき、スタータースイッチを『LOCK』位置にしても点滅しないときはただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。**

アドバイス

- 電池切れなどでインテリジェントキーが正常に作動しないときのドアの施錠･解錠、およびエンジンの始動は『インテリジェントキーが正常に作動しないとき』を参照してください。

参照ページ
11-19 インテリジェントキーが正常に作動しないとき

知　識

- 遅い点滅（約 2 秒間隔）は、イモビライザー機能（車両盗難防止装置）が作動していることを示します。

インテリジェントキーの警報

次の場合、警報システムが作動してブザーが鳴り注意を呼びかけます。

リモコンキーを車内に置いたままにしてませんか

メーターディスプレイ	ブザー音	警報場所	対処方法	状況
ドアロック不可 キーが車内にあります。	ピーーー…（連続）	△	車内からリモコンキーを取り出し、再度施錠してください	**キー閉じ込み防止警報（リクエストスイッチ操作時）** リモコンキーを車内に置いたまま、リクエストスイッチを押してドアを施錠しようとした（施錠は行われません）
				キー閉じ込み防止警報（手動施錠時） リモコンキーを車内に置いたまま、運転席または助手席のドアのロックボタンを押し、ドアハンドルを引き上げたまま閉めて施錠しようとした（ドアハンドルを離すと自動的に解錠され、左右のターンシグナルランプが 2 回点滅します。施錠は行われません）

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

参照ページ
2-27 車外からキーを使わずに施錠するには

スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置になってませんか

メーターディスプレイ	ブザー音	警報場所	対処方法	状況
ドアロック不可 スタータースイッチを LOCKにして下さい。	ピーーー…（連続）	△	スタータースイッチを『LOCK』位置にしてから、再度施錠してください	**スタータースイッチ切り忘れ警報（リクエストスイッチ操作時）** スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、リクエストスイッチを押してドアを施錠しようとした（施錠は行われません）
ー	ピッピッ	○		**スタータースイッチ切り忘れ警報（手動施錠時）** ・スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、ドアが開いた状態で運転席のドアのロックボタンを押した（自動的に解錠され、左右のターンシグナルランプが 2 回点滅します） ・スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、ドアロック状態でドアを開けてから閉めようとした（自動的に解錠され、左右のターンシグナルランプが 2 回点滅します）
キー検知不可 キーが車内に見つかりません。	ピッピッピッ（キャブ外）/ピーーー…（連続）（キャブ内）	△	リモコンキーを車内に戻すか、スタータースイッチを『LOCK』位置にしてください	**リモコンキー持ち出し警報** スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、リモコンキーを車外に持ち出しドアを閉めた

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

半ドアになってませんか

メーターディスプレイ	ブザー音	警報場所	対処方法	状況
ドアロック不可 ドアが開いています。	ピーーー…（連続）	△	ドアを確実に閉めてから、再度施錠してください	**半ドア警報** 運転席、または助手席のドアが半ドアのまま、リクエストスイッチを押す、またはリモコンキーを操作してドアを施錠しようとした

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

リモコンキーが認識できません

メーターディスプレイ	ブザー音	警報場所	対処方法	状況
キーを認証してください キーをスタータースイッチにかざしてください。	ピーーー…（連続）	●	リモコンキーをスタータースイッチのリング部に当ててください	**リモコンキー無し始動操作警報** リモコンキーの電池切れや周囲の電波状況により、キーが認識できず、スタータースイッチが『ON』にできない
キー照合完了 スタータースイッチをONにして下さい。	ピピッ	●	スタータースイッチを『ON』にしてください	**イモビライザー照合完了通知** リモコンキーが認識でき、スタータースイッチが『ON』にできるようになった

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

参照ページ
11-19 インテリジェントキーが正常に作動しないとき

リモコンキーの電池残量が低下しています

メーターディスプレイ	ブザー音	警報場所	対処方法	状況
キー電池残量低下 キーの電池残量が低下しています。電池を交換して下さい。	ピーーー…（連続）	●	リモコンキーの電池を交換してください	**リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警報** リモコンキーの電池残量が少なくなった

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

参照ページ
11-19 インテリジェントキーが正常に作動しないとき

インテリジェントキーに異常があります

メーターディスプレイ	ブザー音	警報場所	対処方法	状況
キーシステム異常 キーシステムが異常です。販売会社へご連絡下さい。	ピーーー…（連続）	●	最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください	**インテリジェントキーシステム異常警報** インテリジェントキーシステムに問題が起こっていて、正常に作動できない

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

アドバイス

【キー閉じ込み防止警報について】

- 周囲の電波状況によっては、ブザーが鳴らない場合があります。
- リモコンキーの電池残量が少ない場合は、ブザーが鳴らない場合があります。
- リモコンキーを次のような場所に置いているときは、ブザーが鳴らない場合があります。
  - インストルメントパネルの上
  - グローブボックス
  - ドアポケットなどの各種小物入れ
  - シート後ろ（運転席･助手席）
  - フロア
  - 金属物に触れていたり覆われているとき

【リモコンキー持ち出し警報について】

- 周囲の環境や電波状態によっては、リモコンキーが作動範囲内にあってもブザーが鳴る場合があります。そのようなときは、リモコンキーの携帯位置を変えてから再度操作してください。
- 窓を開けてリモコンキーを車外に持ち出した場合、警告は作動しません。
- リモコンキーをインストルメントパネル上やグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態により警告が作動することがあります。
- リモコンキーを持ち出した状態でスタータースイッチを『LOCK』位置にすると、スタータースイッチの操作ができなくなります。スタータースイッチを操作するときは、リモコンキーを携帯していることを確認してください。

ドア

⚠ 警 告

- **乗車し、ドアを閉めたときは、確実に閉まっていることを必ず確認してください。半ドアは走行中に開くおそれがあり危険です。**
- **走行中はドアレバーを引かないでください。**

⚠ 注 意

- **車から離れるときは、パーキングブレーキを確実に効かせてエンジンを停止し、ドアを施錠してください。**
- **乗降時ドアを開けるときは、必ず周囲、特に後方の安全を確認してから操作を行ってください。いきなり開けると後続車などがぶつかるおそれがあります。**
- **キーは室内に忘れないよう十分注意してください。**
- **キャブチルトするときは必ずドアを閉めてください。**

ドアの施錠･解錠

リモコンキーを使った施錠と解錠

『キーレスエントリー★』を参照してください。

参照ページ
2-11 キーレスエントリー★

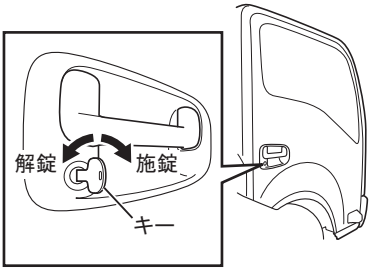
リクエストスイッチを使った施錠と解錠

『インテリジェントキー★』を参照してください。

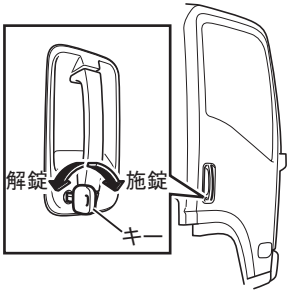
参照ページ
2-14 インテリジェントキー★

車外からキーを使った施錠と解錠

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



キーを確実に差し込みます。
キーを車両後方に回すと『解錠』、前方に回すと『施錠』します。

アドバイス

- キーレスエントリー / インテリジェントキー仕様車は、助手席側からの施錠、解錠ができません。
  施錠、解錠には運転席側のドア、またはキーレスエントリー / インテリジェントキー機能をご使用ください。

参照ページ
2-29 パワードアロック（集中ドアロック）
2-11 キーレスエントリー★
2-14 インテリジェントキー★

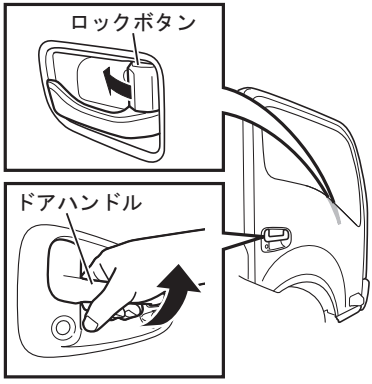
車内からの施錠と解錠



ロックボタンを押すと『施錠』し、ロックボタンを引くと『解錠』します。

車外からキーを使わずに施錠するには

標準キャブ車

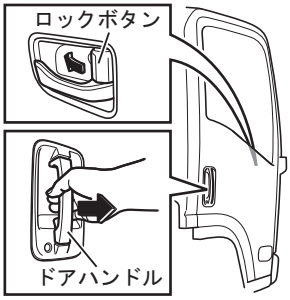


ロックボタンを押し、ドアハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

アドバイス

- キーを持っていることを確認してから施錠してください。

ハイキャブ・ワイドキャブ車

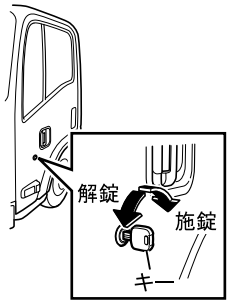


キー抜き忘れ警報★

インテリジェントキー無車
スタータースイッチが『ACC』、『LOCK』位置にあるとき、キーを差し込んだまま運転席ドアを開けると警報音『ピーッ ピーッ …（連続）』が鳴りキーの抜き忘れを警告します。キーを抜けば警報音は鳴りやみます。

助手席スライドドアの施錠･解錠★

車外からキーを使った施錠と解錠

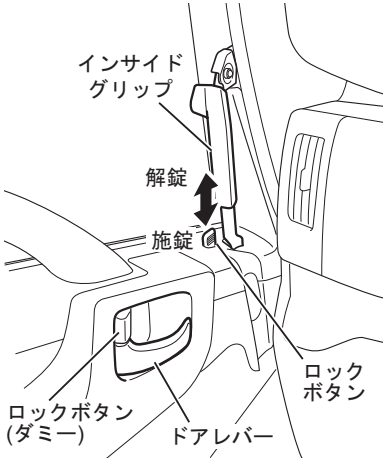


キーを確実に差し込みます。
キーを車両前方に回すと『解錠』、後方に回すと『施錠』します。

知　識

- 車外からキーを使わずに施錠はできません。

車内からの施錠と解錠

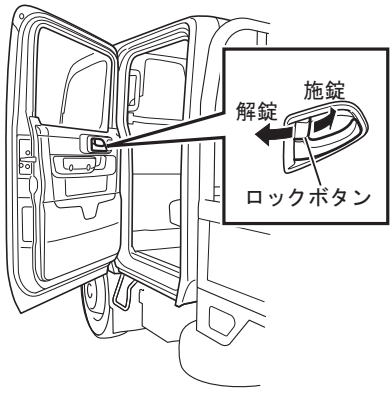


ロックボタンを押すと『施錠』し、ロックボタンを引くと『解錠』します。

知　識

- 助手席スライドドアは、運転席ロックボタンでの操作（施錠･解錠）に連動していません。必ず助手席側のロックボタンで操作してください。
- 助手席スライドドアは、助手席ドアレバーにあるロックボタンでの操作はできません。必ずインサイドグリップ側のロックボタンで操作してください。

リヤドアの施錠･解錠（ダブルキャブ車）



車内からの施錠と解錠

ロックボタンを押すと『施錠』し、ロックボタンを引くと『解錠』します。

車外からの施錠

ロックボタンを押し、ドアを閉めると『施錠』できます。

パワードアロック（集中ドアロック）

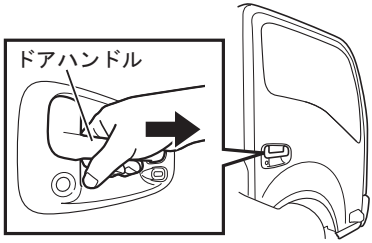
操作のしかた

運転席ドアをキーまたはロックボタンで操作することにより、すべてのドアが連動して『施錠』または、『解錠』することができます。

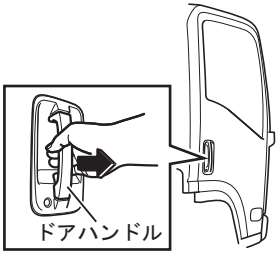
フロントドアの開閉

車外からのドアの開けかた

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



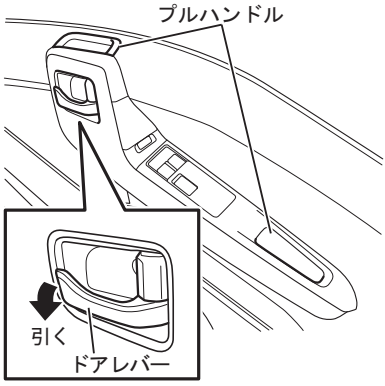
開けるときは、ドアハンドルを引いてドアを開きます。

アドバイス

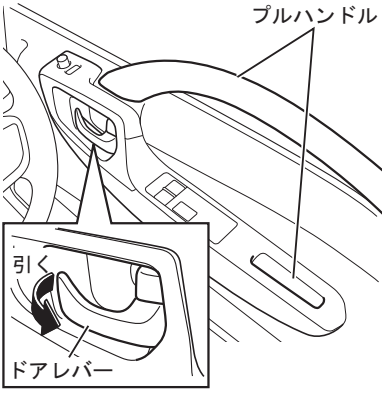
- ドアを開け閉めするときは必要以上に力を加えずに、ゆっくりと操作してください。必要以上に力を加えるとドア部品の故障の原因になります。
- ドアを開けた状態でドアにぶら下がったり、重量物をかけたりしないでください。ドア部品の故障の原因になります。

車内からのドアの開閉

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



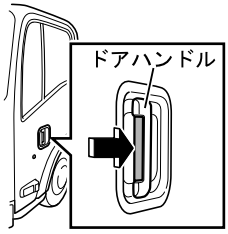
開けるときは、ドアレバーを引いてドアを開きます。
閉めるときは、プルハンドルを引いてドアを閉じます。

アドバイス

- 車から離れるときは、必ずエンジンを止めて、ドアを施錠してください。法令で義務づけられています。キーを室内に忘れないよう十分注意してください。

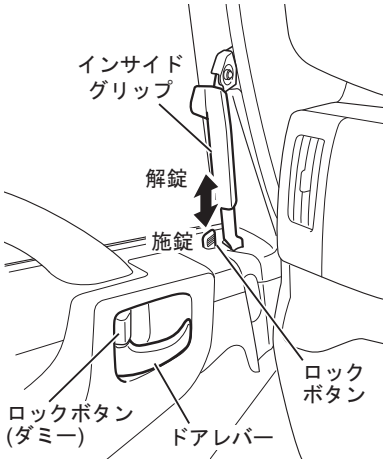
助手席スライドドアの開閉★

車外からのドアの開閉



開けるときは、ドアハンドルをにぎりながらドアを後方に引きます。
閉めるときは、ドアハンドルを持ってドアを前方に押します。

車内からのドアの開閉



開けるときは、ドアレバーを引きインサイドグリップを後方に引いてドアを開きます。

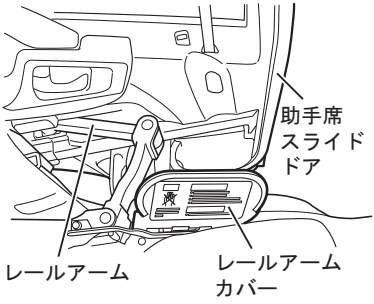
閉めるときは、インサイドグリップを前方に押してドアを閉じます。

⚠ 警 告

- 助手席スライドドアを開け閉めするときは以下のことを必ずお守りください。
  - 十分に周囲の安全を確かめてください
  - 傾斜地でドアを開閉するときは、勢いがついて開閉スピードが速くなります。ドアが身体に当たったり、手を挟まないように注意してください
  - ドアガラスをあけた状態でドアを開閉するときは、窓から身体の一部を出さないでください
  - ドアを開けるとき、グリップを引ききる前に抵抗を感じますが、そのままスライドしきるとドアが固定されます。固定されない状態では傾斜地などで突然ドアが動き出すおそれがありますので、必ず固定されるまでドアを開けてください。
- ドアを開けたまま走行すると、発進や停止するときにドアに身体の一部が挟まれケガをするおそれがあります。また、ドアの故障の原因になりますので、走行時は必ずドアを閉めてください。

⚠ 注 意

- ドア開閉機構（レールアーム、レールアームカバーなど）に手をかけないでください。手をはさみケガをするおそれがあります。



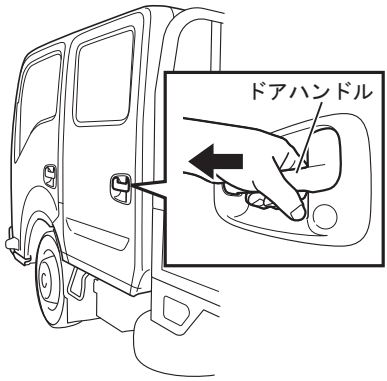
アドバイス

- ドアを開けるときは、必ずインサイドグリップを引いてください。ドアレバーを引いてドアを開けると、ドアレバーやドア内部品が破損するおそれがあります。

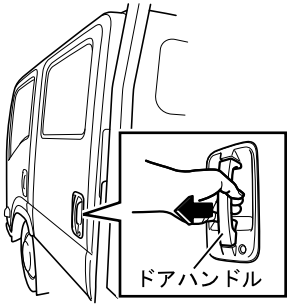
リヤドアの開閉（ダブルキャブ車）

車外からのドアの開けかた

標準キャブ車

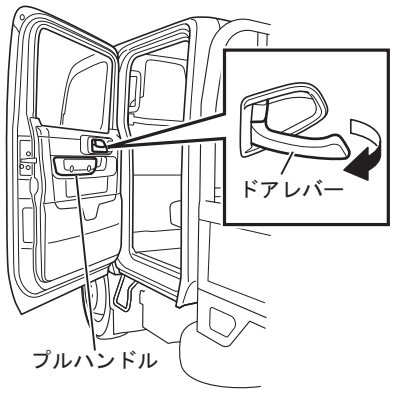


ハイキャブ・ワイドキャブ車



開けるときは、ドアハンドルを引いてドアを開きます。

車内からのドアの開閉



開けるときは、ドアレバーを引いてドアを開きます。
閉めるときは、プルハンドルを引いてドアを閉じます。

グリップおよびステップ



周囲の安全を十分確認して、グリップを握り、ステップに足を乗せて乗降します。

⚠ 注 意

- **車に乗降するときは、必ずステップやグリップを使用して常に3箇所以上で身体を保持してください。タイヤやホイールに足をかけての乗降は滑りやすく危険です。**
  また、飛び乗ったり飛び降りたりすると、転倒など思わぬケガをするおそれがあります。
- **油やグリースが付着した靴や手で乗降すると滑ったりすることがあります。グリースなど油分をよく落としてください。**
- **雨や雪のときはステップが滑りやすくなりますので乗降する場合は、雪などをよく落として滑らないよう十分注意してください。**
- **風の強いときや坂道では、急にドアが開閉することがありますので十分注意してください。**

アドバイス

- グリップ以外の部品をつかんで乗降しないでください。破損や故障の原因になります。

シート



シートに深く腰掛けます。背もたれから背を離さずにペダルを十分に踏み込むことができ、ハンドルを楽に操作できるようゆとりある位置に調整します。また、調整後はシートが確実に固定されていることを確認します。
正しい運転姿勢に合わせたシート調整は安全運転の基本です。

⚠ 警 告

- シート調整は、必ず走行前に行ってください。走行中の調整は、シートが前後に動き不安定な状態になります。特に運転者は、正しい姿勢をとることができず思わぬ事故を招くおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手がはさまり思わぬケガをするおそれがあります。
- お子様を乗せるときのシート調整は、必ず大人が行ってください。お子様が操作すると思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 調整後、シートをゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、運転中にシートが動いて思わぬ事故を招くおそれがあります。また、シートおよびシートベルトが本来の機能を発揮することができなくなります。
- 背もたれを起こし、シートに深く腰掛けた状態でシートベルトを正しく装着してください。シートを大きくリクライニングさせた状態で運転すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になるだけではなく、万一のとき、シートおよびシートベルトが本来の機能を発揮することができなくなります。
- シートの下には物を置かないでください。物が挟まってシートが確実に固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートレールに物がはさまっていないことを確認してから調整を行ってください。シートが確実に固定されないおそれがあります。また、手や足をはさむとケガをするおそれがあります。
- シートを調整するときは、シートが同乗者や荷物に当たらないよう注意してシート調整を行ってください。思わぬケガや、荷物の損傷につながるおそれがあります。
- シートヒーター装着車は、シート表皮が破れた状態でシートヒーターを使用しないでください。やけどをするおそれがあります。

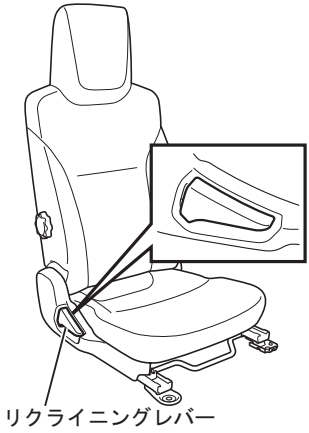
ドライバーシート

シートスライド（前後調整）



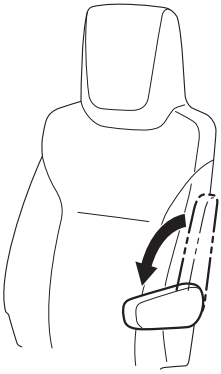
レバーを引き、シートを前後させます。位置が決まったらレバーから手を離してください。調整後、シートを前後にゆさぶり固定されていることを確認してください。

リクライニング（背もたれの角度調整）



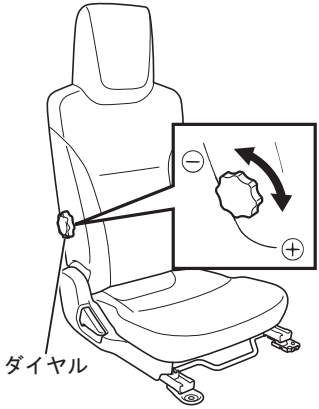
倒すときは、背中を軽く押しあてながらリクライニングレバーを引き上げ背もたれを倒します。
起こすときは、背中を背もたれから少し浮かしてレバーを引き上げます。
調整後は、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。

アームレスト★



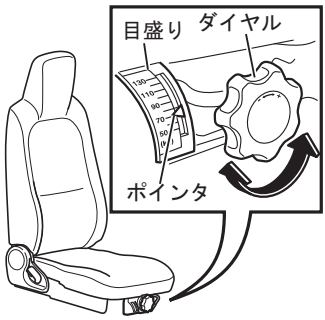
可倒式アームレストです。使わないときはアームレストを起こしておきます。

ランバーサポートの調整★



運転席右側にあるダイヤルで、背骨の形に合わせるように背もたれ腰部のカーブ（湾曲）形状を調整できます。
ダイヤルを前方へ回すとカーブは『⊕』側にふくらみ、また、ダイヤルを後方へ回すとカーブは『⊖』側にゆるくなります。

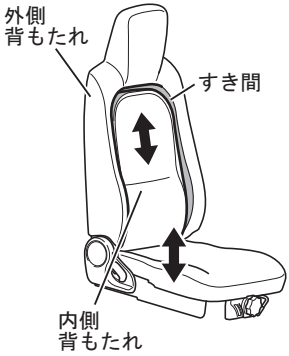
シートサスペンション★



シートに座る前に、ダイヤルを回してご自身の体重に目盛りを合わせます。座ったとき、適正な位置になります。

アドバイス

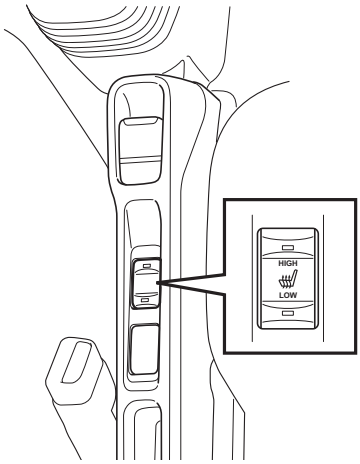
- 目盛り上のポインタに足を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損や故障の原因になります。
- 内側背もたれと外側背もたれのすき間に指や物を入れないでください。シートサスペンションが正常に動作しなくなることがあります。



知　識

- シートサスペンションの調整範囲は、50 ～ 130kg です。体重が調整範囲外の場合、サスペンションの機能が十分に発揮できない場合がありますが、正しい運転姿勢で座ることができます。

シートヒーター★



寒冷時など、運転席シートを温めるときに使用します。スタータースイッチが『ON』位置のときに使用できます。HIGH（強）またはLOW（弱）側を押すとシートヒーターが作動します。同時に、押した側の表示灯が点灯します。停止するときは、スイッチを中立位置にします。
HIGH：シートを早く温めたいときに使用します。シートが温まったあとは、『LOW』に切り替えてください。
LOW：保温するときに使用します。

⚠ 注 意

- **次に該当するかたは、低温やけどを起こすおそれがありますので注意してください。**
  - **皮膚の弱いかた**
  - **疲労の激しいかた**
- **過熱防止のため、毛布やクッションなどの保温性の良いものを敷いたり、純正品以外のシートカバーを使用したりしないでください。**

アドバイス

- エンジン停止中に使用しないでください。消費電力が大きいのでバッテリー上がりの原因になります。
- 硬く重いものや釘や針などの鋭い突起のあるものをシートの上に載せたり、刺したりしないでください。ヒーターの断線などを起こすおそれがあります。
- シートに水やジュースなどをこぼしたときは、乾いた布ですぐふき取ってください。
- スイッチに水やジュースなどをこぼさないようにしてください。

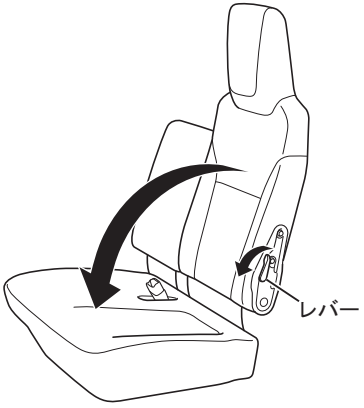
知 識

- 一定の温度を超えるとシートヒーターが一時停止し、温度が下がると復帰します。

パッセンジャーシート / センターシート★

背もたれを手前に倒すことができます。
背もたれ横にあるレバーを倒すと背もたれを倒すことができます。通常は起こした状態にしてください。

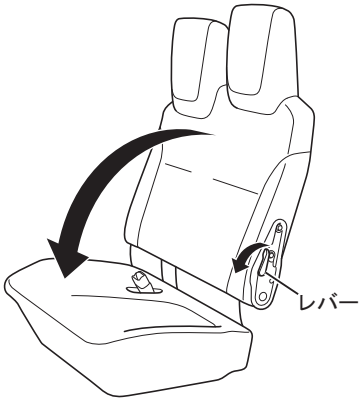
パッセンジャーシート（分割式）



センターシート



パッセンジャーシート（一体式）



注　意

- シートの上に荷物を載せないでください。ブレーキをかけたときに荷物が落下し、各ペダルの操作ができなくなるおそれがあります。
- シートを倒したり戻したりするときは、シートベルトをはさまないように注意してください。

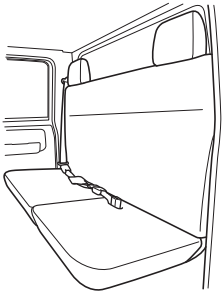
リヤシート★

注　意

- ヘッドレストを外して走行しないでください。

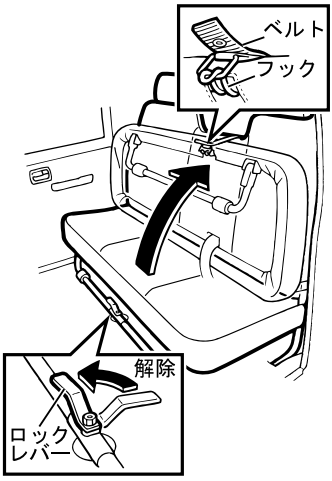
知　識

- ヘッドレストに調整機能はありません。



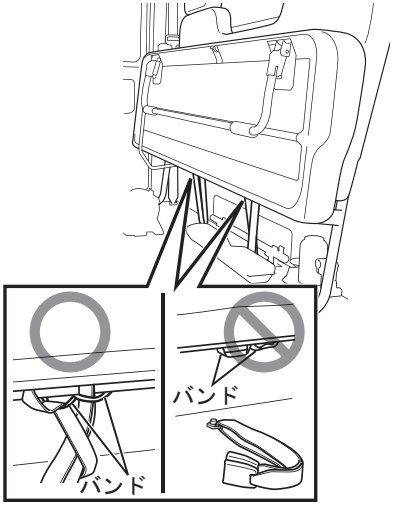
車載工具の取り出し、収納をする際は、リヤシートの折りたたみ（消防車以外）、または取り外し（消防車）を行います。

リヤシートの折りたたみかた（消防車を除く）



⚠ 注 意

- シート座面を元の位置に戻したときは、シートの足を確実にロックしてください。ロックが確実にされていないと走行中、座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因になります。
- シート座面を折りたたんだままで走行しないでください。座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因になります。
- シート座面を倒したり戻したりするときは、シートベルトをはさまないように注意してください。
- シート座面を戻すときは、シートベルトのバックルおよびタングがシート裏のバンドから外れていないこと、またシート座面にバックルおよびタングが出ていることを確認してください。

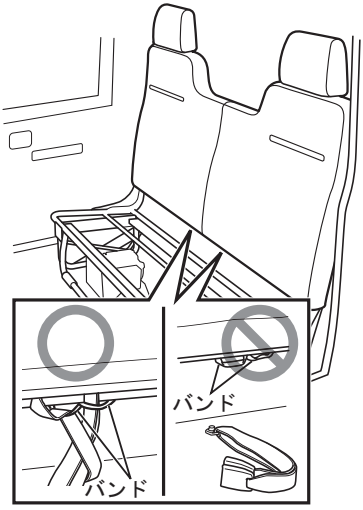


1. シートの足元センターにあるロックレバーを左へ回して解除します。
2. シート座面を起こし、背もたれ後方から出ているベルトを座面裏側のフックに掛けシート座面を固定します。
3. 戻すときは、シートを起こしたときと逆の手順で行います。
   シートベルトのバックルおよびタングがシート裏のバンドから外れていた場合は、「バックルやタングが外れたときは」を参照してシート座面に戻してください。

参照ページ
2-46 バックルやタングが外れたときは

リヤシートの取り外しかた（消防車）





⚠ 注 意

- **シート座面を取り付けたときは、シート座面下側のクリップ（3 箇所）が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと走行中、座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因になります。**
- **シート座面を戻すときは、シートベルトのバックルおよびタングがシート裏のバンドから外れていないこと、またシート座面にバックルおよびタングが出ていることを確認してください。**

1. シート座面の手前側を引き上げ、シート座面を外します。
2. 取り付けは、取り外したときと逆の手順で行います。
   シートベルトのバックルおよびタングがシート裏のバンドから外れていた場合は、「バックルやタングが外れたときは」を参照してシート座面に戻してください。

参照ページ
2-46 バックルやタングが外れたときは

バックルやタングが外れたときは

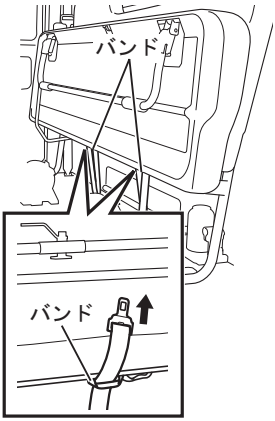
バックルとタングをシート背もたれ下部のバンドに通し、シート座面を元の位置に戻します。バックルとタングを通す位置は、シートの座席数によって異なります。

⚠ 注 意

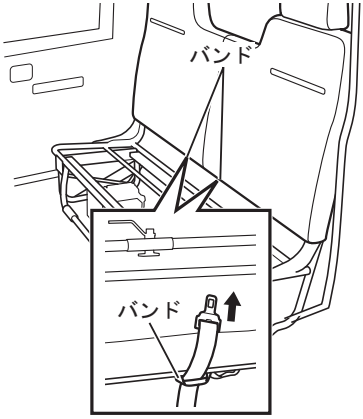
- **バックルとタングは正しい組み合わせで取り付けてください。取り付けるときに組み合わせや位置がまちがっていると、シートベルトを確実に装着できず、万一のときケガをするおそれがあります。**

3 人掛けシート

除く消防車



消防車



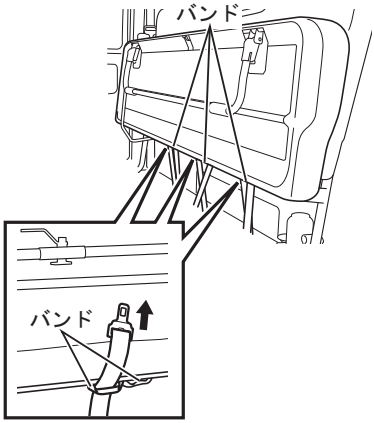


- 運転席側バンドの車両外側にバックル、車両内側に中央席用タングを通します。
- 助手席側バンドの車両外側にバックル、車両内側に中央席用バックルを通します。

知　識

- 中央席のバックルには「CENTER」の印字があります。

4 人掛けシート





- 運転席側バンドの車両外側にバックル、車両内側に中央席用バックルを通します。
- 中央バンドの車両右側に中央席用タング、車両左側に中央席用バックルを通します。
- 助手席側バンドの車両外側にバックル、車両内側に中央席用タングを通します。

知　識

- 中央席のバックルには「CENTER」の印字があります。

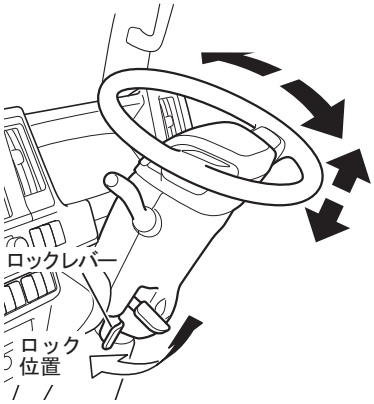
チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル）

ハンドルの上下、前後位置を調整することができます。

警　告

- **調整後は、ハンドルを上下に動かして確実に固定されていることを確認してから走行してください。**
- **ハンドルの位置調整は、運転前に行ってください。運転中のハンドルの位置調整は、ハンドルが上下にガタつき正確な操作ができず大変危険です。**

ハンドルの位置調整



1. ロックレバーを手前に引き、ロックを解除します。
2. シート（座席）に正しく腰かけ、ハンドルを上下および前後に動かして最も運転しやすい位置に調整します。
3. 位置を決めロックレバーをロック方向に押し下げて確実にロックします。

ミラー

正しい運転姿勢を取り、後方や側面および直前、直左の状況が十分に確認できるように各ミラー類が調整されているか点検･調整をします。また各ミラー類が汚れていないかも点検します。

⚠ 注 意

- **ミラーの位置調整は必ず走行する前に行ってください。運転中は調整しないでください。**

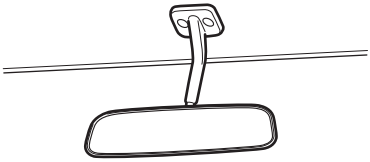
【サイドミラー / アンダーミラー・ワイドビューミラー】

- **走行中にミラーで後方を確認するときには、視線が大きく動くため前方不注意にならないよう十分に注意してください。**
- **後続車との距離に対する感覚がなれるまでは、十分に注意してください。**
- **狭い道でのすれちがいや、車庫入れ時、あるいは歩行者などに対して十分気を配りながら運転してください。**
- **ミラーでは確認しきれない死角があります。発進前には車の前後に人や障害物がないことをミラーだけでなく、目視で確認してください。**
- **ミラーを倒したまま、走行しないでください。**
- **雨天走行時はミラーに水滴が付着し、後方の視界が悪くなります。走行する前にタオルなどで水滴をふき取ってください。**

ルームミラー★



ミラー本体を動かし、後方が十分に確認できる位置に調整してください。

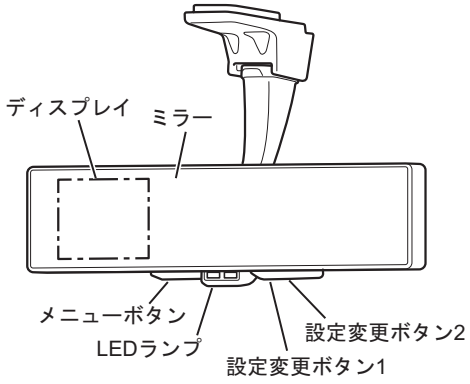


電子インナーミラー★

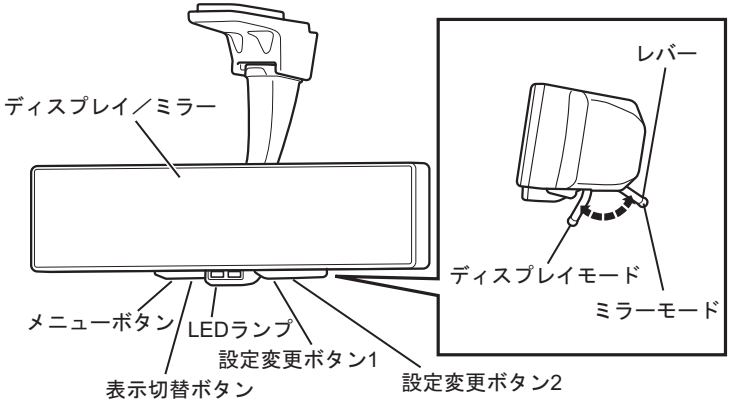
車両後方の視覚情報をキャブ内の電子インナーミラーに映し出し、ドライバーが見づらい部分の視界を提供することにより、運転操作の補助を行います。
表示には近接表示と遠方表示があります。

電子インナーミラーの各部の名称とはたらき

モニター / ミラー並立タイプ



全画面モニタータイプ



メニューボタン
設定画面を選択できます。
・輝度調整
・言語設定
・ボタン照明
・ガイド線表示
・ガイド線上下調整
・ガイド線左右調整
・ガイド線回転調整

設定変更ボタン 1・2
設定画面で設定を切り替えることができます。

表示切替ボタン（全画面モニタータイプ）
ディスプレイモードのとき、遠方表示と近接表示を切り替えることができます。

レバー（全画面モニタータイプ）
ミラーモードとディスプレイモード（遠方表示・近接表示）を切り替えることができます。

電子インナーミラーの視覚情報

知　識

・モニター / ミラー並立タイプの電子インナーミラーは近接表示のみに対応しています。

近接表示
近接表示に設定すると、車両後方の足元から上方まで広い範囲がミラーに表示されます。車両後方の状況を全体的に把握する時に使います。

遠方表示
遠方表示に設定すると、近接表示の映像の中央部分がミラーに表示されます。車両後方の状況を部分的に把握する時に使います。

電子インナーミラーの使用上のご注意

確認事項

- エンジンを止めている状態で長時間使用する場合は、バッテリーが過放電される場合がありますので、必ずエンジンをかけたまま使用してください。
- 運転者による走行中の操作や画面の注視は、前方不注意による事故やけがの原因となります。必ず安全な場所に車を停車させてから操作してください。
- 磁性のあるものを電子インナーミラーの周囲に設置しないでください。誤動作の原因となります。
- 障害物の距離が実際の距離と比べて詰まって映りますのでご注意ください。
- 雨、霧、雪などの悪天候時は、電子インナーミラーでの視界情報を確認できないことがあります。
- 夜間や暗い場所では電子インナーミラーの映像がまぶしいときがあります。モニターに設置されたスイッチで映像を調整してご使用ください。

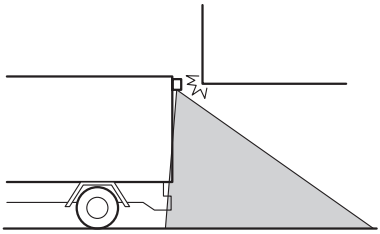
参照ページ
2-57 輝度調整

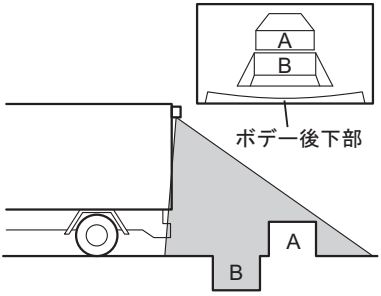
⚠ 警 告

- **運行前には、必ずミラー本体やディスプレイで後方が十分に確認できるように調整をしてください。**
- **電子インナーミラーだけを見ながら運転しないでください。本装置は、障害物などの確認のための補助装置であり、映し出す範囲には限界があります。必ず目視による安全確認をしながら移動してください。カメラの死角になっている人や物にぶつかるおそれがあり、事故の原因となります。**
- **安全のため、運転中はメニュー操作を行わないでください。**
- **ゆっくりした速度で運転してください。本装置の映像は広角レンズを使用しています。実際の距離と感覚が異なるので、速度を上げての移動は人や物にぶつかるおそれがあり、事故の原因となります。**
- **本機を分解したり、改造しないでください。また、煙草等の火の元となるようなものを、電子インナーミラー、カメラおよびハーネスの傍に置いたり近づけたりしないでください。事故や火災、感電の原因となります。**
- **画面背面にある照度センサの前に障害物を置かないでください。画面の明るさに異常をきたす場合があります。**
- **画面部が映らないなどの故障状態で使用しないでください。事故や火災、感電の原因となります。速やかに最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。また、ミラーモードにして車両を移動させてください（全画面モニタータイプ）。**

⚠ 注 意

- 電子インナーミラーに映し出される映像の範囲は限られていますので、死角に注意してください。バックアイカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 電子インナーミラーでは、立体感が得られないので、凹凸のある部分への接近時は、注意してください。





- 急に明るさが変化する場所に移動すると、数秒間何も映らなくなる場合があるので注意してください。

知 識

- 太陽光や強い光が直接、電子インナーミラーやカメラにあたり、映像が視認しづらい場合はモニター / ミラー並立タイプは通常のルームミラーとして、全画面モニタータイプはミラーモードでお使いください。

電子インナーミラーの取扱い上のご注意

液晶画面について

- 非常に寒いとき、画面の動きが遅くなったり画面が暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。
- 非常に熱いとき、高温保護機能が働き画面が暗くなることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。
- 液晶パネルの中には、小さな黒点や輝点が出ることがありますが、液晶特有の現象で、故障ではありません。
- 液晶パネル部の表面は傷つきやすいので、硬い物でこすったり、たたいたりしないでください。
- 液晶パネル部に水滴などをつけた状態で放置しないでください。変色、シミの原因となります。また、水分が内部に浸入すると故障の原因となります。水滴などがついてしまった場合は、すぐ脱脂綿や柔らかい布などでふき取ってください。
- 夏期は車内温度が高くなることがありますので、車内の温度を下げてからお使いください。

カメラについて

- カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。
- カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷つき、映像に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラの周辺に直接水を当てないで下さい。強い水圧により衝撃が加わり、カメラの位置ずれや故障のおそれがあります。
- スチーム洗車機は、高温の蒸気が噴出するタイプがあるため、絶対に使用しないでください。

電子インナーミラーの作動

電子インナーミラーは、スタータースイッチを『ON』位置にすると作動します。車の仕様によって電子インナーミラーには次のように映ります。

モニター / ミラー並立タイプ

走行状態	電子インナーミラーの作動
後退時以外	通常のルームミラーとして作動します。ディスプレイ部に映像は映りません。
後退時	ディスプレイ部に車両後方の映像が映ります。ミラーはディスプレイ部を除いて、通常のルームミラーとして作動します。

知　識

- ガイド線が表示設定されていない場合は表示されません。ガイド線は車幅等を目安として設定します。駐車時のガイドとして利用できます。

参照ページ
2-57 電子インナーミラーの設定

全画面モニタータイプ

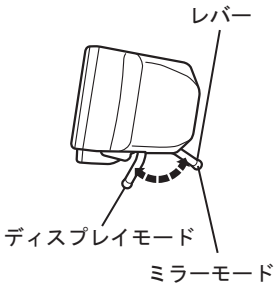
走行状態	電子インナーミラーの作動
後退時以外	ミラーモードまたはディスプレイモードで作動します。レバーを操作してモードを切り替えるとディスプレイ / ミラーに映るものが変わります。
後退時	ディスプレイモードで作動します。ディスプレイ / ミラーに車両後方の映像が映ります。

参照ページ
2-56 電子インナーミラーのモードの切り替え（全画面モニタータイプ）

電子インナーミラーの角度調整について

電子インナーミラー本体を持ち、運転姿勢に合わせてミラーを調整します。

電子インナーミラーのモードの切り替え（全画面モニタータイプ）



スタータースイッチが『ON』位置のとき、レバーを操作すると、ミラーモードとディスプレイモードを切り替えられます。

ミラーモード
ミラーモードに設定すると通常のルームミラーと同じように映ります。

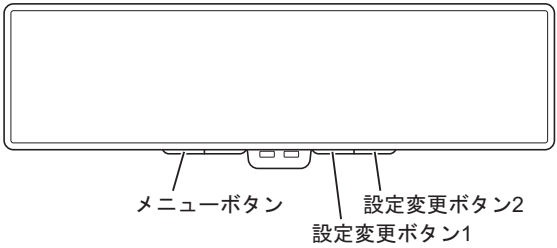
ディスプレイモード
スタータースイッチが『ON』位置のとき、シフトレバーを『R』位置に操作するとディスプレイモードの近接表示に切り替わり、ガイド線とメッセージを表示します。表示切り替えボタンで遠方表示と近接表示を切り替えることができます。

知　識

- ガイド線が表示設定されていない場合は表示されません。
- シフトレバーが『R』位置以外のとき、ガイド線は表示されません。

ガイド線
ガイド線は車幅等を目安として設定します。駐車時のガイドとして利用できます。

電子インナーミラーの設定



メニューボタンを押すと設定画面になり、ボタンを押すごとに画面が切り替わります。設定画面を一巡すると、元の画面に戻ります。またモニター / ミラー並立タイプはボタンを 5 秒間押さなかったときも元の画面に戻ります。

輝度調整
画面の明るさを調整します。

言語設定
表示されるメッセージの言語を設定します。

ボタン照明
ボタンの照明の ON/OFF を設定します。

ガイド線表示
ガイド線表示の ON/OFF を設定します。

ガイド線上下調整
ガイド線の上下位置を調整します。

ガイド線左右調整
ガイド線の左右位置を調整します。

ガイド線回転調整
ガイド線の位置を回転調整します。

メニューボタン	設定変更ボタン 1	設定変更ボタン 2
輝度調整	画面が暗くなります。	画面が明るくなります。
言語設定	言語を選びます。	
ボタン照明	『OFF』になります。	『ON』になります。
ガイド線表示	『OFF』になります。	『ON』になります。
ガイド線上下調整	位置が下がります。	位置が上がります。
ガイド線左右調整	位置が左寄りになります。	位置が右寄りになります。
ガイド線回転調整	位置が左回転します。	位置が右回転します。

知　識

- シフトレバーが『R』の位置にあるとき、ガイド線の設定はできません。
- 各設定を『±0』にすると初期値となります。

【全画面モニタータイプ】

- 遠方表示のとき、ガイドの設定はできません。ミラーモード、近接表示にしてください。

電子インナーミラーのお手入れ

キャビネットの手入れ

柔らかい乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を柔らかい布につけて軽くふきとり、乾いた布で仕上げてください。

⚠ 注　意

- **自動車用クリーナーなどは、変質したり、塗料がはげる原因となりますので使わないでください。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミがつくことがあります。**

液晶表示部の手入れ

ホコリがつきやすいので、ときどき、柔らかい布でふいてください。

⚠ 注　意

- **ベンジンやシンナーなどの溶剤で液晶パネル部を清掃しないでください。**

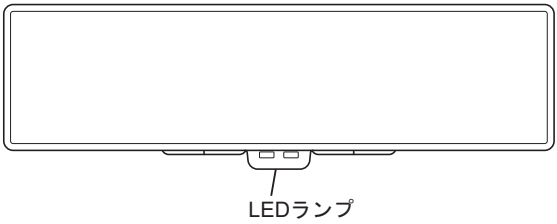
カメラの手入れ

カメラのレンズに水滴、雪、泥などが付着したときは、水を含ませた柔らかい布などで軽くふいてください。

⚠ 注 意

- **乾いた布で強くこすると傷の原因になります。**
- **ベンジンやシンナーなどの溶剤やアルコール類、磨き粉が配合された洗剤などで清掃しないでください。**

電子インナーミラーの異常時



LED ランプが点灯した場合、カメラに異常があります。最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
また、異常の種類によっては、異常時に LED ランプが点灯しないこともあります。
LED ランプが点灯しない場合でも、異常があると感じたときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

- モードの切り替え時などに一時的に LED ランプが点灯することがありますが、異常ではありません。

現象	原因	処置
LED ランプが点灯	カメラに異常がある	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
	電子インナーミラーの温度が高い、またはシステム異常が発生している	車室内の温度を下げてください。
		ミラーの温度が下がっても警告 LED が消えない場合は《日産販売会社》にご連絡ください。またミラーモードに切り替えてください（全画面モニタータイプ）。
ディスプレイモードに設定できない / シフトレバーを『R』位置にしても映像が表示されない	システム異常が発生している	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
ユーザー設定が反映されない		
輝度・表示調整ができない	ボタンが故障している	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
	ボタンが意図せず常時押された状態にある	

現象	原因	処置
モード切替ができない（全画面モニタータイプ）	レバー操作ができない	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
表示画面の応答速度が遅い	電子インナーミラーの温度が低い	車室内の温度を上げてください。

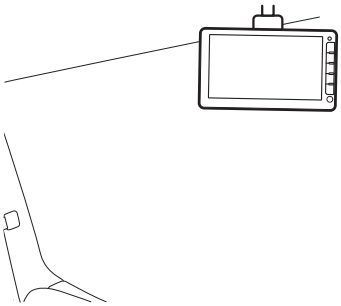
故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、修理を依頼する前に、もう一度次の点をお調べください。

現象	原因	処置
表示される映像が見にくい	ミラーの表面が汚れている	柔らかい布でふき取ってください。
	強い光が電子インナーミラーまたはカメラに当たっている	周辺環境が改善されるのを待ちます。また、ミラーモードに切り替えて周辺環境が改善されてから、ディスプレイモードをご使用ください（全画面モニタータイプ）。
	夜間など暗いところにいる	
	強い電波やノイズが発生しているところにいる	
	カメラ付近の温度が高すぎる、または低すぎる	
	外気温が低すぎる	
	排気ガスが映り込んでいる	
	カメラのレンズが汚れている	ミラーモードに切り替えてください（全画面モニタータイプ）。
		カメラレンズを柔らかい布でふき取ってください。
表示される映像が見えない	荷台のあおりが下がっている	荷台のあおりを閉めてください。
表示される映像がずれている	カメラ位置が強い衝撃などによりずれている	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。また、ミラーモードに切り替えて使用してください（全画面モニタータイプ）。
映像が表示されない	カメラの配線が正しく接続されていない	メインの配線、カメラ中継テーブルの配線を確認してください。
	カメラの受信方式が正しく設定されていない	接続されているカメラの受信方式（NTSC）が正しく設定されているか確認してください。
電源が入らない	電源の配線が正しく接続されていない	電源ケーブルの配線を確認してください。
	ヒューズが切れている	同じ容量のヒューズと交換してください。 ヒューズラベルで「セーフティモニター」と記載のあるヒューズが交換対象のヒューズです。

参照ページ
11-39 ヒューズとリレーの位置

バックアイモニター★

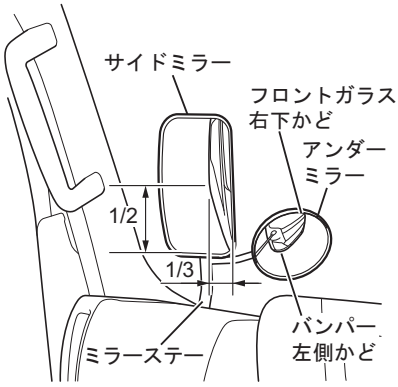


バックアイモニターは視界補助装置です。車両後方の視覚情報をキャブ内のモニターに映し出し、ドライバーが見づらい視界を提供することにより、運転操作の補助を行います。

知　識

・取扱いの詳細については、お車の仕様に応じて別添の「バックアイモニター取扱説明書」をご覧ください。

サイドミラー / アンダーミラー



正しい運転姿勢がとれるようにシートを調整し、車両の後方や側面および直前、直左の状況が十分に確認できるようミラー本体を調整します。

手動格納仕様★

・バックミラーを手で車両前方へ動かすと手動で格納できます。
・戻すときはステーがロックされる位置まで動かします。

電動格納仕様★

参照ページ
2-65 電動格納ミラースイッチ★

サイドミラー

左右方向を鏡の約 1/3 に車体側面が映るようにし、上下方向は左ドアの窓の後部下側のかどが鏡の 1/2 の高さに映るようにします。

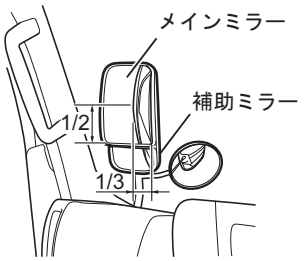
アンダーミラー

標準キャブ車

バンパー左側かどが中央部に映り、上縁にフロントガラス右下かどが映るようにします。

ハイキャブ・ワイドキャブ車
バンパー左側かどが中央部よりやや下に映るようにします。

ワイドビューミラー★



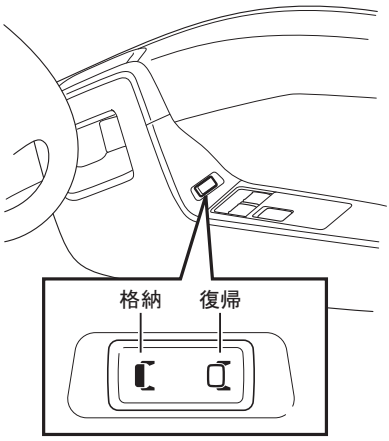
ワイドビューミラーの調整はメインミラーで行います。メインミラーの左右方向を鏡の約 1/3 に車体側面が映るようにし、上下方向は左ドアの窓の後部下側のかどが鏡の 1/2 の高さに映るようにします。

知　識

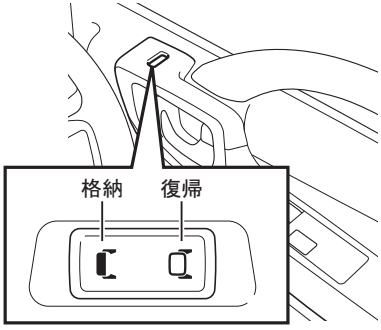
- ワイドビューミラーは、助手席側の視界を拡大したサイドミラーです。メインミラー上側では、よりななめ上側の位置まで、補助ミラーでは助手席下方および車両側方を広範囲に確認できます。
- 通常のサイドミラーとは物の映り方が異なります。メインミラー上側および補助ミラーでは、物が実際よりも遠くあるように映り、メインミラー下側では物が大きく映ります。
- 同じ物がメインミラーと補助ミラーの両方に同時に映ることがあります。

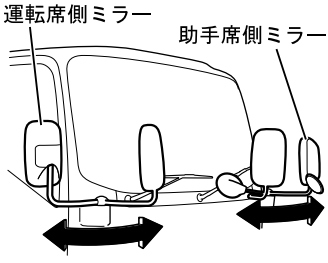
電動格納ミラースイッチ★

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車





助手席側および運転席側ミラーが内側に格納されます。スイッチのイラストに従い、格納または復帰操作を行ってください。

注　意

- **ミラーを格納したまま走行しないでください。ミラーで後方視界を確認できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **操作中、ミラーに手やものを挟まないように注意してください。けがや故障につながります。**
- **ミラー作動中に障害物に当たったりすると、その位置で停止することがあります。このような場合、障害物を取り除いてからスイッチを押し直してください。**

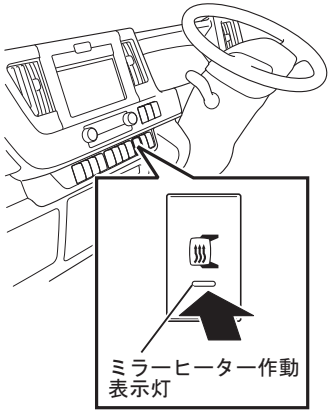
アドバイス

- ミラーを倒すとき、必要以上に強い力をかけないでください。
- 電動格納ミラーは手動でも操作できますが誤操作防止のため、電動で操作してください。
- 手動で操作したとき、ミラーのステー部分が元の位置でロックされない場合は、ミラー格納スイッチを使って元の位置に戻してください。

知　識

- 電動格納ミラーはスタータースイッチが『ACC』または『ON』位置のとき使用可能となります。

ミラーヒータースイッチ★



ミラーが曇ったときにミラーの表面を温めて、曇りを取ります。スタータースイッチが『ON』位置でミラーヒータースイッチを押すと作動し、ミラーヒーター作動表示灯が橙色に点灯します。もう一度スイッチを押すと『OFF』になり、作動表示灯が消灯します。

アドバイス

- エンジン停止中に使用しないでください。消費電力が大きいのでバッテリー上がりを起こす原因になります。
- 曇りが取れたらすぐスイッチを『OFF』にしてください。

ウインドー

パワーウインドー

スタータースイッチが『ON』位置のときに、スイッチ操作（押す：開ける、引く：閉じる）でウインドーガラスの開閉を行うことができます。

警　告

- **ウインドーガラスを閉めるときは、手や首などをはさみ込まないように注意してください。万一、ウインドーガラスにはさまれると重大な傷害につながるおそれがあります。特に、お子様には注意してください。**

アドバイス

- ウインドーガラスをつかんでドアを開閉するなど、強い力や体重をかけないでください。ガラスやドア内部品が破損するおそれがあります。
- 雨天時にウインドーガラスを開けたままにすると、スイッチに水がかかり故障するおそれがあります。雨天時はガラスを閉めてください。

運転席から操作するとき

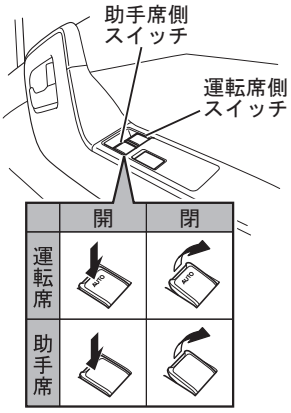
アドバイス

- 以下の操作をすると保護回路が作動しガラスが動かなくなることがありますが、少し時間をおくと再びガラスの操作ができるようになります。
  - 繰り返しウインドーガラスの開閉を行う
  - ガラスが全開または全閉したあともスイッチを操作し続ける

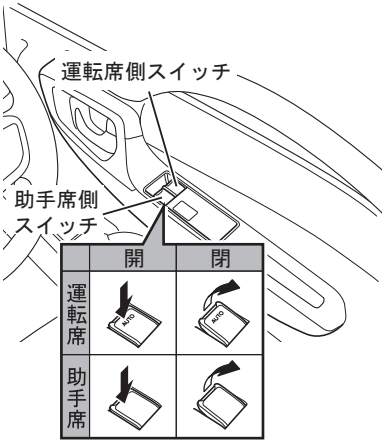
知　識

- 寒冷時、一時的にオートモードでウインドーガラスが開閉できないことがあります。このようなときは、マニュアルモードで開閉を行ってください。

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



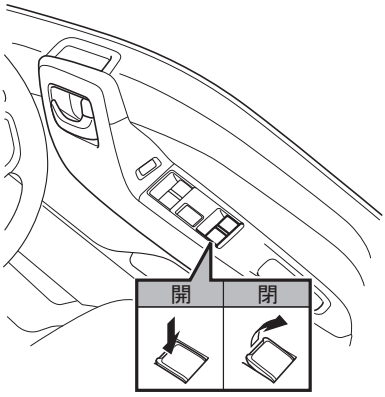
運転席ウインドーガラスを開けるとき
スイッチを軽く押すと、押している間ウインドーガラスが下降します（マニュアルモード）。強く押すと、指を離しても自動的に全開の位置までウインドーガラスが下降します（オートモード）。途中で止めたいときには、スイッチを軽く引き上げてください。

運転席ウインドーガラスを閉めるとき
スイッチを軽く引くと、引いている間ウインドーガラスが上昇します（マニュアルモード）。強く引くと、指を離しても自動的に全閉の位置までウインドーガラスが上昇します（オートモード）。途中で止めたいときには、スイッチを軽く押します。

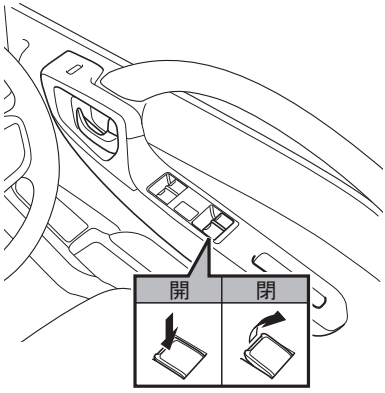
助手席ウインドーガラスを開けるとき
スイッチを押している間ウインドーガラスが開きます。

助手席ウインドーガラスを閉めるとき
スイッチを引いている間ウインドーガラスが閉まります。

標準キャブ（ダブルキャブ）車



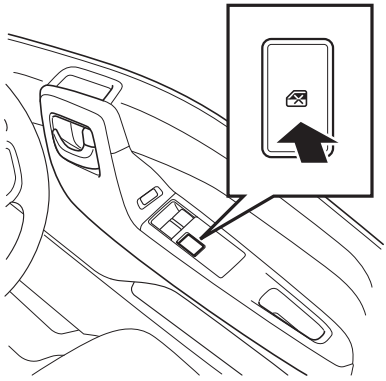
ハイキャブ・ワイドキャブ（ダブルキャブ）車



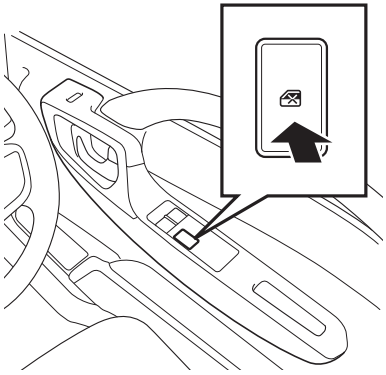
後席ウインドーガラスを開けるとき
スイッチの下側を押している間ウインドーガラスが開きます。

後席ウインドーガラスを閉めるとき
スイッチの上側を押している間ウインドーガラスが閉まります。

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車





後席・助手席パワーウインドーをロックするとき

パワーウインドーロックスイッチを押すと、後席および助手席側ウインドースイッチの開閉操作ができなくなります。もう一度押すと解除されます。

⚠ 注 意

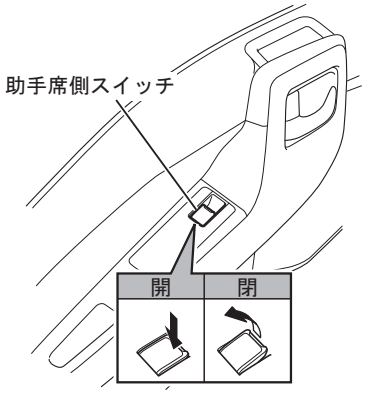
- お子様が同乗するときはパワーウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。お子様の誤操作による事故を未然に防ぐことができます。

助手席・後席から操作するとき

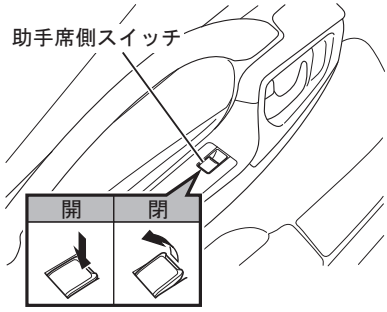
⚠ 注 意

- ウインドーガラスを開閉するときは、お子様などの身体をはさみ込んだり、巻き込まないよう十分注意してください。

標準キャブ車（助手席側）

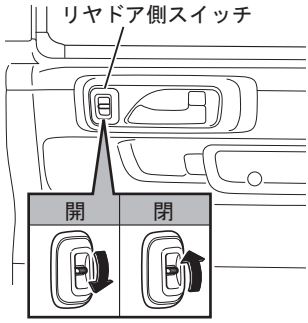


ハイキャブ・ワイドキャブ車
（助手席側）

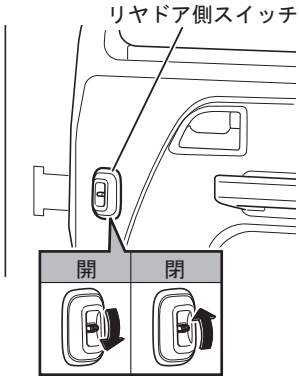


助手席側ウインドーガラスを操作するとき
スイッチを押している間ウインドーガラスが下降し、スイッチを引いている間ウインドーガラスが上昇します。また、途中で止めたいときは、スイッチから指を離してください。

標準キャブ車（後席側）

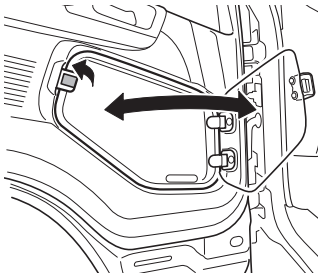


ハイキャブ・ワイドキャブ車（後席側）



後席側ウインドーガラスを操作するとき
スイッチを下げている間ウインドーガラスが下降し、スイッチを上げている間ウインドーガラスが上昇します。また、途中で止めたいときは、スイッチから指を離してください。

OK ウインドー★



OK ウインドーの内側が曇ったり汚れたとき、レバーを引いて開けて清掃することができます。
閉めるときは『カチッ』と音がするまで確実に閉めます。

⚠ 注 意

- **OK ウインドーを開けたままで助手席側ウインドーを開閉しないでください。万一、窓ガラスに手や足などをはさまれるとケガをします。**
- **OK ウインドーに視界を妨げるようなフィルムや紙を貼ったり、ウインドー内や付近に物を置かないようにしてください。安全確認ができなくなり危険です。**
- **OK ウインドーに手を掛けて乗降しないでください。OK ウインドーが破損した場合ケガをするおそれがあります。**

アドバイス

- OK ウインドーを開けたままドアの開閉をしないでください。破損するおそれがあります。

知 識

- 構造上、OK ウインドー内に水が入る場合があります。

燃料給油口

指定された燃料を使用してください

注 意

- 超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の燃料を使用するとエンジンや排気ガス浄化装置（DPD、尿素 SCR）に悪影響をおよぼし、故障の原因となるおそれがあります。万一誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。誤った燃料を入れたままエンジンを始動すると火災やエンジン損傷の原因になり危険です。
- DPD 装着車に超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の軽油を使用した場合、道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれがあります。
- フューエルキャップはゆっくりと開けてください。急に開けると燃料が噴き出るおそれがあります。

アドバイス

- 燃料は必ず超低硫黄軽油または低硫黄軽油をご使用ください。
  粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用するとフューエルフィルターおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジン各部に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。



知 識

- 軽油は季節および地域によって仕様が異なります。

参照ページ
4-39 寒冷地や冬季の油脂液類の取り扱い

セルフ式ガソリンスタンドを利用するときは

⚠ 警 告

【燃料補給時に必ず守ること】

- エンジンを必ず止め、車のドアや窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど火気を近づけないでください。
- フューエルキャップを開ける前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。
- 給油中にノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず燃料がこぼれる場合があり危険です。給油はノズルを確実に挿入してください。
- フューエルキャップを開ける操作から給油が完了しフューエルキャップを閉めるまでの作業は、必ずひとりで行ってください。給油作業中の人以外は、帯電しているおそれがあるため、給油口に近づけないでください。また、給油の作業を行う人は、給油中に再び車内のシートに戻らないでください。再帯電するおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項は必ず守ってください。

⚠ 注 意

【燃料給油時の注意】

- 給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください。

参照ページ
2-76 燃料補給のしかた

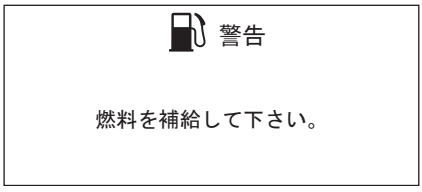
燃料補給のタイミング

フューエルメーター（燃料計）、燃料補給警告で燃料残量を確認し、適切なタイミングで燃料を補給してください。

フューエルメーター（燃料計）

参照ページ
3-5 フューエルメーター（燃料計）

燃料補給警告



エンジン回転中、燃料タンク内の残量が少なくなるとメーターディスプレイに表示されます。

アドバイス

- 「燃料を補給して下さい。」がメーターディスプレイに表示された場合は、早めに燃料を補給してください。
- 燃料切れを起こすとエア抜き作業が必要になります。

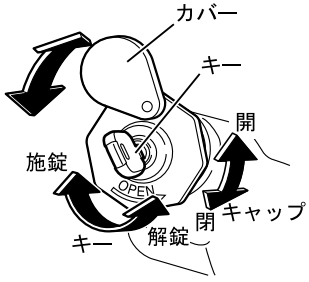
参照ページ
3-5 フューエルメーター（燃料計）
11-10 燃料切れしたとき

燃料補給のしかた

警 告

- **エンジン回転中の燃料給油は火災の原因になるおそれがありますので、必ずスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にし、エンジンを停止させて行ってください。**
- **燃料給油中は火気厳禁です。火災の原因となるタバコの火などを近づけないでください。**
- **フューエルキャップは純正品以外使用しないでください。**

参照ページ
2-74 指定された燃料を使用してください
2-75 セルフ式ガソリンスタンドを利用するときは

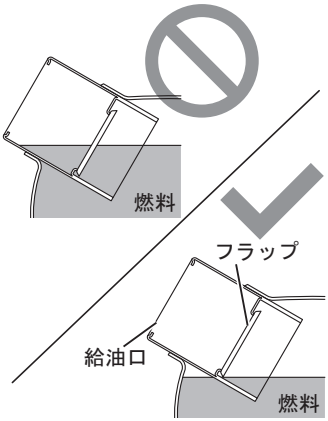


1. フューエルキャップを開ける前に身体の静電気を除去します。
2. カバーを開け、キーを確実に差し込んで回し解錠します。
3. フューエルキャップをゆっくり回して開けます。

4. 燃料を補給します。

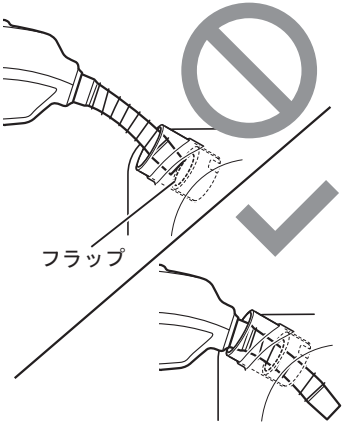
警 告

- **予期せぬ燃料漏れを防ぐため、フラップを超えた給油は行わないでください。オートストップ作動後の継ぎ足し給油は、燃料がフラップを超える原因になります。**



知 識

- 給油口にはフラップが付いています。給油時は、フラップにノズルを押し込んで、確実に挿入してください。



5. フューエルキャップを回し確実に燃料タンクに取り付けてください。

6. キーを回し、フューエルキャップを施錠します。

7. キーを抜いてカバーをし、フューエルキャップが確実に閉まっていることを確認してください。

⚠ 警 告

- **フューエルキャップが確実に閉まっていないと走行中に燃料が漏れ火災になるおそれがあります。**

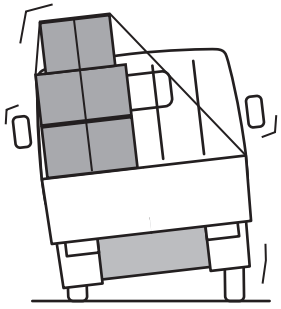
アドバイス

- フューエルキャップを開閉するときは、必ずフューエルキャップ本体を持って回してください。キーを持ってフューエルキャップを回すとキーを破損するおそれがあります。
- キーを抜いた後、キーに付いている汚れやゴミなどをふき取ってください。

荷台★

積み降ろしをするには

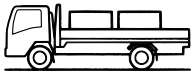
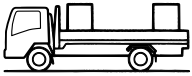
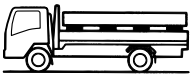
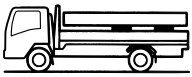
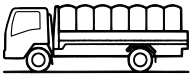
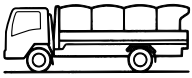
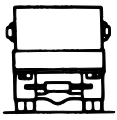
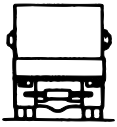
荷物は正しく積みましょう



⚠ 注 意

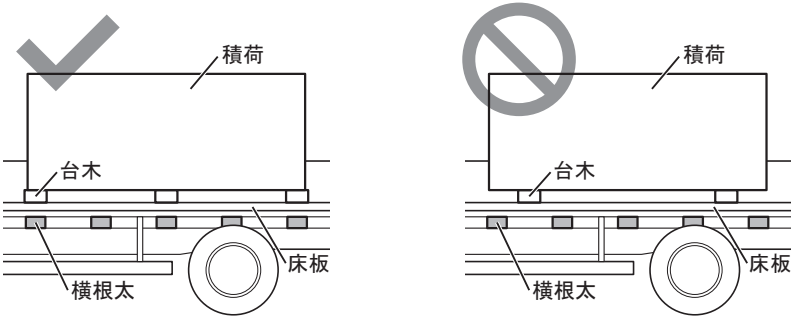
- **積み過ぎや、片寄った積みかたは大変危険です。決められた最大積載量を守り、正しい積みかたをしてください。**
- **誤った積みかたは、積荷が不安定となるばかりでなく、集中的に荷重がかかり、荷台やフレームを傷めるおそれがあります。**
- **過積載は法律で禁じられているだけでなく車の各部に無理な力がかかり、車の寿命を縮めたり事故の原因になります。**

積載の仕方

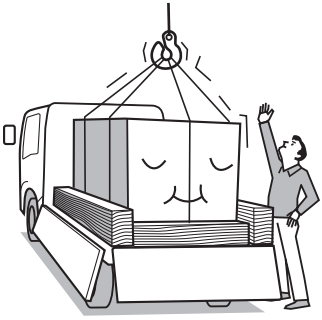
積荷の注意	良い例	悪い例
積荷は、前後へ片寄らせないで均等に積んでください。		
積荷の下にウマを用いるときは、ウマの位置を均等に配置してください。		
長尺物は極力荷台後端より出さず、ウマを利用してください。また鳥居と荷台後端部の 2 点支持するのは避けてください。		
荷物が落ちないようにロープがけ、シートや幌がけを確実にし、風でシートや幌がばたつかないようゴムなどでしっかり取り付けてください。また、エアインテークダクト（空気取り入れ口）を塞がないように固定してください。		
高荷をすると、横風を受けたときや旋回時などに車両横転のおそれがあるので避けてください。		

アドバイス

- 積荷の下に台木を用いるときは、横根太の上にくるよう台木を置いてください。横根太の無いところに台木を置くと、床板が破損するおそれがあります。



重量物を積むときは



注 意

- 積荷が重量物の場合、荷動きのないように滑り止めをし、ワイヤーなどで確実に固定してください。

農耕機などを積み込むときは



注 意

- 荷台の後方から農耕機などを積み込むとフレームが変形するおそれがあります。また、積み込もうとする農耕機の重さが最大積載量以下の場合でも、フレームが変形するおそれがあります。

知 識

- 農耕機などの積み込みには、荷台を固定する装置が必要になります。ローダー車等の車載専用車をご使用いただくか、後部スタンドを追加装着してください。不明な点は《日産販売会社》にお問い合わせください。

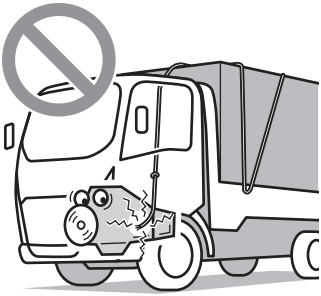
必要以上の力で荷物を固定しないで



アドバイス

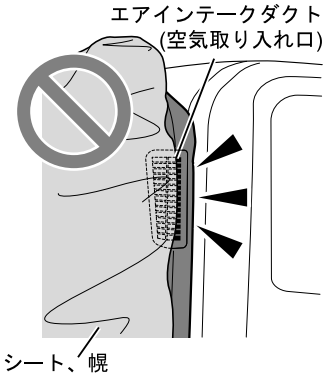
- 荷物を落とさないために、幌やロープをしっかりと、確実にかけてください。しかし、必要以上に固定することは、荷台のあおりや、鳥居立ての損傷、破損を招きます。

シートや幌は正しく固定していますか



警 告

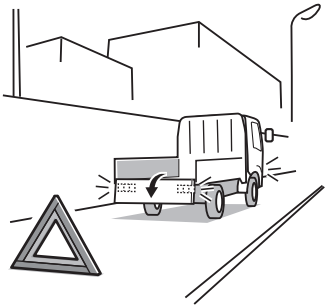
- シートや幌、ロープやゴムの端が、エンジン、尿素 SCR、DPD や排気管にかからないように注意してください。走行中エンジンの熱により、火災を起こすおそれがあります。シートや幌、ロープやゴムの末端の処理をしっかりと行ってください。

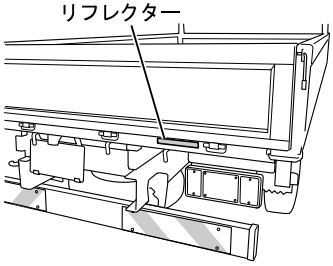


アドバイス

- シートや幌は、エアインテークダクト（空気取り入れ口）を塞がないようゴムなどでしっかり固定してください。エアインテークダクト（空気取り入れ口）が塞がれると、空気を取り入れられなかったり、雨天時にシートや幌をつたって多量の雨水が入ることにより、出力不足などのエンジン不調の原因になります。

荷物の積み降ろしをするときは



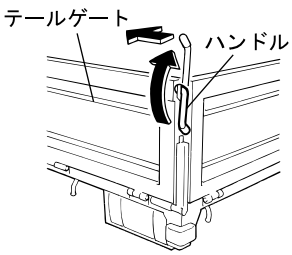


⚠ 注 意

- 公道上で荷役作業を行うときに架装物（荷台あおり等）でテールランプ、ストップランプ、ハザードランプ、ターンシグナルランプが隠れてしまう場合は、必ず停止表示器材等を周囲から見やすい位置に設置して他の運転者や通行者に注意を促してください。
- 公道上で荷役作業を行うときは、荷物や幌、シートなどでリフレクターを覆わないようにしてください。他の車などからの視認性が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 公道上で荷役作業を行うときは、駐停車が許されている場所で、かつほかの運転者や通行者に迷惑をかけない安全な場所を選んでください。

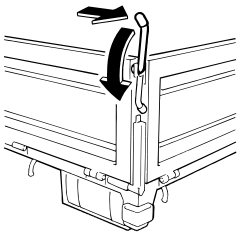
木製平荷台

後部あおり（テールゲート）の開けかた



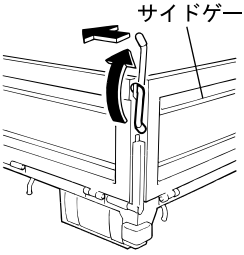
左右のハンドルを上に回してから内側へ押すとロックが解除され、あおりは開きます。

後部あおり（テールゲート）の閉じかた

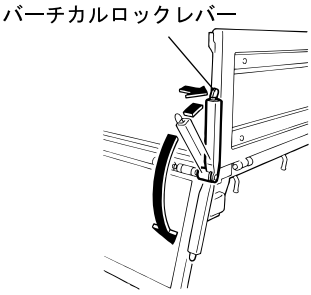


あおりを閉じ、ハンドルを外側に引き下へまわしてロックします。

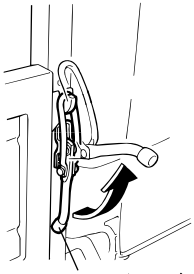
左右あおり（サイドゲート）の開けかた



1. 後部あおりを開きます。

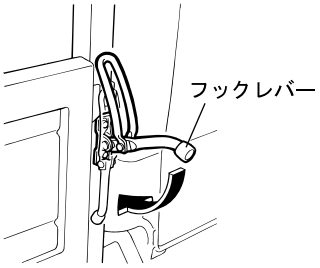


2. バーチカルロックレバーを外側へ押してバーチカルロックを解除し、下に倒します。



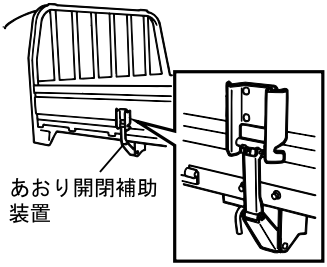
3. 左右あおりにあるキャブ側のフックレバーのロックを解除します。

左右あおり（サイドゲート）の閉じかた



開くときと逆の手順で行います。

あおり開閉補助装置

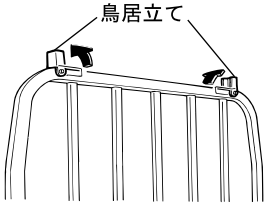


左右あおりの開閉操作力を軽減させる装置です。

⚠ 警 告

- **あおり開閉補助装置はあおりを一時的に固定させるための装置ではありません。途中位置で停止したあおりに手をつくことは危険ですのでやめてください。**

鳥居立て



鳥居の上に荷物を固定するときに荷物の横ズレを起こさないために使用します。

⚠ 注 意

- **鳥居に荷物を固定するときに必要以上の力をかけないでください。**

鳥居立てを引き起こしてください。

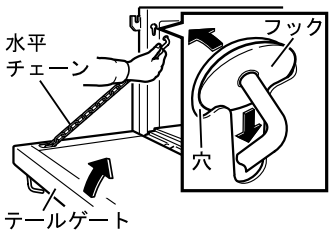
水平チェーン

長尺荷物を後ろに突き出して走行する場合に使用します。

⚠ 注 意

- **後部あおりを水平にしての荷物の積み降ろしはしないでください。**
- **積荷は移動の無いように確実に固定してください。**
- **後部あおりに荷物を載せて走行しないでください。**
- **車両全長の 1 割を超えて突き出して輸送する場合には、道路交通法に基づき、必要な手続きと表示を行ってください。**
- **後部あおりを閉めるときは、水平チェーンをはさみ込まないよう注意してください。**
- **水平チェーンを使用するときは必ず両側のチェーンを確実に取り付けて使用してください。**

木製平荷台

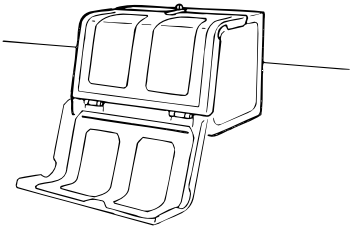


水平チェーン先端のフックを左右あおりの穴にかけます。

車外ツールボックス★

⚠ 注 意

- **走行中、ふたが開かないように確実に閉めてください。**

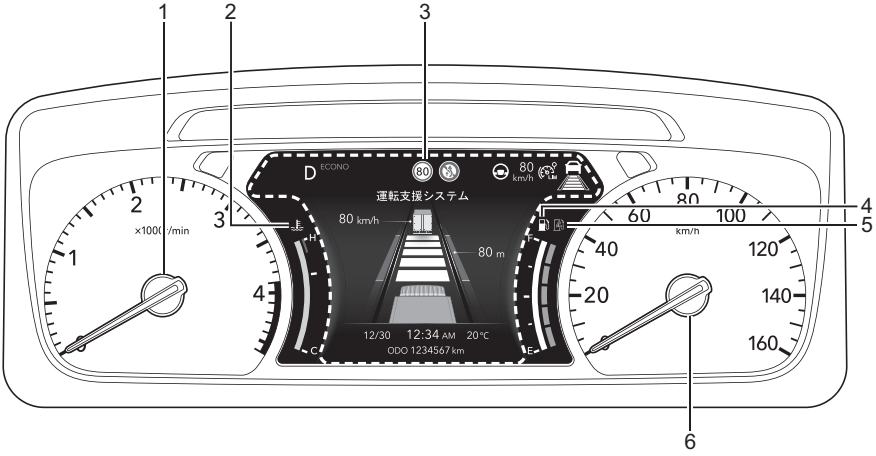


車両外側のシャシ中央または後方付近にあります。工具などを入れて使用してください。

メーターの見かた 3

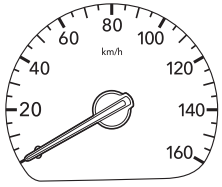
● メーター配置 3-2
● スピードメーター（速度計） 3-2
● タコメーター（エンジン回転計） 3-3
● 水温計（テンプメーター） 3-4
● フューエルメーター（燃料計） 3-5
● 尿素水量計 3-6
● 警告灯 / 表示灯一覧 3-7
● 警告灯 / 表示灯 3-34
● メーターディスプレイ 3-42

メーター配置



No.	名称	参照ページ
1	タコメーター（エンジン回転計）	3-3
2	水温計（テンプメーター）	3-4
3	メーターディスプレイ	3-42
4	フューエルメーター（燃料計）	3-5
5	尿素水量計	3-6
6	スピードメーター（速度計）	3-2

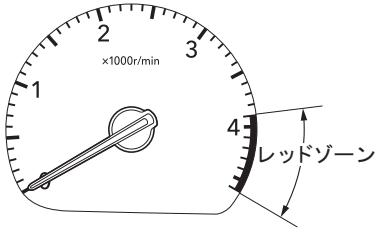
スピードメーター（速度計）



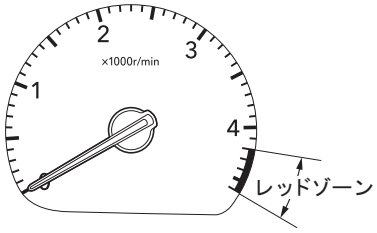
走行速度を km/h で示します。

タコメーター（エンジン回転計）

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



エンジンの毎分回転数を示します。（目盛りが 1 のところで 1,000 回転を示します。）赤色表示部（レッドゾーン）はエンジンの許容回転数を超えた危険回転域を示します。指針が赤色表示部に入らないように運転してください。

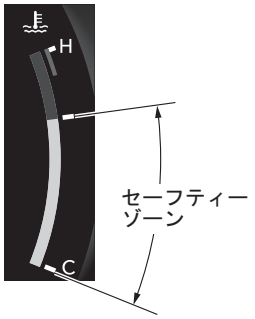
エンジン型式	レッドゾーン
4JZ1 型エンジン	3,900~4,600r/min
RZ4E 型エンジン	4,200~4,600r/min

アドバイス

- 4JZ1 型エンジン車は、急な坂道を下るときのシフトダウンは、特に注意してください。オーバーラン（限界回転数超過）は、エンジンを破損するおそれがあります。

参照ページ
4-15 登り坂・下り坂の走行
4-81 シフトレバー

水温計（テンプメーター）



スタータースイッチが『ON』位置のとき、エンジン冷却水の温度を示します。『C』は低温、『H』は高温を示し、エンジンがオーバーヒートするとメーターディスプレイに「オーバーヒート」が表示され、警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。運転中はセーフティーゾーンの範囲内を示すのが正常です。

アドバイス

- 運転中に指針がセーフティーゾーンを越え、『H』側にきたときはオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せてオーバーヒートの処置をとってください。
- 指針が『H』側に近づいてもセーフティーゾーンにあれば支障はありませんが、冷却水量をリザーブタンク部で確認してください。不足している場合は冷却水を補充してください。
  エンジンをすぐ止めると焼き付きの原因となります。オーバーヒートの処置をしてください。

参照ページ
11-17 オーバーヒートしたとき

オーバーヒート

安全な場所に停車して下さい。
アイドリング状態でエンジンを冷やしてください。

フューエルメーター（燃料計）



スタータースイッチが『ON』位置のとき燃料タンク内の燃料残量を示します。『F』は満量、『E』は空量を示します。
燃料の残量が少なくなったとき、メーターディスプレイに「燃料を補給して下さい。」が表示されます。

アドバイス

- 燃料切れをおこしたときは燃料系統のエア抜きが必要です。

警告

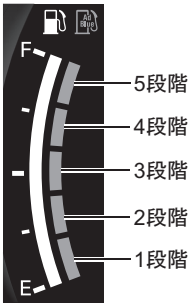
燃料を補給して下さい。

知　識

- 燃料補給は余裕をもって早めに行ってください。
- 燃料補給後、スタータースイッチを『ON』位置にしてから指示が安定するまで少し時間がかかります。
- スタータースイッチが『ON』位置でエンジンが停止しているときに給油を行った場合、フューエルメーター（燃料計）が正しい指示になるまで時間がかかる場合があります。この場合、いったんスタータースイッチを『LOCK』位置にし、再度スタータースイッチを『ON』位置にしてください。

参照ページ
2-74 燃料給油口
11-10 燃料切れしたとき

尿素水量計



尿素水タンク内の残量を示します。「F」は満水、「E」は空を示します。
尿素水（AdBlue® 相当）の残水量は、5 段階で表示します。

アドバイス

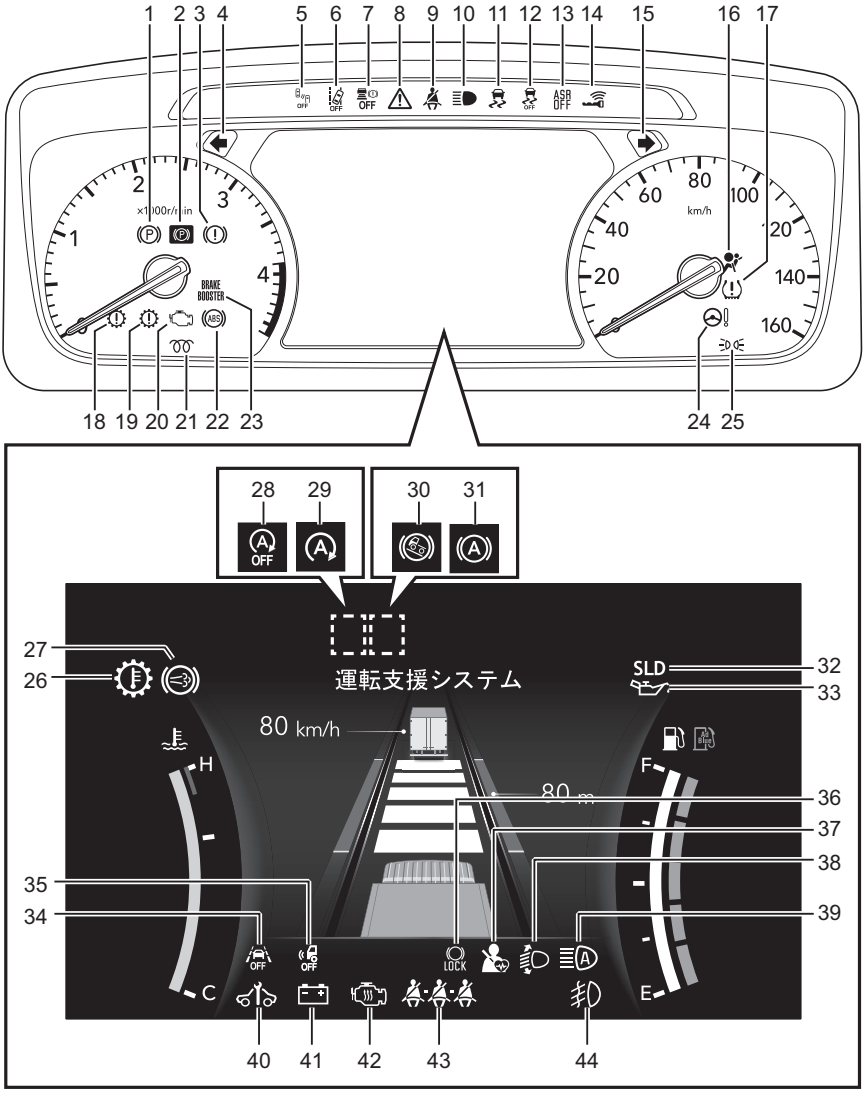
- 尿素水（AdBlue® 相当）切れを起こしたときは、エンジンの再始動ができなくなりますので、早めの補給を心がけてください。

尿素水タンク容量［参考値］	
尿素水タンク 14L タイプ	13L

参照ページ
4-198 尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
4-198 指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください
4-203 尿素水（AdBlue® 相当）の補給

警告灯 / 表示灯一覧

警告灯 / 表示灯



知　識

【初期点灯とは】

・スタータースイッチを『ON』位置にしたとき、各システムチェックを行うために点灯 / 点滅することです。しばらくして消灯、またはエンジン始動後に消灯すれば正常です。以下の表内で『●』が付いた警告灯 / 表示灯は初期点灯します。消灯後に点灯した場合、または消灯しない場合はシステムに異常があります。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

No.	警告灯 / 表示灯	点灯色	名称	初期点灯	参照ページ
1		橙	電動パーキングブレーキ警告灯★	●	4-78
2		赤	パーキングブレーキ警告灯	—	4-70 4-77
3		赤	ブレーキ警告灯	●	3-35
4		緑	ターンシグナル表示灯（左）	—	4-124
		緑	ハザード表示灯（左）	—	4-125
5		橙	BSM OFF 表示灯★	●	5-31
6		橙	LDWS OFF 表示灯	●	5-91
7		橙	PCB OFF 表示灯	●	5-17
8		橙	マスター警告灯	●	3-40
9		赤	シートベルト未装着警告灯	—	1-4

No.	警告灯 / 表示灯	点灯色	名称	初期点灯	参照ページ
10		青	ハイビーム表示灯	—	4-122
11		橙	VDC 警告灯	●	4-169
12		橙	VDC OFF 表示灯	●	4-169
13		橙	ASR OFF 表示灯	●	4-166
14		赤	インテリジェントキー警告灯★	●	2-19
15		緑	ターンシグナル表示灯（右）	—	4-124
		緑	ハザード表示灯（右）	—	4-125
16		赤	SRS エアバッグ警告灯	●	1-12
17		橙	タイヤ空気圧モニタリングシステム警告灯★	●	4-234
18		赤	デュアルクラッチ式 AMT 警告灯★	—	4-98
		赤	オートマチックトランスミッション警告灯★	—	4-115
19		橙	デュアルクラッチ式 AMT 警告灯★	●	4-98
		橙	オートマチックトランスミッション警告灯★	●	4-115

No.	警告灯 / 表示灯	点灯色	名称	初期点灯	参照ページ
20		橙	エンジン制御警告灯	●	3-39
21		橙	グロー（予熱）表示灯	—	4-49
22		橙	ABS 警告灯	●	4-162
23		赤	バキューム警告灯	●	3-35
24		橙	ステアリングシステム警告灯★	●	3-36
25		緑	ライト点灯表示灯	—	4-122
26		赤	オートマチックトランスミッション油温警告灯	●	4-115
27		白 / 緑 / 橙	排気ブレーキ表示灯	—	4-160
28		橙	ecostop OFF 表示灯★	—	4-56
29		緑	ecostop 表示灯★	—	4-56
30		緑	HSA 表示灯★	●	4-134
		橙	HSA 警告灯★	●	4-134

No.	警告灯 / 表示灯	点灯色	名称	初期点灯	参照ページ
31		緑	オートブレーキホールド表示灯★	●	4-147
		橙	オートブレーキホールド警告灯★	●	4-146
32		緑	SLD 表示灯	●	4-174
33		赤	油圧警告灯	●	3-36
34		橙	車線逸脱抑制機能 OFF 表示灯★	●	5-105
35		橙	フロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯★	—	5-32
36		赤 / 緑	作業用ブレーキロック表示灯★	●	4-209
37		橙	EDSS 警告灯★	●	5-137
38		橙	ヘッドランプオートレベリング警告灯★	●	4-126
39		緑	可変配光型ランプ表示灯★	—	5-147
		橙	可変配光型ランプ警告灯★	●	5-146
40		橙	SVS 警告灯	●	3-39
41		赤	充電警告灯	●	3-37

No.	警告灯 / 表示灯	点灯色	名称	初期点灯	参照ページ
42		橙	暖機システム作動表示灯	—	4-54 4-54
43		赤	シートベルト未装着警告灯（リヤ）★	—	1-5
44		緑	フォグランプ点灯表示灯★	—	4-125

メーターディスプレイ

警告・作動表示

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
DPD 自動再生中 DPD の自動再生を 行っています。	緑	DPD 自動再生中	DPD が自動再生を行っているとき	4-186
任意再生確認中 任意再生確認中です。 しばらくお待ち下さい。	橙	任意再生確認中	DPD の任意手動再生が可能か確認しているとき	4-187
DPD 手動再生中 再生が完了するまで 停車して下さい。	橙	DPD 手動再生中	DPD の手動再生を行っているとき	4-186
DPD 再生が必要です 安全な場所に停車して DPDの再生を行って下さい。	橙	DPD 再生が必要です	DPD の手動再生を行う必要があるとき	4-186
DPD 再生が必要です 安全な場所に停車して DPDの再生を行って下さい。 エンジンの始動ができなくなる 恐れがあります。	橙	DPD 再生が必要です	DPD の手動再生を行う必要があるとき	4-186
AdBlue 再始動禁止中 尿素水品質に異常があり エンジンの再始動が出来ません。 販売会社へご連絡下さい。	赤	再始動禁止中	尿素水（AdBlue® 相当）の品質に異常があり再始動を禁止しているとき	4-202
AdBlue 再始動禁止中 尿素水が空のためエンジンの 再始動が出来ません。 指定の尿素水を補給して下さい。	赤	再始動禁止中	尿素水（AdBlue® 相当）が空になり再始動を禁止しているとき	4-200

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
AdBlue 品質異常 尿素水品質が異常です。 販売会社へご連絡下さい。	赤	AdBlue® 品質異常	尿素水（AdBlue® 相当）の品質に異常があるとき	4-201
尿素水補給 指定の尿素水を補給して下さい。	橙	尿素水補給	尿素水（AdBlue® 相当）が少なく補給の必要があるとき	4-199
尿素水噴射システム異常 尿素噴射システムが異常です。 販売会社へご連絡下さい。	橙	尿素水噴射システム異常	尿素 SCR システムに異常があるとき	4-202
警告 燃料を補給して下さい。	橙	燃料補給	燃料残量が少なく補給が必要なとき	2-75
燃料フィルター 燃料フィルター内に水分および沈殿物が溜まりました。 水抜きを行って下さい。	赤	燃料フィルター	プレフューエルフィルターの水抜きが必要なとき	10-37
オーバーヒート 安全な場所に停車して下さい。 アイドリング状態でエンジンを冷やしてください。	赤	オーバーヒート	エンジンオーバーヒート時	11-17

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
i 手動パーキングブレーキ解除 ブレーキペダルを踏んで パーキングスイッチを 解除位置にして下さい。	橙	手動パーキングブレーキ解除（電動パーキングブレーキ）	ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチで解除しようとしたとき	4-79
i 車両ずり下がり検知 ブレーキペダルを踏んで下さい。	橙	車両ずり下がり検知（電動パーキングブレーキ）	パーキングブレーキの作動中に、車両が動き出したとき	
(Ⓟ) パーキングブレーキ自動作動 離席を検知したことにより パーキングブレーキが 作動しました。	赤	パーキングブレーキ自動作動（電動パーキングブレーキ）	離席連動によってパーキングブレーキが自動作動したとき	
(Ⓟ) パーキングブレーキ作動中 パーキングブレーキが 作動中です。	赤	パーキングブレーキ作動中（電動パーキングブレーキ）	走行中に電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき	
(Ⓟ) 電動パーキングブレーキ故障 電動パーキングブレーキシステム の異常を検知しました。 販売会社へご連絡下さい。	橙	電動パーキングブレーキ故障	電動パーキングブレーキシステムに故障が発生したとき	

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
離席注意 HSA作動中です。 離席する時には パーキングブレーキを 引いて下さい。	橙	離席注意（HSA）	HSA を効かせたまま、パーキングブレーキレバーを引かずにドアを開けたとき	4-135
HSA 長時間作動注意 HSAが長時間作動しています。 パーキングブレーキを 引いて下さい。	橙	HSA 長時間作動注意	HSA を効かせたままで停車したとき	
車両動き出し注意 パーキングブレーキを 引いて下さい。	橙	車両動き出し注意（HSA）	HSA を効かせたまま停車中に車が動きだしたとき	
HSA 異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	橙	HSA 異常	上記以外で HSA 警告灯やブザーが作動したとき	

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
(Ⓐ) 離席注意 AUTO HOLD作動中です。 離席する時には パーキングブレーキを 引いて下さい。	橙	離席注意（オートブレーキホールド）	オートブレーキホールドを効かせたまま、パーキングブレーキを効かせずにドアを開けたとき	4-148
(Ⓐ) 車両動き出し注意 パーキングブレーキを 引いて下さい。	橙	車両動き出し注意（オートブレーキホールド）	オートブレーキホールドを効かせたまま停車中に車が動きだしたとき	
ブレーキを踏んで下さい i	橙	ブレーキを踏んで下さい（オートブレーキホールド）	オートブレーキホールド作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを押したとき	
パーキングブレーキ作動 (P)	赤	パーキングブレーキ作動（オートブレーキホールド）	オートブレーキホールドが長時間の作動を継続したため、パーキングブレーキに持ち替えたとき	
(Ⓐ) ブレーキ保持システム異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	橙	ブレーキ保持システム異常（オートブレーキホールド）	上記以外でオートブレーキホールド警告灯やブザーが作動したとき	

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
(A) アイドリングストップ警報 ギヤをニュートラルにして クラッチペダルを踏んで下さい。	橙	アイドリングストップ警報（ecostop）	ecostop のエンジン自動停止中にギアイン操作をしたとき（マニュアルトランスミッション車）	4-57
(A) アイドリングストップ警報 キーを操作してエンジンを 始動して下さい。	橙		ecostop のエンジン自動停止中にキー操作などによりエンストしたとき	
(A) システム異常 アイドリングストップ システム異常です。 販売会社へご連絡下さい。	橙	システム異常（ecostop）	ecostop の異常を検出したとき	
(A) システム一時停止 バッテリー充電のため アイドリングストップ できません。	橙	システム一時停止（ecostop）	ecostop によるエンジンの自動停止が一時的にできないとき	
(A) システム一時停止 エアコン優先のため アイドリングストップ できません。	橙			
(A) システム一時停止 ブレーキ優先のため アイドリングストップ できません。	橙			
(A) システム一時停止 ハンドル操作のため アイドリングストップ できません。	橙			
(A) システム一時停止 アイドリングストップ できません。	橙			

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
(A) START エンジン再始動 エンジンを再始動しました。	白	エンジン再始動（ecostop）	エンジンが再始動したとき	4-57
(A) START エンジン再始動 バッテリー充電のため エンジンを再始動しました。	白			
(A) START エンジン再始動 エアコン優先のため エンジンを再始動しました。	白			
(A) START エンジン再始動 ハンドル操作のため エンジンを再始動しました。	白			
(A) START エンジン再始動 ドアが開いたため エンジンを再始動しました。	白		ecostop によるエンジン自動停止中に、運転席ドアを開けたとき	
(A) START エンジン再始動 シートベルト非装着のため エンジンを再始動しました。	白		ecostop によるエンジン自動停止中に、運転席シートベルトを外したとき	
(A) 運転アドバイス クラッチペダルを離すと アイドリングストップします。	白	運転アドバイス（ecostop）	ecostop によりエンジンが自動停止できるとき	
(A) 運転アドバイス ブレーキペダルを踏み込むと アイドリングストップします。	白			

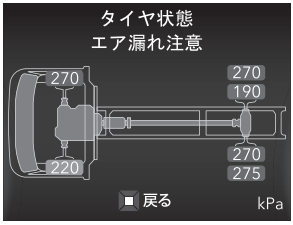
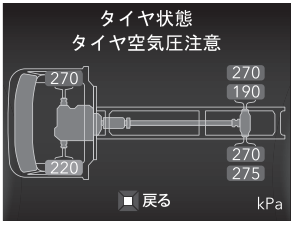
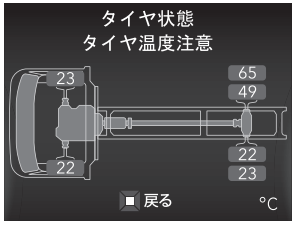
メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
PTO 作動準備中 PTOの作動を準備しています。	白	PTO 作動準備中（デュアルクラッチ式 AMT 車）	PTO に切り替えているとき	4-212
PTO 作動中 PTOが作動しています。	赤	PTO 作動中（デュアルクラッチ式 AMT 車）	PTO が作動中のとき	
PTO 解除中 PTOの作動を解除しています。	白	PTO 解除中（デュアルクラッチ式 AMT 車）	PTO 解除しているとき	
PTO 作動中 PTO作動中です。	赤	PTO 作動中（マニュアルトランスミッション車）	PTO が作動中のとき	4-212
警告 キャブがロックされていません。 ロックの確認をして下さい。	赤	キャブチルト	キャブチルトロックが車両にロックされていないとき	7-29
ドアロック不可 キーが車内にあります。	橙	ドアロック不可	リモコンキーを車内に置いたままドアを施錠しようとしたとき	2-21
ドアロック不可 スタータースイッチをLOCKにして下さい。	橙		スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、ドアを施錠しようとしたとき	2-22
ドアロック不可 ドアが開いています。	橙		運転席、または助手席のドアが半ドアのまま、ドアを施錠しようとしたとき	2-23

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
キー検知不可 キーが車内に見つかりません。	橙	キー検知不可	スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、リモコンキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき	2-22
キーを認証してください キーをスタータースイッチにかざしてください。	橙	キーを認証してください	リモコンキーの電池切れや周囲の電波状況により、キーが認識できず、スタータースイッチが『ON』にできないとき	2-23
キー照合完了 スタータースイッチをONにして下さい。	橙	キー照合完了	リモコンキーが認識でき、スタータースイッチが『ON』にできるようになったとき	
キー電池残量低下 キーの電池残量が低下しています。電池を交換して下さい。	橙	キー電池残量低下	リモコンキーの電池残量が少なくなったとき	2-24
キーシステム異常 キーシステムが異常です。販売会社へご連絡下さい。	橙	キーシステム異常	インテリジェントキーシステムに問題が起こっていて、正常に作動できないとき	2-24
通信システム異常 安全な場所に停車して下さい。販売会社へご連絡下さい。	橙	通信システム異常	メーターと周辺システムの通信異常時	3-40
システムチェック	赤 / 橙 / 緑	システムチェック	各装置のシステムチェック時	3-50

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
油圧異常 安全な場所に停車して下さい。 エンジンオイルの量を点検し 正常で漏れが無い場合は 販売会社へご連絡下さい。	赤	油圧異常	エンジンオイルの油圧が異常に下がったとき	3-37
警告 レベルゲージを使用してエンジン オイル量を点検して下さい。	橙	エンジンオイルレベル点検	エンジンオイル量が低下、または『点検用 MAX』位置を超えたとき	10-4
エアクリーナー点検 エアクリーナーの 清掃又は交換を行って下さい。	橙	エアクリーナー点検	清掃時期が近づいたとき	10-32
クラッチ滑り注意 長時間半クラッチを 使用しないで下さい。	橙	クラッチ滑り注意（マニュアルトランスミッション車）	半クラッチの状態が一定時間継続したとき	4-82
クラッチ滑り注意 クラッチペダルに足を乗せたまま 走行しないで下さい。	橙		クラッチペダルに足を乗せたまま走行したとき	4-82
シフトチェンジ注意 トランスミッションの故障に つながるシフトチェンジです。	橙	シフトチェンジ注意（マニュアルトランスミッション車）	走行速度に適していないギヤ段への変速操作が行われたとき	4-82

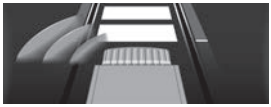
メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻すか シフトレバーを Pに戻して下さい。	橙	ミッション油温上昇（デュアルクラッチ式 AMT 車）	ブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けたとき	4-97
ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻し ブレーキを踏んで下さい。	橙		坂道でアクセルペダルを踏み続けて停車しているとき	
ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻すか オートモードで走行して下さい。	橙		不適切なギヤ段での走行を続けたときや、上り坂を低速で走行したとき	
			過度な発進･停止を繰り返したとき	
ミッション油温上昇 エンジンをかけた状態で シフトレバーをPまたは Nレンジにして待機して下さい。	赤		デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの温度が異常に高くなったとき	
離席警報 シフトレバーをPに戻し パーキングブレーキを 引いて下さい。	橙	離席警報（デュアルクラッチ式 AMT 車）	スタースイッチが『ON』位置のときにギヤが入ったままドアを開け、車から離れようとしたとき	
スムーサー非常モード HSA装着車両の場合 発進する際に HSA OFFスイッチを押して 解除して下さい。	橙	スムーサー非常モード（デュアルクラッチ式 AMT 車）	デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを押したとき	
シフトレバー R 禁止 停車した状態でシフトレバーを Rにして下さい。	白	シフトレバー R 禁止（デュアルクラッチ式 AMT 車）	走行中にシフトレバーを『R』位置に操作したとき	
スムーサー異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	橙	スムーサー異常（デュアルクラッチ式 AMT 車）	デュアルクラッチ式 AMT システムが故障したとき	4-98

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
ミッション油温上昇 エンジンをかけた状態で シフトレバーをPまたは Nレンジにして待機して下さい。	赤	ミッション油温上昇（オートマチックトランスミッション車）	オートマチックトランスミッションオイルの温度が異常に高くなったとき	4-116
電圧低下	赤	電圧低下	バッテリー電圧が低いとき	3-38
過電圧	赤	過電圧	バッテリー電圧が高いとき	
ライト消し忘れ注意 ライトの消し忘れにより バッテリーがあがる可能性が あります。	橙	ライト消し忘れ注意	スタースイッチが『LOCK』位置の状態でライト点灯表示灯の点灯中にドアを開けたとき	4-122
可変スピードリミッタモード クルーズモードが 変更されました。	白	可変スピードリミッタモード	モードスイッチを押して、可変スピードリミッターモードに切り替えたとき	4-176
標識連動型 SLD クルーズモードが 変更されました。	白	標識連動型 SLD	モードスイッチを押して、標識連動型スピードリミッターモードに切り替えたとき	5-86
一定速クルーズモード クルーズモードが 変更されました。	白	一定速クルーズモード	モードスイッチを押して、オートクルーズモードに切り替えたとき	5-57
車間クルーズモード クルーズモードが 変更されました。	白	車間クルーズモード	モードスイッチを押して、全車速車間クルーズモードに切り替えたとき	5-57

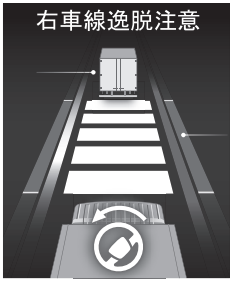
メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
クルーズ解除 クルーズ制御が解除されました。	橙	クルーズ解除	キャンセルスイッチを押して、クルーズモードが一時解除されたとき	5-57
	赤	エア漏れ注意	タイヤ空気圧が急激に低下しているとき	4-235
	橙	タイヤ空気圧注意	タイヤ空気圧が低下しているときまたは過大なとき	
	橙	タイヤ温度注意	タイヤが高温になっているときブレーキの引きずりやフェード現象を起こしているとき	
フロントカメラ故障 販売会社へご連絡下さい。	橙	フロントカメラ故障	カメラに異常があるとき	5-9
フロントカメラー時停止 フロントカメラが 使用できません。	橙	フロントカメラー時停止	カメラが一時的に停止したとき	5-8

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
⚠ フロントレーダー故障 販売会社へご連絡下さい。	橙	フロントレーダー故障	レーダーに異常があるとき	5-10
⚠ 右側レーダー故障 販売会社へご連絡下さい。	橙	右側レーダー故障		
⚠ 左側レーダー故障 販売会社へご連絡下さい。	橙	左側レーダー故障		
フロントレーダー一時停止 レーダーが使用できません。	橙	フロントレーダー一時停止	レーダーが一時的に停止したとき	5-9
右側レーダー一時停止 レーダーが使用できません。	橙	右側レーダー一時停止		
左側レーダー一時停止 レーダーが使用できません。	橙	左側レーダー一時停止		

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
フロントレーダー汚れ レーダー表面の汚れや着雪をふき取って下さい。引き続き表示される場合は販売会社へご連絡下さい。	橙	フロントレーダー汚れ	レーダーの汚れを検知したとき	5-10
右側レーダー汚れ レーダー表面の汚れや着雪をふき取って下さい。引き続き表示される場合は販売会社へご連絡下さい。	橙	右側レーダー汚れ		
左側レーダー汚れ レーダー表面の汚れや着雪をふき取って下さい。引き続き表示される場合は販売会社へご連絡下さい。	橙	左側レーダー汚れ		
⚠ 車間距離警報 ブレーキ！！	赤	注意喚起（プリクラッシュブレーキ）	進行方向に障害物を検知し、運転者にブレーキ操作を促すとき	5-13
ブレーキ！！ ⚠		緊急ブレーキ作動警報（プリクラッシュブレーキ）	進行方向に障害物を検知し、衝突回避が困難でプリクラッシュブレーキが自動的に緊急ブレーキを作動させるとき	5-13
ℹ 車間注意 車間距離をとって下さい。	橙	車間注意（車間距離警報）	先行車との車間距離が縮まりすぎているとき	5-21 5-57
前方注意 ⚠	橙	前方注意（誤発進抑制機能）	発進時、前方に障害物があるが必要以上に急加速したとき	5-41

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
加速制限中 	橙	加速制限中（誤発進抑制機能）	エンジン出力が一時的に制限され、徐々に元に戻っているとき	5-44
先行車発進	白	先行車発進（先行車発進お知らせ機能）	停止時、先行車の発進後に自車が停止し続けたとき	5-36 5-57
	橙 / 赤	ブラインドスポットモニター警報	警報対象が左前方 / 前方 / 右前方にいるとき	5-28
顔検知完了 顔検知が完了しました。 システムが作動します。	緑	顔検知完了（ドライバーステータスモニターシステム作動）	ドライバーステータスモニターを『ON』にしているとき、ドライバーステータスモニターが運転者を認識したとき	5-120
顔検知完了 システムがOFFに 設定されています。 ONにしてください。	緑	顔検知完了（ドライバーステータスモニターシステムOFF）	ドライバーステータスモニターを『OFF』にしているとき	
ドライバーモニター異常	橙	ドライバーモニター異常	ドライバーステータスモニターのシステムが故障したとき	5-132
前方注意 前方に注意して下さい。	白	前方注意（ドライバーステータスモニター）	前方を注意していないとき	5-117
集中力低下 休憩しませんか？	白	集中力低下（ドライバーステータスモニター）	集中力が低下しているとき	5-118

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
高さ注意	橙	高さ注意（標識認識機能）	高さ制限標識を認識したとき	5-72
進入禁止 	橙	進入禁止（標識認識機能）	進入禁止標識を通過し、車両が進入禁止区域に進入したとき	5-74
可変配光一時停止	橙	可変配光一時停止	カメラシステムが故障しているとき	5-147
姿勢崩れ検知 姿勢を正して下さい。	橙	姿勢崩れ検知（EDSS）	ドライバー状態異常検知時（走行中）	5-137
非常ブレーキ作動中 	赤	非常ブレーキ作動中（EDSS）	制動時（走行中）	
非常ブレーキ作動中 解除する場合は エンジンを停止して下さい。	赤		停車中	
停車保持中	白	停車保持中	全車速車間クルーズ制御中に、先行車に追従して停止したとき	5-57

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
ハンドル手放し検知 ハンドルを握って下さい。	橙	ハンドル手放し検知（車線維持支援システム）	車線維持支援システムが『ON』の状態で、ハンドルから手を放して約 10 秒経過したとき	5-106
ハンドル手放し検知 ハンドルを握って下さい。	赤		車線維持支援システムが『ON』の状態で、ハンドルから手を放して約 20 秒経過したとき	
			車線維持支援システムが『ON』の状態で、ハンドルから手を放して約 25 秒経過したとき	
	赤	車線逸脱注意	高速で走行中、運転者が意図せず車線を逸脱するような挙動を取ったとき	5-104
ふらつき注意 前方に注意して下さい。	橙	ふらつき注意（4JZ1 型エンジン車）	車両が蛇行しているとき	5-113
ふらつき注意 休憩しませんか？	橙	ふらつき注意（RZ4E 型エンジン車）		

メイン表示エリア	表示色	名称	表示条件	参照ページ
LOCK ブレーキロック故障 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	橙	ブレーキロック故障	作業用ブレーキロック作動中、システムに故障が発生したとき	4-210
LOCK 車両動き出し注意 パーキングブレーキを引いて ブレーキを踏みこんで下さい。	橙	車両動き出し注意	作業用ブレーキロック作動中にパーキングブレーキを解除したとき	
LOCK ブレーキロック禁止中 作動条件が整っていません。 取扱説明書に従い 再度ブレーキロックを 作動させて下さい。	橙	ブレーキロック禁止中	ブレーキロックスイッチ『ON』でかつパーキングブレーキを効かせているときに車両が動き出したとき、エンジンが停止したとき、またはシフトレバーでギヤを入れたとき	
LOCK ブレーキロック準備中 ブレーキロックを作動させる ために、ブレーキペダルを 踏みこんで下さい。	橙	ブレーキロック準備中	ブレーキロックスイッチ『ON』でかつパーキングブレーキを効かせているときにブレーキペダルの踏み込みが足りないとき	

メンテナンス表示

各メンテナンス項目のメンテナンス時期を表示します。
メーターディスプレイの『整備お知らせ情報』からも確認できます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ

メイン表示エリア	表示色	表示名称	表示条件	参照ページ
整備お知らせ ENGオイル＆フィルター 交換まで ＊,＊＊＊km	橙	エンジンオイル＆フィルター	交換時期までの残りの目安を距離で表示しています	10-5 10-11
整備お知らせ ENGオイル＆フィルター 交換して下さい。 ー＊,＊＊＊km	橙		エンジンオイル＆フィルターの交換時期を過ぎたとき	
整備お知らせ T/Mオイル&デフオイル 交換まで ＊,＊＊＊km	橙	トランスミッションオイル＆デフオイル（除くオートマチックトランスミッション車）	交換時期までの残りの距離を表示しています	10-80 10-90
整備お知らせ T/Mオイル&デフオイル 交換して下さい。 ー＊,＊＊＊km	橙		トランスミッションオイル＆デフオイルの交換時期を過ぎたとき	
整備お知らせ トランスミッションオイル 交換まで ＊,＊＊＊km	橙	トランスミッションオイル（オートマチックトランスミッション車）	交換時期までの残りの距離を表示しています	10-84
整備お知らせ トランスミッションオイル 交換して下さい。 ー＊,＊＊＊km	橙		トランスミッションオイルの交換時期を過ぎたとき	

メイン表示エリア	表示色	表示名称	表示条件	参照ページ
整備お知らせ デファレンシャルオイル 交換まで *,***km	橙	デファレンシャルオイル（オートマチックトランスミッション車）	交換時期までの残りの距離を表示しています	10-91
整備お知らせ デファレンシャルオイル 交換して下さい。 ー*,***km	橙		デファレンシャルオイルの交換時期を過ぎたとき	
整備お知らせ クラッチオイル 交換まで *,***km	橙	デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル★	交換時期までの残りの距離を表示しています	10-86
整備お知らせ クラッチオイル 交換して下さい。 ー*,***km	橙		クラッチオイルの交換時期を過ぎたとき	
整備お知らせ 燃料フィルター 交換まで *,***km	橙	燃料フィルター	交換時期までの残りの距離を表示しています	10-38
整備お知らせ 燃料フィルター 交換して下さい。 ー*,***km	橙		フューエルフィルターの交換時期を過ぎたとき	
整備お知らせ パワーステアリング液 交換まで *,***km	橙	パワーステアリングフルード	交換時期までの残りの距離を表示しています	10-96
整備お知らせ パワーステアリング液 交換して下さい。 ー*,***km	橙		パワーステアリングフルードの交換時期を過ぎたとき	

メイン表示エリア	表示色	表示名称	表示条件	参照ページ
整備お知らせ タイヤローテーション 交換まで ＊,＊＊＊km	橙	タイヤ交換（ローテーション）	交換時期までの残りの距離を表示しています	10-65
整備お知らせ タイヤローテーション 交換して下さい。 －＊,＊＊＊km	橙		タイヤローテーションの時期を過ぎたとき	
整備お知らせ スターター 交換して下さい。 －＊,＊＊＊回	橙	スターター	スターターモーターの交換時期を過ぎたとき	3-41

省燃費アドバイス表示

メイン表示エリア	表示色	表示名	参照ページ
省燃費アドバイス 長時間アイドル中です。	白	長時間アイドル中です	3-41
省燃費アドバイス シフトレバーをNで待機をおすすめします。	白	シフトレバーを N で待機をおすすめします	3-41

警告灯 / 表示灯

本タイトル内にない警告灯 / 表示灯は、各装置や機能のタイトル内で説明しています。『警告灯 / 表示灯一覧』から参照してください。

参照ページ
3-7 警告灯 / 表示灯一覧

ブレーキ警告灯



エンジン回転中（始動後）、次のような場合に点灯します。

- ブレーキフルードの減少（ブレーキの摩耗、液漏れなど）
- 充電系統に異常が生じたとき（ジェネレーター本体の故障および、ファンベルトの緩みや切れなど）
- 制動力アシスト機能に異常が生じたとき（制動力アシスト機能付車）
- ABS、EBD の機能に異常が生じたとき（ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯します）

参照ページ
4-162 ABS 警告灯

⚠ 注 意

- **ブレーキ警告灯が点灯したときは、ただちに走行を中止して安全で交通の妨げにならない場所に停車し、《日産販売会社》で点検を受けてください。**
- **ブレーキ警告灯が点灯したときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏み込んでください。**

バキューム警告灯



次の状況の場合に点灯し、同時に警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります（パーキングブレーキを効かせている間、またはデュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車はシフトレバーが『P』位置にある間、ブザーは鳴りやみます）。

- 運転中、またはスタータースイッチを『ON』位置にしたときにブレーキ倍力装置のバキュームが不足したとき
- 充電系統に異常が生じたとき（ジェネレーター本体の故障および、ファンベルトの緩みや切れなど）
- 排気ブレーキ使用中に排気ブレーキに異常があるとき

⚠ 注 意

- 排気ブレーキを使用中に警告灯が点灯し、ブザーが鳴ったときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せ、次の処置をしてください。
  - エンジンをかけたまま、排気ブレーキスイッチを切り、数秒後に警告灯が消灯した場合は、排気ブレーキ系統の異常です。
  - 警告灯が消灯しない場合は、フットブレーキ（主ブレーキ）のブレーキ倍力装置が異常です。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

参照ページ
4-159 排気ブレーキスイッチ（4JZ1 型エンジン車）

ステアリングシステム警告灯★



レーンキープアシスト付車
操舵アシスト制御に使用しているモーターに異常が発生すると点灯します。

⚠ 注 意

- ステアリングシステム警告灯が点灯したときは、操舵アシスト制御が停止し、ハンドルの操作が重くなる場合があります。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

油圧警告灯



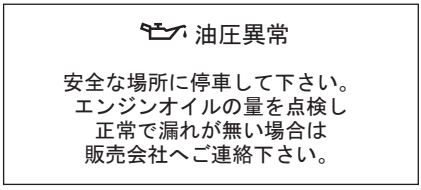
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯し、同時に警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。（パーキングブレーキを効かせている間、ブザーは鳴りやみます）。また、ecostop によるエンジン停止中に点灯しますが、エンジンが再始動すると消灯します。

アドバイス

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せてください。
- 潤滑系統の故障のおそれがありますのでただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

参照ページ
10-3 エンジンオイル

油圧異常



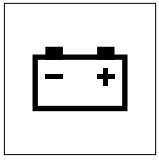
走行中、エンジンオイルの油圧が異常に下がったときに表示され、同時に警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。（パーキングブレーキを効かせている間、ブザーは鳴りやみます）。
メーターディスプレイに表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し点検･処置を行います。

アドバイス

- 潤滑系統の故障のおそれがありますのでただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

参照ページ
10-3 エンジンオイル

充電警告灯



エンジン回転中、充電系統に異常（ファンベルトの緩みや切れなど）があると点灯します。

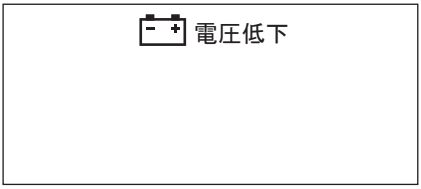
アドバイス

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せ、《日産販売会社》で点検を受けてください。

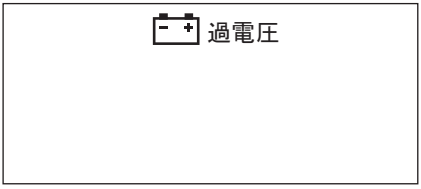
参照ページ
11-7 バッテリーがあがったとき
10-32 ファンベルト
10-104 バッテリー

電圧低下 / 過電圧

電圧低下



過電圧

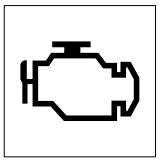


バッテリー電圧が低いとき、または高すぎるとき、メーターディスプレイに「電圧低下」または「過電圧」が表示されます。バッテリーの過放電や、ジェネレーターの発電不良などが考えられます。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

知　識

- エンジン始動中および始動直後にメーターディスプレイに「電圧低下」が表示される場合がありますが、始動完了後正常に戻れば異常ではありません。

エンジン制御警告灯



排気ガス関連装置に異常があるときに点灯します。
また以下のときにも点灯します。点灯したときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

- エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があるとき（4JZ1 型エンジン車は、異常の種類によっては、エンジン始動後に約 15 秒間点灯し、消灯する場合もあります）
- DPD の再生操作を行わずにそのまま走行し続けたとき
- 尿素 SCR システムまたは尿素水（AdBlue® 相当）の品質に異常があるとき

⚠ 注 意

- **エンジン制御警告灯が点灯してエンジンが停止した場合は、エンジンが保護モードに入った可能性があります。スタータースイッチを『LOCK』位置に切り替え、60 秒以上待ってからエンジンを再始動してください。走行可能な車両であっても、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**

知 識

- スタータースイッチを『ON』位置にすると点灯し、約 5 秒後に消灯します。消灯後にエンジンをかけないままでいると、再度、点灯または点滅します。エンジンがかかると消灯します。

SVS 警告灯



排気ガス関連以外の装置に異常があるときに点灯します。
また以下のときにも点灯します。点灯したときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

- エンジン回転中、システムに異常があるとき

知　識

- SVS は Service Vehicle Soon（サービスビークルスーン）の略です。

マスター警告灯



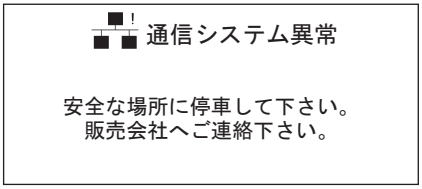
先進運転支援システムおよび関連装置、または補助ブレーキ制御に異常があるときに点灯します。点灯したときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

注　意

- **エンジン制御警告灯またはデュアルクラッチ式 AMT 警告灯が同時に点灯しているときは、エンジン出力が制限されたり、変速制御ができない場合があります。車両システムが故障している可能性がありますので、ただちに《日産販売会社》へご連絡ください。**

参照ページ
3-39 エンジン制御警告灯
4-98 デュアルクラッチ式 AMT 警告灯が点灯するとき

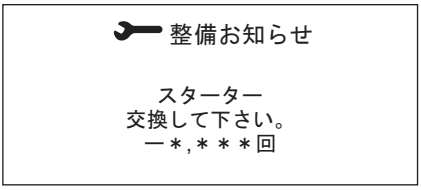
通信システム異常



メーターとメーター周辺システムとの通信異常時にメーターディスプレイに表示されます。
このとき水温計が停止し、メーターの警報機能が正常に作動しません。
安全な場所に車を止め、一度エンジンを停止後、もう一度エンジンを始動してください。
再度表示する場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

スターター

超過始動回数



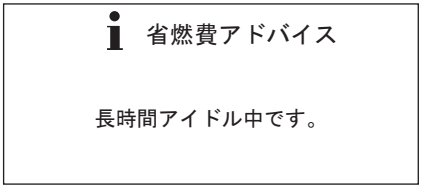
スターターモーターのメンテナンス時期が過ぎたときに、スターターの超過始動回数が表示されます。
スタースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を押すか、走行を開始するまで表示されます。
「スターター 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

知 識

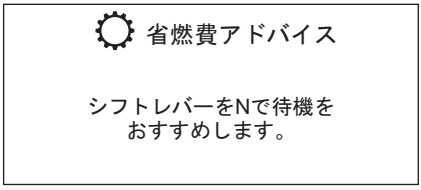
- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ

省燃費アドバイス



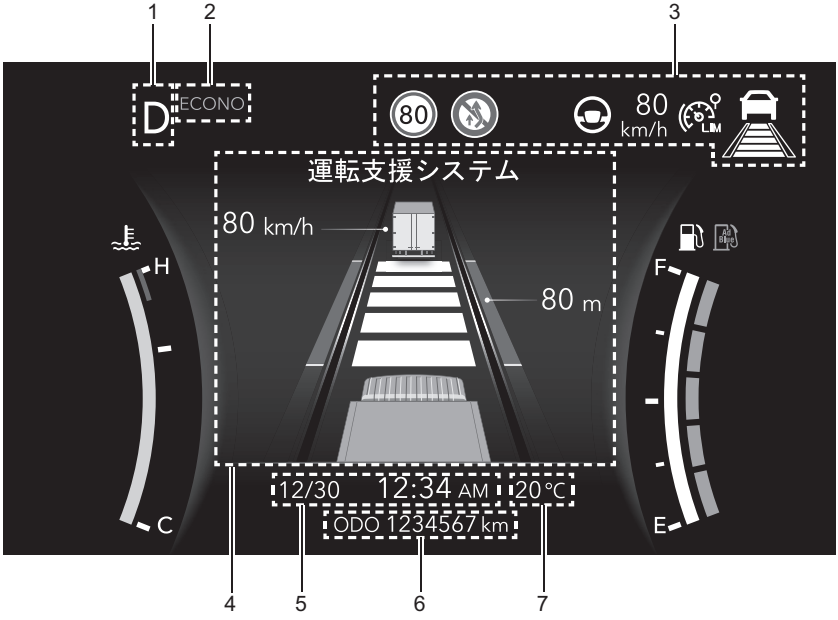
長時間アイドル中です。
アイドリング状態が約 5 分以上続くとメーターディスプレイに表示されます。走行すると、この表示は消えます。



シフトレバーを N で待機をおすすめします。（デュアルクラッチ式 AMT 車のみ）
長時間ギヤが入ったまま、パーキングブレーキを効かせて停止していたときにメーターディスプレイに表示され、同時に警報音『ピーピーピー・ニュートラル待機をお奨めします（連続、警告ブザーは 1 回目の音声警報時のみ）』が鳴ります。パーキングブレーキを解除する、またはシフトレバーを『P』もしくは『N』位置にすると、この表示は消えます。

メーターディスプレイ

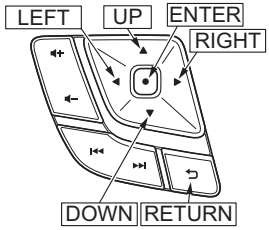
メーターパネルのメーターディスプレイは走行に関するさまざまな情報を表示します。また、画面を切り替えることでメンテナンス情報や時計 / 日付などの各種設定や、車両情報などを確認することができます。



No.	名称	参照ページ
1	シフトインジケーター・トランスミッションモード表示（デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車）	3-43
2	ECONO モード表示	3-43
3	運転支援表示エリア	3-44
4	メイン表示エリア	3-46
5	日付・時計	3-51
6	オドメーター（積算距離計）	3-51
7	外気温計	3-51

参照ページ
3-43 メーターディスプレイの画面構成

メーターディスプレイスイッチ



ハンドルの左側にあるスイッチで、画面の切り替えや機能の選択などを行います。

スイッチ	機能
ENTER	選択を決定するときに使用します。
LEFT	カーソルの移動や値を調整するときに使用します。
RIGHT	
UP	
DOWN	
RETURN	一つ前の画面に戻るときに使用します。

メーターディスプレイの画面構成

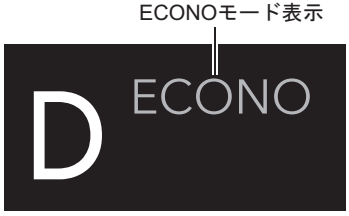
シフトインジケーター・トランスミッションモード表示（デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車）



トランスミッションのギヤ段やシフトレンジ、トランスミッションモードの各機能を表示します。

参照ページ
4-83 デュアルクラッチ式 AMT 車★
4-84 オートマチックトランスミッション車★

ECONO モード表示



ECONO モードの作動状態を表示します。

デュアルクラッチ式 AMT 車

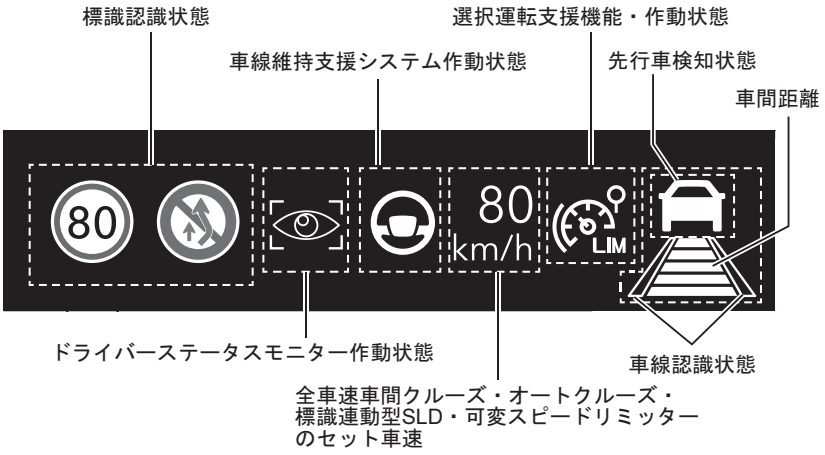
参照ページ
4-96 ECONO モード表示

マニュアルトランスミッション車

参照ページ
4-132 ECONO モード表示

運転支援表示エリア

運転を支援するシステムの作動状況やセット状態などを表示します。



運転支援機能		表示	参照ページ
標識認識機能			5-69
標識連動型スピードリミッター			5-83
ドライバーステータスモニター			5-116
レーンキープアシスト	車線維持支援システム		5-96
	車線逸脱抑制機能		

運転支援機能	表示	参照ページ
全車速車間クルーズ		5-46
オートクルーズ		
可変スピードリミッター		4-175
先行車発進お知らせ機能 ※		5-36
車間距離警報		5-20
車線逸脱警報（LDWS）		5-90

※：先行車アイコンは、全車速車間クルーズ中のみ表示されます。

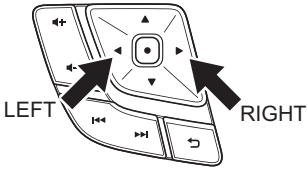
メイン表示エリア

通常時は、左側のメーターディスプレイスイッチの『RIGHT』または『LEFT』スイッチを押すと、画面が切り替わります。
各画面の機能の選択などもメーターディスプレイスイッチで行います。

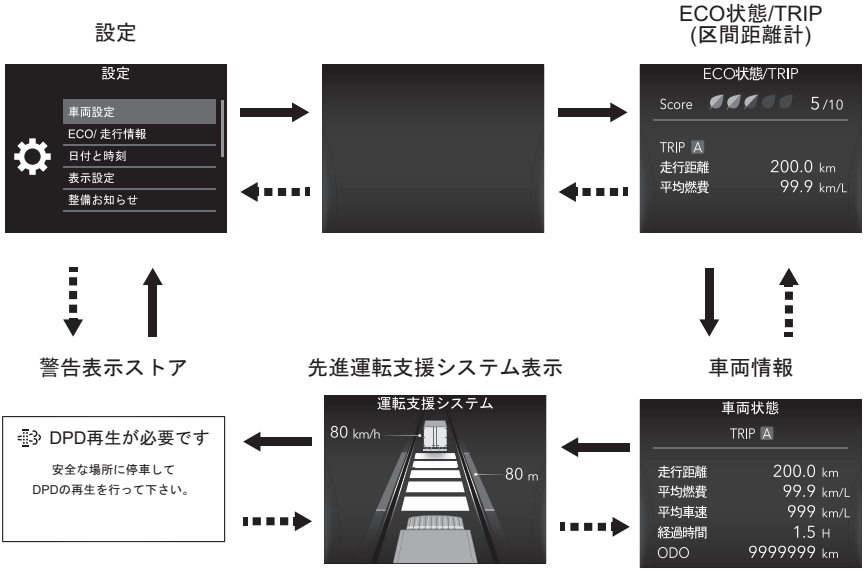
参照ページ
3-43 メーターディスプレイスイッチ

知　識

- エンジン始動時は、「システムチェック表示」の後、前回スタータースイッチを『LOCK』位置にしたときに表示されていた画面が表示されます。



RIGHT	→
LEFT	←





設定

車両の設定や状態の確認が行えます。

参照ページ
3-52 設定



ECO 状態 /TRIP（区間距離計）

ECO 状態は、エコ運転（環境に配慮した運転）の状態を 10 段階で表示します。「10」はもっともよい運転状態を表し、「1」がもっとも悪い状態（アクセルペダルの踏み過ぎ、高いエンジン回転での走行、適切ではないギヤ段での走行）です。また、車両が停車しているときは、表示されません。

TRIP（区間距離計）は、ある区間の距離や、ある一定期間内の走行距離を知りたいときに使用します。小数点の左側が km、小数点の右側が 100m 単位です。また、その区間の平均燃費も確認できます。

「TRIP A」と「TRIP B」の 2 種類の区間距離をそれぞれ確認できます。目的に応じて切り替えてください。

『UP』または『DOWN』を押すと、「TRIP A」と「TRIP B」が切り替わります。

「TRIP A」または「TRIP B」をリセットするときは、『ENTER』を長押ししてください。

また、999999.9km を超えると自動で 0 にリセットされます。

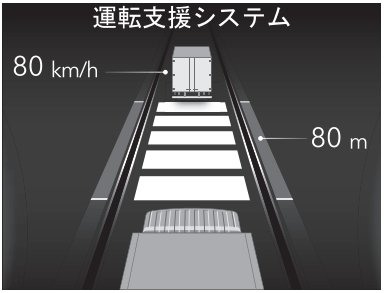


車両情報

以下の車両情報を確認することができます。

車両情報
車両状態
DPD 堆積量
電圧計 / 油温計★ / アワーメーター
タイヤ空気圧モニタリングシステム

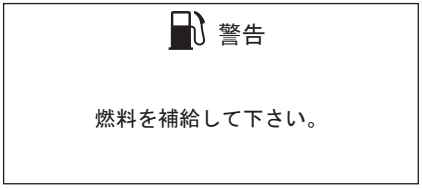
参照ページ
3-61 車両情報



先進運転支援システム表示

先進運転支援システムの作動状態や警報が確認できます。

先進運転支援システム	参照ページ
ブラインドスポットモニター	5-25
オートクルーズ / 全車速車間クルーズ	5-46
車線逸脱警報（LDWS）	5-90
レーンキープアシスト	5-96



警告表示ストア

メーターディスプレイに表示された際に『ENTER』を押して非表示にした、運転者へのメッセージを確認することができます。非表示にしたメッセージが複数ある場合は、『ENTER』を押していくと表示を切り替えることができます。

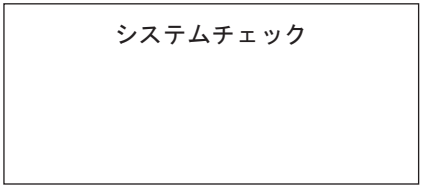
知　識

- 非表示にしたメッセージがある場合は、通常画面で『RIGHT』または『LEFT』スイッチを押すとメイン表示エリア下側に表示される、警告表示ストアのアイコンが橙色になります。
- メンテナンス表示は、非表示にして通常画面に戻った後、警告表示ストアで確認することができません。スタースイッチを『ON』にすると表示されます。



警告表示ストアアイコン

スタースイッチを『ON』位置にしたとき、各装置のシステムチェックを行います。このとき、各装置の『システムチェック』が表示されます。



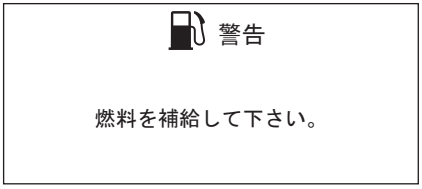
システムチェック表示
エンジン始動後、通常画面に切り替わります。

システムの作動中や車両に異常が発生したとき、またメンテナンスの時期が近づいたときなどに、運転者へのメッセージが表示されます。
『ENTER』を押すと非表示になり、通常画面に戻ります。
通常画面に戻った後でも「警告表示ストア」で表示を確認することができます。

参照ページ
3-49 警告表示ストア

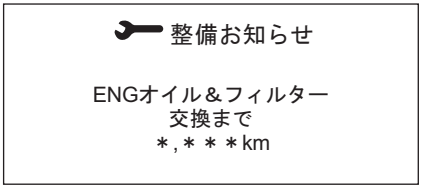
知 識

- 事故や故障を起こすおそれがあることを知らせるための表示は、『ENTER』を押しても通常画面に戻りません。
- メンテナンス表示は、通常画面に戻った後、警告表示ストアで確認することができません。スタータースイッチを『ON』にすると表示されます。



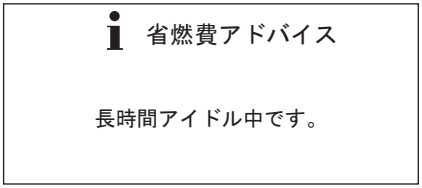
警告・作動表示
システムの作動や異常を伝えるメッセージを表示します。

参照ページ
3-13 警告・作動表示



メンテナンス表示
メンテナンス時期が近づいたときや過ぎてしまったときに、メッセージを表示します。

参照ページ
3-32 メンテナンス表示



省燃費アドバイス表示
省燃費で走行するためのアドバイスを表示します。

参照ページ
3-41 省燃費アドバイス

日付・時計



日付と時計が表示されます。
「年」「月」「日」・「時」「分」の調整は「設定」で行います。

参照ページ
3-52 設定

知 識

- 日付・時計の表示エリアで、警告灯 / 表示灯が点灯する場合があります。このとき、日付・時計は表示されません。

オドメーター（積算距離計）

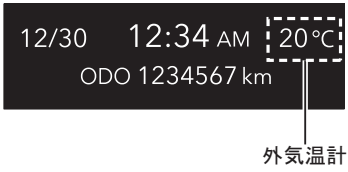


走行した総距離を km の単位で示します。
9999999km 以上はカウントされません。

知 識

- オドメーターの表示エリアで、警告灯 / 表示灯が点灯する場合があります。このとき、オドメーターは表示されません。

外気温計



外気温を表示します。

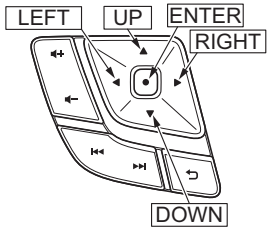
知 識

- 外気温計の表示エリアで、警告灯 / 表示灯が点灯する場合があります。このとき、外気温計は表示されません。

設定

各種装置の ON/OFF などの設定や車両の状態を確認することができます。
メーターディスプレイスイッチを使用して、設定を行います。『UP』または『DOWN』で各項目を選択し、『ENTER』で決定します。





車両設定

遷移画面		参照ページ
前方監視	プリクラッシュブレーキ	5-17
	車間距離警報	5-24
	誤発進抑制機能	5-42
	先行車関連機能（先行車発進お知らせ機能）	5-38
	標識認識機能	5-77
	標識連動型 SLD（標識連動型スピードリミッター）	5-88
側方監視	車線逸脱警報	5-95
	交差点警報	5-33
ドライバー状態監視	ふらつき警報	5-114
	ドライバーモニター（ドライバーステータスモニター）	5-123
ブレーキ	HSA 設定	4-138 4-141
	オートブレーキホールド設定	4-153 4-156
	電動パーキングブレーキ	4-76
ランプ	可変配光ヘッドランプ設定	5-147
オートエアコン	アイドリングストップ条件	6-22
	コンプレッサー連動	
	内外気自動切換え	
	ドライバーモニター風量設定	5-130
トランスミッション	PTO アイドル回転数設定	4-213

ECO/ 走行情報

遷移画面		参照ページ
Trip A	ECO 情報	3-55
	走行情報	
Trip B	ECO 情報	
	走行情報	

日付と時刻

遷移画面			参照ページ
日付表示	24 時間表示	日付・時刻設定	3-55

表示設定

遷移画面		参照ページ
照明輝度		3-56
単位（RZ4E 型エンジン車）	走行距離	3-57
	燃費	
	タイヤ圧力	
	温度	

言語選択（RZ4E 型エンジン車）

知　識

・日本語を含め、13 か国の言語が選択できます。

参照ページ
3-57 言語選択（RZ4E 型エンジン車）

整備お知らせ

遷移画面		参照ページ
整備お知らせ情報	ENG オイル＆フィルター	3-57
	燃料フィルター	
	T/M オイル＆デフオイル （除くオートマチックトランスミッション車）	
	トランスミッションオイル （オートマチックトランスミッション車）	
	デファレンシャルオイル （オートマチックトランスミッション車）	
	クラッチオイル（デュアルクラッチ式 AMT 車）	
	パワーステアリング液	
	タイヤローテーション	
	スターター	
整備お知らせ設定	ENG オイル＆フィルター	
	燃料フィルター	
	T/M オイル＆デフオイル （除くオートマチックトランスミッション車）	
	トランスミッションオイル （オートマチックトランスミッション車）	
	デファレンシャルオイル （オートマチックトランスミッション車）	
	クラッチオイル（デュアルクラッチ式 AMT 車）	
	パワーステアリング液	
	タイヤローテーション	
	スターター	

ECO/ 走行情報

ECO 情報

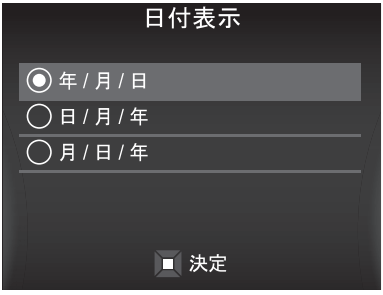


環境に配慮した運転を行っているか、「TRIP A」または「TRIP B」区間の運転状況をバーグラフまたは数値で表示します。
スコアは「10」がもっともよい運転状態を表し、「1」がもっとも悪い状態です。

走行情報

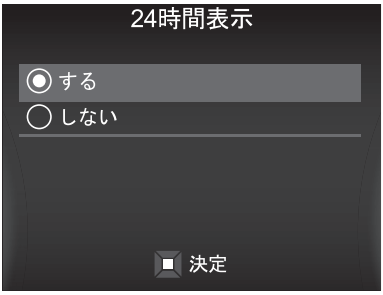


日付と時刻



日付と時刻を設定できます。

1. 日付表示画面で、年・月・日の並び順を『UP』または『DOWN』で選択し、『ENTER』を押してください。

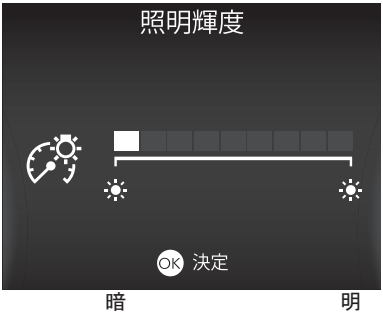


2. 24 時間表示画面で、する・しないを『UP』または『DOWN』で選択し、『ENTER』を押してください。



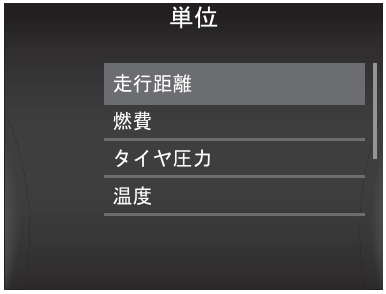
3. 日付・時刻設定画面で、年・月・日・時間をそれぞれ『UP』または『DOWN』で選択し、『ENTER』を押してください。

表示設定



照明輝度

メーターディスプレイの明るさを調整するときに使用します。『RIGHT』を押すと明るく、『LEFT』を押すと暗くなります。ライティングスイッチが『OFF』のとき、『 』または『 』位置にしたときのそれぞれの明るさを設定できます。



単位（RZ4E 型エンジン車）

メーターディスプレイに表示される単位が切り替えられます。表示を切り替えたい項目を『UP』または『DOWN』で選択し、『ENTER』を押してください。

知　識

- 「走行距離」の項目で「mi」を選択しても、オドメーター（積算距離計）および「整備お知らせ」の表示には反映されません。

言語選択（RZ4E 型エンジン車）

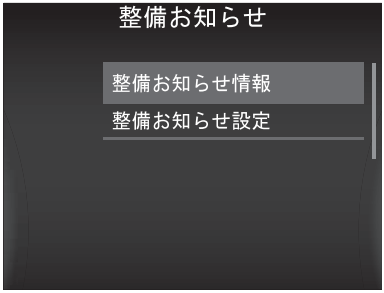


メーターディスプレイに表示される言語が切り替えられます。表示したい言語を『UP』または『DOWN』で選択し、『ENTER』を押してください。

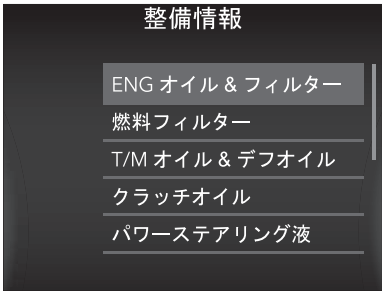
知　識

- 「言語選択」で表示言語を切り替えると、設定メニューやメーターディスプレイ表示を含むすべての言語が、選択した言語での表示に切り替わります。

整備お知らせ



メンテナンス時期の確認と、設定ができます。



整備お知らせ情報

メンテナンス時期を確認したい項目を『UP』または『DOWN』で選択し、『ENTER』を押してください。

残距離



超過距離





各メンテナンス項目の表示はメンテナンス時期までの残距離または超過距離を表示します。
メンテナンス時期を過ぎると、メッセージが「交換まで」から「交換してください」に変わり、メンテナンスまでの距離が「ー（マイナス）」（超過距離）で表示されます。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

アドバイス

- スターターモーターのメンテナンス表示は、交換時期までの残始動回数または超過始動回数を表示します。



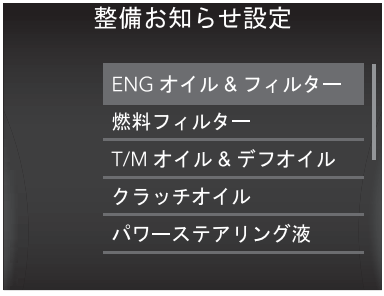
『ENTER』を長押しすると、メンテナンスまでの距離がリセットされます。

アドバイス

- 下記のメンテナンス後は、メンテナンス時期のリセットを必ず行ってください。リセットを行わない場合、メンテナンス時期が正しく表示されない原因となります。
  - ENG オイル＆フィルター
  - 燃料フィルター
  - T/M オイル＆デフオイル
  - トランスミッションオイル
  - デファレンシャルオイル
  - クラッチオイル
  - パワーステアリング液
  - タイヤローテーション

整備お知らせ設定

メンテナンス時期を設定したい項目を『UP』または『DOWN』で選択し、『ENTER』を押してください。





『UP』または『DOWN』で交換時期を選択し、『ENTER』を長押しして決定します。
交換時期の設定が完了したら、メンテナンスまでの距離をリセットしてください。

参照ページ
3-58 整備お知らせ情報

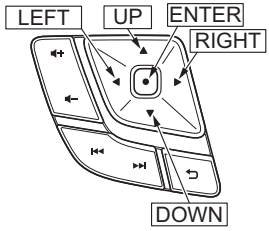
設定範囲

項目	初期設定値	交換時期の設定範囲
ENG オイル＆フィルター（4JZ1 型エンジン車）	40,000km	40,000km のみ
ENG オイル＆フィルター（RZ4E 型エンジン車）	20,000km	20,000km のみ
燃料フィルター（4JZ1 型エンジン車）	80,000km	30,000 ～ 80,000km
燃料フィルター（RZ4E 型エンジン車）	40,000km	30,000 ～ 40,000km
T/M オイル＆デフオイル（除くオートマチックトランスミッション車）	50,000km	30,000 ～ 50,000km
トランスミッションオイル（オートマチックトランスミッション車）	100,000km	100,000km のみ
デファレンシャルオイル（オートマチックトランスミッション車）	50,000km	30,000 ～ 50,000km
クラッチオイル（デュアルクラッチ式 AMT 車）	50,000km	30,000 ～ 50,000km
パワーステアリング液	50,000km	30,000 ～ 50,000km
タイヤローテーション	60,000km	設定しない、5,000 ～ 60,000km
スターター	設定する	「設定する」のみ

車両情報

メーターディスプレイスイッチの『UP』『DOWN』を押すと、画面が切り替えられます。



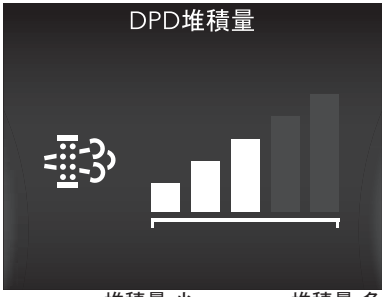


車両状態



車両状態を表示します。
『UP』または『DOWN』を押すと、「TRIP A」と「TRIP B」の各区間の走行距離などを確認できます。

DPD 堆積量



DPD フィルターに捕集された PM（粒子状物質）の堆積状況を表示します。

電圧計 / 油温計★ / アワーメーター



電圧計

現在のバッテリー状態を表示します。
電圧計表示を選択していなくても、バッテリー電圧が極端に低電圧または高電圧になるとメーターディスプレイに「電圧低下」または「過電圧」を表示します。

参照ページ
3-38 電圧低下 / 過電圧

知　識

- エンジン始動中および始動直後にメーターディスプレイに「電圧低下」が表示される場合がありますが、始動完了後正常に戻れば異常ではありません。
- 発電を制御して燃費の向上を図っているため、加減速時など走行中に電圧計の指示が大きく変動する場合がありますが異常ではありません。

油温計（消防車のみ）

オイルパン内のエンジンオイルの温度を℃で示します。120 ℃以上を示すときはエンジンがオーバーヒートしているおそれがあります。状況に応じてオーバーヒートの処置をとってください。

参照ページ
11-17 オーバーヒートしたとき

アワーメーター

エンジンの使用時間をメーターディスプレイ内に表示します。

アドバイス

- アワーメーターはリセットできません。

タイヤ空気圧モニタリングシステム

参照ページ
4-232 タイヤ状態表示

運転するとき 4

運転時のアドバイス

- 運転する前に 4-3
- 運転するときは 4-10
- 駐車や停車するときは 4-25
- 寒冷地や冬季の運転 4-32
- 炎天下や夏季の運転 4-42

エンジンの始動・停止

- エンジンの始動・停止のしかた 4-43
- アイドリングコントロールノブ★ 4-52
- 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車） 4-53
- 暖機システム（RZ4E 型エンジン車） 4-54
- ecostop（エコストップ）★ 4-55
- オイルパンヒーター用コンセント★ 4-66

操縦のしかた

- ペダル類 4-67
- パーキングブレーキ★ 4-68
- 電動パーキングブレーキ★ 4-71
- シフトレバー 4-81
- デュアルクラッチ式 AMT ★ 4-87
- オートマチックトランスミッション車★ 4-104

走行装置

- 灯火装置 4-120
- ワイパー･ウォッシャースイッチ 4-127
- ホーンボタン 4-129

● バックブザー OFF スイッチ★ 4-129
● 左折＆バック音声警報 ON/OFF スイッチ★ 4-130
● START ASSIST スイッチ
（マニュアルトランスミッション車）★ 4-131
● ECONO モードスイッチ
（マニュアルトランスミッション車）★ 4-131
● HSA（坂道発進補助装置）★ 4-132
● オートブレーキホールド★ 4-144
● 排気ブレーキスイッチ（4JZ1 型エンジン車） 4-159
● ABS 4-160
● 制動力アシスト機能★ 4-164
● ブレーキアシストシステム★ 4-164
● EBD 4-164
● ASR 4-165
● VDC 4-167
● 緊急制動表示灯（ESS） 4-173
● スピードリミッター（速度抑制装置）★ 4-174
● 可変スピードリミッター★ 4-175

後処理装置
● DPD 4-184
● 尿素 SCR システム 4-197

特殊装置
● 作業用ブレーキロック★ 4-207
● PTO ★ 4-211

運行・車両管理装置
● タイヤ空気圧モニタリングシステム★ 4-231
● アナログタコグラフ★ 4-236
● デジタルタコグラフ★ 4-237

運転時のアドバイス

運転する前に

お出かけ前には『日常（運行前）点検』を



日常点検は、道路運送車両法により運転者に義務づけられています。1日1回、お車を運転する前に日常点検を行い、異常がないことを確認してください。安全で快適な運転のため、お車の走行距離、運行時の状態などを把握し、適切な点検時期および、点検に応じた整備を行ってください。点検の結果、異常がある場合、あるいは、前日または前回の運転で異常のあった箇所は、《日産販売会社》で修理を受けてから運転するようにしてください。

⚠ 警 告

【タイヤの点検】

- **タイヤ空気圧モニタリングシステムは日常点検に代わるものではありません。タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車の場合も、日常点検で必ずタイヤ空気圧を確認してください。**

参照ページ
9-3 日常（運行前）点検一覧

休養は十分にとっていますか



疲れた状態で運転をすると、眠くなったり、注意力が散漫になり易くなったりします。車を運転する前には十分に休養をとってください。

正しい運転姿勢をとるために

警 告

- **必ず、走行前にシート（座席）、ハンドルおよびミラー類の位置を調節し、正しい運転姿勢をとり、シートを前後方向にゆさぶり確実に固定されていることを確認して、シートベルトを着用し運転してください。また、シートベルトは運転する人はもちろん同乗者にも正しく着用させるようにしてください。**

参照ページ
1-2 シートベルト
2-36 シート
2-49 ミラー

長期間使用していない車両について

アドバイス

- 車両を長期間保管する場合はバッテリー上がりを防ぐため、⊖端子側のケーブルを外してください。
- 除く AHR 型車（24V バッテリー）は、バッテリーの⊖端子は、12V 側バッテリーの⊖端子を取り外し、次に 24V 側バッテリーの⊖端子の順で両方の端子を取り外してください。
- AHR 型車（12V バッテリー）は、バッテリー端子を取り外すときは⊖端子から取り外してください。
- 1 年以上使用していない車両は、車両を使用する前に尿素水（AdBlue® 相当）を交換してください。交換せずに使用すると尿素 SCR システムの故障の原因になります。
- 最低月に 1 回以上、および車両の使用前に、以下の点検を行ってください。点検を行わずに車両を移動した場合、焼き付きなどを起こすおそれがあります。
- エンジンやトランスミッションなどにオイル漏れがないことを点検し、オイルが規定の位置まで入っていることを確認してください。オイル量が不足しているとオイルが十分にいきわたらず、故障の原因になります。
- エンジンを始動し、5 分間以上、水温計が安定するまでアイドリング運転を行ってください。また、異音が出ないこと、油圧警告灯が点灯していないことを確認してください。
- 暖機運転については『エンジンの始動方法』を参照してください。
- ワイパーを長期間使用していなかったときは、点検時または作動前にワイパーゴムがガラスに貼り付いていないことを確認してください。ガラスに貼り付いたままワイパーを作動させると、ワイパーの破損やワイパーモーターの故障の原因となります。

参照ページ
4-46 エンジンの始動方法

知　識

【AdBlue® とは】

・AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

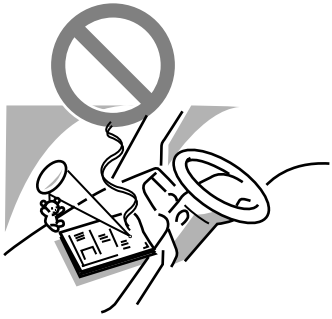
燃料の入った容器や、スプレー缶類を車内に持ち込まないで



警　告

・燃料の入った容器やスプレー缶類を車の中に持ち込むと、万一容器などが発火したり、容器が破損したとき火災や爆発を起こす可能性があり大変危険です。

ウインドーガラスなどにアクセサリーを取り付けないで



警　告

・安全運転の妨げになりますので装飾板やフィルムなどを取り付けないでください。また、アクセサリーの吸盤がレンズの働きをして、火災など思わぬ事故の原因になります。

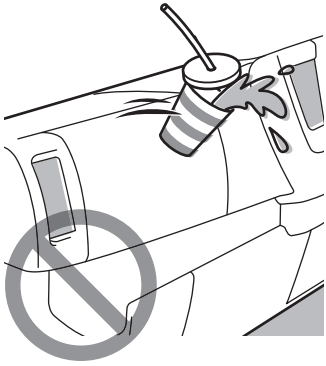
運転席足元付近の整理整頓



⚠ 警 告

- 空缶や空びんなど、足元に物がころがっていると、ブレーキペダルの下にはさまったときにブレーキ操作ができなくなり大変危険です。
- トレイやダッシュボードにころがりやすい物を置かないでください。運転の妨げになり危険です。

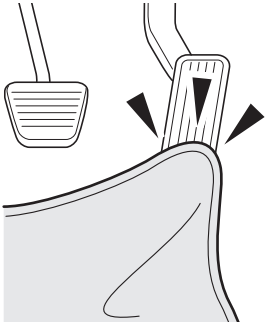
インストルメントパネルに液体をこぼさないでください



⚠ 警 告

- インストルメントパネルに飲み物など液体をこぼさないでください。周辺機器が故障・破損するおそれがあります。
- 機器に液体がかかったことによる故障・破損は保証修理の対象外です。

フロアマットを正しく敷いていますか



⚠ 警 告

- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。各ペダルを覆ったり重ねて敷くと、各ペダルに引っ掛かるなど確実な操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- この車（年式）専用のフロアマットを正しく使用してください。フロアマットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出る、またはブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

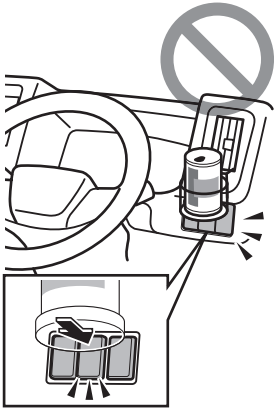
【運転席にフロアマットを敷くときは】

- 日産純正品であっても、他車種及び異なる年式のフロアマットは使用しない。
- フロアマットでペダルを覆わない。
- フロアマットを重ねて敷かない。
- 運転席専用のフロアマットを使用する。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返しにしたりして使用しない。

【運転する前に】

- フロアマットがずれていないか定期的に確認し、洗車後は必ず確認する。
- エンジン停止時及びシフトレバーが『P』または『N』のときに、各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアマットと干渉しないで運転に支障がないことを確認する。

スイッチを必要以上に押し続けないで



⚠ 注 意

- 異常な状態であるとシステムが判断して警告灯が点灯したり、システムが ON/OFF されるなど意図しない操作が行われる場合があります。

タイヤチェーンの取り扱い

タイヤチェーンを装着する前に一度取り付けてみて長さの調整、チェーンの破損などを確認し、十分な準備をしておいてください。

注 意

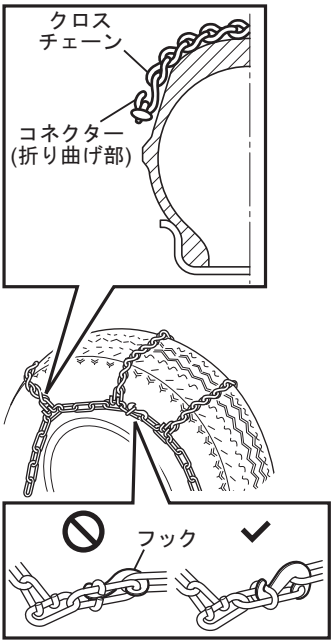
- **タイヤチェーンはゆるみのないように取り付けてください。ゆるんだまま走行すると、他の部品との干渉や脱落などにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **走行中に異音がする場合は、タイヤチェーンが切れたり、一部外れたりしている可能性があります。ただちに安全な場所に停車して、タイヤチェーンの装着状態を確認してください。**
- **エンジンがかかっているときや DPD 再生中、および運転直後の排気管やマフラーは高温となっているため触れないように注意してください。また DPD 再生中は排気ガスが高温となっているため作業は行わないでください。**
- **作業をするときに車体端部などでケガをしないよう注意してください。**

アドバイス

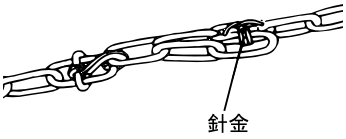
- 前輪には取り付けられません。必ず後輪へタイヤサイズに合ったタイヤチェーンを装着してください。
- ラジアルタイヤはタイヤ側面を損傷するおそれがありますので、必ずラジアルタイヤ用のチェーンを使用するか、冬用タイヤを使用してください。
- タイヤチェーン購入時に一度取り付けてみて、長すぎる場合は、タイヤサイズに合うように調整してください。
- タイヤチェーンを装着したときは 30km/h 以下で走行し、雪道、凍結路以外の走行は避けてください。
- タイヤチェーンの取り付け、取り扱い方法は、タイヤチェーンに添付されている取扱説明書をご覧ください。
- タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧モニタリングシステムが正しく作動しないおそれがあります。

参照ページ
4-231 タイヤ空気圧モニタリングシステム★

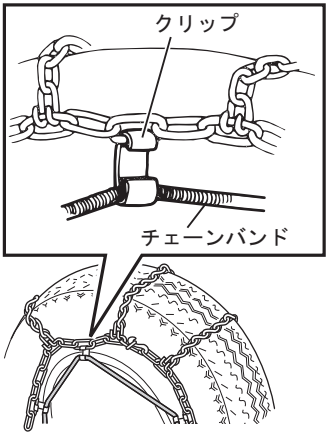
取り付け要領



1. タイヤチェーンにねじれが無いことを確認して、コネクターの折り曲げ部が外側（接地側）になるようにチェーンをかぶせます。
2. チェーンの両端をいっぱいに引っ張ってタイヤ内側のフックを先に連結し、つぎに外側のフックを連結します。
3. フックはタイヤ側面に対して平らになるように連結します。またチェーンにねじれや曲がりが無いことを確認します。

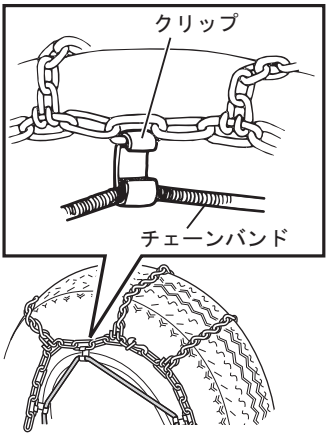


4. 余ったチェーンは車体やブレーキパイプなどにあたるのを防止するため針金で結びます。



5. チェーンバンドはクリップの爪を外側にし、バンドが等分になるようにかけます。
6. 取り付け後、しばらく走行したらチェーンのゆるみ、外れなどがないことを確認してください。

取り外し要領

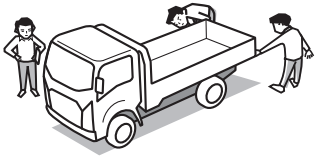


1. チェーンバンドを外し、針金を取り、フックは外側を先に外します。
2. 車を動かし、チェーンを取り出します。

運転するときは

車を動かすときは

車の周囲を確認



車の周囲に子供がいないこと、また、障害物がないことなど、安全確認を十分に行ってから発進してください。

⚠ 警 告

- **エンジン始動時、車両の下や周辺に燃えやすいものがないか確認してください。万一のとき、火災を招くおそれがあります。とくに、木材などがあるときは、50cm 以上間をあけてください。変形、変色、着火のおそれがあり大変危険です。**

参照ページ
4-46 エンジンの始動方法

パーキングブレーキは解除しましたか

⚠ 注 意

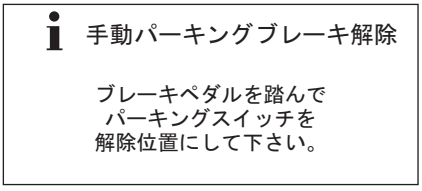
- パーキングブレーキをそのままにして発進するとブレーキ装置の故障や火災の原因となります。

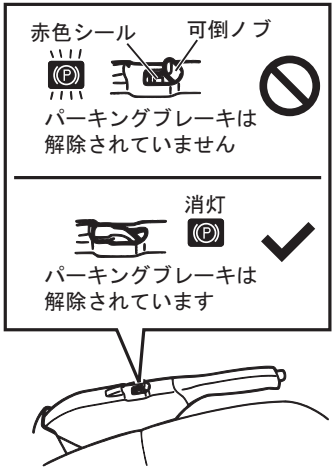
【電動パーキングブレーキ付車】

- スタータースイッチが『ACC』または『LOCK』位置のときは、電動パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキは解除されません。パーキングブレーキを解除するときは、スタータースイッチを『ON』位置にしてください。

パーキングブレーキ警告灯







アドバイス

- パーキングブレーキを解除し、パーキングブレーキ警告灯が点灯していないこと、および「手動パーキングブレーキ解除」がメーターディスプレイに表示されていないこと（電動パーキングブレーキ付車）を確認してから発進してください。

【可倒式パーキングブレーキレバー付車】

- パーキングブレーキを効かせた状態で可倒ノブを引くと、パーキングブレーキレバーが下方へ倒れます。
- パーキングブレーキレバー上の可倒ノブの下に赤色シールが表示されていないことを確認してください。

【電動パーキングブレーキ付車】

- 電動パーキングブレーキ付車は、パーキングブレーキ警告灯の消灯、および「手動パーキングブレーキ解除」がメーターディスプレイに表示されていないことを確認してから発進してください。電動パーキングブレーキスイッチを押してからパーキングブレーキが解除されるまで1秒程度かかるため、電動パーキングブレーキスイッチを押してからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。

参照ページ
4-68 パーキングブレーキ★
4-71 電動パーキングブレーキ★

マニュアルトランスミッション車の発進時の注意

アドバイス

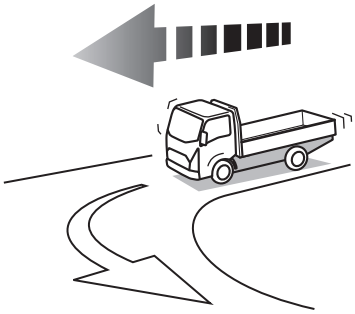
- 2 速以下（坂道発進は 1 速）で静かに発進を行ってください。3 速以上での発進や急発進、半クラッチを長く使用すると、クラッチを損傷する原因になります。

安全に運転するためには

お車を運転するときは、以下の運転を心がけてください。

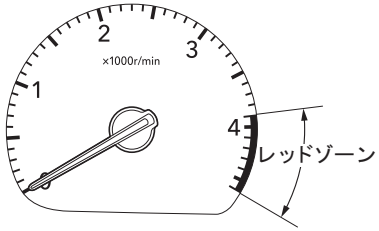


- 法規に定められた最高速度、各種表示、信号などを守り、安全運転を心がけてください。

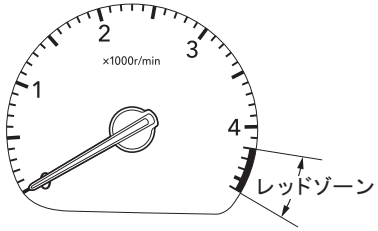


- カーブの手前では十分減速してください。カーブの途中でのブレーキ操作や急ハンドルは、荷くずれやタイヤスリップ、横転事故の原因になります。
- 走行中、変速時以外はシフトレバーに手を載せないでください。トランスミッション故障の原因になります。
- 道路の縁石等にタイヤの側面を接触させたり、道路上のへこみや突起物の乗り越しなどは避けてください。タイヤを傷つけるおそれがあり、バーストやパンクの原因になります。

4JZ1 型エンジン車



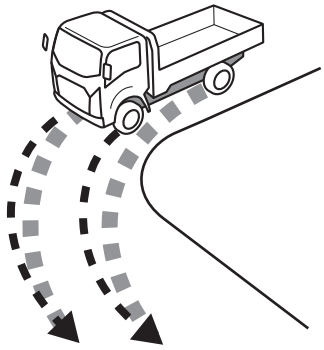
RZ4E 型エンジン車



・タコメーター（エンジン回転計）の針がレッドゾーン（赤色）に入らないよう適正速度で走行してください。

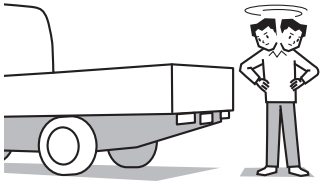
参照ページ
3-3 タコメーター（エンジン回転計）

右、左折時は



後輪が前輪よりも内側を通ります。ミラーや OK ウインドーなどで十分に安全を確認してください。

後退するときは



十分な後方の視界が得られず安全を確認できない場合は、車から降りて後方を確認してから後退してください。

停車後に発進するときは



注 意

- 信号待ちなどで停止したときは、周囲の状況に目を配り、安全確認を十分に行ってから発進する習慣を身につけてください。

車の移動は必ずエンジンを始動して

注 意

- エンジンを始動していないときは、パワーステアリング装置が働かないためハンドル操作が重くなります。また、ブレーキ装置も働かず通常に比べ効きが悪くなります。また、下り坂を利用しての車の移動は確実に車を操作できず、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

フロントガラスが曇ったら



『曇り取り』を参照して、フロントガラスの曇りを取り、澄んだ視界を確保してください。また、内外気の切り替えを外気導入にします。また、市販の曇り止めなども使用してください。

ヒーター / マニュアルエアコン付き車

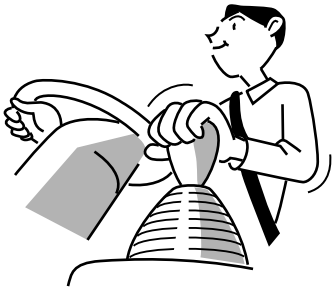
参照ページ
6-11 曇り取り

オートエアコン付き車

参照ページ
6-20 曇り取り

登り坂・下り坂の走行

登り坂や下り坂を走行するときは、適切なシフトチェンジを心がけ、次のことに注意してください。



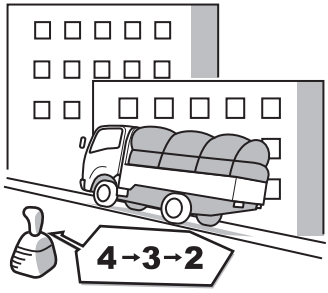
参照ページ
4-81 シフトレバー

シフトダウンには 2 つの大きな目的があります。

- 急勾配、長い坂道の降坂時におけるエンジンブレーキ。
- 登坂時における俊敏性および経済性。

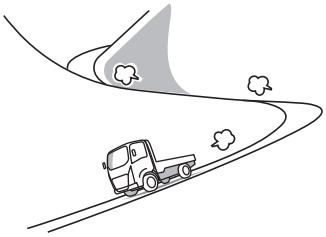
アドバイス

- エンジンをオーバーランさせるとエンジンの破損につながります。シフトダウンは必ずオーバーランさせないようにしてください。



登坂時

余裕をもって早めにシフトダウンをし、エンジンに負担をかけないようにしてください。



降坂時

- 降坂時にはスピードの出し過ぎに注意してください。
- 登り坂で使用したのと同じ変速段を使用し、さらに排気ブレーキとエンジンブレーキを併用してください。排気ブレーキや、低速ギヤでのエンジンブレーキは、フットブレーキの負担を軽くし、制動力も強く得られ、より効果的です。
- 降坂時にはエンジンをオーバーランさせないようにしてください。

参照ページ
4-159 排気ブレーキスイッチ（4JZ1 型エンジン車）

注 意

- **フットブレーキをひんぱんに使用すると、フェード現象を起こしたり、ベーパーロック現象を起こしブレーキの効きが悪くなります。**
- **排気ブレーキバルブの調整はしないでください。**

知 識

【エンジンブレーキとは】

- 走行中、アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力です。低速ギヤになるほどエンジンブレーキがよく効きます。

【排気ブレーキとは】

- 排気管を閉じ、排気ガスの力を利用してエンジンブレーキの効果を高める装置です。

【ベーパーロック現象とは】

- フットブレーキをひんぱんに使用するとブレーキが過熱し、その熱によりブレーキフルードが沸騰し、ブレーキホース内に気泡が発生します。
  いくらブレーキペダルを踏んでも気泡を圧縮するだけでホイールシリンダー内に圧力が伝わらずブレーキの効きが急激に低下する現象です。

【フェード現象とは】

- フットブレーキをひんぱんに使用するとブレーキが過熱し、その熱によりブレーキの摩擦面の摩擦力が減り、通常よりもブレーキの効きが低下する現象です。

【オーバーランとは】

- タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン（赤色）まで回転数が上がってしまうことです。

長距離を走るときは休憩を



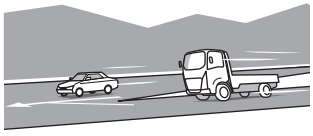
長時間、車を運転し続けるとお体は疲労してきます。こまめに休憩をしてください。高速道路での休憩は SA（サービスエリア）は約 50km ごと、PA（パーキングエリア）は約 10km ごとにありますので活用してください。

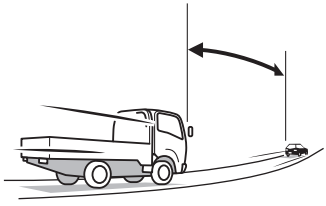
高速道路

- 高速道路では、一般道路より高速で走行するのでそれだけ危険が伴います。また、高速道路での故障は他の車の安全を妨げるばかりでなく、事故の原因にもなります。毎日の日常（運行前）点検や高速走行の運転要領を十分認識して安全運転を心掛けます。
  日常（運行前）点検を行います。下表の点検は特に念入りに行います。

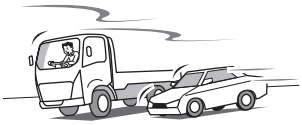
タイヤ	• 溝の深さが十分であること
エンジン	• ラジエーターなどの冷却装置から水漏れがないこと • 冷却水量が十分であること • ファンベルトの張り具合が適当であり、かつ損傷がないこと • エンジンオイルの量が適当であること
燃料タンク	• 燃料の量が十分であること

参照ページ
9-2 お出かけ前には『日常（運行前）点検』を





- 本線に合流するときは早めにターンシグナルランプ（方向指示器）で合図をし、加速車線で十分加速します。後続車、本線状況を十分確認して本線を走行する車の妨げにならないように合流します。
- 高速道路ではスピード感が非常に鈍くなります。つねにスピードメーターで速度を確認します。車間距離は十分とって走行します。車間距離はそのときのスピードメーターの針が示す数字を目安にします。例えば 80km/h で走行しているときは 80m の車間距離をとるようにします。



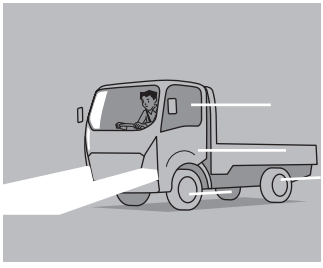
・高速走行ではわずかなハンドル操作でも車が大きく移動します。ハンドルはゆっくり操作します。
・フットブレーキの多用はブレーキライニングの早期摩耗やフェード現象を起こし、非常に危険です。エンジンブレーキ、排気ブレーキを有効に使用して減速します。

知　識

【フェード現象】
・フットブレーキをひんぱんに使用するとブレーキが過熱して、ブレーキの摩擦面の摩擦力が減り、通常よりもブレーキの効きが低下する現象です。

・本線から出るときは、早めにターンシグナルランプ（方向指示器）で合図をします。後続車の状況を十分確認し他の車の走行を妨げないようただちに本線から出ます。

夜間の走行



夜間は昼間よりも視界が狭くなり危険です。スピードを控え車間距離を十分とります。

夜の視界について



フロントガラスに油膜があると、対向車のライトが乱反射して前方が見づらくなります。ガラスクリーナを使ってガラスの表面や、ワイパーゴムをきれいにしてください。

知　識

- ワイパーゴムの摩耗は、きれいに雨をふき払うことができず視界を確保することができません。このようなときは、新品に交換してください。

参照ページ
10-101 ワイパーゴムの交換

通常路外を走行するとき

通常路外を走行するときは、以下のことに注意してください。

狭い道、混雑した道



山間部や、市街地での狭い道路、混雑した道路でのすれ違いや追越しは左右の障害物、路肩の状態に十分注意してください。

悪路の走行（砂地やぬかるみ）



ぬかるみなどに、はまってしまったときは、むやみにアクセルペダルを踏むと、穴が深くなりかえって脱出が困難になります。タイヤの下に石や木、毛布などをあてがい脱出するか、前進、後退を繰り返し慣性を利用して脱出してください。
やむを得ずひどいぬかるみを走行する場合はタイヤチェーンを装着すると有効です。

アドバイス

- 走行中の急ブレーキ、急加速および急ハンドルは、砂地やぬかるみから車が脱出できなくなることがありますのでさけてください。
- 車が脱出できなくなるような、ぬかるみを走行した場合、走行装置、ブレーキ、駆動系などに悪影響をおよぼす場合があります。洗車を行い泥などの付着物を除去してください。
- 足回りに車速感知装置が取り付けてありますので、泥などの付着物を取り除くときに部品に傷をつけないように特に注意してください。

参照ページ
10-118 車外の手入れ

悪天候時は

注 意

- **悪天候時は、視界が悪くなったり路面が滑りやすくなるため停止距離も長くなります。晴天時よりも速度をひかえて走行してください。また急ハンドルや急ブレーキをさけエンジンブレーキを併用して減速してください。滑りやすい路面で排気ブレーキを作動させるとタイヤがスリップすることがあるので注意してください。**
- **大雨などでやむを得ず冠水路などに入ってしまったときは、必ず深さを確認しながら、ゆっくりと一定速度で走行し、ただちに冠水路から脱出してください。また、他の車両の走行などによって水面に波が立っている場合は、さらに速度を落とし慎重に走行してください。**
- **エアインテークダクト（空気取り入れ口）や排気管からエンジン内部に水が入るとエンジンを破損するおそれがあります（ウォーターハンマー現象）。**

アドバイス

- 特に、水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象が起こるおそれがあります。無理のない速度で運転しましょう。

知 識

【ハイドロプレーニング現象とは】

- 路面が水でおおわれているところを高速で走行したとき、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤのグリップ力が失われタイヤが浮いた状態になり、ハンドル操作、ブレーキが効かなくなる危険な状態です。

霧のなかの走行



フォグランプを点灯し、センターラインなどをたよりに低速で走行してください。また前方を走行する車のテールランプのみを目印に走行すると錯覚を起こすので危険です。十分注意して走行してください。

横風が強いときは

横風を受け、車が横に流されるときは、ハンドルをしっかりと握り、無理の無い速度に落として、車の進路を立て直してください。
以下の場合に、大きな横風が発生することがありますので注意してください。
・トンネルの出口、橋、土手の上、切り通しを通過したとき。
・大型のトラックやバスが横を通過したとき。
・大型のトラックやバスの横を通過したとき。

冠水路走行後や洗車後は



⚠ 注 意

- やむを得ず冠水路を走行したり、駐車した場所が冠水してしまった場合、ただちに《日産販売会社》で以下の項目の点検を受けてください。
  - 水を吸い込んでのエンジン破損
  - 電装部品のショート
  - ブレーキの効き
  - ドラムブレーキ、ディスクブレーキの損傷
  - クラッチ部品の浸水や損傷
  - エンジン、トランスミッション、デファレンシャルのオイル量や変質（白濁など）
  - 各部のグリースアップ（給油脂）
- やむを得ず冠水路を走行したり、駐車した場所が冠水してしまった場合や、洗車後はブレーキの中に水が浸入して効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く踏んでブレーキの湿りを乾かしてください。

運転中に異変を感じたときは

お車の運転中に以下のような異変を感じたら、適切に対処してください。



- 車の各部から異音、異臭、異常振動などを感じたらただちに車を安全な場所に停車して点検をしてください。
- 走行中、警告灯が点灯したり、ブザー音が鳴ったときは、ただちに車を安全な場所に停車して点検をしてください。
- シフトレバーを操作するとき以外は、クラッチペダルに足を載せないでください。クラッチの早期摩耗の原因になります。
- 床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに、安全で交通の妨げにならない場所に停車し、ブレーキフルード、燃料の漏れ、各部に損傷が無いかを確認してください。万一、損傷、故障箇所があるときは、ただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

走行中はエンジンを切らないで

⚠ 危 険

- **走行中にスタータースイッチを『ON』位置以外にしないでください。以下の状況が起き、大変危険です。**
  - **ブレーキの効きが悪くなる**
  - **ハンドルやクラッチが重くなり操作が困難になる**
  - **各警告灯、表示灯などの電気回路が全て作動しなくなる**
- **走行中、スタータースイッチを『LOCK』位置にするとキーが抜けることがあり、キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり危険です。**

参照ページ
4-43 スタータースイッチ

携帯品を扱うときは

運転中の携帯電話の使用はやめて



⚠ 注 意

- 運転中に運転者がハンズフリー以外の携帯電話や自動車電話を使用することは法律で禁止されています。
- 運転者が使用するときは、安全な場所に車を停車し、使用してください。
- 運転中の使用は、周囲の状況に対する注意が不足し、思わぬ事故を招くおそれがあります。

ガスライターにも注意

⚠ 警 告

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して、火災につながるおそれがあります。

タバコを車外へ投げ捨てないで

⚠ 警 告

- 火のついたタバコや吸い殻は、車外へ投げ捨てないでください。道路やその周辺を汚すばかりでなく、捨てたタバコや吸い殻から火災が発生するおそれがあります。

経済的な運転



スピードの出し過ぎや、ノッキングが起きるほどの低速走行、排気ブレーキのスイッチの入れっぱなしや、速度調整のために頻繁に排気ブレーキを使用すると燃費を悪くします。できるだけ一定速度を保つようにします。
加速時は静かにゆっくり、変速は早め早めにします。必要以上の暖機運転や空ぶかしは燃料のムダです。過積載は法律で禁じられているだけでなく燃料のムダです。
タイヤの空気圧はこまめに点検し適正空気圧を保つようにします。

駐車や停車するときは

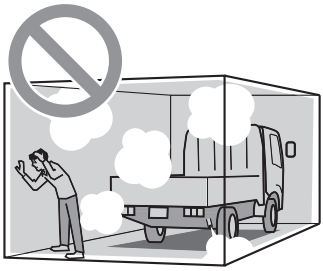
駐･停車が許可されている平らで他の交通の妨げにならない場所を選んでください。このとき、パーキングブレーキを確実に効かせ、車が動かないことを確認してください。

参照ページ
4-68 パーキングブレーキ★
4-71 電動パーキングブレーキ★

アドバイス

- 荷物を積んでの長時間駐車は避けてください。
- 車の各ランプのレンズや反射器の汚れは良くふき取り、他の車などからの視認性があがるようにしてください。

排出ガスには十分に気をつけて



⚠ 警 告

- 排出ガスには無色･無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。特に車庫内や屋内などの排出ガスが充満しやすい場所では、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷など排気管の異常に気がついたときは、お近くの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 車内に排出ガスが侵入してきたときは、すべての窓を全開にし、ヒーター / エアコンの内外気切り替えを外気導入にするなどして、新鮮な外気を車内に取り入れ換気を行ってください。また、ただちに《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

やけどや火災に気をつけて

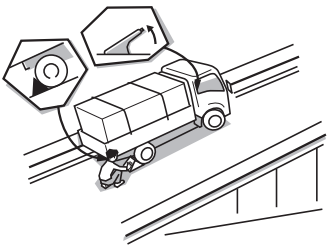


⚠ 注 意

- エンジンがかかっているときや DPD 再生中、および走行直後の排気管は高温になっています。草木や枯れ草、紙くず、油、古タイヤなど燃えやすいものがないことを確認してから駐車してください。特に、車庫内に駐車する場合は注意してください。
- アイドリング中、特に PTO 使用時または DPD 再生中は排気ガスの熱に注意してください。
- エンジンをかけたまま駐停車するときは、DPD が自動的に再生を行う場合があります。火災防止のため、マフラー、DPD、尿素 SCR および排気管の周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。また、高温の排気ガスによりやけどをするおそれがあります。
- エンジンがかかっているときや DPD 再生中、および走行直後の DPD、尿素 SCR、サイレンサー、排気管は高温になっています。キャブチルト操作、架装物の操作などのため、近くで作業する場合は誤って触れないよう十分に注意してください。やけどをするおそれがあります。

参照ページ
4-190 DPD の手動再生手順
4-193 DPD の任意手動再生手順

坂道駐車は確実に



注 意

- 坂道での駐車はできるだけ避け、平らな場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ車が動かないことを確認し、安全のためタイヤに輪止めをかける等の駐車措置をしてください。
- 万一、車が動き出した場合のことを考え、障害物（縁石など）側へハンドルを回してください。

パーキングブレーキをかけるときは

アドバイス

- 緊急時を除き、パーキングブレーキは車が完全に停止してからかけてください。停止する前にパーキングブレーキをかけるとタイヤがロックしたり、車両姿勢が不安定な状態（横滑りなど）になり、思わぬ事故を招くおそれがあります。また、車が故障する原因となります。

参照ページ
4-68 パーキングブレーキ★
4-71 電動パーキングブレーキ★

オートブレーキホールドや HSA 装置（坂道発進補助装置）を使って駐車しないで



⚠ 注 意

- オートブレーキホールドや HSA は車を一時的に停止させるための装置で、パーキングブレーキではありません。駐車の際には、必ずパーキングブレーキをしっかり効かせてください。

参照ページ
4-132 HSA（坂道発進補助装置）★
4-144 オートブレーキホールド★

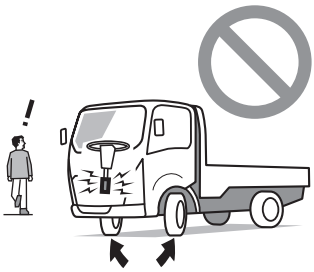
シフトレバーの『P』位置のみで駐車しないで

⚠ 注 意

- デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、シフトレバーの『P』位置のみで駐車しないでください。急勾配の坂道で、シフトレバーの『P』位置のみで駐車すると、シフトレバーが重くなり、場合によっては操作ができなくなることがあります。駐車の際には、必ずパーキングブレーキをしっかり効かせてください。

参照ページ
4-87 デュアルクラッチ式 AMT ★
4-104 オートマチックトランスミッション車 ★

ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないで



⚠ 警 告

- パワーステアリングオイルポンプのオイルが高温になり潤滑不良を起こしたり、オイルタンクの損傷やシールの劣化を招き、パワーステアリングオイルポンプやパワーステアリングユニット、パワーステアリングホース等を損傷するおそれがあり、ハンドルが急に重くなったり、火災など思わぬ事故の原因になります。

車内で仮眠するときは



⚠ 警 告

- 仮眠するときは、必ずスタータースイッチを『LOCK』位置にしてエンジンを停止してください。無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりすると車が動き出し、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
  - 無意識にアクセルペダルを踏み続けるとオーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が起こるおそれがありますので注意してください。
  - 風通しの悪い所などや、周囲の状況によっては排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒になるおそれがありますので注意してください。

エンジンをかけたまま駐停車するときは

⚠ 警 告

- エンジンをかけたまま駐停車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせて以下の操作、確認を行ってください。無意識にアクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故を起こすおそれがあります。
  - マニュアルトランスミッション車は、シフトレバーを『N』位置に操作してギヤをニュートラルにしてください。
  - デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、シフトレバーを『P』位置に操作してシフトインジケーターの「P」表示を確認してください。

停車中はシフトレバーを動かさないで

⚠ 警 告

- アイドリングで停車しているときにシフトレバーを動かさないでください。レバーを動かすとギヤが入りパーキングブレーキを使用していても車が動き出すことがあります。特に席を移動するときなどにシフトレバーにぶつかって車が動き出し思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車から離れるときは

⚠ 警 告

- 必ずパーキングブレーキを効かせエンジンを停止し、ドアを施錠してください。また、車外から見えるところに貴重品を置かないでください。
- お子様が同乗しているときは、車内にお子様を残さないでください。運転装置や装備品を触って車が発進したり、火災など思わぬ事故を起こすおそれがあります。また、炎天下の車内は高温となり非常に危険です。
- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

寒冷地や冬季の運転



北海道全域、東北や北陸の積雪地域および山岳地やスキー場などの局地的な厳寒、多雪地域が対象となりますが、その他の地域においても冬期の取り扱いの参考としてください。
愛車のために最寄りの《日産販売会社》で次の冬支度をしてください。また、寒冷地へお出かけになる方も、次の冬支度をしてお出かけください。

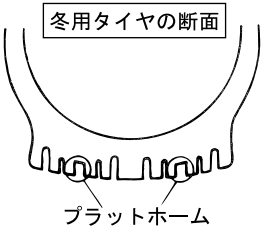
参照ページ
4-8 タイヤチェーンの取り扱い
10-3 エンジンオイル
10-15 冷却水
10-98 ウインドーウォッシャー液
10-104 バッテリー

⚠ 注 意

- 水温を上げるためラジエーター前面を新聞紙やダンボールなど燃えやすいものでカバーしないでください。
- 暖機運転をしても水温が上がらないときは最寄りの《日産販売会社》でサーモスタットの点検を受けてください。
- 雪の多い場所では、駐車時に車の周囲に雪が積もり換気が悪くなるおそれがあります。このような状況でエンジンをかけた状態にしていると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒をおこすおそれがあります。車のまわりの雪を除くなど、注意してください。

寒冷地や冬季の走行前に

冬用タイヤについて

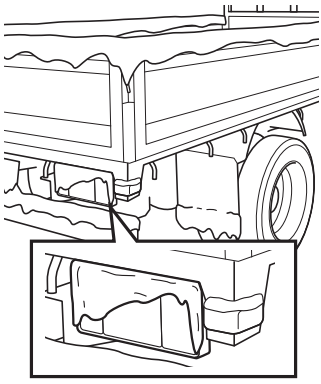


冬用タイヤは、標準タイヤと同じサイズのタイヤとディスクホイールを全輪に装着します。冬用タイヤの使用限度は、溝の深さが新品時の半分になったときです。このときプラットホームの雪上性能が発揮できなくなるサインが溝部に出てきます。新しいタイヤと交換してください。

⚠ 注 意

- 標準タイヤと同じサイズのものを全輪に装着してください。またディスクホイールは同じサイズのものを装着してください。
- 急ハンドルや急ブレーキを避けエンジンブレーキを使用して減速してください。雪道、凍結路でのブレーキ操作は、軽く数回に分けて操作します。一度に強く踏むとスリップ、横滑りなどして危険です。
- 空車時、滑りやすい路面で排気ブレーキを使用すると急ブレーキとなり、車両後方が振られ、スリップする場合があるので注意してください。
- 冬用タイヤを装着したとき、乾燥路を高速で走ることは避けてください。
- 冬用タイヤの装着については、地方条例によって違いがありますので指定条例に従って装着してください。

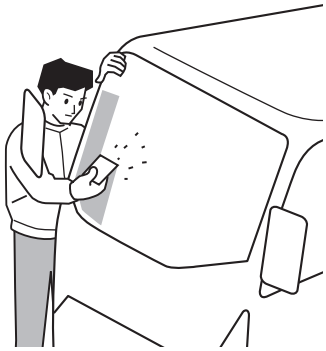
降雪地域でのランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）の取り扱い



⚠ 注 意

- 運転する前、ランプ（灯火装置）やターンシグナルランプ（方向指示器）に氷や雪が付着しているときは取り除いてください。
- 雪道走行時は定期的に車から降りてランプ（灯火装置）やターンシグナルランプ（方向指示器）に付着した雪や氷を取り除いてください。走行中、はね上げた水や雪が凍結し各ランプに堆積する場合があります。他の車などからの視認性が低くなり思わぬ事故の原因になります。

ガラスや車両足回りの雪や霜を取り除いて

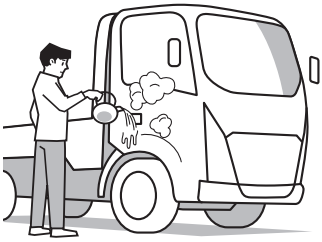


視界が確保されなくては運転は始まりません。プラスチックの板を使って取り除いてください。ガラスに傷をつけずに取り除くことができます。このとき、ワイパーゴムがガラスに凍り付いていないか確認してください。
また、車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品にキズをつけないように注意して取り除いてください。

アドバイス

- 雪を落とすときは、先のとがったものは使用しないでください。ゴム部品などを傷つけるおそれがあります。

ドアにキーが差し込めないときやドアが開かないとき



無理にキーを押し込んだり、無理にドアを引っぱったりすると、キーが変形したりドア回りのゴムがはがれたり破損するおそれがあります。この場合は、お湯をかけて氷を溶かして素早くふき取ってから開けてください。
また、ワイパーや、電動格納ミラー、パワーウインドーが凍結したら無理にスイッチの操作はしないでください。装置の故障や、バッテリー上がりを招くおそれがあります。
その後、水分を十分にふき取っておいてください。

車に乗降するときは

寒冷地ではステップが凍結していることがあります。乗降するときは、滑らないよう十分に注意してください。

運転席に座る前に



乗車するときに、靴についた雪や氷をよく落としてください。雪をつけて乗車するとペダル類が滑り、正確に踏むことができず運転が不安定になるおそれがあります。また、車内の湿気が多くなり、ガラスの曇りを招くおそれがあります。

アクセルペダル動作を確認して



エンジン始動時にアクセルペダルの作動が円滑かどうか確認してください。

燃料の量を確認して

チェーン装着時、燃費は通常に比べて悪くなります。目的地までの燃料の量を確認し、早めに燃料の補給を行ってください。

参照ページ
4-39 燃料について

寒冷地や冬季走行時の注意

雪道、凍結路での走行



⚠ 注 意

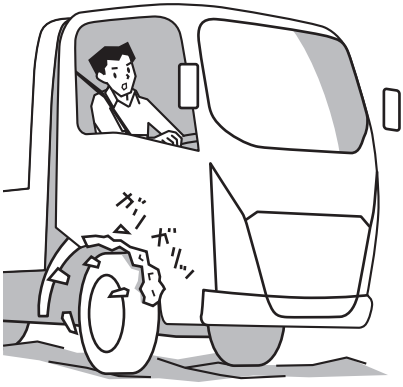
- 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキ、急減速、急ハンドルはしないでください。
- タイヤと路面とのグリップ力が低下し、制動距離が長くなるおそれがあります。特に、橋の上、日陰、水たまりは凍結しているおそれがありますのでひかえめな速度で走行し、雪道、凍結路ではスノータイヤ、タイヤチェーンを必ず装着してください。

参照ページ
4-8 タイヤチェーンの取り扱い

アドバイス

- デュアルクラッチ式 AMT 車では、発進時のギヤ段が 3 速ではない場合、ブレーキペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを『M』位置にして『+（シフトアップ）』に操作することで、マニュアルモードの 3 速発進をすることが可能です。

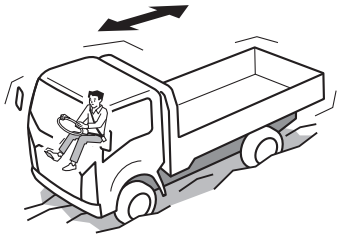
ハンドルの切れ具合に注意



⚠ 注 意

- 雪道走行時、はね上げた水や雪が凍結し、フェンダーの内側に次第にたい積してハンドルの切れが悪くなることがあります。時々、車から降りてたい積した雪を取り除いてください。雪を落とすとき、先のとがった物は使用しないでください。ゴム部品などを傷つけるおそれがあります。

ブレーキの効きをときどき確認



⚠ 注 意

- 雪道走行時または駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んで効き具合を確認してください。
- また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効きを確認してください。効きが悪い場合は低速で走行しながら、ブレーキの湿り気を乾かし、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

寒冷地や冬季の駐車について

タイヤ周辺、各ランプ回りについた雪は、できるだけその日のうちに落としておいてください。

注 意

- **寒冷地では、パーキングブレーキはかけないでください。パーキングブレーキをかけたままにすると、ワイヤーやブレーキシュー、パッドが凍結して解除できなくなることがあります。また、電動パーキングブレーキの自動作動機能は OFF に設定してください。自動作動機能が ON に設定されたままだと、パーキングブレーキが自動でかかります。**
- **デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車の場合は、シフトインジケーターが「P」を表示していることを確認して、必ず平坦な場所に駐車してからエンジンを停止してください。また、タイヤには必ず輪止めをしてください。**
- **デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車では、ギヤイン駐車はできません。ギヤイン駐車の操作をしても機能は作動しないため、ギヤイン駐車は絶対にしないでください。**
- **各部の凍結防止および始動性を良くするため、できるだけ車庫に駐車してください。**

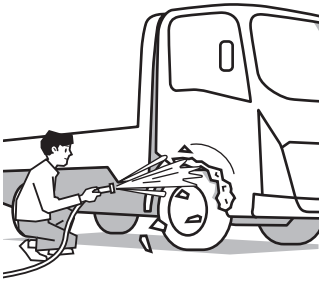


参照ページ
4-76 電動パーキングブレーキの自動作動機能の設定

知 識

- 屋外に駐車するときは、車の前部を風下に向けるなど、エンジンの保温をしてください。
- 氷塊が車の上に落ちるおそれがありますので木の下、軒下に駐車しないでください。
- マニュアルトランスミッション車は、ギヤイン駐車をするとブザーが約 30 秒作動しますが異常ではありません。

雪道走行後の手入れについて



注 意

- フェンダー内側やブレーキホースに付着した雪は取り除いてください。部品を損傷するおそれがあります。また、凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、塩分によるさびなどを防ぐため、なるべく早く車体の下回りを洗ってください。水道の水圧を上げて噴射すると効果的です。
- 洗車後は、ドア回り（ドア開口部）の水を良く取り除いてください。

参照ページ
10-119 洗車のしかた

アドバイス

- 足回りに車速感知装置が取り付けてありますので雪、氷塊などを取り除くときに部品に傷をつけないように特に注意してください。
- 雪を落とすとき、先のとがった物は使用しないでください。ゴム部品などを傷つけるおそれがあります。

寒冷地や冬季の油脂液類の取り扱い

燃料について

注 意

- 超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の燃料を使用するとエンジンや排気ガス浄化装置（DPD/ 尿素 SCR）に悪影響をおよぼし、故障の原因となるおそれがあります。万一誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。誤った燃料を入れたままエンジンを始動すると火災やエンジン損傷の原因になり危険です。
- DPD 装着車に超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の軽油を使用した場合、道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれがあります。
- フューエルキャップはゆっくりと開けてください。急に開けると燃料が噴き出るおそれがあります。

アドバイス

- 燃料は必ず超低硫黄軽油または低硫黄軽油をご使用ください。
  粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用するとフューエルフィルターおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジン各部に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。

通常、関東以南の地域では、年間を通じて特 1 号、1 号と呼ばれる軽油を使用しています。しかし、この軽油を使用して冬期に寒冷地に行った場合、燃料タンク内や燃料パイプ内で軽油が凍結する場合があり、エンジンの始動が困難になったり停止したりするというような異常を生じます。冬季または寒冷地では、気温にあった軽油を選んで補給してください。

軽油の種類	使用限界の目安温度	軽油の種類	使用限界の目安温度
JIS 特 1 号	+5 ℃	JIS 3 号	-20 ℃
JIS 1 号	-2.5 ℃	JIS 特 3 号	-30 ℃
JIS 2 号	-7.5 ℃	—	—

知　識

- 軽油は、季節および地域によって仕様が異なります。
- 前述の表は一つの目安です。バラツキもありますので、表にある温度に至っていなくても凍結することがあります。
- 温暖地域から寒冷地に行く場合には、目的地に着く程度の燃料を給油し、現地でできるだけ早く凍結温度の低い燃料を補給してください。
- フェリーなどを利用して寒冷地に行くときも、乗船前に燃料を最小限度量にしておき、現地に着いたら凍結温度の低い燃料を補給してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルについては、全シーズンを通して、日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 をご使用ください。

エンジンオイルの粘度グレード	
SAE 5W-30	日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1

参照ページ
10-7 エンジンオイルの交換

寒冷時に尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき

寒冷時、メーターディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されているときは、必ず尿素水（AdBlue® 相当）の補給を行ってから運行を終了してください。尿素水（AdBlue® 相当）を補給せずに凍結すると、尿素水（AdBlue® 相当）が解凍するまで、エンジンの始動ができない場合があります。

参照ページ
4-200 再始動禁止中（尿素水補給）警告

注 意

- **バーナーやヒーターなどを使用して、尿素水タンクを暖めないでください。**

アドバイス

- 尿素水（AdBlue® 相当）は -11 ℃で凍結します。尿素 SCR システムは、電熱線を使ったヒーター機能を装備しているので、尿素水（AdBlue® 相当）が凍結したときもエンジンの始動ができます。
- メーターディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されている状態で尿素水（AdBlue® 相当）を補給せずに凍結すると、尿素水（AdBlue® 相当）が解凍するまで、エンジンの始動ができない場合があります。常に満水になるように早めの補給に心がけてください。

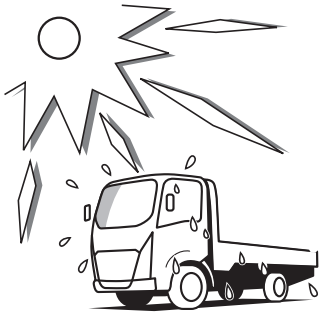
参照ページ
4-198 尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
4-198 指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください
4-203 尿素水（AdBlue® 相当）の補給
11-11 尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき

冷却水の取り扱い

冷却水の凍結によるエンジンの破損を防止するため、ロングライフクーラント（LLC）と水道水を適正な濃度で混合します。

参照ページ
10-20 冷却水の交換
10-17 ロングライフクーラントの取り扱い

炎天下や夏季の運転



夏はエンジンがオーバーヒートを起こしやすくなります。エンジンのオーバーヒートを防止するために、以下の点をお守りください。

- オーバーヒートによるエンジンの焼きつきを防止するため、適正な濃度の冷却水を使用してください。

⚠ 注 意

- **井戸水や河川の水などの硬水は水あかが生じやすいので冷却水には使用しないでください。**

参照ページ
10-15 冷却水

- ラジエーターやインタークーラー前面に泥やゴミ、ほこりなどが付いていると冷却性能が低下しますので、点検、清掃を行います。

参照ページ
10-31 ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄

アドバイス

- 夏はバッテリー液の消費が多くなりますので常に点検して液量を確認します。液量が不足している場合は補給してください。

参照ページ
10-104 バッテリー

エンジンの始動・停止

エンジンの始動・停止のしかた

スタータースイッチ

アドバイス

- エンジン始動後、スタータースイッチを『START』位置にしないでください。スターターモーターを破損するおそれがあります。
- エンジンを停止させたままで長時間オーディオなどを使用するとバッテリー上がりの原因になりますので注意してください。

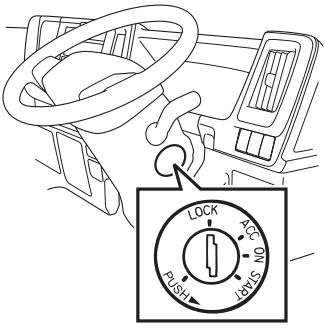
インテリジェントキー無車

警　告

- **走行中はスイッチを『LOCK』位置に回さないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ大変危険です。**

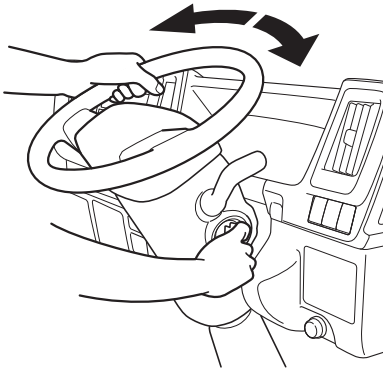
アドバイス

- キーに汚れやゴミなどが付いたまま使用すると、スタータースイッチが破損するおそれがあります。汚れやゴミなどをふき取ってから、キーを差し込んでください。



LOCK
キーを抜き差しできる位置。
キーを抜きハンドルが固定されるまで回してください。ハンドルが固定され、盗難防止になります。
『LOCK』位置にするときは、キーを『ACC』の位置で押しながら回してください。

ACC
エンジン停止時、オーディオなどが使用できます。



ON
エンジン回転中の位置。エンジン始動時、予熱をする位置。

START
エンジンを始動する位置。エンジンが始動したら、キーから手を離してください。自動的に『ON』位置に戻ります。

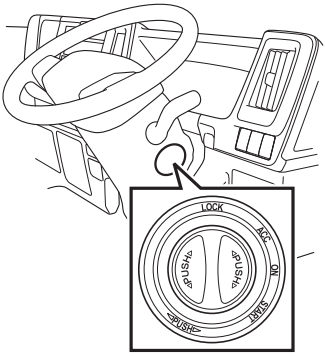
知　識

- キーが『LOCK』位置から『ON』位置に回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら回してください。

インテリジェントキー付車

警　告

- **走行中はスタータースイッチを『LOCK』位置に回さないでください。ハンドルがロックされ大変危険です。**



PUSH
スタータースイッチを押すと、インテリジェントキーのシステムがキーの確認を行い、確認できるとスタータースイッチを操作できます。

LOCK
スタータースイッチがロックされる位置。この位置でハンドルを回すとハンドルが固定され、盗難防止になります。
『LOCK』位置にするときは、スイッチを『ACC』の位置で押しながら回してください。

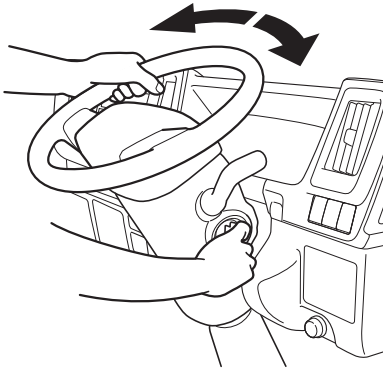
ACC
エンジン停止時、オーディオなどが使用できます。

ON
エンジン回転中の位置。エンジン始動時、予熱をする位置。

START
エンジンを始動する位置。エンジンが始動したら、キーから手を離してください。自動的に『ON』位置に戻ります。

知　識

- リモコンキーの電池が切れたときや、周囲の電波状況により、インテリジェントキーのシステムがリモコンキーを認識できないときは、スタータースイッチを回すことができません。
- スイッチが『LOCK』位置から『ON』位置に回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら回してください。



参照ページ
2-9 インテリジェントキーの電池交換
11-19 インテリジェントキーが正常に作動しないとき

エンジンの始動方法

ワイパーやライティングおよびエアコンなどの各スイッチが『OFF』になっていることを確認します。
スタータースイッチを『ON』位置にして各警告灯、表示灯の点灯、および燃料の量を確認してください。

⚠ 警 告

- スターターを約 10 秒以上連続して回し続けないでください。バッテリー、スターターの故障の原因や過熱など火災の原因になるおそれがあります。

⚠ 注 意

- マニュアルトランスミッション車はエンジンを始動する際、運転席に座り、パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。また、クラッチペダルを踏み込みながらシフトレバーが『N』位置にあることも確認し、エンジンを始動してください。
- デュアルクラッチ式 AMT 車はエンジンを始動する際、運転席に座り、パーキングブレーキが確実に効いていてシフトレバーが『P』位置にあり、シフトインジケーターに「P」が表示されていることを確認しブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンを始動してください。また、エンジン始動時には下記の点に注意してください。
  - シフトレバーを『P』から『D』、『R』位置に操作するときは、必ずエンジンが始動していることを確認してください。エンジンの始動を確認せずにシフトレバーを操作すると、スターターモーターが ON/OFF し、リングギヤなどスターター関連部品を破損するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッション車はエンジンを始動する際、運転席に座り、パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。また、ブレーキペダルを踏み込みながらシフトレバーが『P』位置にあることも確認し、エンジンを始動してください。
- エンジンの始動は必ず運転席に座って行ってください。窓越し、またはドアを開けて運転席に座っていない状態ではシフトレバーの『N』位置を確認できないため、マニュアルトランスミッション車では、万一シフトレバーが『N』位置以外でエンジンを始動すると、車が動くので注意してください。

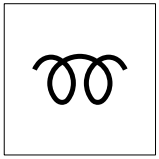
アドバイス

- 寒冷時でエンジンが冷えているときは、排気煙（白煙）が多くなる場合があります。
- 4JZ1 型エンジン車は暖機スイッチを『ON』にすることで、暖機の促進と排気煙の低減を図ることができます。
- スタータースイッチを『ON』位置にしたときや、アイドリング時にブレーキペダルを数回踏んだときに、一時的にバキュームが不足してブザーが鳴る場合があります。

参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）
3-35 バキューム警告灯

インテリジェントキー無車のエンジンの始動方法

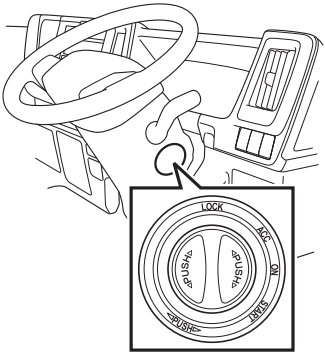
グロー（予熱）表示灯



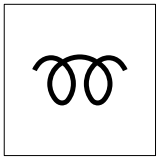
1. マニュアルトランスミッション車では、シフトレバーを『N』位置にし、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車では、シフトレバーが『P』位置にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。
2. スタータースイッチを『ON』位置にするとグロー（予熱）表示灯が点灯し、約 0.5 秒（エンジンが暖まっているとき）から約 4 秒（冷えているとき）後に消灯します。
3. グロー（予熱）表示灯が消灯したことを確認し、スタータースイッチを『START』位置まで回し、始動します。また、4JZ1 型エンジン車は、エンジン回転が不安定なときは、暖機スイッチに関係なしに、アイドリングコントロールノブを回して安定するように調整し、暖機運転をします。暖機運転後は、アイドリングコントロールノブを左にいっぱいに回しアイドリング状態にします。

インテリジェントキー付車のエンジン始動方法

1. マニュアルトランスミッション車では、シフトレバーを『N』位置にし、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車では、シフトレバーが『P』位置にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。



グロー（予熱）表示灯



2. スタータースイッチを押しながら『ON』位置にするとグロー（予熱）表示灯が点灯し、約 0.5 秒（エンジンが暖まっているとき）から約 4 秒（冷えているとき）後に消灯します。

知　識

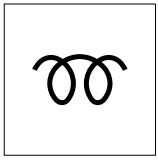
【スタータースイッチが回らないときは】

- リモコンキーが作動範囲外にあるときや電池が切れている場合など、インテリジェントキーのシステムがキーを認識できなかった場合は、スタータースイッチを『LOCK』位置から回すことはできません。
- スタータースイッチを押したときにインテリジェントキーのシステムがキーを認識できなかった場合、「キーを認証してください」がメーターディスプレイに表示され、ブザー『ピーーー …（連続）』が鳴ります。このようなときは、リモコンキーを携帯していることを確認してください。
- リモコンキーを携帯しているにもかかわらず「キーを認証してください」がメーターディスプレイに表示され、ブザー『ピーーー …（連続）』が鳴ったときは、キーの携帯位置を変え、再度スタータースイッチを操作してください。
- リモコンキーでのエンジン始動ができない場合は、『インテリジェントキーが正常に作動しないとき』を参照しエンジンを始動してください。

参照ページ
11-19 インテリジェントキーが正常に作動しないとき

3. グロー（予熱）表示灯が消灯したことを確認し、スタータースイッチを『START』位置まで回し、始動します。また、4JZ1 型エンジン車は、エンジン回転が不安定なときは、暖機スイッチに関係なしに、アイドリングコントロールノブを回して安定するように調整し、暖機運転をします。暖機運転後は、アイドリングコントロールノブを左にいっぱいに回しアイドリング状態にします。

グロー（予熱）表示灯



スタータースイッチを『ON』位置にすると点灯し、予熱が完了すると同時に消灯します。消灯を合図にエンジンを始動します。

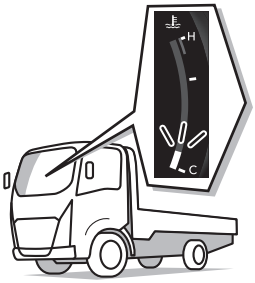
参照ページ
4-47 インテリジェントキー無車のエンジンの始動方法
4-47 インテリジェントキー付車のエンジン始動方法

知 識

【グロー（予熱）とは】

・ディーゼルエンジンは圧縮着火方式のため、冷間時では十分な着火温度が得られず、始動が困難になる場合があります。この場合、燃焼室内の圧縮空気を暖め、エンジンの始動を容易にすることをグロー（予熱）と言います。エンジンを始動するときはグロー（予熱）表示灯が消灯してから行ってください。

エンジン始動後は適切な暖機を



暖機は水温計の針が動きだす程度で十分です。

参照ページ
4-52 アイドリングコントロールノブ★
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）

警 告

- **換気の悪い場所では、一酸化炭素中毒を招くおそれがあります。エンジンを始動および暖機運転させるときは、換気の良いところで行ってください。**

アドバイス

- 暖機不足のとき（エンジンが冷えているとき）は空吹かし、急加速をしないでください。エンジンやトランスミッションなどにオイルが十分にいきわたらず、故障の原因になります。
- アイドリング中の排気管は高温になりますので草木や枯れ草、紙くず、油、古タイヤなど燃えやすいものがないことを確認してから暖機運転してください。

エンジンの始動ができないときは

注 意

- **エンジンが始動せず、再度エンジンの始動を行う場合は、2 秒以上間隔をあけてからエンジンの始動を行ってください。**
- **メーターディスプレイに「再始動禁止中」が表示され、警報音『ピーーー …（連続）』が鳴っているとエンジンが始動できません。メーターディスプレイの表示を確認し、適切な処置を行ってください。**

参照ページ
4-200 再始動禁止中（尿素水補給）警告
4-202 再始動禁止中（尿素品質異常）警告

エンジンの停止方法



パーキングブレーキを確実に効かせます。
アクセルペダルから足を離してスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にします。

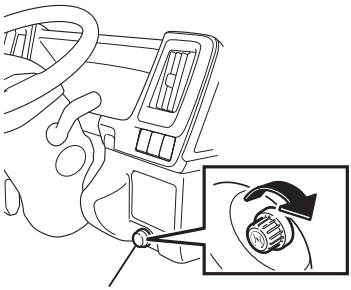
アドバイス

- 運転後、すぐにエンジンを停止すると焼き付きなど故障の原因になることがあります。パーキングブレーキを確実に効かせて以下の操作、確認を行い 3 分間程度アイドリング回転させてエンジンの温度を下げてから停止させてください。
  - マニュアルトランスミッション車は、シフトレバーを『N』位置に操作してギヤをニュートラルにしてください。
  - デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、シフトレバーを『P』位置に操作してシフトインジケーターの「P」表示を確認してください。
- バッテリー上がりの原因となりますのでエンジン停止後は必ずスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしてください。長時間放置する場合は、キーを抜いてください。

知　識

- 走行後、エンジンを止めると、マフラーからピチピチという音がすることがありますが、これはマフラーが冷えて収縮するときの音で車の異常や故障ではありません。

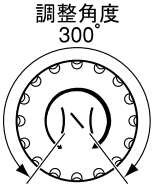
アイドリングコントロールノブ★


アイドリングコントロールノブ

4JZ1 型エンジン車
エンジンの暖機運転（ウォーミングアップ）をするときに使用します。
右に回すとアクセルペダルを踏まなくてもエンジンの回転を上げることができます。
暖機運転中以外のときは必ず、左いっぱいに戻しておきます。

⚠ 警 告

- **換気の悪い場所では、一酸化炭素中毒を招くおそれがあります。エンジンを始動および暖機運転させるときは、換気の良いところで行ってください。また、DPD の再生時には、PM の燃焼にともない白煙が一時的に発生する場合がありますので換気の悪い屋内での手動再生は行わないでください。**
- **アイドリングコントロールノブでエンジンの回転数を上げたまま走行すると急発進の原因となるほか、燃費の悪化やクラッチの寿命を縮める原因となります。必ずアイドリングコントロールノブでエンジン回転数をいっぱいに下げてから走行してください。**



アドバイス

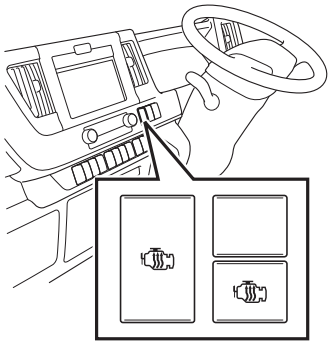
- アイドリング時にヒーターやデフロスターの効きを高めたいとき、またはアイドリング回転数を手動で上げたいときに使用します。
- アイドリングコントロールノブの調整角度の範囲は 300° になっています。この範囲を超えての操作はお車を故障させるおそれがありますので行わないでください。

知　識

- エンジン回転が不安定なエンジン始動時に、エンジン回転を安定させるために使用してください。
- DPD の手動再生を行う際に、アイドリングコントロールノブによってエンジン回転を上げているときは、左いっぱいに戻し、エンジン回転を下げてください。

参照ページ
4-50 エンジン始動後は適切な暖機を
4-184 DPD

暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）



寒冷時にエンジンの水温を早く上昇させ、ヒーターやデフロスターの効きを高めたいときや、停車中のヒーター効果を高めたいときに使用します。
エンジンを始動し、暖機スイッチを押すとメーターパネル内の暖機システム作動表示灯が点灯し、暖機を促進します。
暖機運転終了後は、もう一度スイッチを押して暖機システムを『OFF』にしてください。このとき、表示灯は消灯します。

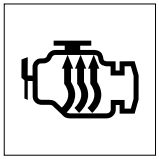
知　識

- 温暖時およびエンジンが十分に暖まっているとき、または走行中に暖機スイッチを押しても暖機システムは、作動しません。
- 暖機スイッチを押し、表示灯が点灯してもアイドリングコントロールノブを使用してエンジン回転を 1,000r/min（回転 / 分）以上にすると暖機システムは、作動しません。

参照ページ
4-50 エンジン始動後は適切な暖機を

暖機システムの警告・表示

暖機システム作動表示灯



暖機スイッチを押すと点灯します。点灯時、暖機運転に入ります。

暖機システム（RZ4E 型エンジン車）

寒冷時（外気温約 5 ℃以下）にエンジンを始動した際、自動的にアイドリング回転数を上げてエンジンの水温を早く上昇させ、ヒーターやデフロスターの効きを高めるシステムです。
暖機システムが作動すると、エンジンのアイドリング回転数が約 1,400 r/min まで上がりますが、異常ではありません。同時にメーターパネル内の暖機システム作動表示灯が点灯します。外気温が約 10° C まで上がる、またはエンジンが暖まると、暖機 システムは自動的に停止し表示灯が消灯します。

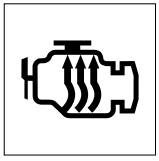
知　識

- 暖機システム作動中にブレーキペダルを踏んだ場合は暖機システムが停止し、アイドリング回転数がゆっくりと下がっていきます。

参照ページ
4-50 エンジン始動後は適切な暖機を

暖機システムの警告・表示

暖機システム作動表示灯



暖機システムが作動すると点灯します。

ecostop（エコストップ）★

ecostop システムは、長時間停車が予測される信号待ちや渋滞時に、キー操作することなく、運転者の自然な運転操作条件により、安全にエンジンを自動停止・始動させるシステムです。
このシステムによりアイドリング中のエンジン停止を行い、排気ガスの低減、アイドリング騒音の低下、燃料消費の削減を目的とした地球環境にやさしいシステムです。

注　意

- **PTO（パワーテイクオフ）を使用する際は、ecostop キャンセルスイッチを操作して、ecostop を非作動状態にし、メーターパネル内の ecostop OFF 表示灯が点灯していることを確認してください。**

ecostop の作動について

作動条件

次の条件がすべて満たされているとき、システムが作動可能状態となります。
- エンジンが十分に暖まっているとき
- バッテリー状態（充電量、電圧、バッテリーの温度など）が良好であるとき
- 排出ガス浄化装置（DPD）が再生中でないとき
- PTO を使用していないとき
- バキューム警告灯が消灯しているとき

知　識

- ターンシグナルスイッチやハザードスイッチを操作し、ターンシグナルランプ（方向指示器）が点滅しているときはエンジンの自動停止を行いません。

暖機運転したいときは

ecostop はエンジン冷却水温が、4JZ1 型エンジン車は 60 ℃以上 95 ℃未満、RZ4E 型エンジン車は 20 ℃以上 105 ℃未満で作動します。暖機スイッチなどで、完全暖機を行いたい場合は、ecostop キャンセルスイッチを操作して、ecostop を非作動状態にしてください。

アドバイス

- お車から離れるときは、盗難防止のため、必ずキーを抜いてドアを施錠してください。

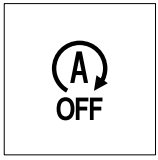
ecostop の警告・表示

ecostop 表示灯



ecostop によりエンジンが自動停止すると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

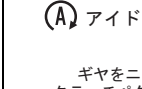
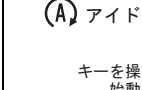
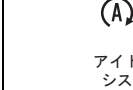
ecostop OFF 表示灯



ecostop キャンセルスイッチを操作し、ecostop を解除すると点灯します。また、ecostop システムに異常があると点滅します。

ecostop の警告・表示内容

次の場合、ecostop 表示灯、ecostop OFF 表示灯、メーターディスプレイ表示、警告ブザーで ecostop の状態がわかります。

警告・表示内容			原因・状況	処置
表示灯	メーターディスプレイ表示	警告ブザー		
 点灯		ピッ ピッ ピッ	ecostop のエンジン自動停止中にギアイン操作をしたとき（マニュアルトランスミッション車）	ギアをニュートラルに入れてから再始動してください。
 消灯		ピーー ー … （連続）	ecostop のエンジン自動停止中にキー操作などによりエンストしたとき	スタータースイッチの操作でエンジンを再始動してください。
 点滅		—	ecostop の異常を検出したとき	ecostop キャンセルスイッチを操作して非作動状態にし、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

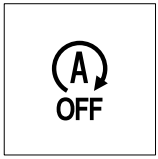
警告・表示内容			原因・状況	処置
表示灯	メーターディスプレイ表示	警告ブザー		
 消灯	(A) システム一時停止 バッテリー充電のため アイドリングストップ できません。	—	ecostop によるエンジンの自動停止が一時的にできないとき	—
	(A) システム一時停止 エアコン優先のため アイドリングストップ できません。			
	(A) システム一時停止 ブレーキ優先のため アイドリングストップ できません。			
	(A) システム一時停止 ハンドル操作のため アイドリングストップ できません。			
	(A) システム一時停止 アイドリングストップ できません。			

警告・表示内容			原因・状況	処置
表示灯	メーターディスプレイ表示	警告ブザー		
 消灯	(A) START エンジン再始動 エンジンを再始動しました。	—	エンジンが再始動したとき	—
	(A) START エンジン再始動 バッテリー充電のため エンジンを再始動しました。			
	(A) START エンジン再始動 エアコン優先のため エンジンを再始動しました。			
	(A) START エンジン再始動 ハンドル操作のため エンジンを再始動しました。			
	(A) START エンジン再始動 ドアが開いたため エンジンを再始動しました。	ピッピッピッ	ecostop によるエンジン自動停止中に、運転席ドアを開けたとき	ドアを閉めてください。また、お車を離れる場合はキーを抜いてください。
	(A) START エンジン再始動 シートベルト非装着のため エンジンを再始動しました。		ecostop によるエンジン自動停止中に、運転席シートベルトを外したとき	シートベルトを装着してください。また、お車を離れる場合はキーを抜いてください。
	(A) 運転アドバイス クラッチペダルを離すと アイドリングストップします。	—	ecostop によりエンジンが自動停止できるとき	メーターディスプレイ表示のメッセージに応じて操作を行ってください。
	(A) 運転アドバイス ブレーキペダルを踏み込むと アイドリングストップします。			

エンジンを自動的に停止、再始動させるには

マニュアルトランスミッション車

ecostop OFF 表示灯

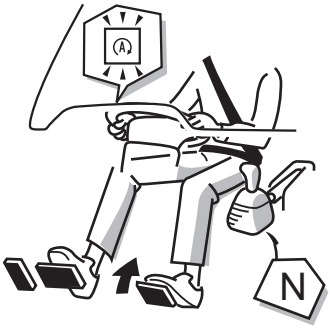


1. スタータースイッチが『ON』位置にあるとき、メーターパネル内の ecostop OFF 表示灯が点灯または点滅していないことを確認してください。

知　識

- ecostop は、エンジン始動後、常時システム作動可能な状態になります。

2. 10km/h 以上の速度で走行後、車を停止させます。



3. ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを『N』位置にし、クラッチペダルを離すと自動的にエンジンは停止し、ecostop 表示灯が点灯します。

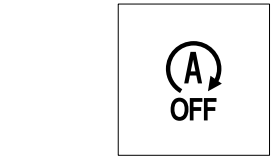
知　識

- ecostop によるエンジン停止中に油圧警告灯が点灯しますが、エンジンが再始動すると消灯します。

4. エンジンを自動停止させた状態で、ブレーキペダルを踏んだままクラッチペダルをしっかり踏むとエンジンが再始動し、ecostop 表示灯が消灯します。

デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車

ecostop OFF 表示灯



1. スタースイッチが『ON』位置にあるとき、メーターパネル内の ecostop OFF 表示灯が点灯または点滅していないことを確認してください。

知　識

- ecostop は、エンジン始動後、常時システム作動可能な状態になります。



2. 10km/h 以上の速度で走行後、車を停止させます。ブレーキペダルを右足でしっかり踏み続けるとエンジンが自動停止し、ecostop 表示灯が点灯します。

知　識

- ecostop によるエンジン停止中に油圧警告灯が点灯しますが、エンジンが再始動すると消灯します。

【オートブレーキホールドが作動しているとき】

- ecostop によるエンジン停止中にメーターディスプレイ内のオートブレーキホールド表示灯が点灯している場合は、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。

3. エンジンを自動停止させた状態で、次の操作をするとエンジンが再始動し、ecostop 表示灯が消灯します。

- ブレーキペダルから足を離したとき（オートブレーキホールド無車または、オートブレーキホールドを OFF にしているとき）
- ブレーキペダルを強く踏み込むか、アクセルペダルを踏み込んだとき (オートブレーキホールドが作動しているとき)

知　識

・次のような場合、ブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンの自動始動を行います。
　- シフトレバーを『N』または『R』位置にしたとき

【こんな症状は、異常ではありません】

・エンジン自動停止中にブレーキペダルが動いたり、作動音が聞こえる場合がありますが、これは車両が動き出さないようにブレーキ力の調整を行っているときの現象です。

エンジン停止操作について

・エンジン自動停止前に発進操作を行うと、エンジン自動停止機能がキャンセルされます。再度エンジンの自動停止を行う場合は、車速 10km/h 以上で走行してください。
・エンジン自動停止前にターンシグナルスイッチやハザードスイッチを操作したり、車両が動いたりすると、エンジンの自動停止を中断することがあります。

エンジンが停止中のエアコンについて

・エアコン作動中に ecostop によりエンジン自動停止したときは、ファンのみが作動します。エンジンが停止してから、約 1 分後にファンが止まります。

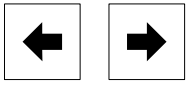
エンジン自動始動操作について

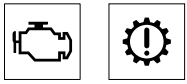
・エンジン自動停止直後に自動始動操作を行うと、スターターが作動しない場合があります。これはエンジン揺動中にスターターが作動すると、スターターやリングギヤにダメージを与えるため、確実にエンジンが停止する時間をとり、始動系装置の破損防止をしています。エンジンが確実に停止してから、再度エンジンの自動始動操作を行ってください。
・エンジン自動始動前に始動操作をやめると、エンジン自動始動機能が作動しません。この場合、再度エンジン始動操作を行ってエンジンを始動させてください。
・お車を安全にお使いいただくために、エンジンの始動が完了したことを確認してからシフトレバーを操作してください。エンジンの始動が完了する前にシフトレバーを操作した場合、エンジンの始動を中断します。

エンジンが自動的に停止しないとき

次の状況のときにエンジン自動停止操作を行っても、エンジンは自動停止しません。

参照ページ
4-62 エンジン停止操作について

状況	内容
エンジン冷却水温が低いまたは高すぎるとき 	エンジン冷却水温が 4JZ1 型エンジン車は 60 ℃未満、95 ℃以上、RZ4E 型エンジン車は 20 ℃未満、105 ℃以上のときには、エンジンの自動停止は行いません。
エンジン回転が高いとき	エンジン回転が 1,200r/min 以上のときは、エンジンの自動停止は行いません。
PTO を使用しているとき	PTO スイッチが『ON』のときは、エンジンの自動停止を行いません。
バキューム警告灯が点灯したとき 	ブレーキ倍力装置のバキュームが不足した場合は、エンジンの自動停止は行いません。
ブレーキペダルをしっかりと踏み続けていないとき（除くマニュアルトランスミッション車）	車を停止させたときに、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けていないとエンジンの自動停止を行いません。
ターンシグナルランプが点滅しているとき 	ターンシグナルスイッチまたはハザードスイッチを操作して、ターンシグナルランプが点滅しているときは、エンジンの自動停止は行いません。

状況	内容
エンジン制御警告灯、デュアルクラッチ式 AMT 警告灯が点灯、またはオートマチックトランスミッション警告灯が点滅したとき 	エンジンの自動停止を行わない場合があります。エンジンやトランスミッションなど、車両システムの故障が考えられますので、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。 デュアルクラッチ式 AMT 警告灯が点灯したときは『デュアルクラッチ式 AMT の故障時』も参照してください。
バッテリーの状態が十分でないとき	バッテリー状態（充電量、電圧、バッテリーの温度など）をモニターし、バッテリー状態が十分でないとシステムが判断したときには、エンジンを自動停止させません。
エンジン始動後、車速 10km/h 以上で走行していないとき	エンジン始動後の走行で、車速が 10km/h に達していないときは、エンジンの自動停止を行いません。
運転席シートベルトを装着していないとき	運転席シートベルトを装着していない場合には、エンジンの自動停止を行いません。
ハンドルを大きく回しているとき	ハンドルを大きく回した状態で停車した場合には、エンジンの自動停止を行いません。
プリクラッシュブレーキが作動したとき	プリクラッシュブレーキが作動して停車した場合には、エンジンの自動停止を行いません。
高負荷な運転直後のとき	坂道での登坂走行など、高負荷な運転を行った場合には、一定時間経過しないとエンジンの自動停止を行わない場合があります。
坂道で停車したとき（除くマニュアルトランスミッション車）	発進時の不意な前進や後進を防ぐため、急な坂道ではエンジンの自動停止を行いません。

<table>
<tr><th colspan="2">状況</th><th>内容</th></tr>
<tr><td colspan="2">DPD が再生を行っているとき</td><td rowspan="2">DPD の再生を優先し、エンジンの自動停止を行いません。</td></tr>
<tr><td>DPD 自動再生中

DPD の自動再生を
行っています。</td><td>DPD 手動再生中

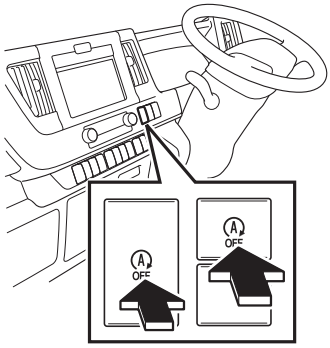
再生が完了するまで
停車して下さい。</td></tr>
<tr><td colspan="2">ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動したとき</td><td>ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動して車両が停車したときは、エンジンの自動停止を行いません。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを押したとき
（デュアルクラッチ式 AMT 車)</td><td>エンジン回転中にデュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを押した場合には、エンジンの自動停止を行いません。</td></tr>
<tr><td>エンジン自動停止中にデュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを押した場合には、エンジンの自動始動を行いません。スタータースイッチを操作して、手動でエンジンを再始動してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">冷凍機が作動しているとき（冷凍機付車）</td><td>冷凍機が作動している場合には、エンジンの自動停止を行いません。</td></tr>
</table>

知　識

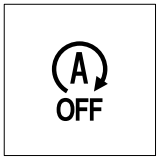
- 表の状況から復帰しても再度 10km/h 以上で走行しないとエンジンの自動停止を行いません。
- DPD の再生後は、およそ 10~15 分程度経過するまで、エンジンの自動停止を行いません。

参照ページ
4-99 デュアルクラッチ式 AMT の故障時
10-104 バッテリー

ecostop キャンセルスイッチ



ecostop OFF 表示灯



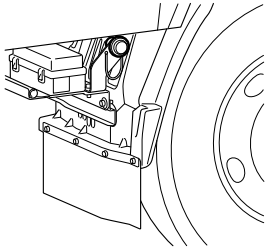
エンジン回転中にスイッチを押すと、ecostop が解除されます。同時に、メーター内の ecostop OFF 表示灯が点灯します。もう一度押すと、ecostop は復帰し、ecostop OFF 表示灯が消灯します。

知　識

- ecostop によるエンジン自動停止中に ecostop キャンセルスイッチを押すと、ecostop システムが解除されエンジンが再始動します。

参照ページ
4-60 エンジンを自動的に停止、再始動させるには
4-46 エンジンの始動方法

オイルパンヒーター用コンセント★



消防車

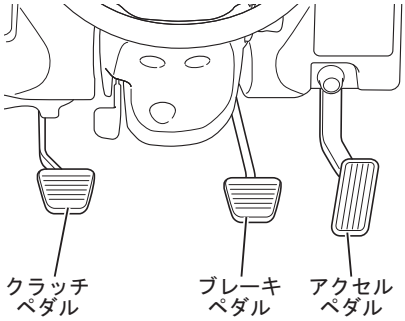
エンジンオイルを暖めるオイルパンヒーター用のコンセントです。オイルパン内のオイルの温度を約 65 ℃に保ちます。エンジン始動性の向上と暖機運転の時間短縮に使います。カバーを外して電源（交流 100V）に接続します。

アドバイス

- エンジンを始動するときには、必ず電源をコンセントから外してください。
- 使用しないときは、カバーを必ず装着してください。コンセントに異物が入ったり、水などがかかると故障につながるおそれがあります。
- ヒューズ切れに注意してください。ヒューズの容量は 10A です。

操縦のしかた

ペダル類



正しい運転姿勢をとって、ブレーキ、アクセル各ペダルの操作は右足で行います。各ペダルの踏み間違いを防ぐため各ペダルの位置を確認し、足に覚えさせてください。

警 告

- **空缶や空ビンなどが足下に転がってブレーキペダルの下にはさまると、ブレーキ操作ができなくなり大変危険です。**
- **フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。各ペダルを覆ったり重ねて敷くと、各ペダルに引っ掛かるなど確実な操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

- エンジンの空吹かしは経済運転のためにも、おやめください。
- クラッチペダルに足を載せたまま走行しないでください。知らない間に半クラッチの状態になり、クラッチ板が摩滅してクラッチすべりの原因になります。また、上り坂などの一時停止のとき半クラッチ状態にしてブレーキ代わりにしないでください。

ブレーキオーバーライド

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたときに、エンジン出力を抑制する場合があります。

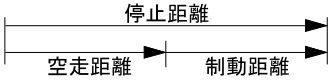
ブレーキ操作



ブレーキは軽い踏力で強力な制動力が得られます。非常時のとき以外はブレーキペダルを大きく踏み込まないでください。

1. 車速や道路状況などによって制動距離は変わりますが、エンジンブレーキ、排気ブレーキを使って十分に減速してください。
2. 目標の停止位置の手前まで、ブレーキペダルを踏み込んで停止してください。

停止距離



車が停車するまでには運転者が危険を感じ、ブレーキペダルを踏み、ブレーキが効き始めるまでに車が走る距離（空走距離）とブレーキが効き始めてから停車するまでの距離（制動距離）を合わせた距離（停止距離）を走ります。この停止距離を考えて、危険が発生しても安全に停車できるような速度と車間距離を保って運転します。

パーキングブレーキ★

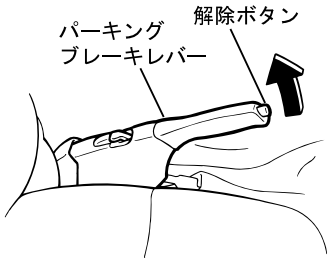
駐･停車のときはパーキングブレーキレバーを引いて車が停止状態を保持することを確認してください。

参照ページ
4-25 駐車や停車するときは

⚠ 注 意

- **緊急のとき以外は走行中に使用しないでください。**
- **停止する前にパーキングブレーキをかけるとタイヤがロックしたり、車両姿勢が不安定な状態（横滑りなど）になり、思わぬ事故を招くおそれがあります。また、車が故障する原因となります。**
- **パーキングブレーキレバーを引いたまま走行しないよう注意してください。走行中、パーキングブレーキレバーを完全に戻しておかないと故障や火災の原因となります。**
- **走行中に使用した場合は、故障していないか必ず点検してください。**

パーキングブレーキレバーの操作方法



パーキングブレーキを効かせるとき
解除ボタンを押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引きます。このとき同時に、メーター内のパーキングブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するとき
レバーを少し上に引き上げながら解除ボタンを押してレバーを下ろします。このとき同時に、メーター内のパーキングブレーキ警告灯が消灯します。

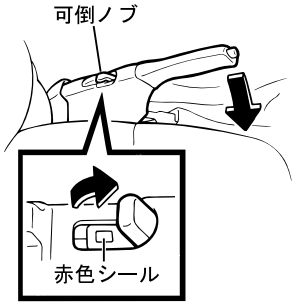
⚠ 注 意

- **パーキングブレーキ警告灯の点灯は、ブレーキの効きとは関係ありません。レバーはしっかりと引き上げてください。**

参照ページ
4-70 パーキングブレーキ警告灯

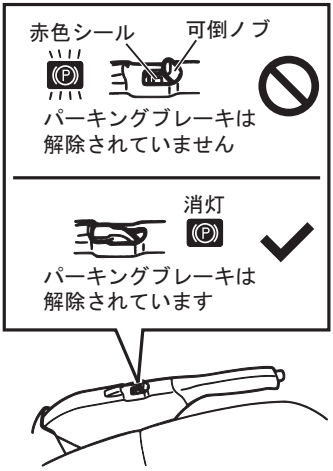
可倒式パーキングブレーキレバー付車の操作方法

パーキングブレーキを効かせたまま、パーキングブレーキレバーを下ろすことができます。



1. パーキングブレーキを効かせ、可倒ノブを引き上げます。
2. パーキングブレーキレバーを下ろします。このとき、可倒ノブの赤色シールが見える状態で、メーター内のパーキングブレーキ警告灯は点灯したままです。

3. パーキングブレーキを解除するときは、いったんパーキングブレーキレバーをもとの位置まで引き上げます。さらにパーキングブレーキレバーを少し上に引き上げながら解除ボタンを押してレバーを下ろします。このとき同時に、メーター内のパーキングブレーキ警告灯が消灯します。



⚠ 注 意

- **パーキングブレーキレバーが下りていても、可倒ノブの赤色シールが表示されているときは、パーキングブレーキを効かせた状態になっています。発進のときは、必ず可倒ノブの赤色シールが表示されていないこと、また、メーターパネル内のパーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。**

参照ページ
4-37 寒冷地や冬季の駐車について

パーキングブレーキの警告・表示

パーキングブレーキ警告灯



パーキングブレーキレバーを引くと点灯します。

パーキングブレーキの警報

次の場合、音声警報が鳴り注意を呼びかけます。

警報項目	音声警報	内容	処置
パーキングブレーキ戻し忘れ警報	ピーッ ピーッ ピーッ パーキングブレーキを確認してください。…（連続）	パーキングブレーキレバーを引いたまま走行したとき	いったん停車し、レバーを戻してから走行してください
パーキングブレーキ引き忘れ警報		パーキングブレーキを効かせずにスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしたとき	パーキングブレーキを効かせてください

電動パーキングブレーキ★

パーキングブレーキの作動と解除をモーターが行うシステムです。電動パーキングブレーキはスイッチを手動で操作するほかに、シフトレバーやアクセルペダルの操作などの特定の操作に連動させてパーキングブレーキの作動と解除が行えます。電動パーキングブレーキは、スタータースイッチの位置に関係なく効かせることができます。

⚠ 警 告

- ジャッキやアウトリガなどにより車両を上げた状態では、パーキングブレーキの操作を行わないでください。車両を下ろしたときの車両姿勢の変化により車両が動き出すおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたあとに車両姿勢が大きく変化したときは、車両が動き出す場合があります。ローダー車等の車載専用車やフェリー等の船舶に搭載した車両移動時などでは、車両を確実に固定してください。
- パーキングブレーキ警告灯が点滅したときや、電動パーキングブレーキ警告灯が点灯し、メーターディスプレイに「電動パーキングブレーキ故障」が表示されたときは電動パーキングブレーキシステムに異常があります。ただちに安全な場所に停車し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。また、やむを得ず駐車をする場合は坂道を避け、平らな場所を選んで駐車し、マニュアルトランスミッション車はギヤイン駐車して、デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車はシフトレバーを『P』位置にしてタイヤに輪止めをしてください。

⚠ 注 意

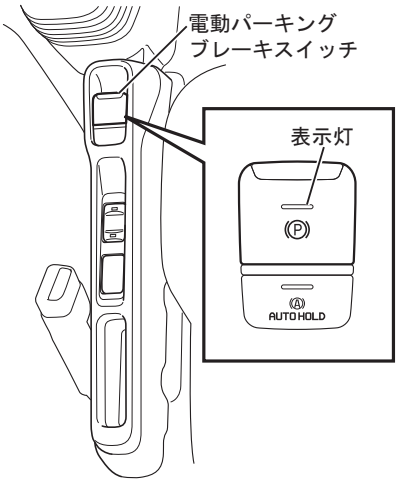
- 緊急のとき以外は走行中に使用しないでください。
- 停止する前にパーキングブレーキをかけるとタイヤがロックしたり、車両姿勢が不安定な状態（横滑りなど）になり、思わぬ事故を招くおそれがあります。また、車が故障する原因となります。
- パーキングブレーキをかけたまま走行しないよう注意してください。走行中、パーキングブレーキを完全に解除しておかないと故障や火災の原因となります。
- 走行中に使用した場合は、故障していないか必ず点検してください。

知　識

- パーキングブレーキを解除するときは、スタータースイッチを『ON』位置にしてください。
- スタータースイッチが『ACC』または『LOCK』位置のときは、電動パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキは解除されません。このとき、パーキングブレーキ警告灯が点灯します。パーキングブレーキ警告灯は約 35 秒後に消灯します。
- 次の場合、モーター音やゴトゴトと音がする場合がありますが異常ではありません。
  - 電動パーキングブレーキスイッチを操作したとき
  - 急な坂道などに停車して、パーキングブレーキを効かせたあと
  - パーキングブレーキが自動作動・自動解除したとき
- バッテリーが上がったときや電動パーキングブレーキが故障し、パーキングブレーキが解除できないときは、手動で解除することができます。

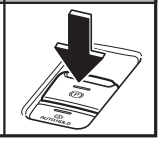
参照ページ
4-25 駐車や停車するときは
11-14 電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき

電動パーキングブレーキスイッチの操作方法



パーキングブレーキを効かせるとき
電動パーキングブレーキスイッチを引き上げるとパーキングブレーキがかかります。パーキングブレーキがかかるまでの間、メーターのパーキングブレーキ警告灯とスイッチの表示灯が点滅します。パーキングブレーキがかかると警告灯と表示灯は点灯に切り替わります。

パーキングブレーキを解除するとき
ブレーキペダルを踏みながら、電動パーキングブレーキスイッチを押すとパーキングブレーキが解除されます。パーキングブレーキが解除されるまで、メーターのパーキングブレーキ警告灯とスイッチの表示灯が点滅します。パーキングブレーキが解除されると警告灯と表示灯は消灯に切り替わります。

作動	解除
	

パーキングブレーキ警告灯

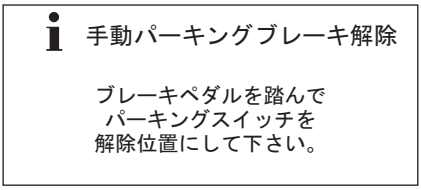


⚠ 警 告

- 電動パーキングブレーキスイッチを操作してもパーキングブレーキが効かないときや解除できないときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
- 電動パーキングブレーキスイッチの周辺に物を置いたり、スイッチに手をのせたまま走行しないでください。意図しないパーキングブレーキの作動や解除を引き起こしたり、システムが故障と判断してしまうおそれがあります。

アドバイス

- パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。電動パーキングブレーキスイッチを押してからパーキングブレーキが解除されるまで 1 秒程度かかるため、スイッチを押してからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。
- 電動パーキングブレーキスイッチを繰り返し連続して 20 秒以上操作すると、電動パーキングブレーキ警告灯が点滅し、パーキングブレーキが効いたまま解除できなくなることがあります。これはモーター保護回路の作動によるもので異常ではありません。少し時間をおくと電動パーキングブレーキ警告灯が消灯し、解除できるようになります。



知　識

- パーキングブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを踏みながら、電動パーキングブレーキスイッチを解除位置に操作してください。ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを解除位置に操作すると、メーターディスプレイに「手動パーキングブレーキ解除」が表示されパーキングブレーキは解除されません。

電動パーキングブレーキの自動作動と自動解除

スタータースイッチが『ON』位置のとき、シフトレバーの操作など特定の操作に連動してパーキングブレーキの作動と解除が自動で行われます。

警　告

- **電動パーキングブレーキの自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキのかけ忘れによって起こる事故を防ぐためのものです。万一、自動作動機能が作動しなかったとき、重大な傷害や最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

パーキングブレーキが自動で作動するとき

停車中は次の操作に連動してパーキングブレーキが作動します。パーキングブレーキがかかるまでの間、メーターのパーキングブレーキ警告灯と電動パーキングブレーキスイッチの表示灯が点滅します。パーキングブレーキがかかると警告灯と表示灯は点灯に切り替わります。

スタータースイッチ連動

パーキングブレーキ警告灯	電動パーキングブレーキスイッチ表示灯	メーターディスプレイ表示	作動条件
点灯	点灯	—	スタータースイッチを『ON』位置から『ACC』、『LOCK』位置へ操作したとき

離席連動

ブザー音	メーターディスプレイ表示	作動条件
ピーッ ピーッ …（約 6 秒）	Ⓟ パーキングブレーキ自動作動 離席を検知したことにより パーキングブレーキが 作動しました。	運転席シートベルトを外し、運転席ドアを開いたとき ※

※： 離席連動はシフトレバーが『R』位置のときは作動しません。

シフトレバー連動（マニュアルトランスミッション車を除く）

パーキングブレーキ警告灯	電動パーキングブレーキスイッチ表示灯	メーターディスプレイ表示	作動条件
点灯	点灯	—	シフトレバーを『P』位置へ操作したとき

パーキングブレーキが自動で解除されるとき

発進時に次の条件を満たしている場合は、アクセルペダルの踏み込みに連動してパーキングブレーキが解除されます。パーキングブレーキが解除されるまで、メーターのパーキングブレーキ警告灯と電動パーキングブレーキスイッチの表示灯が点滅します。パーキングブレーキが解除されると警告灯と表示灯が消灯に切り替わります。

- 運転席ドアが閉じられている
- 運転席シートベルトが装着されている
- エンジン回転中
- シフトレバーが『D』、『M』または『R』位置（マニュアルトランスミッション車を除く）
- シフトレバーが『N』位置以外でクラッチが接続されている（マニュアルトランスミッション車）

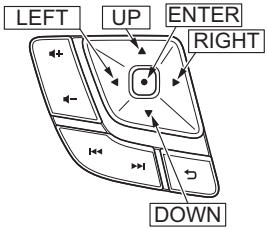
知　識

- ドライバー異常時対応システム (EDSS) が作動している間は、パーキングブレーキは自動解除されません。ドライバー異常時対応システム (EDSS) を解除した後、パーキングブレーキを解除してください。

参照ページ
5-132 ドライバー異常時対応システム（EDSS）★

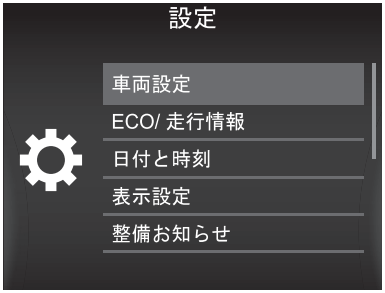
電動パーキングブレーキの自動作動機能の設定

メーターディスプレイの「車両設定」画面から、電動パーキングブレーキの自動作動機能の設定を変更することができます。



1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「ブレーキ」→「電動パーキングブレーキ」→「キーオフ自動作動」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』を押し、電動パーキングブレーキの自動作動を以下から選択し切り替えます。『ENTER』で決定します。

表示名	説明
自動作動 OFF	電動パーキングブレーキの自動作動機能が OFF になります。
自動作動 ON	電動パーキングブレーキの自動作動機能が ON になります。
離席連動 OFF	電動パーキングブレーキの離席連動を除いた自動作動機能が ON になります。

電動パーキングブレーキの警告・表示

パーキングブレーキ警告灯



スタータースイッチが『ON』位置のときは、パーキングブレーキを効かせると点灯します。『ACC』または『LOCK』位置のときは、電動パーキングブレーキスイッチを引く、または押すと約 35 秒間点灯します。また、電動パーキングブレーキシステムに異常がある場合は点滅します。ただちに安全な場所に停車し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

⚠ 警 告

- **スタータースイッチを『ON』位置にしたとき点灯し、約 3 秒後に消灯したときはパーキングブレーキが解除されています。パーキングブレーキを効かせるか、フットブレーキを踏み込んでください。**
- **電動パーキングブレーキスイッチを操作してもパーキングブレーキ警告灯が点灯または消灯しないときは、電動パーキングブレーキシステムに異常があります。ただちに最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。**

知　識

- パーキングブレーキを効かせた状態で、スタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にすると、警告灯が約 35 秒点灯し続けますが異常ではありません。

電動パーキングブレーキ警告灯



電動パーキングブレーキシステムに異常があるときに点灯します。点灯したときは、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知　識

- 電動パーキングブレーキスイッチを繰り返し連続して 20 秒以上操作したことにより、モーター保護回路が作動してパーキングブレーキが効いたときは点滅しますが、少し時間をおくと消灯します。

電動パーキングブレーキの警報

次の場合、警告灯の点灯・点滅、メーターディスプレイ表示および警告ブザー（警報音･音声警報）を鳴らし、注意を呼びかけます。

警告灯	メーターディスプレイ表示	警告ブザー（警報音･音声警報）	内容	処置
 ※1（点灯）	—	ピーッ ピーッ ピーッ パーキングブレーキを確認してください。…（連続）	**パーキングブレーキ戻し忘れ警報** パーキングブレーキを効かせたまま走行したとき	いったん停車し、パーキングブレーキを解除してから走行してください
ー			**パーキングブレーキ引き忘れ警報** パーキングブレーキを効かせずにスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしたとき（自動作動を OFF にしているとき）	パーキングブレーキを効かせてください
ー	手動パーキングブレーキ解除 ブレーキペダルを踏んで パーキングスイッチを 解除位置にして下さい。	—	**ブレーキペダル踏み忘れ警報** ブレーキペダルを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチで解除しようとしたとき	ブレーキペダルを踏みながら、電動パーキングブレーキスイッチを押してください
 ※1（点灯）	車両ずり下がり検知 ブレーキペダルを踏んで下さい。	ピーッ ピーッ …（連続）	**車両動き出し警報** パーキングブレーキの作動中に、車両が動き出したとき	ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで車両を停車させてください
 ※1（点滅→点灯）	パーキングブレーキ自動作動 離席を検知したことにより パーキングブレーキが 作動しました。	ピーッ ピーッ …（約 6 秒）	**パーキング作動警報（離席連動）** 離席連動によってパーキングブレーキが自動作動したとき	ー

警告灯	メーターディスプレイ表示	警告ブザー（警報音・音声警報）	内容	処置
 ※1（点灯）	Ⓟ パーキングブレーキ作動中 パーキングブレーキが作動中です。	ピーッ ピーッ ピーッ パーキングブレーキを確認してください。…（連続）	**パーキング作動警報（走行中）** 走行中に電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき	いったん停車し、パーキングブレーキを解除してから走行してください
 ※2（点灯）	Ⓟ 電動パーキングブレーキ故障 電動パーキングブレーキシステムの異常を検知しました。販売会社へご連絡下さい。	—	**電動パーキングブレーキ故障警報** 電動パーキングブレーキシステムに故障が発生したとき	ただちに安全な場所に停車し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください

※1： パーキングブレーキ警告灯
※2： 電動パーキングブレーキ警告灯

知　識

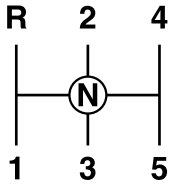
【マニュアルトランスミッション車】

- ギヤイン駐車をすると、パーキングブレーキ引き忘れ警報が作動しますが故障ではありません。

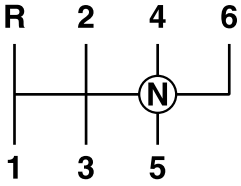
シフトレバー

マニュアルトランスミッション車★

MYY 型 5 速



MYY 型 6 速



変速するとき、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで操作します。
『R（後退）』位置にするとバックアップランプが点灯し、同時に警報音『ピーッ ピーッ …（連続）』、音声警報付車は音声警報「車が動きます ご注意ください ピーピーピー･バックします（連続）※」が鳴ります。

※： 警報内容「車が動きます」は 1 回目の音声警報時のみ

アドバイス

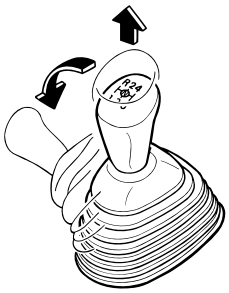
- 前進から後退または、後退から前進へ変速するときは、車が完全にとまってから行ってください。
  トランスミッション破損の原因となります。

マニュアルトランスミッションの警告・表示

状況に応じ以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

メーターディスプレイ表示	警告ブザー（警報音）	内容	処置
クラッチ滑り注意 長時間半クラッチを使用しないで下さい。	ピピッ	**半クラッチ警報** 半クラッチの状態が一定時間継続したとき	クラッチを徐々につなぐか、減速し停車してください
クラッチ滑り注意 クラッチペダルに足を乗せたまま走行しないで下さい。	ピピッ	**クラッチペダル足乗せ警報** クラッチペダルに足を乗せたまま走行したとき	クラッチペダルから足を放してください
シフトチェンジ注意 トランスミッションの故障につながるシフトチェンジです。	ピピッ	**シフトチェンジ注意警報** 走行速度に適していないギヤ段への変速操作が行われたとき	—（変速が完了すると表示が消えます）

シフトレバーの倒しかた★



シフトレバーを助手席側に倒すことができます。シフトレバーの先端を引き上げ、助手席側に倒します。

⚠ 注 意

- シフトレバーを倒すときはエンジンを停止させ、パーキングブレーキをかけてから行ってください。

デュアルクラッチ式 AMT 車★

シフトレバーを動かし、各ギヤポジションにシフトチェンジします。

参照ページ
4-87 デュアルクラッチ式 AMT ★

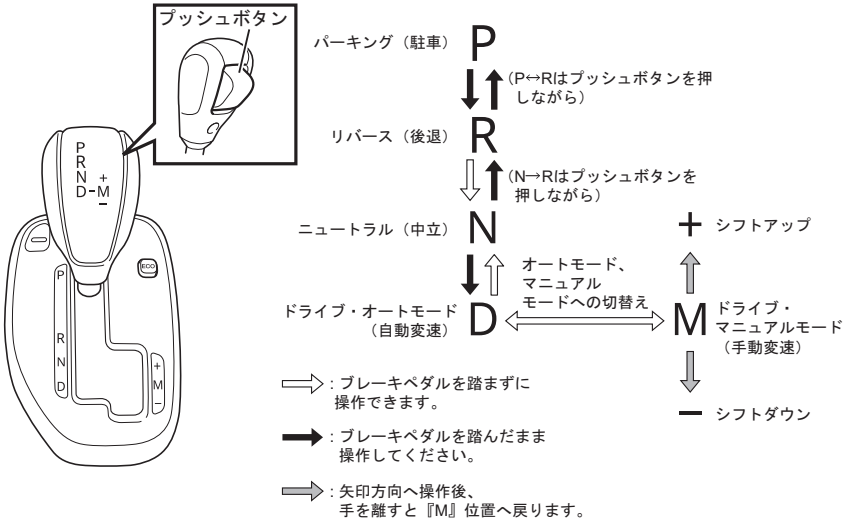
警 告

- **停車中にシフトレバーを操作する場合は、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでシフトインジケーターの表示が点滅から点灯に変わるまで、ブレーキペダルは踏み込んでいてください。シフトインジケーターが点滅中は変速中であり、クリープ力が働かないため、ブレーキペダルを離すと坂道などでは車両が下がり思わぬ事故を起こすおそれがあります。**

知 識

- エンジン停止中は、シフトレバーを操作してもギヤポジションは切り替わりません。ギヤポジションの切り替えは、エンジンを始動して行ってください。
- エンジン回転中の停車時は、シフトロック機能が働きます。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを『P』から『D』または『R』位置に操作することはできません。発進する際は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。

参照ページ
4-102 シフトロック機能について



シフトインジケーター

シフトレバーの位置		メーター内シフトインジケーター	ギヤポジション
P		P	**パーキング（駐車）** 駐車およびエンジンを始動するときの位置
R		R	**リバース（後退）** 後退させるときの位置
N		N	**ニュートラル（中立）** エンジンの駆動力が伝わらず、前進も後退もしません。この位置でもエンジンを始動することができますが、安全のため『P』位置で始動するよう習慣づけてください。
D		D	**ドライブ・オートモード（前進・自動変速）** 速度に応じて自動的に適切なギヤに切り替わります。
M	＋	M1～M9	**ドライブ・マニュアルモード（前進・手動変速）** ＋（シフトアップ）、－（シフトダウン）の操作により、希望するギヤ段に変速されます。
	－		

オートマチックトランスミッション車★

シフトレバーを動かし、各ギヤポジションにシフトチェンジします。

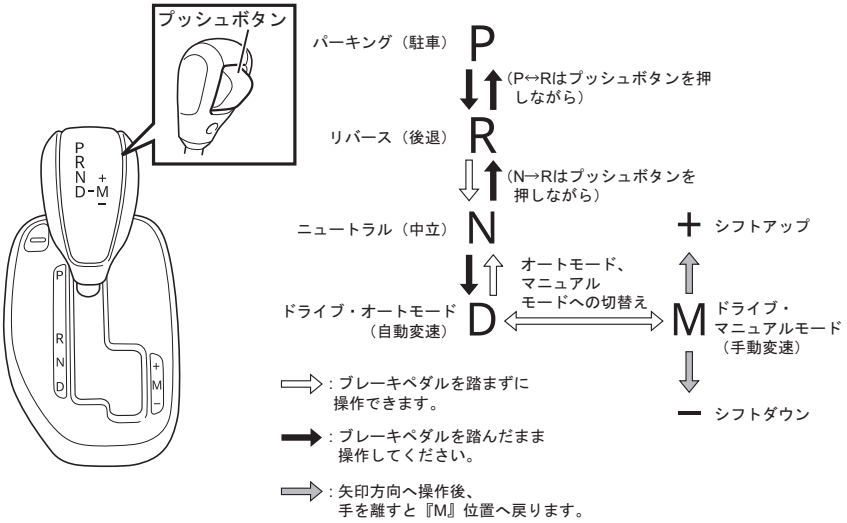
参照ページ
4-104 オートマチックトランスミッション車★

⚠ 警 告

- シフトレバーを操作するときは、安全のため必ずシフトレバーの位置とシフトインジケーター表示を目で確認してください。
- 常にプッシュボタンを押しながらシフトレバーを操作していると、思いがけずシフトレバーが『P』位置や『R』位置に切り替わってしまうことがあります。必要なとき以外はプッシュボタンを押さないでください。
- シフトレバーを『N』位置から『D』位置、または『D』位置から『N』位置に操作するときは、プッシュボタンを押さないでください。誤った使用は事故の原因となるおそれがあります。

知　識

- エンジン回転中の停車時は、シフトロック機能が働きます。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを『P』から『D』または『R』位置に操作することはできません。発進する際は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。



シフトインジケーター

シフトレバーの位置		メーター内シフトインジケーター	ギヤポジション
P		P	**パーキング（駐車）** 駐車およびエンジンを始動するときの位置
R		R	**リバース（後退）** 後退させるときの位置
N		N	**ニュートラル（中立）** エンジンの駆動力が伝わらず、前進も後退もしません。この位置でもエンジンを始動することができますが、安全のため『P』位置で始動するよう習慣づけてください。
D		D	**ドライブ・オートモード（前進・自動変速）** 速度に応じて自動的に適切なギヤに切り替わります。
M	＋	M1～M6	**ドライブ・マニュアルモード（前進・手動変速）** ＋（シフトアップ）、－（シフトダウン）の操作により、希望するギヤ段に変速されます。
	－		

デュアルクラッチ式 AMT ★

デュアルクラッチ式 AMT 車はクラッチペダル操作を必要とせずに、シフトレバー操作、アクセル操作、ブレーキ操作のみで発進、変速、停車ができます。デュアルクラッチ式 AMT 車の特性をよく理解し、正しく操作する習慣をつけてください。停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてシフトレバーを『P』または『N』位置にしてパーキングブレーキも効かせるように心がけてください。

⚠ 警 告

- **停車中は平坦路であっても車が動きださないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてシフトレバーを『P』または『N』位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時、DPD 再生時などは自動的にエンジン回転が上がり、クリープ現象が通常時と比べ強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。**

知 識

- アイドリングコントロールノブでエンジン回転数を高くすると、クラッチがつながる際にショックが大きくなることがあります。シフトレバーを『D』、『M』または『R』位置に操作するときは、アイドリングコントロールノブを左いっぱいに戻してください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用してアクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度調整するとスムーズに行えます。

【クリープ現象】

- エンジン回転中にシフトレバーが『D』、『M』または『R』位置にあるとアクセルペダルを踏まなくても動力がつながった状態になり車が動きだそうとする現象をいいます。また、クリープ現象はエンジン回転数が高くなるほど強くなり車が動こうとする力が強くなります。

デュアルクラッチ式 AMT の使い方

⚠ 警 告

- シフトレバーを走行中に『P』位置にしないでください。走行中にシフトレバーを『P』位置にすると、異音、異常振動が発生し、場合によってはトランスミッション部品の破損や重大な事故につながるおそれがあります。
  シフトレバーを『P』位置にするときは、車が完全に停車したことを確認してからシフトレバー操作を行ってください。
- シフトレバーを『D』、『M』または『R』位置にすると、クリープ現象により車が動き出します。発進時は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進となり、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 注 意

- エンジンの始動は、シフトレバーを『P』位置にし、シフトインジケーターが「P」を表示し、パーキングブレーキが効いていることを確認して、ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンを始動してください。また、エンジン始動時には下記の点に注意してください。
  - シフトレバーを『P』から『D』、『R』位置に操作するときは、必ずエンジンが始動していることを確認してください。エンジンの始動を確認せずにシフトレバーを操作すると、スターターモーターが ON/OFF し、リングギヤなどスターター関連部品を破損するおそれがあります。
- シフトレバーを『P』または『N』から『D』、『R』位置に操作するときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンがかかっている状態で、シフトレバーを『D』、『M』または『R』位置に入れたまま、運転席を離れることはやめてください。車が動き出すおそれがあります。
  運転席を離れるときは必ず、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを『P』位置にしてください。

アドバイス

- 車を少しだけ移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルをしっかりと踏めるようにしてください。
- 後退するときは、体をひねった姿勢になり、ペダル操作がしづらくなります。ブレーキペダルは確実に踏み込んでください。また、後退したあとは、すぐにシフトレバーを『P』または『N』位置に戻す習慣をつけてください。発進時にはシフトレバーの位置および、シフトインジケーターの表示を目で確認してください。
- 切り返し時、前進から後退、後退から前進に繰り返しシフトレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車が完全に停車したことを確認してから次のシフトレバー操作を行ってください。
- デュアルクラッチ式 AMT 車はシフトレバーが『D』位置のとき、停車中の道路の勾配状況に応じて、1 速 ~ 3 速の最適な発進段に自動で切り替わります。
  積荷がある場合などで強い駆動を必要とするときは、ブレーキペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを『M』位置にして『－（シフトダウン）』に操作することで、1 速または 2 速発進への切り替えができます。（シフトレバー操作で切り替えたときは、マニュアルモードでの変速となります。）

発進するには［通常の発進］



1. ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトレバーが『P』位置であること、シフトインジケーターが「P」を表示していることを確認します。パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してスタータースイッチを『ON』位置にします。
2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏み込んだままエンジンを始動し、シフトレバーを前進は『D』、後退は『R』位置に操作します。シフトレバー操作に連動して自動的にクラッチが切れ、ギヤポジションが切り替わり、自動的にクラッチがつながります。このとき、変速はオートモード（自動変速）となります。

D / R

3. シフトインジケーターが発進ギヤ段（前進は「D」後退は「R」）を表示していることを確認し、パーキングブレーキを解除して、ブレーキペダルを離し、ゆっくりとアクセルペダルを踏み込みます。アクセルペダルの踏み込み量に応じて発進します。

アドバイス

- 電動パーキングブレーキ付車は、パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。電動パーキングブレーキスイッチを押してからパーキングブレーキが解除されるまで 1 秒程度かかるため、電動パーキングブレーキスイッチを押してからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。

知　識

- エンジン停止中は、シフトレバーを操作してもギヤポジションは切り替わりません。ギヤポジションの切り替えは、エンジンを始動して行ってください。
- エンジン回転中の停車時は、シフトロック機能が働きます。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを『P』から『D』または『R』位置に操作することはできません。発進する際は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。

参照ページ
4-102 シフトロック機能について

発進するには［急な坂道での発進］

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み、パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。
2. ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを前進は『D』後退は『R』位置に入れます。（発進時に強い駆動力が必要な場合は、マニュアルモードに切り替えて、1 速または 2 速を選択してください。）
3. シフトインジケーターに発進ギヤ段（前進は「D」後退は「R」）を表示していることを確認し、周囲の安全を確認し、右足をブレーキペダルから離し、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。
4. 車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進します。

⚠ 警 告

- **デュアルクラッチ式 AMT 車は、発進時の速度調整をアクセル操作のみで行います。アクセル操作は慎重に行ってください。**
- **アクセルペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進となり思わぬ事故の原因になります。**
- **シフトインジケーター点滅中はギヤの変速途中です。タイヤに駆動力は伝わっていないため、坂道で車が下がる場合があります。**
  必ず、シフトインジケーターの点灯が確認できるまで、ブレーキペダルを踏み込んだままにしてください。

アドバイス

- 停車時にシフトレバーを『D』、『M』または『R』位置で、ブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けないでください。故障の原因になります。
- 坂道で停車するときは、必ずブレーキを効かせてください。アクセルペダルを踏み込みクリープ現象を強くした状態で停車し続けると故障の原因になります。

知 識

- シフトレバーが『D』位置のときは停車中の道路の勾配状況に応じて、1 速 ~ 3 速の最適な発進段に自動で切り替わります。
- 積荷などで強い駆動力を必要とする場合は、停車時にブレーキペダルを踏み込みシフトレバーを『M』位置にして「－（シフトダウン）」操作を行い、1 速または 2 速を選択して発進してください。
- 信号待ち等で停車の際は燃費向上のため ecostop 無車はシフトレバーを『N』位置にすることをお奨めします。ecostop 付車は、ecostop システムによりエンジンが自動停止した場合、シフトレバーは『D』位置のままにしてください。『D』位置以外に操作するとエンジンが再始動してしまいます。

参照ページ
4-55 ecostop（エコストップ）★

変速するには［オートモード］

D

- シフトレバーを『P』または『N』から『D』位置にしたときは、自動変速となります。このとき、シフトインジケーターに「D」が表示されていることを確認してください。

注 意

- **急な登坂道では、オートモードで走行するとシフトアップ / ダウンを繰り返し、走行が困難となる場合があります。その場合は、マニュアルモードに切り替え、ギヤ段を固定して走行してください。**
- **降坂路等でアクセルペダルを踏み込み、加速しながら走行している場合、トランスミッション保護のため、排気ブレーキが自動で作動することがあります。車速が低下すれば、排気ブレーキは自動で解除されます。**

知 識

- 連続した登坂道や渋滞路などでは、オートモードより一定のギヤ段で走行できるマニュアルモードのほうが走りやすいことがあります。マニュアルモードに切り替えて走行することをお奨めします。
- ECONO モードで走行することにより燃費を向上することができます。

参照ページ
4-95 ECONO モード

変速するには［マニュアルモード］

M 1 ～ M 9

- マニュアルモードで変速する場合は、シフトレバーを『M』位置に操作して希望するギヤ段へ『＋（シフトアップ）』、『－（シフトダウン）』操作します。このとき、シフトインジケーターに希望のギヤ段が表示されていることを確認してください。
- シフトレバー操作に連動して自動的にクラッチが切られ、ギヤポジションが切り替わるとクラッチが自動的につながりシフトアップ / ダウンともに同様の操作で変速可能です。
- マニュアルモードにすると自動変速されません。オートモードに戻す場合は、シフトレバーを『D』位置に操作し、シフトインジケーターに「D」が表示されていることを確認してください。

アドバイス

- 変速は車の速度に応じた適切なギヤ段へ行ってください。不適切なギヤ段へ操作した場合、警告ブザー『ピーーー …（連続）』または『ピーッ ピーッ …（連続）』が鳴り変速されません。
- マニュアルモードで不適切なギヤ段を使用して走行を続けると故障の原因になります。その際には、自動で適切なギヤ段へシフトダウンします。
- 変速操作直後にアクセルペダルを強く踏み込むと、スムーズに走行できず、また故障の原因になります。アクセル操作は余裕をもってゆっくり行ってください。

知　識

- 後退でのプラットホーム着けなどで、微妙な速度調整を必要とする場合は、クリープ現象を利用してアクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度調整するとスムーズに行えます。
- 停車中にオートモード（『M』から『D』に操作）にしても変速は行われません。走行後に自動変速が行われます。

停車するには

1. 右足でブレーキペダルを踏み、車の速度を下げて停車します。特別な変速操作は必要ありません。
   停車後は、オートモード、マニュアルモードとも自動的に発進ギヤ段に切り替わります。
2. 停車中はシフトレバーを『P』または『N』位置にしてください。停車時間が長くなりそうなときはパーキングブレーキを効かせます。

注　意

- **運転席から離れるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを『P』位置にし、シフトインジケーターが「P」表示になっていることを確認してください。**

アドバイス

- 停車時にシフトレバーを『D』、『M』または『R』位置でブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けないでください。故障の原因になります。
- 坂道で停車するときは、必ずブレーキを効かせてください。アクセルペダルを踏み込みクリープ現象を強くした状態で停車し続けると故障の原因になります。

知 識

- 信号待ち等で停車の際は燃費向上のため ecostop 無車はシフトレバーを『N』位置にすることをお奨めします。ecostop 付車は、ecostop システムによりエンジンが自動停止した場合、シフトレバーは『D』位置のままにしてください。『D』位置以外に操作するとエンジンが再始動してしまいます。

参照ページ
4-55 ecostop（エコストップ）★

駐車するには

P

1. 右足でブレーキペダルを踏み込んだままパーキングブレーキを効かせます。
2. シフトレバーを『P』位置にし、シフトインジケーターが「P」表示になっていることを確認して、右足をゆっくりブレーキペダルから離します。
3. エンジンを停止します。

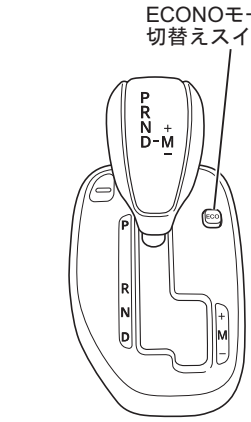
注 意

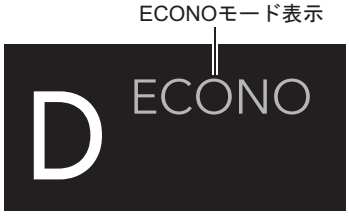
- **坂道での駐車はできるだけ避け、平らな場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ車が動かないことを確認し、安全のためタイヤに輪止めをかける等の駐車措置をしてください。**
  パーキングブレーキを効かせ、シフトレバーを『P』位置にしてください。
- **万一、車が動き出した場合のことを考え、障害物（縁石など）側へハンドルを回してください。**
- **シフトレバーの『P』位置のみで駐車しないでください。急勾配の坂道で、シフトレバーを『P』位置のみで駐車すると、シフトレバーが重くなり、場合によっては操作ができなくなることがあります。駐車の際には、必ずパーキングブレーキをしっかり効かせてください。**

こんな操作がデュアルクラッチ式 AMT の故障を招きます！

故障を招く運転操作	故障の症状
• 上り坂でシフトレバーを『D』または『M』位置に入れたままアクセルを吹かしながらブレーキ代わりにして停車する。 • アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏み込む。 • 不適切なギヤ段で走行を続けたとき。 • 過度な発進、停止を繰り返したとき。	• クラッチオイルが過熱する。
• アクセルを吹かしエンジンの回転を上げた状態で、シフトレバーを操作する。	• トランスミッションのギヤまたは、クラッチに無理な力がかかる。
• 走行中スタータースイッチを切る。 • 長い下り坂を『N』位置のまま走行する。（エンジンブレーキが効かなくなり危険です。）	• トランスミッションの潤滑不良を起こす。

ECONO モード



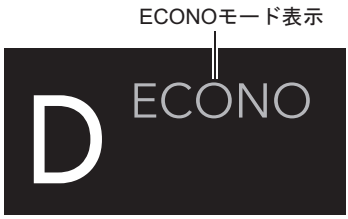


オートモード（自動変速）走行時は、走行燃費が向上する ECONO モードになっています。
ECONO モード切替えスイッチを押すと、ECONO モードがキャンセルされ、メーターディスプレイ内の ECONO モード表示が消灯します。
ECONO モードをキャンセルすると、より力強い走行が可能になります。

知　識

• マニュアルモードのときは ECONO モードに切り替えることはできません。
オートモード中に ECONO モードを選択している場合、マニュアルモード（『D』から『M』に操作）にすると ECONO モード表示が消灯します。
再度、マニュアルモードからオートモード（『M』から『D』に操作）にすると ECONO モードになり、ECONO モード表示が再点灯します。

ECONO モード表示



ECONO モードのときに点灯します。

デュアルクラッチ式 AMT の警告・表示

次のときに、デュアルクラッチ式 AMT 警告灯、メーターディスプレイ表示および警告ブザー（警報音･音声警報）が作動し、警報します。

警告ブザー（警報音･音声警報）のみで警報を行うとき

内容	メーターディスプレイ表示	警告ブザー･音声警報	処置
アンダーランするギヤ段に変速しようとしたとき（マニュアルモード）	—	ピーッ ピーッ …（連続）	シフトレバーを『D』位置にし適切なギヤ段で走行する（変速は行われません）。
オーバーランするギヤ段に変速しようとしたとき（マニュアルモード）	—	ピーッ ピーッ …（連続）	シフトレバーを『D』位置にし、適切なギヤ段で走行する（変速は行われません）。
不適切な発進ギヤ段へ切り替えるシフトアップ・シフトダウン操作をしたとき（マニュアルモード）	—	ピーッ ピーッ …（連続）	適切な発進ギヤ段を選択するか、シフトレバーを『D』位置にして発進する。
オーバーランしたとき	—	ピーーー …（連続）	ブレーキを使用して車速を下げるか、適切なギヤ段にシフトアップしてエンジン回転を下げる。

警告ブザー（警報音･音声警報）およびメーターディスプレイ表示で警報を行うとき

内容	メーターディスプレイ表示	警告ブザー	処置
ブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けたとき	ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻すか シフトレバーを Pに戻して下さい。	ピーッ ピーッ … （連続）	アクセルペダルを戻すかシフトレバーを『P』位置に戻す。
坂道でアクセルペダルを踏み続けて停車しているとき	ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻し ブレーキを踏んで下さい。	ピーッ ピーッ … （連続）	アクセルペダルを戻し、ブレーキを効かせる。
不適切なギヤ段での走行を続けたときや、上り坂を低速で走行したとき *2	ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻すか オートモードで走行して下さい。	ピーッ ピーッ … （連続）	アクセルペダルを戻すか、適切なギヤ段にシフトダウンし、オートモードで走行する。
過度な発進･停止を繰り返したとき	ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻すか オートモードで走行して下さい。	ピーッ ピーッ … （連続）	安全な場所に停車し、シフトレバーを『P』もしくは『N』位置にして冷機運転をする。
デュアルクラッチ式AMT クラッチオイルの温度が異常に高くなったとき	ミッション油温上昇 エンジンをかけた状態で シフトレバーをPまたは Nレンジにして待機して下さい。	ピーピー ピー･安全な場所に停車して、警告灯が消灯するまでお待ちください （連続）*1	安全な場所に停車し、シフトレバーを『P』もしくは『N』位置にして「ミッション油温上昇」表示（赤）が消灯するまで冷機運転をする。
スタータースイッチが『ON』位置のときにギヤが入ったままドアを開け、車から離れようとしたとき	離席警報 シフトレバーをPに戻し パーキングブレーキを 引いて下さい。	ピーピー ピー･ギヤを入れたまま降りないでください （連続）*1	シフトレバーを『P』位置に戻し、パーキングブレーキを効かせる。

内容	メーターディスプレイ表示	警告ブザー	処置
デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを押したとき	スムーサー非常モード HSA装着車両の場合 発進する際に HSA OFFスイッチを押して 解除して下さい。	—	安全な場所まで車両を移動させた後、デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチをもう一度押して非常用モードを解除してください。
走行中にシフトレバーを『R』位置に操作したとき	シフトレバー R 禁止 停車した状態でシフトレバーを Rにして下さい。	ピーピーピー	シフトレバーを『R』位置から戻し、停車してからシフトレバーを『R』位置に操作します。

*1： 警告ブザーは 1 回目の音声警報時のみ。
*2： 油温上昇による故障防止のため、マニュアルモード走行中でも適正ギヤ段へ自動でシフトダウンを行います。

デュアルクラッチ式 AMT 警告灯が点灯するとき



デュアルクラッチ式 AMT 警告灯
次のときに警告灯（橙または赤）が点灯します。内容に応じた処置を行ってください。

内容	メーターディスプレイ表示	警告ブザー	処置
デュアルクラッチ式 AMT システムが故障したとき	スムーサー異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	—	安全な場所に停車し、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。 詳細は『デュアルクラッチ式 AMT の故障時』を参照してください。

参照ページ
4-99 デュアルクラッチ式 AMT の故障時

デュアルクラッチ式 AMT の故障時

走行中デュアルクラッチ式 AMT 警告灯（橙または赤）が点灯したら安全な場所へ停車し、警告灯が消灯しない場合には最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

参照ページ
4-98 デュアルクラッチ式 AMT 警告灯が点灯するとき

⚠ 注 意

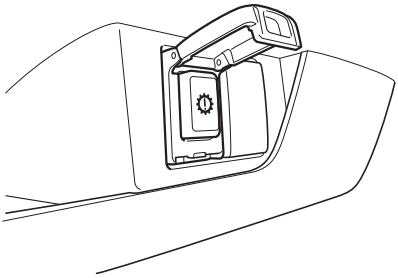
- デュアルクラッチ式 AMT 警告灯が点灯した場合、下記の状態になることがあります。
  - クリープ現象が発生しない
  - シフトアップ、シフトダウンが行われない
  - クラッチのつながるタイミングが正常時と比べ早い、または遅い

このとき、ごく低速での速度調整や、プラットフォーム着けができないなど、正常時の車両の動きと異なることがあります。周囲の状況に十分注意して運転を行い、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

- デュアルクラッチ式 AMT 車は押しがけやスターターモーターで車を動かすことはできません。エンストして再始動できないときはシフトレバーを『N』位置にし、シフトインジケーターが「N」を表示していることを確認して、安全な場所まで押して脱出してください。

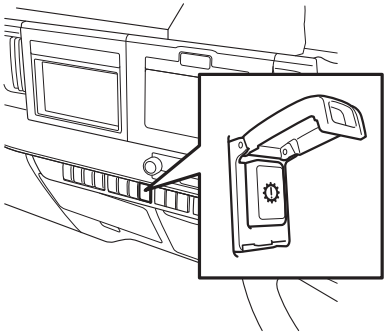
デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチの使い方

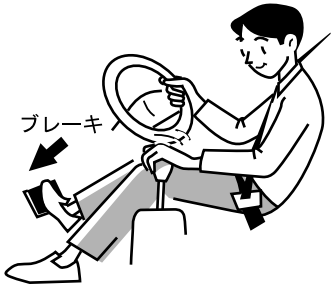
標準キャブ・ハイキャブ車



デュアルクラッチ式 AMT システムの電気系統に故障が発生した場合は、デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを使用し、車両を安全な場所に移動させます。安全な場所に移動後、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
通常は非常用スイッチを『OFF』にして、走行中は触れないでください。

ワイドキャブ車





1. パーキングブレーキを確実に効かせ、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、シフトレバーが『P』位置にあることを確認します。
2. スタータースイッチを『ON』位置にします。

スムーサー非常モード

HSA装着車両の場合
発進する際に
HSA OFFスイッチを押して
解除して下さい。

3. デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチのカバーを開けてスイッチを押し、メーターディスプレイに「スムーサー非常モード」が表示されていることを確認します。

4. ブレーキペダルをしっかり踏み込んだままエンジンを始動し、パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを前進は『D』または『M』、後退は『R』位置に操作します。シフトインジケーターに前進は「D」または「M2」、後退は「R」が表示されていることを確認してください。

5. ブレーキペダルを離し、アクセルペダルをゆっくり踏み込んで発進します。

⚠ 注 意

- **通常は、デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチのカバーを開けないでください。**
- **デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチは非常脱出用のスイッチです。通常は『OFF』にし、特に走行中はデュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを操作しないでください。**
- **デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチで安全な場所まで車両を移動したら、ただちにデュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを『OFF』にして、シフトレバーを『P』位置に戻し、カバーをしてください。**
- **デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを『ON』にするとメーターディスプレイに「スムーサー非常モード」が表示されます。**
- **シフトレバーが『P』または『N』位置以外のままデュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを『ON』にした場合、車両が急に動き出すことがあります。デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを『ON』にするときは、必ずブレーキペダルを踏んだまま行ってください。**
- **デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチを『ON』にした場合、シフトレバーが『P』位置以外でもエンジンを始動することができます。**
  ギヤが入っている状態でエンジンを始動すると、車両が急に動き出すおそれがありますのでエンジンを始動するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、ブレーキペダルを右足でしっかり踏んで行ってください。

知 識

- デュアルクラッチ式 AMT 非常用スイッチが『ON』のときシフトレバーの位置が『D』または『M』の場合、ギヤ段は 2 速固定になり変速できません。

シフトロック機能について

発進するときは



ブレーキペダルを踏んでいないと『P』から他の位置に切り替えられません。必ずブレーキペダルを踏んだまま操作してください。

駐車するときは



駐車するときは必ずシフトレバーを『P』位置に入れてください。
インテリジェントキー無車は、『P』位置に確実に入れないとキーは抜けません（キーインターロック）。
インテリジェントキー付車は、『P』位置に確実に入れないとスタータースイッチを『LOCK』位置にできません。

知　識

【シフトロック機能を正しく理解】

・シフトロック機能とは、デュアルクラッチ式 AMT 車の誤操作を防止する安全のための機能です。正しく理解し、安全運転を心がけてください。

シフトレバーが『P』位置から他の位置へ切り替えられないときは

エンジン始動後、シフトレバーが『P』位置から他の位置へ切り替えられないときは、以下のアドバイスに従って確認を行ってください。

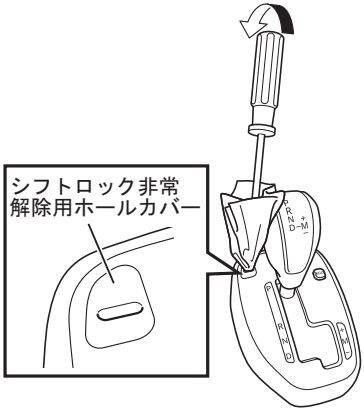
アドバイス

- ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでいるか確認してください。
- ブレーキペダルを踏んでいないとシフトロック機能が働き『P』位置から他の位置に切り替えられません。
- 駐車した場所が坂道になっていないか確認してください。
- 坂道でシフトレバーを『P』位置から動かすときは、レバー操作が重くなる場合があります。

参照ページ
11-12 シフトレバーが『P』の位置から動かなくなったとき

非常シフトロック解除

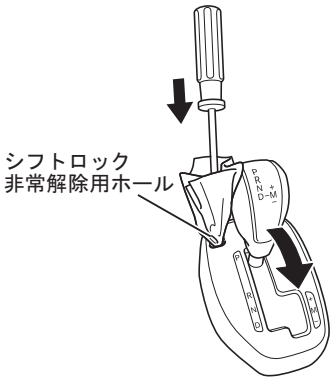
ブレーキの踏み込みや、駐車した場所の状態を確認し、アドバイスの通りに操作をしてもシフトレバーが『P』位置から他の位置に切り替えられなかったときは、次の操作を行ってください。



1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。
2. シフトロック非常解除用カバーをマイナスドライバー等で外します。

アドバイス

- シフトレバーに傷がつかないようマイナスドライバーなどは、布などで覆ってから作業してください。



3. シフトロック非常解除用ホールにマイナスドライバーなどを奥まで押し込みながらシフトレバーを操作します。

アドバイス

- 取り外したシフトロック非常解除用カバーは、なくさないよう必ず元の位置に取り付けてください。

警 告

- **以上の操作を何度繰り返しても『P』位置から他の位置に切り替えられないときは、シフトロック機能の故障が考えられます。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。**

オートマチックトランスミッション車★

オートマチックトランスミッション車はクラッチペダル操作を必要とせずに、シフトレバー操作、アクセル操作、ブレーキ操作のみで発進、変速、停車ができます。オートマチックトランスミッション車の特性をよく理解し、正しく操作する習慣をつけてください。停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてシフトレバーを『P』または『N』位置にしてパーキングブレーキも効かせるように心がけてください。

警 告

- **停車中は平坦路であっても車が動きださないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてシフトレバーを『P』または『N』位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時、DPD 再生時などは自動的にエンジン回転が上がり、クリープ現象が通常時と比べ強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。**

知　識

- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用してアクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度調整するとスムーズに行えます。
- オートマチックトランスミッション車の発進ギヤ段は、オートモード、マニュアルモードともに 1 速です。2 速に切り替えて発進することはできません。

【クリープ現象】

- エンジン回転中にシフトレバーが『D』、『M』または『R』位置にあるとアクセルペダルを踏まなくても動力がつながった状態になり車が動きだそうとする現象をいいます。また、クリープ現象はエンジン回転数が高くなるほど強くなり車が動こうとする力が強くなります。

オートマチックトランスミッションの使い方

警　告

- **シフトレバーを走行中に『P』位置にしないでください。走行中にシフトレバーを『P』位置にすると、異音、異常振動が発生し、場合によってはトランスミッション部品の破損や重大な事故につながるおそれがあります。**
  シフトレバーを『P』位置にするときは、車が完全に停車したことを確認してからシフトレバー操作を行ってください。
- **シフトレバーを『D』、『M』または『R』位置にすると、クリープ現象により車が動き出します。発進時は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。**
- **アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバーの操作は止めてください。急発進し、危険です。**

注　意

- **エンジンの始動は、シフトレバーを『P』位置にし、シフトインジケーターが「P」を表示し、パーキングブレーキが効いていることを確認して、ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンを始動してください。また、エンジン始動時には下記の点に注意してください。**
  - **シフトレバーを『P』から『D』、『R』位置に操作するときは、必ずエンジンが始動していることを確認してください。エンジンの始動を確認せずにシフトレバーを操作すると、スターターモーターが ON/OFF し、リングギヤなどスターター関連部品を破損するおそれがあります。**
- **シフトレバーを『P』または『N』から『D』、『R』位置に操作するときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。**
- **エンジンがかかっている状態で、シフトレバーを『D』、『M』または『R』位置に入れたまま、運転席を離れることはやめてください。車が動き出すおそれがあります。運転席を離れるときは必ず、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを『P』位置にしてください。**

アドバイス

- 車を少しだけ移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルをしっかりと踏めるようにしてください。
- 後退するときは、体をひねった姿勢になり、ペダル操作がしづらくなります。ブレーキペダルは確実に踏み込んでください。また、後退したあとは、すぐにシフトレバーを『P』または『N』位置に戻す習慣をつけてください。発進時にはシフトレバーの位置および、シフトインジケーターの表示を目で確認してください。
- 切り返し時、前進から後退、後退から前進に繰り返しシフトレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車が完全に停車したことを確認してから次のシフトレバー操作を行ってください。

発進するには［通常の発進］



D / R

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトレバーが『P』位置であること、シフトインジケーターが「P」を表示していることを確認します。パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してスタータースイッチを『ON』位置にします。
2. ブレーキペダルを右足でしっかりと踏み込んだままエンジンを始動し、シフトレバーを前進は『D』、後退は『R』位置に操作します。シフトレバー操作に連動してクラッチの断接が同時に行われ、自動的にギヤポジションが切り替わります。
3. シフトインジケーターが発進ギヤ段（前進は「D」後退は「R」）を表示していることを確認し、パーキングブレーキを解除して、ブレーキペダルを離し、ゆっくりとアクセルペダルを踏み込みます。アクセルペダルの踏み込み量に応じて発進します。

⚠ 警 告

- **発進時は、安全のためシフトレバーの位置を目で確認してください。**
- **常にプッシュボタンを押しながらシフトレバーを操作すると、思いがけず『P』や『R』位置に入れてしまうおそれがあります。『N』⇔『D』の操作はプッシュボタンを押さずに操作する習慣をつけてください。**

アドバイス

- 電動パーキングブレーキ付車は、パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。電動パーキングブレーキスイッチを押してからパーキングブレーキが解除されるまで 1 秒程度かかるため、電動パーキングブレーキスイッチを押してからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。
- 発進時および加速時の速度調整は、アクセルペダル操作のみで行いますので、アクセルペダル操作は慎重に行ってください。

知　識

- エンジン回転中の停車時は、シフトロック機能が働きます。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを『P』位置から『D』または『R』位置に操作することはできません。発進する際は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。

参照ページ
4-117 シフトロック機能について

発進するには［急な坂道での発進］

1. ブレーキペダルをしっかりと踏み、パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。
2. ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを前進は『D』後退は『R』位置に入れます。
3. シフトインジケーターに発進ギヤ段（前進は「D」後退は「R」）を表示していることを確認し、周囲の安全を確認し、右足をブレーキペダルから離し、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。
4. 車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進します。

警　告

- **シフトレバーを『D』、『M』または『R』位置にすると、クリープ現象によって車が動き出します。発進時は必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。**
- **オートマチックトランスミッション車は、発進時の速度調整をアクセル操作のみで行います。アクセル操作は慎重に行ってください。**
- **アクセルペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進となり思わぬ事故の原因になります。**

アドバイス

- 停車時にシフトレバーを『D』、『M』または『R』位置で、ブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けないでください。故障の原因になります。
- 坂道で停車するときは、必ずブレーキを効かせてください。アクセルペダルを踏み込みクリープ現象を強くした状態で停車し続けると故障の原因になります。

知　識

・ecostop システムによりエンジンが自動停止した場合、シフトレバーは『D』位置のままにしてください。『D』位置以外に操作するとエンジンが再始動してしまいます。

参照ページ
4-55 ecostop（エコストップ）★

変速するには［オートモード］

D

・シフトレバーを『P』または『N』から『D』位置にしたときは、自動変速となります。このとき、シフトインジケーターに「D」が表示されていることを確認してください。

注　意

・急な登坂道では、オートモードで走行するとシフトアップ / ダウンを繰り返し、走行が困難となる場合があります。その場合は、マニュアルモードに切り替え、ギヤ段を固定して走行してください。

知　識

・連続した登坂道や渋滞路などでは、オートモードより一定のギヤ段で走行できるマニュアルモードのほうが走りやすいことがあります。マニュアルモードに切り替えて走行することをお奨めします。

変速するには［マニュアルモード］

M 1 ～ M 6

- マニュアルモードで変速する場合は、シフトレバーを『M』位置に操作して希望するギヤ段へ『＋（シフトアップ）』、『－（シフトダウン）』操作します。このとき、シフトインジケーターに希望のギヤ段が表示されていることを確認してください。
- シフトレバー操作に連動して自動的にクラッチが切られ、ギヤポジションが切り替わるとクラッチが自動的につながりシフトアップ / ダウンともに同様の操作で変速可能です。
- オートモードに戻す場合は、シフトレバーを『D』位置に操作し、シフトインジケーターに「D」が表示されていることを確認してください。

アドバイス

- 変速は車の速度に応じた適切なギヤ段へ行ってください。不適切なギヤ段へ操作した場合、警告ブザー『ピピッ …（連続）』が鳴り変速されません。
- マニュアルモードで不適切なギヤ段を使用して走行を続けると故障の原因になります。その際には、自動で適切なギヤ段へシフトダウンします。
- 変速操作直後にアクセルペダルを強く踏み込むと、スムーズに走行できず、また故障の原因になります。アクセル操作は余裕をもってゆっくり行ってください。

知　識

- 後退でのプラットホーム着けなどで、微妙な速度調整を必要とする場合は、クリープ現象を利用してアクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度調整するとスムーズに行えます。
- 停車中にオートモード（『M』から『D』に操作）にしても変速は行われません。走行後に自動変速が行われます。
- 車速が低い場合、自動でシフトダウンすることがあります。

加速するには

アクセルペダルを深く踏み込むとキックダウンし、加速をすることができます。

⚠ 注 意

【下り坂走行】

- **シフトレバーを『D』の位置のまま走行すると、エンジンブレーキが効かずスピードが出過ぎてしまいます。このとき、フットブレーキを使用し過ぎるとブレーキが過熱し、効きが悪くなる場合があります。長い下り坂、急な下り坂ではエンジンブレーキを併用してスピードをコントロールしてください。**
- **シフトレバーを『M』位置にして「－（シフトダウン）」操作を行い、2 速にして走行するとエンジンブレーキを効かせた運転をすることができます。**
- **急な下り坂などを下るとき、より強いエンジンブレーキが必要なときはシフトレバーを『M』位置にして「－（シフトダウン）」操作を行い、1 速にします。**

アドバイス

【上り坂走行】

- シフトレバーを『D』の位置のままスピードを保つためにアクセルペダルを踏み込むとキックダウン（低速側ギヤに変速）し、急にエンジン回転が上昇する（スピードが上がる）場合があります。
- シフトレバーを『D』の位置の状態で長い上り坂を走行すると、オートマチックトランスミッションオイルの温度が異常に高くなることがあります。

知 識

【キックダウン】

- 走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、スピードに応じ、自動的にギヤが低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して十分な加速をすることができます。これをキックダウンといいます。
  追い越しのときや、高速道路での合流時の十分な加速を楽に行うことができます。登り坂などでスピードを保つため、徐々にアクセルペダルを踏み込んでいくとスピードに応じ自動的にシフトダウン（低速側ギヤに変速）し、エンジン回転数が上昇してスピードが上がる場合があります。

停車するには

1. 右足でブレーキペダルを踏み、車の速度を下げて停車します。特別な変速操作は必要ありません。
   停車後は、オートモード、マニュアルモードとも自動的に発進ギヤ段に切り替わります。
2. 停車中はシフトレバーを『P』または『N』位置にしてください。停車時間が長くなりそうなときはパーキングブレーキを効かせます。

一時的に停車するときは、シフトレバーを『D』または『M』位置にしてブレーキペダルを踏みこみます。

注 意

- **運転席から離れるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを『P』位置にし、シフトインジケーターが「P」表示になっていることを確認してください。**
- **停車中エンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトレバーが『P』、『N』以外の位置に入っていると急発進し、思わぬ事故を起こす危険があります。**

アドバイス

- 停車時にシフトレバーを『D』、『M』または『R』位置でブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けないでください。故障の原因になります。
- 坂道で停車するときは、必ずブレーキを効かせてください。アクセルペダルを踏み込みクリープ現象を強くした状態で停車し続けると故障の原因になります。

知 識

- ecostop システムによりエンジンが自動停止した場合、シフトレバーは『D』位置のままにしてください。『D』位置以外に操作するとエンジンが再始動してしまいます。

参照ページ
4-55 ecostop（エコストップ）★

停車後に再発進するには

停車後、発進するときはシフトレバーが『D』の位置にあり、シフトインジケーターに「D」が表示されていることを目で確認して徐々にアクセルペダルを踏み込み発進してください。

駐車するには



1. 右足でブレーキペダルを踏み込んだままパーキングブレーキを効かせます。
2. シフトレバーを『P』位置にし、シフトインジケーターが「P」表示になっていることを確認して、右足をゆっくりブレーキペダルから離します。
3. エンジンを停止します。

⚠ 注 意

- **エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、シフトレバーが『P』、『N』以外の位置に入っているとクリープ現象でひとりでに車が動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏んでしまい急発進するおそれがあります。**
  また、エアコン使用中は、一時的に停止していてもエアコンが作動するとエンジン回転が高くなり動き出すおそれがあります。
- **駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを『P』位置にし、シフトインジケーターが「P」表示になっていることを確認してください。**
- **坂道での駐車はできるだけ避け、平らな場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ車が動かないことを確認し、安全のためタイヤに輪止めをかける等の駐車措置をしてください。**
- **万一、車が動き出した場合のことを考え、障害物（縁石など）側へハンドルを回してください。**
- **シフトレバーの『P』位置のみで駐車しないでください。急勾配の坂道で、シフトレバーを『P』位置のみで駐車すると、シフトレバーが重くなり、場合によっては操作ができなくなることがあります。駐車の際には、必ずパーキングブレーキをしっかり効かせてください。**

ロックアップクラッチコントロールシステム

動力伝達効率を高め、燃費を向上させる装置です。

知　識

【ロックアップクラッチ】

- トランスミッションの動力伝達効率を高める装置です。2 速から 6 速での走行中、一定の車速に達すると作動し、燃費を向上させます。

こんな操作がオートマチックトランスミッション の故障を招きます！

故障を招く運転操作	故障の症状
• 上り坂でシフトレバーを『D』または『M』位置に入れたままアクセルを吹かしながらブレーキ代わりにして停車する。 • アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏み込む。	• トランスミッションオイルが過熱する。
• アクセルを吹かしエンジンの回転を上げた状態で、シフトレバーを操作する。	• トランスミッションのギヤまたは、クラッチに無理な力がかかる。
• 車輪が完全に停止しないうちに『P』の位置に操作する。	• パーキング機構の破損。
• 走行中スタータースイッチを切る。 • 長い下り坂を『N』位置のまま走行する。 （エンジンブレーキが効かなくなり危険です。）	• トランスミッションの潤滑不良を起こす。

オートマチックトランスミッションの警告・表示

次のときに、警告灯、メーターディスプレイ表示および警告ブザー（警報音･音声警報）が作動し、警報します。

警告ブザー（警報音･音声警報）のみで警報を行うとき

内容	メーターディスプレイ表示	警告ブザー･音声警報	処置
アンダーランするギヤ段に変速しようとしたとき（マニュアルモード）	—	ピピッ …（連続）	エンジン回転を上げるか、シフトレバーを『D』位置にし適切なギヤ段で走行する（変速は行われません）。
オーバーランするギヤ段に変速しようとしたとき（マニュアルモード）	—	ピピッ …（連続）	シフトレバーを『D』位置にし、適切なギヤ段で走行する（変速は行われません）。
不適切な発進ギヤ段へ切り替えるシフトアップ・シフトダウン操作をしたとき（マニュアルモード）	—	ピピッ …（連続）	ギヤを 1 速に入れるか、シフトレバーを『D』位置にして発進する。

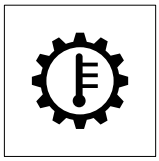
警告灯が点灯するとき



オートマチックトランスミッション警告灯
エンジン回転中（始動後）、オートマチックトランスミッションシステムに異常があると点滅します。

アドバイス

- オートマチックトランスミッション警告灯が点滅したときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。



オートマチックトランスミッション油温警告灯

走行中、オートマチックトランスミッションオイルが高温になると点灯します。

アドバイス

- 走行中にオートマチックトランスミッション油温警告灯が点灯した場合は、オートマチックトランスミッションオイルが高温になっています。すぐに安全な場所に停車し、シフトレバーを『P』もしくは『N』位置にして警告灯が消灯するまで冷機運転をしてください。
- 警告灯が消灯しない場合は、オートマチックトランスミッションの潤滑系統の故障のおそれがありますので、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

メーターディスプレイ表示で警報を行うとき

内容	メーターディスプレイ表示	処置
オートマチックトランスミッションオイルの温度が異常に高くなったとき	ミッション油温上昇 エンジンをかけた状態で シフトレバーをPまたは Nレンジにして待機して下さい。	安全な場所に停車し、シフトレバーを『P』もしくは『N』位置にして「ミッション油温上昇」表示（赤）が消灯するまで冷機運転をする。

オートマチックトランスミッション車の故障時

走行中オートマチックトランスミッション警告灯（赤または橙）が点滅したら安全な場所へ停車し、警告灯が消灯しない場合には最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

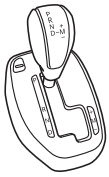
参照ページ
4-115 警告灯が点灯するとき

⚠ 注 意

- **オートマチックトランスミッション警告灯が点滅してオートマチックトランスミッシシステムに異常がある場合、異常の種類によってはギヤ段の変速ができなくなることがあります。また、ごく低速での速度調整や、プラットフォーム着けができないなど、正常時の車両の動きと異なることがあります。周囲の状況に十分注意して運転を行い、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**

シフトロック機能について

発進するときは



ブレーキペダルを踏んでいないと『P』位置から他の位置に切り替えられません。必ずブレーキペダルを踏んだまま操作してください。

駐車するときは



駐車するときは必ずシフトレバーを『P』位置に入れてください。
インテリジェントキー無車は、『P』位置に確実に入れないとキーは抜けません（キーインターロック）。
インテリジェントキー付車は、『P』位置に確実に入れないとスタータースイッチを『LOCK』位置にできません。

知　識

【シフトロック機能を正しく理解】

- シフトロック機能とは、オートマチックトランスミッション車の誤操作を防止する安全のための機能です。正しく理解し、安全運転を心がけてください。

後退するときは

シフトレバーを『R』位置にするとバックブザーが鳴ります。

知　識

- 『R』の位置に入れたときブザーが鳴らないときや、『R』以外の位置に入れたときブザーが鳴りっぱなしのときは、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

シフトレバーが『P』位置から他の位置へ切り替えられないときは

エンジン始動後、シフトレバーが『P』位置から他の位置へ切り替えられないときは、以下のアドバイスに従って確認を行ってください。

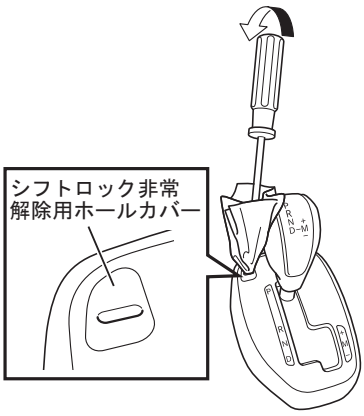
アドバイス

- ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでいるか確認してください。
- ブレーキペダルを踏んでいないとシフトロック機能が働き『P』位置から他の位置に切り替えられません。
- 駐車した場所が坂道になっていないか確認してください。
- 坂道でシフトレバーを『P』位置から動かすときは、レバー操作が重くなる場合があります。

参照ページ
11-12 シフトレバーが『P』の位置から動かなくなったとき

非常シフトロック解除

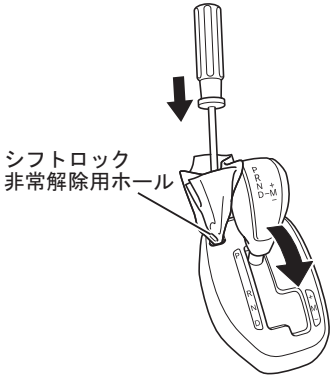
ブレーキの踏み込みや、駐車した場所の状態を確認し、アドバイスの通りに操作をしてもシフトレバーが『P』位置から他の位置に切り替えられなかったときは、次の操作を行ってください。



1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。
2. シフトロック非常解除用カバーをマイナスドライバー等で外します。

アドバイス

- シフトレバーに傷がつかないようマイナスドライバーなどは、布などで覆ってから作業してください。



3. シフトロック非常解除用ホールにマイナスドライバーなどを奥まで押し込みながらシフトレバーを操作します。

アドバイス

- 取り外したシフトロック非常解除用カバーは、なくさないよう必ず元の位置に取り付けてください。

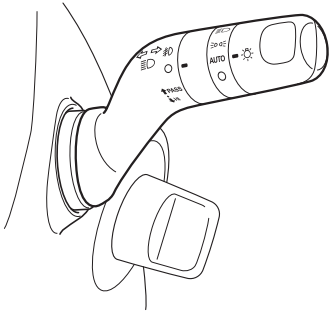
⚠ 警 告

- **以上の操作を何度繰り返しても『P』位置から他の位置に切り替えられないときは、シフトロック機能の故障が考えられます。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。**

走行装置

灯火装置

ライティングスイッチ



各位置にツマミを回すと各灯火が以下の表のように点灯します。
正しく点灯しないときはランプ類（灯火類）の点検・交換をしてください。

参照ページ
10-111 ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）

知　識

- スタータースイッチが『LOCK』でも、『 ≣D 』位置と『 ≡DD≡ 』位置にツマミを回すと、それぞれヘッドランプとテールランプが点灯します。
- ライティングスイッチが『AUTO』位置にある場合、エンジンを停止させると自動でライトが消灯します。

灯火名	位置			
	○	AUTO	≡DD≡	≣D
ヘッドランプ（前照灯）	消灯 ※1	点灯 / 消灯 ※2	点灯 / 消灯 ※3	点灯
クリアランスランプ（車幅灯）			点灯	
テールランプ（尾灯）				
ナンバープレートランプ（番号灯）				
ライト点灯表示灯				
デイライト	点灯		点灯	消灯

※1：夜間の走行中は、『○』位置にツマミを回しても、ヘッドランプを消灯することはできません。
ヘッドランプを消灯したいときは、車を停車させ、『AUTO』位置から『○』位置にツマミを回してください。
また、停車中にすべてのランプ類を消灯したいときは、『AUTO』位置から『○』位置にツマミを回し、1秒以上保持してください。

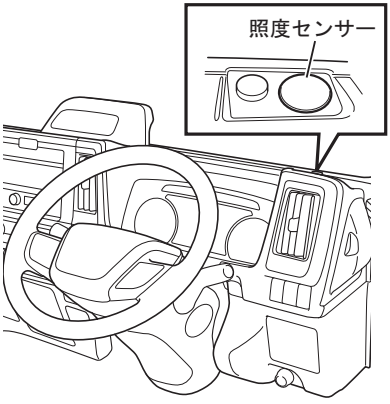
ただし、走行を再開すると、消灯したランプ類は再点灯します。

※2：ライティングスイッチが『AUTO』位置にある場合、車外の明るさによって自動的にランプ類が点灯、または消灯します。

※3：ライティングスイッチが『 』位置にある場合、夜間など暗い環境での走行中は自動的にランプ類が点灯します。

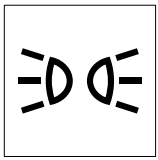
知　識

- デイライトの作動条件（以下のすべてが成立したときに作動可能となります）
  - スタータースイッチが『ON』位置のとき
  - ライティングスイッチ位置が『○』位置のとき、もしくは『AUTO』位置でヘッドランプが点灯していないとき
  - パーキングブレーキが解除されているとき
  - フロントフォグランプが消灯しているとき
- ライティングスイッチが『AUTO』位置にある場合、車外が暗い状態（長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など）になると、ランプ類が点灯します。その後、車外が明るくなってもランプ類がすぐに消灯しない場合があります。この場合、ライティングスイッチを『○』位置にすると消灯します。
- 霧や雪などで視界が悪い状況でも、昼間などで車外が明るければ、ライティングスイッチが『AUTO』位置でもライト類が点灯しないことがあります。点灯しない場合は、安全のため、手動でライトを点灯してください。
- 照度センサーを覆わないでください。照度センサーを覆うと、ライティングスイッチが『AUTO』位置であっても正常に点灯できなくなります。



- 照度センサーに異常が発生した場合、ライティングスイッチが『AUTO』位置になると、車外の明るさに関係なく自動的にヘッドランプが点灯します。最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

ライト点灯表示灯

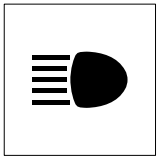


ライティングスイッチを『 』または『 』位置にしたとき、もしくはライティングスイッチが『AUTO』位置でテールランプが点灯しているときに点灯します。
また、スタータースイッチが『LOCK』位置の状態でライト点灯表示灯の点灯中にドアを開けると、メーターディスプレイに「ライト消し忘れ注意」と表示されブザー『ピッ ピッ ピッ …（連続）』が鳴ります。

ライト消し忘れ注意

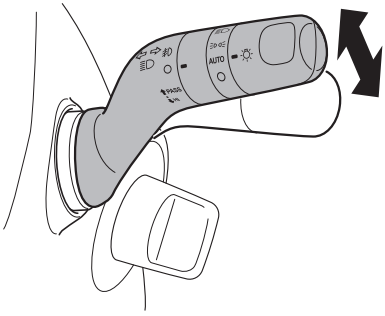
ライトの消し忘れにより
バッテリーがあがる可能性が
あります。

ハイビーム表示灯



ヘッドランプ（前照灯）を上向きにしたとき、およびパッシング（追越し合図）したときに点灯します。

ハイビーム（ヘッドランプの上向き）とロービーム（下向き）の切り替え

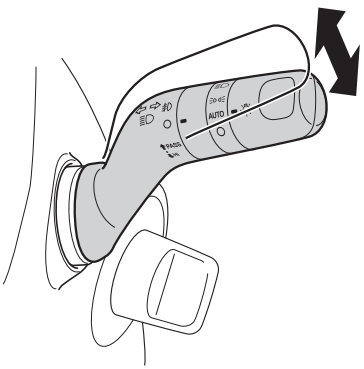


ヘッドランプ点灯時、レバーを前後に操作すると上向きと下向きが交互に切り替わります。
レバーを奥に押すと上向き、手前に引くと下向きになります。
上向きのときは、メーター内のハイビーム表示灯が点灯します。

知　識

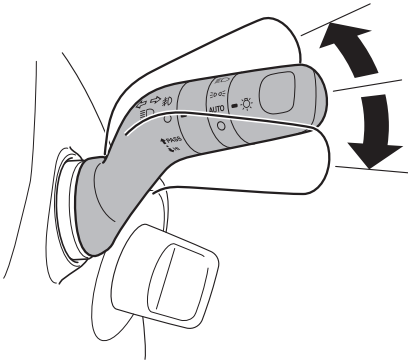
- 先行車や対向車があるときはロービーム（下向き）で走行してください。

パッシング（追い越し合図）



レバーを手前に軽く引くごとに上向きに点灯と消灯を繰り返します。このとき、メーターパネル内のハイビーム表示灯が点灯します。追越しなどの合図にお使いください。

ターンシグナルスイッチ（方向指示器）



左折または右折するときに、レバーを上下に操作してターンシグナルランプ（方向指示器）を点滅させます。
正しく点灯しないときはランプ類（灯火類）の点検・交換をしてください。

参照ページ
10-111 ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）

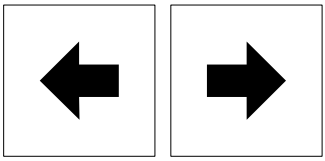
アドバイス

- エンジンを停止させた状態で、長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりを起こし、エンジン再始動ができなくなるおそれがあります。

知　識

- ハンドル操作の少ないときは手でレバーを戻してください。
  追い越しや車線変更時にはレバーを上下に軽く押してください。軽くおさえている間点滅し、離すとレバーはすぐ元に戻ります。

ターンシグナル表示灯

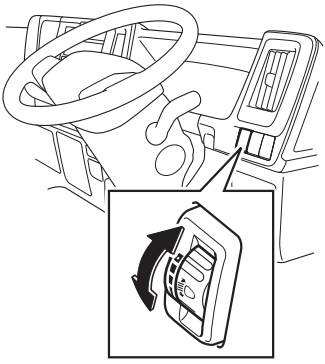


ターンシグナルスイッチを操作すると点滅します。

アドバイス

- ランプの球切れや、指定外のワット数の電球を使用したときは点滅が異常になったり、点滅しなくなることがあります。

ヘッドランプレベリングスイッチ★

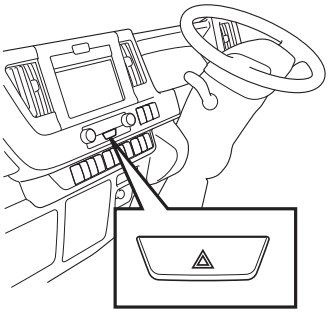


ヘッドランプの照射角度を４段階に調整することができます。積荷の量によりヘッドランプが上側を照らしてしまうような場合、下側を照らすように調整します。
通常（空車）時は、スイッチを『0』位置にしておきます。

注　意

- **必要以上に照射角度を下向きにしないでください。**
  夜間の視界が悪くなり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

ハザードスイッチ

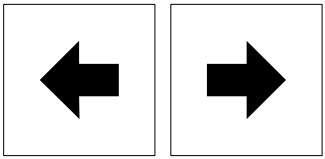


事故や、故障などのときに路上に駐･停車していることを他車に知らせるための合図です。
スタータースイッチの位置に関係なくスイッチを押すとすべてのターンシグナルランプ（方向指示器）が点滅し、非常信号になります。もう一度押すと消灯します。

アドバイス

- エンジンを停止させた状態で、長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりを起こし、エンジンの再始動ができなくなるおそれがあります。

ハザード表示灯

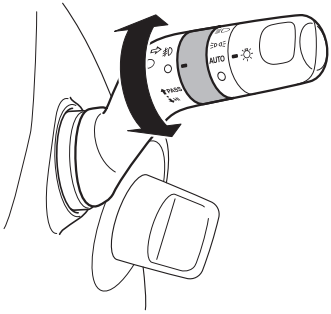


ハザードスイッチを作動させると両方のハザード表示灯が同時に点滅します。

アドバイス

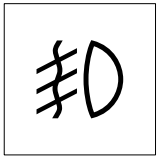
- ランプの球切れや、指定外のワット数の電球を使用したときは点滅が異常になったり、点滅しなくなることがあります。

フォグランプスイッチ★



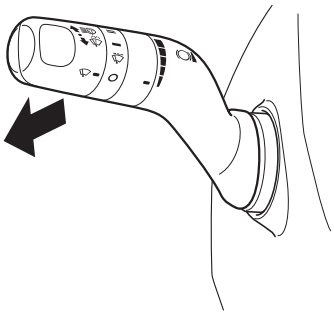
ライティングスイッチを『≡DC≡』または『≡D』位置にしたときにスイッチを回すとフォグランプが点灯します。元の位置に戻すと消灯します。霧などで前方視界が悪いときにご使用ください。

フォグランプ点灯表示灯



フォグランプが点灯しているときに点灯します。

ヘッドランプウォッシャースイッチ★



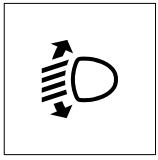
ヘッドランプが点灯しているときにワイパースイッチを押し下げるとヘッドランプウォッシャーが作動し、フロントバンパーに装着されているノズルからヘッドランプに向けて 1 秒間ウォッシャー液を噴射します。

知　識

- スイッチを押し続けても 1 秒経つとウォッシャー液の噴射は終了しますが、故障ではありません。

ヘッドランプオートレベリング★

ヘッドランプオートレベリング警告灯

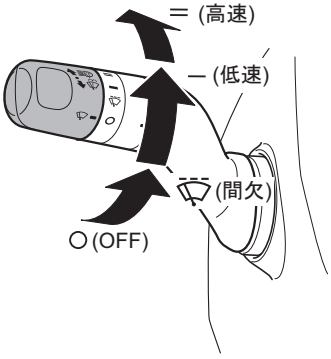


点灯したときはヘッドランプオートレベリングの異常です。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

ワイパー・ウォッシャースイッチ

スタータースイッチが『ON』位置のとき、使用することができます。

ワイパースイッチ



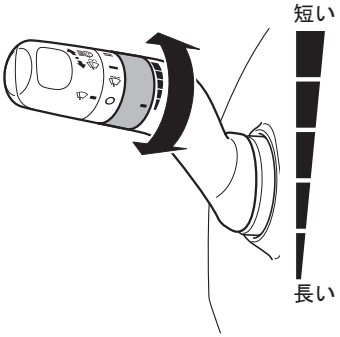
アドバイス

- モーターに無理な力がかかると安全装置が働き作動が停止することがあります。このようなときは、一度スイッチを切り数分後に正常に作動するか確認してください。たびたび作動が停止するときは使用を中止して、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- ワイパーを長期間使用していなかったときや、寒冷時、凍結のおそれがあるときは、点検時または作動前にワイパーゴムがガラスに貼り付いていないことを確認してください。凍結しているときはお湯をかけて溶かしてください。ガラスに貼り付いたままワイパーを作動させると、ワイパーの破損やワイパーモーターの故障の原因となります。
- ガラス面が乾いているときにワイパーを作動させるとガラス面を傷つけることがあります。必ずウォッシャーを併用してください。

ワイパースイッチを操作すると次のように作動します。

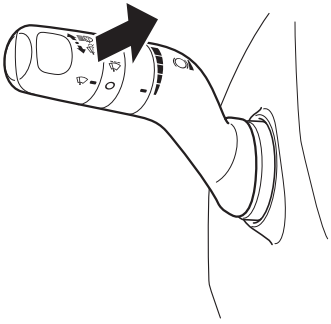
レバー位置	O		－	＝
ワイパー動作	停止	間欠（雨量が少ないとき）	低速（普通雨量のとき）	高速（雨量の多いとき）

ワイパーの調整



ワイパースイッチが『』位置のとき、ワイパースイッチを前後に回すと間欠時間を調節できます。

ウインドーウォッシャースイッチ



ワイパースイッチを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。このとき、ワイパーが連動して作動します。
フロントウインドーが汚れているときに使用します。

⚠ 注 意

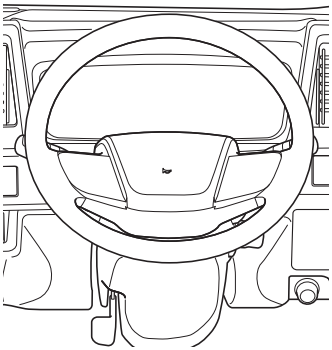
- **寒冷時にウォッシャー液を使用するときは、ガラスに噴射された液が凍結し、前方の視界が悪くなるおそれがあり危険です。あらかじめフロントガラスを温めてからお使いください。**

アドバイス

- ウォッシャー液が十分に出ないときは、すぐに、スイッチから手を離してください。フロントガラスを傷つけるおそれがあります。
- スイッチ操作を 30 秒以上続けるとウォッシャーポンプを損傷する原因になります。
- ウォッシャー液がないときはウインドーウォッシャースイッチを作動させないでください。モーター焼き付きの原因となります。
- 寒冷地ではウォッシャー液の凍結を防止するため、季節に合わせた適切な濃度のウォッシャー液を使用してください。

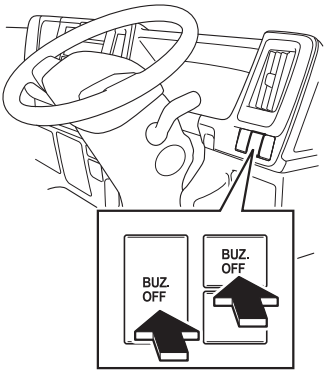
参照ページ
10-98 ウインドーウォッシャー液

ホーンボタン



ハンドルのラッパのマークがあるパッドを押すと、ホーンが鳴ります。

バックブザー OFF スイッチ★

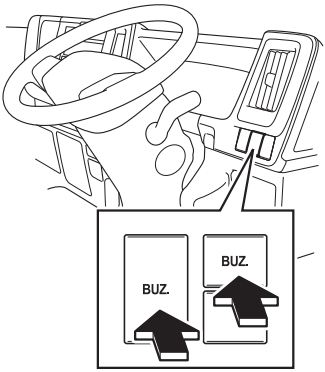


スイッチを押して『OFF』にすると、後退時にバックブザーが鳴らなくなります。もう一度、スイッチを押すと『ON』になり、バックブザーが鳴って車両が後退していることをまわりに知らせます。

アドバイス

- 安全のため、通常はバックブザーを『ON』にして使用してください。

左折＆バック音声警報 ON/OFF スイッチ★



スイッチを押して『ON』にし、ターンシグナルスイッチ（方向指示器）を左折に操作すると音声で車両が左折することをまわりに知らせます。また、車両後退時にも音声で車両が後退していることを知らせます。もう一度スイッチを押すと『OFF』になり、音声警報が鳴らなくなります。

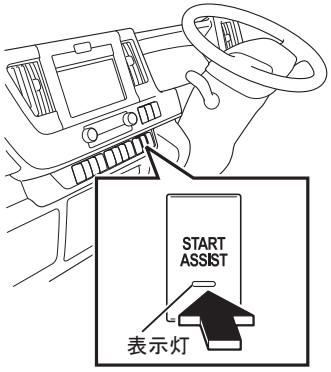
注　意

- **安全のため、通常は音声警報を『ON』にして使用してください。**

知　識

- ライティングスイッチを『 』または『 』位置にすると、もしくはライティングスイッチが『AUTO』位置でライト点灯表示灯が点灯しているとき、車外の警報音を減音します。

START ASSIST スイッチ（マニュアルトランスミッション車）★



START ASSIST 機能を ON/OFF するスイッチです。スイッチを押すと、スイッチの表示灯が点灯し START ASSIST 機能が作動可能状態になります。もう一度押すとスイッチの表示灯が消灯し、START ASSIST 機能が解除されます。

警　告

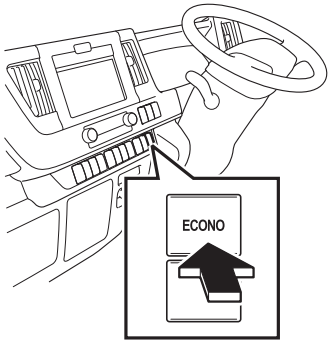
- **下り坂や渋滞路では、START ASSIST 機能を解除してください。発進時に START ASSIST 機能が作動すると、急発進のおそれがあり大変危険です。**

知　識

【START ASSIST 機能】

- 発進時、シフトレバーを前進ギヤ段にするとアイドリング回転数が自動的に上昇し、発進補助を行います。

ECONO モードスイッチ（マニュアルトランスミッション車）★



ECONO モードを ON/OFF するスイッチです。スイッチを押すとメーターディスプレイ内の ECONO モード表示が点灯し、ECONO モードが作動可能状態になります。もう一度スイッチを押すと ECONO モード表示が消灯し、ECONO モードが解除されます。



ECONO モード表示
ECONO モードスイッチを押すと点灯し、再びスイッチを押すと消灯します。

ECONO モードの一時解除

アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだ状態から、さらに増し踏みすると、一時的にECONO モードを解除できます。坂道など、駆動力が必要になったときに使用してください。
停車するか、一定速度の走行やエンジン回転の変動が少ない走行を行うと ECONO モードが復帰します。
ECONO モード表示灯は、ECONO モードの一時解除では消えません。

アドバイス

- アクセルペダルの踏力変化を確認する際は、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止させてから行ってください。

知　識

- ECONO モードスイッチが押された状態で、アクセルペダルを増し踏みしても ECONO モードが解除されないときは、ECONO モードの故障が考えられます。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

【ECONO モードとは】

- 省燃費走行を促すと共に必要な走行性を確保するために、積載状態･坂道に応じ最適な出力制御（馬力制御･加速制御）を自動で行う機能です。

馬力制御

- 走行中にエンジン回転がある回転数を超えるとエンジン出力を制限し、より燃費を重視した走行になります。

加速制御

- 加速するときの燃料噴射量を抑制し、過剰な加速を制限します。

HSA（坂道発進補助装置）★

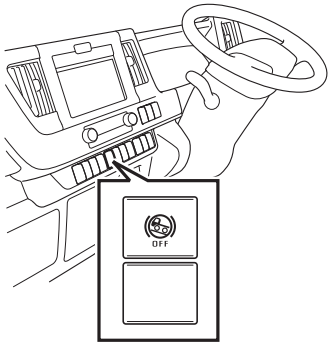
電動パーキングブレーキ無車
通常、フットブレーキは、ブレーキペダルを踏んでいるときだけブレーキ力を保持しますが、HSA が作動すると停車時に踏み込んだブレーキ力をブレーキペダルから足を離しても保持し、車を一時的に停止させます。ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替え操作や、パーキングブレーキ操作を軽減します。

注 意

- 運転席を離れるときには必ずパーキングブレーキを効かせてください。
- HSA 作動中にスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしたとき、またHSA OFF スイッチを押したり、ヒューズを抜くとブレーキの保持力が解除され坂道では車が下がります。
- HSA 作動中に車が下がるときはブレーキペダルを増し踏みするか、パーキングブレーキを確実に効かせてください。
- 定積･勾配 10%以上の条件で停車するときにはパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- 停車時間が長くなるときにはパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- HSA 装置に異常を感じたら HSA OFF スイッチで解除してください。通常のブレーキの状態に戻ります。
- HSA 作動中にパーキングブレーキレバーを引くと HSA は解除されます。
- HSA が作動していてもブレーキペダルから足を離しているときはストップランプは点灯しません。
- エンジン停止中（ecostop 付車は、ecostop によるエンジン自動停止中を除く）は HSA は作動しません。
- 強めのブレーキやタイヤがロックして停車したときは、HSA が一時的に作動しないこともありますが、そのときはパーキングブレーキを使用するか、そのままブレーキペダルを踏み続けて停車してください。

参照ページ
4-37 寒冷地や冬季の駐車について

HSA OFF スイッチ



HSA を使用しないときに押してください。
スイッチを押すと HSA が解除されます。
もう一度押すと HSA が作動可能状態になります。

注 意

- 雪路や凍結路のような滑りやすい路面では HSA を解除してください。このような路面でタイヤをロックさせた場合、HSA が作動することがあり、タイヤがロックしたままになるおそれがあります。

アドバイス

- HSA を解除すると通常のブレーキに戻ります。ブレーキペダルから足を離してもブレーキ力は保持されません。

HSA の警告・表示

HSA 警告灯（橙）



HSA 作動時に離席、長時間使用、動き出しや HSA の故障がある場合は警告灯（橙）が点灯します。

アドバイス

- HSA に異常がある場合は、HSA を解除して、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

知　識

- スタータースイッチを『ON』位置にすると HSA 警告灯（橙）→ HSA 表示灯（緑）の順に点灯し、約 3 秒後に消灯すれば正常です。

参照ページ
4-134 HSA の警告・表示

HSA 表示灯（緑）



HSA が作動すると表示灯（緑）が点灯します。

知　識

- スタータースイッチを『ON』位置にすると HSA 警告灯（橙）→ HSA 表示灯（緑）の順に点灯し、約 3 秒後に消灯すれば正常です。

HSA の警告・表示内容

次の場合、HSA 警告灯（橙）が点灯し、メーターディスプレイ表示と警報音で注意を呼びかけます。

メーターディスプレイ表示	警告灯	警報音	内容	処置
離席注意 HSA作動中です。 離席する時には パーキングブレーキを 引いて下さい。	点灯	ピーッ ピーッ … （連続）	**ドア開警報** HSA を効かせたまま、パーキングブレーキレバーを引かずにドアを開けたとき	パーキングブレーキレバーを引いてからドアを開けてください。
HSA 長時間作動注意 HSAが長時間作動しています。 パーキングブレーキを 引いて下さい。	点灯	ピーッ ピーッ … （連続）	**長時間警報** HSA を効かせたままで停車したとき	パーキングブレーキレバーを引いて停車するか、ブレーキペダルを増し踏みしてください。
車両動き出し注意 パーキングブレーキを 引いて下さい。	点灯	ピーーー … （連続）	**動き出し警報** HSA を効かせたまま停車中に車が動きだしたとき	
HSA 異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	点灯	— （HSA 非作動時） ピーッ ピーッ … （連続） （HSA 作動時）	**故障警報** 上記以外で HSA 警告灯やブザーが作動したとき	安全に車両を停車して HSA OFF スイッチで HSA を解除してください。

⚠ 注 意

- **故障警報が作動したときは、ただちに安全な場所に停車してパーキングブレーキを引き、スタータースイッチを『LOCK』位置にしてください。再度スタータースイッチを『ON』位置にしても HSA 警告灯（橙）が点灯するときは、HSA 本体の故障です。HSA OFF スイッチを押して HSA を解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**

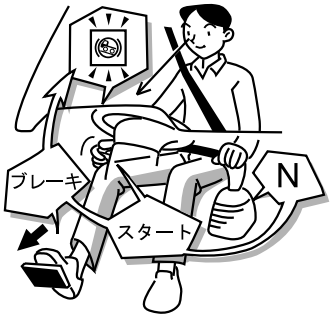
知 識

- HSA を効かせたまま、パーキングブレーキレバーを引かずにドアを開けたとき、ブザーが鳴ります。

HSA の使いかた

HSA 警告灯（橙）/ 表示灯（緑）





1. スタースイッチを『ON』位置にします。このとき、HSA 警告灯（橙）→ HSA 表示灯（緑）の順に点灯し、約 3 秒後に消灯することを確認してください。

2. エンジンを始動します。

知　識

- ecostop 付車はエンジン自動停止中も HSA が作動します。

3. パーキングブレーキを解除し、ブレーキペダルを約 1 秒以上しっかりと踏み込みます。このとき、HSA が作動し、メーターパネル内の HSA 表示灯（緑）が点灯することを確認してください。HSA OFF スイッチが『ON』の状態になっていると HSA 表示灯（緑）は点灯しません。

参照ページ
4-133 HSA OFF スイッチ

4. パーキングブレーキレバーを引きます。このとき、HSA が解除され、メーターパネル内の HSA 表示灯（緑）が消灯することを確認してください。

注 意

- **HSA 作動時に HSA 表示灯（緑）が点灯しないときは HSA 本体の異常が考えられます。HSA OFF スイッチを押して HSA を解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**
- **HSA 警告灯（橙）が点灯したときやブザーが鳴り続けるときは HSA 本体の異常が考えられます。安全な場所に停車して点検･処置を行い、正常に戻らない場合は HSA OFF スイッチを押して HSA を解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**

参照ページ
4-134 HSA の警告・表示

作動させるには

1. 車を停車してください。

知 識

- シフトレバーの位置に関係なく HSA を作動させることができます。

2. ブレーキペダルを約 1 秒以上しっかりと踏み込みます。このとき、HSA が作動し、メーターパネル内の HSA 表示灯（緑）が点灯します。

注 意

- **HSA は、一時的に停車するための装置で、パーキングブレーキの代わりにはなりません。車から離れるときには、必ずパーキングブレーキを効かせてください。万一、HSA を作動させたまま、ドアを開くとブザーが鳴り注意を呼びかけます。**
- **急な坂道では、ブレーキペダルの踏み込みが足りないと車が動きだすことがあります。さらに強くブレーキペダルを踏み込んでください。**
- **HSA は、ブレーキペダルを踏んで約 1 秒後に作動します。この間は、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。**
- **HSA 本体に異常がある場合は HSA を解除してただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。**
- **強めのブレーキやタイヤがロックして停車したときは、HSA が一時的に作動しないこともありますが、そのときはパーキングブレーキを使用するか、そのままブレーキペダルを踏み続けて停車してください。**

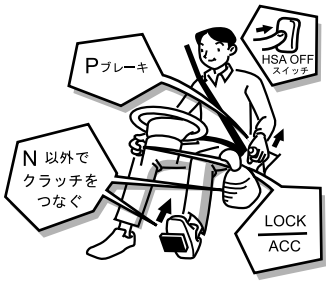
参照ページ
4-134 HSA の警告・表示

知　識

【こんな症状は、異常ではありません】

・HSA 作動中にブレーキペダルが動いたり、作動音が聞こえる場合がありますが、これは車両が動き出さないようにブレーキ力の調整を行っているときの現象です。

解除するには



HSA は次のいずれかの場合に作動を解除し、ブレーキの作動を開放します。

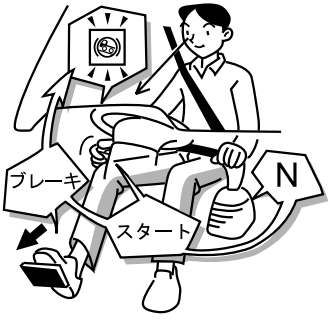
・エンジン回転中にシフトレバーを『N』以外の位置にしてクラッチをつないだとき
・パーキングブレーキレバーを引いたとき
・HSA OFF スイッチを『ON』にしたとき
・スタータースイッチを『ACC』または、『LOCK』位置にしたとき

HSA の調整

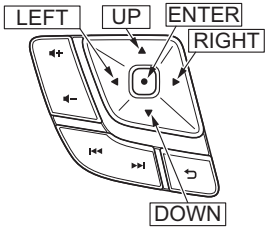
次のとき、HSA の微調整を行ってください。

・発進時にブレーキの引きずり感があるとき。
・坂道で発進時に車が下がるとき。
・ブレーキの解除のタイミングが自分の希望と合わないとき。

調整のしかた



1. パーキングブレーキレバーを引きシフトレバーが『N』位置にあることを確認して、エンジンを始動します。このとき、HSA OFF スイッチが『OFF』で、HSA が作動可能な状態であることを確認してください。
2. ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、パーキングブレーキレバーを戻します。このとき、HSA 表示灯（緑）が点灯することを確認し、クラッチペダルを踏み込みシフトレバーを『N』以外の位置に入れます。



3. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



4. 設定画面の「車両設定」→「ブレーキ」→「HSA 設定」→「解除タイミング設定」の順に選択し、調整画面を表示させます。



5. 発進時のブレーキ解除のタイミングが遅くブレーキの引きずり感があるときはメーターディスプレイスイッチの『RIGHT』を押します。発進時のブレーキ解除のタイミングが早く、坂道で車が下がるときは、メーターディスプレイスイッチの『LEFT』を押します。スイッチを 1 回押すごとにブザーが鳴ります。
操作回数は次表を参考にしてください。

状況	操作回数
微調整をしたいとき	『RIGHT』または『LEFT』を 1 ～ 2 回押してください。
ブレーキの引きずり感があるとき	『RIGHT』を 2 ～ 3 回押してください。
坂道で車が下がりぎみなとき	『LEFT』を 2 ～ 3 回押してください。
ブレーキを引きずっているとき	『RIGHT』を 3 ～ 5 回押してください。
坂道で車が下がるとき	『LEFT』を 3 ～ 5 回押してください。

知　識

- 調整バーの表示範囲は「早い」または「遅い」側共に 5 段目までですが、ブザーが鳴る限り調整することができます。

6. 調整後『ENTER』を押すと、設定は完了です。

注　意

- **微調整を極端に「早い」側または「遅い」側に調整してしまうと HSA が正常に作動・解除できない場合があります。適正なブレーキ力の解除タイミング位置に調整してください。**

知　識

【マニュアルトランスミッション車】

- 「早い」または「遅い」側に 5 回（調整バー 5 段目）以上調整してもブレーキ力の解除タイミングが大きくずれているときは、HSA の初期調整を行ってください。

参照ページ
4-141 HSA の初期調整（マニュアルトランスミッション車）

HSA の初期調整（マニュアルトランスミッション車）

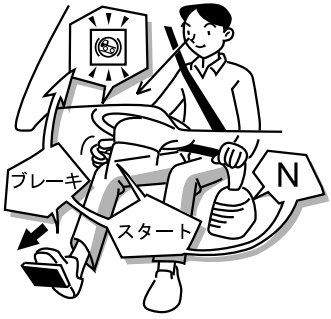
アドバイス

- 故障警報中は調整できません。HSA OFF スイッチを押して HSA を解除し、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

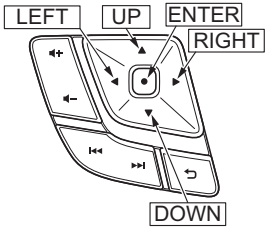
参照ページ
4-134 HSA の警告・表示

次のとき、HSA の初期調整を行ってください。
- クラッチ交換や、クラッチペダルの遊び調整をしたとき
- 発進時のブレーキ解除のタイミングが大きくずれているとき
- HSA コントロールユニットを交換したとき

調整のしかた

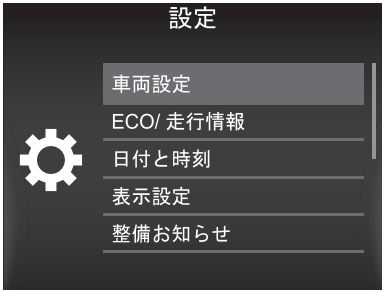


1. パーキングブレーキレバーを引き、シフトレバーが『N』位置にあることを確認してエンジンを始動します。

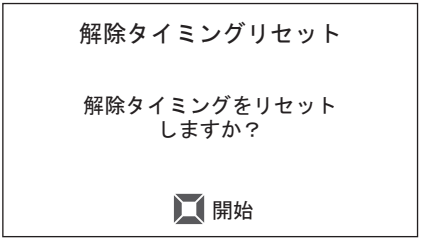


2. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



3. 設定画面の「車両設定」→「ブレーキ」→「HSA 設定」→「解除タイミングリセット」の順に選択し、リセット画面を表示させます。



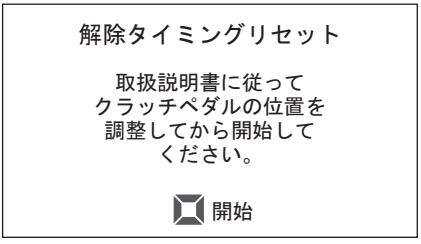
4. メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を押します。このとき『ピピッ ピピッ ……』というブザー音が鳴り、HSA 警告灯（橙）が点灯します。

知　識

- 解除タイミングのリセットができなかった場合、手順 4 に戻り再度リセットを行ってください。再度リセットの手順を行っても解除タイミングがリセットできなかった場合は、《日産販売会社》へご連絡ください。

5. クラッチを切り、シフトレバーを 2 速にします。

6. クラッチを徐々につないでいきエンジン回転数が、30 ～ 50r/min くらい下がった状態でメーターディスプレイスイッチの『ENTER』を押してください。このときブザーが鳴りやみます。



7. シフトレバーをニュートラルにしてクラッチペダルをゆっくりつないでください。クラッチペダルをゆっくりつながないと正しい初期調整値を記憶しない場合があります。

⚠ 注 意

- **正しい初期調整値を記憶できないと、**
  - **HSA の微調整ができない**
  - **HSA が作動しない**
  - **HSA の解除が早く、車が下がる**
  - **HSA の解除が遅く、ブレーキを引きずる**

  など、HSA システムを正しく使用できなくなる場合があります。必ずクラッチペダルはゆっくり戻してください。

8. HSA を一旦作動させてから車両を発進させます。このとき、ブレーキ解除のタイミングが合っていない場合は、HSA の調整を行ってください。

参照ページ
4-138 HSA の調整

⚠ 注 意

- **クラッチペダルの遊び調整をしたときは、必ず HSA の初期調整をしてください。**
- **クラッチペダルの遊び量が基準値を超えていると、HSA が正常に作動および解除できない場合があります。『クラッチペダルの遊び』を参照し、正しく点検･調整してください。**

参照ページ
10-77 クラッチペダルの遊び

オートブレーキホールド★

電動パーキングブレーキ付車

通常、フットブレーキは、ブレーキペダルを踏んでいるときだけブレーキ力を保持しますが、オートブレーキホールドが作動すると停車時に踏み込んだブレーキ力をブレーキペダルから足を離しても保持し、車を一時的に停止させます。ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替え操作や、パーキングブレーキ操作を軽減します。

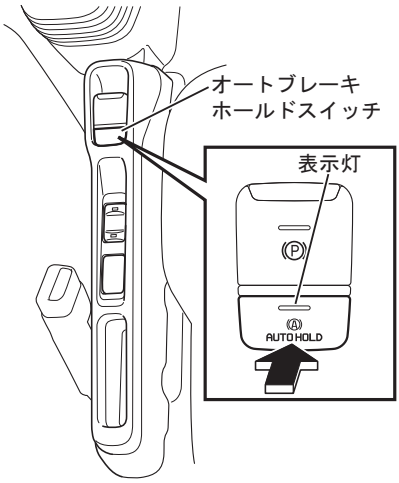
⚠ 警 告

- 運転席を離れるときには必ずパーキングブレーキを効かせてください。
- オートブレーキホールド作動中にスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしたとき、ヒューズを抜くとブレーキの保持力が解除され坂道では車が下がります。
- オートブレーキホールド作動中に車が下がるときはブレーキペダルを増し踏みするか、パーキングブレーキを確実に効かせてください。ブレーキペダルを増し踏みした場合はオートブレーキホールドが解除されるため、ブレーキペダルを踏み続けてください。
- 定積･勾配 10%以上の条件で停車するときにはパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- 停車時間が長くなるときにはパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- オートブレーキホールドに異常を感じたらブレーキペダルを踏みながら、オートブレーキホールドスイッチを押して解除してください。通常のブレーキの状態に戻ります。
- オートブレーキホールド作動中にパーキングブレーキを効かせるとオートブレーキホールドは解除されます。
- オートブレーキホールドが作動していてもブレーキペダルから足を離しているときはストップランプは点灯しません。
- エンジン停止中（ecostop 付車は、ecostop によるエンジン自動停止中を除く）はオートブレーキホールドは作動しません。
- 強めのブレーキやタイヤがロックして停車したときは、オートブレーキホールドが一時的に作動しないこともありますが、そのときはパーキングブレーキを使用するか、そのままブレーキペダルを踏み続けて停車してください。

参照ページ
4-37 寒冷地や冬季の駐車について

オートブレーキホールドスイッチ

オートブレーキホールドの ON/OFF



オートブレーキホールドシステムの ON/OFF を切り替えるスイッチです。オートブレーキホールドの作動中に OFF に切り替えるときは、ブレーキペダルを踏みながらオートブレーキホールドスイッチを押してください。オートブレーキホールドが OFF になるとスイッチの表示灯が消灯します。もう一度押すとオートブレーキホールドが ON になります。

作動可能な状態のとき

次の条件を満たすと、オートブレーキホールドは作動可能な状態になり、スイッチの表示灯が点灯します。

- オートブレーキホールドシステムが ON
- ドアが閉じられ、運転席シートベルトが装着されている
- オートブレーキホールド警告灯 (橙) が点灯していない

注　意

- **雪路や凍結路のような滑りやすい路面ではオートブレーキホールドを解除してください。このような路面でタイヤをロックさせた場合、オートブレーキホールドが作動することがあり、タイヤがロックしたままになるおそれがあります。**

知　識

- オートブレーキホールドはエンジン始動後、前回スタータースイッチを『LOCK』位置にしたときの設定になります。

知識（続く）



知識（続き）

- オートブレーキホールド作動中にブレーキペダルを踏まずに、オートブレーキホールドスイッチを押してもオートブレーキホールドは OFF になりません。このとき、メーターディスプレイに「ブレーキを踏んで下さい」が表示され、ブザー『ピーッ』が鳴ります。

オートブレーキホールドの警告・表示

オートブレーキホールド警告灯（橙）



オートブレーキホールド作動時に離席、動き出しやオートブレーキホールドの故障がある場合は警告灯（橙）が点灯します。

アドバイス

- オートブレーキホールドに異常がある場合は、オートブレーキホールドを解除して、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

知　識

- スタータースイッチを『ON』位置にするとオートブレーキホールド 警告灯（橙）→オートブレーキホールド表示灯（緑）の順に点灯し、約 3 秒後に消灯すれば正常です。

参照ページ
4-148 オートブレーキホールドの警告・表示内容

オートブレーキホールド表示灯（緑）



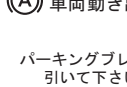
オートブレーキホールドが作動すると表示灯（緑）が点灯し、オートブレーキホールドが解除されると消灯します。

知　識

- スタータースイッチを『ON』位置にするとオートブレーキホールド 警告灯（橙）→ オートブレーキホールド 表示灯（緑）の順に点灯し、約 3 秒後に消灯すれば正常です。

オートブレーキホールドの警告・表示内容

次の場合、オートブレーキホールド警告灯（橙）やメーターディスプレイの表示と警報音で注意を呼びかけます。

メーターディスプレイ表示	警告灯	警報音	内容	処置
	点灯	ピーッ ピーッ … （連続）	**ドア開警報** オートブレーキホールドを効かせたまま、パーキングブレーキを効かせずにドアを開けたとき*1	パーキングブレーキを効かせてからドアを開けてください。
	点灯	ピーーー … （連続）	**動き出し警報** オートブレーキホールドを効かせたまま停車中に車が動きだしたとき	パーキングブレーキを効かせ停車するか、ブレーキペダルを増し踏みしてください。
	消灯	ピーッ	**ブレーキペダル踏み忘れ警報** オートブレーキホールド作動中に、ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを押したとき	ブレーキペダルを踏んでください。
	消灯	―	**電動パーキングブレーキ持ち替え警報** オートブレーキホールドが長時間の作動を継続したため、パーキングブレーキに持ち替えたとき	発進するときは、パーキングブレーキを解除してください。

メーターディスプレイ表示	警告灯	警報音	内容	処置
Ⓐ ブレーキ保持システム異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	点灯	ー （オートブレーキホールド非作動時）	**故障警報** 上記以外でオートブレーキホールド警告灯やブザーが作動したとき	安全に車両を停車してオートブレーキホールドを解除してください。
	点灯	ピーッ ピーッ … （連続） （オートブレーキホールド作動時）		

*1：「車両設定」で「電動パーキングブレーキ」の「キーオフ自動作動」が「自動作動 OFF」または「離席連動 OFF」に設定されているときのみ

参照ページ
4-76 電動パーキングブレーキの自動作動機能の設定

注 意

- 故障警報が作動したときは、ただちに安全な場所に停車してパーキングブレーキを効かせ、スタースイッチを『LOCK』位置にしてください。再度スタースイッチを『ON』位置にしてもオートブレーキホールド 警告灯（橙）が点灯するときは、オートブレーキホールド本体の故障です。
  走行する際は、オートブレーキホールドスイッチを押してオートブレーキホールドを OFF にして、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

知 識

- オートブレーキホールドの作動中にドアを開けてブザーが鳴る場合は、パーキングブレーキが自動でかかりません。パーキングブレーキを効かせてから離席してください。

オートブレーキホールドの使いかた

オートブレーキホールド警告灯（橙）/
表示灯（緑）



1. スタースイッチを『ON』位置にします。このとき、オートブレーキホールド警告灯（橙）→オートブレーキホールド表示灯（緑）の順に点灯し、約 3 秒後に消灯することを確認してください。

2. ドアを閉じ、シートベルトを装着し、エンジンを始動します。

知　識

- ecostop 付車はエンジン自動停止中もオートブレーキホールドが作動します。

3. オートブレーキホールドスイッチの表示灯が点灯し、作動可能な状態であることを確認します。

参照ページ
4-145 オートブレーキホールドスイッチ

4. デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、シフトレバーを『P』位置から『D』、『M』または『N』位置に操作します。

5. パーキングブレーキを解除し、ブレーキペダルを約 1 秒以上しっかりと踏み込みます。このとき、オートブレーキホールドが作動し、メーターディスプレイ内のオートブレーキホールド表示灯（緑）が点灯することを確認してください。

6. 電動パーキングブレーキスイッチを引上げます。このとき、オートブレーキホールドが解除され、メーターディスプレイ内のオートブレーキホールド表示灯（緑）が消灯することを確認してください。

注 意

- **オートブレーキホールド作動時にオートブレーキホールド表示灯（緑）が点灯しないときはオートブレーキホールド本体の異常が考えられます。ブレーキペダルを踏みながら、オートブレーキホールドスイッチを押してオートブレーキホールドを解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**
- **オートブレーキホールド警告灯（橙）が点灯したときやブザーが鳴り続けるときはオートブレーキホールド本体の異常が考えられます。安全な場所に停車して点検･処置を行い、正常に戻らない場合はブレーキペダルを踏みながら、オートブレーキホールドスイッチを押してオートブレーキホールドを解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**

参照ページ
4-146 オートブレーキホールドの警告・表示

作動させるには

1. 車を停車してください。

知 識

- マニュアルトランスミッション車はシフトレバーの位置に関係なくオートブレーキホールドを作動させることができます。
- デュアルクラッチ式 AMT 車はシフトレバーが『D』、『M』および『N』位置のときに、オートブレーキホールドを作動させることができます。
- オートマチックトランスミッション車はシフトレバーが『D』、『M（1 または 2 速のみ）』および『N』位置のときに、オートブレーキホールドを作動させることができます。

2. ブレーキペダルを約 1 秒以上しっかりと踏み込みます。このとき、オートブレーキホールドが作動し、メーターディスプレイ内のオートブレーキホールド表示灯（緑）が点灯します。

注 意

- オートブレーキホールドは、一時的に停車するための装置で、パーキングブレーキの代わりにはなりません。車から離れるときには、必ずパーキングブレーキを効かせてください。万一、オートブレーキホールドを作動させたまま、ドアを開くとブザーが鳴り注意を呼びかけます。
- 急な坂道では、ブレーキペダルの踏み込みが足りないと車が動きだすことがあります。パーキングブレーキを効かせるか、さらに強くブレーキペダルを踏み込んでください。ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだときは、オートブレーキホールドが解除されるためブレーキペダルを踏み続けてください。
- オートブレーキホールドは、ブレーキペダルを踏んで約 1 秒後に作動します。この間は、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- オートブレーキホールド本体に異常がある場合はオートブレーキホールド を解除してただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。
- 強めのブレーキやタイヤがロックして停車したときは、オートブレーキホールド が一時的に作動しないこともありますが、そのときはパーキングブレーキを使用するか、そのままブレーキペダルを踏み続けて停車してください。

参照ページ
4-146 オートブレーキホールドの警告・表示

知 識

【こんな症状は、異常ではありません】

- オートブレーキホールド作動中にブレーキペダルが動いたり、作動音が聞こえる場合がありますが、これは車両が動き出さないようにブレーキ力の調整を行っているときの現象です。

解除するには

オートブレーキホールドは次のいずれかの場合に作動を解除し、ブレーキの作動を開放します。

- エンジン回転中にシフトレバーを『N』以外の位置にしてクラッチをつないだとき (マニュアルトランスミッション車)
- アクセルペダルを踏み込んで発進するとき（デュアルクラッチ式 AMT 車、オートマチックトランスミッション車)
- ブレーキペダルを踏み直したとき（デュアルクラッチ式 AMT 車、オートマチックトランスミッション車）
- ブレーキペダルを踏みながら、オートブレーキホールドスイッチを押してオートブレーキホールドシステムを OFF にしたとき

知　識

オートブレーキホールドの作動中に次のいずれかの操作・条件を満たすと、オートブレーキホールドの作動が解除され、パーキングブレーキがかかります。発進するときは、パーキングブレーキを解除してください。

- 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき
- オートブレーキホールドの作動が長時間継続したとき
  - メーターディスプレイに「パーキングブレーキ作動」が表示されます。
- 運転席シートベルトを外し、ドアを開いたとき（電動パーキングブレーキの自動作動機能 ※）
- スタータースイッチを『ACC』または、『LOCK』位置にしたとき（電動パーキングブレーキの自動作動機能 ※）
- シフトレバーを『P』位置に操作したとき（電動パーキングブレーキの自動作動機能 ※：デュアルクラッチ式 AMT 車、オートマチックトランスミッション車のみ）

※：電動パーキングブレーキの自動作動機能は設定によって作動しない場合があります。詳しくは『電動パーキングブレーキ★』を参照してください。

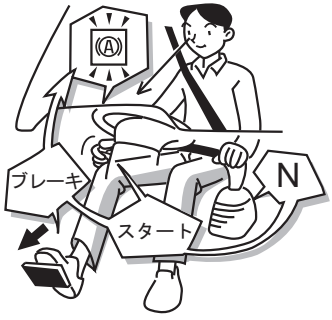
参照ページ
4-71 電動パーキングブレーキ★

オートブレーキホールドの調整

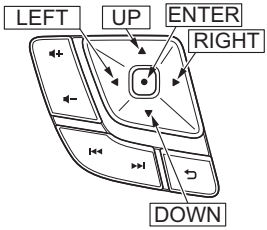
次のとき、オートブレーキホールド の微調整を行ってください。

- 発進時にブレーキの引きずり感があるとき
- 坂道で発進時に車が下がるとき
- ブレーキの解除のタイミングが自分の希望と合わないとき

調整のしかた



1. パーキングブレーキを効かせシフトレバーがマニュアルトランスミッション車は『N』位置、デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は『P』位置にあることを確認して、エンジンを始動します。このとき、オートブレーキホールドスイッチ表示灯が点灯し、オートブレーキホールドが作動可能な状態であることを確認してください。



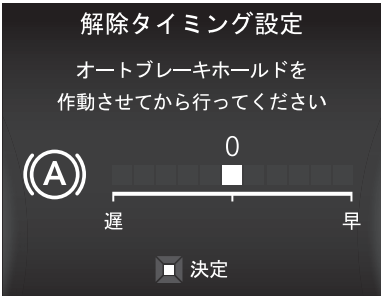
2. マニュアルトランスミッション車はクラッチペダルをしっかりと踏み込みシフトレバーを『N』以外の位置に入れ、デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車はブレーキペダルをしっかりと踏み込みシフトレバーを『D』位置に入れて、パーキングブレーキを解除します。このとき、オートブレーキホールド表示灯（緑）が点灯することを確認します。

3. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



4. 設定画面の「車両設定」→「ブレーキ」→「オートブレーキホールド設定」→「解除タイミング設定」の順に選択し、調整画面を表示させます。



5. 発進時のブレーキ解除のタイミングが遅くブレーキの引きずり感があるときはメーターディスプレイスイッチの『RIGHT』を押します。発進時のブレーキ解除のタイミングが早く、坂道で車が下がるときは、メーターディスプレイスイッチの『LEFT』を押します。スイッチを 1 回押すごとにブザーが鳴ります。
操作回数は次表を参考にしてください。

状況	操作回数
微調整をしたいとき	『RIGHT』または『LEFT』を 1 ～ 2 回押してください。
ブレーキの引きずり感があるとき	『RIGHT』を 2 ～ 3 回押してください。
坂道で車が下がりぎみなとき	『LEFT』を 2 ～ 3 回押してください。
ブレーキを引きずっているとき	『RIGHT』を 3 ～ 5 回押してください。
坂道で車が下がるとき	『LEFT』を 3 ～ 5 回押してください。

知　識

- 調整バーの表示範囲は「早い」または「遅い」側共に 5 段目までですが、ブザーが鳴る限り調整することができます。

6. 調整後『ENTER』を押すと、設定は完了です。

注　意

- **微調整を極端に「早い」側または「遅い」側に調整してしまうとオートブレーキホールドが正常に作動･解除できない場合があります。適正なブレーキ力の解除タイミング位置に調整してください。**

知　識

- 「早い」または「遅い」側に 5 回（調整バー 5 段目）以上調整してもブレーキ力の解除タイミングが大きくずれているときは、以下の対処をしてください。
  - マニュアルトランスミッション車は、オートブレーキホールドの初期調整を行ってください。
  - デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、《日産販売会社》で点検を受けてください。

参照ページ
4-156 オートブレーキホールドの初期調整 (マニュアルトランスミッション車)

オートブレーキホールドの初期調整 (マニュアルトランスミッション車)

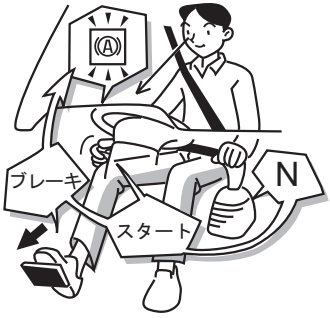
アドバイス

- 故障警報中は調整できません。オートブレーキホールドスイッチを押してオートブレーキホールドを解除し、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

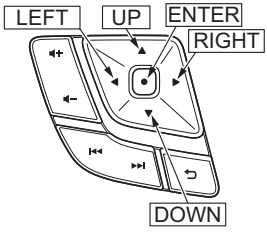
参照ページ
4-148 オートブレーキホールドの警告・表示内容

次のとき、オートブレーキホールドの初期調整を行ってください。
- クラッチ交換や、クラッチペダルの遊び調整をしたとき
- 発進時のブレーキ解除のタイミングが大きくずれているとき
- オートブレーキホールドのコントロールユニットを交換したとき

調整のしかた

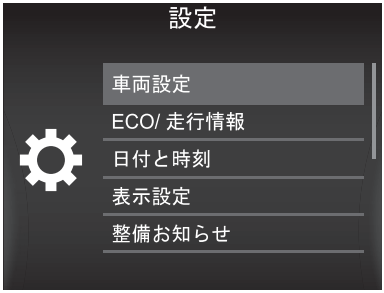


1. パーキングブレーキを効かせシフトレバーが『N』位置にあることを確認してエンジンを始動します。

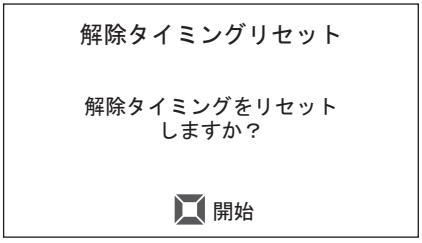


2. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



3. 設定画面の「車両設定」→「ブレーキ」→「オートブレーキホールド設定」→「解除タイミングリセット」の順に選択し、リセット画面を表示させます。



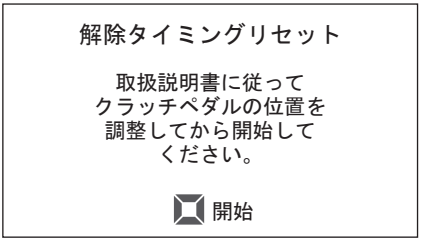
4. メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を押します。このとき『ピピッ ピピッ ……』というブザー音が鳴り、オートブレーキホールド警告灯（橙）が点灯します。

知　識

- 解除タイミングのリセットができなかった場合、手順 4 に戻り再度リセットを行ってください。再度リセットの手順を行っても解除タイミングがリセットできなかった場合は、《日産販売会社》へご連絡ください。

5. クラッチを切り、シフトレバーを 2 速にします。

6. クラッチを徐々につないでいきエンジン回転数が、30 ～ 50r/min くらい下がった状態でメーターディスプレイスイッチの『ENTER』を押してください。このときブザーが鳴りやみます。



7. シフトレバーをニュートラルにしてクラッチペダルをゆっくりつないでください。クラッチペダルをゆっくりつながないと正しい初期調整値を記憶しない場合があります。

⚠ 注 意

- **正しい初期調整値を記憶できないと、**
  - **オートブレーキホールド の微調整ができない**
  - **オートブレーキホールド が作動しない**
  - **オートブレーキホールドの解除が早く、車が下がる**
  - **オートブレーキホールドの解除が遅く、ブレーキを引きずる**

など、オートブレーキホールドシステムを正しく使用できなくなる場合があります。必ずクラッチペダルはゆっくり戻してください。

8. オートブレーキホールドを一旦作動させてから車両を発進させます。このとき、ブレーキ解除のタイミングが合っていない場合は、オートブレーキホールド の調整を行ってください。

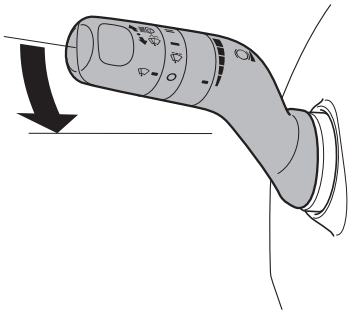
参照ページ
4-153 オートブレーキホールドの調整

⚠ 注 意

- **クラッチペダルの遊び調整をしたときは、必ずオートブレーキホールド の初期調整をしてください。**
- **クラッチペダルの遊び量が基準値を超えていると、オートブレーキホールド が正常に作動および解除できない場合があります。『クラッチペダルの遊び』を参照し、正しく点検･調整してください。**

参照ページ
10-77 クラッチペダルの遊び

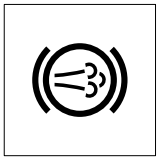
排気ブレーキスイッチ（4JZ1 型エンジン車）



走行中、レバーを手前に引くと排気ブレーキが作動します。同時に排気ブレーキ表示灯が点灯します。排気ブレーキ表示灯は、非作動中は白、作動中は緑で点灯します。アクセルペダルまたはクラッチペダルを踏むと排気ブレーキが解除され、ペダルから足を離すと再び排気ブレーキが作動します。

- デュアルクラッチ式 AMT 車は車両停止直前でエンジン回転数が下がると排気ブレーキをカットします。回転数が戻り次第、再度排気ブレーキは有効になります。

排気ブレーキ表示灯



注 意

- **滑りやすい路面（圧雪路、凍結路、濡れた路面）で排気ブレーキを作動させると、タイヤがスリップし、非常に危険です。**

【デュアルクラッチ式 AMT 車】

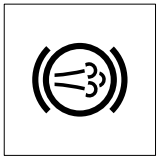
- **降坂路等でアクセルペダルを踏み込み、加速しながら走行している場合、トランスミッション保護のため、排気ブレーキが自動で作動することがあります。車速が低下すれば、排気ブレーキは自動で解除されます。**

アドバイス

- 排気ブレーキを使用中に警報音『ピーーー …（連続）』が鳴った場合は、ただちに安全な場所に停車し、《日産販売会社》で点検を受けてください。

排気ブレーキの警告・表示

排気ブレーキ表示灯



作動中は緑、非作動状態では白で点灯します。
また、次の場合に橙色で点灯します。
- 排気ブレーキシステムに異常があるとき
- 排気スロットルシステムに異常があるとき

アドバイス

- 排気ブレーキ表示灯が橙色で点灯したときは、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

参照ページ
4-159 排気ブレーキスイッチ（4JZ1 型エンジン車）

排気ブレーキが作動しない条件

以下の条件のとき、排気ブレーキ表示灯が点灯しても排気ブレーキは作動しません。
- アクセルペダル、クラッチペダル（マニュアルトランスミッション車）を踏んでいるとき
- シフトレバーが『N』位置のとき
- 車速が 5km/h 以下のとき
- 外気温度が低く、発進直後のとき

知　識

- ABS 作動時、排気ブレーキスイッチが『ON』で排気ブレーキ表示灯が点灯していても、排気ブレーキが解除されることがあります。また、段差を通過したときなどにブレーキペダルを踏んでいなくても、一時的に排気ブレーキが解除されることがあります。このとき、排気ブレーキ表示灯が一時的に緑から白になります。

ABS

急制動時や雪路などの滑りやすい路面での制動時に、車輪がロックし、スリップすることがあります。ABS（アンチロックブレーキシステム）は、制動時の車輪のスリップ状況を検知して車輪のロックを防ぎ、車両の方向安定性、操縦安定性を確保するための装置です。ABS は決して万能装置ではなく、限界を超えた走行および停止を可能とするものではありません。安全運転を心掛けてください。

⚠ 注 意

- **ABS 装着車であっても、滑りやすい路面での制動距離は、通常の乾燥舗装路に比べて長くなります。また、深い雪･砂利道などでは ABS が作動すると、制動距離が若干延びる場合もあります。したがって、路面の状態とタイヤの状態（タイヤの種類および摩耗状態など）を常に考慮し、安全運転を守り、車間距離を適正に保って走行してください。**
- **ABS は、無理な運転を補うものではありません。安全な速度で運転してください。**
- **指定サイズで同一銘柄および同一パターン（溝模様）のタイヤ（冬用タイヤも含む）を全輪に装着してください。異なったタイヤを装着した場合、制動距離が延びたり、車両の操縦安定性が悪くなり大変危険です。**
- **急制動（ABS が作動しているとき）のハンドル操作感覚はブレーキをかけていないときとは少し異なります。ハンドル操作には十分注意してください。**

アドバイス

- 砂地やぬかるみを走行した場合、ブレーキや ABS センサーに悪影響をおよぼすおそれがあります。洗車を行い泥などの付着物を除去してください。
- 洗車時は ABS 機器類（センサーおよびアクチュエーター類）に水がかからないように、処理をしてから洗車してください。特に高圧洗浄機を使用する場合は、ABS 機器およびハーネスコネクターに直接水がかからないように注意してください。

知 識

- ABS は Anti lock Brake System（アンチロックブレーキシステム）の略です。

【こんな症状は、異常ではありません】

- エンジン始動後の発進直後、車両後方またはキャブの下側よりモーター音が聞こえることがありますが、これは ABS の作動をチェックしている音です。また、このとき、ブレーキペダルを踏んでいると振動を感じることがあります。
- ABS が作動しているときにはブレーキペダルやハンドルに振動を感じたり、作動音がしたりしますが、これは ABS が適切に作用しているときの現象です。
- 排気ブレーキの作動中に、ABS が作動すると排気ブレーキが解除されることがあります。
- 旋回中や段差を乗り越すときにブレーキをかけると ABS が作動しやすくなりますが、これは内側の車輪または段差を乗り越えた車輪がロックしやすくなるためです。
- ABS は発進直後、車速が約 10km/h になるまで作動しません。また、車速が約 5km/h まで下がると作動を停止します。

ABS の作動と異常時の警告

ABS の作動

ABS が作動すると、ブレーキペダルやハンドルに若干の振動と、ABS 機器から作動音などが発生します。

ABS 警告灯



アンチロックブレーキ装置に異常があるときにブレーキ警告灯と同時に ABS 警告灯が点灯します。このとき、アンチロックブレーキ装置の作動は停止しますが、通常のブレーキとして作動します。

参照ページ
3-35 ブレーキ警告灯

注 意

- **運転中に点灯したときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に停車し、次の処置をしてください。**
  - **エンジンを停止します。**
  - **エンジンを再始動させます。このとき、警告灯の点灯、消灯の状態を確認してください。正しく点灯後消灯すれば異常はありません。アンチロックブレーキ装置は正常に作動します。**
  - **上記の処置で消灯しない場合、発進･走行し、車速が約 15km/h に達するまでに警告灯が消灯すれば異常ではありません。**
- **点灯または消灯しないとき、たびたび点灯するときは、ただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。**
- **ABS に異常が発生しても通常のブレーキとしての性能は確保されています。このとき ABS は作動しません。**

アドバイス

- ABS 警告灯が下記の状態のときは ABS の故障が考えられます。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
  - 運転中に点灯したとき
  - スタータースイッチを『ON』位置にしても点灯しないとき

ABS 装着車の運転上の注意

ABS は決して万能装置ではなく、限界を超えた走行および停止を可能とするものではありません。安全運転を心掛けてください。

⚠ 注 意

- 急制動時は、ABS が効果を発揮できるようブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- 急制動時はポンピングブレーキ（ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏む）をしないでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。
- ABS 装着車であっても、滑りやすい路面での制動距離は、通常の乾燥舗装路に比べて長くなります。また、下記のような路面や状況で ABS が作動した場合には ABS がついていない車両に比べて制動距離が若干長くなる場合があります。したがって、路面の状態とタイヤの状態（タイヤの種類･摩耗状態）を常に考慮して、安全運転を守り、車間距離を適正に保って走行してください。
  - 砂利道、深い雪道、深雪路を走行している時
  - タイヤチェーンを装着している時
  - 道路の継ぎ目や、キャッツアイなどの段差を乗り越える時
  - 凸凹道や石畳、軌道内を走行している時
  - 鉄板、マンホールのふたの上を走行している時
- ABS は車両の発進、加速、旋回など制動時以外で生じる車輪のスリップには働きません。また、非常に滑りやすい凍結路などでは、タイヤのグリップ力が低下しハンドルが適正に切れず、車両が不安定となることがあります。常に路面およびタイヤの状態にあった安全速度を守って走行し、急ブレーキを避けるようにしてください。
- 非常に滑りやすい凍結した路面などは、強いエンジンブレーキを働かせると、駆動輪がロックして車両が不安定になることがあります（ABS はエンジンブレーキによるロックを防ぐことはできません）。このようなとき、クラッチを切る（マニュアルトランスミッション車）かシフトレバーを『N』位置にし、駆動輪へのエンジンブレーキの作用を一度断った後、適正なレバー位置にして走行してください。
- ABS が作動すると、ブレーキペダルやハンドルに若干の振動（とくに、左右輪の路面状態が異なる場合）および取られを感じることがあります。また、ABS 機器から作動音が発生します。これらは、異常ではありませんので、あわてずに適正なハンドル操作を行ってください。

制動力アシスト機能★

ブレーキフルード圧を加圧し、必要な制動力を確保する装置です。作動する条件により 2 つの機能があります。制動力アシスト機能は決して万能装置ではなく、限界を超えて走行および停止を可能にするものではありません。安全運転を心掛けてください。

失陥助勢機能

ブレーキ倍力装置の機能が低下したときにブレーキフルード圧を加圧し、必要な制動力を確保する機能です。

高 G 助勢機能★

急ブレーキ時や積載時などブレーキ倍力装置の倍力限界を超えた高い制動力が必要なときにブレーキフルード圧を加圧し、必要な制動力を確保する機能です。

知　識

【こんな症状は、異常ではありません】

- 制動力アシスト機能が作動しているときにはブレーキペダルやハンドルに振動を感じたり、作動音がしたりしますが、これは制動力アシスト機能が適切に作用しているときの現象です。

ブレーキアシストシステム★

AHR 型車

緊急時などブレーキペダルを十分に踏み込めないときに、運転者を補助するシステムです。運転者のペダルの踏力と踏み込み速度に応じて制動力の立ち上がりを早くすることで、緊急時のブレーキ操作をアシストします。

EBD

EBD（電子制御制動力配分）とは、ABS 装置を利用して、積載状態の変化や減速度による荷重移動に応じて前後輪の制動力配分を適切にコントロールし、後輪の早期ロックを防止する機能です。

注 意

- **EBD 機能に異常が発生した場合、ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯します。**
- **EBD 機能に異常が発生した場合、後輪がロックしやすくなります。ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。**

知 識

- EBD は Electronic Braking force Distribution（電子制御制動力配分）の略です。

【こんな症状は、異常ではありません】

- EBD が作動するとブレーキペダルに『コツン』と動きを感じたり、ABS 作動時と似た音が聞こえることがあります。

ASR

ASR（アンチスリップレギュレーター）とは、雪路などの滑りやすい路面を走行しているときに、駆動輪の無駄な空転を防ぎ車両の安定性を確保するための装置です。エンジンを始動すると自動的に ASR 装置は作動可能な状態になります。VDC OFF スイッチを使用して ASR 装置を解除させることもできます。

注 意

- **ASR が作動すると VDC 警告灯が点滅します。このときの路面の状態はとても滑り易くなっています。無理な運転はせず、カーブなどの手前では十分速度を落として注意深く運転してください。**
- **ASR 装着車であっても雪路、凍結路等を走るときは、タイヤチェーンや冬用タイヤを装着して十分注意して運転してください。**
- **ASR は発進性能を著しく向上させる装置ではありません。凍結した坂道などでの発進時には、アクセルペダルの操作を慎重に行ってください。**
- **タイヤチェーン装着時は、凍結した坂道などで ASR 装置を解除したほうが発進しやすい場合があります。ただし、安定性は悪くなりますので十分注意してください。**

知　識

- ASR は Anti Slip Regulator（アンチスリップレギュレーター）の略です。

【こんな症状は、異常ではありません】

- 滑りやすい路面での発進時や加速時に、わずかな振動や作動音が聞こえることがありますが、これは ASR が作動している音です。
- エンジン回転が急に下がることがありますが ASR 装置が作動しているためです。
- 車検時などで、スピードテスターおよびブレーキテスターなどを使用した車両検査時に、ASR が作動して検査できない場合があります。VDC OFF スイッチを押して、ASR 装置を解除してください。

参照ページ
4-170 VDC OFF スイッチ

ASR の警告・表示

VDC 警告灯



ASR 作動時に点滅し、ASR に異常があるときは点灯します。

参照ページ
4-169 VDC 警告灯

ASR OFF 表示灯



表示灯が消灯している場合、ASR OFF 機能は正常です。
エンジン始動後に ASR を解除する場合は、VDC OFF スイッチを約 1 秒間押すと解除され、ASR OFF 表示灯が点灯します。
ASR または VDC を解除していない状態で走行中に点灯するときや、スタータースイッチを『ON』位置にしても点灯しないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

アドバイス

- VDC を解除すると、ASR も解除されます。

参照ページ
4-167 VDC

ASR 装着車の運転上の注意

ASR は決して万能装置ではなく、限界を超えた走行を可能とするものではありません。安全運転を心掛けてください。

⚠ 注 意

- **ASR 装着車は、滑りやすい路面において非装着車よりも発進および加速性能などが向上しますが、タイヤのグリップ力があがるわけではありません。また、滑りやすい凍結路などではタイヤのグリップ力が低下し、ハンドルが適正に切れず、車両が不安定となることがあります。常に路面およびタイヤの状態にあった安全速度を守って走行し、スピードの出し過ぎには十分注意してください。**
- **ASR を装備していても、アクセル、クラッチ（マニュアルトランスミッション車）、ハンドルの急な操作は避けてください。特に滑りやすい路面での発進は、ASR を装備していない場合と同様に静かに発進してください。**

知 識

- タイヤを多少スリップさせながらでもエンジンの回転数を上げて滑りやすい長い坂道を上るときや深雪路やぬかるみから脱出したいときは VDC OFF スイッチを押して ASR システムを停止することができます。

参照ページ
4-170 VDC OFF スイッチ

VDC

VDC はエンジン出力の抑制と必要な車輪のブレーキを作動させることで、滑りやすい路面での発進時や加速時のホイールスピンおよび走行時の横滑りを抑えて駆動力を維持し、車両安定性を向上させます。またブザーおよび表示灯で注意を喚起して、運転者が車両を安定した状態に回復させる手助けをします。VDC には、運転中の車両状態の急激な変化を検出するさまざまなセンサーがあります。VDC に含まれている ASR（アンチスリップレギュレーター）は、始動時または加速時にホイールスピンを抑制します。VDC は、エンジン始動時に自動的に作動します。ただし、VDC OFF スイッチを使用することにより、VDC を停止または ASR の機能のみを停止することができます。

警 告

- 下記の事項を行う場合は特別な処置が必要になる場合がありますので、《日産販売会社》にご相談ください。正しい処置をしないで運転された場合、VDC が正常に作動しなかったり、誤作動したりするおそれがあります。またシステムが故障と判断してしまうおそれもあります。
  - ハンドル、ライティングスイッチ・ターンシグナルスイッチ、ステアリングセンサー、ステアリングユニットを交換する場合
  - タイヤのサイズを変更する場合
  - 前後タイヤのサイズを変更する場合（前後異径タイヤにする場合）
  - コントロールユニットを交換する場合
- 指定サイズで同一銘柄および同一パターン（溝模様）のタイヤ（冬用タイヤも含む）を全輪に装着してください。異なったタイヤや、偏摩耗したタイヤを装着した場合は VDC が正しく作動しない場合があります。
- サスペンション関連部品、ブレーキ関連部品やエンジン関連部品を改造したり、《日産純正部品》以外の部品と交換すると VDC は正しく作動しない場合があります。
- サスペンション、タイヤ、ブレーキの関連部品にかなりの摩耗や劣化がある場合、VDC 警告灯が点灯することがあります。また、VDC が正しく機能しない場合があります。

知 識

【こんな症状は、異常ではありません】

- エンジン始動後にモーター音または、バルブの作動音が聞こえることがありますが、これは ABS、VDC/ASR の機能をチェックしている音です。
- VDC は、発進直後、車速が約 15km/h になるまで作動しません。

VDC の警告・表示

VDC 警告灯



VDC 作動時に点滅し、VDC に異常があるときや、バキュームが低下したときは点灯します。
また、ASR（アンチスリップレギュレーター）だけが VDC システム内で動作しているときは、VDC 警告灯は点滅します。
消灯しないときやたびたび点灯するとき、スタータースイッチを『ON』位置にしても点灯しないときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

知　識

- VDC に異常が発生しても通常のブレーキとしての性能は確保されています。このとき VDC は作動しません。
- バキュームが低下すると、VDC 警告灯が点灯することがあります。この場合、VDC 警告灯が速やかに消灯し、エンジンが再始動すれば問題ありません。
  警告灯が消灯しないときや、たびたび点灯するときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
- バッテリーケーブルが接続されていないか、バッテリー電圧が低い場合、VDC 警告灯が点灯することがあります。VDC 警告灯が点灯している間 VDC は停止しますが、しばらくの間通常通り走行すると VDC 警告灯が消灯し、VDC が再開します。しばらく走行しても VDC 警告灯が点灯したままになっているときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

参照ページ
4-170 VDC OFF スイッチ

VDC OFF 表示灯

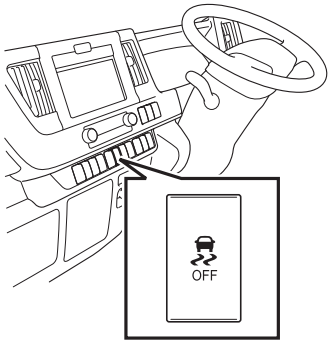


エンジン始動後に VDC を解除する場合は、VDC OFF スイッチを約 5 秒間押すと解除され、VDC OFF 表示灯が点灯します。
VDC を解除していない状態で走行中に点灯するときや、スタータースイッチを『ON』位置にしても点灯しないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

参照ページ
4-170 VDC OFF スイッチ

VDC OFF スイッチ

ASR 装置を解除するとき



ASR OFF 表示灯



エンジン始動後、VDC 装置が作動可能な状態のとき、VDC OFF スイッチを約 1 秒間押すと ASR 装置が解除され、メーター内の ASR OFF 表示灯が点灯します。スイッチをもう一度約 1 秒間押すと、ASR 装置は復帰します。

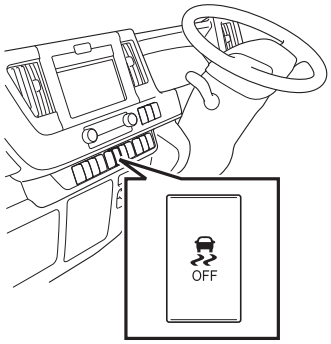
アドバイス

- ASR 装置を解除すると ASR 装置が作動しない状態になりますので、滑り易い路面では十分に注意してください。
- 通常走行時は、必ず ASR 機能を作動状態にしておいてください。
- ASR 装置を解除した場合でも、部分的にブレーキ制御が作動します。ブレーキ作動中に VDC 警告灯が点滅します。

知　識

- ASR 装置を解除した状態で一度エンジンを停止させ、再びエンジンを始動すると ASR 装置は自動的に作動可能な状態になります。

VDC 装置を解除するとき



VDC OFF 表示灯



エンジン始動後、VDC 装置が作動可能な状態のとき、VDC OFF スイッチを約 5 秒間押すと VDC 装置が解除され、メーター内の VDC OFF 表示灯が点灯します。スイッチをもう一度約 1 秒間押すと、VDC 装置は復帰します。

アドバイス

- VDC 装置を解除すると VDC 装置が作動しない状態になりますので、滑り易い路面では十分に注意してください。
- 通常走行時は、必ず VDC 機能を作動状態にしておいてください。
- VDC 装置を解除すると、ASR 装置も解除されるため、滑り易い路面では十分に注意してください。

知　識

- VDC 装置を解除した状態で一度エンジンを停止させ、再びエンジンを始動すると VDC 装置は自動的に作動可能な状態になります。

VDC の作動確認、作動、異常

VDC 警告灯



ASR OFF 表示灯



VDC OFF 表示灯



VDC の作動確認

スタータースイッチを『ON』位置にすると VDC 警告灯、ASR OFF 表示灯および VDC OFF 表示灯が点灯し、約 3 秒後またはエンジン始動後に消灯すれば正常です。

VDC の作動

VDC が作動しているときに VDC 警告灯（橙）が点滅し、ブザー『ピッ ピッ ピッ …（連続）』が鳴ります。
このとき、ABS 機器からモーター音が発生します。

VDC の異常

VDC 警告灯が下記の状態のとき、VDC の故障が考えられます。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

- 運転中、旋回時や滑りやすい路面以外で VDC 警告灯（橙）が点滅しつづけるとき。
- 運転中に VDC OFF 表示灯および ASR OFF 表示灯が点灯したとき。
- スタータースイッチを『ON』位置にしても VDC 警告灯（橙）、VDC OFF 表示灯および ASR OFF 表示灯が点灯しないとき。

知　識

- VDC に異常が発生しても通常の走行には支障ありません。このとき VDC は作動しません。

VDC 装着車の運転上の注意

VDC は万能装置ではなく、限界を超えた走行を可能とするものではありません。スピードの出し過ぎや急なハンドル操作などしないよう、常に安全運転を心掛けてください。

⚠ 警 告

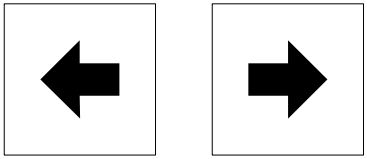
- VDC が装着されていることで過信せず、常に安全運転を心掛けて走行してください。
- 次のような場合、VDC の効果が十分に得られない場合があります。
  - 非常に滑りやすい路面
  - 過積載や積荷の極端な偏り
- VDC 装着車であっても雪路、凍結路等を走行するときは、タイヤチェーンや冬用タイヤを装着して十分注意して運転してください。
- スペアタイヤやタイヤチェーンを装着したときは、VDC が正しく作動しない場合があります。

⚠ 注 意

- 警報（ブザー）が鳴っているときは、VDC が作動して車両が不安定な状態となっておりますので特に慎重な運転をしてください。
- VDC が作動したとき、運転者の操作感覚に合わない場合があります。また、実際に VDC の作動状態になり VDC が作動しても、運転者の感覚によっては VDC の作動介入が早いと感じられる場合もあります。

緊急制動表示灯（ESS）

ハザード表示灯



緊急制動表示灯（ESS）は、車速が時速約 50 キロ以上で走行中に急ブレーキによって大幅に減速したとき、ハザードランプを高速で点滅させることで後続車にいち早く注意を促し、追突を抑制するシステムです。
高速点滅終了後も、引き続き後続車に注意を促す必要があると判断した場合、ハザードランプは通常の間隔で点滅します。
緊急制動表示灯作動中は、ハザード表示灯が点滅します。

知 識

- 滑りやすい道でブレーキをかけて ABS が作動したとき、緊急制動表示灯が作動することがあります。
- ハザードランプの高速点滅終了後、通常の間隔で点滅中に以下の操作を行った場合、緊急制動表示灯は解除され、ハザードランプは消灯します。
  - アクセル開度 20% 以上で走行したとき
  - 左右いずれかのターンシグナルランプもしくはハザードランプを作動させたとき
  - スタータースイッチを『LOCK』位置にしたとき
- ESS は Emergency Stop Signal（緊急制動表示灯）の略です。

スピードリミッター（速度抑制装置）★

スピードリミッターの特性

SLD 表示灯



スピードリミッター（速度抑制装置）とは、速度超過による重大事故を予防するための装置です。スタータースイッチを『ON』にすると、約 15 秒間メーターディスプレイに SLD 表示灯が点灯します。

注　意

- **ブレーキ制御等は行っていないため、下り坂では設定速度を超える可能性があるので注意してください。**
- **タイヤサイズを変更した場合は、スピードリミッターが正常に働かないおそれがありますので、最寄りの《日産販売会社》で調整してください。**
- **スピードリミッターはお客様のご要望により《日産販売会社》で設定することも可能です。**
- **スピードリミッターが装着されていない車両では SLD 表示灯は点灯せず、車速は制限されません。**

知　識

- スピードリミッターは燃料噴射量をコントロールすることにより速度を制御し、アクセルペダルを踏み込んでも、速度が設定速度を超えないようにする装置です。
- スピードリミッターの設定、または設定速度の確認や変更を行う場合は、《日産販売会社》にお問い合わせください。

可変スピードリミッター★

車両の上限速度（約 30 ～ 120km/h）を任意に設定することができます。作動中は設定された車速を超えないよう自動的に制限されます。

注 意

- **可変スピードリミッターは周囲や道路環境の変化には対応しません。常に速度に注意し前走車との車間距離を十分にとって走行してください。**
- **メーターディスプレイに可変スピードリミッターアイコンが表示されているときは、設定された上限速度を確認してから走行してください。**
- **停車中または 30km/h を下回る車速でセットした場合は、30km/h でセットされます。**
- **他の運転者と交代するときは必ず可変スピードリミッターを解除してください。作動を知らずに運転すると思わぬトラブルになるおそれがあります。**
- **高速道路や自動車専用道路では、最低速度以下にセットしないでください。道路状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

【スピードリミッター付車】

- **スピードリミッターの設定速度を超える上限速度は設定できません。**

参照ページ
4-174 スピードリミッター（速度抑制装置）★

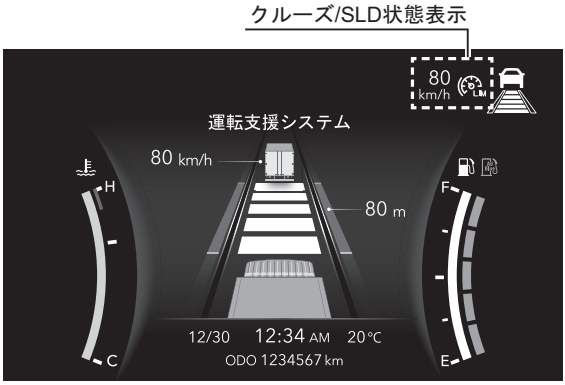
知 識

- モードスイッチ、セットスイッチの「+」または「−」、リジュームスイッチ、キャンセルスイッチはオートクルーズと共用です。
- 標識連動型スピードリミッターと可変スピードリミッターを同時に ON にすることはできません。目的に応じて設定を切り替えてください。詳細は『標識連動型スピードリミッターと可変スピードリミッターの切り替え』を参照してください。

参照ページ
5-89 標識連動型スピードリミッターと可変スピードリミッターの切り替え

可変スピードリミッターのメーターディスプレイ表示内容

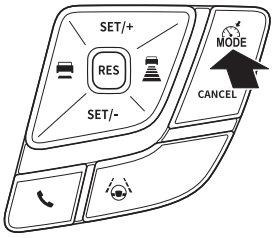
可変スピードリミッターは状況に応じ以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。



メーターディスプレイ 運転支援表示エリア	名　称	表示内容
 （灰）	可変スピードリミッター 作動不可	スタースイッチを『ON』位置にしたとき
 （白）	待機	可変スピードリミッター待機状態のとき（キャンセルスイッチ操作時）
 （緑）	可変スピードリミッター 作動中	可変スピードリミッターが作動状態のとき（上限車速がセットされている）
	セット車速超過	自車がセット車速を超えたとき（アイコンが点滅します）
	可変スピードリミッター 一時解除中	アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだ状態から、さらに増し踏みし、可変スピードリミッターが一時的に解除されたとき（アイコンが点滅します）

メーターディスプレイ 運転支援表示エリア	名　称	表示内容
可変スピードリミッタモード クルーズモードが 変更されました。	可変スピードリミッタモード	モードスイッチを押して、可変スピードリミッターモードに切り替えたとき

希望の上限車速をセットするとき（走行中）

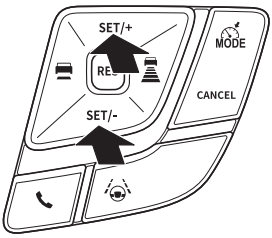




可変スピードリミッタモード

クルーズモードが
変更されました。

1. モードスイッチを押して可変スピードリミッターモードにします。このときメーターディスプレイに可変スピードリミッターアイコンが表示されます。また、「可変スピードリミッタモード」が数秒間表示されます。



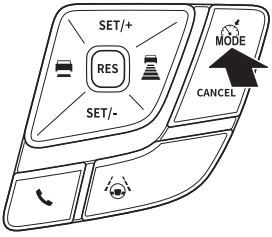


2. アクセルペダルの踏み込みを加減して、希望車速（約 30km/h 以上）に達したときセットスイッチの「＋」または「ー」を押します。
スイッチを押したときの車速が上限車速としてセットされます。メーターディスプレイにセット車速が表示されます。
以降アクセルペダルを踏み込み続けてもセットした車速を超えないよう自動的に制限されます。

知　識

- 30km/h を下回る車速でセットした場合は、30km/h にセットされます。

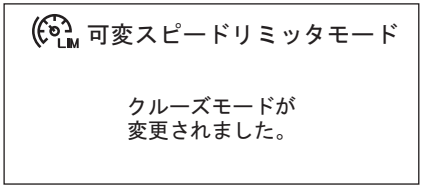
希望の上限車速をセットするとき（停車中）

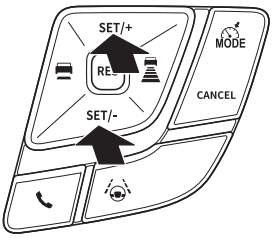




1. モードスイッチを押して可変スピードリミッターモードにします。このときメーターディスプレイに可変スピードリミッターアイコンが表示されます。また、「可変スピードリミッタモード」が数秒間表示されます。

参照ページ
4-182 モードスイッチ





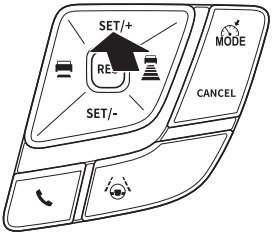


2. セットスイッチの「+」または「−」を押します。このとき 30km/h が上限車速としてセットされます。同時にセット車速がメーターディスプレイに表示されます。
30km/h より高い速度を設定したい場合は、『上限車速の変更』の操作に従って変更します。

参照ページ
4-179 上限車速の変更

上限車速の変更

上限車速を高くしたいとき



セットスイッチの「+」側を操作すると増速し、メーターディスプレイ内に表示される上限車速も増加します。
セットスイッチの「+」側を押し続けると、5km/h ずつ上がります。
希望の車速が表示されたときにスイッチ操作をやめます。

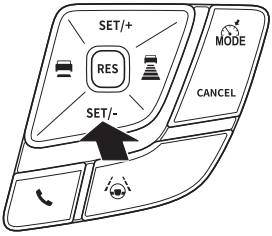
上限車速を高く微調整したいとき
セットスイッチの「+」側を操作してすぐに離すと、上限車速が 1 回の操作で 1km/h 上がります。

知 識

- 上限車速の変更は停車中も可能です。

参照ページ
4-178 希望の上限車速をセットするとき（停車中）

上限車速を低くしたいとき



セットスイッチの「ー」側を操作すると減速し、メーターディスプレイ内に表示される上限車速も減少します。
セットスイッチの「ー」側を押し続けると、5km/h ずつ下がります。
希望の車速が表示されたときにスイッチ操作をやめます。

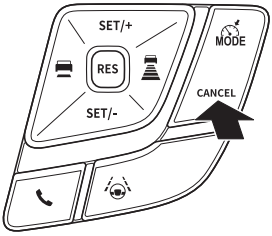
上限車速を低く微調整したいとき
セットスイッチの「ー」側を操作してすぐに離すと、上限車速が 1 回の操作で 1km/h 下がります。

知　識

- 30km/h を下回る車速にはセットできません。
- 上限車速の変更は停車中も可能です。

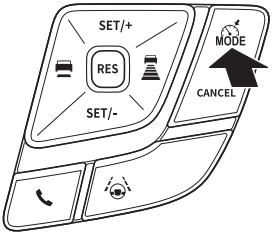
参照ページ
4-178 希望の上限車速をセットするとき（停車中）

可変スピードリミッターを解除するとき



以下の操作をすると解除されます。
- キャンセルスイッチを操作したとき
- スタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしたとき
- モードスイッチを押したとき

参照ページ
4-182 キャンセルスイッチ
4-182 モードスイッチ

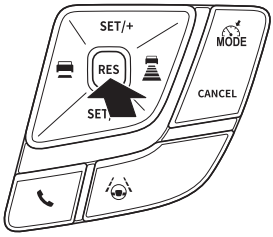


- 可変スピードリミッター作動中に、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだ状態から、さらに増し踏みしたとき（アクセルペダルを戻すと復帰します。）

アドバイス

- 可変スピードリミッターを使用しないときはキャンセルスイッチを操作し必ず解除してください。

可変スピードリミッターを復帰させたいとき



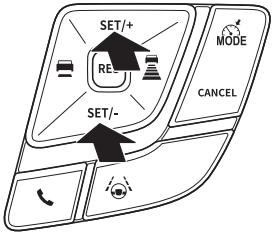
リジュームスイッチを操作すると、解除前の上限車速に設定されます。同時に、メーターディスプレイに可変スピードリミッターアイコンが表示されます。



アドバイス

- 可変スピードリミッターを解除し、スタータースイッチを『LOCK』位置にしても上限車速は記憶されています。次回使用時リジュームスイッチにて使用開始した場合はこの上限車速で制限されます。

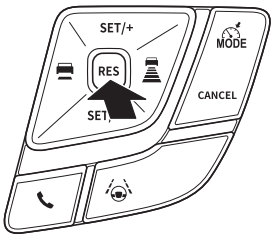
セットスイッチ



上限車速をセットするとき、上限車速を調整するときに使用します。

参照ページ
4-177 希望の上限車速をセットするとき（走行中）
4-178 希望の上限車速をセットするとき（停車中）
4-179 上限車速の変更

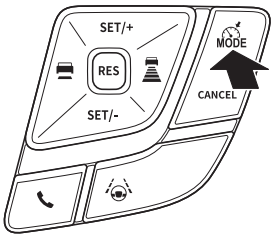
リジュームスイッチ



可変スピードリミッターの設定を解除した後また復帰させるときに使用します。

参照ページ
4-179 上限車速の変更
4-181 可変スピードリミッターを復帰させたいとき

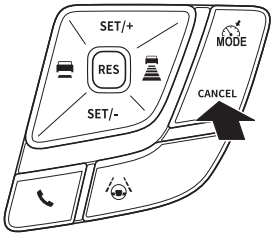
モードスイッチ



可変スピードリミッターの設定を解除するときに使用します。

参照ページ
4-180 可変スピードリミッターを解除するとき

キャンセルスイッチ



可変スピードリミッターの設定を解除するときに使用します。

参照ページ
4-180 可変スピードリミッターを解除するとき

可変スピードリミッターの警報



走行中、セットした制限速度を超過した場合はメーターディスプレイの可変スピードリミッターアイコンが点滅します。車速がセットした最高速度以下になるまで、点滅は継続します。
周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルなどを使用して減速してください。

後処理装置

DPD

DPD（ディーゼル・パティキュレート・ディフューザー）は排気ガス中の PM（粒子状物質）を浄化するものです。DPD フィルターに PM を捕集し、一定量堆積すると自動的にフィルターを再生（PM を燃焼）させます。DPD の故障を防ぐため、必ず次の点をお守りください。

参照ページ
3-61 車両情報

⚠ 警 告

- エンジンがかかっているときやフィルターの再生（PM を燃焼）中、および走行直後の DPD、尿素 SCR、マフラー、排気管や排気ガスは高温になっています。誤って触れないよう十分注意してください。やけどをするおそれがあります。
- 草木や枯れ草、紙くずなど燃えやすいものが近くにあると火災の原因になります。
- 車両の整備作業時はやけどのおそれがありますので、エンジンを停止してエンジンが十分に冷えたことを確認してください。
- 換気の悪い場所では、一酸化炭素中毒を招くおそれがあります。エンジンを始動および暖機運転させるときは、換気の良いところで行ってください。また、DPD の再生時には、PM の燃焼にともない白煙が一時的に発生する場合がありますので換気の悪い屋内での手動再生は行わないでください。

参照ページ
4-26 排出ガスには十分に気をつけて

⚠ 注 意

- DPD 装着車に超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の軽油を使用した場合、道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれがあります。

アドバイス

- エンジンオイルは日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 を使用してください。日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 以外を使用すると DPD フィルターの清掃までの期間が短くなり燃費が悪化するなどのおそれがあります。
- 燃料は必ず超低硫黄軽油または低硫黄軽油をご使用ください。粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用するとフューエルフィルターおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジン各部に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。
- DPD、尿素 SCR、マフラー、排気管の改造はしないでください。
- 排気管の向きや長さ、径を変更すると、排気ガス浄化機能に悪影響をおよぼしますので、改造は行わないでください。架装上やむを得ず改造が必要な場合は《日産販売会社》へご相談ください。

参照ページ
10-3 エンジンオイル

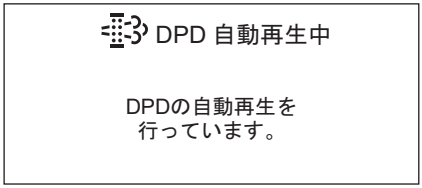
知　識

- DPD はフィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積すると自動的にフィルターの再生（PM の燃焼）を行いますが、走行条件によっては再生が完了しない場合があります。このときに「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示され、同時に警報が鳴ります。手順に従って手動再生を行ってください。なお、これは DPD の機能を回復するものであり、故障ではありません。
- DPD 再生中でのアイドル停車中は、排気ブレーキまたは排気スロットルが作動します。排気ブレーキまたは排気スロットル作動中および解除時に作動音が発生しますが、故障ではありません。
- DPD 再生中には PM（粒子状物質）の燃焼にともない、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが、故障ではありません。また、換気の悪い屋内での手動再生は、行わないでください。
- ecostop 付車は、DPD 再生中および再生後 10 ～ 15 分程度はアイドリングストップしませんが故障ではありません。
- 新車から一定距離を走行すると DPD 再生中に白煙が発生する場合がありますが、故障ではありません。なお、ご購入直後は白煙が出ないことがあります。
- テールパイプから排気ガスのにおいがする場合がありますが、浄化機能によるものであり故障ではありません。故意に吸い込んだり、においをかいだりしないでください。
- 長時間の連続アイドリング時に一定時間放置されると、白煙発生防止のため排気ブレーキまたは排気スロットルが作動することがあります。

【RZ4E 型エンジン車】

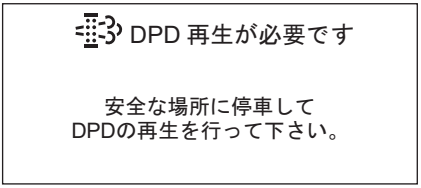
- 長時間の連続アイドリング時や低速走行時、DPD が作動してエンジン回転数が上昇する場合がありますが、異常ではありません。

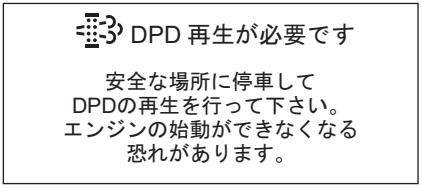
DPD の警告・表示



DPD 自動再生中表示

参照ページ
4-188 DPD の自動再生

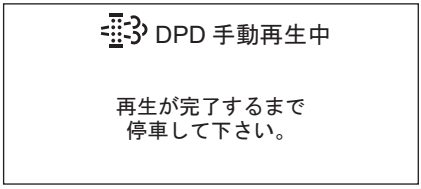




DPD 再生が必要です表示

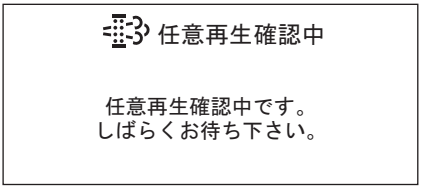
「安全な場所に停車して DPD の再生を行って下さい。」が表示され、同時に警報が鳴ると DPD の再生操作が必要です。運行が終了するなど駐車する際に『手動再生手順』に従い再生操作を行ってください。なお、表示された状態で走行を続けると「安全な場所に停車して DPD の再生を行って下さい。エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。」が表示され、同時に警報が鳴ります。この状態で走行を続けると DPD が故障するおそれがありますので、ただちに安全な場所に停車し、再生操作を行ってください。

参照ページ
4-190 DPD の手動再生手順



DPD 手動再生中表示

「DPD 手動再生中」表示（橙）が表示されたときは、DPD の手動再生中です。



任意再生確認中表示

メーターディスプレイに「任意再生確認中」表示（橙）が表示されるまで DPD スイッチを押し、「任意再生確認中」表示（橙）の表示中は、任意手動再生が可能か確認しています。任意手動再生が可能なときは、「DPD 再生が必要です」表示に変わります。
「DPD 再生が必要です」表示に変わらない場合は、任意手動再生を行う必要はありません。

アドバイス

- 再生操作を行わずにそのまま走行し続けると、エンジン制御警告灯が点灯し、《日産販売会社》で DPD の修理が必要となります。
- PTO 装着車で長時間 PTO を作動させる場合、「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示されていないことを確認してください。

参照ページ
3-39 エンジン制御警告灯

知　識

- 長時間のアイドリングや PTO 連続運転中の負荷状態によっては自動的に DPD の再生が行われる場合があります。このとき、「DPD 自動再生中」表示（緑）または「DPD 手動再生中」表示（橙）が表示されますが異常ではありません。
- 通常走行では自動再生が行われますが、以下のような走行条件によっては自動再生が完了せず、「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示され、同時に警報が鳴ります。手順に従って手動再生を行ってください。
  - 車速 15km/h 以下の低速走行しか行わない場合。
  - エンジンの始動と停止を頻繁に行う場合。
  - 毎回、エンジンの暖機が終わる前にエンジンを停止する場合。
  - 長時間のアイドリング運転（1 時間以上）を頻繁に行う場合。

参照ページ
3-42 メーターディスプレイ

DPD の警報音

下記の場合、警報が鳴りお知らせします。
ただちに DPD の手動再生手順に従い、再生操作を行ってください。

DPD 表示	状況
DPD 再生が必要です 安全な場所に停車して DPDの再生を行って下さい。	**手動再生が必要になったとき**
DPD 再生が必要です 安全な場所に停車して DPDの再生を行って下さい。 エンジンの始動ができなくなる 恐れがあります。	**手動再生を行わず走行を続けたとき**

DPD の自動再生

DPD 自動再生中

DPDの自動再生を
行っています。

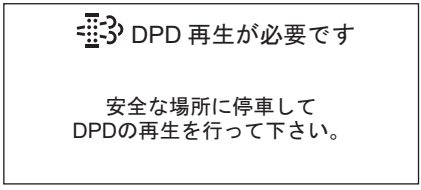
「DPD 自動再生中」表示（緑）が表示されたときは、DPD の自動再生中です。
再生は自動的に開始され、再生が完了すれば消灯します。DPD スイッチの操作は必要ありません。
自動再生中にエンジンを停止すると再生は中断されますが、エンジンを再始動すると再生も自動的に再開します。
この状況を繰り返すと自動再生が完了せず、「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示され、同時に警報が鳴ります。手動再生が必要になりますので自動再生中は、なるべくエンジンを停止させないことをお奨めします。

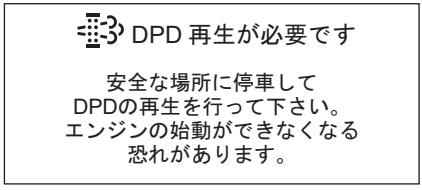
アドバイス

- 手動再生操作を行わずにそのまま走行し続けると、エンジン制御警告灯が点灯し、《日産販売会社》で DPD の修理が必要となります。

知　識

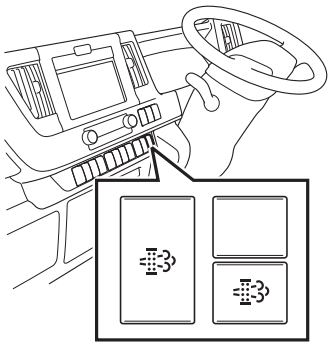
- 停車中のアイドリング時に、エンジン回転数が上昇し排気ブレーキまたは排気スロットルが作動することがあります。このときは DPD の自動再生中です。故障ではありません。
- 自動再生中および解除時に作動音が発生しますが故障ではありません。
- 長時間のアイドリングや PTO 連続運転中の負荷状態によっては自動的に DPD の再生が行われる場合があります。このとき、メーターディスプレイに「DPD 自動再生中」表示（緑）または「DPD 手動再生中」表示（橙）が表示されますが異常ではありません。
- 通常走行では自動再生が行われますが、以下のような走行条件によっては自動再生が完了せず、「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示され、同時に警報が鳴ります。手順に従って手動再生を行ってください。





- 車速 15km/h 以下の低速走行しか行わない場合。
- エンジンの始動と停止を頻繁に行う場合。
- 毎回、エンジンの暖機が終わる前にエンジンを停止する場合。
- 長時間のアイドリング運転（1 時間以上）を頻繁に行う場合。

DPD スイッチ



DPD の手動再生（PM の燃焼）を行うスイッチです。
「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示され、同時に警報が鳴ると DPD の再生操作が必要です。運行が終了するなど駐車する際に『手動再生手順』に従い再生操作を行ってください。
この状態で走行を続けると DPD が故障するおそれがありますので、ただちに安全な場所に停車し、再生操作を行ってください。
また、任意手動再生を行う場合にも『任意手動再生手順』に従い再生操作を行ってください。

参照ページ
4-190 DPD の手動再生手順
4-193 DPD の任意手動再生手順

DPD 再生が必要です

安全な場所に停車して
DPDの再生を行って下さい。

DPD 再生が必要です

安全な場所に停車して
DPDの再生を行って下さい。
エンジンの始動ができなくなる
恐れがあります。

DPD の手動再生手順



1. 草木や枯れ草、紙くずなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。

⚠ 注 意

- **火災防止のため、マフラー、DPD、尿素 SCR および排気管の周辺に可燃物がないことを確認してください。また高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。**
- **排気管の出口が右後輪前側にあるお車については、輪止めを使用する際、次のことに注意してください。**
  - **輪止めは排出ガスのかからない場所に設置してください。**
  - **右後輪前側に設置する場合は、金属製など耐熱性の高い輪止めを使用してください。DPD 再生終了後は輪止めが高温になっている場合があります。輪止めを外す際は、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分注意してください。**

2. シフトレバーをマニュアルトランスミッション車は『N』位置に、デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は『P』位置にし、確実にパーキングブレーキを効かせてください。ecostop 付車はエンジンが自動停止した場合、スタータースイッチの操作でエンジンを再始動してください。

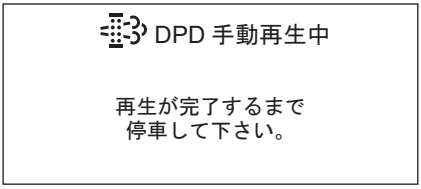
3. エンジンをアイドリング状態にします。アイドリングコントロールノブによってエンジン回転を上げているときは、左いっぱいに戻し、エンジン回転を下げておきます。

4. PTO 装着車は、PTO の作動を停止してください。PTO スイッチおよび外部アクセルコントロールを戻します。

参照ページ
4-211 PTO ★

5. DPD スイッチを押します。

参照ページ
4-190 DPD スイッチ



6. 「DPD 再生が必要です」表示（橙）が「DPD 手動再生中」表示（橙）の表示に変わり、エンジン回転が自動的に上がって再生が始まります。
7. 再生中は、車から離れないでください。再生は、通常 20 ～ 25 分程度で終了します。
8. 「DPD 手動再生中」表示（橙）が消えると再生は終了です。通常の走行ができます。

アドバイス

- PTO 装着車で長時間 PTO を稼動させる場合、「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示されていないことを確認してください。

知　識

- 再生終了までの時間は外気温度によって異なります。
- DPD 再生中は排気ブレーキまたは排気スロットルが作動します。排気ブレーキまたは排気スロットル作動中および解除時に作動音が発生しますが、故障ではありません。
- 再生時には PM（粒子状物質）の燃焼に伴い、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが故障ではありません。
- 手動再生はエンジンが冷えているときより走行直後の方が早く終了します。
- 手動再生中は、冷却水温が上昇することがあります。

手動再生の中断

やむをえず再生を中断して走行したい場合は、DPD スイッチをもう一度押してください。
メーターディスプレイの「DPD 手動再生中」表示（橙）が「DPD 再生が必要です」表示（橙）に変わり、同時に警報が鳴ります。この状態から走行することができますが、DPD の再生は中断したままですので、できるだけ早く停車して再度 DPD スイッチを押し、手動再生が終了するまでお待ちください。

アドバイス

- 手動再生操作を行わずにそのまま走行し続けると、エンジン制御警告灯が点灯し、《日産販売会社》で DPD の修理が必要となります。

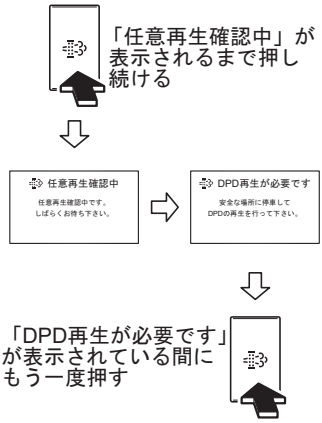
DPD の任意手動再生手順

DPD フィルターに PM が堆積し、「DPD 自動再生中」表示（緑）を表示、または「DPD 再生が必要です」表示（橙）が表示される前に、任意で手動再生ができる機能です。
運行の合間や、運行終了後などのエンジン（水温）および排気管が暖まっている状態のときに行ってください。

⚠ 注 意

- **任意手動再生は中断せずに完了するまで実行してください。**
- **再生中は車から離れないでください。**
- **火災防止のため、マフラー、DPD、尿素 SCR および排気管の周辺に可燃物がないことを確認してください。**
- **高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。**
- **排気管の出口が右後輪前側にあるお車については、輪止めを使用する際、次のことに注意してください。**
  - **輪止めは排出ガスのかからない場所に設置してください。**
  - **右後輪前側に設置する場合は、金属製など耐熱性の高い輪止めを使用してください。DPD 再生終了後は輪止めが高温になっている場合があります。輪止めを外す際は、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分注意してください。**

1. 草木や枯れ草、紙くずなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。
2. エンジンをアイドリング状態にし、シフトレバーをマニュアルトランスミッション車は『N』位置に、デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は『P』位置にして確実にパーキングブレーキを効かせてください。
   ecostop 付車はエンジンが自動停止した場合、スタータースイッチの操作でエンジンを再始動してください。
3. アイドリングコントロールノブを操作してエンジン回転数を上げている場合は、通常のアイドリング状態に戻してください。
   また、PTO 装着車は、PTO の作動が停止していることを確認します。



4. メーターディスプレイに「任意再生確認中」（橙）が表示されるまで DPD スイッチを押し続けます。
「任意再生確認中」表示（橙）から「DPD 再生が必要です」表示（橙）に変わります。

参照ページ
4-190 DPD スイッチ

5. もう一度、DPD スイッチを押します。

6.「DPD 再生が必要です」表示（橙）が「DPD 手動再生中」表示（橙）に変わり、エンジン回転が自動的に上がって再生が始まります。

7. 再生中は、車から離れないでください。再生は、通常 20 ～ 25 分程度で終了します。

8.「DPD 手動再生中」表示（橙）が消えると再生は終了です。通常の走行ができます。

アドバイス

- DPD フィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積していないときは、DPD スイッチを押し続けても「任意再生確認中」表示（橙）が「DPD 再生が必要です」表示（橙）に変わりません。このとき DPD 再生の必要はないため、DPD スイッチを押しても再生は開始されません。
- DPD の任意手動再生を頻繁に繰り返すと、エンジンに悪影響をおよぼすおそれがあるため、過度な使用は控えてください
- 万一、任意手動再生中に走行開始などで再生が中断した場合、「DPD 手動再生中」表示（橙）が「DPD 再生が必要です」表示（橙）に変わり、同時に警報が鳴ります。ただちに停車して再度 DPD スイッチを押し、任意手動再生が終了するまでお待ちください。表示されたまま走行を続けたり、PTO の作動を継続しないでください。

知　識

- 再生終了までの時間は外気温度によって異なります。
- DPD 再生中は排気ブレーキまたは排気スロットルが作動します。排気ブレーキまたは排気スロットル作動中および解除時に作動音が発生しますが、故障ではありません。
- 再生時には PM（粒子状物質）の燃焼に伴い、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが故障ではありません。
- 再生はエンジンが冷えているときより走行直後の方が早く終了します。
- 再生中は、エンジンの水温が上昇することがあります。

長時間のアイドリングや PTO 使用時の DPD 再生について

知　識

- 長時間のアイドリングや PTO 連続運転中の負荷状態によっては自動的に DPD の再生が行われる場合があります。このとき、メーターディスプレイに「DPD 自動再生中」表示（緑）または「DPD 手動再生中」表示（橙）を表示されますが、異常ではありません。
- 「DPD 自動再生中」表示（緑）が表示されている場合、DPD スイッチを操作する必要はありません。通常走行もできます。
- 「DPD 手動再生中」表示（橙）が表示されている場合、走行すると「DPD 再生が必要です」表示（橙）に変わり、再生が中断します。
  また、PTO を接続したり、PTO 連続運転から PTO 作業を終了しても再生は中断します。
  DPD の手動再生手順に従い手動再生を行ってください。

参照ページ
4-190 DPD の手動再生手順

DPD の点検と整備

DPD の故障を未然に防ぐため、必ず定期的に排気圧力と配管の点検を行ってください。点検結果によってはフィルターや配管の清掃が必要となります。点検、整備が行われない場合、DPD およびエンジンの故障や燃費悪化の原因になります。点検、整備については最寄りの《日産販売会社》へお申し付けください。
もし、次のような現象が発生したときは、表に従って点検、処置をします。ご自分で修理できないときや、本表の処置で直らないとき、故障箇所がわからないときは、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

現象	原因	処置	参照ページ
排気煙が白い	暖機運転不足	暖機運転を行う	4-52 4-53
	エンジンオイルの入れすぎ	適正なオイル量にする	9-8
	エンジンコントロール系が故障している	◎	—
	燃料系統が故障している	◎	—
	長時間アイドリング状態が連続した（約 2 時間以上）	停車したまま他の交通の障害とならないようアクセルペダルを踏み込み白煙が排出しないことを確認する	—
排気煙が黒い	エンジンコントロール系が故障している	◎	—
	エアクリーナーが詰まっている	エレメントを清掃するか交換する	10-33
	燃料系統が故障している	◎	—
	排気系統が詰まっている	◎	—
	DPD が故障している	◎	—

アドバイス

- 処置欄の◎は修理、調整が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

尿素 SCR システム

尿素 SCR システムは、排気ガス中の窒素酸化物（NOx）を浄化するシステムです。尿素水（AdBlue® 相当）を排気ガスの熱で加水分解し、アンモニア（NH_3）を生成します。生成したアンモニアを還元剤として窒素酸化物を還元し、窒素と水に分解して浄化するシステムです。

注 意

- **マフラーから出てきた水には触れないでください。皮膚に付着したときは、水で十分に洗い流してください。**

アドバイス

- 排気ガス浄化性能に影響をあたえるおそれがあるため、排気管、マフラーの改造や尿素水タンクなどの移設は行わないでください。改造や移設が必要な場合は、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。
- 尿素水（AdBlue® 相当）が「再始動禁止中」（尿素水補給）の状態で補給せずに凍結すると、尿素水（AdBlue® 相当）が解凍するまで、エンジン始動ができない場合があります。常に満水になるように早めの補給を心がけてください。

参照ページ
4-200 再始動禁止中（尿素水補給）警告

知 識

- テールパイプから排気ガスのにおいがする場合がありますが、浄化機能によるものであり故障ではありません。故意に吸い込んだり、においをかいだりしないでください。

【尿素 SCR とは】

- 尿素 SCR とは、尿素 Selective Catalytic Reduction（セレクティブキャタリティックリダクション）の略で、尿素を分解して得られるアンモニアを還元剤とする選択還元型触媒を意味します。

【AdBlue® とは】

- AdBlue® は、尿素 SCR システム専用の水溶液です。
- AdBlue® は、-11 ℃で凍結します。尿素 SCR システムは、電熱線を使ったヒーター機能を装備しているので、尿素水（AdBlue® 相当）が凍結したときもエンジン始動ができます。
- AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

参照ページ
4-26 排出ガスには十分に気をつけて

尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い

尿素水（AdBlue® 相当）は、無色透明、無害の水溶液です。状況によってはにおいがする場合がありますが異常ではありません。

注 意

- **尿素水（AdBlue® 相当）は、身体に触れても問題はありませんが、体質によってはまれに炎症を起こすおそれがありますので、以下の処置を行ってください。**
  - **皮膚に付着したときは、水で洗い流してください。皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激する場合があります。**
  - **誤って飲んでしまったときは、コップ 1 ～ 2 杯の水または牛乳を飲み、ただちに医師の診断を受けてください。**
  - **目に入ったときは、すぐに大量の水で 15 分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。**

指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください

日産指定の尿素水（AdBlue® 相当）を使用してください。

- 尿素水（AdBlue® 相当）は、JIS（日本工業規格）AUS 32 JIS K2247、または ISO（国際標準化機構）AUS 32 ISO 22241 の規格に適合した尿素水（AdBlue® 相当）を使用してください。

尿素水（AdBlue® 相当）を保管するとき

尿素水（AdBlue® 相当）は水分が蒸発しないように容器を密封し、直射日光があたらない風通しの良い屋内などで保管してください。
また、尿素水（AdBlue® 相当）を保管する場合、保管場所の室温によって使用できる期間が変わります。くわしくは、購入元にお問い合わせください。

知 識

- 尿素水（AdBlue® 相当）は凍結しても、溶ければ品質に変化はありません。そのまま使用できます。
- 尿素水（AdBlue® 相当）を保管、携帯する場合は尿素水（AdBlue® 相当）購入時の容器を使用してください。また他の容器を使用する場合は、専用容器を準備し、水やゴミなどの異物が付着していないきれいなポリエチレン樹脂タンク（PE）またはステンレス鋼の容器をご使用ください。

尿素水量表示

参照ページ
3-6 尿素水量計

尿素 SCR システムの警告・表示

尿素水補給警告

AdBlue 尿素水補給

指定の尿素水を補給して下さい。

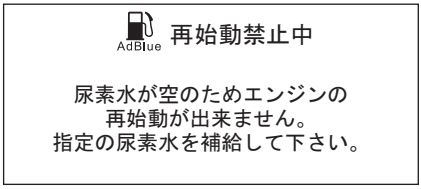
尿素水（AdBlue® 相当）の残量が 1 段階になると、メーターディスプレイに表示されます。
尿素水（AdBlue® 相当）を補給するときは、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、満水まで補給してください。補給後、スタータースイッチを『ON』位置にしてメーターディスプレイの表示が消えていることを確認してください。

アドバイス

- 「尿素水補給」が表示されたら尿素水（AdBlue® 相当）を 5L 以上補給してください。

参照ページ
4-198 尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
4-198 指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください
4-203 尿素水（AdBlue® 相当）の補給

再始動禁止中（尿素水補給）警告



メーターディスプレイに「尿素水補給」が表示された後、尿素水（AdBlue® 相当）を補給しないで使用を続け尿素水（AdBlue® 相当）の残量が 0 段階になると、メーターディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）と「尿素水補給」が交互に表示され、同時に警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。この画面が表示されているとき、エンジン停止を行うとエンジン始動ができません。
エンジンを再始動させるには、スタースイッチを『LOCK』位置にし、尿素水（AdBlue® 相当）を満水になるように補給してください。補給後、スタースイッチを『ON』位置にして、メーターディスプレイの表示が消え警報音『ピーーー …（連続）』が鳴りやむことを確認してください。

⚠ 注 意

- **「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されているとき、補給する尿素水（AdBlue® 相当）の量が少ないと「再始動禁止中」（尿素水補給）が解除できない場合があります。尿素水（AdBlue® 相当）を 5L 以上補給してください。**

アドバイス

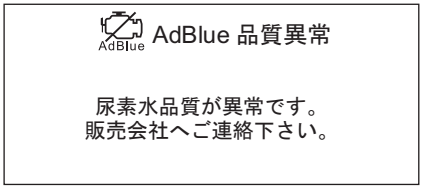
- 「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。ただちに尿素水（AdBlue® 相当）を補給してください。

知　識

- 「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されているときに、エンストしてしまった場合、スタータースイッチを『ACC』、『LOCK』位置に戻さず、そのまま『START』位置にしてエンジンを再始動してください。『ACC』、『LOCK』位置にすると、エンジンが再始動できなくなります。

参照ページ
4-198 尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
4-198 指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください
4-203 尿素水（AdBlue® 相当）の補給
11-11 尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき

尿素品質異常警告



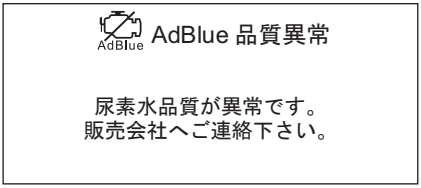
指定された尿素水（AdBlue® 相当）以外のものが混入したときや水などで希釈されたとき、メーターディスプレイに「AdBlue 品質異常」が表示され、同時にエンジン制御警告灯が点灯します。

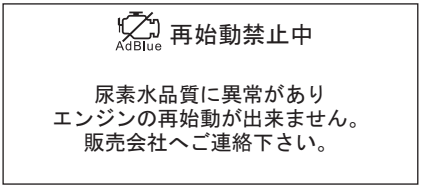
アドバイス

- 「AdBlue 品質異常」が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

参照ページ
4-202 再始動禁止中（尿素品質異常）警告

再始動禁止中（尿素品質異常）警告





メーターディスプレイに「再始動禁止中」（尿素品質異常）が表示され、同時にエンジン制御警告灯の点灯後、しばらくしてメーターディスプレイに「AdBlue 品質異常」と「再始動禁止中」（尿素品質異常）が交互に表示され、同時に警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。
この画面が表示されているとき、エンジン停止を行うとエンジン始動ができません。

アドバイス

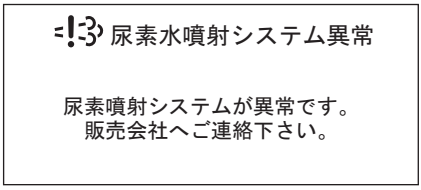
- 「AdBlue 品質異常」が表示されたときは、尿素 SCR システムの点検が必要です。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

知　識

- 「再始動禁止中」（尿素品質異常）が表示されているときに、エンストしてしまった場合、スタータースイッチを『ACC』、『LOCK』位置に戻さず、そのまま『START』位置にしてエンジンを再始動してください。『ACC』、『LOCK』位置にすると、エンジンが再始動できなくなります。

参照ページ
4-201 尿素品質異常警告

尿素噴射異常警告



尿素 SCR システムに異常があると、メーターディスプレイに表示され、同時にエンジン制御警告灯も点灯します。「尿素水噴射システム異常」が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。この画面が表示されてからしばらくすると、警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。

アドバイス

- 「尿素水噴射システム異常」が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

尿素水（AdBlue® 相当）の補給

警 告

- 尿素水タンクには、尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを入れないでください。尿素水タンクには、日産指定の尿素水（AdBlue® 相当）を補給してください。
- 尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを入れると、尿素 SCR システムの故障の原因になります。
- 尿素水（AdBlue® 相当）を補給するときは、次のことを行うと火災や尿素 SCR システムの故障になるおそれがあります。
  - 水などで希釈する。
  - ガソリンや軽油などを入れる。
- 誤って指定の尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを補給したときは、尿素 SCR システムの点検が必要です。ただちに《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

注 意

- まれに尿素水タンクキャップを開けたときに、においがする場合があります。補給口などからにおいをかがないでください。

アドバイス

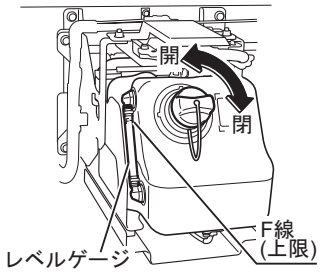
- 尿素水（AdBlue® 相当）の補給は、常にメーターディスプレイ内の尿素水量表示が『F』（満水）を維持するように早めの補給を心がけてください。尿素水（AdBlue® 相当）が空になるとエンジンが再始動できなくなります。
- 尿素水タンクキャップを開けるときは、尿素水タンク内に泥などが混入しないようにしてください。泥などが混入するとサプライモジュールが詰まったり尿素水（AdBlue® 相当）が品質異常になり、尿素 SCR システムの故障の原因になります。
- 尿素水（AdBlue® 相当）をレベルゲージの『F』線以上補給しないでください。走行中にブリーザーホースから尿素水（AdBlue® 相当）が漏れるおそれがあります。また、尿素水（AdBlue® 相当）が凍結したときにセンサー類が破損するおそれがあります。
- 尿素水（AdBlue® 相当）が、車体やフレームなどにこぼれた場合は、さびの原因になりますので、ふき取ってから水で洗い流してください。
- 尿素水タンクに足を掛けたり、上に乗らないでください。尿素水タンク、パイプやセンサー類が破損します。
- 尿素 SCR システムは、スタータースイッチを『LOCK』位置にした後も約 2 分間は作動し続けます。点検や修理のためにバッテリーや電気系統のコネクターを取り外す場合には、3 分間以上待ってから作業してください。

知　識

- 尿素水タンク正面のレベルゲージは、尿素水（AdBlue® 相当）の入れ過ぎやあふれを防ぐために取り付けられていますので、尿素水残量を量るものではありません。また、尿素水（AdBlue® 相当）の液面がレベルゲージの下端に達しても、メーターディスプレイ内の尿素水量表示では、4 段階もしくは 5 段階を示します。尿素水残量は、レベルゲージではなく尿素水量表示で確認してください。
- エンジン停止後、尿素水タンクから作動音が聞こえることがありますが、これは配管内の尿素水（AdBlue® 相当）を尿素水タンクに戻している音で異常ではありません。
- 補給口などに付着した尿素水（AdBlue® 相当）が乾燥したときに白い粉が析出する場合がありますが異常ではありません。尿素水タンクに入らないようにふき取ってください。
- エンジンがかかっている状態や、スタータースイッチが『ON』位置のときに尿素水（AdBlue® 相当）を補給すると、尿素水量表示が正しい表示になるまで時間がかかります。
- 寒冷時に尿素水（AdBlue® 相当）を補給するときは、『寒冷時に尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき』を参照して行ってください。

参照ページ
4-41 寒冷時に尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき

尿素水（AdBlue® 相当）の補給のしかた



1. スタータースイッチを『LOCK』位置にし、エンジンを停止します。
2. 尿素水タンクのタンクキャップを少しゆるめ、キャップや補給口周囲に付着したゴミや泥などをふき取ります。
3. タンクキャップをゆっくり回して開けます。
4. 尿素水タンク正面のレベルゲージを見ながら『F』線まで補給します。

アドバイス

- 補給時に尿素水の入りが悪い場合、尿素水タンク内の尿素水補給口フィルターが詰まりを起こしている可能性があります。尿素水の入りが悪くなったと感じたら、尿素水補給口フィルターの点検を《日産販売会社》で行ってください。

知　識

- 尿素水補給口フィルターは、尿素水タンク内に混入するゴミを取り除く役割をしています。

5. タンクキャップを回し確実に尿素水タンクに取り付けます。
6. タンクキャップが確実に閉まっていることを確認します。

尿素水タンク容量［参考値］	
尿素水タンク 14L タイプ	13L

参照ページ
4-198 尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
4-198 指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください

尿素水（AdBlue® 相当）を廃棄するとき

尿素水（AdBlue® 相当）および空容器を湖沼、海域、河川等へ廃棄しないでください。廃棄する場合は、都道府県知事に許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、適切に処理してください。

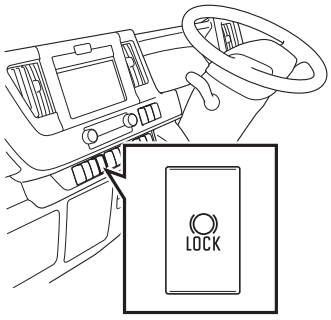
特殊装置

作業用ブレーキロック★

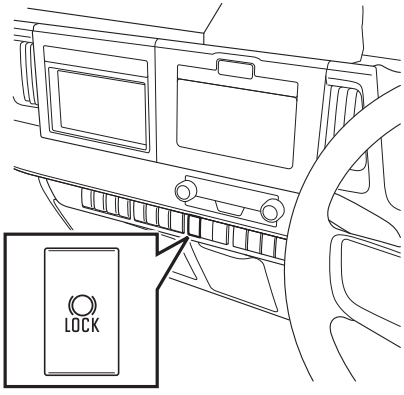
作業用ブレーキロックは、一時停車の状態で各種作業を行うときに、作業の安全を確保するための作業用補助制動装置です。パーキングブレーキだけでも停車できる路面勾配のところで使用します。

作業用ブレーキロックスイッチ

標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車



作業用ブレーキロックの ON/OFF を行うスイッチです。

知　識

- ブレーキペダルの踏み込み量が不足した状態で作業用ブレーキロックスイッチを押すと、メーターディスプレイに「ブレーキロック準備中」が表示されます。

作業前の確認

1. エンジンがかかっている。
2. メーターディスプレイに作業用ブレーキロックの警告が表示されていない。

注 意

- **このブレーキは作業用の補助ブレーキです。パーキングブレーキだけで駐車できる所で使用し通常の駐･停車には使用しないでください。ブレーキ装置のゴム部品の劣化を早め、ブレーキ力を低下させ事故の原因となります。**
- **連続 1 時間以上は使用しないでください。**
- **使用時には必ず輪止めをしてください。**
- **エンジン停止中は使用しないでください。**
- **使用中は車から離れないでください。**
- **この装置はブレーキを連続して長時間使用するため、ブレーキ装置の各部分に大きな負担をかけることになります。安全のため、定期交換部品の交換をしてください。**

作動方法

1. パーキングブレーキを効かせます。このとき、作業用ブレーキロック表示灯『LOCK』（赤）が点灯します。
2. 作業用ブレーキロックスイッチを押します。
3. 作業用ブレーキロック表示灯『LOCK』（緑）が点灯するまで、ブレーキペダルを踏みこみます。

アドバイス

- 作業用ブレーキロックは、パーキングブレーキが確実に効いた状態で作動します。
- 作動時には、作業用ブレーキロック表示灯『LOCK』（赤）が点灯するまで、パーキングブレーキレバーを強く引きます（除く電動パーキングブレーキ付車）。
- 必ず作業用ブレーキロック表示灯の点灯を確認してください。消灯しているときは作業用ブレーキロックが作動しません。
- シフトレバーが『N』位置以外のときは作業用ブレーキロックが作動しません。

解除方法

1. ブレーキロックスイッチを OFF にします。このとき、作業用ブレーキロック表示灯『LOCK』（緑）が『LOCK』（赤）に切り替わります。
2. ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキを解除するとブレーキロックは解除されます。このとき、作業用ブレーキロック表示灯『LOCK』（赤）が消灯します。
   解除後、車両を停止させるときは再度パーキングブレーキを効かせます。

⚠ 警 告

- **先にブレーキロックスイッチを OFF にしてからパーキングブレーキを解除してください。逆の順序では行わないでください。車両が動き出す場合があり危険です。**

作業用ブレーキロックの警告・表示

作業用ブレーキロック表示灯



作業用ブレーキロックスイッチを押すと点灯します。

参照ページ
4-207 作業用ブレーキロックスイッチ

作業用ブレーキロックのメーターディスプレイ表示内容

次の場合、メーターディスプレイ表示で注意を呼びかけます。

表示画面	警報音	表示内容	処　置
LOCK ブレーキロック故障 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	ピーーー … （連続）	作業用ブレーキロック作動中、システムに故障が発生したとき	エンジンを停止し、再始動を行ってください。それでも表示されるときは、《日産販売会社》にご連絡ください。
LOCK 車両動き出し注意 パーキングブレーキを引いて ブレーキを踏みこんで下さい。	ピーーー … （連続）	作業用ブレーキロック作動中にパーキングブレーキを解除したとき	パーキングブレーキを効かせ、ブレーキペダルの踏み増しを行ってください。
LOCK ブレーキロック禁止中 作動条件が整っていません。 取扱説明書に従い 再度ブレーキロックを 作動させて下さい。	—	ブレーキロックスイッチ『ON』でかつパーキングブレーキを効かせているときに停車していないとき、エンジンが停止しているとき、またはシフトレバーが『N』位置以外のとき	車両が停止していること、エンジンが始動していること、またシフトレバーが『N』位置であることを確認し、作動させてください。
LOCK ブレーキロック準備中 ブレーキロックを作動させる ために、ブレーキペダルを 踏みこんで下さい。	—	ブレーキロックスイッチ『ON』でかつパーキングブレーキを効かせているときにブレーキペダルの踏み込みが足りないとき	ブレーキペダルの踏み増しを行ってください。

異常時の処置

作業用ブレーキロック作動中、警報音が鳴ったときは、ただちに運転席に戻って次の点検を行います。

【故障状況】

メータディスプレイに車両動き出し注意と表示されている

【処　置】

パーキングブレーキを効かせ、ブレーキペダルの踏み増しを行う

【状　況】	【点検・処置】
ブザーが鳴り止む。	点検・処置は不要です。
ブザーが鳴り止まない。または、一時鳴り止むがすぐに鳴りだす。	装置の異常が考えられます。ただちに使用を中止し、最寄りの《いすゞ販売会社》へご連絡ください。

PTO ★

PTO の操作方法を記載しています。
PTO コントロールレバー、PTO スイッチ以外の特殊装置の操作方法については、各架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

PTO の操作について

⚠ 注　意

- **PTO を操作するときは、車のまわりや上方に人や物がないことを確認してから PTO を操作してください。**
- **PTO の操作は平らな場所で行ってください。**
- **PTO および特殊装置を操作するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、マニュアルトランスミッション車はシフトレバーを『N』位置にして、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま行ってください。**
  デュアルクラッチ式 AMT 車はシフトレバーを『P』位置にして、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま行ってください。
- **PTO 作動中、特に DPD の再生中は DPD、尿素 SCR、マフラー、排気管や排気ガスは高温になっています。やけどするおそれがありますので、誤って触れないように十分注意してください。また、車両付近の通行人や、周辺にある草木や枯れ草、紙くずなど燃えやすいものには十分注意してください。やけどや火災の原因になります。**
- **走行中は操作しないでください。**
- **PTO を使用する際は、ecostop キャンセルスイッチを操作して、ecostop を非作動状態にし、メーターパネル内の ecostop OFF 表示灯が点灯していることを確認してください。**
- **特殊装置の操作方法については、各架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。**

知　識

- PTO 使用時の DPD 再生については、『長時間のアイドリングや PTO 使用時の DPD 再生について』を参照してください。

参照ページ
4-195 長時間のアイドリングや PTO 使用時の DPD 再生について

PTO の警告・表示

デュアルクラッチ式 AMT 車

メーターディスプレイ表示	警告ブザー	表示・ブザー条件
PTO 作動準備中 PTOの作動を準備しています。	ピーッ ピーッ … （連続）	ダンプレバー、PTO コントロールレバー操作時または、PTO スイッチを押したときにメーターディスプレイに表示され、ブザーが鳴ります。
PTO 作動中 PTOが作動しています。	ピッ … ピッ … （連続）※	PTO が作動している間、メーターディスプレイに表示され、ブザー ※ が鳴ります。
PTO 解除中 PTOの作動を解除しています。	ピーッ ピーッ … （連続）	ダンプレバー、PTO コントロールレバーまたは PTO スイッチを使用して PTO の解除操作を行い、PTO が解除されるまでの間メーターディスプレイに表示され、ブザーが鳴ります。

※： 警告ブザーは PTO 非常用スイッチ使用時を除く

マニュアルトランスミッション車

メーターディスプレイ表示	警告ブザー	操作 / 内容
PTO 作動中 PTO作動中です。	—	PTO が作動している間、メーターディスプレイに表示されます。

PTO アイドル回転数設定★

デュアルクラッチ式 AMT 車
PTO アイドル回転数設定は、ミッション PTO 搭載車で PTO 接続時に架装物の負荷が大きく、アイドリング回転が安定しない場合に行うものです。設定の変更をするときは、必ず《日産販売会社》にご相談のうえ行って下さい。

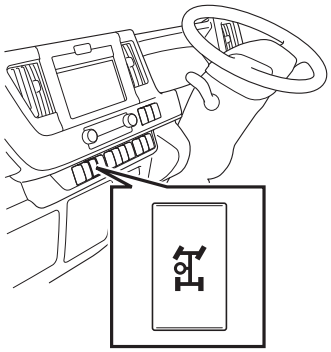
レバー式 PTO（デュアルクラッチ式 AMT 車）

接続

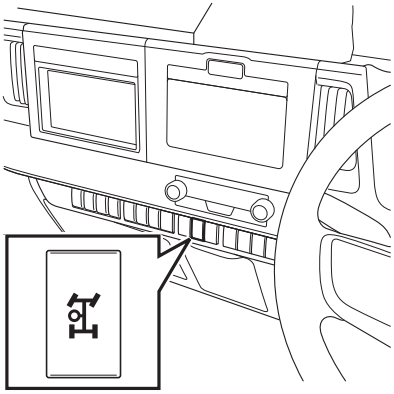


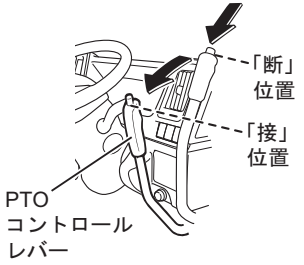
1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを『P』位置にし、エンジンを始動します。

標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車

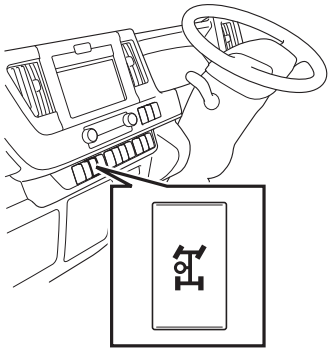




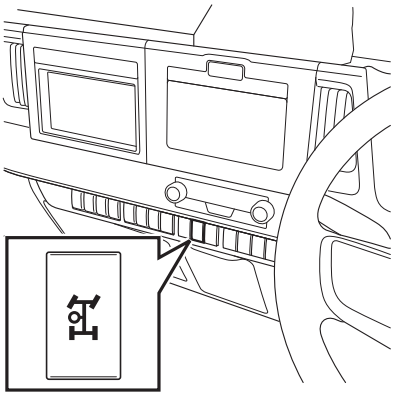
2. PTO スイッチを押して『ピーッ ピーッ …（連続）』とブザーが鳴っている間に PTO コントロールレバーを下ろすと PTO に接続されるまでメーターディスプレイに「PTO 作動準備中」が表示されます。
3. ブザー音が『ピッ … ピッ …（連続）』と変わり、自動的にクラッチがつながります。同時にメーターディスプレイに「PTO 作動中」が表示されます。
4. 特殊装置のコントロールスイッチを操作します。

解除

標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車





PTO スイッチを押して『ピーッ ピーッ …（連続）』とブザーが鳴っている間に PTO コントロールレバーのロックボタンを押し、『接』位置にあるレバーを『断』位置にします。このときメーターディスプレイに「PTO 解除中」が表示されます。メーターディスプレイの「PTO 解除中」表示が消えた後、PTO の駆動が停止していることを確認します。

⚠ 注 意

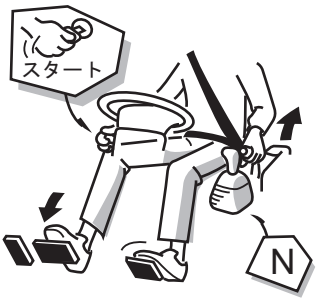
- **車を発進させるときには、次のことを確認してください。**
  - **特殊装置が走行上、安全な状態にあること。**
  - **PTO コントロールレバーが『OFF（断）』位置にあり、メーターディスプレイの「PTO 解除中」表示が消えていること。**

知　識

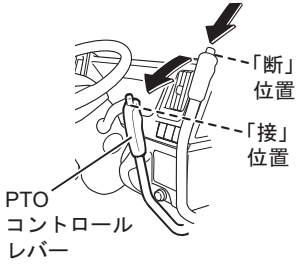
- PTO スイッチを押して、約 10 秒以内に PTO コントロールレバーを操作してください。
- PTO コントロールレバーを約 10 秒以内に操作できなかった場合は、再度 PTO スイッチを押して PTO コントロールレバーを操作してください。
- メーターディスプレイの表示は PTO コントロールレバーの操作に連動しています。PTO スイッチ、ブザー音とは関係ありません。

レバー式 PTO（マニュアルトランスミッション車）

接続



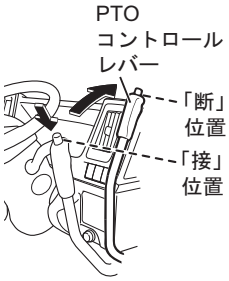
1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを『N』位置にし、エンジンを始動します。



2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、少し間をおいてからロックボタンを押しながら PTO コントロールレバーを下ろすと PTO に接続され、「PTO 作動中」がメーターディスプレイに表示されます。

3. ゆっくりとクラッチペダルから足を離します。

解除



1. クラッチペダルを踏みながら、PTO コントロールレバーのロックボタンを押し、『接』位置にあるレバーを『断』位置にします。
   このとき、メーターディスプレイの「PTO 作動中」が消え、PTO の駆動が停止していることを確認します。
2. ゆっくりクラッチペダルから足を離します。

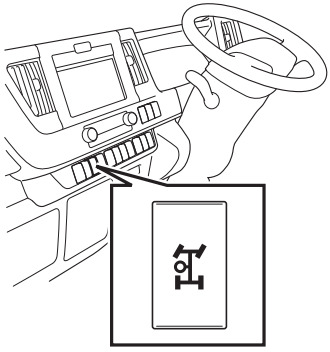
⚠ 注 意

- **車を発進させるときには、次のことを確認してください。**
  - **特殊装置が走行上、安全な状態にあること。**
  - **PTO コントロールレバーが『OFF（断）』位置にあり、メーターディスプレイの「PTO 作動中」表示が消えていること。**

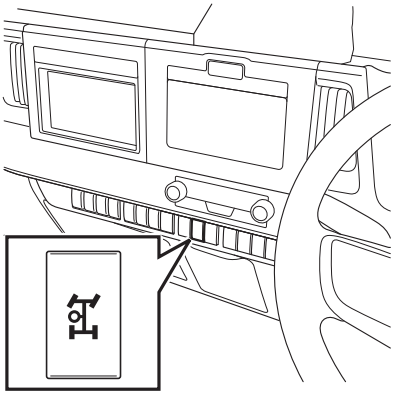
スイッチ式 PTO（デュアルクラッチ式 AMT 車（除く消防車））

接続

標準キャブ・ハイキャブ車



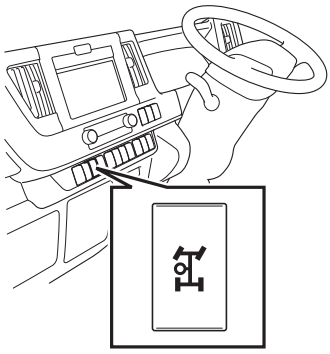
ワイドキャブ車



1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを『P』位置にし、エンジンを始動します。
2. PTO スイッチを押すと『ピーッ ピーッ …（連続）』とブザーが鳴り始め、PTO が接続されるまでメーターディスプレイに「PTO 作動準備中」が表示されます。
3. ブザー音が『ピッ … ピッ …（連続）』と変わり、自動的にクラッチがつながります。同時にメーターディスプレイに「PTO 作動中」が表示されます。
4. 特殊装置のコントロールスイッチを操作します。

解除

標準キャブ・ハイキャブ車

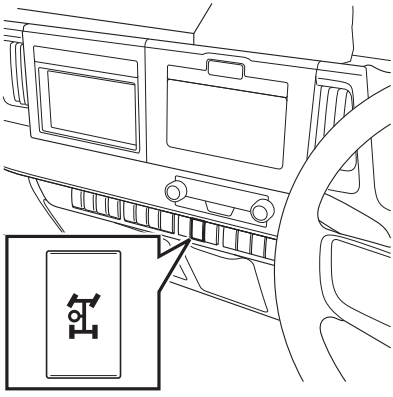


PTO スイッチを押すと『ピーッ ピーッ …（連続）』とブザーが鳴り始め、同時にメーターディスプレイに「PTO 解除中」が表示され消えた後、ブザーが鳴りやみます。

注 意

- **車を発進させるときには、次のことを確認してください。**
  - **特殊装置が走行上、安全な状態にあること。**
  - **「PTO 解除中」が消えていること。**

ワイドキャブ車



スイッチ式 PTO（マニュアルトランスミッション車）

知 識

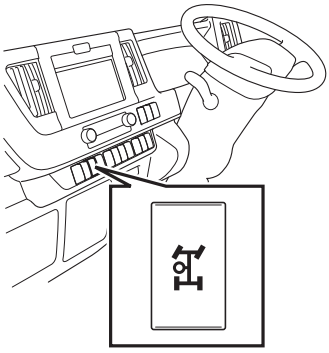
- エンジン保護のため、一部の架装物によってはエアコン作動中に PTO スイッチを『ON』にすると、エアコンが停止します。

接続

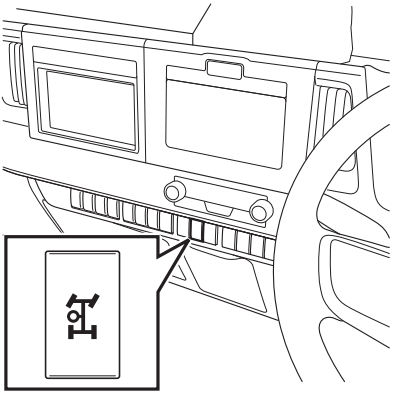


1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを『N』位置にし、エンジンを始動します。

標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車



2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、少し間をおいてから PTO スイッチを押します。
このとき、「PTO 作動中」がメーターディスプレイに表示されます。

アドバイス

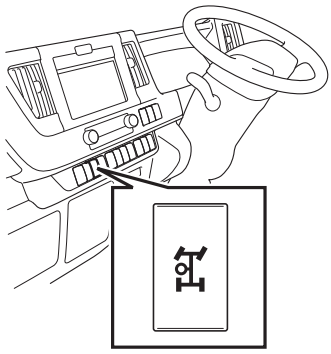
- クラッチペダルを踏み込んですぐに PTO スイッチを『ON』にすると、ギヤ鳴りを起こしたり、PTO が入らない場合があります。また、車両が完全に停止する前に操作するとギヤ鳴りが発生し、PTO が入らない場合があります。



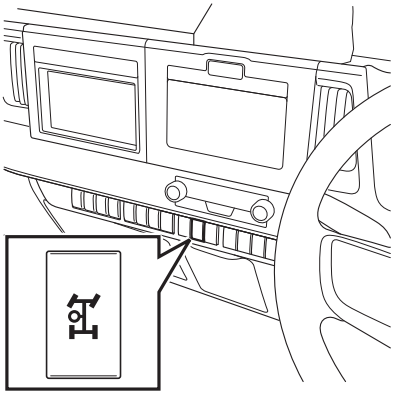
3. ゆっくりクラッチペダルから足を離します。
4. 特殊装置のコントロールスイッチを操作します。

解除

標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車



1. クラッチペダルを踏みながら、PTO スイッチを押します。
   このとき、メーターディスプレイの「PTO 作動中」が消え、PTO の駆動が停止していることを確認します。
2. ゆっくりクラッチペダルから足を離します。

⚠ 注 意

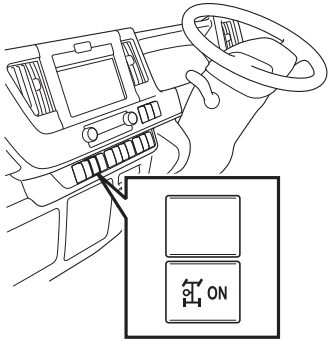
- **車を発進させるときには、次のことを確認してください。**
  - **特殊装置が走行上、安全な状態にあること。**
  - **「PTO 作動中」が消えていること。**

スイッチ式 PTO（デュアルクラッチ式 AMT 車（消防車））

知　識

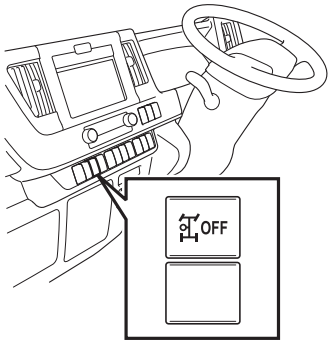
- エンジン保護のため、一部の架装物によってはエアコン作動中に PTO スイッチを『ON』にすると、エアコンが停止します。

接続



1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを『P』位置にし、エンジンを始動します。
2. PTO スイッチの『ON』側を押すと『ピーッピーッ …（連続）』とブザーが鳴り始め、PTO が接続されるまでメーターディスプレイに「PTO 作動準備中」が表示されます。
3. ブザー音が『ピッ … ピッ …（連続）』と変わり、自動的にクラッチがつながります。同時にメーターディスプレイに「PTO 作動中」が表示されます。
4. 特殊装置のコントロールスイッチを操作します。

解除



PTO スイッチの『OFF』側に押すと『ピーッピーッ …（連続）』とブザーが鳴り始め、同時にメーターディスプレイに「PTO 解除中」が表示され消えた後、ブザーが鳴りやみます。

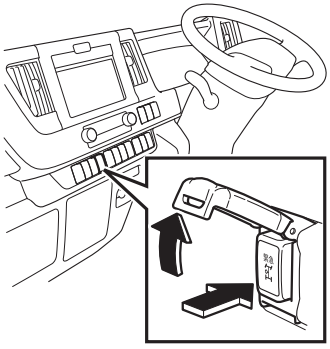
⚠ 注　意

- **車を発進させるときには、次のことを確認してください。**
  - **特殊装置が走行上、安全な状態にあること。**
  - **「PTO 作動中」が消えていること。**

PTO 非常用スイッチ（デュアルクラッチ式 AMT 車（消防車））

PTO スイッチで PTO が接続できないときに、PTO を強制的に接続する非常用のスイッチです。PTO スイッチの代わりに使用します。

接続



1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でシフトレバーを『P』位置にし、エンジンを始動します。
2. PTO 非常用スイッチのカバーを開けてスイッチを押します。このとき、「PTO 作動中」がメーターディスプレイに表示されます。

解除

PTO 非常用スイッチを押し、メーターディスプレイから「PTO 作動中」が消えていることを確認します。

⚠ 注 意

- **PTO 非常用スイッチは、PTO 機構保護の機能を働かせない状態で PTO を作動させます。非常時以外は使用せず、通常は PTO スイッチを使用してください。**
- **通常は、非常用スイッチのカバーを開けないでください。**

ダンプレバー★

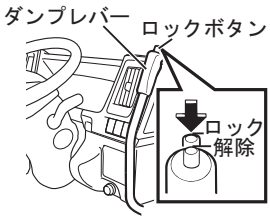
ダンプレバーは荷台を上昇させたり、降下させる場合に使用します。
ダンプトラックのダンプレバーの操作方法を記載しています。
レバー以外の操作方法については、各架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

⚠ 注 意

- 走行時および車両整備時には、ダンプレバーを必ず『下げ』位置にし、ロックボタンによりダンプレバーが固定され、作動しないことを確認してください。
- 乗り降りをするときに、ダンプレバーをつかまないでください。万一、作動すると大変危険です。

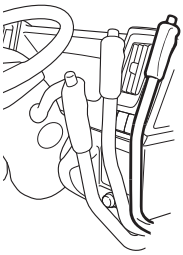
ダンプレバーの基本操作について★

ロックボタンについて



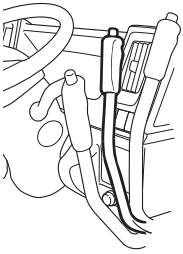
ロックボタンでダンプレバーは『下げ』、『上げ』の 2 つの位置に固定されます。
ダンプレバーを操作するときは、必ずロックボタンを押しながら行ってください。

荷台を下げるとき



荷台を降下させるときの位置です。
また、通常時、走行時には、この位置に固定してください。

荷台を一時停止させるとき

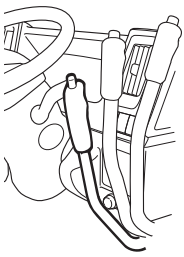


荷台の上昇、降下を一時的に停止する位置です。この位置では運転席から離れないでください。

⚠ 注 意

- ロックボタンでのダンプレバーの固定はできません。

荷台を上げるとき



荷台を上昇させるときの位置です。
また、荷台を上げたままにするときは、この位置に固定して安全棒をしてください。

⚠ 注 意

- ダンプレバーは『一時停止』位置では固定できません。上昇、降下中に一時的に荷台の作動を止めるときだけお使いください。
- ダンプレバーを『一時停止』位置にし、荷台を途中の位置で止めておくと、荷台が上昇や降下するおそれがあり大変危険ですのでやめてください。また、荷台を上げたままにするときは、必ず完全に荷台を上昇させ、エンジンを止めて、ダンプレバーを『上げ』位置に固定して、確実に安全棒をしてください。

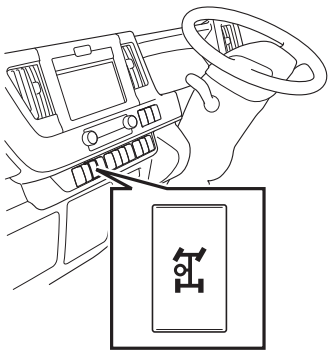
荷台の操作

⚠ 注 意

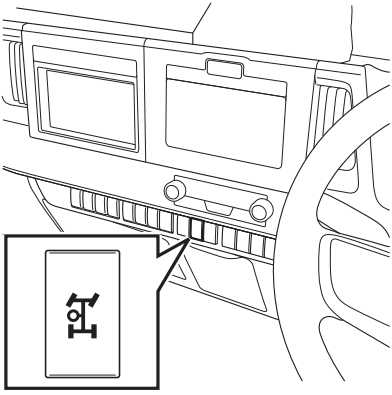
- 荷台の上昇、降下をするときは、車のまわりや上方に人や物がないことを確認してからダンプレバーを操作してください。
- 荷台の上昇、降下は平らな場所で行ってください。万一、傾斜地で荷台を操作すると、横転やフレームが変形するおそれがありますので、やめてください。
- ダンプレバーを操作するときは、車を完全に停止させ、必ずパーキングブレーキレバーを確実に引き、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま行ってください。
- 走行中は操作しないでください。

荷台の上昇（デュアルクラッチ式 AMT 車）

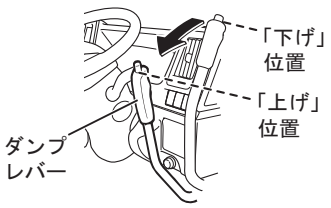
標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車



1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを『P』位置にし、エンジンを始動します。
2. PTO スイッチを押すと『ピーッ ピーッ …（連続）』とブザーが鳴り、メーターディスプレイに「PTO 作動準備中」が表示されます。



3. ダンプレバーを『上げ』位置の方向に引くとブザー音が『ピッ … ピッ …』と変わり、荷台が上昇します。同時にメーターディスプレイに「PTO 作動中」が表示されます。荷台は最上昇の位置に達すると自動的に停止します。

⚠ 注 意

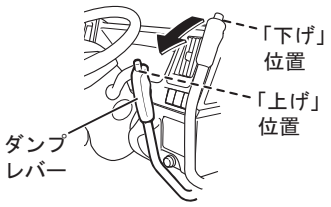
- **荷台をエンジン停止後、再上昇させる場合は、必ず PTO スイッチを『OFF』にしてからエンジンを再始動し、操作を行ってください。**
  この操作を行わないと荷台は上昇しません。

アドバイス

- ダンプレバーのみを操作しても荷台は上昇しません。必ず、PTO スイッチを押して、ブザーが鳴っていることを確認してから、ダンプレバーを操作してください。

荷台の上昇（マニュアルトランスミッション車）



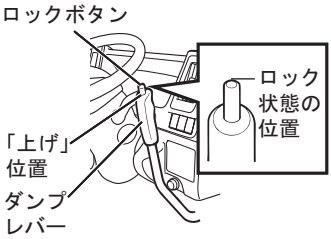


1. パーキングブレーキを確実に効かせ、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを『N』位置にし、エンジンを始動します。

2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、少し間をおいてからダンプレバーを『上げ』の位置にすると、「PTO 作動中」がメーターディスプレイに表示されます。

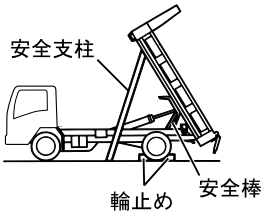
3. ゆっくりクラッチペダルから足を離すと荷台が上昇し始めます。
荷台は最上昇の位置に達すると自動的に停止します。

荷台を上げたままにするとき



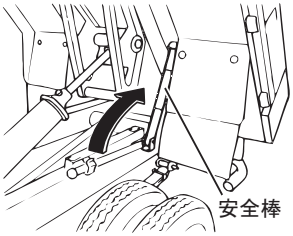
⚠ 注 意

- **洗車、点検整備などのため、荷台を上げたままにするときは、必ず平らな場所でパーキングブレーキレバーを確実に引き、輪止めをかけ、荷台を『空』にして、安全棒や安全支柱などで荷台の降下止めをしてください。**
- **点検整備等のときは安全支柱および輪止めを必ず併用してください。『労働安全衛生規則第 151 条の 9』で定められています。**
- **作業をする人以外は、荷台の下に入らないでください。**



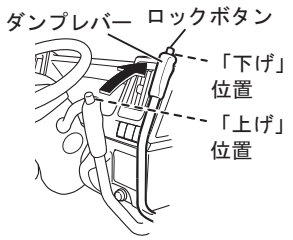
1. 運転室内のダンプレバーを『上げ』の位置にし、ダンプレバーがロックの状態になっていることを確認します。

2. 荷台が最上昇した状態で必ずエンジンを停止します。



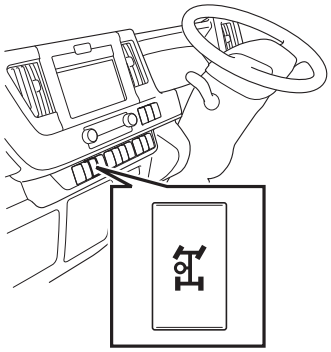
3. 安全棒をセットし、荷台を固定します。荷台の下に入って作業をするときは、必ず安全支柱および輪止めにて荷台と車両を固定してください。

荷台の降下のしかた（デュアルクラッチ式 AMT 車）



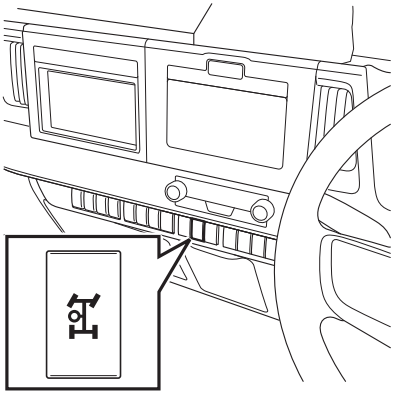
1. ダンプレバーのロックボタンを押し、『上げ』位置にあるダンプレバーを『下げ』位置にします。荷台は自重で下降します。
このとき、メーターディスプレイに「PTO 解除中」が表示されます。

標準キャブ・ハイキャブ車



2. PTO スイッチを押すと、ブザーが鳴りやみます。

ワイドキャブ車



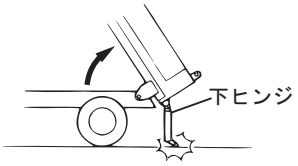
知　識

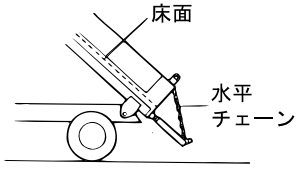
- ダンプレバーを『下げ』位置から続けて『上げ』位置にして荷台の上昇を行う際、PTO ギヤのギヤ鳴りが発生することがありますが、異常ではありません。一度、『下げ』位置に戻し、PTO スイッチを押してブザーを止め、再度 PTO スイッチを押してダンプレバーを操作することでギヤ鳴りの発生を抑えることができます。

荷台の降下のしかた（マニュアルトランスミッション車）



ダンプレバーのロックボタンを押し、『上げ』位置にあるダンプレバーを『下げ』位置にします。荷台は自重で下降します。このとき、メーターディスプレイの「PTO 作動中」が消えます。





⚠ 注 意

- 車を発進させるときには次のことを確認してください。
  - 荷台が完全に下降していること。
  - ダンプレバーが『下げ』位置に確実にロックされ、ダンプレバーが作動しないこと。
  - 各あおりが確実に固定されていること。
- 荷台を下降させるときには、ダンプ機構に大きな力が加わるのを防ぐために、ダンプレバーはゆるやかに操作してください。
- 下ヒンジ（上方開き）による後部あおり（三転ダンプは左右あおりも含む）の開閉では以下の点に注意してください。
  - ダンプした状態でのあおり上方開きの開閉作業は行わないでください。あおりや積荷の落下のおそれがあり危険です。荷台が完全に下りた状態で行ってください。
  - 上方開きのままでダンプする作業は避けてください。地面にあおりが突き当たりヒンジなどを破損したり、下側ヒンジが外れ、ゲートが落下するおそれがあります。
  - 水平チェーンなどを使って、あおりを床面と水平位置に保持して上方開きのままダンプすることはできます。ダンプしたときに後部あおりと地面の隙間を十分にとってください。
- 積荷を積んだ状態で、左右あおりまたは、後部あおりを開けるときは、十分に注意してください。
  積荷が落下し危険です。
- ダンプした状態で荷台に上って作業するのは大変危険ですのでやめてください。荷台に上っての作業は、必ず完全に荷台が下りた状態で行ってください。

知 識

- 水平チェーンは特別仕様です。《日産販売会社》にご相談ください。

運行・車両管理装置

タイヤ空気圧モニタリングシステム★

センサーを使用してタイヤ空気圧や温度を測定し、異常を検知すると警告灯やメーターディスプレイ表示で注意を促す装置です。

警　告

- **タイヤ空気圧モニタリングシステムは日常点検に代わるものではありません。日常点検で必ずタイヤ空気圧を確認してください。**
- **走行状況によっては、異常のあるタイヤの情報がメーター上の正しい位置に表示されない可能性があります。タイヤ空気圧モニタリングシステム警報作動時は、警報が出ていない位置のタイヤの確認も実施し、適切な処置を行って下さい。**

アドバイス

- タイヤやホイールを交換する場合、およびタイヤ空気圧モニタリングシステム関連部品（タイヤ空気圧センサーおよび受信機など）の取り付け、取り外しが必要な場合は、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知　識

- タイヤ空気圧モニタリングシステムは、各ホイールの内側に取りつけられたタイヤ空気圧センサーと車両搭載されたコンピュータが通信を行い、空気圧を測定します。
- タイヤ空気圧センサーには固有の ID コードがあり、コンピュータに ID コードを登録することで空気圧の測定が可能になります。登録については、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。
- 以下の場合、タイヤ空気圧モニタリングシステムは作動しません。
  - タイヤ空気圧センサーが取り付けられていないタイヤを使用しているとき
- 次のような場合、タイヤ空気圧モニタリングシステムが適切に作動しないことがあります。
  - 《日産純正部品》以外のホイールを使用したとき
  - タイヤチェーンなど後付けの部品を装着しているとき
  - 車両（特にタイヤの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
  - 泥、雪、氷などが付着した状態で長期間放置したとき
  - タイヤおよび受信機周辺の改造を行ったとき
  - 市販のタイヤパンク修理剤を使用したとき
  - 携帯電話や無線機などの通信機器、ノート PC などがタイヤ空気圧センサーおよび受信機付近にあるとき
  - テレビ塔、発電所、ラジオ局の近くなど、強い電波障害があるエリアにいるとき

知識（続く）

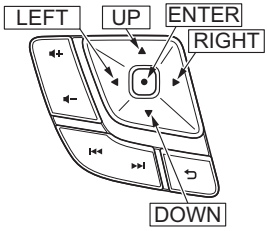
知識（続き）

- 以下のような場合は、オートロケーション機能による位置判定が正しく完了しない可能性があります。
  - エンジン始動後の走行距離が短すぎるとき
  - エンジン始動後の走行距離の多くが低速走行またはバック走行だったとき
  - タイヤ空気圧センサーの取り付け状態が不適切なとき
- 以下のような場合は、オートロケーション機能による位置判定に時間がかかる場合があります。
  - 停車が多いとき
  - 長時間停車しているとき
  - 荒れた路面上を走行したとき
- 停車中はタイヤ空気圧センサーからの信号を読み取れない場合があります。

タイヤ空気圧、温度の確認

メーターディスプレイのタイヤ状態表示画面から、各タイヤの空気圧や温度を確認できます。

タイヤ状態表示



車両情報



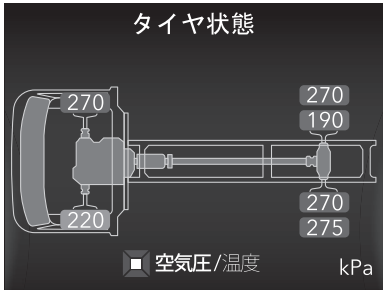
表示方法

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、車両情報を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから車両情報に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』を押し、画面をタイヤ状態表示に切り替えます。

【表示例】



画面の切り替え

『ENTER』を押すと、空気圧表示画面と温度表示画面を切り替えることができます。『RETURN』を押すと、前の画面に戻ります。タイヤに異常がある場合は、タイヤ状態表示画面の上部に警告が表示されます。

知　識

- タイヤ空気圧を表示する場合は、スタータースイッチを『ON』位置にして 5 分以上待ってから行ってください。5 分以内に確認すると、正常な空気圧が表示されないおそれがあります。
- 停車中はタイヤ空気圧センサーからの信号を正しく読み取れないことがあります。このようなときは、タイヤを少し動かしてください。
- タイヤ交換後は、車速 30km/h 以上で 10 分以上走行してください。タイヤ空気圧センサーが自動でタイヤの取り付け位置を認識します。
- 画面上で異常のみられたタイヤを点検しても、タイヤ空気圧および温度に異常がなかった場合、タイヤの取り付け位置が正しく認識されていないおそれがあります。車速 30km/h 以上で 10 分以上走行して、再度タイヤ取り付け位置の認識を行ってください。この操作を行っても状況が改善しない場合は、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告・表示

タイヤ空気圧モニタリングシステム警告灯



以下のときに点灯します。メーターディスプレイの警告表示を参照し、適切な処置を行ってください。

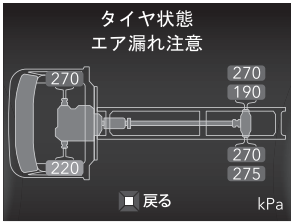
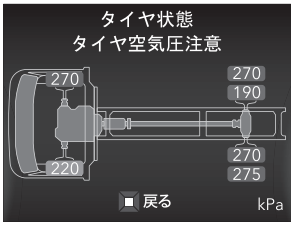
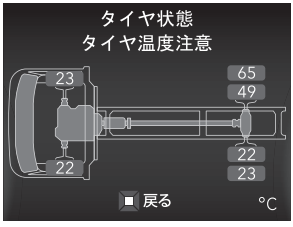
・タイヤ空気圧が低下しているとき
・タイヤ空気圧が高すぎるとき
・タイヤが高温になっているとき

メーターディスプレイに警告メッセージが表示されずに警告灯が点灯した、または警告灯が 1 分間点滅し、その後点灯した場合は、センサーの電池残量が低下している、もしくはタイヤ空気圧モニタリングシステムが故障しています。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

参照ページ
10-63 タイヤ

タイヤ空気圧モニタリングシステムのメーターディスプレイ表示内容

状況に応じ以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

メーターディスプレイ表示	表示内容	処　置
	タイヤ空気圧が急激に低下しているとき	ただちに安全な場所に停車し、タイヤの点検を行ってください。
	タイヤ空気圧が低下しているときまたは過大なとき	安全な場所に停車し、タイヤを標準空気圧に調整してください。
	タイヤが高温になっているとき ブレーキの引きずりやフェード現象を起こしているとき	ただちに安全な場所に停車し、タイヤおよび走行装置の点検を行ってください。

アドバイス

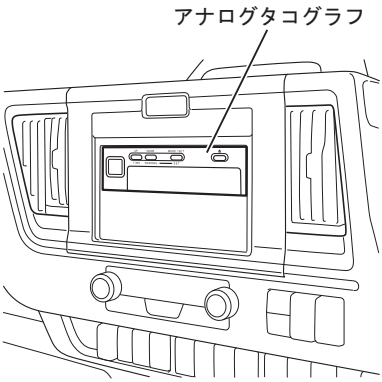
- タイヤ交換の必要がある場合は最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

参照ページ
10-63 タイヤ

知　識

- タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告が作動すると、メーターディスプレイのメイン表示エリアに表示される画面が、タイヤ状態表示画面に自動で切り替わります。

アナログタコグラフ★



車速、運行時間、走行距離などの記録を行います。経済運転や正しい運転管理にお役立てください。
アナログタコグラフの取り扱いについては別添の「アナログタコグラフ取扱説明書」をご覧ください。

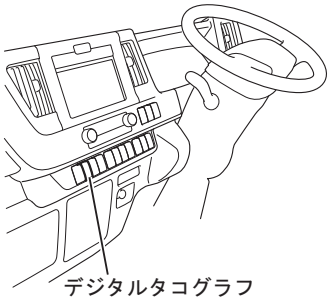
アドバイス

- チャート紙の交換などアナログタコグラフを開けるときはエンジンを止めてください。エンジン運転中ではタコグラフ故障の原因になります。

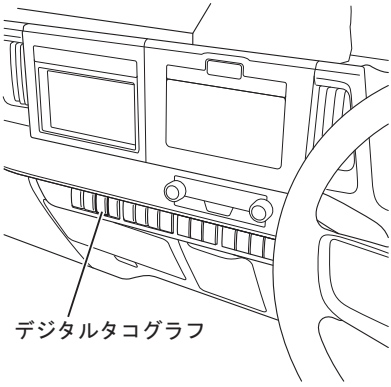
デジタルタコグラフ★

車速、運行時間、走行距離、エンジン回転数などの記録を行います。省燃費運転や運行管理にお役立てください。

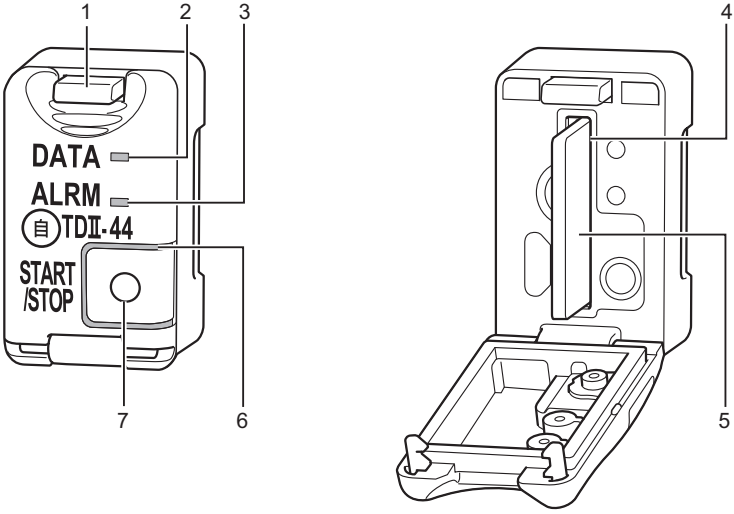
標準キャブ・ハイキャブ車



ワイドキャブ車

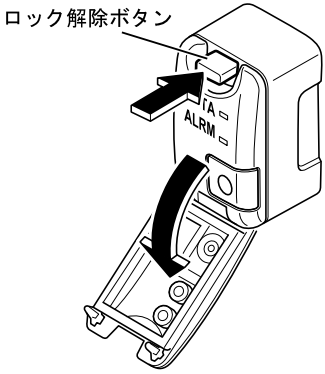


各部の名称

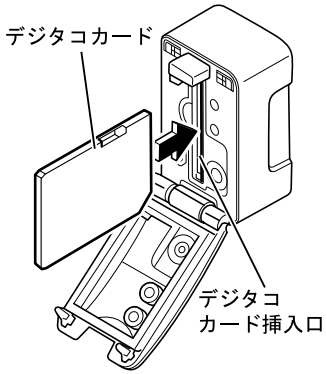


No.	名　称
1	ロック解除ボタン
2	データランプ
3	アラームランプ
4	デジタコカード挿入口
5	デジタコカード
6	照明
7	運行スイッチ

デジタコカードの挿入のしかた



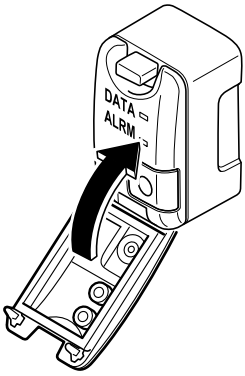
1. スタータースイッチを『LOCK』位置にします。
ロック解除ボタンを押し、デジタルタコグラフのカバーを開きます。



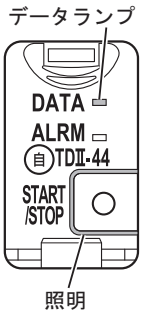
2. デジタコカード挿入口に、デジタコカードを『カチッ』と音がするまで確実に差し込みます。

⚠ 注 意

- **運行情報を確実に記録するため、デジタコカードは《日産純正部品》を使用してください。**



3. カバーを『カチッ』と音がするまで確実に閉じます。



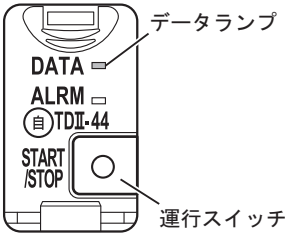
4. スタータースイッチを『ON』位置にします。デジタルタコグラフの照明（白）が点灯し、デジタコカードを認識すると、データランプ（緑）が点滅します。

運行情報の記録のしかた

注 意

- **デジタルタコグラフ内部の時計を合わせないと運行情報が記録されません。必ず時計を合わせてから運行してください。**

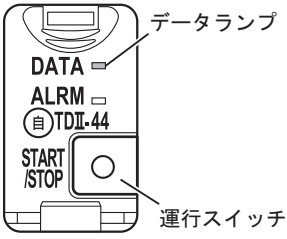
参照ページ
4-242 デジタルタコグラフ内部の時計の合わせかた



1. スタータースイッチを『ON』位置にし、データランプ（緑）の点滅でデジタコカードが入っていることを確認します。
運行スイッチを押す（1 秒以上）と、データランプ（緑）が点滅から点灯に変わり、運行情報の記録を開始します。

知　識

- デジタコカードを挿入しなくても、運行スイッチを押せば本体のメモリーに運行情報を 168 時間まで記録することができます。
- デジタコカードが挿入されていない場合、アラームランプ（赤）が点灯します。運行途中でもデジタコカードを挿入すれば、アラームランプ（赤）が消灯します。
- 運行スイッチを押し忘れても、デジタルタコグラフが車速を検知すると自動的に運行情報の記録を開始します。このとき、データランプ（緑）は点滅から点灯に変わります。データランプが点灯に変わってから運行ボタンを押すと、運行情報の記録を終了します。運行ボタンを押すときは、データランプ（緑）が点滅していることを確認してください。
- デジタコカードの記録可能時間が 1 時間を切ると、アラームランプ（赤）が点滅します。アラームランプ（赤）が点滅したときはデジタコカードを抜き、運行情報管理ソフトを使用し、運行情報を保管してください。
- 運行途中でデジタコカードを交換したときなど、複数のデジタコカードに運行情報を記録しても、運行情報管理ソフトを使用することで運行情報を 1 つにすることができます。詳しくは、運行情報管理ソフトに付属の取扱説明書をご覧ください。

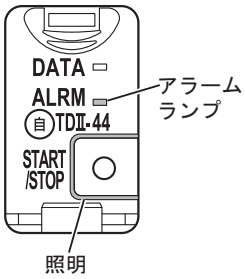


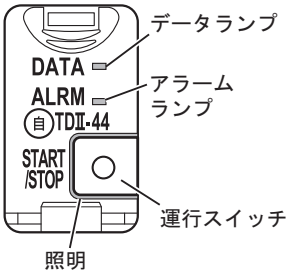
2. 運行が終了したら運行スイッチを押します。データランプ（緑）の点灯が速い点滅に変わり、デジタコカードに運行記録の書き込みを行います。データランプ（緑）が速い点滅から遅い点滅に変われば運行情報の書き込みは完了です。デジタコカードを抜くことができます。
デジタコカードに書き込まれた運行情報は、運行情報管理ソフトを使用して保管してください。

知　識

- データランプ（緑）が速い点滅をしているときにスタータースイッチを『LOCK』位置にしても、デジタルタコグラフはデジタコカードへの書き込みが完了するまで作動します。
- データランプ（緑）が速い点滅をしているときにデジタコカードを抜くと、運行情報は途中までしか書き込まれません。デジタコカードを抜くときは、データランプ（緑）が速い点滅から遅い点滅に変わるまでお待ちください。
- 運行ボタンを押し、運行を開始してから 168 時間が経過すると、自動的に運行を終了しデジタコカードへの書き込みを行います。

デジタルタコグラフ内部の時計の合わせかた





バッテリーを外したまま長時間車両を使用しなかったときなど、デジタルタコグラフ内部の時計設定がリセットされたときは、スタータースイッチを『ON』位置にすると照明（白）が点滅し、アラームランプ（赤）が点灯します。次の手順に従い、時計の設定を行ってください。

1. メーターディスプレイの時計表示を現在時刻に合わせます。

参照ページ
3-13 メーターディスプレイ

2. 運行スイッチを、アラームランプ（赤）が消灯するまで押し続けます（約 11 ～ 15 秒間）。

3. 運行スイッチを離すと、照明（白）が点滅したままデータランプ（緑）とアラームランプ（赤）が交互に点灯（最大約 1 分間）します。次にデータランプ（緑）が約 5 秒点灯し、点滅に変わるとともに照明（白）が点滅から点灯に変われば、デジタルタコグラフ内部の時計がメーターディスプレイの時刻に設定されます。
照明（白）が点滅したままのときは、手順①からやり直してください。

先進運転支援システム 5

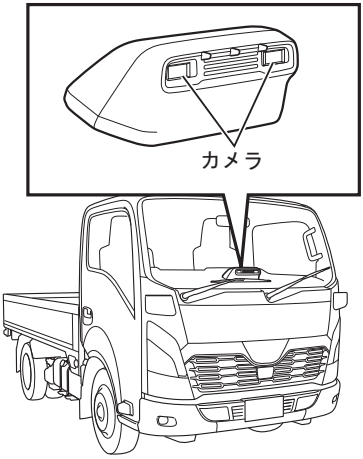
● 先進運転支援システムについて 5-2
● プリクラッシュブレーキ（PCB） 5-11
● 車間距離警報 5-20
● ブラインドスポットモニター★ 5-25
● 先行車発進お知らせ機能 5-36
● 誤発進抑制機能★ 5-40
● オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★ 5-46
● 標識認識機能★ 5-69
● 標識連動型スピードリミッター★ 5-83
● 車線逸脱警報（LDWS） 5-90
● レーンキープアシスト★ 5-96
● ふらつき警報 5-112
● ドライバーステータスモニター★ 5-116
● ドライバー異常時対応システム（EDSS）★ 5-132
● 可変配光型ランプ★ 5-145

先進運転支援システムについて

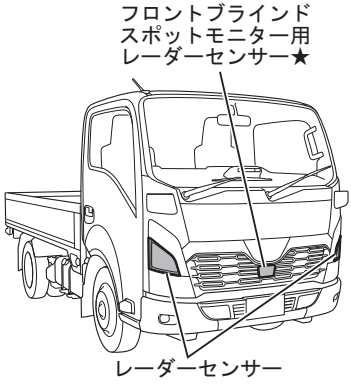
先進運転支援システムとは複数の機能によって運転者の判断を助け、安全･快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。カメラやレーダーセンサーから検知した情報をもとに、走行の安全性や運転性能を高めます。

⚠ 警 告

- **先進運転支援システムは自動運転 / 自動衝突回避システムではありません。運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を行ってください。**



カメラの取り付け位置
カメラは、ダッシュボードの上に取り付けられています。



レーダーセンサーの取り付け位置
レーダーセンサーは、左右のフロントターンシグナルランプ下部および車両正面に設置されています。

お車に装着される先進運転支援システム

プリクラッシュブレーキ（PCB）

プリクラッシュブレーキ（衝突被害軽減ブレーキ）は、カメラにより追突を避けられない物体、主に車両を前方に検知した場合に、運転者に危険回避を促します。接近に対し、警報音とメーターディスプレイ表示による警告を発し、さらに追突が避けられない場合は、自動的に緊急ブレーキを作動させて衝突速度を低減し、被害の軽減を図ります。
また、交差点での右左折時にドライバーのブレーキ操作をアシストし、横断する歩行者との衝突の危険性を低減します。

参照ページ
5-11 プリクラッシュブレーキ（PCB）

車間距離警報

車間距離警報は、カメラにより先行車との車間距離を検知し、車両が安全な範囲を超えて接近した場合に警報音とメーターディスプレイ表示で運転者に注意を喚起し、危険回避を促します。

参照ページ
5-20 車間距離警報

ブラインドスポットモニター★

ブラインドスポットモニターは、レーダーセンサーを使用して周囲の移動物の存在を運転者に知らせることにより、交差点進入時、右左折時、発進時の前方確認★を支援するシステムです。
移動物の接近状態に応じてフロントピラー部の BSM 表示灯や警報音、メーターディスプレイ表示でドライバーに注意を促します。

参照ページ
5-25 ブラインドスポットモニター★

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、警報音とメーターディスプレイ表示で運転者にお知らせします。

参照ページ
5-36 先行車発進お知らせ機能

誤発進抑制機能★

誤発進抑制機能は、停車中にカメラが車両の前方に障害物を認識している状態で、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したときに、エンジン出力を制限し発進を緩やかにすることで、衝突時の被害の軽減を図ります。また警報音とメーターディスプレイ表示で運転者に注意を喚起し、危険回避を促します。

参照ページ
5-40 誤発進抑制機能★

オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★

オートクルーズは、走行中にアクセルペダルを踏まなくても車速を一定（約 30 ～ 120km/h）に保って走行することができるシステムです。
全車速車間クルーズは、オートクルーズ機能に加え、カメラにより先行車を検知すると、設定された車間距離を維持するようエンジン･補助ブレーキなどにより加速･減速･停止を行います。

参照ページ
5-46 オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★

標識認識機能★

カメラが認識した交通標識をメーターディスプレイに表示することで、交通標識の見落としを防ぎ、安全運転を支援するシステムです。認識した交通標識に対し、禁止行為を行っているとシステムが判断した場合は、警報音とメーターディスプレイ表示で運転者にお知らせします。

参照ページ
5-69 標識認識機能★

標識連動型スピードリミッター★

道路ごとの制限速度に応じて速度制限を行うシステムです。標識認識機能によりカメラが検知した制限速度を、30km/h から 120km/h の範囲内で自車の上限速度に設定することができます。

参照ページ
5-83 標識連動型スピードリミッター★

車線逸脱警報（LDWS）

車線逸脱警報はカメラにより、車線に対する車両位置を検出し、車線を逸脱した場合に警報音とメーターディスプレイ表示による警告を促し、わき見運転や居眠り運転による事故の抑制に貢献します。

参照ページ
5-90 車線逸脱警報（LDWS）

レーンキープアシスト★

レーンキープアシストは、車線が整備された道路を走行する際に、カメラで車線と車両を検知することで運転者の車線内走行を支援するシステムです。また走行中に車線を逸脱するおそれがあると判断した場合には、メーターディスプレイ表示や警報音でドライバーに警告し、回避するためのハンドル操作を一部アシストします。

参照ページ
5-96 レーンキープアシスト★

ふらつき警報

ふらつき警報は、車線が整備された道路を走行する際に車両の蛇行を検出し、メーターディスプレイ表示と警報音でドライバーに警告します。

参照ページ
5-112 ふらつき警報

ドライバーステータスモニター★

ドライバーモニターカメラを使用して運転者の顔の向きや姿勢、表情などを測定し、運転者の状況に応じて警報音や音声警報、メーターディスプレイ表示で注意や休憩を促すシステムです。

参照ページ
5-116 ドライバーステータスモニター★

ドライバー異常時対応システム（EDSS）★

健康起因などによりドライバーに異常が発生した際に、車内外へ異常事態を報知するとともに、車両の減速を行い停車させることができるシステムです。

参照ページ
5-132 ドライバー異常時対応システム（EDSS）★

可変配光型ランプ★

カメラを使用して夜間走行時に前方状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲､照射部分や明るさを自動的に変化させるシステムです。

参照ページ
5-145 可変配光型ランプ★

先進運転支援システムの注意事項

先進運転支援システムを正常に使用するために、以下のことに注意してください。

⚠ 注 意

- カメラの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
  - フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。キズやヒビがあったり、雨滴や結露、氷雪などが付着すると、機能が低下する場合があります。
  - フロントガラス（内側）の清掃をするときは、カメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。
  - フロントガラスが曇ったら、ヒーターやエアコンを使用して曇りを取ってください。
  - ワイパーの作動状況点検時に、ふき残しがある場合にはワイパーブレードを交換してください。ふき残しがあると前方の検知が安定せず、先進運転支援システムが正常に作動しない可能性があります。
  - カメラに強い衝撃を与えないでください。
  - カメラの取り付け位置を変更したり、取り外したり分解しないでください。取り外した場合は《日産販売会社》で点検･修理を受けてください。
  - カメラ下部の排熱口をふさがないでください。
  - ダッシュボードの上、カメラの正面、カメラの上に物を置かないでください。カメラの破損やカメラの作動停止、フロントガラスへの物体映り込みによる誤認識につながるおそれがあります。
  - カメラのレンズ前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
  - カメラのレンズを汚したり傷をつけないでください。
  - カメラに液体をかけないでください。
  - カメラのレンズは清掃しないでください。
  - フロントガラスには、ガラスコーティング剤を使用しないでください。
  - 《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換しないでください。《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換すると、システムが正常に作動しなくなる場合があります。
  - フロントガラスを修理･交換するときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

注意 （続く）

注意（続き）

- レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
  - レーダーセンサーカバーは常にきれいにしておいてください。
  - レーダーセンサーカバーの清掃には、ラッカーシンナー、ベンジンなどは使用しないでください。変形などにより検知性能が低下するおそれがあります。
  - レーダーセンサーカバーには、ステッカーを貼ったり塗装などを行わないでください。検知性能が低下することがあります。
  - レーダーセンサー前面に物を設置しないでください。電波がさえぎられ前方の物体を検知できなくなります。
  - レーダーセンサー本体に強い衝撃を与えないでください。衝撃により、レーダーセンサーの位置や向きがずれるとシステムが正常に作動しない場合があります。強い衝撃を受けた際は最寄りの《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
  - レーダーセンサー取付状態にくるい（取り付け方向が変化したなど）があると、前方の物体を正しく検知できなくなりますので、レーダーセンサー取付部の分解・調整は行わないでください。
  - レーダーセンサーの調整が必要なときは最寄りの《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
  - レーダーセンサー本体の技術基準適合マークの刻印には触れないでください。

参照ページ
10-122 車内の手入れ

知 識

【マニュアルトランスミッション車】

- エンジン回転が極端に下がると、機能が一時的に停止することがあります。停止後数秒経過すると機能が復帰します。

先進運転支援システムに異常があったとき

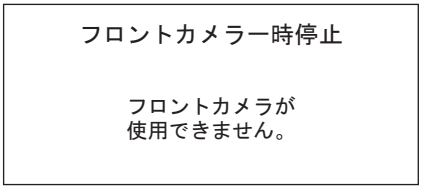
次の先進運転支援システムは、カメラの一時停止時や異常時に作動停止します。

- プリクラッシュブレーキ（PCB）
- 車間距離警報
- 先行車発進お知らせ機能
- 誤発進抑制機能★
- オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★
- 標識認識機能★
- 標識連動型スピードリミッター★
- 車線逸脱警報（LDWS）
- レーンキープアシスト★
- ふらつき警報
- 可変配光型ランプ★

次の先進運転支援システムは、レーダーセンサーの一時停止時や異常時に作動停止します。
・ブラインドスポットモニター★

カメラやレーダーセンサーの一時停止時や異常時には、以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

フロントカメラー時停止警告



以下の場合にメーターディスプレイに表示され、カメラが一時停止します。

【表示される状況】
・カメラのレンズが汚れているとき
・フロントガラス（内側または外側）が汚れているとき
・カメラの前方が物体に遮られているとき
・カメラが高温もしくは低温になっているとき
・カメラへの供給電圧が低下したとき

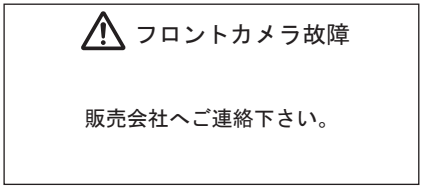
【対処方法】
・カメラのレンズが汚れているときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください
・フロントガラス（内側または外側）を清掃してください
・遮蔽している物を取り除いてください
・カメラが使用可能な温度に到達するのを待ってください
・カメラが使用可能な電圧に到達するのを待ってください

以上の対処を行ったにもかかわらずメーターディスプレイに表示されているときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- ステレオカメラの視差が出にくい状況（暗闇・逆光・強い日差し・雨・積雪・霧など）では、「フロントカメラー時停止」が表示されることがあります。
- 雪道走行時には、フロントガラスへの着雪によりメーターディスプレイに繰り返し「フロントカメラー時停止」が表示されることがありますが故障ではありません。
- 以下の場合、カメラが一時的に停止していても「フロントカメラー時停止」は表示されない場合があります。
  - 車速が 15km/h 以下のとき
  - 旋回動作により対象物の動きを認識できない場合
  - 車速 15km/h 以上で雨・雪等による視界不良により対象物が認識しにくい場合

フロントカメラ故障警告

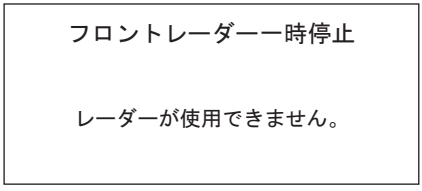


カメラのシステム故障時にメーターディスプレイに表示されます。

【表示される状況】
システムが故障したとき

【対処方法】
最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください

レーダー一時停止警告★

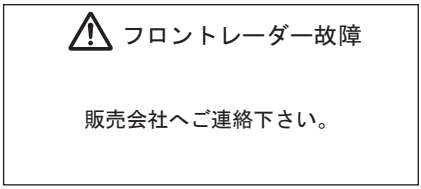


以下の場合にメーターディスプレイに表示され、レーダーセンサーが一時停止します。問題が発生したレーダーセンサーの位置に応じて「フロント / 右側 / 左側レーダー一時停止」のいずれかが表示されます。

【表示される状況】
・レーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき

【対処方法】
・レーダーセンサーが使用可能な温度に到達するのを待ってください
以上の対処を行ったにもかかわらず表示が消えないときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

レーダー故障警告★

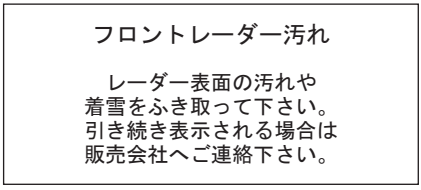


レーダーセンサーのシステム故障時およびレーダーセンサーの関連装置に異常があるとき、メーターディスプレイに表示されます。
問題が発生したレーダーセンサーの位置に応じて「フロント / 右側 / 左側レーダー故障」のいずれかが表示されます。

【表示される状況】
- システムが故障したとき
- バッテリーの電圧が規定より下がっているときや、上がっているとき

【対処方法】
バッテリーの電圧が正常か確認してください。
正常であるにもかかわらず表示が消えないときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

レーダー汚れ警告★



以下の場合にメーターディスプレイに表示されます。
問題が発生したレーダーセンサーの位置に応じて「フロント / 右側 / 左側レーダー汚れ」のいずれかが表示されます。

【表示される状況】
- フロントまたは左右のレーダーセンサーが汚れているとき
- 雪道、もしくは周囲に何もない環境を長時間走行したとき

【対処方法】
レーダーセンサー付近の汚れや水滴、着雪等をふき取ってください。
以上の対処を行ったにもかかわらず表示が消えないときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

マスター警告灯



参照ページ
3-40 マスター警告灯

プリクラッシュブレーキ（PCB）

本システムは、カメラにより追突を避けられない物体、主に車両を前方に検知した場合に、自動的にブレーキを作動させ衝突時の被害を軽減するシステムです。
また、交差点での右左折時にドライバーのブレーキ操作をアシストし、横断する歩行者との衝突の危険性を低減します。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

⚠ 警 告

- プリクラッシュブレーキシステムの限界
  - プリクラッシュブレーキシステムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し安全運転を行ってください。
- 安全にお使いいただくために
  - 積荷がかたよっていて（極端な片荷、前荷、後荷）、極端に車両姿勢が傾いている場合や周囲の道路状況によっては、前方の物体を正しく検知できないことや、路側の物体を誤って検知することがあります。このような状況では有効に機能しないことがあります。
  - プリクラッシュブレーキシステムは、運転操作を補い衝突を回避したり、安全に停止するものではありません。本システムを過信せず安全運転を心掛けてください。
- 下記の事項を行い車両姿勢に変化がある場合には、特別な処置が必要になりますので《日産販売会社》にご相談ください。正しい処置をしないで運転された場合、プリクラッシュブレーキシステムが正常に作動しなかったり、誤作動したりするおそれがあります。
  - タイヤのサイズを変更した場合
  - リーフスプリングを交換した場合

注 意

- 以下のような場合は、プリクラッシュブレーキを解除してください。
  - 牽引されるとき
  - キャリアカーに積載されるとき
  - フェリー乗船時や船舶内を走行するとき
  - 車検時などで、スピードテスターおよびブレーキテスターなどを使用するとき
  - カメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

参照ページ
5-17 プリクラッシュブレーキシステムの設定

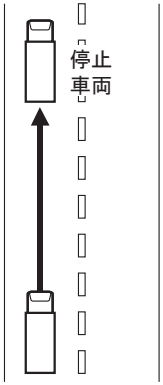
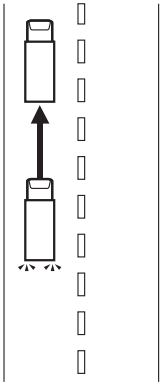
知 識

- PCB は Pre-Crash Brake（プリクラッシュブレーキ）の略です。

プリクラッシュブレーキシステムの作動

プリクラッシュブレーキシステム作動の流れを示します。

直進時の作動

①注意喚起時	②緊急ブレーキ作動時
前方に障害物を検知し、警報を鳴らし注意喚起を行う。	さらに車間距離が接近すると、衝突の可能性が高いと判断し、自動的に緊急ブレーキが作動します。
	
メーターディスプレイ表示 車間距離警報 ブレーキ！！	**メーターディスプレイ表示** ブレーキ！！
警報音 ピピピッ ピピピッ …（連続）	**警報音** ピピピピピ …（連続）
制動灯 消灯	**制動灯** 点灯

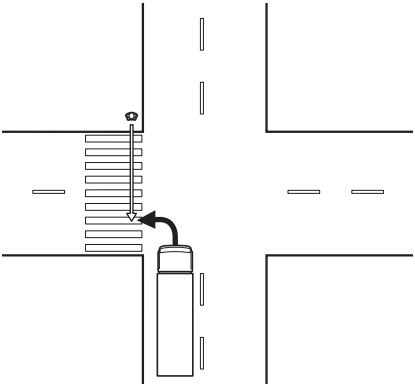
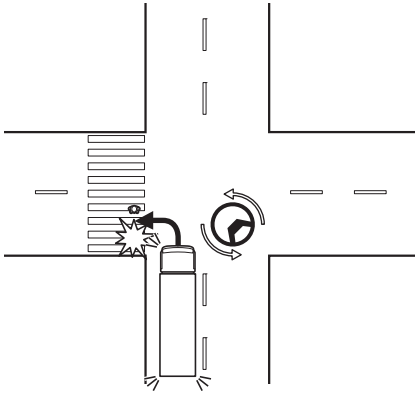
注 意

- 先行車を追い越す時に警報が作動した場合は、それ以上先行車に接近しないでください。さらに接近すると急制動がかかる場合があります。

知　識

- プリクラッシュブレーキ作動により制御による音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

右左折時の作動★

①注意喚起時	②緊急ブレーキ作動時
右左折時に横断する歩行者を検知し、警報を鳴らし注意喚起を行う。	さらに歩行者との距離が接近すると、衝突の可能性が高いと判断し、自動的に緊急ブレーキが作動します。
	
メーターディスプレイ表示 ⚠ 車間距離警報 ブレーキ！！	**メーターディスプレイ表示** ブレーキ！！ ⚠
警報音 ピピピッ ピピピッ …（連続）	**警報音** ピピピピピ …（連続）
制動灯 消灯	**制動灯** 点灯

知　識

- プリクラッシュブレーキ作動により制御による音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

プリクラッシュブレーキシステムの作動条件

プリクラッシュブレーキシステムの作動条件は、直進時と右左折時で異なります。

直進時の作動条件

直進時は、以下のすべてが成立したときに作動可能となります。
- スタータースイッチが『ON』位置のとき
- プリクラッシュブレーキ設定が『OFF』になっていないとき
- 約 10km/h 以上で前進しているとき
- メーターディスプレイに「フロントカメラ故障」・「フロントカメラ一時停止」が表示されていないとき
- PCB OFF 表示灯が点灯していないとき

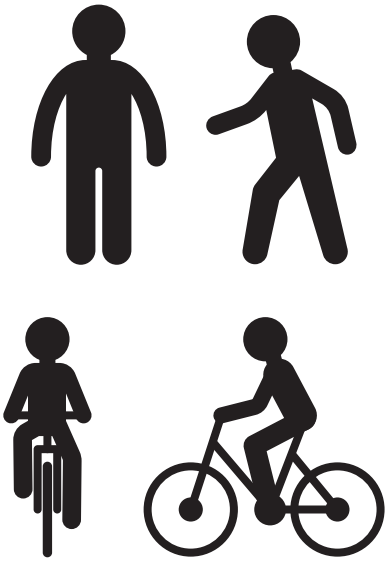
参照ページ
5-17 プリクラッシュブレーキシステムの設定
5-19 プリクラッシュブレーキシステムが正常に作動しないとき

右左折時の作動条件

右左折時は、以下のすべてが成立したときに作動可能となります。
- スタータースイッチが『ON』位置のとき
- プリクラッシュブレーキ設定が『OFF』になっていないとき
- 方向指示器が点灯しており、車速が約 10 ～ 20km/h の場合
- 自車進行方向の反対側から歩行者が接近しているとき
- メーターディスプレイに「フロントカメラ故障」・「フロントカメラ一時停止」が表示されていないとき
- PCB OFF 表示灯が点灯していないとき

参照ページ
5-17 プリクラッシュブレーキシステムの設定
5-19 プリクラッシュブレーキシステムが正常に作動しないとき

歩行者・自転車認識



プリクラッシュブレーキシステムは、対象物の大きさや形状、動きから歩行者や自転車の認識を行っています。
歩行者の頭部と両肩の輪郭が明確で、左右のバランスが対称である場合に認識します。

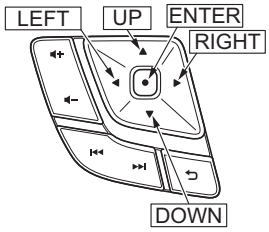
⚠ 警 告

- プリクラッシュブレーキは、必ず歩行者や自転車利用者を認識できるわけではありません。
  以下のような状況では、歩行者や自転車を認識できない可能性があります。
  - 集団で歩いている
  - 壁際や別の障害物のそばにいる
  - 傘などをさしている
  - 背景と似た色合いで風景に溶け込んでいる
  - 大きな荷物を持っている
  - 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっている
  - 暗い場所にいる
  - 横からの急な飛び出し
  - 自転車が子供用、大きな荷物を載せている、複数人乗りなど、特殊な形状をしている
  - 高さが 1m 以下、または 2m 以上
  - 歩行者や自転車利用者が、レインコートやロングスカートなどを着用しており体の輪郭がはっきりしない
  - 歩行者や自転車利用者が高速で移動している
  - 歩行者がベビーカーや車いす、自転車などを押している

プリクラッシュブレーキシステムの設定

プリクラッシュブレーキシステムの ON/OFF

メーターディスプレイの「車両設定」画面から、プリクラッシュブレーキの ON/OFF を切り替えることができます。



1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「プリクラッシュブレーキ」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』を押し、プリクラッシュブレーキの ON/OFF を切り替えます。『ENTER』で決定します。

知 識

- プリクラッシュブレーキはエンジン始動後、常に『ON』になります。

PCB OFF 表示灯



プリクラッシュブレーキ設定を『OFF』にすると点灯します。また、プリクラッシュブレーキシステム故障によりプリクラッシュブレーキを停止した場合にも点灯します。

知　識

- エンストしたとき、エンジンを再始動すると PCB OFF 表示灯が一瞬点灯することがありますが故障ではありません。

プリクラッシュブレーキシステムの作動停止と自動解除

プリクラッシュブレーキシステムは次の場合、作動しない、もしくは自動的に解除します。このときに衝突の危険があっても本システムは作動しません。

- ターンシグナルスイッチを操作したとき（交差点右左折時、または緊急制動中を除く）
- アクセルペダルを離した後、すぐに強く踏み込んだとき
- ブレーキペダルを踏んだとき（緊急制動中を除く）
- プリクラッシュブレーキシステムの異常を検知したとき
- エンジン始動後、約 10 秒間
- エンジン始動後、エンジンを停止するまでに 3 回プリクラッシュブレーキシステムが作動した場合

知　識

- エンジン始動後、3 回プリクラッシュブレーキシステムが作動して、プリクラッシュブレーキシステムが自動解除された場合、メーターディスプレイに「フロントカメラー時停止」が表示されます。エンジンを再始動すると、プリクラッシュブレーキシステムは『ON』になります。

プリクラッシュブレーキシステムが正常に作動しないとき

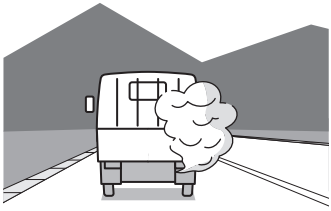
プリクラッシュブレーキは先進運転支援システムの１つです。システムに異常があると正常に作動しません。また、必ず車両や二輪車、歩行者を認識できるわけではありません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき
5-16 歩行者・自転車認識

次のような場合、プリクラッシュブレーキシステムが正常に作動しないことがあります。
- きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面を走行するとき
- 交差点などで、急な飛び出しがあったとき
- 走行中に急な割り込みがあったとき
- 荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）前方障害物の検知がしにくいとき
- 車が不安定（横滑りなど）な走行状態になっているとき
- 大きなハンドル操作を行っているとき
- 急なハンドル操作を行ったとき
- サスペンションに異常があるとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- ヘッドランプ照射外に車両や歩行者などが存在するとき
- 強い光（太陽光などの逆光やハイビーム）を前方から受けたとき
- 前方車両の最後面を認識しづらいとき（荷台にあおりがない空荷のトラック、積荷がはみ出しているトラック、車高が低い・特殊な形状の車両など）
- 雪などによってカメラが遮蔽されていても、その範囲が狭く、カメラがそれを遮蔽と認識できないとき（このとき、カメラは遮蔽されている部分を撮影できないため、その部分の画像を認識することはできません）
- 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

次のような場合、衝突の可能性がなくてもプリクラッシュブレーキシステムが作動することがあります。
- 走行中の先行車両と急接近したとき
- 歩行者が急な方向転換を行ったとき
- 直線からカーブや曲がり角へ進入する際に、正面に障害物があるとき
- きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- 路肩がほとんど無く、ガードレールや防風壁のような構造物の直近を走行するとき

- 狭いトンネルや、鉄橋、ガードの下、高速道路の料金所、ETC ゲートを通過するとき（ETC ゲートは 20km/h 以下でゆっくり通過してください）
- サスペンションに異常があるとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 荒天下（大雪・吹雪など）のとき
- 水蒸気や煙の中を通過するとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 寒いときなどで、先行車の排気ガスがはっきり見えるとき



次のような場合、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

- ブレーキ部品が極端に冷えている、過熱している、または濡れているなどの理由で、ブレーキ性能が十分に発揮できないとき
- ブレーキ部品やタイヤの摩耗、空気圧などの車両の整備状態が良好でないとき
- 滑りやすい路面や砂利道を走行しているとき
- 交差点の形状が特殊なとき

車間距離警報

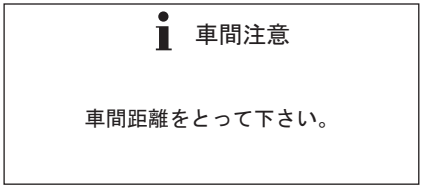
カメラを使用して自車線上の先行車との車間距離を測定し、先行車に接近しすぎたときに警報音やメーターディスプレイ表示で運転者に注意を促すシステムです。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

⚠ 警 告

- **車間距離警報は、運転者の心理的負担を軽減することを目的とし、緊急ブレーキを要するような衝突回避をするシステムではありません。運転するときは常に周囲の状況に注意し安全運転を行ってください。**

車間距離警報の作動



車間距離警報は、走行を開始すると前回設定された音量と警報距離で作動開始し、走行している間、作動しつづけます。
先行車に接近し、運転者のブレーキ操作が必要なときは、メーターディスプレイに「車間注意」が表示され、ブザー『ピピピッ』が鳴ります。

⚠ 注 意

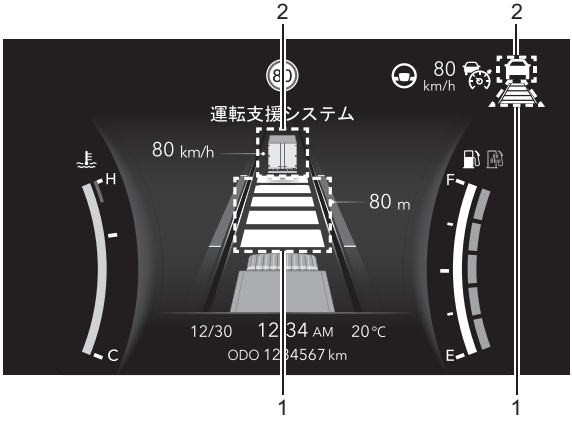
- **先行車を追い越す時に警報が作動した場合は、それ以上先行車に接近しないでください。さらに接近すると急制動がかかる場合があります。**
- **車間距離警報は、以下のときには表示および警報音は鳴りません。**
  - **ブレーキペダルを踏んでいるとき**
  - **自車が停車しているとき**
  - **先行車が自車両に向かってくるとき**
  - **車間距離が遠すぎて先行車両を特定できないとき**
  - **自車が先行車に接近していないとき**
  - **急カーブを走行しているとき**
  - **自車がバックしているとき**

参照ページ
5-24 車間距離警報が正常に作動しないとき

車間距離警報の警告・表示

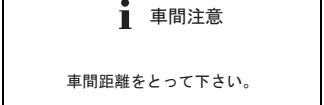
車間距離警報のメーターディスプレイの表示内容

メイン表示エリアの表示は、「先進運転支援システム表示」を選択しているときに確認できます。



No.	名　称	表示内容
1	先行車車間距離	先行車との車間距離を表示します
2	先行車検知状態	先行車の検知状態を表示します

また、車間距離警報中は、状況に応じ以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

表示名	メーターディスプレイ表示		表示内容
	メイン表示エリア	運転支援表示エリア	
車間距離警報作動中 [先行車あり]	—		先行車を検知している場合の車間距離警報作動中
車間距離警報作動中 [先行車なし]	—		先行車を検知していない場合の車間距離警報作動中
車間注意			先行車との車間距離が詰まりすぎているとき

車間距離警報の警報音

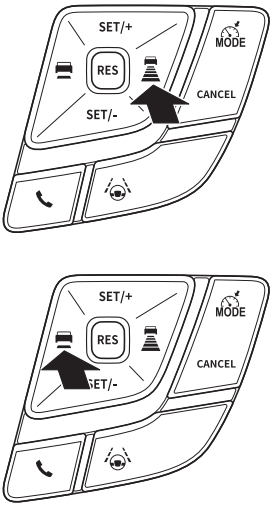
車間距離警報作動中は、メーターから以下の警報音が鳴ります。

名　称	警報音	内　容
操作拒絶音	ピピッ	運転者の操作を受け付けられなかった。
操作音	ピッ	運転者の操作を受け付けた。
故障音	ピピッ	システムの故障を検知した。
車間距離警報音	ピピピッ	車間距離警報が作動した。

車間距離警報の設定

希望の車間にセットするとき

車間設定スイッチ



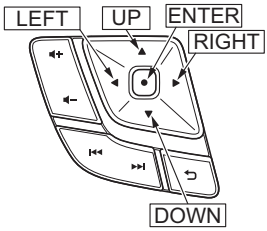
車間設定スイッチの 側（車間を開けたい場合）、 側（車間を縮めたい場合）を押すとそれぞれ車間設定を遠い側、近い側に調整することができます。

知　識

- 車間設定スイッチを操作すると、スイッチ操作音『ピッ』が鳴ります。
- 車間設定が最小のときにさらに 側の操作をしたとき、および車間設定が最大のときにさらに 側の操作をしたときは、通常のスイッチ操作音ではなく、操作拒絶音『ピピッ』が鳴ります。
- 先行車との速度差によって、警報が発生する距離は変化します。
- 車間距離警報はエンジン始動後、前回スタータースイッチを『LOCK』位置にしたときの設定になります。

警報音量を調整するとき

メーターディスプレイの「車両設定」画面から、車間距離警報の警報音量を調整することができます。





1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「車間距離警報」→「音量調整」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』を押し、『ENTER』で決定します。音量は「消」(消音)、「小」、「中」、「大」の 4 段階で調整できます。

知 識

- 全車速車間クルーズ付車は、音量が「消」のときにオートクルーズまたは全車速車間クルーズを使用すると音量は「大」に変更されます。

車間距離警報が正常に作動しないとき

車間距離警報は先進運転支援システムの 1 つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

ブラインドスポットモニター★

ブラインドスポットモニターは、レーダーセンサーを使用して周囲の移動物の存在を運転者に知らせることにより、交差点進入時、右左折時、発進時の前方確認★を支援するシステムです。
移動物の接近状態に応じてフロントピラー部の BSM 表示灯や警報音、メーターディスプレイ表示でドライバーに注意を促します。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

警 告

- **本システムは、運転者の前方確認を支援するシステムです。右左折確認や交差点進入の可否を判断したり、車両や障害物との接触を回避するものではありません。本システムを過信せず安全運転を心掛けてください。**
- **状況によっては、システムが作動しないことがあるため、運転時の安全確認の際は、必ず周囲を目視で確認してください。システムを過信すると重大な事故につながるおそれがあります。**

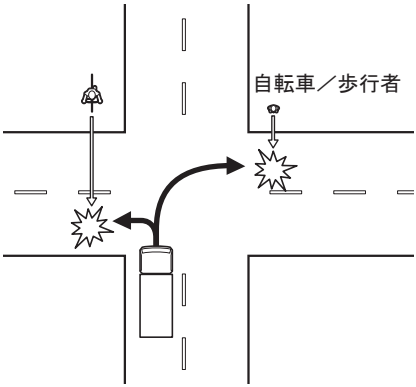
知 識

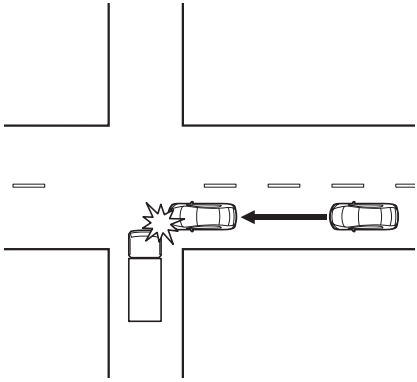
- BSM は Blind Spot Monitor（ブラインドスポットモニター）の略です。

ブラインドスポットモニターの作動

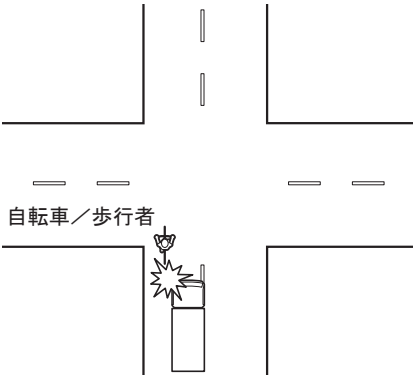
ブラインドスポットモニター作動の流れ

ブラインドスポットモニター作動の流れと警報内容を示します。

①交差点警報（右左折時）	
	
交差点右左折時、道路右側もしくは左側前方から接近する歩行者や自転車との衝突を防止するため、運転者に警報を行います。	
警報対象	自転車、歩行者
自車速度	約 4 ～ 22km/h
警報対象の速度	約 5 ～ 20km/h

②交差点警報（出会い頭時）	
	
見通しの悪い交差点で、左右から接近する車両との衝突事故防止のため、運転者に警報を行います。	
警報対象	バイク、自動車
自車速度	約 0 ～ 10km/h
警報対象の速度	約 20 ～ 60km/h

③フロントブラインドスポットモニター★



車両前方の死角を移動する歩行者や自転車との衝突を防止するため、運転者に警報を行います。

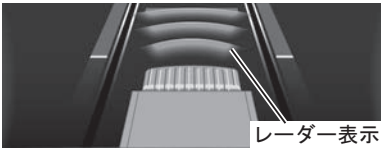
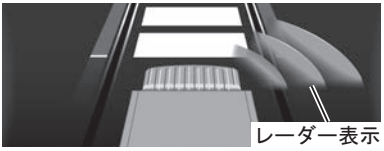
警報対象	自転車、歩行者
自車速度	0 ～ 10km/h
警報対象の速度	自転車：0~10km/h 歩行者：3~5km/h

知　識

- ブラインドスポットモニターは静止物に対して警報しません。
- ブラインドスポットモニターは後退時には警報しません。

ブラインドスポットモニターのメーターディスプレイ表示内容

ブラインドスポットモニターの作動時、以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

メーターディスプレイ表示	内容
	警報対象が左前方にいるとき
	警報対象が前方にいるとき★
	警報対象が右前方にいるとき

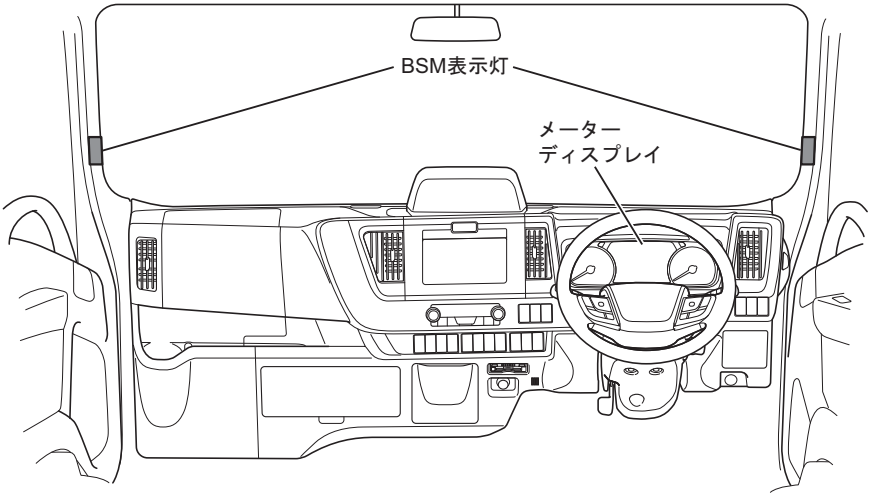
レーダーセンサーが移動物を検知すると、レーダー表示（橙）が表示されます。
衝突の可能性が高まると、レーダー表示（赤）で警報します。

知　識

- ブラインドスポットモニターが作動すると、メーターディスプレイのメイン表示エリアに表示される画面が、レーダー表示に自動で切り替わります。

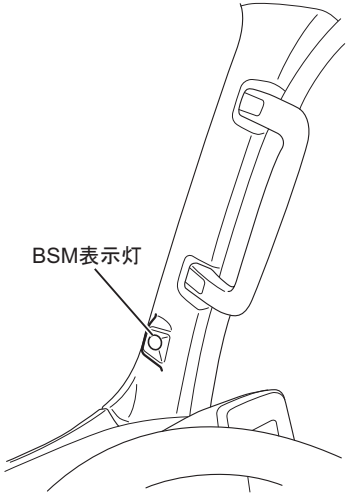
BSM 表示灯

レーダーセンサーが検知範囲内で移動物を検知したときに BSM 表示灯が点灯します。さらに衝突の可能性が高まると点滅し、同時に警報音が鳴ります。
BSM 表示灯は、フロントピラー部左右に取り付けられており、移動物の位置・方向に応じて点灯します。



知　識

- 次のような場合は、BSM 表示灯が見えづらくなることがあります。
  - 強い日差しの下にいるとき
  - 後方車両のヘッドランプが照射されたとき
- 移動物が前方にあるときは、BSM 表示灯は点灯しません。



ブラインドスポットモニターの警報音

ブラインドスポットモニターの作動時には以下の警報音が鳴ります。

名称	警報音	内容
ブラインドスポットモニター警報	ピピピッ	衝突の可能性が高いとき

ブラインドスポットモニターの作動条件

以下のすべてが成立したときに作動可能となります。
- スタータースイッチが『ON』位置になっているとき
- BSM OFF 表示灯が点灯していないとき
- フロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が点灯していないとき

知　識

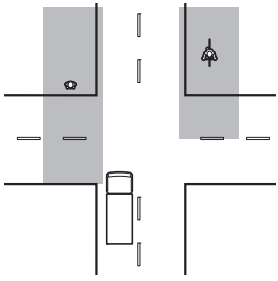
- レーダーセンサーの検知機能が低下すると、システムが一時的に作動を停止し、BSM OFF 表示灯およびフロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が点灯します。状況が改善されても消灯しない場合は、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

参照ページ
5-35 ブラインドスポットモニターが正常に作動しないとき

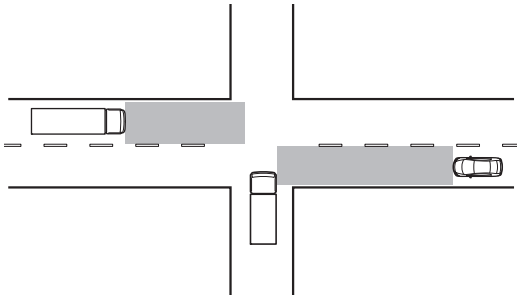
レーダーセンサーの検知範囲

レーダーセンサーは、以下の図に示す範囲の移動物を検知します。

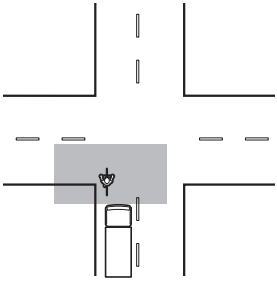
交差点右左折時



交差点直進時



発進時★



ブラインドスポットモニターの警告・表示

ブラインドスポットモニターのメーターディスプレイ表示内容

参照ページ
5-28 ブラインドスポットモニターのメーターディスプレイ表示内容

BSM 表示灯

参照ページ
5-29 BSM 表示灯

BSM OFF 表示灯



ブラインドスポットモニター（交差点警報）に異常があるとき点灯します。
消灯しないときや、スタータースイッチを『ON』位置にしても点灯しないときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

フロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯★



フロントブラインドスポットモニターを OFF にしたときや、フロントブラインドスポットモニターに異常があるとき点灯します。
消灯しないときや、フロントブラインドスポットモニターを OFF にしていなくても点灯するときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

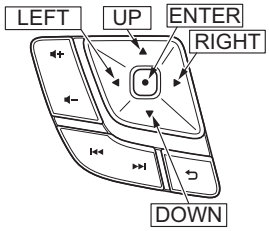
ブラインドスポットモニター機能の ON/OFF

知　識

- ブラインドスポットモニターはエンジン始動後、常に『ON』になります。
- 以下の場合は、システムが一時的に作動を停止し、BSM OFF 表示灯およびフロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が点灯します。状況が改善されても BSM OFF 表示灯およびフロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が消灯しない場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
  - レーダーセンサー付近のコーナーパネルおよびレーダーセンサーカバーに雪、氷、泥が多量についたとき
  - 雪道、もしくは周囲に何もない環境を長時間走行したとき
  - レーダーセンサーの搭載位置に大きなズレが生じたとき

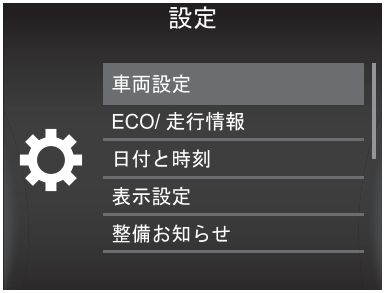
交差点警報の警報機能の ON/OFF

メーターディスプレイの「車両設定」画面から、交差点警報の警報機能の ON/OFF を切り替えられます。警報機能を OFF にすると、衝突の危険性が高まった場合でも BSM 表示灯の点滅や警報音、およびメーターディスプレイのレーダー表示（赤）での警報は行いません。



1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「側方監視」→「交差点警報」の順に選択します。
3. 『UP』または『DOWN』を押し、交差点警報の警報機能の ON/OFF を切り替えます。『ENTER』で決定します。

知　識

- システムが一時的に作動を停止しているとき、メーターディスプレイによる ON/OFF の切り替えができない場合があります。
- 警報機能を OFF にした場合でも、レーダーセンサーが検知範囲内で移動物を検知したとき、BSM 表示灯の点灯およびメーターディスプレイのレーダー表示（橙）での通知は行います。

フロントブラインドスポットモニターの ON/OFF ★

フロントブラインドスポットモニター OFF スイッチ



フロントブラインドスポットモニター OFF スイッチを長押し（約 1 秒）するとフロントブラインドスポットモニターが作動しなくなります。このときフロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が点灯します。『ON』にしたいときはフロントブラインドスポットモニター OFF スイッチを短押しします。フロントブラインドスポットモニターが復帰し、フロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯が消灯します。

フロントブラインドスポットモニター OFF 表示灯



ブラインドスポットモニターが正常に作動しないとき

ブラインドスポットモニターは先進運転支援システムの１つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

次のような状況では、レーダーセンサーの検知機能が低下し、ブラインドスポットモニターが正常に作動しない可能性があります。
- レーダーセンサーやレーダーセンサー周辺への強い衝撃により、レーダーセンサーの位置や向きがずれたとき
- レーダーセンサー付近の部品が変形、損傷したとき
- レーダーセンサーやレーダーセンサー周辺に、泥、雪、氷などが付着したとき
- 悪天候のとき（雨・霧・雪など）
- レーダーセンサー付近の温度が非常に高温になったとき
- 車両が極端に傾いているとき
- 自車と検知範囲に入る物体に高低差があるとき
- 急勾配の坂道を走行しているとき
- バッテリーの電圧が規定より下がっているときや、上がっているとき
- レーダーセンサーおよびレーダーセンサーカバーを塗装したとき
- タイヤサイズを変更したとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき
- 隣接する車両に搭載されたレーダーセンサーなどの電波源から電波干渉を受けているとき

次のような警報対象物に対しては、レーダーセンサーの検知範囲であっても検知しないか、もしくは検知しづらいことがあります。
- レーダーセンサーの電波が反射しにくい形状の車両（スポーツカー等）
- 検知範囲内を自車とほぼ同じ速度で走行している歩行者、自転車、バイク、自動車
- 障害物や路側から飛び出す歩行者、自転車、バイク、自動車

周囲の環境によっては、対象物がない状態でもブラインドスポットモニターの警報が作動することがあります。

次のような状況では、衝突の危険がなくてもブラインドスポットモニターが作動する場合があります。
- 標識や駐停車している車両のそばを走行するとき
- 自車との距離が近いガードレールやコンクリート壁、フェンスがあるとき
- 自車と交差する進路に向かう移動物が減速し、停止したとき
- 自車停止中に自車方向に旋回している移動物があるとき
- 先行車に接近した場合に、レーダーセンサーが先行車を自転車と誤認したとき
- 交差点右左折時に、道路端の構造物に対して接近したとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザー音とメーターディスプレイ表示で運転者にお知らせします。
先行車に続いて停車（車間距離が約 14 m 以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約 5 m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

⚠ 警 告

- **先行車発進お知らせ機能の限界**
  - **先行車発進お知らせ機能を過信しないでください。発進時は周囲の状況に注意し、十分に安全を確認してください。**
- **先行車発進お知らせ機能は信号および道路標識を確認する機能を備えていないため、信号及び道路標識に従い安全運転を心掛けてください。**

先行車発進お知らせ機能の作動

先行車発進表示



除く全車速車間クルーズ走行中
先行車が発進して約 5 m 以上進んでも自車が発進しないとき、メーターディスプレイに「先行車発進」が表示され、ブザー『ピッ』が鳴ります。

全車速車間クルーズ走行中
先行車に追従して停止した後、先行車が発進すると、メーターディスプレイに「先行車発進」が表示され、ブザー『ピッ』が鳴ります。リジュームスイッチを操作するか、アクセルペダルを踏んで車を発進させます。

参照ページ
5-45 誤発進抑制機能が正常に作動しないとき
5-50 追従停止後に再発進するとき

先行車発進お知らせ機能の警告・表示

先行車発進お知らせ機能のメーターディスプレイ表示内容

先行車発進お知らせ機能の作動時には以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

表示名	メーターディスプレイ表示		表示内容
	メイン表示エリア	運転支援表示エリア ※	
先行車非検知	—		先行車を検知していないとき
先行車検知	—		先行車を検知したとき
先行車発進	先行車発進		停止時、先行車が発進したが自車が発進しないとき

※： 先行車アイコンは、全車速車間クルーズ、車間距離警報、またはプリクラッシュブレーキ作動中のみ表示されます。

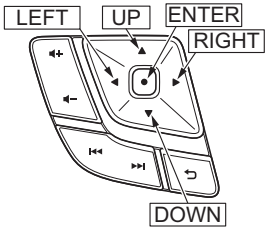
知 識

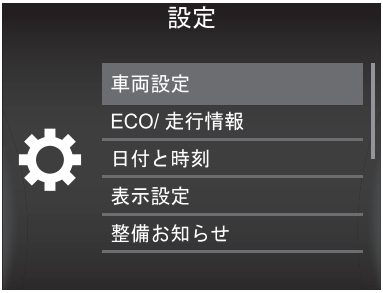
- 先行車検知時または非検知時に『ピッ』とブザーが鳴ります。先行車検知音の設定はメーターディスプレイで変更できます。

参照ページ
5-39 先行車検知音の設定

先行車発進お知らせ機能の設定

先行車発進お知らせ機能の ON/OFF





メーターディスプレイスイッチで先行車発進お知らせ機能の ON/OFF を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

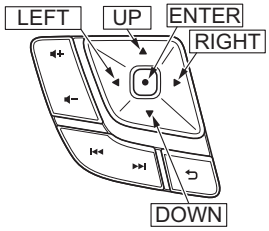
参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「先行車関連機能」→「発進お知らせ設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で ON/OFF を選択し、『ENTER』で決定します。

知　識

- 先行車発進お知らせ機能はエンジン始動後、前回スタータースイッチを『LOCK』位置にしたときの設定になります。

先行車検知音の設定





メーターディスプレイスイッチで先行車検知時の音を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「先行車関連機能」→「検知音設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で「OFF」、「検知時」、「検知および非検知時」から設定内容を選択し、『ENTER』で決定します。

先行車発進お知らせ機能の作動停止

先行車発進お知らせ機能は、次の場合作動しません。このとき先行車が発進しても、本システムは作動しません。

- メーターディスプレイの設定画面で先行車発進お知らせ機能を解除したとき
- シフトレバーを『R』位置にしたとき
- パーキングブレーキを効かせたとき
- ドライバーがアクセルペダルを踏む、またはギアイン操作をして発進操作をしたとき

先行車発進お知らせ機能が正常に作動しないとき

先行車発進お知らせ機能は先進運転支援システムの 1 つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が作動することや、先行車が発進していても機能が作動しないことがあります。
・停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき
・荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）先行車の検知がしにくいとき
・きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
・ステレオカメラが先行車を認識しなくなったとき

誤発進抑制機能★

停車中に車両の前方に障害物を認識している状態で、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したときに、エンジン出力を制限し発進を緩やかにすることで、衝突時の被害を軽減するシステムです。
急な坂道では作動しません。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

⚠ 警 告

- **誤発進抑制機能の限界**
  - **誤発進抑制機能を過信しないでください。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。**
- **誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。**
- **誤発進抑制機能はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。**
- **誤発進抑制機能は前方に障害物を認識している場合に作動します。崖など対象物が見えない状況では作動しません。**
- **故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を誤発進抑制機能のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。**
- **万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を障害物と認識し、誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、キャンセルスイッチを押して誤発進抑制機能の作動を解除してください。**
- **お客様ご自身で誤発進抑制機能の作動テストを行わないでください。周囲の状況によっては誤発進抑制機能が作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

- 次のような場合は、必ず誤発進抑制機能を『OFF』にしてください。
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき
  - 河川敷や生い茂った草むらや立木の中を走行するとき

参照ページ
5-42 誤発進抑制機能の設定

誤発進抑制機能の作動

前方注意警告

前方注意



停車中もしくは低速走行中（10km/h 以下）に、カメラが車両前方の障害物を認識している状態で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、エンジン出力を制限します。
また、メーターディスプレイに「前方注意」が他の表示に優先して表示されます。このとき、ブザー『ピピピピピ …（連続）』が鳴ります。

参照ページ
5-45 誤発進抑制機能が正常に作動しないとき

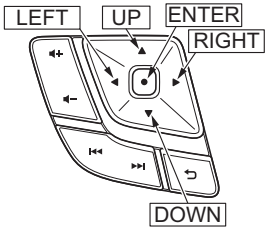
知　識

- 誤発進抑制機能の作動中に解除する場合は、キャンセルスイッチを押してください。

参照ページ
5-43 誤発進抑制機能の一時解除

誤発進抑制機能の設定

誤発進抑制機能の ON/OFF





メーターディスプレイの「車両設定」画面から、誤発進抑制機能の ON/OFF を切り替えることができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

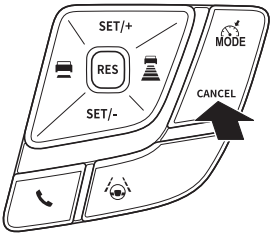
参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「誤発進抑制機能」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』を押し、誤発進抑制機能の ON/OFF を切り替えます。
   『ENTER』で決定します。

知　識

- 車両設定で『OFF』にした場合でも、エンジン再始動時には再び誤発進抑制機能が『ON』になります。

誤発進抑制機能の一時解除



誤発進抑制機能が作動しているときにキャンセルスイッチを押すと、誤発進抑制機能が『OFF』になります。『OFF』のまま走行し、アクセルペダルを離すと誤発進抑制機能が自動的に復帰します。

注 意

- **キャンセルスイッチは、誤発進抑制機能の作動中に、一時的に機能を『OFF』にするものです。車両運行中の間、機能を『OFF』にする場合は、メーターディスプレイで設定してください。**

参照ページ
5-42 誤発進抑制機能の設定

誤発進抑制機能の作動停止と自動解除

誤発進抑制機能は次の場合、作動しない、もしくは自動的に解除します。このときに衝突の危険があっても本システムは作動しません。

- メーターディスプレイの設定で『OFF』にしたとき
- キャンセルスイッチを押して、誤発進抑制機能を解除したとき
- アクセルペダルを離したとき
- ターンシグナルスイッチを操作したとき
- 大きなハンドル操作を行ったとき
- エンジン始動後、約 10 秒間
- 急な上り坂や下り坂で発進や低速走行するとき
- システムが故障したとき
- シフトレバーを『P』、『R』または『N』位置にしたとき

「加速制限中」がメーターディスプレイに表示されたとき



次の場合に誤発進抑制機能が自動的に解除されると、車が急に発進する場合があります。これを防ぐため、エンジン出力が一時的に制限されますが、徐々に元に戻ります。このとき、メーターディスプレイに「加速制限中」と表示されます。

- システムが一時的に故障したとき
- アクセルペダルを 3 秒以上踏み続けたとき
- 機能作動中に車速が約 20km/h を超えたとき
- 先行車が自車から離れたとき
- 先行車がいなくなったとき
- 先行車が別の新しい先行車と入れ替わったとき

誤発進抑制機能が正常に作動しないとき

誤発進抑制機能は先進運転支援システムの１つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

次の条件の違いにより、誤発進抑制機能が作動しないことがあります。
- 障害物との距離、速度差、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- ステレオカメラの認識状態

次のような場合、誤発進抑制機能が特に作動しない可能性が高くなります。
- 荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）前方障害物の検知がしにくいとき
- 砂や煙などで視界が十分でないとき
- 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
- 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
- ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
- 強い光（太陽光などの逆光やハイビーム）を前方から受けたとき
- フロントガラスに曇りや雪、霜、土埃などが付着しているとき
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じているとき
- ウインドーウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
- 雨滴やウインドーウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
- ルーフ上に積載した積載物（はしごなどの長尺物）がステレオカメラの視界を遮っているとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両や小動物、幼児など）
- 障害物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
- しゃがんでいる人や横たわっている人など
- 障害物や前方車両の自車から一番近い面および最後面が小さいとき
- 障害物に接近しすぎたとき
- 障害物から 4m 以上離れているとき
- 障害物がフェンスや模様が均一（縞模様やレンガなど）な壁、または模様が全くない壁、シャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 車両、二輪車、自転車、歩行者などの障害物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 発進時に自車が進路変更を行い、障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
- 重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- 障害物が標識や街灯、電柱、木などポール状のもののとき

・障害物の一部しかステレオカメラの検知範囲内に入っていないとき
・運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたとシステムが判断したとき

次のような場合、衝突の可能性がなくても誤発進抑制機能が作動することがあります。

・駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき
・水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
・荒天（豪雨、吹雪、雪など）のとき
・カーブや交差点に障害物や車両があるとき

オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★

本システムは、走行中のペダル操作を軽減させることで運転操作を支援します。作動中はモードスイッチを長押しすることでオートクルーズモードと全車速車間クルーズモードの切り替えができます。

オートクルーズ

オートクルーズは、走行中にアクセルペダルを踏まなくても車速を一定（約 30 ～ 120km/h）に保って走行することができるシステムです。発進･停止の少ない高速道路などで使用します。

全車速車間クルーズ

カメラを使用して自車線上の先行車との距離と速度差を検知し、適正な車間距離を維持した追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止を行うシステムです。また、先行車がいない場合はセットした車速で定速走行を行うことで、次のような効果が得られます。

・ブレーキ操作低減による運転者の負荷軽減
・波状運転低減による燃費改善
・ 自動的な車間維持および停止、運転者への警報による追突事故低減

本システムは高速道路や自動車専用道路で使用してください。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

⚠ 警 告

- 全車速車間クルーズは衝突を防止するシステムではありません。システムを過信せず、安全運転を行ってください。
- 全車速車間クルーズは、運転操作の一部を支援するもので自動運転装置ではありません。システムを過信せず、安全運転を行ってください。
- 全車速車間クルーズは、以下の機能的な限界による制約があります。システムを過信せず、交通の状況に応じた車間距離をとって安全運転を行ってください。
  - 二輪車等の小さい目標物は検知できない場合があります
  - 道路のカーブの状態、ハンドル操作、あるいは自車の車線内の位置によって、一時的に隣接車線の車や、道路周囲の物体を検知することがあります
  - 上り坂･下り坂では、条件により車間距離を一定に保てない場合があります
  - トンネルや、防音壁など路肩に障害物のある場合は先行車を正しく検知できない場合があります
  - 先行車が信号待ちや渋滞最後尾などで停車している場合は、先行車を正しく検知できない場合があります
- 次のような状況では、危険ですから本システムを使用しないでください。
  - 市街地など交通量の多い道路
  - 急カーブや急な下り坂
  - 凍結路や積雪路などの滑りやすい道路
  - 交通状況により、加速･減速を頻繁に行う必要があるとき
  - 急な下り坂･上り坂の繰り返し
  - 料金所･サービスエリア･パーキングエリアと高速道路との導入路、導出路
- 雨･霧･雪等の悪天候時は交通状況が大きく変化します。ドライバーによる安全運転を行い、全車速車間クルーズおよびオートクルーズは使用しないでください。

⚠ 注 意

【スピードリミッター付車】

- スピードリミッターの設定速度を超える上限速度は設定できません。

参照ページ
4-174 スピードリミッター（速度抑制装置）

★

全車速車間クルーズ / オートクルーズの作動内容

全車速車間クルーズ / オートクルーズは、先行車の有無によって作動が異なります。

参照ページ
5-68 全車速車間クルーズ / オートクルーズが正常に作動しないとき

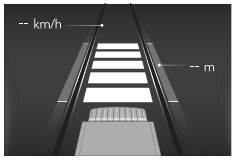
先行車がいないとき

クルーズアイコン





先進運転支援システム専用画面



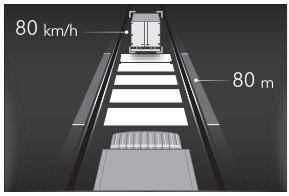
アクセルペダルを踏まなくても、セット車速でオートクルーズ走行を行います。

先行車がいるとき（全車速車間クルーズのみ）

クルーズアイコン



先進運転支援システム専用画面



先行車との間に適正車間を保ちながら、以下のように追従走行を行います。

- 先行車がセット車速より遅いときは、先行車の速度に合わせて自動的に減速します。
- 先行車が停車したときは、先行車に合わせて自車も減速・停車します。
- 先行車の再発進後、再発進操作を行うことで自車も発進し、追従走行を再開します。

先行車を追い越す場合や、車間距離を詰める場合などにアクセルペダルを踏み込むと、ペダル操作が優先されます。このとき、メーターディスプレイのクルーズアイコンが点滅します。
アクセルペダルを戻すとクルーズ状態に復帰し、メーターディスプレイのクルーズアイコンが点滅から点灯に変わります。

知　識

- 先行車の急な減速や他車の直近への割り込みなどで、車間距離が急激に縮まったときは、車間距離警報機能により警報が作動します。フットブレーキを踏んで、安全な車間距離を確保してください。

追従停止後に再発進するとき

先行車に追従して停車した場合は、メーターディスプレイに「停車保持中」が表示されます。

先行車の発進後、以下のいずれかの操作を行うと、全車速車間クルーズの追従走行が再開されます。

- アクセルペダルを軽く踏み込む
- リジュームスイッチを操作する

再発進操作が行われない場合、メーターディスプレイに「先行車発進」が表示され、ドライバーに注意を促します。

ecostop 付車の場合は、先行車に追従して停車したときにアイドリングストップを行います。先行車が発進する、または自車が発進操作を行うとエンジンを再始動します。

アイドリングストップ中に全車速車間クルーズを解除すると、同時にアイドリングストップも解除され、エンジンが再始動します。

参照ページ
4-55 ecostop（エコストップ）★

警 告

- **再発進操作の前に周囲の安全を確認してください。**
- **追従停車中は運転席から離れないでください。**

知 識

- メーターディスプレイに「停車保持中」が表示されているときは、ブレーキが作動し、ブレーキランプが点灯します。このとき、ブレーキペダルを踏みこんでも全車速車間クルーズは解除されません。
- リジュームスイッチの操作で再発進する場合は、先行車との距離が一定以上開かないと発進を行いません。
- メーターディスプレイに「停車保持中」が表示されている状態で全車速車間クルーズが一時的に解除されたときは、停車保持状態は維持されますが、リジュームスイッチによる再発進を行うことはできません。アクセルペダルを踏み込んで車両を発進させてください。また、追従停車中に全車速車間クルーズを解除してから以下の操作を行った場合、停車保持状態は解除されます。
  - アクセルペダルを踏み車両を発進させたとき
  - パーキングブレーキを効かせたとき
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - シフトレバーを操作したとき
  - モードスイッチを押してクルーズ走行モードを切り替えたとき
  - キャンセルスイッチを押したとき
- 先行車に追従して停車したとき、約 3 秒以内に先行車が再発進した場合は、再発進操作を行わなくても追従走行を再開します。

先行車がいなくなったとき（全車速車間クルーズのみ）

先行車に追従走行している状態から先行車がいなくなった場合、セット車速までゆっくりと加速し、通常のオートクルーズ走行を行います。

全車速車間クルーズ走行中の作動例（セット車速 75km/h）

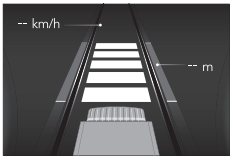
①定速走行 [先行車がいないとき]

セット車速（75km/h）で定速走行

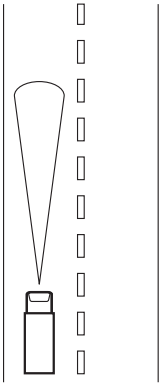
運転支援表示エリア



メイン表示エリア



自車速度
75km/h



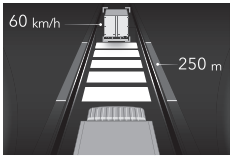
②減速走行 [設定した車速より遅い先行車が現れたとき]

セット車速（75km/h）から先行車の車速（60km/h）まで減速

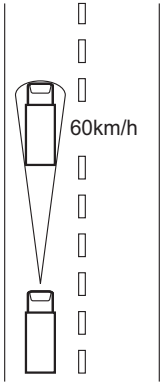
運転支援表示エリア



メイン表示エリア



自車速度
75km/h → 60km/h



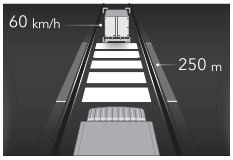
③追従走行［先行車（60km/h）がいるとき］

先行車の車速に応じた車間距離を維持して、先行車の車速に合わせて追従走行

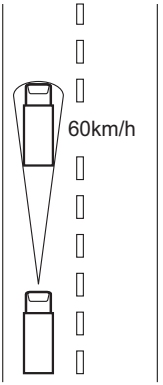
運転支援表示エリア



メイン表示エリア



自車速度
60km/h



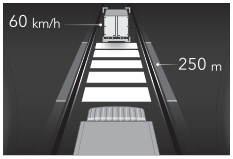
④アクセルペダル優先走行［先行車を追い越すとき］

ペダル操作を優先して加速し、ペダルを放したらセット車速（75km/h）で定速走行

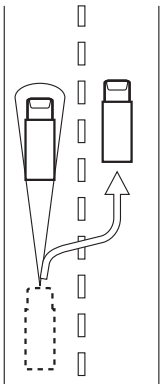
運転支援表示エリア



メイン表示エリア



自車速度
ペダル操作で 75km/h
より速く走行→ 75km/h



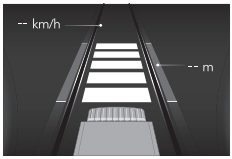
⑤加速走行［先行車がいなくなったとき］

セット車速（75km/h）まで加速して定速走行

運転支援表示エリア



メイン表示エリア

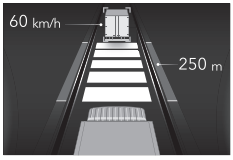


↑

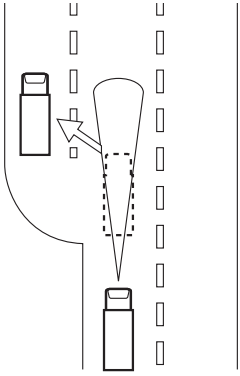
運転支援表示エリア



メイン表示エリア



自車速度
60km/h → 75km/h



⑥追従停止［先行車に追従して停止するとき］

先行車に合わせて自車も減速、停止

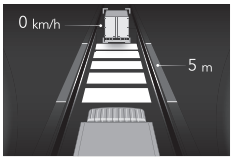
運転支援表示エリア



メーターディスプレイ表示

「停車保持中」

メイン表示エリア

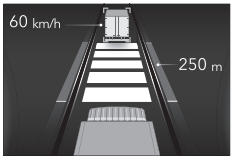


↑

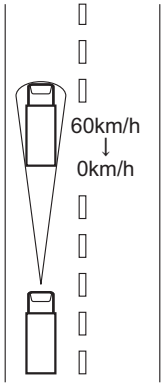
運転支援表示エリア



メイン表示エリア



自車速度
60km/h → 0km/h



⑦停止中

先行車、自車共に停止中

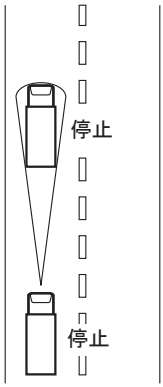
運転支援表示エリア



メーターディスプレイ表示

「停車保持中」

自車速度
0km/h



⑧再発進・追従走行［先行車が発進したとき］

先行車発進後、アクセルペダルを踏むか、リジュームスイッチ操作により自車も発進、追従走行を再開

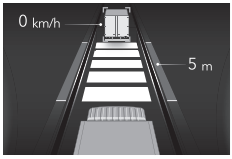
運転支援表示エリア



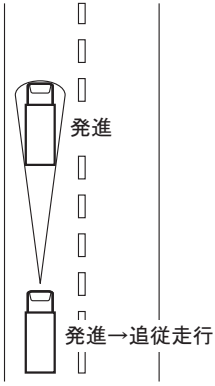
メーターディスプレイ表示

「先行車発進」

メイン表示エリア



自車速度
先行車の車速に合わせて追従



全車速車間クルーズと連動して作動するシステム / 機能

車間距離警報

全車速車間クルーズを使用するときは、車間距離警報も連動して作動します。車間距離警報の音量設定にかかわらず、全車速車間クルーズ中は自動的に音量が「大」になります。

参照ページ
5-20 車間距離警報

⚠ 警 告

- 全車速車間クルーズによる走行中に「車間注意」が表示された場合は、先行車両に接近しすぎて追突するおそれがありますので、ブレーキを操作して交通の状況に応じた車間距離を空けてください。

⚠ 注 意

- 全車速車間クルーズ中の車間距離警報は、以下のときには警報しません。
  - 先行車が自車に向かってくるとき
  - 車間距離が遠すぎて先行車を特定できないとき
  - 自車が先行車に接近していないとき
  - 急カーブを走行しているとき

自動フットブレーキ･補助ブレーキ機能

フットブレーキ･補助ブレーキの自動作動、自動解除

全車速車間クルーズ走行中、フットブレーキや補助ブレーキを自動的に作動させることで、車間距離を適正に保ち、ドライバーの運転負担を軽減します。

⚠ 注 意

- 車両積載状態によっては自動フットブレーキ･補助ブレーキの効きが不足して、十分な減速が得られないことがあります。車間距離が縮まる場合はブレーキペダルを踏んで減速し、適正車間を維持してください。

全車速車間クルーズ中の車線逸脱警報（LDWS）

車線逸脱警報が『OFF』の状態から全車速車間クルーズを開始したときは、車線逸脱警報は自動的に『ON』になります。

参照ページ
5-90 車線逸脱警報（LDWS）

全車速車間クルーズ中のプリクラッシュブレーキ

プリクラッシュブレーキが『OFF』の状態から全車速車間クルーズを開始したときは、プリクラッシュブレーキは自動的に『ON』になります。

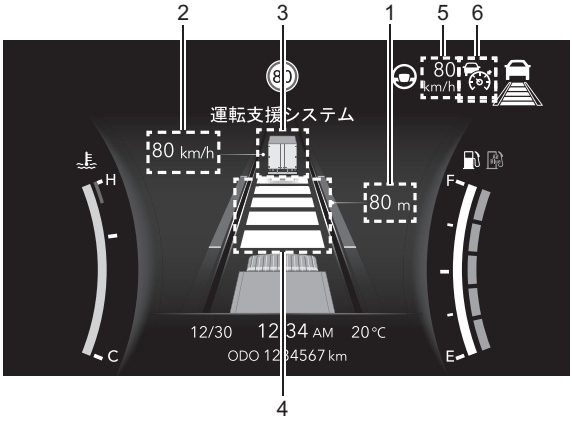
⚠ 注 意

- **全車速車間クルーズ中にメーターディスプレイの設定メニューからプリクラッシュブレーキを『OFF』にすると、全車速車間クルーズが解除されます。**

参照ページ
5-17 プリクラッシュブレーキシステムの設定

全車速車間クルーズ / オートクルーズのメーターディスプレイ表示内容

メイン表示エリアの表示は、「先進運転支援システム表示」を選択しているときに確認できます。



No.	名　称	表示内容
1	先行車車間距離 ※	先行車との車間距離を表示します
2	先行車車速 ※	先行車の車速を表示します
3	先行車検知状態 ※	先行車の検知状態を表示します
	全車速車間クルーズ制御状態 ※	全車速車間クルーズ中に先行車がいた場合、緑色の枠で制御状態を表示します
4	車間距離設定 ※	先行車との車間設定状態を 5 段階で表示します
5	セット車速	オートクルーズの設定車速を表示します
6	クルーズメイン表示	全車速車間クルーズまたはオートクルーズのシステム設定・作動状態を表示します

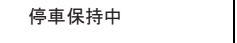
※： 全車速車間クルーズ、車間距離警報、またはプリクラッシュブレーキ作動中のみ表示されます。

知　識

- 先行車に追従走行している場合でも、メーターディスプレイの先行車車速表示とスピードメーターが示す自車速にずれが生じる場合があります。

全車速車間クルーズ / オートクルーズ中は状況に応じ以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

名称	表示画面	表示内容
クルーズモード	一定速クルーズモード クルーズモードが 変更されました。	全車速車間クルーズ / オートクルーズモードに切り替えたとき
	車間クルーズモード クルーズモードが 変更されました。	
クルーズモード OFF	 （灰）	全車速車間クルーズ / オートクルーズモードが OFF になったとき
	 （灰）	
待機	 （白）	全車速車間クルーズ / オートクルーズ待機状態のとき
	 （白）	
クルーズ作動中 ［先行車なし］	 （緑）	・先行車を検知していない場合の全車速車間クルーズ作動中 ・オートクルーズ作動中
	 （緑）	
全車速車間クルーズ作動中 ［先行車あり］ ※	 （緑）	先行車を検知している場合の全車速車間クルーズ作動中

名称	表示画面	表示内容
クルーズ一時解除中（オーバーライド）	 （緑）  （緑）	全車速車間クルーズ / オートクルーズ作動中にアクセルペダルを操作し、クルーズ走行が一時的に解除されたとき（アイコンが点滅します）
クルーズ一時解除中	 （白）  （白）  クルーズ解除 クルーズ制御が解除されました。	全車速車間クルーズ / オートクルーズ作動中にキャンセルスイッチを押し、クルーズ走行が一時的に解除されたとき
車間距離警報表示 ※	 車間注意 車間距離をとって下さい。	• 全車速車間クルーズ制御中に車間距離警報が発せられたとき • 先行車との車間距離が縮まりすぎているとき
停車保持中 ※	 停車保持中	全車速車間クルーズ制御中に、先行車に追従して停止したとき
アイドリングストップ		全車速車間クルーズ制御中に、先行車に追従して停止し、アイドリングストップしたとき
先行車発進 ※	 先行車発進	全車速車間クルーズ制御中に、先行車に追従して停止し、その後先行車が発進したとき

名称	表示画面	表示内容
クルーズ解除	 （灰）	全車速車間クルーズ / オートクルーズ走行を解除したとき
	 （灰）	
	 クルーズ解除 クルーズ制御が解除されました。	

※：全車速車間クルーズ中のみ

全車速車間クルーズ / オートクルーズ中の警報音について

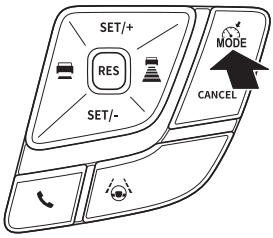
全車速車間クルーズ / オートクルーズ中は、以下の警報音が鳴ります。

名　称	警報音	内　容
操作拒絶音	ピピッ	運転者の操作を受け付けられなかった。
操作音	ピッ	運転者の操作を受け付けた。
故障音	ピピッ	システムの故障を検知した。
車間距離警報音 ※	ピピピッ	車間距離警報が作動した。
解除音	ピピッ	全車速車間クルーズを解除した。

※　全車速車間クルーズ中のみ

全車速車間クルーズ / オートクルーズの開始

走行中に全車速車間クルーズ / オートクルーズを設定するとき



全車速車間クルーズ

車間クルーズモード

クルーズモードが
変更されました。

オートクルーズ

一定速クルーズモード

クルーズモードが
変更されました。

1. モードスイッチを押し、メーターディスプレイに「車間クルーズモード」（全車速車間クルーズ）、または「一定速クルーズモード」（オートクルーズ）が表示されることを確認します。「標識連動型 SLD」が表示された場合は、モードスイッチをもう一度押してクルーズモードに切り替えます。
セット車速登録済みの場合は、このときリジュームスイッチを押すとクルーズ走行が開始されます。

知　識

- モードスイッチを長押しすると、全車速車間クルーズとオートクルーズを切り替えることが出来ます。切替時には『ピッ』と音が鳴ります。なお、クルーズ走行中にはクルーズモードの切替はできません。

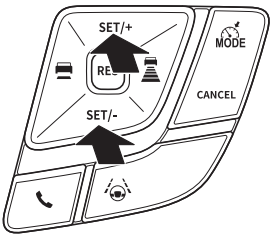
全車速車間クルーズ



オートクルーズ

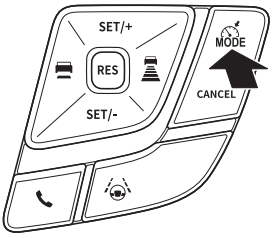


2. アクセルペダルの踏み込みを加減して、希望車速（約 30 ～ 120km/h）にします。車速をセットできる状態になると、メーターディスプレイのクルーズアイコンが白で点灯します。



3. セットスイッチの『+』または『ー』側を押すと車速がセットされ、全車速車間クルーズ走行が開始されます。また、メーターディスプレイにセット車速が表示されます。

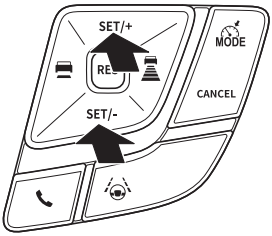
停車中に全車速車間クルーズを設定するとき

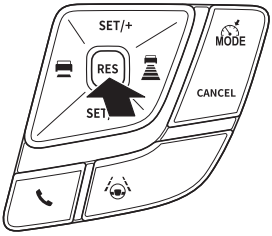


1. モードスイッチを押し、メーターディスプレイに「車間クルーズモード」（全車速車間クルーズ）が表示されることを確認します。「標識連動型 SLD」が表示された場合は、モードスイッチをもう一度押してクルーズモードに切り替えます。



2. 先行車がいる状態でブレーキペダルを踏み込むと、メーターディスプレイのクルーズアイコンが白で点灯します。





3. 以下のいずれかの方法で希望車速をセットします。

- セットスイッチの『+』または『−』側を押すと、車速は 30km/h に設定されます。
- リジュームスイッチを押すと、車速は前回設定した速度に設定されます。

車速がセットされると、メーターディスプレイに「停止保持中」が表示され、クルーズ走行が開始されます。

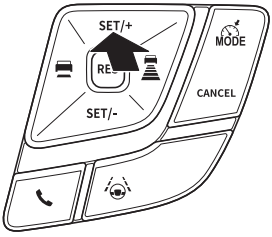
4. 全車速車間クルーズ作動中は、先行車発進後、リジュームスイッチを操作するか、アクセルペダルを踏み車両を発進させると、追従走行が開始します。

知　識

- 停車中はオートクルーズの車速設定ができません。

全車速車間クルーズ / オートクルーズのセット車速の変更

増速したいとき

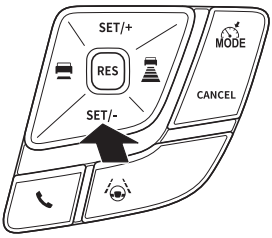


セットスイッチの『+』側を操作すると、メーターディスプレイ内に表示されているクルーズセット車速が増加します。
スイッチを操作してすぐに離すと、セット車速が 1 回の操作で 1km/h 上がります。スイッチを押し続けると、5km/h ずつ上がります。

知　識

- 早く増速したいときは、アクセルペダルを踏み込んで、希望車速まで加速した後、セットスイッチを押します。

減速したいとき

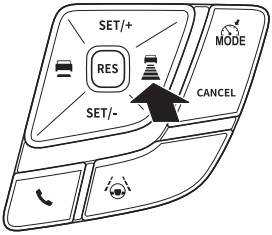


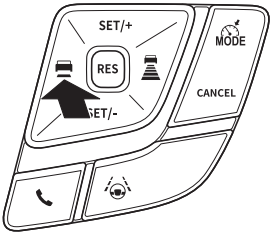
セットスイッチの『ー』側を操作すると、メーターディスプレイ内に表示されているクルーズセット車速が減少します。
スイッチを操作してすぐに離すと、セット車速が 1 回の操作で 1km/h 下がります。スイッチを押し続けると、5km/h ずつ下がります。

知　識

・早く減速したいときは、ブレーキペダルを踏んでクルーズモードを一旦解除し、希望車速まで減速した後、セットスイッチを押します。

全車速車間クルーズを希望の車間にセットするとき

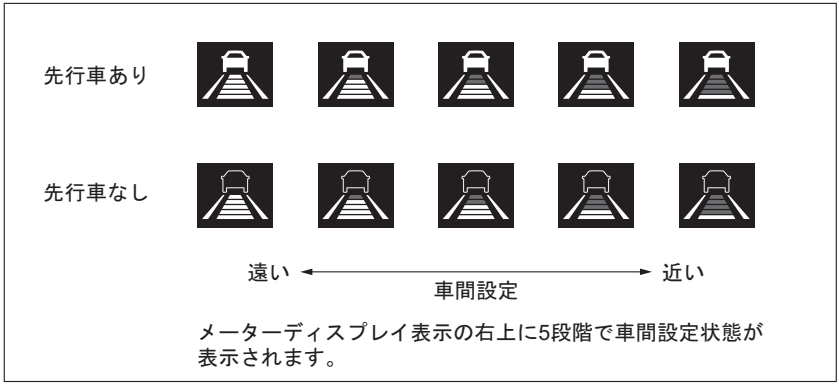




車間設定スイッチの『 』（車間を空けたい場合）、『 』（車間を縮めたい場合）側を押すと、それぞれ車間設定を遠い側、近い側に調整することができます。

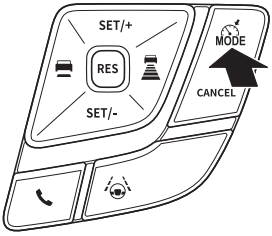
知　識

- 全車速車間クルーズの車間設定を変更すると、車間距離警報の警報距離設定も連動して変化します。



メーターディスプレイ表示の右上に5段階で車間設定状態が表示されます。

全車速車間クルーズ / オートクルーズの解除

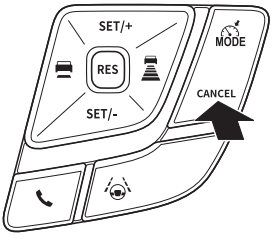


モードスイッチを押すとクルーズモードを解除します。このとき、『ピッ』と音が鳴りメーターディスプレイのクルーズアイコンが消えます。

知　識

- クルーズモードを使用しないときはモードスイッチを押して、機能を解除してください。

全車速車間クルーズ / オートクルーズの一時解除



クルーズ解除

クルーズ制御が解除されました。

キャンセルスイッチを押した場合、クルーズモードは一時解除されます。このときメーターディスプレイのクルーズアイコンが白く点灯し、「クルーズ解除」が数秒間表示されます。また、以下の場合も解除されます。

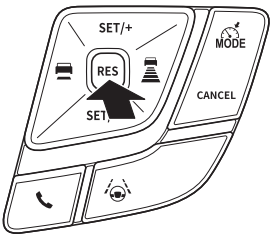
- ブレーキペダルを踏んだとき（追従停車中を除く）
- クラッチペダルを踏んだとき（マニュアルトランスミッション車）
- パーキングブレーキを効かせたとき
- 排気ブレーキレバーを操作したとき
- 以下の警告が発生したとき
  フロントカメラ故障警告、エンジン制御警告灯、ブレーキ警告灯
- 先行車がいなくなったとき（追従停車中など）
- 運転席側のドアが開いたとき（全車速車間クルーズの追従停車中のみ）
- 運転席のシートベルトを外したとき（全車速車間クルーズの追従停車中のみ）
- シフトレバーを『D』位置以外にしたとき
- 低速で走行中に、ターンシグナルスイッチとハンドルの両方を操作したとき（右左折時など）（全車速車間クルーズ中のみ）
- 急な上り坂・下り坂に突入したとき
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）のドライバー状態異常検知時
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）のブレーキ作動時

先行車を追い越したいときは、アクセルペダルを踏むとクルーズモードが一時解除されます。このとき、クルーズアイコンが緑で点灯します。

知　識

- エンジンまたはエンジン関連装置が故障した場合、全車速車間クルーズまたはオートクルーズは完全解除され、マスター警告灯が点灯します。マスター警告灯が点灯するとクルーズモードが選択できなくなり、スタータースイッチを一旦『LOCK』位置にするまでシステムは作動しません。
- クルーズモードを使用しないときはモードスイッチを押して、機能を解除してください。

全車速車間クルーズ / オートクルーズに復帰するとき



クルーズモードを一時解除した場合は、リジュームスイッチを操作して離すと解除前のクルーズ走行状態に戻すことができます。リジュームスイッチを離すとメーターディスプレイのクルーズアイコンが緑で点灯します。
また、一時解除条件から外れても、クルーズ走行に復帰します。

参照ページ
5-62 停車中に全車速車間クルーズを設定するとき

全車速車間クルーズ / オートクルーズが正常に作動しないとき

全車速車間クルーズ / オートクルーズは先進運転支援システムの 1 つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

- 車両積載状態や、道路の傾斜によっては十分な減速ができない場合があります。車間距離が縮まる場合は、フットブレーキを使用して安全な車間距離を維持してください。
- 先行車の減速度が大きいときや、自車の前へ他車が割り込んだときは十分な減速ができない場合があります。システムを過信せず、交通状況に応じた車間距離をとって安全運転を行ってください。
- 積荷がかたよっていて（極端な片荷、前荷、後荷）、極端に車両姿勢が傾いている場合、先行車を正しく検知できないことがあります。

標識認識機能★

標識認識機能は、カメラが認識した交通標識をメーターディスプレイに表示することで、交通標識の見落としを防ぎ、安全運転を支援するシステムです。認識した交通標識に対し、禁止行為を行っているとシステムが判断した場合は、警報音とメーターディスプレイ表示で運転者にお知らせします。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

⚠ 警 告

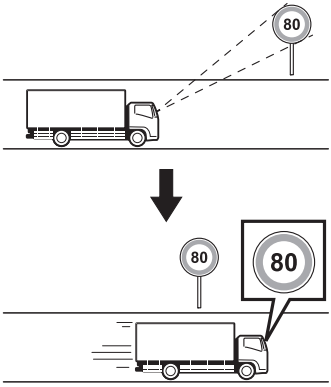
- **標識認識機能は、安全運転を支援するシステムです。悪天候のときや交通標識に問題がある場合は、システムが正しく交通標識を認識しない可能性があります。交通標識の確認を怠ると、思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転者の責任で実際の交通標識を確認してください。**
- **カメラが交通標識を認識できない、またはカメラが一時的に停止や故障している場合、標識認識機能システムは作動しません。**

標識認識機能の作動

スタータースイッチを『ON』位置にすると、メーターディスプレイに速度標識アイコンが表示されます。

参照ページ
5-82 標識認識機能が正常に作動しないとき

制限速度標識



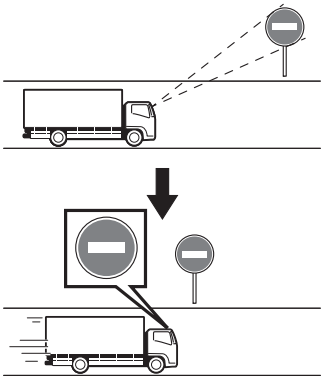
走行中、カメラが自車線内の制限速度標識を認識すると、標識を通過後、メーターディスプレイに表示します。標識を表示したときは『ピッ』とブザーが鳴ります。以下の場合は、標識の表示を終了します。

- 標識の通過後、一定の距離を走行した、または一定時間経過したとき
- カメラが新たな制限速度標識を認識したとき
- 認識した標識の規制終了を示す補助標識を通過したとき
- 交差点右左折時
- シフトレバーを『R』位置に入れたとき
- パーキングブレーキが作動しているとき

知　識

- 制限速度標識が 2 つ並んでいた場合は、補助標識を認識し、お車に合わせた速度の標識を対象とします。補助標識が認識できなかった場合は、高い方の速度標識を対象とします。

進入禁止



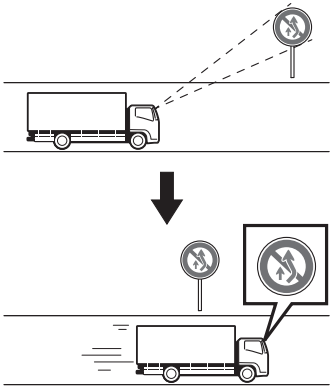
走行中、カメラが進入禁止標識を認識すると、標識を通過する前にメーターディスプレイに表示します。以下の場合は、標識の表示を終了します。

- 進入禁止標識を通過したとき
- 交差点右左折時
- シフトレバーを『R』位置に入れたとき
- 追い越し禁止標識または一時停止標識を認識したとき
- パーキングブレーキが作動しているとき

知　識

- 進入禁止標識は、車速が約 40km/h 以下のとき認識されます。

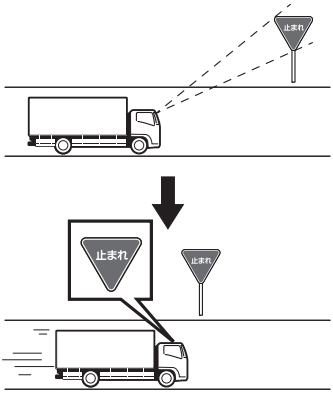
追い越し禁止



走行中、カメラが追い越し禁止標識を認識すると、標識を通過後、メーターディスプレイに表示します。以下の場合は、標識の表示を終了します。

- 標識の通過後、一定の距離を走行した、または一定時間経過したとき
- 認識した標識の規制終了を示す補助標識を通過したとき
- 一時停止標識または進入禁止標識を認識したとき
- 交差点右左折時
- シフトレバーを『R』位置に入れたとき
- パーキングブレーキが作動しているとき

一時停止



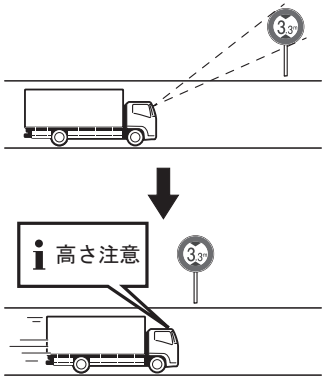
走行中、カメラが一時停止標識を認識すると、標識を通過する前にメーターディスプレイに表示します。以下の場合は、標識の表示を終了します。

- 標識の通過後、一定の距離を走行したとき
- 交差点右左折時
- シフトレバーを『R』位置に入れたとき
- 進入禁止標識または追い越し禁止標識を認識したとき
- パーキングブレーキが作動しているとき

知　識

- 一時停止標識は、車速が約 40km/h 以下のとき認識されます。

高さ制限



走行中、カメラが高さ制限標識を認識すると、標識を通過する前にメーターディスプレイに「高さ注意」と表示され、同時に『ピッ』とブザーが鳴ります。以下の場合は、表示を終了します。

- 一定時間経過したとき
- 交差点右左折時
- シフトレバーを『R』位置に入れたとき
- パーキングブレーキが作動しているとき

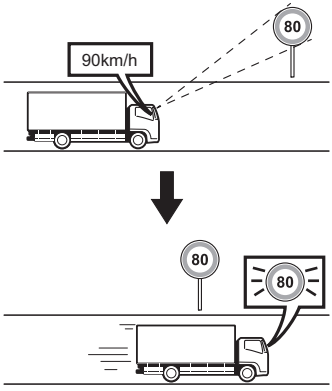
知　識

- 高さ制限標識は車速が 40km/h 以下のとき認識されます。

メーターディスプレイ	警報音	状況
運転支援表示エリア 高さ注意	ピッ	高さ制限標識を認識したとき

標識認識機能の警報

制限速度超過警報



走行中、カメラが認識した制限速度を超過すると、メーターディスプレイに表示された「制限速度標識」が点滅し、同時に『ピッ』とブザーが鳴ります。周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルなどを使用して法定速度の範囲内まで減速してください。

次のような場合、制限速度超過警報を終了します。

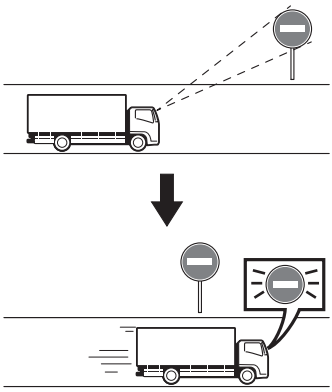
- 車両が道路標識上の制限速度以下まで減速したとき
- 「制限速度標識」が更新され、車両が更新された制限速度以下で走行しているとき
- 「制限速度標識」の表示が終了されたとき

知　識

- カメラが実際の表示より低く制限速度を認識してしまった場合、自車の走行速度は法定範囲内であるにもかかわらず、制限速度超過警報が有効になることがあります。

メーターディスプレイ	警報音	状況
表示エリア 1 80 （点滅）	ピッ	カメラで検知した制限速度標識の制限速度を、自車速度が超えていた場合

進入禁止警報

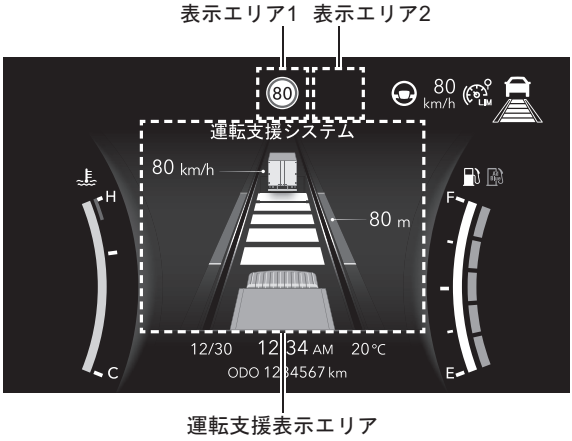


走行中、カメラが認識した進入禁止標識を通過すると「進入禁止」が点滅し、メーターディスプレイに「進入禁止」が表示され、同時に警報音が鳴ります。一定時間が経過すると、警報は終了します。

メーターディスプレイ	警報音	状況
表示エリア 2  （点滅） 運転支援表示エリア 進入禁止 	ピッ	進入禁止標識を通過し、車両が進入禁止区域に進入した場合

標識認識機能のメーターディスプレイ表示内容

運転支援表示エリアの表示は、「先進運転支援システム表示」を選択しているときに確認できます。



名称	表示画面	表示エリア
標識認識機能 ON	 (赤)	表示エリア 1
標識認識機能 OFF	 (灰)	表示エリア 1
標識認識機能異常	 (橙)	表示エリア 1
制限速度標識		表示エリア 1

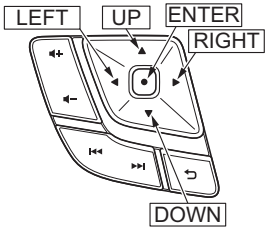
名称	表示画面	表示エリア
進入禁止		表示エリア 2 運転支援表示エリア
	進入禁止 	
追い越し禁止		表示エリア 2
一時停止		表示エリア 2
高さ注意	高さ注意	運転支援表示エリア

知　識

- 通常画面を表示中、最大で 2 つの交通標識が表示されます。
- 交通標識の表示中にエンジン停止した場合、エンジンを再始動させても標識は再表示されません。

標識認識機能の設定

標識認識機能の ON/OFF





メーターディスプレイの「車両設定」画面から、標識認識機能を解除することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

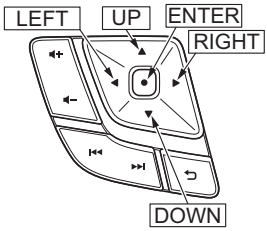
参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識認識機能」→「ON/OFF 設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』を押し、標識認識機能の ON/OFF を切り替えます。
   『ENTER』で決定します。

知　識

- 標識認識機能はエンジン始動後、常に『ON』になります。
- システムが一時的に作動を停止しているとき、メーターディスプレイによる ON/OFF の切り替えができない場合があります。
- 標識認識機能が『OFF』の設定になっているときは、他の標識認識機能設定を操作することができません。

制限速度超過警報の通知方法を変更するとき



メーターディスプレイスイッチで制限速度超過警報の通知方法を変更することができます。

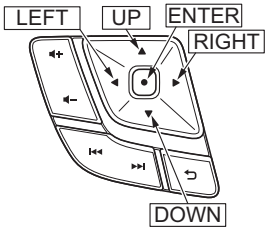
1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識認識機能」→「制限速度警報設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。通知方法は「OFF」、「表示警報のみ」、「表示および警報音」の 3 段階で調整できます。

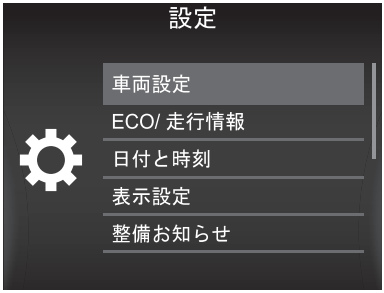
制限速度超過警報の警報速度を設定するとき



メーターディスプレイスイッチで制限速度超過警報の警報する超過速度を調整することができます。認識した制限速度標識を自車の速度が設定値より超過すると、警報を行います。

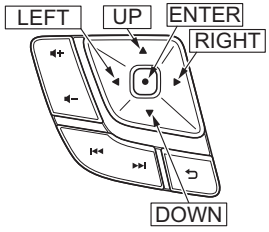
1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識認識機能」→「警報速度設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。警報する超過速度は「2km/h」、「5km/h」、「10km/h」の 3 段階で調整できます。

制限速度標識の通知音の ON/OFF



メーターディスプレイスイッチで制限速度標識を認識したときの通知音を設定することができます。

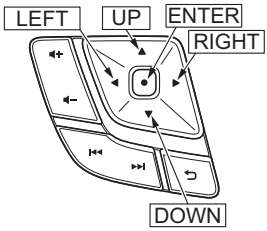
1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識認識機能」→「制限速度更新通知音設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』を押し、通知音の ON/OFF を切り替えます。『ENTER』で決定します。

進入禁止警報の通知方法を変更するとき



メーターディスプレイスイッチで進入禁止警報の通知方法を変更することができます。

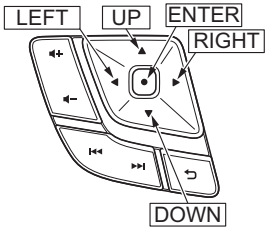
1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識認識機能」→「進入禁止警報設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。通知方法は「OFF」、「表示警報のみ」、「表示および警報音」の 3 段階で調整できます。

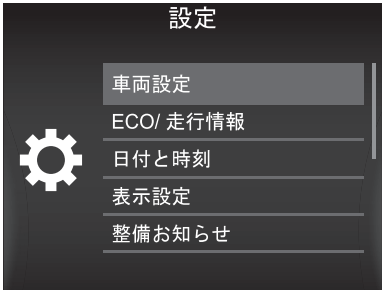
高さ制限警報の通知方法を変更するとき



メーターディスプレイスイッチで高さ制限警報の通知方法を変更することができます。

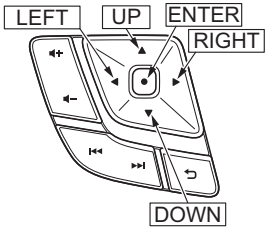
1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識認識機能」→「高さ制限警報設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。通知方法は「OFF」、「表示警報のみ」、「表示および警報音」の 3 段階で調整できます。

高さ制限警報の警報感度を設定するとき



メーターディスプレイスイッチで高さ制限警報の警報内容を調整することができます。認識した高さ制限標識の値が設定より低いときは警報を行います。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識認識機能」→「高さ制限警報高さ設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。警報内容は「1.9m 以下」、「2.4m 以下」、「2.9m 以下」、「3.4m 以下」、「3.9m 以下」、「制限なし」の 6 段階で調整できます。

標識認識機能が正常に作動しないとき

標識認識機能は先進運転支援システムの１つです。システムに異常があると正常に作動しません。
次のような場合、カメラが交通標識を正確に認識できないため、標識認識機能が正しく作動しないことがあります。

- 交通標識が泥や砂などで汚れているとき
- 交通標識が木や車で隠れているとき
- 交通標識の明るさが影などで一部異なるとき
- 交通標識が曲がっているまたは歪んでいるとき
- 交通標識が高すぎるまたは低すぎる位置にあるとき
- 交通標識が大きすぎるまたは小さすぎるとき
- 交通標識（電光標識を含む）が明るすぎるまたは暗すぎるとき
- 交通標識に形や色が似ている物体（認識対象外の道路標識、看板など）が認識可能な位置にあるとき
- カメラが交通標識を認識する時間が短いとき
- システムが運転状況（曲がる、車線変更など）を正しく判断できなかったとき
- 交通標識が高速道路の分岐路の直後、または車線の合流地点の直前にあるとき
- 先行車の後方に標識の認識を妨げるステッカー（標識に色や形が似ている、光を反射するなど）が貼られているとき
- 側道の速度標識が自車カメラの認識範囲にあるとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- インストルメントパネル上の物がフロントガラスに反射してカメラに写っているとき
- 悪路で車両が傾いているとき
- タイヤ空気圧が適切でないとき
- 特殊タイヤが装着されているとき
- パーキングエリアの出口や高速道路の料金所、またはその周辺を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- トンネルを出入りするなどして、周囲の明るさが急に変化したとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- フロントガラスが汚れているまたは曇っているとき
- フロントガラスやカメラに露がついているとき
- 前方から強い光を受けているとき（後方灯、ハイビームなど）
- 強い光が道路に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで、交通標識がヘッドランプの当たらない位置にあるとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）の中を走行しているとき

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

標識連動型スピードリミッター★

標識連動型スピードリミッターは、道路ごとの制限速度に応じて速度制限を行うシステムです。標識認識機能によりカメラが検知した制限速度を、30km/h から 120km/h の範囲内で自車の上限速度に設定することができます。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項
5-69 標識認識機能★

⚠ 警 告

- **道路状況や環境に応じた適切な範囲に車速を設定し、制限速度を守ってください。**
- **走行している時の車速より低い車速にセットした場合、システムにより減速が行われます。システムを使用する時は、必ず周囲の安全を確認してください。**

⚠ 注 意

- **メーターディスプレイに標識連動型スピードリミッターアイコンが表示されているときは、設定された上限速度を確認してから走行してください。**
- **他の運転者と交代するときは、必ず標識連動型スピードリミッターを解除してください。作動を知らずに運転すると思わぬトラブルになるおそれがあります。**
- **高速道路や自動車専用道路では、最低速度以下にセットしないでください。道路状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

【スピードリミッター付車】

- **スピードリミッターの設定速度を超える上限速度は設定できません。**

参照ページ
4-174 スピードリミッター（速度抑制装置）★

知 識

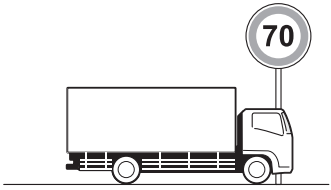
- 標識認識機能が使用できないときは、標識連動型スピードリミッターは作動しません。
- アクセルペダルを強く踏み込んで加速すると、システムは一時的に無効になります。車速が設定速度以下になると、システムが再起動します。
- 下り坂では、車速が設定速度を超える場合があります。

標識連動型スピードリミッターの作動

標識連動型スピードリミッターは、上限速度の設定や変更を標識認識機能もしくはステアリングスイッチを使用して行います。

参照ページ
5-89 標識連動型スピードリミッターが正常に作動しないとき

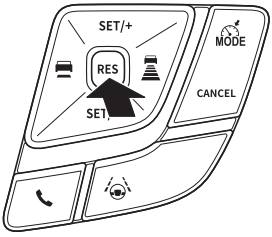
上限車速を設定するとき（標識認識）





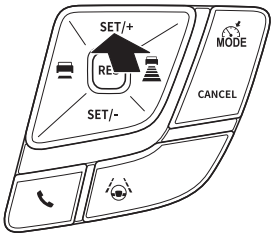
1. 標識連動型スピードリミッターをセットした状態での走行中、カメラが制限速度標識を認識すると、標識を通過後、メーターディスプレイに制限速度標識マークが表示され、制限速度標識マーク下部に「RES」アイコン（白色）が点灯します。
2. リジュームスイッチを押すと上限車速がセットされます。また、メーターディスプレイの「RES」が緑色に変わります。

上限車速を変更するとき（標識認識）

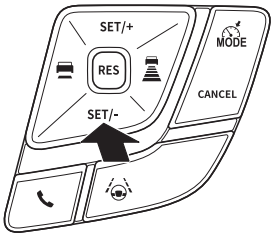


セット中の上限車速と異なる制限速度標識を認識した場合は、標識を通過後、メーターディスプレイの制限速度標識マーク下部に「RES」（白色）が表示されます。
「RES」が表示されている間にリジュームスイッチを押すと、上限車速が変更されます。またメーターディスプレイの「RES」が緑色に変わります。

上限車速を変更するとき（スイッチによる設定）



セットスイッチの「＋」側を操作すると増速し、メーターディスプレイ内に表示される上限車速も増加します。
セットスイッチの「＋」側を押し続けると、5km/h ずつ上がります。
希望の車速が表示されたときにスイッチ操作をやめます。
セットスイッチの「＋」側を操作してすぐに離すと、上限車速が 1 回の操作で 1km/h 上がります。



セットスイッチの「－」側を操作すると減速し、メーターディスプレイ内に表示される上限車速も減少します。
セットスイッチの「－」側を押し続けると、5km/h ずつ下がります。
希望の車速が表示されたときにスイッチ操作をやめます。
セットスイッチの「－」側を操作してすぐに離すと、上限車速が 1 回の操作で 1km/h 下がります。

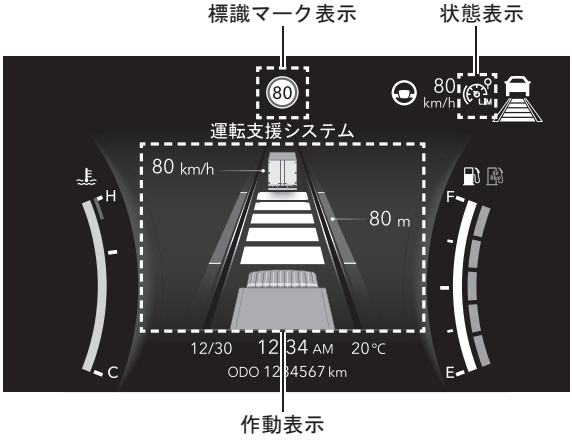
知　識

- 上限車速の変更は停車中も可能です。

標識連動型スピードリミッターの警告・表示

標識連動型スピードリミッターのメーターディスプレイ表示内容

メイン表示エリアの表示は、「先進運転支援システム表示」を選択しているときに確認できます。



名　称	メーターディスプレイ表示			表示内容
	標識マーク	状態表示	作動表示	
標識連動型スピードリミッター OFF	＊	―	―	標識連動型スピードリミッターが『OFF』になっているとき
標識連動型スピードリミッター ON	＊	LIM（白）	標識連動型 SLD クルーズモードが変更されました。	• スタースイッチを『ON』位置にしたとき • 標識連動型スピードリミッターが『ON』になっており、速度標識が非検知のとき
制限速度セット	＊	LIM（緑）	―	上限車速がセットされたとき
制限速度の変更要求	80 RES（白）	LIM（緑）	―	制限速度標識が認識され、ドライバーに上限車速の変更を要求しているとき

名　称	メーターディスプレイ表示			表示内容
	標識マーク	状態表示	作動表示	
制限速度の変更承認	（緑）	（緑）	—	上限車速の変更要求がドライバーに承認されたとき（「RES」が緑色に変わります）
セット車速超過	＊		—	自車がセット車速を超えたとき（状態表示エリアのアイコンが点滅します）
標識連動型スピードリミッター一時解除中	＊	（点滅）	—	アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだ状態から、さらに増し踏みし、標識連動型スピードリミッターが一時的に解除されたとき（状態表示エリアのアイコンが点滅します）

＊： 標識認識機能の作動状況によって、標識マークが表示されます。

標識連動型スピードリミッターの警報

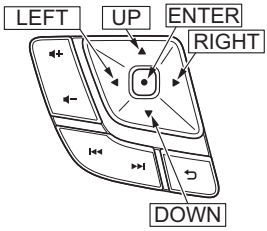
標識連動型スピードリミッターアイコン



走行中、セットした制限速度を超過した場合はメーターディスプレイの状態表示エリアのアイコンが点滅します。車速がセットした制限速度以下になるまで、点滅は継続します。
周囲の状況を確認しながら、ブレーキペダルなどを使用して減速してください。

標識連動型スピードリミッターの設定

標識連動型スピードリミッターの ON/OFF





メーターディスプレイスイッチで標識連動型スピードリミッターの ON/OFF を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「前方監視」→「標識連動型 SLD」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で ON/OFF を選択し、『ENTER』で決定します。

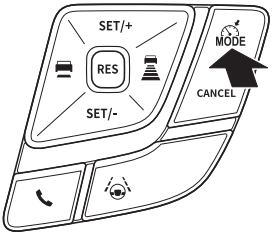
知　識

- 標識連動型スピードリミッターを OFF にすると、可変スピードリミッターに切り替わります。

参照ページ
4-175 可変スピードリミッター★

標識連動型スピードリミッターの解除

モードスイッチ



以下のいずれかの操作をすると解除されます。

- スタースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしたとき
- モードスイッチを押したとき
- 標識連動型スピードリミッター作動中に、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだ状態から、さらに増し踏みしたとき（アクセルペダルを戻すと復帰します）

標識連動型スピードリミッターと可変スピードリミッターの切り替え



メーターディスプレイで標識連動型スピードリミッターの ON/OFF を切り替えると、標識連動型スピードリミッターと可変スピードリミッターを切り替えることができます。
設定が『ON』のときは標識連動型スピードリミッターが作動します。
『OFF』のときは可変スピードリミッターが作動します。

知　識

- 標識連動型スピードリミッターと可変スピードリミッターを同時に ON にすることはできません。目的に応じて設定を切り替えてください。

参照ページ
4-175 可変スピードリミッター★
5-88 標識連動型スピードリミッターの ON/OFF

標識連動型スピードリミッターが正常に作動しないとき

標識連動型スピードリミッターは先進運転支援システムの 1 つです。システムに異常があると正常に作動しません。

知　識

- 「フロントカメラー時停止」が表示されると、標識連動型スピードリミッターは解除され、可変スピードリミッターに自動で切り替わります。フロントガラス（外側）の清掃後、メーターディスプレイから再度設定してください。

参照ページ
4-175 可変スピードリミッター★
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

車線逸脱警報（LDWS）

走行中に車両が車線から逸脱するとカメラが感知し、警報音とメーターディスプレイ表示により注意を促すシステムです。
本システムは車速が約 60km/h 以上で作動します。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

警　告

- **車線逸脱警報は車線内の走行を支援することを目的とし、前方不注意の補助や、手放し運転を行うためのシステムではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、安全運転を心がけてください。**

知　識

- LDWS は Lane Departure Warning System（レーンデパーチャーワーニングシステム）の略です。

車線逸脱警報（LDWS）の作動条件

車線逸脱警報は、以下の条件を全て満たしているときに作動します。
- LDWS OFF 表示灯が消灯しているとき
- メーターディスプレイに「フロントカメラ故障」・「フロントカメラー時停止」が表示されていないとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線が認識できるとき

知　識

- 車線逸脱警報は、エンジン始動後、約 10 秒間は作動しません。
- 炎天下に駐車したときは、走行開始後しばらく車線逸脱警報が作動しない場合がありますが異常ではありません。カメラ周辺の温度が正常な温度になると機能が復帰します。
- 車線逸脱警報が作動したあとは、機能が一時的に停止します。停止後数秒経過すると機能が復帰します。
- 次の場合、警報を一時的に解除します。
  - ターンシグナルスイッチを操作したとき
  - 車線変更に相当する操舵力でハンドルを操作したとき
  - 急カーブを走行するとき
  - 車速が約 60km/h 未満になったとき
  - 走行中、車線が認識できなくなったとき

参照ページ
5-91 LDWS OFF 表示灯
5-95 車線逸脱警報（LDWS）が正常に作動しないとき

車線逸脱警報（LDWS）の警告・表示

LDWS OFF 表示灯



車線逸脱警報の機能を停止させたときや、車線逸脱警報に異常があるときに点灯します。
消灯しないときや、車線逸脱警報の機能を停止させていなくても点灯するとき、スタータースイッチを『ON』位置にしても点灯しないときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

知　識

- エンストしたとき、エンジンを再始動すると LDWS OFF 表示灯が一瞬点灯することがありますが故障ではありません。

車線逸脱警報（LDWS）のメーターディスプレイ表示内容

車線逸脱警報は状況に応じ、以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

表示名	メーターディスプレイ 運転支援表示エリア ※2	表示内容
LDWS 『OFF』		LDWS スイッチで車線逸脱警報の機能を停止させたとき ※1
LDWS 『ON』		車線逸脱警報システムが作動しているとき
警報表示		車線逸脱警報システムが車線逸脱を感知して警報を行ったとき（左右いずれかの警報が鳴ります）
車線認識不能		カメラが車線を認識できないときまたは車速が約 60km/h 以下のとき

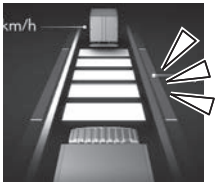
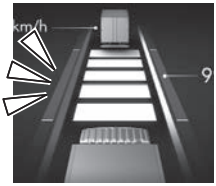
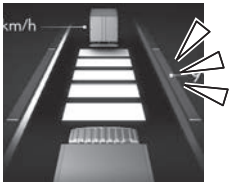
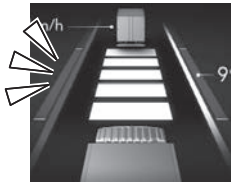
※1： レーンキープアシスト付車は、レーンキープアシストと LDWS の両方を OFF にした場合のみ本表示が消灯します。

※2： 先行車アイコンは、全車速車間クルーズ、車間距離警報、またはプリクラッシュブレーキ作動中のみ表示されます。

参照ページ
3-42 メーターディスプレイ
5-108 車線維持支援システム作動中の車線逸脱警報 (LDWS)
5-36 先行車発進お知らせ機能
5-96 レーンキープアシスト★

車線逸脱警報（LDWS）の警報

車線逸脱警報システムが車線逸脱を感知すると、メーターディスプレイ表示と警報音でお知らせします。

警報タイミング	メーターディスプレイ		警報音	状況
	メイン表示エリア ※	運転支援表示エリア		
早い			ピピピピピ …（連続）	右側の車線を踏んだとき警報音が鳴ります。
			ピピピピピ …（連続）	左側の車線を踏んだとき警報音が鳴ります。
標準			ピピピピピ …（連続）	右側の車線を越えたとき警報音が鳴ります。
			ピピピピピ …（連続）	左側の車線を越えたとき警報音が鳴ります。

※： メイン表示エリアの表示は、「先進運転支援システム表示」を選択しているときに確認できます。

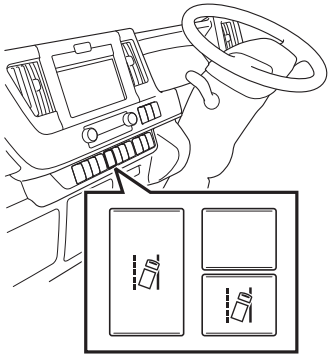
知 識

- ターンシグナルスイッチを操作せずに車線変更すると警報音が鳴ります。

車線逸脱警報（LDWS）の設定

車線逸脱警報（LDWS）の ON/OFF

LDWS スイッチ



LDWS OFF 表示灯

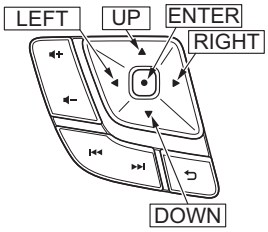


車線逸脱警報の機能を停止させるときは、LDWS スイッチを使用します。
LDWS スイッチを長押しするごとに、車線逸脱警報の『ON』と『OFF』が切り替わります。車線逸脱警報の機能を停止させると、LDWS OFF 表示灯が点灯します。

知　識

- 車線逸脱警報の機能を停止させた状態で一度エンジンを停止させ、再びエンジンを始動すると、車線逸脱警報は前回設定した警報タイミングで作動します。

車線逸脱警報（LDWS）の警報タイミングを変更するとき



メーターディスプレイの「車両設定」画面から、車線逸脱警報の警報タイミングを切り替えられます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア



2. 設定画面の「車両設定」→「側方監視」→「車線逸脱警報」→「警報タイミング」の順に選択します。
3. 『UP』または『DOWN』を押し、車線逸脱警報の警報タイミングを「早い」「標準」で切り替え、『ENTER』で決定します。

知　識

- 警報タイミング「早い」または「標準」を選択した状態でエンジンを停止させると、警報タイミングはエンジン停止前の状態を維持します。

車線逸脱警報（LDWS）が正常に作動しないとき

車線逸脱警報は先進運転支援システムの 1 つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

次のような場合、車線を正確に認識できないためシステムが正常に作動しないことがあります。
- 車線がかすれたり汚れたりしているとき
- 雨、雪、霧、逆光のとき
- 路面補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、車線と紛らわしい線があるときや、雨あがりなどで路面が光っているとき
- 2 本以上の車線が隣接しているとき
- 車線の幅が狭いときや広いとき
- 分岐路やインター出入り口、急なカーブ路を走行するとき
- 工事による車線規制により車線をまたいで走行するときや仮設の車線を走行するとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 車線をまたぐ速度が遅いとき
- ヘッドランプのレンズ汚れなどにより照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 荷物が片寄って積載された状態のときや、タイヤ空気圧の調整不良により車両が著しく傾いているとき

レーンキープアシスト★

レーンキープアシストとは、車線内を安全に走行できるようにハンドル操作をアシストするシステムの総称です。車線が整備された道路を走行するとき、カメラで車線と車両を検知することで次のシステム・機能が作動し安全な走行を支援します。
各システム・機能は高速道路や自動車専用道路で使用してください。

車線維持支援システム
全車速車間クルーズを使用して車線が整備された道路を時速約 0km/h ～ 120km/h で走行しているときは、車線中央走行を維持するようにハンドル操作をアシストします。
また、時速約 0km/h ～ 60km/h で走行中に車線が認識できなくなった場合、先行車が検知できているときは、先行車に追従するようにハンドル操作をアシストします。

参照ページ
5-46 オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★

車線逸脱抑制機能
時速約 65km/h ～ 120km/h で走行中に車線を逸脱するおそれがあるとシステムが判断した場合に警報を行い、車線の逸脱を回避するためのハンドル操作をアシストします。

警 告

- レーンキープアシストは車線内の走行および渋滞時の走行を支援することを目的とし、前方不注意の補助や、手放し運転を行うためのシステムではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、安全運転を心がけてください。
- 先行車追従操舵アシスト機能作動中に、先行車が車線を逸脱すると、自車も追従して車線を逸脱するおそれがあります。システムを過信せず十分に注意して運転してください。
- ハンドル操作のアシスト力やアシストのタイミングが運転操作の感覚と異なる場合は、レーンキープアシストを使用しないでください。
- 次のような状況では、危険ですから本システムを使用しないでください。
  - 故障車などをけん引しているとき
  - ホイールバランスが正しく調整されていないとき
  - ホイールアライメントが正しく調整されていないとき
  - 指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
  - タイヤにチェーンを装着しているとき
  - ハンドルに異常な振動や重さを感じるとき
  - 《日産純正部品》以外のハンドルを使用しているとき
  - 高速道路または自動車専用道以外を走行しているとき
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき

知 識

- 次のような場合、システムが作動するまでに数分かかることがあります。
  - エンジンを停止し、再始動したとき

【操舵アシストについて】

- レーンキープアシスト付車は、レーンキープアシストが『OFF』の場合でも、軽い力で操舵できるよう通常走行時のハンドル操作をアシストします。

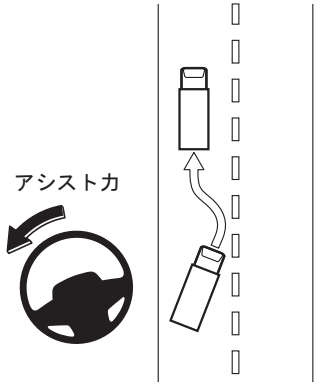
参照ページ
3-36 ステアリングシステム警告灯★

レーンキープアシストの作動内容

知　識

- ターンシグナルスイッチを操作せずに車線変更すると、レーンキープアシストが作動します。
- 炎天下に駐車したときは、走行開始後しばらくレーンキープアシストが作動しない場合がありますが異常ではありません。カメラ周辺の温度が正常な温度になると機能が復帰します。
- ハンドル操作をアシストするタイミングと車線逸脱警報が作動するタイミングは異なります。
- 路面状況や車速によっては、ハンドル操作をアシストしても車線中央の走行を維持できない場合があります。
- システムが故障している場合、レーンキープアシストの各機能は作動しません。

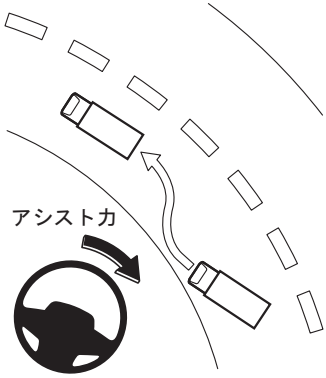
車線維持支援システム



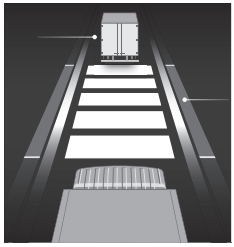
車線維持支援システムは以下の場合に作動し、車線の中央を走行しやすくするためハンドル操作をアシストします。

- 両白線が正しく検知できているとき
- 全車速車間クルーズを使用しているとき
- 直線路またはゆるやかなカーブを走行しているとき

参照ページ
5-46 オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★



また作動中は、メーターディスプレイのメイン表示エリアの車線表示が緑になり、運転支援表示エリアの車線維持支援システム作動状態表示および車線認識状態表示が緑色で点灯します。

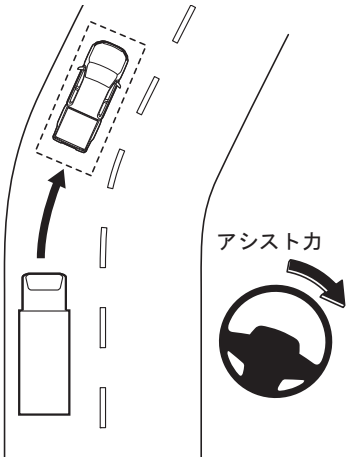
車線維持支援システム作動中のメーターディスプレイ表示		
運転支援表示エリア		メイン表示エリア ※
車線認識状態	システム作動状態	車線表示
 (緑)	 (緑)	 (緑)

※： メイン表示エリアの表示は、「先進運転支援システム表示」を選択しているときに確認できます。

参照ページ
5-102 レーンキープアシストのメーターディスプレイ表示内容

アドバイス

- 車線維持支援システムの作動中、ハンドル操作をしていないにもかかわらず左右の車線に偏る場合は、最寄りの《日産販売会社》で点検･修理を受けてください。



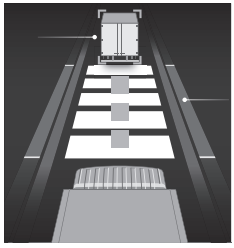
車線が認識できなくなったとき

車線維持支援システムを使用して走行中に以下の場合は先行車追従操舵アシスト機能が作動します。渋滞で車線が検知できない場合でも、先行車の動きに合わせてハンドル操作をアシストします。

- 車線が検知できない状態で、先行車を検知したとき
- 全車速車間クルーズで、先行車に追従して走行しているとき

参照ページ
5-46 オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★

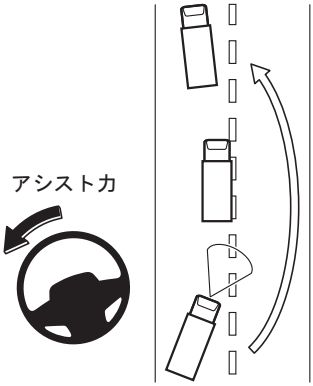
また作動中は、メーターディスプレイのメイン表示エリアに先行車追従操舵アシスト機能表示が緑で表示され、運転支援表示エリアの車線維持支援システム作動状態表示および先行車検知状態表示が緑色で点灯します。

先行車追従操舵アシスト機能作動中のメーターディスプレイ表示		
運転支援表示エリア		メイン表示エリア ※
先行車検知状態	システム作動状態	先行車追従操舵アシスト機能表示
 (緑)	 (緑)	 (緑)

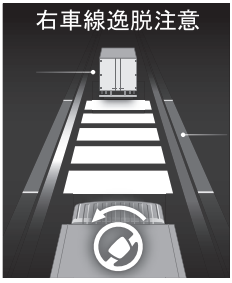
※： メイン表示エリアの表示は、「先進運転支援システム表示」を選択しているときに確認できます。

参照ページ
5-102 レーンキープアシストのメーターディスプレイ表示内容

車線逸脱抑制機能



高速で走行中、運転者が意図せず車線を逸脱するような挙動を取った場合、メーターディスプレイに警報が表示され、走行中の車線内から逸脱を回避するようハンドル操作をアシストします。
またハンドルから手を放したまま一定時間内に車両が再度車線を逸脱しそうになると、警報音『ピピピッ ピピピッ …（連続）』が鳴ります。このとき、警報音の鳴る時間は警報の作動回数によって長くなります。
一定時間内に警報が複数回作動した場合、車線逸脱抑制機能は一時停止します。

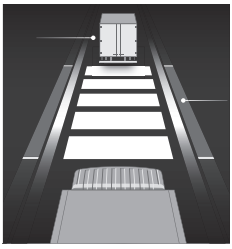
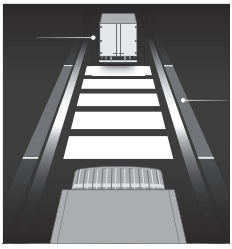
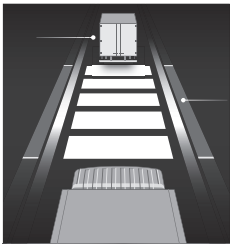
車線逸脱抑制機能作動中のメーターディスプレイ表示（右側車線を逸脱しそうなとき）	
運転支援表示エリア	メイン表示エリア
車線認識状態  右車線（赤）	車線表示  右車線（赤）

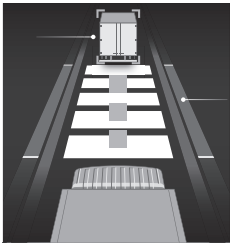
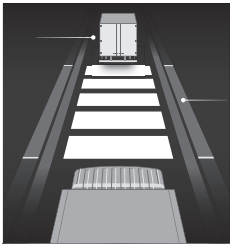
参照ページ
5-102 レーンキープアシストのメーターディスプレイ表示内容

レーンキープアシストのメーターディスプレイ表示内容

レーンキープアシストは状況に応じ、以下をメーターディスプレイに表示します。

車線維持支援システム表示

名　称	メーターディスプレイ表示			表示内容
	メイン表示エリア	運転支援表示エリア		
		車線認識 / 先行車検知状態	システム作動状態	
車線維持支援システム『OFF』	— ※1	— ※1	 （灰）	車線維持支援システムが『OFF』のとき
車線維持支援システム『ON』待機中	 車線表示（白）	 （白）	 （白）	車線維持支援システムが『ON』になっていて、待機中のとき
車線維持支援システム『ON』作動中	 車線表示（緑）	 （緑）	 （緑）	車線維持支援システムが『ON』になっていて、作動中のとき
車線維持支援システム作動中の車線逸脱警報表示	 車線表示（橙）※2	 （橙） ※2	 （緑）	車線維持支援システムが車線逸脱を検知して警報を行ったとき

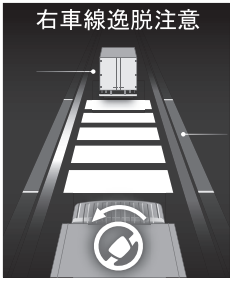
名　称	メーターディスプレイ表示			表示内容
	メイン表示エリア	運転支援表示エリア		
		車線認識 / 先行車検知状態	システム作動状態	
車線維持支援システム『ON』作動中（先行車追従操舵アシスト機能）	 先行車追従操舵アシスト機能表示（緑）	 （緑）	 （緑）	車線維持支援システムが『ON』になっていて、先行車追従操舵アシスト機能が作動中のとき
車線認識不能	 車線表示なし	 車線表示なし	 （白）	車線維持支援システムが『ON』になっているがカメラが車線を認識できないとき

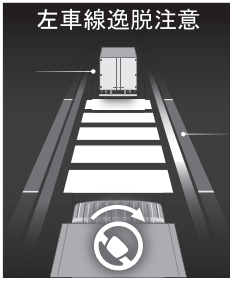
※1： メーターディスプレイに表示される内容は他機能の ON/OFF、車線や先行車の検知状態によって異なります。

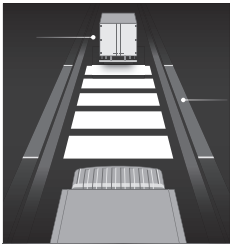
※2： 逸脱を検知した側の車線を橙色で表示します。

車線逸脱抑制機能表示

<table>
<tr><th rowspan="2">名称</th><th colspan="3">メーターディスプレイ表示</th><th rowspan="2">表示内容</th></tr>
<tr><th>メイン表示エリア</th><th>運転支援表示エリア・車線認識状態</th><th>表示灯・警告灯</th></tr>
<tr><td>車線逸脱抑制機能『OFF』</td><td>—
※1</td><td>—
※1</td><td>

（点灯）</td><td>車線逸脱抑制機能が『OFF』のとき</td></tr>
<tr><td>車線逸脱抑制機能『ON』右側車線作動中</td><td>

右車線表示（赤）</td><td rowspan="2">
（赤）
※2</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">車線逸脱抑制機能が作動しているとき</td></tr>
<tr><td>車線逸脱抑制機能『ON』左側車線作動中</td><td>

左車線表示（赤）</td></tr>
<tr><td>車線認識不能</td><td>
車線表示なし</td><td>
車線
表示なし</td><td>—</td><td>車線逸脱抑制機能が『ON』になっているがカメラが車線を認識できないとき</td></tr>
</table>

※1： メーターディスプレイに表示される内容は他機能の ON/OFF、車線や先行車の検知状態によって異なります。

※2： 逸脱しそうなことを検知した側の車線を赤色で表示します。

知　識

- 車線逸脱抑制機能が作動すると、メーターディスプレイのメイン表示エリアに表示される画面が、先進運転支援システム表示に自動で切り替わります。

レーンキープアシストの警告・表示

メーターディスプレイ表示

レーンキープアシストの作動状態は、メーターディスプレイの表示から確認することができます。

参照ページ
5-102 レーンキープアシストのメーターディスプレイ表示内容

車線逸脱抑制機能 OFF 表示灯



車線逸脱抑制機能を『OFF』にすると点灯します。また、レーンキープアシストシステムが故障して停止した場合にも点灯します。

手放し警報

車線維持支援システム作動中に手放し運転を検知すると、メーターディスプレイ表示と警報音で注意を促します。

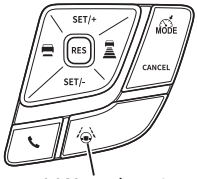
名称	メーターディスプレイ表示		警報音	表示内容
	メイン表示エリア	運転支援表示エリア		
手放し警報表示	ハンドル手放し検知 ハンドルを握って下さい。 （橙）	 （緑）	なし	車線維持支援システムが『ON』になっていて、作動中のときにハンドルから手を放して約 10 秒経過したとき
	ハンドル手放し検知 ハンドルを握って下さい。 （赤）	 （緑）	ピピピピピピ …（連続）	車線維持支援システムが『ON』になっていて、作動中のときにハンドルから手を放して約 20 秒経過したとき
	ハンドル手放し検知 ハンドルを握って下さい。 （赤）	 （白）	ピッピッピッ … （連続）	車線維持支援システムが『ON』になっていて、作動中のときにハンドルから手を放して約 25 秒経過したとき

知　識

- 手放し警報が表示された後も手放し運転が約 15 秒間続いた場合、車線維持支援システムは一時的に解除され、待機中となります。

レーンキープアシストの ON/OFF

LKA スイッチ



LKAスイッチ

車線維持支援システム作動状態表示



車線逸脱抑制機能 OFF 表示灯



車線維持支援システム

LKA スイッチを短押しすると車線維持支援システムが『ON』になり、運転支援表示エリアの車線維持支援システム表示が白色で表示されます。
その後もう一度 LKA スイッチを短押しすると『OFF』になり、運転支援表示エリアの車線維持支援システム表示が白色から灰色になります。

車線逸脱抑制機能

LKA スイッチを長押し（約 3 秒以上）すると車線逸脱抑制機能が OFF になり、車線逸脱抑制機能 OFF 表示灯が点灯します。もう一度 LKA スイッチを長押しすると『ON』になり、車線逸脱抑制機能 OFF 表示灯が消灯します。

また LKA スイッチを操作したとき、ブザーで次のことをお知らせします。

ブザー音	内　容
ピッ	各システム・機能が ON/OFF 切り替わったことを通知するとき
ピッピッ	各システム・機能が ON/OFF 切り替わらなかったことを通知するとき（システム故障時など）

アドバイス

- 車線維持支援システムはエンジン始動後、常に『OFF』になります。車線維持支援システムを使用する場合のみ、『ON』にしてください。
- 車線逸脱抑制機能はエンジン始動後、常に『ON』になります。車線逸脱抑制機能を使用しない場合は『OFF』にしてください。

知　識

- レーンキープアシストを『OFF』にしても車線逸脱警報 (LDWS) が『ON』になっているときは、メイン表示エリアおよび運転支援表示エリアの車線検知状態表示は消えません。

車線維持支援システム作動中の車線逸脱警報 (LDWS)

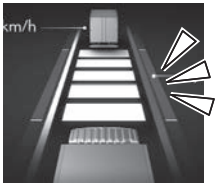
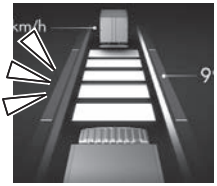
車線維持支援システム作動中の車線逸脱警報 (LDWS)

車線逸脱警報（LDWS）が『OFF』の状態から車線維持支援システムを開始したときは、車線逸脱警報（LDWS）が自動的に『ON』になります。

知　識

- 炎天下に駐車したときは、走行開始後しばらく車線逸脱警報（LDWS）が作動しない場合がありますが、異常ではありません。カメラ周辺の温度が正常になると機能が復帰します。
- 車線逸脱警報（LDWS）が作動したあとは、警報機能が一時的に停止します。停止後、数秒経過すると機能が復帰します。
- 次の場合、車線維持支援システム作動中の車線逸脱警報（LDWS）を一時的に解除します。
  - ターンシグナルスイッチを操作したとき
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - 急カーブを走行するとき
  - 走行中、車線が認識できなくなったとき

車線維持支援システム作動中に車線逸脱を検知すると、メーターディスプレイ表示と警報音でお知らせします。逸脱した側の車線は橙色で表示されます。

メーターディスプレイ表示		警報音	状況
メイン表示エリア	運転支援表示エリア		
 車線表示（橙）	 （橙）	ピピピピピ …（連続）	右側の車線を踏んだとき。逸脱した右車線を橙色で表示し、警報音が鳴ります。
 車線表示（橙）	 （橙）	ピピピピピ …（連続）	左側の車線を踏んだとき。逸脱した左車線を橙色で表示し、警報音が鳴ります。

知　識

- ターンシグナルスイッチを操作せずに車線変更すると警報音が鳴ります。
- 車線維持支援システム使用中に車線逸脱警報（LDWS）は『OFF』にできません。また、警報作動タイミングも早いに固定され、変更できなくなります。
- 車速が約 0 ～ 60km/h のときは車線維持支援システムの車線逸脱警報が警報を行います。車速が約 60 ～ 120km/h のときは車線逸脱警報（LDWS）が警報を行います。

参照ページ
5-90 車線逸脱警報（LDWS）

レーンキープアシストの一時解除

次の場合、レーンキープアシストの各機能は一時的に解除され、待機中となります。
- ハンドルに大きな力がかかっている時
- ABS/ASR/VDC が作動している時
- ASR/VDC 機能を無効化している時
- プリクラッシュブレーキが作動しているとき
- 急カーブを走行するとき
- 車線中央と車体中央の差が大きいとき
- 白（黄）線を認識していないとき
- ターンシグナルスイッチを作動したとき
- ハンドルをすばやく、または大きく回したとき
- 車線の幅が狭いときや広いとき
- ワイパーを高速で作動させたとき
- ドアが開いているとき
- シフトレバーを『P』、『R』、または『N』位置にしたとき
- 自車の車速が制御可能車速域より高い場合、もしくは低い場合
- パーキングブレーキを使用しているとき
- シートベルトを外しているとき

また、レーンキープアシストの各機能は以下の状況でも一時的に解除され、待機中となります。

【車線維持支援システム】
- 車線維持支援システム使用中、手放し運転が約 25 秒間続いたとき
- 全車速車間クルーズが作動していないとき
- 先行車と自車の横位置が大きくずれているとき（対象：先行車追従操舵アシスト機能）

【車線逸脱抑制機能】
- 車線逸脱抑制機能が長時間にわたって作動し続けたとき
- ハンドルから手を離した状態で一定時間内に複数回、車線逸脱抑制機能が作動したとき

知　識

- 運転者の意図しない状況で車線維持支援システムが解除された場合には、警告音『ピピッ』が鳴りシステムが解除されたことをお知らせします。

レーンキープアシストの故障時

レーンキープアシストが故障したときは、マスター警告灯と各機能の OFF 表示が点灯します。

名称	表示	表示内容	処置
マスター警告灯	 (橙)	レーンキープアシストに故障が発生したことを通知するとき	最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
車線維持支援システム作動状態表示『OFF』	 (灰)		
車線逸脱抑制機能 OFF 表示灯	 (橙)		

参照ページ
3-40 マスター警告灯

レーンキープアシストが正常に作動しないとき

レーンキープアシストは先進運転支援システムの 1 つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

次のような場合、システム・機能が正常に作動しないことがあります。
- 車線がかすれたり汚れたりしているとき
- 雨、雪、霧、逆光のとき
- 路面補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、車線と紛らわしい線があるときや、雨あがりなどで路面が光っているとき
- 2 本以上の車線が隣接しているとき
- 車線の幅が狭いときや広いとき
- 分岐路やインター出入り口、急なカーブ路を走行するとき
- 工事による車線規制により車線をまたいで走行するときや仮設の車線を走行するとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 荷物が片寄って積載された状態のときや、タイヤ空気圧の調整不良により車両が著しく傾いているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール、縁石、反射ポールなど）
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路を走行しているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 先行車との車間距離が縮まりすぎているとき

ふらつき警報

ふらつき警報は、車線内での車両の蛇行を検出し、メーターディスプレイ表示と警報音でドライバーに警告します。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

⚠ 警 告

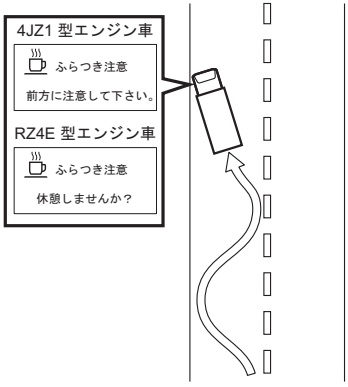
- **安全運転の責任はドライバーにあります。車を運転するときは、常に周囲を確認して安全を確保してください。**
- **ふらつき警報は、すべての状況で作動するわけではありません。また、車両のふらつきを自動補正するものではありません。ふらつき警報を頼りに運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ステレオカメラが車線を認識できない場合や、ステレオカメラが一時的に停止または故障した場合、ふらつき警報は作動しません。**

知　識

- 車両が蛇行しているかどうかは、過去数分間の走行データに基づいて認識されます。車両が蛇行し始めた直後は認識できません。また、車両が蛇行しなくなった後もシステムが作動し続ける場合があります。
- ふらつき警報は、ドライバーに注意を喚起する機能です。疲れたときや注意力散漫など、運転の集中力が低下したときは休憩することをおすすめします。

ふらつき警報の作動

ふらつき注意警告



約 70km/h 以上で走行中、車両が蛇行しているとシステムが検知すると警報を発します。このとき、メーターディスプレイに警告メッセージが表示されます。同時に警報音『ピピピピピ …（連続）』が鳴ります。

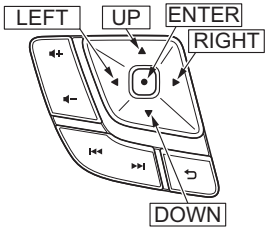
知　識

- 車速が約 65km/h 以下になると作動を停止します。その後、車速が約 70km/h を超えると再作動します。

参照ページ
5-115 ふらつき警報が正常に作動しないとき

ふらつき警報の設定

ふらつき警報の ON/OFF





メーターディスプレイスイッチでふらつき警報の ON/OFF を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ふらつき警報」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で ON/OFF を選択し、『ENTER』で決定します。

知 識

- ふらつき警報はエンジン始動後、常に『ON』になります。

ふらつき警報が正常に作動しないとき

ふらつき警報は先進運転支援システムの 1 つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

次の場合、ふらつき警報が正常に動作しないことがあります。
- 連続したカーブを走行するとき
- 車速が大きく変化したとき
- 車線変更の直後

ドライバーステータスモニター★

本システムは、ドライバーモニターカメラを使用して運転者の顔の向きや姿勢、表情などを測定し、運転者の状況に応じて警報音や音声警報、メーターディスプレイ表示などで注意や休憩を促すシステムです。

⚠ 警 告

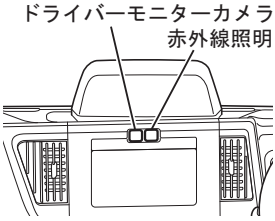
- ドライバーステータスモニターの限界
  - ドライバーステータスモニターを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し安全運転を行ってください。

⚠ 注 意

- システムの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
  - ドライバーモニターカメラおよび赤外線照明はいつもきれいにしておいてください。雨滴や結露、氷雪、指紋などの付着により、機能が低下する場合があります。ドライバーモニターカメラおよび赤外線照明の表面が汚れたときは、水を含ませた柔らかい布で軽く拭いてください。
  - ドライバーモニターカメラに強い衝撃を与えないでください。
  - ドライバーモニターカメラおよび赤外線照明の表面に傷をつけないでください。
  - ドライバーモニターカメラの取り付け位置を変更したり、取り外したり分解しないでください。取り外した場合は《日産販売会社》で点検･修理を受けてください。
  - ドライバーモニターカメラおよび赤外線照明にシールなどを貼らないでください。

知 識

- ドライバーモニターカメラおよび赤外線照明はインストルメントパネル中央部に取り付けられています。



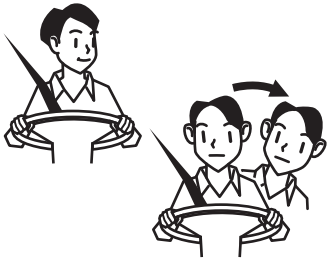
ドライバーステータスモニターの作動

ドライバーステータスモニターは、以下の場合にメーターディスプレイ表示と警報音、及び音声警報で警報を行います。

知　識

- 次の場合、警報を一時的に解除します。
  - ターンシグナルスイッチを操作したとき
  - 車線変更に相当する操舵力でハンドルを操作したとき
  - ブレーキペダルを踏んだとき
  - ブレーキが作動したとき
  - カーブを走行するとき
  - 車速が 60km/h 未満になったとき（除く視線検知警報）
  - 車速が 30km/h 未満になったとき（視線検知警報）
  - ドライバーステータスモニター本体の温度が高すぎる、または低すぎるとき

前方注意警報



以下の状況が一定時間継続しているとシステムが検知したとき、メーターディスプレイに「前方注意」が表示され、ブザー音『ピー』と音声警報「前方に注意してください」が鳴ります。

- 顔が進行方向を向いていない
- 運転姿勢が大きく崩れている

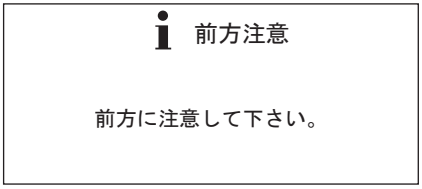
前方注意
前方に注意して下さい。

視線検知警報



以下の状況が一定時間継続しているとシステムが検知したとき、メーターディスプレイに「前方注意」が表示され、ブザー音『ピー』と音声警報「前方に注意してください」が鳴ります。

- 視線が進行方向を向いていない

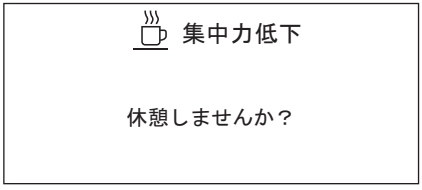


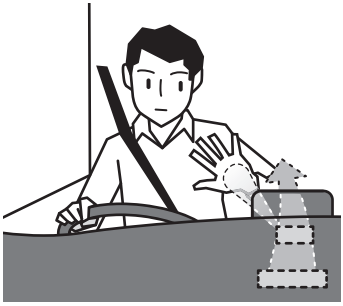
集中力低下警報



以下の状況が一定時間継続しているとシステムが検知したとき、メーターディスプレイに「集中力低下」が表示され、ブザー音『ピー』と音声警報「休憩しませんか」が鳴ります。

- 長い時間目を閉じている
- 目が十分に開いておらず、眠そうな目つきをしている





エアコン連動機能

運転者のまぶたの動きから強い眠気を感じているとシステムが判断したとき、エアコンから冷風を吹き出し注意を促します。
ドライバーモニターカメラと顔の間に手をかざすと、冷風を停止できます。

注 意

- **冷風を停止したいときは、体を大きく動かさないでください。ドライバーモニターカメラを手で覆ったり、前傾姿勢で塞ぐなどの動作では、システムが正しく機能しない可能性があります。**

知 識

- エアコン作動時にメーターディスプレイに警報が表示されない場合がありますが故障ではありません。
- 冷風は約 2 分間継続します。その後、元のエアコン設定に戻ります。
- エアコン連動機能が作動すると、エアコンの設定温度が 18 ℃に設定され、吹き出し口が「フェイス」に自動で切り替わります。
- デフロスター使用時は、デフロスターを優先して作動します。

参照ページ
5-129 ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の ON/OFF
5-130 ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の風量設定

ドライバーステータスモニターの作動条件

ドライバーステータスモニターは、以下の条件をすべて満たしているときに作動可能となります。

- 約 60km/h 以上で走行している。（除く視線検知警報）
- 約 30km/h 以上で走行している。（視線検知警報）
- 車両が直進状態で走行している。
- ターンシグナルスイッチを操作していない。
- ブレーキペダルを踏んでいない。

ドライバーステータスモニターのメーターディスプレイ表示内容

ドライバーステータスモニターの作動状態表示

システムの作動状態を示すアイコンがメーターディスプレイの運転支援表示エリアに表示されます。

メーターディスプレイ表示	表示内容
	ドライバーステータスモニター設定が『OFF』のとき
	ドライバーステータスモニター設定が『ON』、かつ運転者の顔を検知していないとき
	ドライバーステータスモニター設定が『ON』、かつ運転者の顔を検知したとき

運転者の顔検知および顔認証状態表示

運転者の顔検知および顔認証の状況により、割り込み表示がメーターディスプレイに表示されます。

メーターディスプレイ表示	表示内容
	ドライバーステータスモニター設定が『OFF』、かつ運転者の顔を検知したとき
	• ドライバーステータスモニター設定が『ON』、かつ運転者の顔登録が完了したとき • ドライバーステータスモニター設定が『ON』、かつ運転者の顔認証が完了したとき

知　識

- 次のような場合、「顔検知完了」が表示されないことがあります。
  - 他の表示がメーターディスプレイに表示されているとき
  - システムに異常があるとき

参照ページ
5-121 顔認証機能について

顔認証機能について

ドライバーステータスモニターはドライバーモニターカメラで運転者を認証し、記憶した運転者が選択している各種設定を自動的に復元することができます。復元可能な設定は次の通りです。

- ドライバーステータスモニターの ON/OFF
- ドライバーステータスモニターの警報音の音量
- ドライバーステータスモニターの感度
- ドライバーステータスモニターの画像記録の ON/OFF
- ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の ON/OFF

注 意

- **顔認証機能は、すべての状況で運転者個人を正しく識別できるものではありません。**

知 識

- 以下の状況では、顔認証は作動しません。
  - 前回の運行時にドライバーステータスモニター設定を『OFF』にしていた場合
  - 運転者がマスク等、口を隠すものを着用している場合
  - 赤外線を通しにくいメガネやサングラス、その他目や顔を隠すものを装着しているとき
- 以下の状況では、顔認証が正常に作動しない場合があります。
  - 顔の特徴が似ている人物が登録されたとき
  - メガネとコンタクトレンズを付け替えた場合
- 前回の運行時に顔認証機能を『OFF』に設定していた場合でも、顔認証は行われます。このとき、顔認証が成功しても各種設定は復元されません。
- 顔登録が完了していない運転者であっても、システムが過去に認識した運転者情報（最大 5 名分）と一致した場合、各種設定を呼び出します。

顔登録

メーターディスプレイの「車両設定」から、運転者の顔を登録します。

参照ページ
5-127 ドライバーステータスモニターの顔登録

顔認証

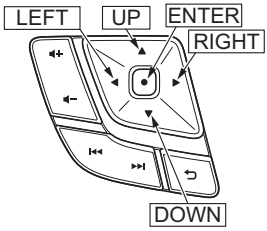
顔検知完了

顔検知が完了しました。
システムが作動します。

エンジン始動後、自動で運転者の顔認証を行います。顔認証時は車両を停車させ、運転席から正面を向いた状態で行います。
顔認証が成功すると、メーターディスプレイに「顔検知完了」が表示されます。

参照ページ
5-126 ドライバーステータスモニターの顔認証の ON/OFF

メーターディスプレイスイッチ

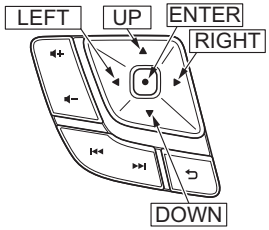


ドライバーステータスモニターの各種設定を行うときに使用します。

参照ページ
5-123 ドライバーステータスモニターの ON/OFF
5-124 ドライバーステータスモニターの警報音の音量を調整するとき
5-125 ドライバーステータスモニターの感度をセットするとき
5-126 ドライバーステータスモニターの顔認証の ON/OFF
5-127 ドライバーステータスモニターの顔登録
5-128 ドライバーステータスモニターの画像記録の ON/OFF
5-129 ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の ON/OFF

ドライバーステータスモニターの設定

ドライバーステータスモニターの ON/OFF



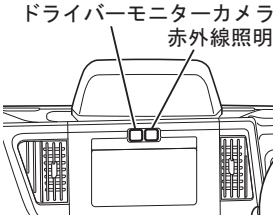


メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニターの ON/OFF を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

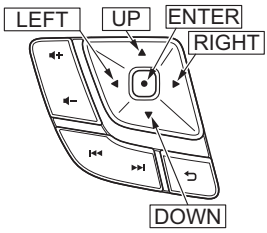
2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ドライバーモニター」→「ON/OFF 設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で ON/OFF を選択し、『ENTER』で決定します。



知　識

- ドライバーステータスモニターを『ON』にすると、ドライバーモニターカメラの赤外線照明が点灯します。
- ドライバーステータスモニターはエンジン始動後、顔検知のため自動で『ON』になりますが、運転者が前回の運行時にドライバーステータスモニターを『OFF』にしていた場合や、顔認証後に保存した設定によってはその後『OFF』に切り替わります。

ドライバーステータスモニターの警報音の音量を調整するとき





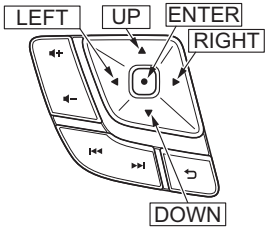
メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニターの警報音の音量を調整することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ドライバーモニター」→「警報音量調整」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。音量は「OFF」、「音量中」、「音量大」の 3 段階で調整できます。

ドライバーステータスモニターの感度をセットするとき





メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニターの感度を調整することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

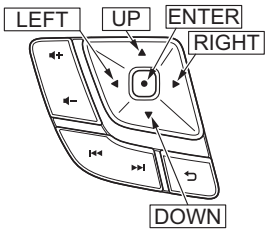
参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ドライバーモニター」→「警報感度設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。感度は「高」、「低」の 2 段階で調整できます。

知　識

- 感度を「高」にすると、ドライバーステータスモニターの警報が発せられやすくなります。

ドライバーステータスモニターの顔認証の ON/OFF





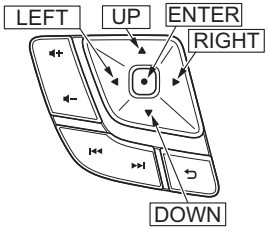
メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニターの顔認証の ON/OFF を設定することができます。
顔認証を『ON』にして運転者を登録すると、その運転者が前回降車時に選択していた各種設定値を自動で呼び出せます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ドライバーモニター」→「顔認証設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。

ドライバーステータスモニターの顔登録





ドライバーステータスモニターの顔認証が『ON』のとき、運転者の顔を登録することができます。
顔登録時は車両を停車させ、運転席から正面を向いた状態で行います。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

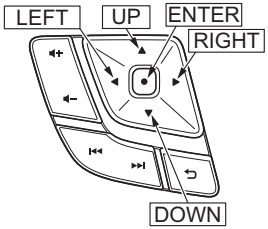
参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ドライバーモニター」→「顔登録開始」の順に選択します。
3. 登録が完了すると、メーターディスプレイに「顔検知完了」が表示されます。

知　識

- 顔登録は最大 5 名まで可能です。6 人目の顔登録を行うと、過去の登録情報が上書きされます。

ドライバーステータスモニターの画像記録の ON/OFF





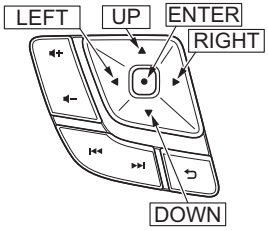
メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニターの画像記録（警報時の警報内容、車両情報、および撮影画像）の ON/OFF を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ドライバーモニター」→「画像記録設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。

ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の ON/OFF





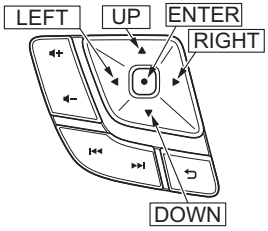
メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の ON/OFF を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ドライバー状態監視」→「ドライバーモニター」→「エアコン連動設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。

ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の風量設定





メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の風量を設定することができます。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「オートエアコン」→「ドライバーモニター風量設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、『ENTER』で決定します。風量は「風量少」、「風量中」、「風量大」の 3 段階で調整できます。

ドライバーステータスモニターが正常に作動しないとき

次のような場合、運転者の状況を正確に認識できないためシステムが正常に作動しないことがあります。運転姿勢や車両の状況に問題がない場合でも警報が続くときは、一旦システムを『OFF』にしてください。その後、再度『ON』にして作動を確認してください。

- メーターなどの確認で伏し目になったとき
- 笑ったときやまぶしいときなど、目を細めたとき
- まばたきを繰り返したとき
- 前のめりになったり、窓から顔を出したりして運転姿勢が崩れたとき
- 太陽光などの強い光が直接運転者やドライバーモニターカメラを照らしているとき
- 太陽光などの運転者を照らす光の強さが急激に変化するとき
- 太陽光などの強い光により、運転者に影がかかっているとき
- 運転者がメガネやマスク、眼帯、帽子、ヘルメット、タオルといった目や表情を隠すものを装着しているとき
- 運転者が黒色マスクや特殊な素材のマスクを装着しているとき
- 運転者がマスクとサングラスを併用しているとき
- 運転者が赤外線を通しにくいサングラスを装着しているとき
- メガネやサングラスに外の風景が強く映りこんでいるとき
- メガネやサングラスに映りこんだ赤外線照明の光が目に被るとき
- 運転者とドライバーモニターカメラおよび赤外線照明の間に遮蔽物があるとき
- 車内に赤外線を照射する機器が搭載されている場合
- 運転者の背後に人物の写真や助手席の人の顔があるとき
- 正しい運転姿勢をとっていないとき
- 赤外線照明が消灯しているとき
- 停車しているとき
- 運転者の背後に赤外線の反射率が高いものがあるとき
- ドライバーモニターカメラのレンズ部が汚れているとき
- ドライバーモニターカメラの認識エリアから外れているとき
- センターシートの同乗者が運転席側へ寄りかかるか、もたれかかったとき

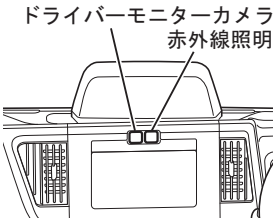
次のような場合、車両の状況を正確に認識できないためシステムが正常に作動しないことがあります。

- 強風や悪路を走行していることにより車両が揺れているとき
- 走行中に車線変更や加減速を繰り返しているとき

ドライバーステータスモニターの故障時

異常時には以下の表示がメーターディスプレイに表示されます。

名　称	表示画面	表示内容	処　置
ドライバーモニター異常	ドライバーモニター異常	システムが故障したとき	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。



ドライバーモニターカメラに異常がある場合は、赤外線照明が消灯します。
ドライバーステータスモニターを『ON』にしているときに赤外線照明が消灯している場合は、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知　識

- ドライバーモニターカメラが汚れていたり、カメラの視界を遮るものがある場合には、赤外線照明が消灯することがありますが故障ではありません。カメラ表面の汚れやゴミなどをふき取るか、遮蔽物を取り除いてください。

ドライバー異常時対応システム（EDSS）★

健康起因などによりドライバーに異常が発生した際に、車内外へ異常事態を報知するとともに、車両の減速を行い停車させることができるシステムです。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

警　告

- **安全運転の責任はドライバーにあります。ドライバー異常時対応システム（EDSS）は健康起因などによりドライバーに異常が発生した場合に備え、安全に車両を減速・停止する支援を目的としていますが、さまざまな条件によりその効果は変わります。そのため、常に最大の効果を発揮できるものではありません。システムを過信せず、安全運転・健康管理につとめてください。**
- **ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、どのようなドライバーに異常が発生したときでも、必ず車両が減速・停止するものではありません。**

知　識

- 次の場合、ドライバー異常時対応システム（EDSS）は機能を停止します。
  - スタータースイッチを『LOCK』位置にしたとき
  - バッテリーが上がったとき
- 運転者の体調の急変等に伴い、危険を回避するためにシステムを作動させた場合に限り、システム作動に対する責任は問われません。
- EDSS は Emergency Driving Stop System（エマージェンシー ドライビングストップ システム）の略です。
- システムの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
  - ドライバーモニターカメラ付近にドリンクホルダーなどのアクセサリーを取り付けないでください。運転者の状況を正確に認識できず、システムが正常に作動しないことがあります。



ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動の流れ

EDSS 作動スイッチを押した場合、もしくはドライバーステータスモニターによりドライバー異常が検知された場合に、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動します。システムが作動すると、ドライバーがアクセルペダルを踏んでいる場合でもアクセルペダル操作は無効となり、システムによるブレーキが優先されます。停車後は、ドアロックが自動で解除され、安全のためブレーキがかかったままになります。

参照ページ
5-138 EDSS 作動スイッチ
5-116 ドライバーステータスモニター★

知　識

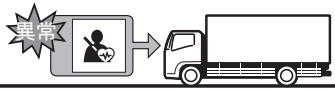
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、スタータースイッチが『ON』位置のとき、システムのスタンバイ状態になります。
- ドライバーがブレーキペダルを踏んでいる場合は、システムによる制動と、ブレーキペダル操作による制動のうち、強い制動を優先します。
- システム作動中のアクセルペダル操作は、ブレーキ作動の開始からシステム解除されるまでの間、無効になります。
- EDSS 作動スイッチと自動検知いずれか先に入力された信号に従い、システムが作動します。ただし、自動検知によるブレーキ作動が確定する前に EDSS 作動スイッチが押された場合は、スイッチによる作動を優先します。

EDSS 作動スイッチによる作動

①通常走行



②ドライバー異常発生
（EDSS作動スイッチにて作動開始）



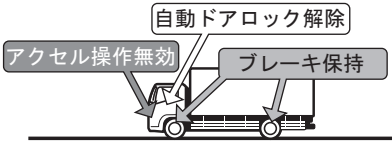
③車内報知・車外報知・
ブレーキ作動



●車内報知
・音声警報「非常ブレーキが作動しました」
・メーターディスプレイ「非常ブレーキ作動中」表示
●車外報知
・ホーン吹鳴（断続）
・ハザードランプ点滅
・ストップランプ点滅（高速）

EDSSキャンセルスイッチによるシステム解除操作

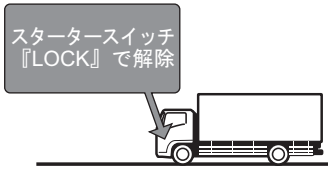
④停車



●車内報知
・音声警報「非常ブレーキが作動しました。警察救急に連絡してください」
・メーターディスプレイ「非常ブレーキ作動中」表示
●車外報知
・ホーン吹鳴（断続）
・ハザードランプ点滅
・ストップランプ点滅（高速）

停車後の解除操作

⑤停車後のシステム解除



自動検知による作動

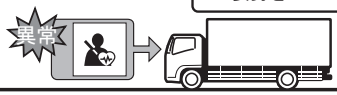
①通常走行



②ドライバー異常発生
（ドライバーステータスモニターの
異常検知により作動開始）

●車内報知
・音声警報「姿勢を正してください」
・メーターディスプレイ
「姿勢を正して下さい。」

ドライバーの姿勢改善による作動キャンセル



③車内報知・車外報知・
弱いブレーキ作動（約3秒間）

●車内報知
・音声警報「非常ブレーキが作動しました」
・メーターディスプレイ
「非常ブレーキ作動中」表示
●車外報知
・ストップランプ点灯

EDSSキャンセルスイッチによるシステム解除操作



④車内報知・車外報知・
ブレーキ作動

●車内報知
・音声警報「非常ブレーキが作動しました」
・メーターディスプレイ
「非常ブレーキ作動中」表示
●車外報知
・ホーン吹鳴（断続）
・ハザードランプ点滅
・ストップランプ点滅（高速）

EDSSキャンセルスイッチによるシステム解除操作



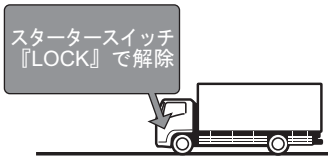
⑤停車

●車内報知
・音声警報「非常ブレーキが作動しました。警察救急に連絡してください」
・メーターディスプレイ
「非常ブレーキ作動中」表示
●車外報知
・ホーン吹鳴（断続）
・ハザードランプ点滅
・ストップランプ点滅（高速）

停車後の解除操作



⑥停車後のシステム解除



ドライバー異常時対応システム（EDSS）の警告・表示

EDSS 警告灯

EDSS 警告灯



（橙）

ドライバー異常時対応システム（EDSS）故障により、システムが作動を停止したとき点灯します。

ドライバー異常時対応システム（EDSS）の警報

ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動中は、メーターディスプレイ表示および音声で警報を行います。

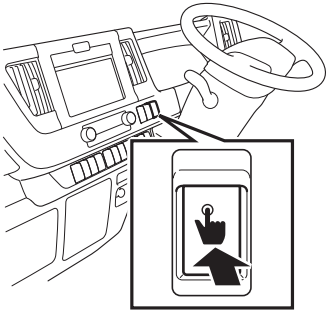
状況	メーターディスプレイ表示	音声警報
ドライバー状態異常検知時（走行中）	姿勢崩れ検知 姿勢を正して下さい。	「姿勢を正してください」
制動時（走行中）	非常ブレーキ作動中 	「非常ブレーキが作動しました」
停車中	非常ブレーキ作動中 解除する場合は エンジンを停止して下さい。	「非常ブレーキが作動しました。警察救急に連絡してください。」

また、ストップランプ（制動灯）やハザードランプ、およびホーンで車外に注意喚起を行います。

参照ページ
5-143 ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両の見分けかた

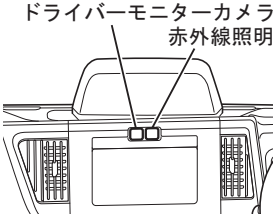
ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動と解除

EDSS 作動スイッチ



EDSS 作動スイッチを押し、システムが作動すると、車内報知・車外報知するとともにブレーキを作動させ停車します。

ドライバーモニターカメラ



ドライバーステータスモニターがドライバー異常を検知した場合や、ドライバー異常とともに車両挙動の異常が検知され、車線逸脱警報（LDWS）が作動した場合、弱いブレーキを作動させるとともにドライバーに注意喚起を行います。
約 3 秒経過してもドライバーの応答がなかった場合は、車内報知・車外報知するとともに強いブレーキを作動させ停車します。

自動検知の条件

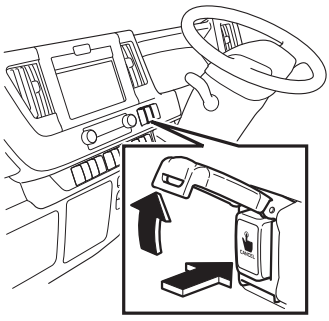
項目	イメージ	内容
突っ伏し		ドライバーが前方に倒れ、ハンドル付近まで顔が来ている姿勢が継続している状態
うつむき		ドライバーの顔が下を向いている姿勢が継続している状態
仰け反り		ドライバーの上半身が後方に傾き、顔が上を向いている姿勢が継続している状態
えび反り		ドライバーの上半身が反り上がり、顔が上に向いている姿勢が継続している状態
首のみ横倒れ		ドライバーの頭が左または右に傾いている姿勢が継続している状態
横倒れ		ドライバーの上半身が左または右に傾き、顔も同方向に傾いている姿勢が継続している状態
横もたれ		ドライバーの上半身が左または右に傾いている姿勢が継続している状態
長時間閉眼		ドライバーが長時間目を閉じている状態

知　識

- 以下のとき、ドライバー異常時対応システム（EDSS）は自動検知による作動を行いません。
  - ドライバーステータスモニターを『OFF』にしているとき
  - 車速が 60km/h を下回っているとき
- ドライバー異常検知のみでもブレーキは作動しますが、ドライバー異常検知とともに車両挙動の異常が検知され、車線逸脱警報（LDWS）が作動している場合は、ブレーキ作動開始までの時間が短くなる場合があります。

参照ページ
5-116 ドライバーステータスモニター★
5-90 車線逸脱警報（LDWS）

EDSS キャンセルスイッチ



ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動中に EDSS キャンセルスイッチを押すと、システムが解除されます。
ドライバーが運転を継続できるにもかかわらず、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した場合は、スイッチを押すと通常走行を継続することができます。
システム解除操作をするまで、車内報知、車外報知、ブレーキ作動は機能し続けます。

知　識

- ドライバー異常時対応システム（EDSS）によるブレーキ作動後、車両が停止したあとは、EDSS キャンセルスイッチではシステムの解除ができません。解除するには、スタータースイッチを『LOCK』位置にしてください。
- EDSS キャンセルスイッチを押した後に変速できない場合は、以下のいずれかの操作を行うことで変速できるようになります（デュアルクラッチ式 AMT 車）。
  - シフトレバーを『N』位置にした後、『D』位置にする
  - 停車してスタータースイッチを『LOCK』位置にした後、エンジンを再始動する

停車後のドライバー異常時対応システム（EDSS）システム解除

車内外の安全を確認のうえ、シフトレバーを『N』位置にし、スタータースイッチを一旦『LOCK』位置にし再度エンジンをかけてください。システム解除操作をするまで、車内報知、車外報知、ブレーキ作動は機能し続けます。

知　識

- システム作動による停車後も、エンジンはかかったままになります。
- 停車後は自動でパーキングブレーキがかかります。

ドライバー異常時対応システム（EDSS）と同時作動する場合があるシステムについて

ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、以下のシステムと同時に作動する場合があります。

システム名	ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動中		ドライバー異常時対応システム（EDSS）解除後
ABS	ABS 優先作動 ※ 1		作動条件が成立中であれば作動継続
VDC	VDC 優先作動（システム ON 時）※2		
プリクラッシュブレーキ	プリクラッシュブレーキ優先作動（システム ON 時）※ 3		
車線逸脱警報（LDWS）	作動条件が成立中であれば同時作動		
レーンキープアシスト	作動条件が成立中であれば同時作動		
ふらつき警報	作動条件が成立中であれば同時作動		
全車速車間クルーズ	自動検知による弱いブレーキ作動時	・加速指示：受け付けません ・減速指示：制動力の大きい方を優先します	
	ブレーキ作動時	作動しません	
ecostop	作動しません		
HSA/ オートブレーキホールド	ドライバー異常時対応システム（EDSS）優先作動		

※ 1： ブレーキ制御以外の機能（車内外報知、メーターディスプレイ表示など）は、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が優先して作動します。

※ 2： ブレーキ制御以外の機能（車内外報知、メーターディスプレイ表示など）は、それぞれ同時に作動します。

※ 3： ブレーキ制御および車内報知は、プリクラッシュブレーキが優先して作動します。上記以外の機能は、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が優先して作動します。

知　識

- ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動中に車両挙動が不安定になる可能性がある場合は、ABS および VDC が優先して作動します。
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動中に先行車に衝突する可能性がある場合は、プリクラッシュブレーキが優先して作動します。
- システムによる停車後は、ブレーキがかかったままになります。HSA/ オートブレーキホールドよりも優先して作動するため、HSA/ オートブレーキホールドを解除してもドライバー異常時対応システム（EDSS）のブレーキがかかったままの状態は解除されません。

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両について

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両の見分けかた

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した場合は車内、車外に報知します。他の駐停車している車両との判別を容易にするため、車内外報知はドライバー異常時対応システム（EDSS）の解除操作をするまで継続して作動します。

- 車内報知
  - 音声警報（ドアスピーカー）
  - メーターディスプレイ警告表示
- 車外報知
  - ホーン吹鳴（断続）
  - ハザードランプ点滅
  - ストップランプ点滅

参照ページ
5-140 停車後のドライバー異常時対応システム（EDSS）システム解除

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動している車両への救助について

停車して車内外報知が継続している場合は、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が解除されていません。ドライバーを救助する際は、次のような処置を行い、安全確保や被害拡大の防止に努めてください。また、可能であればできるだけ安全なところへ車両を移動させてください。

- タイヤの前後に輪止めを掛ける。
- スタータースイッチを『LOCK』位置にし、ドライバー異常時対応システム（EDSS）を解除する。

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が正常に作動しないとき

次のような場合、ドライバー異常時対応システム（EDSS）は正常に作動しません。

- バッテリー電圧が低い、または衝突などにより車両の電源が消失し、正常に ECU や報知が動作しないとき
- エア圧が低い、または衝突などにより車両のエアが消失し、正常にブレーキが作動しないとき
- 衝突などにより、車両が損傷するなどして ECU やハーネスなどの構成部品が機能しなくなったとき
- EBS や ABS に異常が発生しているとき
- スタータースイッチを『ON』位置にしても、EDSS 警告灯（橙）が約 2 秒間点灯しなかったとき
- EDSS 警告灯（橙）が点灯しているとき

以下の状況では、ドライバー異常時対応システム（EDSS）は十分に効果が得られない場合があります。
・ブレーキがフェード現象を起こしているとき
・車両速度がブレーキ性能の限界を超えているとき
・ブレーキに整備不良があるとき
・凍結路など滑りやすい路面を走行しているとき
・脱輪、パンクなどの危険要因が生じたとき

次のような場合、ドライバーモニターカメラが運転者の状況を正確に認識できないため、自動検知が正しく作動しないことがあります。
・笑ったときやまぶしいときなど、目を細めたとき
・まばたきを繰り返したとき
・前のめりになったり、窓から顔を出したりして運転姿勢が崩れたとき
・オーディオやカップホルダーに手を伸ばすなどして、上記に似た姿勢の崩れが一定時間続いたとき
・太陽光などの運転者を照らす光の強さが急激に変化するとき
・太陽光などの強い光により、運転者に影がかかっているとき
・運転者がメガネやマスク、眼帯、帽子、ヘルメット、タオルといった目や表情を隠すものを装着しているとき

ドライバーステータスモニターのその他の注意事項については、『ドライバーステータスモニター★』を参照してください。

参照ページ
5-116 ドライバーステータスモニター★

可変配光型ランプ★

本システムは、カメラを使用して夜間走行時に前方状況を判断し、ヘッドランプの照射範囲､照射部分や明るさを自動的に変化させるシステムです。

参照ページ
5-6 先進運転支援システムの注意事項

注 意

- **本システムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えるなど、安全運転を行ってください。**

可変配光型ランプの作動

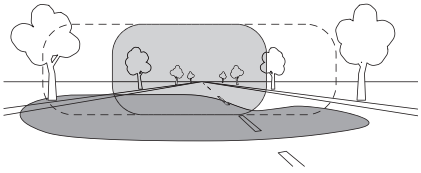
周囲の明るさから、システムが夜間と判断すると可変配光型ランプは作動します。

知 識

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
  - 前方車両のランプの明るさ
  - 前方車両の動きや向き
  - 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

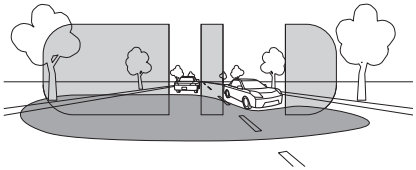
参照ページ
5-148 可変配光型ランプが正常に作動しないとき

先行車、対向車がいないとき



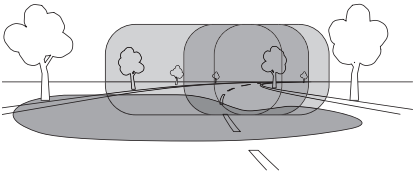
車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。

先行車、対向車がいるとき



ハイビームの配光を、前方車両の部分だけ遮光して照射します。

カーブ路を走行しているとき



進行方向側をハイビームでより明るく照らします。

可変配光型ランプの作動条件

可変配光型ランプは、以下の条件をすべて満たしているときに作動可能となります。
- スタータースイッチが『ON』位置のとき
- ライティングスイッチが『AUTO』位置のとき
- レバーがハイビーム位置のとき
- ロービームが点灯しているとき
- メーターディスプレイの可変配光型ランプ設定が『ON』になっているとき
- シフトレバーが『R』位置以外のとき
- 時速 15km/h 以上で走行しているとき
- システムが夜間と判断したとき
- トンネル以外の場所にいるとき

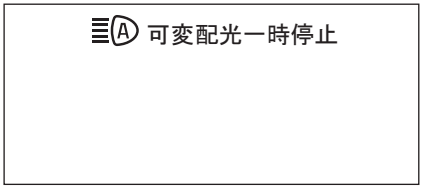
可変配光型ランプの警告・表示

可変配光型ランプ警告灯（橙）



可変配光型ランプまたは関連システムに異常があるとき点灯します。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

可変配光型ランプ一時停止警告



カメラシステムが一時停止しているときに表示されます。本画面が表示された場合は、《日産販売会社》へご連絡ください。

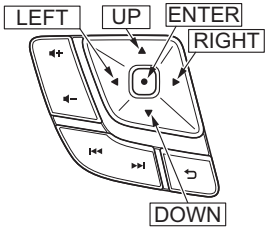
可変配光型ランプ表示灯（緑）



可変配光型ランプが作動可能な状態のときに点灯します。周囲の明るさから、システムが夜間と判断すると可変配光型ランプは作動します。

可変配光型ランプの設定

可変配光型ランプの ON/OFF





1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「ランプ」→「可変配光ヘッドランプ設定」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、ON/OFFを切り替えます。『ENTER』で決定します。

可変配光型ランプが正常に作動しないとき

可変配光型ランプは先進運転支援システムの１つです。システムに異常があると正常に作動しません。

参照ページ
5-7 先進運転支援システムに異常があったとき

以下の状況では、可変配光型ランプが正常に作動しない場合があります。視界や道路状況、交通状況に応じて、ハイビームとロービームを手動で切り替えてください。

- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- フロントガラスが汚れているときや、曇っているとき
- フロントガラスにひび割れや破損があるとき
- カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- カメラセンサーが極端に高温になっているとき
- 周囲に街灯、電光掲示、信号機など、車両の灯火類に似た光源があるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- 車両前方に標識やミラーなど光を強く反射するものがあるとき
- 市街地など光源の多い環境を走行するとき
- パンクやけん引、重い荷物などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに切り替えているとき
- 前方車や対向車のランプが暗いときや球切れしているとき
- 薄暗い早朝や夕暮れなど、周囲の暗さが不十分なとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 可変配光型ランプ警告灯（橙）が点灯しているとき
- メーターディスプレイに「フロントカメラ一時停止」「フロントカメラ故障」が表示されたとき
- PCB OFF 表示灯、LDWS OFF 表示灯が点灯しているとき（運転者の操作時を除く）
- フロントガラスが凍結しているとき
- 自車のヘッドランプが駐車車両に反射し、光源と認識したとき

以下の場合は、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切り替わらない場合があります。

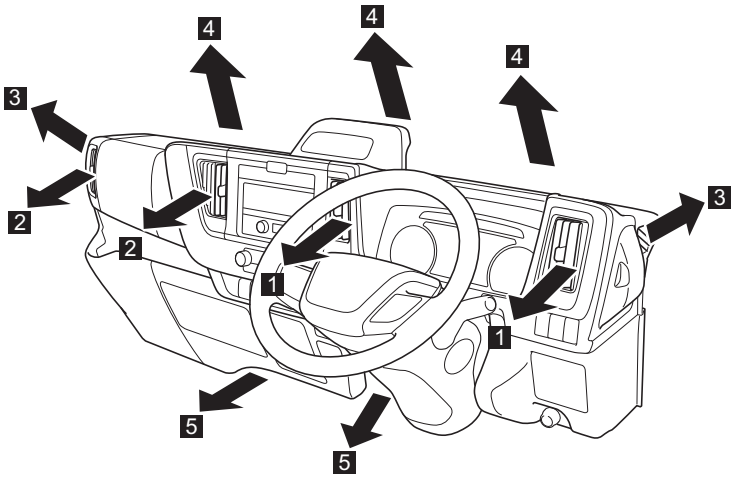
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が無灯火のとき
- 落ち葉や雪など、カメラの視界を遮るものがあるとき

快適装備 6

● フロント吹き出し口 6-3
● リヤ吹き出し口★ 6-4
● ヒーター / マニュアルエアコン★ 6-6
● オートエアコン★ 6-13
● リヤクーラー★ 6-26
● リヤヒーター★ 6-27
● クーラーガス（冷媒量） 6-28
● ルームランプ（室内灯） 6-28
● ステップランプ★ 6-30
● サンバイザー（日よけ） 6-31
● アクセサリーソケット 6-31
● USB チャージャー★ 6-32
● ポケット（小物入れ）★ 6-33
● センターポケット 6-34
● カメラカバーポケット 6-34
● グローブボックス（小物入れ）★ 6-35
● 助手席カップホルダー＆ポケット 6-35
● センターコンソールボックス（小物入れ）★ 6-36
● シートバックポケット 6-37
● シートサイドトレイ★ 6-38
● ヘッダートレイ★ 6-38
● センターシートバックトレイ★ 6-39
● カップホルダー★ 6-39
● バックパネルトレイ（小物入れ）★ 6-39
● リヤトレイ★ 6-41
● シートバックスペース★ 6-41

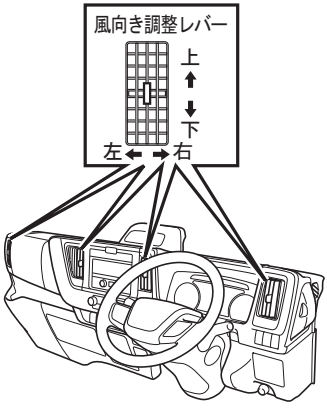
- ハンガーフック★ 6-42
- ETC2.0 車載器★ 6-42
- ラジオ（USB/Bluetooth® 付き）★ 6-66
- ハンズフリー操作 ★ 6-93
- オーディオシステムの使用★ 6-102
- アンテナ 6-107

フロント吹き出し口



No.	吹き出し口	特徴
1	運転席側吹き出し口	レバーで風向きを調整できます。
2	助手席側吹き出し口	レバーで風向きを調整できます。
3	サイドデフロスター	ドアウインドーガラスへ
4	デフロスター	フロントウインドーガラスへ
5	足元吹き出し口	足元へ

風向き調整レバー

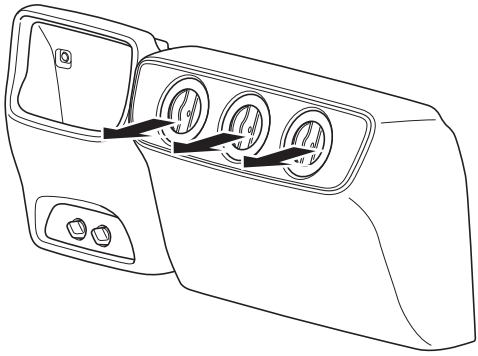


吹き出し口からの風向きを調整することができます。風向き調整レバーを下げると吹き出し口を閉じることができます。

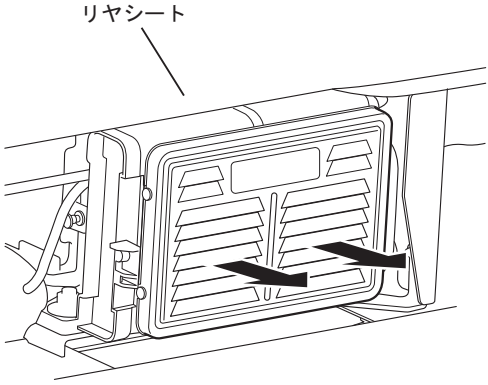
リヤ吹き出し口★

ダブルキャブ車

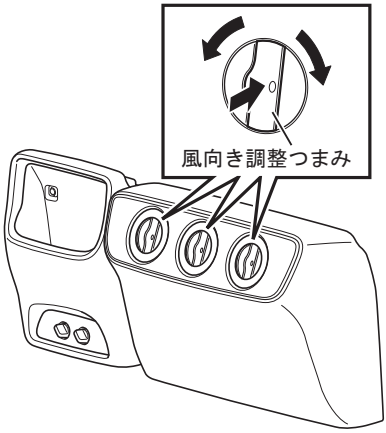
リヤクーラー★



リヤヒーター★



風向き調整つまみ（リヤクーラー）★



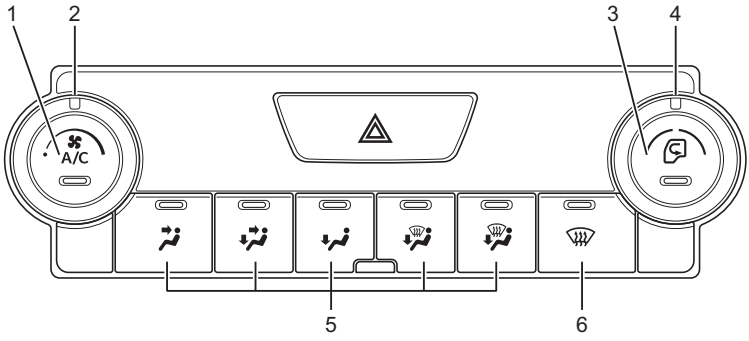
つまみの中央部分を押すと開きます。吹き出し口を時計回りまたは反時計回りに回して、空気の流れる方向を調整することができます。

ヒーター / マニュアルエアコン★

知　識

- エンジン保護のため、一部の架装物によってはエアコン作動中に PTO スイッチを『ON』にすると、エアコンが停止します。エアコンを使用するときは、PTO スイッチを『OFF』にし、エアコンを作動させてください。

スイッチ、レバーの使いかた



No.	名称
1	エアコン（A/C）スイッチ
2	ファンスイッチダイヤル
3	内外気切替えスイッチ
4	温度調整ダイヤル
5	吹き出し口切替えスイッチ
6	デフロスタースイッチ

1. エアコン（A/C）スイッチ

エアコンを使用するときに押します。このとき、スイッチ内のパイロットランプが点灯し、エアコンが作動していることを表示します。また、暖房使用時には除湿暖房として使用できます。

知　識

- エアコン（A/C）スイッチを『ON』にしても、ファンスイッチダイヤルが『OFF』の状態ではエアコンは作動しません。必ずファンスイッチを『ON』の状態にしてください。
- エアコンを常用しないときも、装置各部のオイルを切らさないためにときどきエンジンを低回転させた状態で、数分間エアコンを作動させてください。

2. ファンスイッチダイヤル

エアコン風量を調整することができます。

3. 内外気切替えスイッチ

スイッチ	目的	
OFF	外気導入	換気をする位置（通常の位置）
ON	内気循環	トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているとき。

知　識

- 長時間の内気循環の使用は、ガラスが曇り易く視界が悪くなります。

4. 温度調整ダイヤル

お好みの車内温度にセットすることができます。調整ノブを一番左側の位置にすると吹き出し温度が低くなり、ノブを一番右側にすると吹き出し温度が高くなります。

5. 吹き出し口切替えスイッチ

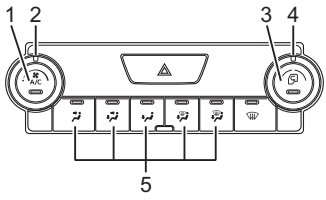
レバー位置	目的	吹き出し口
	フェイス	1、2 より吹き出します。
	バイレベル	1、2、5 より吹き出します。
	足元	5 より吹き出します。
	足元、 デフロスター 1	5 より吹き出し 3、4 からわずかに吹き出します。
	足元、 デフロスター 2	5 より吹き出し 3、4 の吹き出し量が『 』より増加します。

6. デフロスタースイッチ

スイッチ	目的	吹き出し口
ON	デフロスター	3、4 より吹き出します。

換気

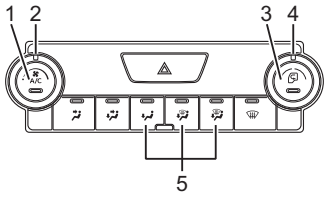
外気導入

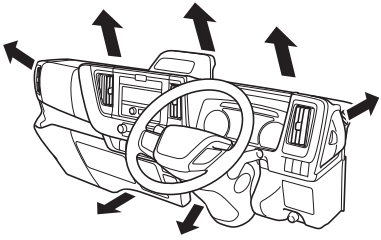


エアコン（A/C）スイッチ 1 を『OFF』にします。お好みの吹き出し口切替えスイッチ 5 を押します。内外気切替えスイッチ 3 を OFF にします。温度調整ダイヤル 4 を季節や気候により、お好みの位置に合わせてご使用ください。
ファンスイッチダイヤル 2 でお好みの風量に調整します。

ヒーター（暖房）の使いかた

普通暖房





吹き出し口切替えスイッチ 5 の『』か『』『』を ON にします。『』を ON にすると足元を暖めながらフロントウインドーガラスの曇りを取ることができます。
内外気切替えスイッチ 3 を OFF にします。
温度調整ダイヤル 4、ファンスイッチダイヤル 2 はお好みに合わせて調整します。
エアコン（A/C）装着車では、エアコン（A/C）スイッチ 1 を『ON』にすると、除湿しながら暖房することができます。

知　識

【4JZ1 型エンジン車】

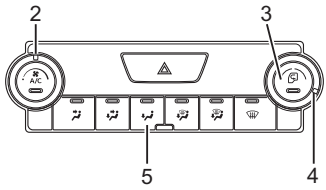
- ヒーターはエンジンの冷却水を利用していますので、冷却水温が低い場合はヒーターの効きが弱くなります。ヒーターの効果を高めたいときは、暖機スイッチを『ON』にしてください。

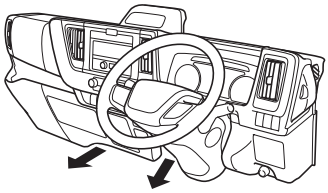
【RZ4E 型エンジン車】

- 以下の条件をすべて満たすと、電気補助ヒーター（PTC ヒーター）が作動し、エンジン冷間時にヒーターの効果を高めます。
  - エンジンが冷えている
  - 温度調整ダイヤルが HOT 側いっぱいまで回されている
  - ファンが作動している

参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）

強力暖房





吹き出し口切替えスイッチ 5 の『』を ON にし、内外気切替えスイッチ 3 を ON にし温度調整ダイヤル 4 を HOT 側いっぱいの位置にします。
ファンスイッチダイヤル 2 を『最大風量』の位置にします。
暖機スイッチを『ON』にします。

参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）

知　識

- 長時間の内気循環の使用は、ガラスが曇り易く視界が悪くなります。

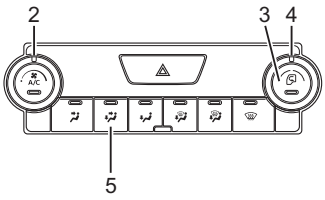
【4JZ1 型エンジン車】

- 暖機スイッチを『ON』にすると暖房を促進することができます。

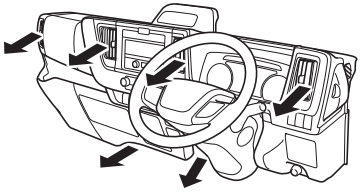
【RZ4E 型エンジン車】

- 以下の条件をすべて満たすと、電気補助ヒーター（PTC ヒーター）が作動し、エンジン冷間時にヒーターの効果を高めます。
  - エンジンが冷えている
  - 温度調整ダイヤルが HOT 側いっぱいまで回されている
  - ファンが作動している

頭寒足熱暖房

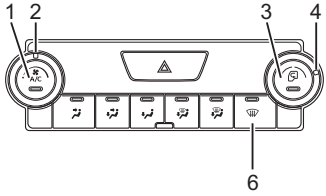


吹き出し口切替えスイッチ 5 の『』を ON にします。
内外気切替えスイッチ 3 を OFF にします。
温度調整ダイヤル 4 を中間位置にします。
ファンスイッチダイヤル 2 はお好みに合わせて調整します。

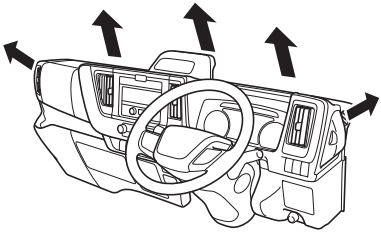


フロントウインドーガラスの曇り取り

曇り取り



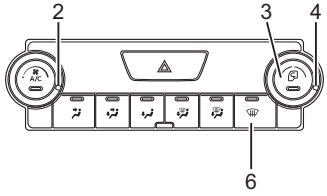
デフロスタースイッチ 6 を ON にします。
内外気切替えスイッチ 3 を OFF にします。
温度調整ダイヤル 4 を HOT 側のお好みの位置にします。夏期などの曇り取りには、温度調整ダイヤル 4 をお好みの位置に合わせてください。
ファンスイッチダイヤル 2 を『ON』位置にします。
エアコン（A/C）装着車では、曇り取りにエアコンの除湿効果を利用すると大変効果的です。

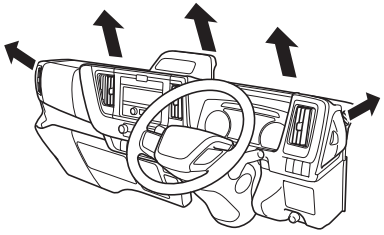


知　識

- デフロスタースイッチ 6 を ON にして、エアコンを作動させるときは、最大冷房付近にしないでください。ガラスの外側が曇ることがあり前方の視界が悪くなります。

氷結解除





デフロスタースイッチ 6 を ON にします。
内外気切替えスイッチ 3 を ON にします。
温度調整ダイヤル 4 を HOT 側いっぱいの位置にします。
ファンスイッチダイヤル 2 を『最大風量』の位置にします。
4JZ1 型エンジン車は、暖機スイッチを『ON』にします。

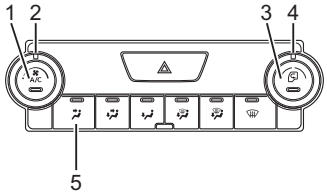
参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）

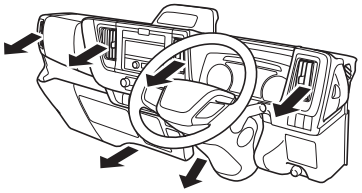
知 識

- 氷結解除後は、必ず内外気切替えスイッチ 3 を OFF にしてください。そのままにしておくとガラスが曇り易く、前方の視界が悪くなります。

冷房

普通冷房およびおだやかな冷房



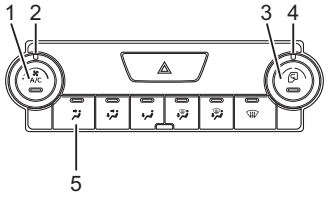


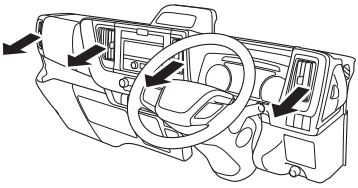
長時間にわたる冷房や、おだやかな冷房に適しています。
エアコン（A/C）スイッチ 1 を『ON』にします。
吹き出し口切替えスイッチ 5 の『 』を ON（おだやかな冷房には『 』）にします。
温度調整ダイヤル 4 を季節や天候に合わせてお好みの位置にします。
ファンスイッチダイヤル 2 はお好みに合わせて調整します。

知 識

- 炎天下、アイドリング状態でエアコン（A/C）を使用する場合は、内外気切替えスイッチ 3 を ON にして使用してください。

強力冷房





吹き出し口切替えスイッチ 5 の『 』を ON にします。
エアコン（A/C）スイッチ 1 を ON にします。内外気切替えスイッチ 3 を ON にします。
温度調整ダイヤル 4 を COOL 側いっぱいの位置にします。
ファンスイッチダイヤル 2 を『最大風量』の位置にします。

知　識

- 炎天下に長時間駐車した後などは、窓やドアを開放し、十分室内の熱気を換気してからエアコン（A/C）を作動させてください。
- 強力冷房を長時間使用していますと室内の空気が汚れます。時々、内外気切替えレバーを外気導入に切り替えるか、窓を開けて換気を行ってください。
- 冷房時、湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが異常ではありません。

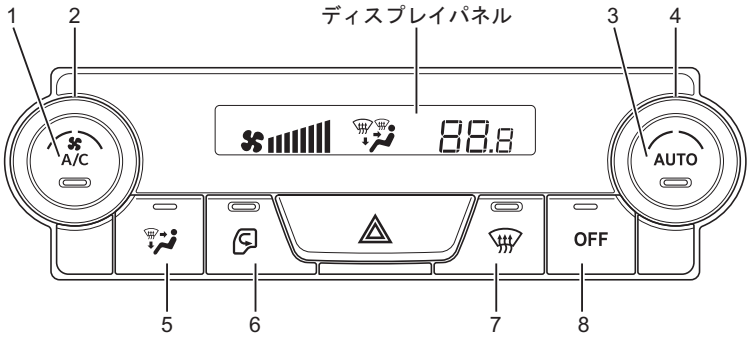
オートエアコン★

知　識

- エンジン保護のため、一部の架装物によってはエアコン作動中に PTO スイッチを『ON』にすると、エアコンが停止します。エアコンを使用するときは、PTO スイッチを『OFF』にし、エアコンを作動させてください。
- ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能が ON の場合、運転者の過度な眠気をシステムが検知したときエアコンから冷風を送ります。このとき、エアコンの設定は自動で切り替わります。詳細は『ドライバーステータスモニター★』を参照してください。

参照ページ
5-116 ドライバーステータスモニター★

スイッチの使いかた



No.	名称
1	エアコンスイッチ
2	ファンダイヤル
3	AUTO（自動）スイッチ
4	温度調節ダイヤル
5	吹き出し口切替えスイッチ
6	内外気切替えスイッチ
7	デフロスタースイッチ
8	OFF（切）スイッチ

1. エアコンスイッチ

エアコンを ON/OFF させるときに使用します。フルオートで使用中の場合は、エアコンスイッチを一度押すとエアコンスイッチの表示灯が消灯します。もう一度押すと、フルオートの状態に戻ります。

2. ファンダイヤル

手動で風量を調節するときに使用します。ファンダイヤルを左へ回すと風量が弱に、右に回すと風量が強になります。風量を 8 段階に調節できます。

風量	弱	中	強	最強
ディスプレイ表示				

知 識

・通常、エアコンを使用しないときも装置各部のオイルを切らせないために、時々エンジンを低回転させた状態で数分間エアコンを作動させてください。

3. AUTO（自動）スイッチ

フルオートで使用するときに押します。スイッチを押すと、吹き出し口の切り替え、風量、エアコンディショニングが自動的に行われます。

知 識

・各スイッチ、ダイヤルは後押し優先になっています。

4. 温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルを使い、お好みの室温を設定します。このとき、ディスプレイパネル内に設定温度が表示されます。1 つ回すごとに 0.5 ℃ずつ変化し、18.5 ℃～ 31.5 ℃の間で調節することができます。
LO では最大冷房、HI では最大暖房に固定されます。

5. 吹き出し口切替えスイッチ

スイッチを押すごとに吹き出し口を切り替え、ディスプレイパネルに表示されます。

ディスプレイ表示	目的	吹き出し口
	フェイス	1、2 より吹き出します。
	バイレベル	1、2、5 より吹き出します。
	足元	5 より吹き出します。
	足元、デフロスター 1	5 より吹き出し 3、4 からわずかに吹き出します。
	足元、デフロスター 2	5 より吹き出し 3、4 の吹き出し量が『 』に比べ増加します。

6. 内外気切替えスイッチ

外気導入と内気循環の切り替えをするときに使用します。スイッチを押すと内気循環の場合は内外気切替えスイッチの表示灯が点灯します。

スイッチ表示灯	目的	
 表示灯消灯	外気導入	通常はこの位置にします（換気をします）。
 表示灯点灯	内気循環	トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているとき。

知　識

・長時間の内気循環の使用は、ガラスが曇り易く視界が悪くなります。

7. デフロスタースイッチ

ウインドーガラスの霜、曇りを取りたいときに使います。スイッチを押すとディスプレイパネルに『⛆』が表示され、デフロスタースイッチの表示灯が点灯します。このときエアコンは ON となります。再度スイッチを押すと『⛆』の前の状態に戻ります。

ディスプレイ表示	目的	吹き出し口
⛆	デフロスター	3、4 より吹き出します。

8. OFF（切）スイッチ

ファンおよびエアコンの作動を停止させます。

オート（自動）で使用する場合



1. AUTO（自動）スイッチ 3 を押してエアコンを『ON』にします。AUTO（自動）スイッチ 3 の表示灯が点灯し、吹き出し口の切り替えと、風量が自動的に設定されます。吹き出し口は、『 』、『 』、『 』、『 』の中から最適なモードを自動で選択します。

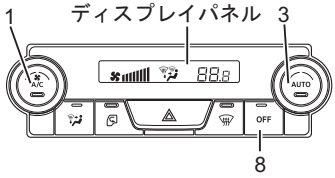


2. 温度調節ダイヤル 4 を使い、お好みの室温に設定します。このとき、ディスプレイパネル内に設定温度が表示されます。温度調節ダイヤル 4 を 1 つ回すごとに 0.5 ℃ずつ変化し、18.5 ℃～31.5 ℃の間で調節することができます。LO では最大冷房、HI では最大暖房に固定されます。

知　識

- 温度設定は 18.5 ℃～ 31.5 ℃の範囲でできますが、表示数字は温度設定の目安です。お好みの室温に設定してください。
- ヒーターはエンジンの冷却水を利用していますので、冷却水温が低い場合はヒーターの効きが弱くなります。
  4JZ1 型エンジン車は、ヒーターの効果を高めたいときは暖機スイッチを『ON』にしてください。

参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）



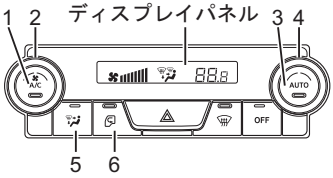
3. エアコンを停止させるときにはエアコンスイッチ 1 を押します。また、ファンおよびエアコンを停止させるときには OFF（切）スイッチ 8 を押します。

知　識

- オートで使用しているときに他のスイッチ（温度調節スイッチ、エアコンスイッチおよび AUTO スイッチを除く）を押すと AUTO（自動）スイッチ 3 の表示灯が消灯し、選択した各ポジションに作動が固定されディスプレイパネルに表示されますが、押したスイッチの機能以外は自動的に行われます。
- オートの状態へ戻すときには AUTO（自動）スイッチ 3 を押します。

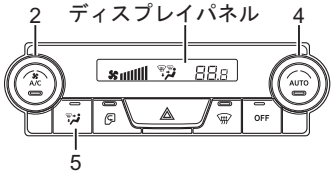
マニュアル（手動）で操作する場合

外気導入



エアコンスイッチ（A/C スイッチ）1 を押してエアコンを『OFF』にします。このとき、エアコンスイッチ（A/C スイッチ）1 の表示灯は消灯します。
温度調節ダイヤル 4、吹き出し口切替えスイッチ 5 をお好みの位置にします。
内外気切替えスイッチ 6 を押します。このとき内外気切替えスイッチ 6 の表示灯は消灯します。ファンダイヤル 2 でお好みの風量に調節します。

強力暖房



温度調節ダイヤル 4 を最大暖房温度（HI）にし、ファンダイヤル 2 を最大風量にします。吹き出し口切替えスイッチ 5 でお好みの吹き出し口にしてください。
4JZ1 型エンジン車は、必要に応じて暖機スイッチを入れてください。

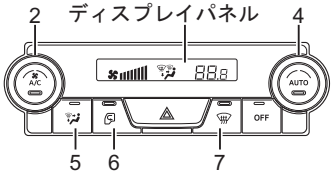
参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）

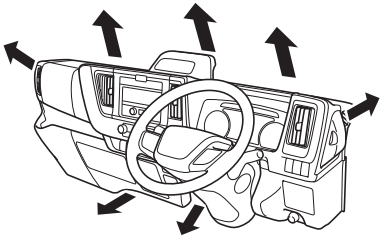
知　識

【RZ4E 型エンジン車】

- 以下の条件をすべて満たすと、電気補助ヒーター（PTC ヒーター）が作動し、エンジン冷間時にヒーターの効果を高めます。
  - エンジンが冷えている
  - 温度調節ダイヤルが最大暖房温度（HI）まで回されている
  - ファンが作動している
  - 外気温が低い

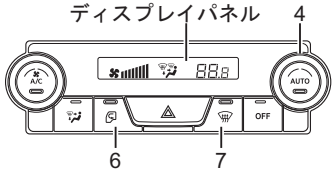
曇り取り

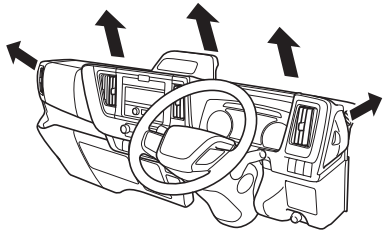




デフロスタースイッチ 7 を押し、デフロスターを『ON』にします。このとき、ディスプレイパネルに『 』が表示され、デフロスタースイッチ 7 の表示灯が点灯し、A/C も作動します。
温度調節ダイヤル 4 をお好みの温度に合わせてください。
ファンダイヤル 2 をお好みの風量に調節します。内外気切替えスイッチ 6 の表示灯が点灯している場合、内外気切替えスイッチ 6 の表示灯が消灯しているときに比べ曇りが取れにくくなります。
吹き出し口切替えスイッチ 5 を押します。このときディスプレイパネルを『 』または『 』表示にすると足元を暖めながら、フロントウインドーガラスの曇りを取ることができます。

氷結解除





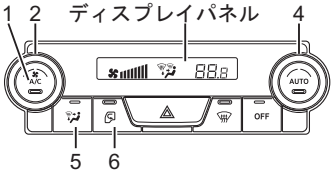
デフロスタースイッチ 7 を押し、デフロスターを『ON』にします。このとき、ディスプレイパネルに『 』が表示され、デフロスタースイッチ 7 の表示灯が点灯します。
温度調節ダイヤル 4 を最大暖房温度（HI）にします。
内外気切替えスイッチ 6 を押します。このとき内外気切替えスイッチ 6 の表示灯が点灯します。
4JZ1 型エンジン車は、暖機スイッチを『ON』にします。

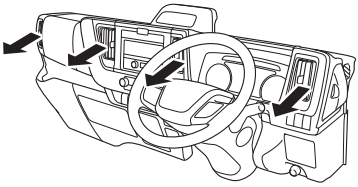
参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）

⚠ 注 意

- **氷結解除後は、必ず内外気切替えスイッチ 6 を押して内外気切替えスイッチ 6 の表示灯が消灯した状態（外気導入）にしてください。**
  そのままにしておくとガラスが曇り易く前方の視界が悪くなります。

強力冷房





温度調節ダイヤル 4 を最大冷房温度（LO）にし、ファンダイヤル 2 を最大風量にします。吹き出し口切替えスイッチ 5 でお好みの吹き出し口にし、内外気切替えスイッチ 6 を押します。このとき内外気切替えスイッチ 6 の表示灯が点灯した状態（内気循環）にしてください。
また、このときエアコンスイッチ 1 を押して A/C を『ON』にしてください。

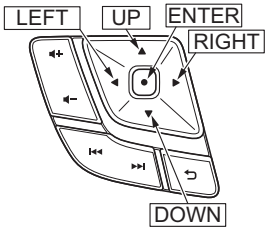
知　識

- 炎天下に長時間駐車したあとなどは、窓やドアを開放し、十分室内の熱気を換気してからエアコンを作動させてください。
- 強力冷房を長時間使用していると室内の空気が汚れます。時々、内外気切替えスイッチ 6 を押して外気導入に切り替えるか、窓を開けて換気を行ってください。
- 冷房時、湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが異常ではありません。

オートエアコンの各種設定

メーターディスプレイの「車両設定」画面から、オートエアコンの各種設定を変更することができます。

アイドリングストップ条件設定





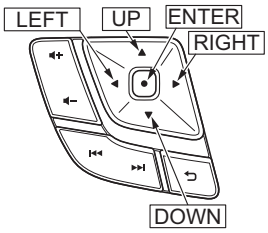
アイドリングストップよりも空調を優先したいときに『ON』にします。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「オートエアコン」→「アイドリングストップ条件」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、ON/OFFを切り替えます。『ENTER』で決定します。

コンプレッサー連動設定





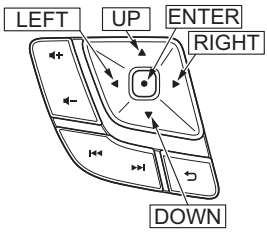
AUTO（自動）スイッチ操作とコンプレッサーを連動させ、エアコンディショニングを最適にしたい場合は『ON』にします。エアコンディショニングよりも燃費性能を優先する場合は『OFF』にします。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
   運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「オートエアコン」→「コンプレッサー連動」の順に選択します。
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、ON/OFFを切り替えます。『ENTER』で決定します。

内外気自動切り替え設定





フルオートでエアコンを使用中に、外気導入と内気循環が自動で切り替わるようにしたい場合は『ON』にします。

知　識

- フルオートでエアコンを使用中に、外気導入と内気循環を手動で切り替えた際、フルオートが解除されないようにしたい場合は、「内外気自動切換え」を『OFF』に設定します。

1. メーターディスプレイスイッチの『LEFT』または『RIGHT』を押して画面を切り替えて、設定画面を表示させます。
運転者へのメッセージが表示されている場合は、『ENTER』を押して通常画面に戻してから設定画面に切り替えます。

参照ページ
3-46 メイン表示エリア

2. 設定画面の「車両設定」→「オートエアコン」→「内外気自動切換え」の順に選択します。

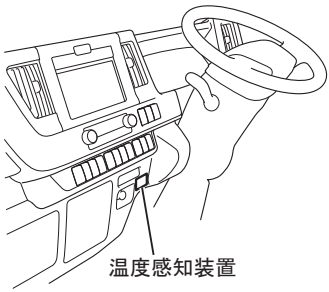
3. メーターディスプレイスイッチの『UP』または『DOWN』で調整し、ON/OFFを切り替えます。『ENTER』で決定します。

ドライバーモニター風量設定★

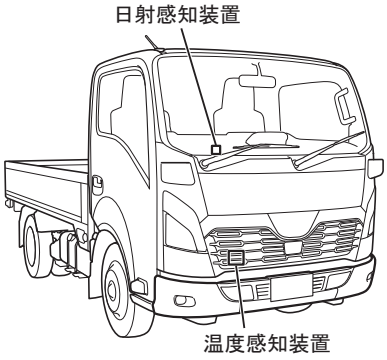
メーターディスプレイスイッチでドライバーステータスモニター連動時のエアコン連動機能の風量を調整することができます。

参照ページ
5-130 ドライバーステータスモニターのエアコン連動機能の風量設定

温度感知装置

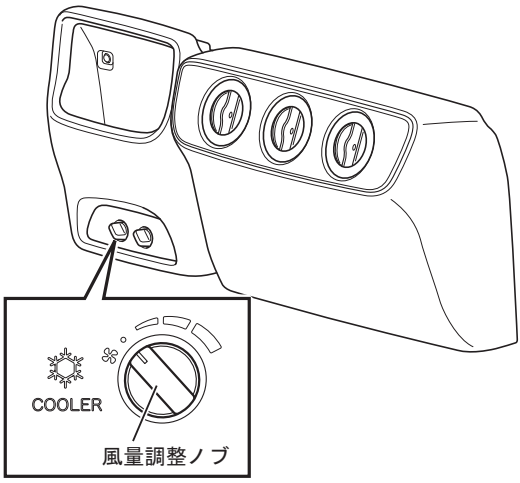


日射感知部と車内外温度感知部により快適なエアコンディショニングを行います。各感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。正確なエアコンディショニングを行うことができなくなります。



リヤクーラー★

ノブの使いかた

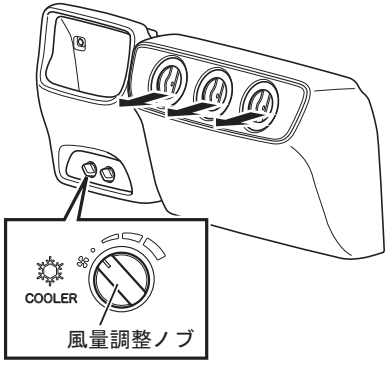


冷房

リヤクーラー使用時は、フロント側のエアコンのスイッチを『ON』にします。

参照ページ
6-6 ヒーター / マニュアルエアコン★
6-13 オートエアコン★

必要に応じて、風量調整ノブを調整します。

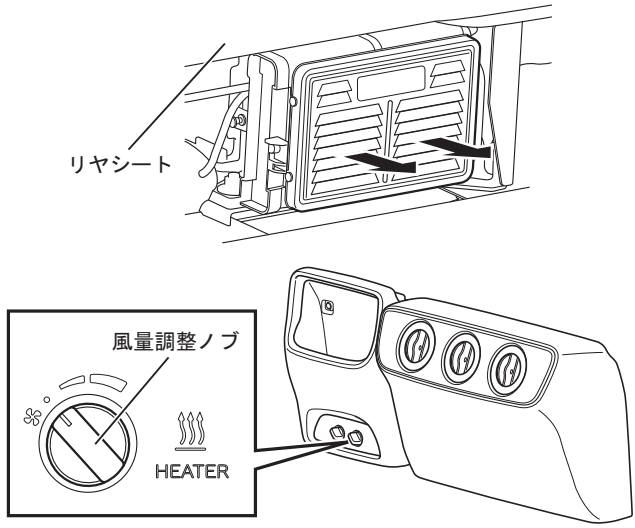


知　識

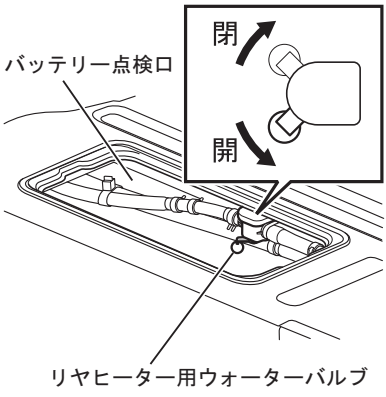
- フロント側のエアコンのスイッチが『OFF』のとき、リヤクーラーは作動しません（吹き出し口から風は出ますが、冷風は出ません）。リアクーラーのみを使用する場合でも、フロント側のエアコンのスイッチを『ON』にしてください。

リヤヒーター★

ノブの使いかた



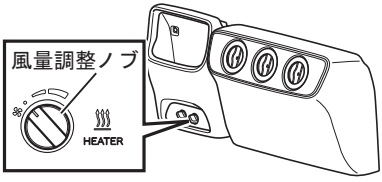
暖房



リヤヒーター使用時は、バッテリー点検口を開けて、リヤヒーター用ウォーターバルブのレバーを手前側（『開』）にします。
リヤヒーターを使用しないときは、レバーを奥側（『閉』）にしてください。

参照ページ
7-26 リヤ点検口（ダブルキャブ車）★

必要に応じて、風量調整ノブを調整します。



クーラーガス（冷媒量）

クーラーガスの量が不足すると冷房能力が低下します。少ないときは補充します。
冷媒の補充は最寄りの《日産販売会社》へお申し付けください。

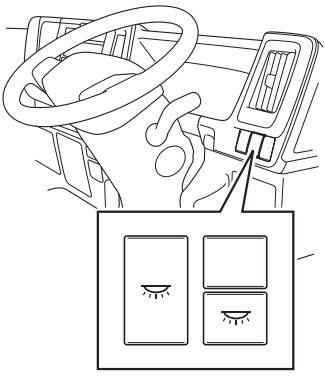
アドバイス

- クーラーガスの量が不足したままでエアコンを使用すると冷房能力が低下するだけでなく、エアコンの故障の原因になります。
- 本車両のクーラーガスは、新冷媒 HFC-134a（R-134a）を使用しています。クーラーガスは、必ず HFC-134a を入れてください。なお、地球環境を守るためクーラーガスを大気放出しないでください。クーラーガス交換の際は、回収設備のある《日産販売会社》などへお申し付けください。

ルームランプ（室内灯）

室内灯スイッチ★

ハイキャブ・ワイドキャブ車



室内灯スイッチを押すと室内灯が点灯します。もう一度押すと室内灯が消灯します。

参照ページ
10-111 ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）

アドバイス

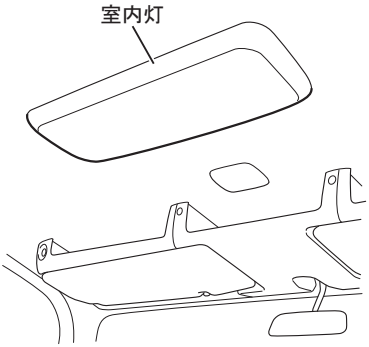
- 室内灯スイッチは、押したままにしないでください。とくにエンジン停止時、室内灯を長時間点灯したままにするとバッテリー上がりを起こす原因になります。

室内灯（LED）★

注 意

- 室内灯は走行中使用しないでください。明るくなった室内がガラスに映るため、外の道路状況が判断しにくくなり、思わぬ事故の原因になります。

ハイキャブ・ワイドキャブ車

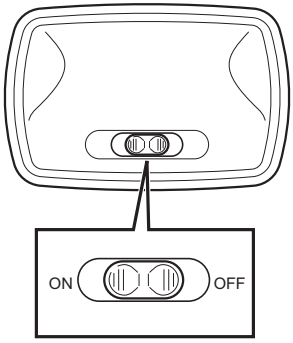


スタータースイッチに関係なく作動します。室内灯スイッチを操作して点灯･消灯してください。

アドバイス

- エンジン停止中に使用しないでください。消費電力が大きいのでバッテリー上がりを起こす原因になります。

マップランプ（LED）



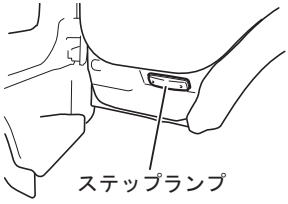
スタータースイッチに関係なく作動します。

スイッチ位置	点灯･消灯の状態
『ON』	ドアの開閉に関係なく点灯
『DOOR』	• ドアを開けたときに点灯し、閉じると消灯 • リモコンキーによりドアを解錠したとき点灯
『OFF』	ドアの開閉に関係なく消灯

知　識

- マップランプスイッチを『ON』と『OFF』の中間にすると『DOOR』になります。
- マップランプスイッチ位置が『DOOR』でスタータースイッチが『ACC』または『LOCK』位置のとき、ドアを開けたまま約 5 分経過すると、マップランプは自動的に消灯します。

ステップランプ★

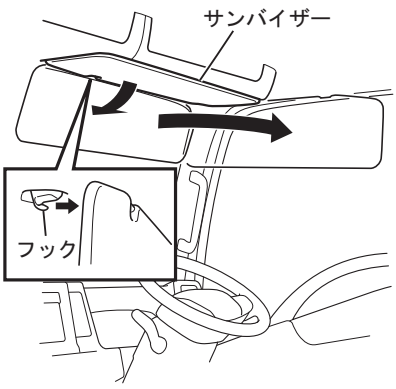


運転席側ドアの下部に取り付けてあります。ドアを開けると点灯しステップ付近を照らします。

アドバイス

- ドアを開け放しにしないでください。バッテリー上がりを起こす原因になります。

サンバイザー（日よけ）

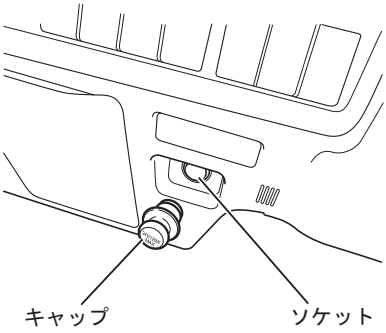


強い日差しから目を保護します。日差しがまぶしいときに使用します。
横からの日差しがまぶしいときはフックを外して側面へ回せます。

⚠ 注 意

- **安全のため、使用したあとは必ず閉じておいてください。**

アクセサリーソケット



スタータースイッチが『ACC』または『ON』位置のときに使用できます。
市販のカー用品などの電源用として使用します。
キャップを外して使用します。

⚠ 警 告

- **ソケットの許容負荷は 120W（5A）までです。**
  許容負荷以上で使用すると配線が過熱し、火災の原因になり危険です。許容負荷以内で使用してください。
- **電気製品のプラグはソケットの奥まで確実に挿入してください。挿入が不完全な状態で使用すると異常発熱する可能性があり、車両のヒューズが切れるおそれがあります。**
- **シガレットライターをソケットに差し込まないでください。発熱するおそれがあります。**

【除く AHR 型車】

- **ソケットの電源は 24V です。24V 以外の電気製品を接続すると、過熱による故障や火災の原因になります。**

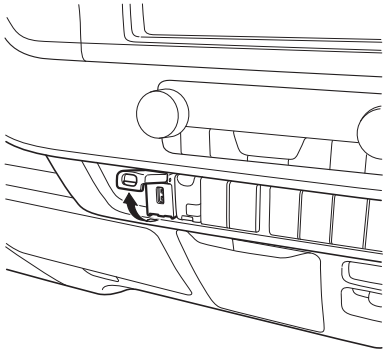
【AHR 型車】

- **ソケットの電源は 12V です。12V 以外の電気製品を接続すると、過熱による故障や火災の原因になります。**

アドバイス

- エンジン停止中にソケットを長時間使用するとバッテリー上がりの原因になります。
- 使用しないときは、キャップを必ず装着してください。ソケットに異物が入ったり、水やジュースなどがかかると故障につながるおそれがあります。また、指や金属などをソケットに入れないでください。
- 接続するプラグサイズによっては、ソケット内部が変形する可能性がありますので、プラグのガタつきなどがある場合にはご使用をやめ、ソケットを交換してください。
- 電気製品のプラグを抜き差しするときは、電気製品のスイッチを『OFF』にするか、スタータースイッチを『LOCK』位置にしてください。

USB チャージャー★



スタータースイッチが『ACC』または『ON』位置のとき、使用することができます。
USB チャージャーは、互換性のあるモバイル機器や電子機器の操作もしくは充電に使用できます。使用する前に各製品の「取扱説明書」を良くお読みください。
使用時はカバーを開けてください。使用しないときはカバーを閉じてください。

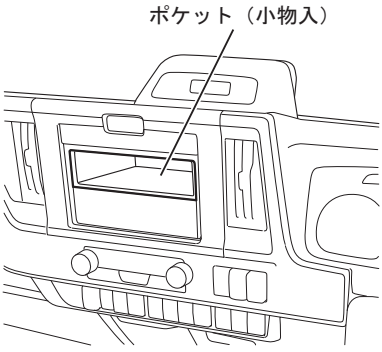
アドバイス

- USB チャージャーは、A タイプの USB 端子が使用できます。他の種類の USB 端子を挿入しないでください。
- 最大定格出力は 5.0V/2.4A です。使用する前に、対応している機器かどうかを使用する機器・製品の取扱説明書などで確認してください。
- 電源出力にのみ使用できます。データ転送（動画・音楽データを含む）は行えません。
- 充電完了後は、すみやかに接続しているモバイル機器や電気製品を取り外してください。
- USB ハブは接続しないでください。故障の原因になります。
- 電源出力口に液体をかけたり、金属類や他の異物を挿し込んだりしないでください。感電または故障の原因になります。
- エンジン停止状態で長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますので注意してください。
- 故障した機器・製品を接続しないでください。
- 接続した機器・製品の故障や、データの破損・損失は保証修理の対象外です。
- USB ケーブルを使用する場合は、ケーブルに足をとられないように注意してください。

知　識

- 接続した USB ケーブルやモバイル機器、電気製品が運転操作の妨げにならないようにしてください。

ポケット（小物入れ）★

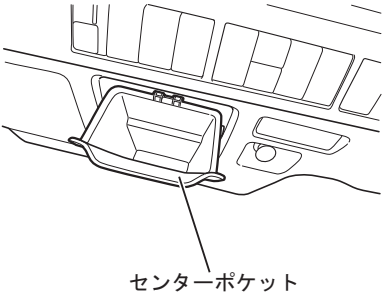


小物入れとして使用します。

注　意

- **メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。**

センターポケット

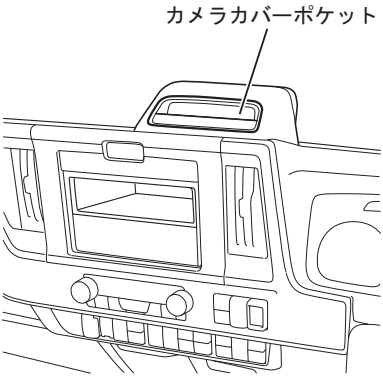


小物入れとして使用します。

⚠ 注 意

- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

カメラカバーポケット

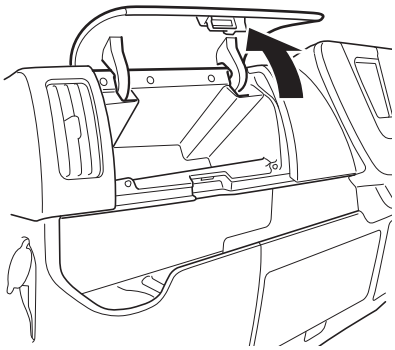


小物入れとして使用します。

⚠ 注 意

- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。
- 走行中はカメラカバーポケットに物を入れないでください。急ブレーキなどの衝撃で物が飛び出すおそれがあります。

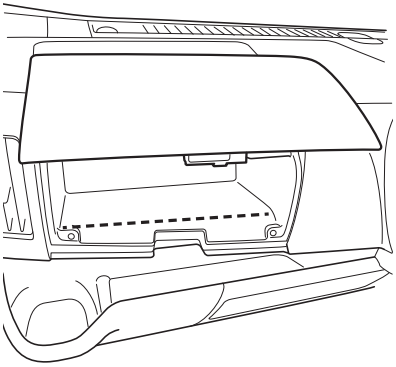
グローブボックス（小物入れ）★



ふたを引き上げると開きます。

注 意

- **安全のため、グローブボックスは必ず閉めて走行してください。グローブボックスの開閉部分や、収納してある物でケガをするおそれがあります。**
- **メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。**

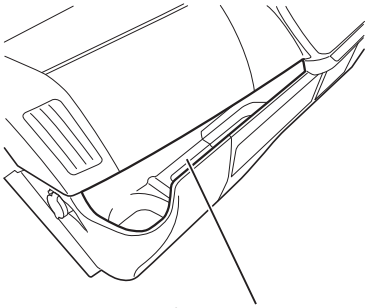


アドバイス

- グローブボックス内の段差（左図の線付近）を越える大きさのものを入れないでください。段差を越えるものを入れ、無理にふたを閉めるとグローブボックスを破損させるおそれがあります。
- 車検証入れや取扱説明書は、助手席シートまたは運転席シート（助手席スライドドア仕様車）のシートバックポケットに収納してください。

参照ページ
6-37 シートバックポケット

助手席カップホルダー＆ポケット



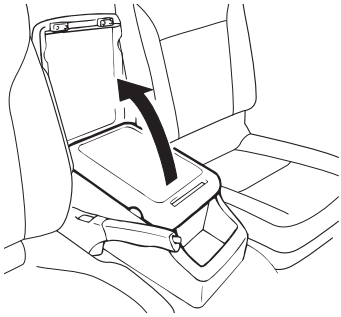
助手席カップホルダー＆ポケット

カップホルダーおよび小物入れとして使用します。

注 意

- **メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。**

センターコンソールボックス（小物入れ）★



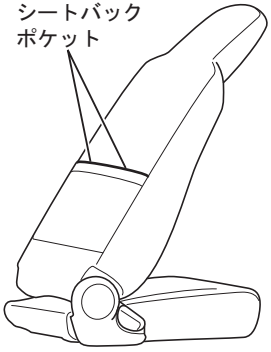
ふたを引き上げると開きます。

⚠ 注 意

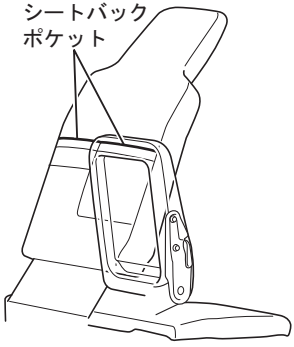
- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

シートバックポケット

運転席シートバックポケット



助手席シートバックポケット



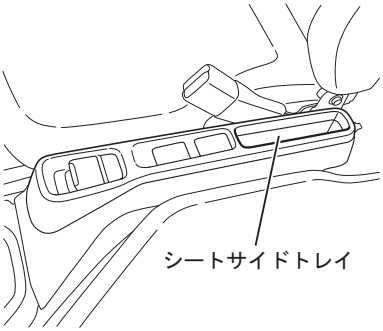
助手席または運転席シート（助手席スライドドア仕様車）背もたれの背面にあります。車検証入れや取扱説明書を収納するのに使用します。

アドバイス

【助手席シートバックポケット】

- 小さい方のポケットに取扱説明書、大きい方のポケットに車検証入れを収納してください。収納位置を逆にしたり、1つのポケットに無理にまとめて収納すると、バックトリムと干渉し車両を破損させるおそれがあります。

シートサイドトレイ★

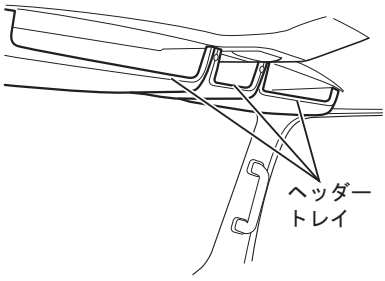


小物入れとして使用します。

⚠ 注 意

- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

ヘッダートレイ★

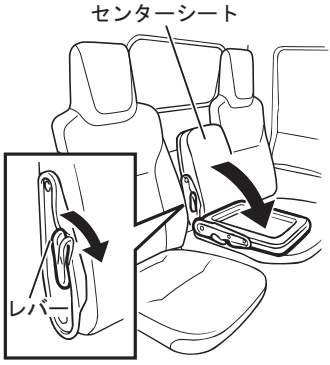


棚として使用してください。

⚠ 注 意

- ヘッダートレイの上には重量物（2kg 以上のもの）または走行中とび出すおそれのあるものは危険ですのでのせないでください。
- キャブチルトを戻すときに荷物が飛び出すおそれがあります。注意してください。
- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

センターシートバックトレイ★

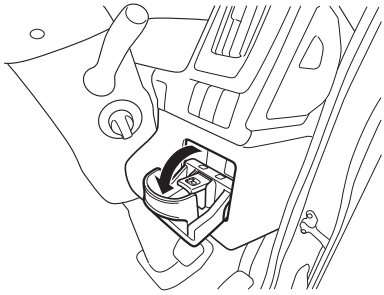


センターシートの背もたれの右側にあるレバーを手前に倒し、背もたれを倒すとトレイとして使用することができます。

⚠ 注 意

- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。
- シートの背もたれを動かすときは、シートベルトをはさみ込まないように注意してください。

カップホルダー★



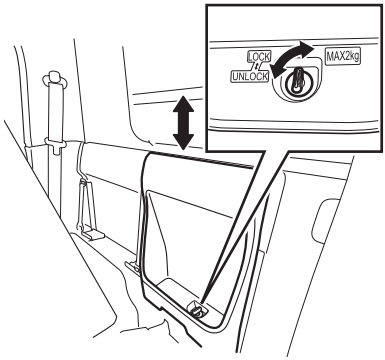
手前に引き出して使用します。

⚠ 注 意

- ホルダーを使用する場合、飲料はこぼれない程度に入れてください。こぼれると電気系統やオーディオなどの故障の原因になります。もし、こぼれたときは、すぐに乾いた布でふき取ってください。
- 飲料を入れたままキャブチルトしないでください。
- 重量物（0.75kg 以上）を入れた場合、カップホルダー本体が破損するおそれがあり危険です。

バックパネルトレイ（小物入れ）★

小物入れとして使用します。また取り外すこともできます。



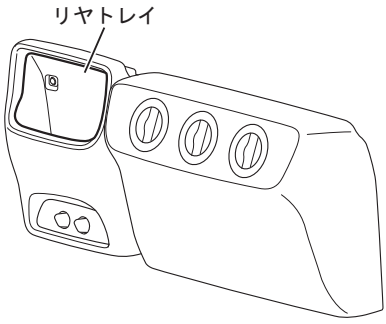
取り外し、取り付け

1. ノブを『UNLOCK』側に回します。
2. 標準キャブ車は 2 か所、ハイキャブ・ワイドキャブ車は 3 か所のツメからバックパネルトレイを上側に取り外します。
   取り付けは逆の順序で行います。バックパネルトレイをすべてのツメに取り付けてからノブを『LOCK』側に回してください。

⚠ 注 意

- **バックパネルトレイの中には、重量物（2kg 以上のもの）または、走行中とび出すおそれのあるものは、危険ですので入れないでください。**
- **キャブチルトさせるとき荷物がとび出すおそれがあります。注意してください。**
- **メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。**

リヤトレイ★

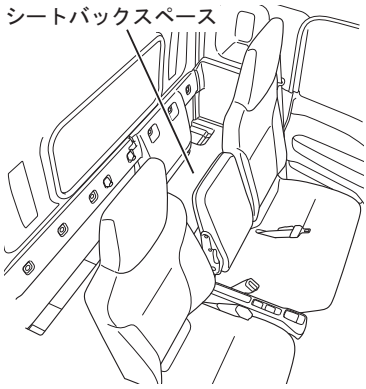


ダブルキャブ車
小物入れとして使用します。

⚠ 注 意

- **リヤトレイの中には、重量物（1.5kg 以上のもの）、または走行中とび出すおそれのあるものは、危険ですので入れないでください。**
- **キャブチルトさせるとき荷物がとび出すおそれがあります。注意してください。**
- **メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ･フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。**

シートバックスペース★

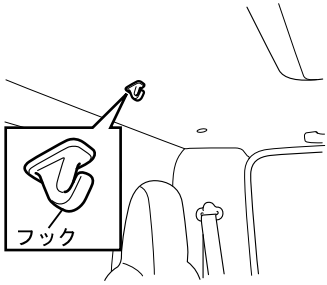


スペースキャブ車
荷物置きとして使用します。

⚠ 注 意

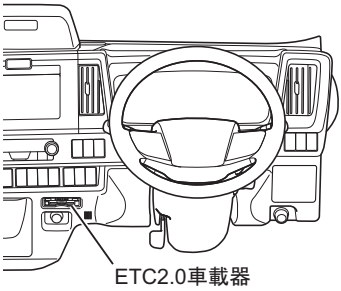
- **シートバックスペースは人が乗ったり、寝転んだりできるような構造にはなっていません。思わぬ事故につながるおそれがありますので、シートバックスペースには人を乗せないでください。**
- **転げ落ちやすいものをシートバックスペースに置かないでください。衝突や急ブレーキなどの衝撃で物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

ハンガーフック★



洋服をかけるときに使用してください。

ETC2.0 車載器★



ETC とは、有料道路の料金支払いを自動化するためのシステムです。路側アンテナと ETC2.0 車載器との間で通信を行うことで、停車することなく料金所を通過することができます。また、ETC2.0 車載器では高速道路上や道の駅にある通信スポット（ITS スポット）と通信（DSRC 通信）を行うことで渋滞回避支援、安全運転支援情報（VICS 情報）を得ることができます。取得した情報は、内蔵のスピーカーから音声で案内します。

知　識

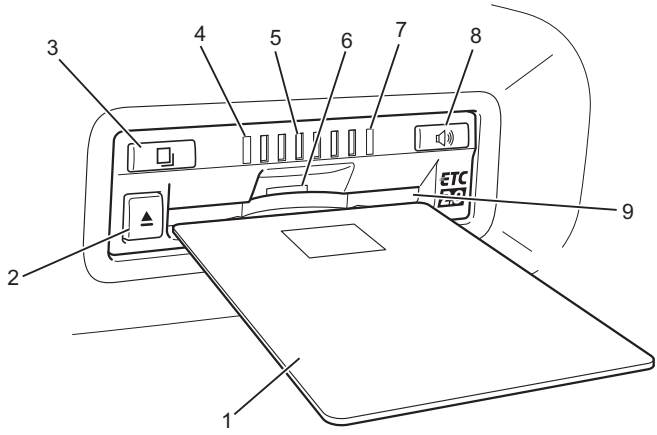
- ETC は Electronic Toll Collection System（エレクトロニックトールコレクションシステム）の略です。
- DSRC は Dedicated Short Range Communications（デディケイテッドショートレンジコミュニケーションズ）の略です。
- VICS は Vehicle Information and Communication System（ビークルインフォメーションアンドコミュニケーションシステム）の略です。
- ETC、DSRC は、一般財団法人 ITS サービス高度化機構の登録商標です。
- VICS は一般財団法人 道路交通情報通信システムセンターの登録商標です。

セットアップについて

ETC2.0 車載器を実際に使用できるようにするために、車両の情報などを ETC2.0 車載器に登録するセットアップ作業が必要です。次のようなときは、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

- ETC2.0 車載器の電源を入れて 5 秒後にブザー音『ピッピッ』と音声案内「ETC セットアップされていません。」が鳴ったとき
- ETC2.0 車載器を異なる車両に移設するとき
- ETC2.0 車載器を取り付けた車両のナンバープレートまたは自動車登録番号が変更になったとき
- 車をけん引可能な構造に改造したとき

各部の名称

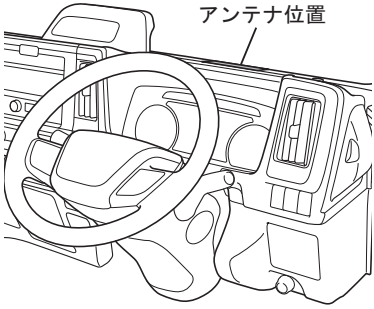


No.	名　称
1	ETC カード
2	ETC カードイジェクトスイッチ
3	利用履歴確認スイッチ
4	緑色ランプ
5	スピーカー
6	挿入口照明用ランプ
7	橙色ランプ
8	音量スイッチ
9	ETC カード挿入口

ETC2.0 車載器の使いかた

⚠ 警 告

- ETC2.0 車載器に故障があるときや煙が出る、変な匂いがするなどの異常がある場合はただちに使用を中止し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
- 分解や改造をしないでください。分解や改造を行った場合は、保証が受けられなくなるばかりでなく、ETC2.0 車載器の故障や火災、感電などの原因になります。
- ETC2.0 車載器につながるコードを傷つけないでください。故障や火災、感電などの原因になります。コードが傷ついている場合はすぐに使用を中止し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。



⚠ 注 意

- アンテナ（インストルメントパネル内蔵）は取り付けた状態から変えないでください。路側アンテナや ITS スポットと通信できず、開閉バーが開かなかったり、情報が受信できないことがあります。取り付け状態を変えてしまったときは、最寄りの《日産販売会社》で再調整してください。
- アンテナの上方に物を置かないでください。路側アンテナや ITS スポットと通信できず、開閉バーが開かなかったり、情報が受信できないことがあります。また、アンテナが故障、破損するおそれがあります。なお、路側アンテナや ITS スポットは料金所付近以外にもありますので、有料道路を通行中はアンテナの上方に物を置かないでください。
- ETC2.0 車載器に貼ってあるシールははがさないでください。このシールは、電波法の基準に適合していることを証明しています。シールをはがしてしまったときは、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
- アンテナと ETC2.0 車載器の周辺には電波を発する電子機器を設置しないでください。遮蔽や電波干渉などにより、路側アンテナと通信できず、開閉バーが開かない、情報提供が正しく受けられないなどの原因となる可能性があります。また、アンテナが故障、破損するおそれがあります。

【電波干渉の可能性がある主な機器】

- Wi-Fi を搭載した機器（モバイルルータ、携帯電話など）
- 純正品以外の無線機器

【電波干渉が発生した場合の対処】

- アンテナおよび ETC2.0 車載器からできるだけ距離を離して設定するか、電波干渉する機器を取り外してください。
- Wi-Fi を搭載した機器は、2.4GHz ワイヤレスネットワークを選択してください。

アドバイス

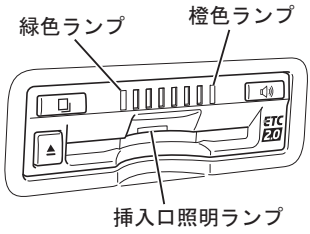
- ETC2.0 車載器の ETC カード挿入口に異物などを入れないでください。ETC2.0 車載器が故障するおそれがあります。異物を入れてしまったときはただちに使用を中止し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
- ETC2.0 車載器に衝撃を与えないでください。ETC2.0 車載器が故障、破損するおそれがあります。
- 水や液体などを付着させないでください。ETC2.0 車載器が故障、破損するおそれがあります。
- ワックス、シンナー、アルコールなどで本体を絶対に拭かないでください。ETC2.0 車載器が変形、故障するおそれがあります。

乗車時の操作（ETC カードの挿入）

1. エンジンを始動します。ETC2.0 車載器に電源が入ります。

知　識

- スタースイッチが『ACC』または『ON』位置でも ETC2.0 車載器の電源は入りますが、バッテリー上がりを防ぐため、必ずエンジンを始動してください。



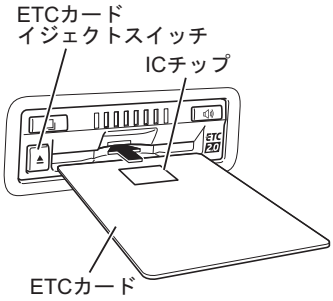
2. 挿入口照明用ランプ、緑色ランプと橙色ランプが点灯します。ETC2.0 車載器に異常がなければ、緑色ランプと橙色ランプが 5 秒後に消灯します。
異常がある場合は、橙色ランプが点滅し、ブザー音『ピーッ』と音声案内「異常が発生しました。ETC をご利用できません。コード 04。」が鳴ります。
異常があったときは使用を中止し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

参照ページ
6-62 ETC2.0 車載器の警報

知 識

- 緑色ランプと橙色ランプの消灯後、ETC カードが差し込まれていない場合は、ETC カード差し忘れ警告機能により、ブザー音『ピッピッ』と音声案内「ETC カードが挿入されていません。」が鳴ります。
- ETC2.0 車載器の電源が入っているとき、挿入口照明用ランプは以下の通り点灯します。
  - 白色：GPS 測位していないとき
  - 緑色：GPS 測位したとき

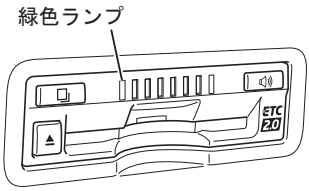
参照ページ
6-55 ETC カード差し忘れ警告機能
6-55 ETC カード有効期限通知機能



3. ETC カードの IC チップ面を上にし、ETC カードを ETC カードイジェクトスイッチが突出するまでしっかりと差し込みます。

知 識

- ETC カードは必ず ETC2.0 車載器の電源が入った後に差し込んでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。



4. 緑色ランプが点滅し、ブザー音『ピッ』が鳴り ETC カードの確認を開始します。

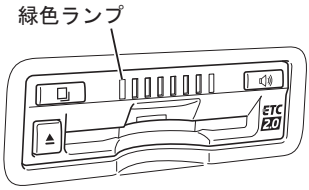
注 意

- **緑色ランプの点滅中は ETC カードを抜き取らないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。**

知 識

- アンテナと ETC2.0 車載器の接続に異常があると、アンテナ外れ警告機能によりブザー音『ピーッ』と音声案内「アンテナの接続が異常です。ETC をご利用できません。コード 07。」が鳴ります。

参照ページ
6-53 アンテナ外れ警告機能



5. ETC カードの確認が終了すると緑色ランプの点滅が点灯に変わります。このとき、ETC カード有効期限通知機能によりカードの有効期限を判断し、警報音と音声でお知らせします。
ETC カードが正しく確認できなかったときは、橙色ランプが点滅し、ブザー音と音声案内が鳴ります。

ETC カード有効期限	ブザー音・音声案内
有効期限当月 19 日以前	「ポーン・ETC カードが挿入されました。有効期限は○○○○年○○月です」
有効期限当月 20 日以降～当日	「ポーン・ETC カードが挿入されました。有効期限は今月末です」
有効期限翌月	「ピッピッ・ETC カードの有効期限が切れています」

参照ページ
6-55 ETC カード差し忘れ警告機能
6-55 ETC カード有効期限通知機能
6-62 ETC2.0 車載器の警報

注 意

- 有効期限切れや、カード発行会社が使用無効とした ETC カードは利用できません。緑色ランプが点灯していても ETC 車線は通行できませんので、ETC カードの有効期限については十分ご注意ください。
- GPS 測位ができていない場合、有効期限は通知されますが、有効期限切れ通知は行えません。

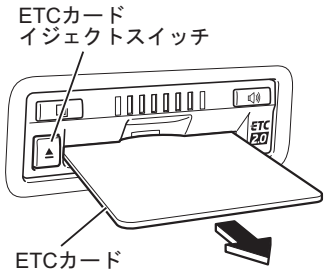
知 識

- ETC カードが正常に確認できなかったときは、ETC カードの IC チップ面をきれいに拭き、ETC カードを差し込みなおしてください。

降車時の操作（ETC カードの排出）

警 告

- **車から離れるときは、盗難防止のため ETC2.0 車載器から ETC カードを必ず抜き取ってください。**



1. 車を停車させ、ETC カードイジェクトスイッチを押して ETC カードを抜き取ります。
2. スタータースイッチを『LOCK』位置にし、エンジンを停止します。

知 識

- ETC カードを抜き取る前にスタータースイッチを『LOCK』位置にすると、ETC カード抜き忘れ警告機能によりブザー音『ピーッ』と音声案内「カードが残っています。」が鳴ります。音声案内終了後に ETC2.0 車載器は自動的に電源が『OFF』になります。

参照ページ
6-57 ETC カード抜き忘れ警告機能

走行中の取り扱い

⚠ 警 告

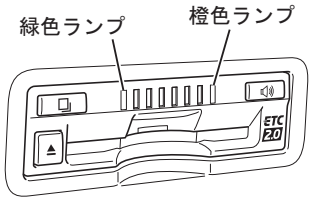
- **ETC2.0 車載器の操作や ETC カードの抜き差しは、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**
- **ETC 車線に進入する場合は開閉バーの手前で安全に止まることができる速度まで十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通過してください。万一、開閉バーが開かないときは衝突するおそれがあります。**
- **ETC 車線通過時は、路側表示器の表示や ETC 車線周辺に表示されている案内表示板や標識などに従って走行してください。路側表示器に停止の表示があった場合は車を停止し、係員の指示に従ってください。また、速度制限の指示があるときはその速度を必ず守ってください。**
- **ETC 車線では、前走車が急停車しても安全に止まることができる車間距離を十分確保してください。特に『ETC/ 一般（サポート）』混在車線では、前走車が ETC を利用せず料金所で停車する場合があります。**
- **大型トラックやバスに続いて ETC 車線を通行するときは、車間距離を特に大きく確保してください。前走車の車体形状により路側アンテナの電波が乱反射し、正常に通信できないことがあります。**
- **ETC 車線の直前や ETC 車線内では、利用履歴の確認や、ETC カードの抜き差しをしないでください。ETC カードの確認に時間が掛かるため、ETC が利用できなくなるおそれがあります。**
- **走行中は、ETC カードを抜き取らないでください。料金所付近以外でも路側アンテナとの通信を行っているため、通信中に ETC カードを抜き取ると ETC カード内のデータが破損し、ETC が利用できなくなることがあります。**
- **サービスエリアなどで車から離れるときは、ETC カードの破損や盗難防止のため、ETC カードを ETC2.0 車載器から必ず抜き取ってください。**

⚠ 注 意

- **ETC カード未挿入お知らせアンテナや経路チェックアンテナを通過したときに橙色ランプが点滅し、ブザー音『ピーッ』と音声案内「ETC ゲートを通過できません。」が鳴ったときは、その先の料金所では ETC を利用できません。『ETC/ 一般（サポート）』混在車線または『一般（サポート）』車線に進入してください。**
- **ETC2.0 車載器の緑色ランプが点灯していても、ETC カードの有効期限が切れている場合は ETC 車線を通過することはできません。**

ETC 車線の入口（料金所、検札所）を通過するとき

1. ETC カードが ETC2.0 車載器に挿入されていることを確認します。
2. 案内表示板や標識に従い十分減速し、ETC 車線に進入します。



3. 通信が正常に行われると、ブザー音『ピンポン』が鳴ります。
通信が正常に行われなかった場合は、橙色ランプが点滅し、ブザー音『ピーッ』と音声案内「ETC ゲートを通過できません。」が鳴ります。その場合は、係員に連絡してください。

参照ページ
6-62 ETC2.0 車載器の警報

⚠ 注 意

- **入口を通過した後、以下のブザー音と音声案内が鳴ったときは、その先の料金所では ETC を利用できません。『ETC/ 一般（サポート）』混在車線または『一般（サポート）』車線へ進入してください（ETC カードを再挿入すると緑色ランプが点灯しますが、その先の料金所では ETC を利用できません）。**
  - **-「ピッピッ・カードを読めません。コード 02。ピッピッ …」が鳴ったとき**
  - **-「ピッピッ・ETC カードに書き込みできません。コード 11。ピッピッ …」が鳴ったとき。**

知 識

- ETC 車線以外でも、ETC カード未挿入お知らせアンテナや経路チェックアンテナを通過したときもブザー音『ピンポン』が鳴る場合がありますが異常ではありません。

4. 路側表示器の表示と開閉バーが開くのを確認し、通行します。

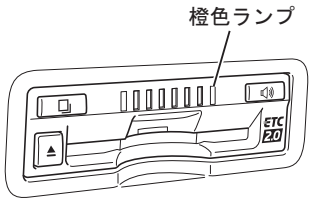
ETC 車線の出口（料金所）を通過するとき

1. ETC カードが ETC2.0 車載器に挿入されていることを確認します。

⚠ 注 意

- **ETC 車線の入口（料金所、検札所）と出口（料金所）では、必ず同じ ETC カードを使用してください。**

2. 案内表示板や標識に従い十分減速し、ETC 車線に進入します。



3. 通信が正常に行われると、ブザー音『ピンポン』が鳴った後に『ポーン』と鳴り、利用料金が音声で案内されます。通信が正常に行われなかった場合は、橙色ランプが点滅し、ブザー音『ピーッ』と音声案内「ETC ゲートを通過できません。」が鳴ります。その場合は、係員に連絡してください。

参照ページ
6-62 ETC2.0 車載器の警報

知 識

- 有料道路によっては ETC 車線入口通過時に料金案内されます。
- 有料道路の利用状況によっては、払い戻しアンテナより利用料金が割引かれる場合があります。

アンテナ外れ警告機能

ETC2.0 車載器とアンテナの接続状態をお知らせする機能です。
ETC カードを差し込んだとき、アンテナと ETC2.0 車載器との接続に異常があると、橙色ランプが点滅し、ブザー音『ピーッ』と音声案内「アンテナの接続が異常です。ETC をご利用できません。コード 07。」が鳴り、異常をお知らせします。ただちに使用を中止し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

- ETC カードを抜き取るまでブザー音『ピッピッピッ …（連続）』が鳴り続けます。

VICS 情報の音声案内機能

ITS スポットから情報を受信すると、ブザー音と音声で案内します。

VICS 情報の種類	ブザー音・音声案内
安全運転支援情報	「プププ・この先渋滞しています」
安全運転支援情報以外の最優先情報	「ププ・この先火災発生地域です」
一般情報（蓄積情報）	「ププ・○○方面の情報です」
一般情報	「ププ・○○インターまで 15 分ほど掛かっています」

知　識

- 利用履歴確認スイッチを押すと、最後に通知した VICS 情報を再度音声案内します。
- 音声案内中に利用履歴確認スイッチを押すと、音声案内中の情報を始めから音声案内します。

VICS 情報（一般情報）の音声案内機能の ON/OFF 切り替え

音量スイッチを長押し（2秒以上）します。長押しするごとに設定が ON → OFF → ON →・・・の順に切り替わります。切り替わるごとにブザー音でお知らせします。

知　識

- 安全運転支援情報と安全運転支援情報以外の最優先情報の音声案内は『OFF』にできません。

ETC カード差し忘れ警告機能・ETC カード有効期限通知機能

ETC カード差し忘れ警告機能

ETC カードの差し忘れをブザー音と音声案内でお知らせする機能です。
ETC2.0 車載器の電源を入れたあと、ETC カードが差し込まれていないまま約 5 秒経過すると、ブザー音『ピッピッ』と音声案内「ETC カードが挿入されていません。」が鳴り、ETC カードが差し込まれていないことをお知らせします。

知　識

- 音量スイッチを消音または音量 1 に設定しているときでも音量 2 で音声案内を行います。

ETC カード有効期限通知機能

ETC カードの有効期限を音声でお知らせする機能です。
ETC カードを差し込み、カードの確認が完了すると、ETC カードの有効期限を音声で案内します。

注　意

- **ETC カードの有効期限を簡易的にお知らせする機能です。有効期限は、必ず ETC カードを確認してください。**

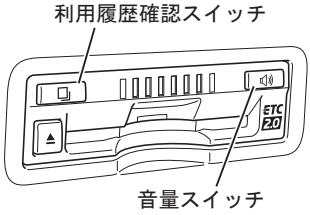
知　識

- 音量スイッチを消音に設定している場合は、音声案内は行いません。
- ETC カードに登録されている有効期限情報に異常（例：2016 年 18 月）がある場合や ETC カード有効期限通知を『OFF』に設定している場合は音声案内を行いません。

ETC カード差し忘れ警告機能・ETC カード有効期限通知機能の ON/OFF 切り替え

警　告

- **機能の切り替えは、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**



1. エンジンを始動します。
2. ETC カードを挿入していない状態で、利用履歴確認スイッチと音量スイッチを同時に長押し（2秒以上）します。長押しするごとに設定が 1 → 2 → 3 → 4 → 1 →・・・の順に切り替わります。切り替わるごとに、ブザー音と音声でお知らせします。

設定			ブザー音・音声案内
1	カード差し忘れ警報	ON	「ピッ・カード差し忘れ警告を ON しました」
	カード有効期限通知	ON	「ピッ・カード有効期限通知を ON しました」
2	カード差し忘れ警報	OFF	「ピッピッ・カード差し忘れ警告を OFF しました」
	カード有効期限通知	ON	「ピッ・カード有効期限通知を ON しました」
3	カード差し忘れ警報	OFF	「ピッピッ・カード差し忘れ警告を OFF しました」
	カード有効期限通知	OFF	「ピッピッ・カード有効期限通知を OFF しました」
4	カード差し忘れ警報	ON	「ピッ・カード差し忘れ警告を ON しました」
	カード有効期限通知	OFF	「ピッピッ・カード有効期限通知を OFF しました」

知　識

- 音量を消音に設定している場合でも、音量 1 で音声案内が鳴ります。

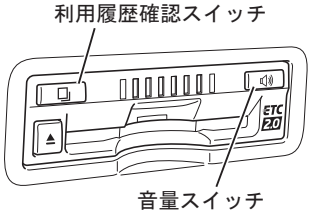
ETC カード抜き忘れ警告機能

エンジン停止時に、ETC カードの抜き忘れをお知らせする機能です。
スタータースイッチを『LOCK』位置にすると、ブザー音『ピーッ』と音声案内「カードが残っています。」が鳴り、カードの抜き忘れをお知らせします。

ETC カード抜き忘れ警告機能の ON/OFF 切り替え

警　告

- **機能の切り替えは、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**



1. エンジンを始動します。
2. ETC カードを挿入した状態で、利用履歴確認スイッチと音量スイッチを同時に長押し（２秒以上）します。長押しするごとに設定が ON → OFF → ON →・・・の順に切り替わります。切り替わるごとに、ブザー音と音声案内でお知らせします。

設定	ブザー音・音声案内
ON	「ピッ・カード抜き忘れ警告を ON しました」
OFF	「ピッピッ・カード抜き忘れ警告を OFF しました」

知　識

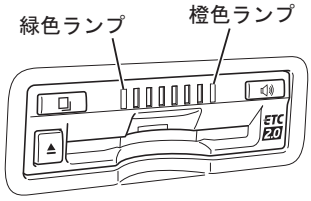
- 音量を消音に設定している場合でも、音量１で音声案内が鳴ります。

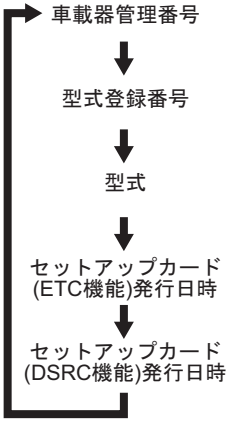
セットアップ情報通知機能

ETC2.0 車載器に登録されているセットアップ情報（車載器管理番号、型式登録番号、型式、セットアップカード発行日時）が確認できる機能です。

警　告

- **セットアップ情報の確認は、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**





1. エンジンを始動します。
2. 緑色ランプと橙色ランプが点灯（ETC カードを挿入していない）した状態で、利用履歴確認スイッチを長押しします。
3. 緑色ランプと橙色ランプが消灯したら車載器管理番号を音声案内します。
   車載器管理番号の音声案内中に、利用履歴確認スイッチを押すごとに通知内容が切り替わります。

知　識

- ETC2.0 車載器が未セットアップの場合は、セットアップカード発行日時は音声案内されず、「ETC セットアップされていません。」と音声案内します。
- 音量を消音に設定している場合でも、音量 1 で音声案内が鳴ります。

4. セットアップ情報通知機能を終了する場合は、次のいずれかを行います。

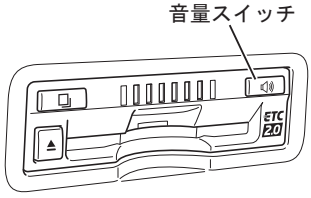
- ETC カードの挿入
- エンジンの停止
- 操作を行わないまま 1 分以上経過

音量の調整

ETC2.0 車載器のブザー音および音声案内の音量を、消音･音量 1 ～ 4 の 5 段階に調整することができます。消音に設定した場合でも、異常発生などの警告時には音声案内を行います。

警　告

- **音量の調整は、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**



1. エンジンを始動します。
2. 音量スイッチを押すごとに 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 1 →・・・の順に音量が切り替わります。切り替わるごとに設定後の音量の音声でお知らせします。

設定		音声案内
1	消音	「音声案内を中止します」（音量 1 で案内）
2	音量 1（最小）	「音量 1 です」
3	音量 2	「音量 2 です」
4	音量 3	「音量 3 です」
5	音量 4（最大）	「音量 4 です」

知　識

- 初期設定の音量は 3 に設定されています。
- 設定した音量は、ETC2.0 車載器の電源を『OFF』（エンジン停止）にしても維持します。
- 音声案内 / 音声案内が鳴っているときに、音量スイッチを押すと、音声案内 / 音声案内を中断して音量を切り替え、変更後の音量で再度音声案内 / 音声案内を行います。
- 音量調整は ETC カードが差し込まれていないときでも切り替えることができます。
- 音量を消音または音量 1 に設定しても、以下の場合は音量 2 で音声案内を行います。
  - ETC2.0 車載器に異常が発生したとき
  - ETC カード差し忘れ警告時
  - ETC カード抜き忘れ警告時
  - アンテナ外れ警告時

知識（続く）

知識（続き）

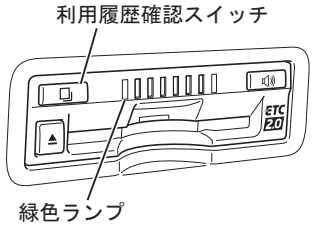
- 音量を消音に設定しても、以下の設定を行うときは音量 1（最小）で音声案内を行います。
  - ETC カード差し忘れ警告機能の ON/OFF 切り替え時
  - ETC カード有効期限通知機能の ON/OFF 切り替え時
  - ETC カード抜き忘れ警告機能の ON/OFF 切り替え時

利用履歴の確認

利用履歴確認スイッチを押すと、ETC カードに記録された利用履歴を音声案内で確認することができます。

警　告

- **利用履歴の確認は、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**



1. 『乗車時の操作（ETC カードの挿入）』手順に従い、ETC カードを挿入します。

参照ページ
6-46 乗車時の操作（ETC カードの挿入）

2. 利用履歴確認スイッチを押します。緑色ランプが点滅し、最新の利用履歴を音声案内します。
利用履歴の音声案内中に利用履歴確認スイッチを押すごとに、1 つ前の利用履歴が音声案内されます。

知　識

- 音声案内が鳴らない場合は、音量が消音に設定されていないか確認してください。
- 音量が消音に設定されている場合も、緑色ランプは点滅します。
- 利用履歴が記録されていないときは、「利用履歴はありません。」と音声案内されます。
- 利用履歴確認機能を終了させるときは、利用履歴確認スイッチを操作せずに、音声案内が終わるまでそのままお待ちください。
- 一番古い利用履歴の音声案内中に利用履歴確認スイッチを押すと最新の利用履歴に戻ります。
- 利用履歴の確認件数は最大 100 件までですが、使用する ETC カードの種類により最大件数は変わります。ETC カード発行会社にご確認ください。

ETC2.0 車載器の警報

ETC2.0 車載器に異常が発生した場合、橙色ランプとブザー音および音声案内により、異常をお知らせします。

エラーコード	ランプ表示	ブザー音	音声案内	状態	対処
01	緑色：消灯 橙色：点滅	ピーッ	「ETC カードが挿入されていません。」※1	ETC カード挿入異常	ETC カードを差し込みなおしてください。または、料金所の係員の指示にしたがってください。
02	緑色：消灯 橙色：点滅	ピッ ピッ	「カードを読めません。コード 02。」※2	データ処理異常	ETC カードの IC チップ面をきれいに拭きなおしてから、ETC カードを差し込みなおしてください。それでも警報が出るときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
03	緑色：消灯 橙色：点滅	ピッ ピッ	「カードを読めません。コード 03。」※2	ETC カード異常	ETC カードが正しい向きで差し込まれているか確認してください。カードの向きが正しくても警報が出るときは、ETC カード発行会社にご連絡ください。
04	緑色：消灯 橙色：点滅	ピーッ	「異常が発生しました。ETC をご利用できません。コード 04。」※2	ETC2.0 車載器故障	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

※1： ETC カードを挿入せずに ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときも警報を行います。

※2： 音声案内後、ETC カードを抜き取るまで、ブザー音『ピッピッピッ ……』が鳴り続けます。

エラーコード	ランプ表示	ブザー音	音声案内	状態	対処
11	緑色：消灯 橙色：点滅	ピッ ピッ	「ETC カードに書き込みできません。コード 11。」※2	データ処理異常	ETC カードの IC チップ面をきれいに拭きなおしてから、ETC カードを差し込みなおしてください。それでも警報が出るときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
05	緑色：消灯 橙色：点滅	ピッ ピッ	「カードを読めません。コード 05。」※2	ETC カード情報の異常	差し込まれたカードが ETC カードか確認してください。ETC カードが差し込まれていても警報が出るときは、ETC カード発行会社にご連絡ください。
06	緑色：消灯 橙色：点滅	ピーッ	「ETC をご利用できません。コード 06。」	ETC2.0 車載器情報の異常	料金所の係員の指示にしたがってください。
07	緑色：消灯 橙色：点滅	ピーッ	「ETC をご利用できません。コード 07。」	通信異常	料金所の係員の指示にしたがってください。
	緑色：消灯 橙色：点滅	ピーッ	「アンテナの接続が異常です。ETC をご利用できません。コード 07。」※2	アンテナ接続の異常	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
—	緑色：消灯 橙色：点灯	ピッ ピッ	「ETC セットアップされていません。」	ETC2.0 車載器の未セットアップ状態	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

※1： ETC カードを挿入せずに ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときも警報を行います。

※2： 音声案内後、ETC カードを抜き取るまで、ブザー音『ピッピッピッ ……』が鳴り続けます。

警　告

- **走行中に異常が発生した場合は、その先の料金所では ETC を利用できません。『ETC/一般（サポート）』混在車線または『一般（サポート）』車線へ進入してください。**

知　識

- ETC カードを抜き取った状態で利用履歴確認スイッチを 2 秒以上押すと、過去に発生した最新のエラーコードが音声案内されます。（エラーがない場合は、「コード履歴はありません。」と音声案内します。）異常発生時のご確認の際にご使用ください。

オープンソースソフトウェア（OSS）について

本 ETC2.0 車載器には、OSS（Open Source Software）を利用したソフトウェアが搭載されています。それらのソフトウェアのライセンス情報については、下記を参照してください。また、ETC2.0 車載器および OSS に関するお問い合わせは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡下さい。

b64 : Base-64 Encoding Library

Copyright (c) 2004-2011, Matthew Wilson and Synesis Software All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the names(s) of Matthew Wilson and Synesis Software nor the names of any contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

⚠ 警 告

- **本 ETC2.0 車載器は、電波法の基準に適合しています。**
  製品に貼りつけられているシールはその証明ですので、はがさないでください。また、本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ラジオ（USB/Bluetooth® 付き）★

注　意

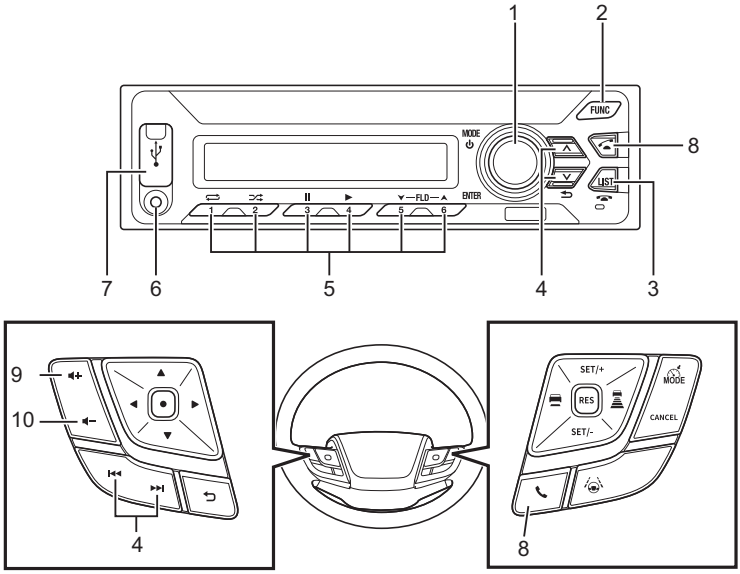
- **ラジオの操作は、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**
- **運転中の音量は車外の音が聞こえる程度に調節してください。車外の音が聞こえないと思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ラジオのアンテナ付近には無線機のアンテナを取り付けないでください。ラジオの音に雑音等が入る原因になります。**

アドバイス

- エンジンが停止しているときにラジオを長時間使用しないでください。バッテリー上がりを招くおそれがあります。
- 水やジュースなどをこぼさないようにしてください。
- 分解やオイルの塗布はしないでください。

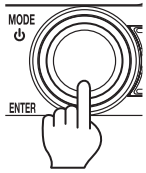
コントロールパネル

スタータースイッチが『ACC』または『ON』位置のとき使うことができます。



No.	名称
1	MODE スイッチ、POWER/ENTER ボタン、音量調整ノブ
2	FUNC ボタン
3	LIST ボタン
4	選局 / トラックボタン
5	プリセットボタン
6	AUX 入力端子
7	USB スロット
8	通話ボタン
9	音量調整スイッチ（大）
10	音量調整スイッチ（小）

電源の入れかた

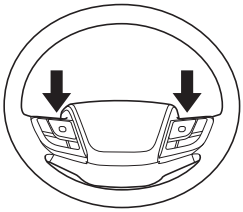


電源ボタン『POWER』を押すと電源が入ります。もう一度押す（1 秒以上）と電源が切れます。

知　識

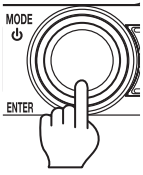
- オーディオモードで音楽を聴いているときに『POWER』ボタンを押すと、電源が切れます。再度『POWER』ボタンを押すと、オーディオシステムは電源を切る前のモードに戻ります。

ステアリングホイールスイッチ

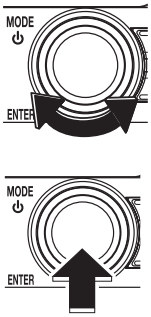


オーディオの一部機能は、ステアリングホイールの左右にあるスイッチで操作できます。

オーディオモードの切り替え

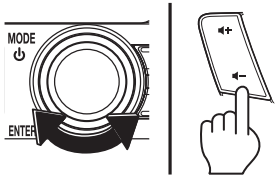


1.『MODE』スイッチを押します。



2.『MODE』スイッチを回して希望のオーディオモードを選択し、『ENTER』ボタンを押します。
オーディオモードは次の順番で変わります。
FM1 ↔ FM2 ↔ FM3 ↔ USB*1 ↔ BT-AUDIO ↔ AUX*2 ↔ AM1 ↔ AM2 ↔ FM1...
*1 このモードは、USB が接続されていない場合はスキップされます。
*2 このモードは、補助プレーヤーが接続されていない場合はスキップされます。

音量の調整



『音量調整』ノブを時計回りまたは反時計回りに回して音量を調整します。
時計回り：音量が上がります。
反時計回り：音量が下がります。

外部機器と接続している状態で音楽再生中に音量調整したい場合は、ステアリングホイールの音量調整スイッチでも操作できます。
音量調整スイッチ（大）：ボタンを押すと音量が上がります。
音量調整スイッチ（小）：ボタンを押すと音量が下がります。

注 意

- **音量を最大にして電源を ON/OFF すると、機器および耳に悪い影響を与えますので適度な音量で使用してください。**

アドバイス

- 『音量調整』ノブは、ユーザーが止めるまで回し続けることができます。ただし、音量そのものに限度があるため、『音量調整』ノブを時計回りまたは反時計回りに回し続けても、ある程度の音量に留まります。
- シフトレバーを『R（後退）』位置に移動すると、システムは自動的に音をミュートします。

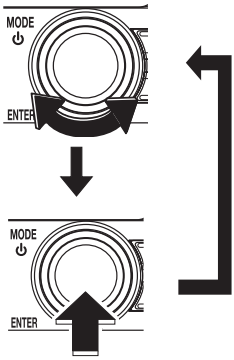
機能設定モード

以下の手順に従って、さまざまなサウンド調整モードを微調整することができます。

低音調整



1.『FUNC』ボタンを押します。



2.『MODE』スイッチを回して『SOUND』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

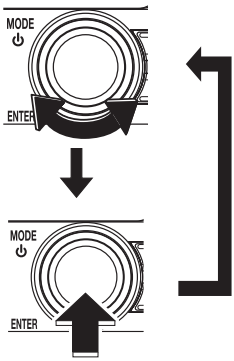
3.『MODE』スイッチを回して『BASS』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

4.『MODE』スイッチを時計回りまたは反時計回りに回してレベルを調整し、『ENTER』ボタンを押します。
時計回り：低周波音を強調します。
反時計回り：低周波音を和らげます。

高音調整



1.『FUNC』ボタンを押します。

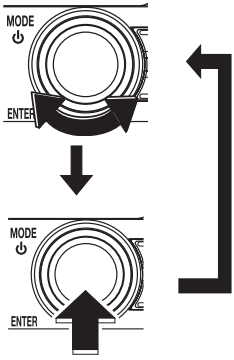


2. 『MODE』スイッチを回して『SOUND』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
3. 『MODE』スイッチを回して『TREBLE』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
4. 『MODE』スイッチを時計回りまたは反時計回りに回してレベルを調整し、『ENTER』ボタンを押します。
   時計回り：高周波音を強調します。
   反時計回り：高周波音を和らげます。

フェーダー調整



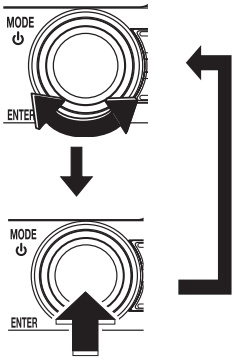
1. 『FUNC』ボタンを押します。



2. 『MODE』スイッチを回して『SOUND』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
3. 『MODE』スイッチを回して『FADER』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
4. 『MODE』スイッチを時計回りまたは反時計回りに回してレベルを調整し、『ENTER』ボタンを押します。
   時計回り：前方のスピーカーを強調します。
   反時計回り：後方のスピーカーを強調します。

バランス調整





1. 『FUNC』ボタンを押します。

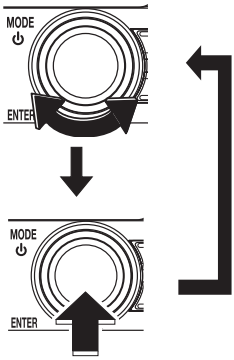
2. 『MODE』スイッチを回して『SOUND』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

3. 『MODE』スイッチを回して『BALANCE』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

4. 『MODE』スイッチを時計回りまたは反時計回りに回してレベルを調整し、『ENTER』ボタンを押します。
   時計回り：右側のスピーカーを強調します。
   反時計回り：左側のスピーカーを強調します。

クロックモードの切り替え





1. 『FUNC』ボタンを押します。

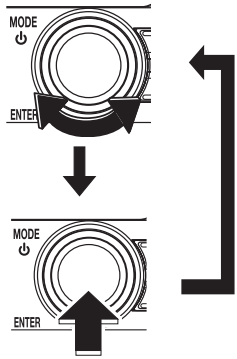
2. 『MODE』スイッチを回して『CLOCK』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

3. 『MODE』スイッチを時計回りまたは反時計回りに回してクロックモードを選択し、『ENTER』ボタンを押します。
OFF（時刻表示 OFF）↔ ON（時刻表示 ON）↔ SET（時間設定）

知　識

- 時間は、クロックモードをオフにしてもリセットされません。

時間の設定



1. クロックモードで『SET』を選択します。
2. 『MODE』スイッチを回して時刻（時間）を設定し、『ENTER』ボタンを押します。時計回り：1 時間進めます。
反時計回り：1 時間戻します。
3. 『MODE』スイッチを回して時刻（分）を設定し、『ENTER』ボタンを押します。時計回り：1 分進めます。
反時計回り：1 分戻します。

知　識

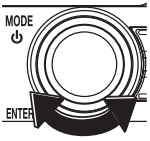
- 時刻（時間）設定モードに戻るには、時刻（分）設定中に『戻る』ボタンを押します。

Bluetooth® 対応機器の登録

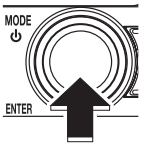
本機に Bluetooth® 対応機器（携帯電話または Bluetooth® 対応のオーディオプレーヤー）を接続することで、本機から操作したり、ハンズフリーモードで通話したり、音楽を聴いたりすることができるようになります。Bluetooth® 接続が成功すると、ディスプレイウィンドウに『 』が表示されます。



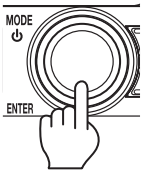
1. 『FUNC』ボタンを押します。



2. 『MODE』スイッチを回して『BLUETOOTH』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。



3. ディスプレイウィンドウに『PAIRING』と表示されたら、『ENTER』ボタンを押します。
Bluetooth® 対応機器が本機にすでに登録されている場合は、『MODE』スイッチを回して『PAIRING』を選択します。



4. 『CAR AUDIO』を選択し、ディスプレイウィンドウに 4 桁のパスキーが表示されたら、Bluetooth® 対応機器を操作してパスキーを入力します。
ポータブルデバイスの操作方法については、デバイスに同梱された取扱説明書を参照してください。
本機での Bluetooth® 対応機器の登録が成功すると、ディスプレイウィンドウには『CONNECTED』と表示されます。
パスキー入力後、ディスプレイウィンドウに『FAILED』と表示された場合は、登録し直してください。

⚠ 注 意

- **運転中に Bluetooth® 対応機器を登録しないでください。登録の際は安全な場所に停車して行ってください。**

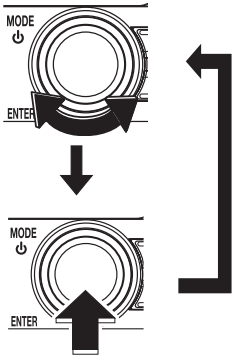
知　識

- 最大 5 台までの Bluetooth® 対応機器を登録することができます。登録数の上限に達し、ディスプレイウィンドウに『DEL DEVICE?』と表示された場合は、登録した Bluetooth® 対応機器を削除する必要があります。

Bluetooth® 対応機器の自動接続



1. 『FUNC』ボタンを押します。



2. 『MODE』スイッチを回して『BLUETOOTH』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

3. 『MODE』スイッチを回して『A.CONNECT』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

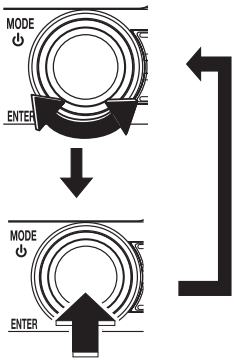
4. 『MODE』スイッチを回して ON/OFF を切り替え、『ENTER』ボタンを押します。
CONNECT ON：自動接続をオンにします。
CONNECT OFF：自動接続をオフにします。

Bluetooth® 設定の初期化

本機に登録された Bluetooth® の設定や履歴は、初期化することができます。

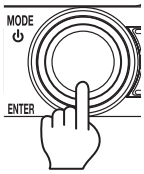


1. 『FUNC』ボタンを押します。



2. 『MODE』スイッチを回して『BLUETOOTH』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

3. 『MODE』スイッチを回して『RESET DATA』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。



4. ディスプレイウィンドウに『RESET DATA ?』と表示されたら、『ENTER』ボタンを押します。
初期化プロセスが始まると、ディスプレイウィンドウには『PLEASE WAIT』と表示されます。
初期化が完了すると、ディスプレイウィンドウには『COMPLETED』と表示されます。

⚠ 注 意

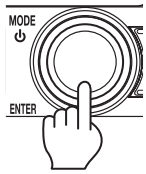
- **運転中に設定を初期化しないでください。安全な場所に停車してから初期化してください。**

知 識

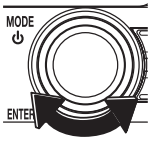
- 初期化された Bluetooth® の設定や履歴は、一度『RESET DATA』機能を完了すると元に戻すことはできません。初期化するときは注意してください。
- 車両を処分するときは、オーディオシステムに登録した個人データを必ず全て削除してください。以下のハンズフリー /Bluetooth® オーディオデータをシステムから削除する必要があります。
  - 発信 / 着信 / 不在着信履歴
  - ハンズフリー設定
  - Bluetooth® 電話データ
  - ポータブルデバイスデータ
  - ポータブルデバイス接続設定

チューナーモードの操作

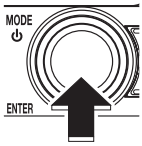
ラジオをオンにする

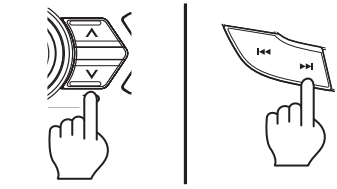


1. 『MODE』スイッチを押します。

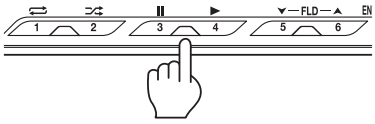


2. 『MODE』スイッチを回して『FM1』、『FM2』、『FM3』、『AM1』、または『AM2』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

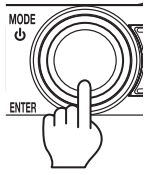




3. 以下のいずれかの方法で選局します。
『選局』ボタンを押します。
『プリセット』ボタンを押します。

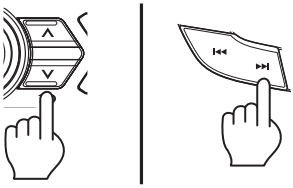


ラジオをオフにする



『Power』ボタンを押します（1 秒以上）。ラジオをオンにするには、再度スイッチを押します。

選局



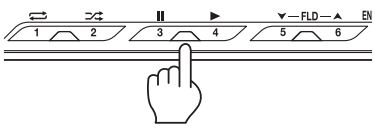
手動選局：
『選局』ボタンを押します（0.8 秒未満）。
ボタンを押すたびに周波数が上がります（または下がります）。希望の放送局を選択してください。
自動選局：
『選局』ボタンを押します（0.8 ～ 1.5 秒の間）。
ラジオが放送局の検索を開始し、見つけると停止します。
『選局』ボタンを長押しします（1.5 秒超）。
ラジオが利用可能な周波数帯域内で放送局の検索を続けます。
キャンセルするには、再度ボタンを押します。

知　識

- 『選局』ボタン（『 ∧ 』）を押すと、ラジオは高い周波数範囲にチューニング（ステップアップ）され、『選局』ボタン（『 ∨ 』）を押すと、低い周波数範囲にチューニング（ステップダウン）されます。
- いずれの場合も、放送局が見つからなければラジオは検索を続けます。

放送局の登録（PRESET）

お気に入りの放送局を『プリセット』ボタンに登録しておけば、ワンタッチ操作で選局できます。
最大 30 局を記録し、登録しておくことが可能です。
AM 12 局（AM1 と AM2 に 6 局ずつ）、FM 18 局（FM1、FM2、および FM3 に 6 局ずつ）

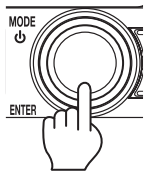


1. 登録するラジオモードを『FM1』、『FM2』、『FM3』、『AM1』、または『AM2』から選択します。
2. 希望の放送局を選局します。
3. 登録先の『プリセット』ボタンを長押しします（2 秒超）。
   放送局の登録後、ディスプレイウィンドウには『プリセット』ボタン番号と放送局の周波数が表示されます。

USB の操作

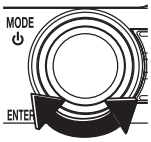
USB メモリー内の音楽ファイルの再生（USB メモリー接続前）

USB メモリーを『USB スロット』に接続すると、ユーザーは USB メモリーの音楽を聴くことができます。

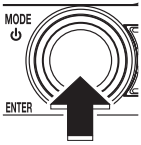


1. USB メモリーを『USB スロット』に接続します。

2.『MODE』スイッチを押します。



3.『MODE』スイッチを回して『USB』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。音楽ファイルが再生されます。



USB メモリー内の音楽ファイルの再生（USB メモリー接続後）

1.『MODE』スイッチを押します。

2.『MODE』スイッチを回して『USB』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。音楽ファイルが再生されます。

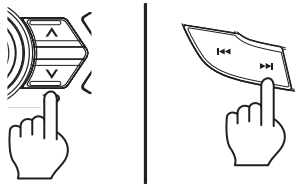
⚠ 注 意

• 運転中に USB メモリーの接続、操作、または取り外しを行わないでください。

知 識

- USB メモリーへのアクセス中（再生中）に、USB メモリーを取り外したり、イグニッションスイッチを ACC OFF に切り替えないでください。データが破損するおそれがあります。誤って削除したときのために、データはバックアップを取っておくことをお奨めします。
- 使用している USB メモリー（非純正品、外的要因により破損した USB メモリー）により、接続できない場合や操作が不安定になる場合があります。
- USB モードを別のモードに切り替えてから元のモードに戻すと、本体は最後に再生した音楽ファイルに戻ります。

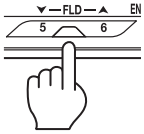
ファイルの選択



希望の音楽ファイルを選択するには、『トラック』ボタン（『∧∨』）を押します。

∧	次のファイルに進みます。
∨	再生中のファイルの先頭に戻ります。前のファイルに戻るには、再度ボタンを押します。

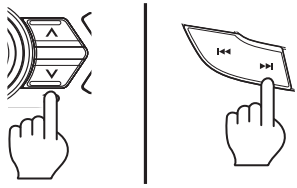
フォルダーの選択



MP3/WMA フォルダーを選択するには、『5』または『6』ボタンを押します。

▲	次のフォルダーに進みます。
▼	前のフォルダーに戻ります。

曲の早送り、早戻し



音楽ファイルを早送りまたは早戻しするには、『トラック』ボタン（『∧∨』）を長押しします（0.8 秒以上）。

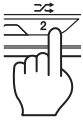
∧	早送り
∨	早戻し。早送りや早戻しを停止するには、ボタンを放します。

リピート再生



再生中のファイルと同じファイルを繰り返すには、『1』ボタンを押します。ディスプレイウィンドウに『 🔁 』が表示されます。
キャンセルするには、ボタンを 2 回押します。『 🔁 』が消えます。
再生中のフォルダーと同じフォルダーを繰り返すには、『1』ボタンを 2 回押します。
プレーヤーは最後のファイルを再生後、同じフォルダーの最初のファイルの再生を開始します。
ディスプレイウィンドウに『FLD 🔁 』が表示されます。
キャンセルするには、再度ボタンを押します。『FLD 🔁 』が消えます。

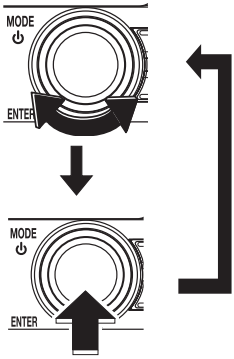
ランダム再生



USB メモリー内の全てのファイルをランダムに再生するには、『2』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに『 🔀 』が表示されます。
キャンセルするには、ボタンを 2 回押します。『 🔀 』が消えます。
USB メモリー内の再生中のフォルダーからファイルをランダムに再生するには、『2』ボタンを 2 回押します。
プレーヤーは最後のファイルを再生後、同じフォルダーの最初のファイルの再生を開始します。
ディスプレイウィンドウに『FLD 🔀 』が表示されます。
キャンセルするには、再度ボタンを押します。『FLD 🔀 』が消えます。

カテゴリーリストから音楽ファイルを選択する



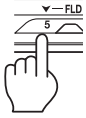


1. 『LIST』ボタンを押します（1 秒未満）。
   ディスプレイウィンドウに『LIST』と表示されます。
   カテゴリー選択モードをキャンセルするには、再度『LIST』ボタンを押すか、『戻る』ボタンを押します。
2. 『MODE』スイッチを回して希望のカテゴリーを選択し、『ENTER』ボタンを押します。カテゴリーは次の順番で変わります。
   PLAYING ↔ FOLDER ↔ FILE ↔ PLAYING...
3. 『MODE』スイッチを回してリストから希望のフォルダーまたはファイルを選択し、『ENTER』ボタンを押します。
   ファイルを選択すると、プレーヤーはファイルの再生を開始します。
   『FOLDER』を選択した場合は、フォルダー内のファイルを選択して再生を開始します。
   リスト選択またはカテゴリー選択モードに戻るには、『戻る』ボタンを押します（1 秒未満）。
   カテゴリー選択モードをキャンセルするには、『戻る』ボタンを長押しします（1 秒超）。

最初の位置に戻る（Home Jump）

再生中の USB メモリーの任意の位置から最初のフォルダーの最初のファイルに戻ることができます。この機能を『Home Jump』と言います。

例： フォルダー 4 のファイル 5 を再生しているときに Home Jump を使用すると、フォルダー 1 のファイル 1 に戻って再生を開始します。

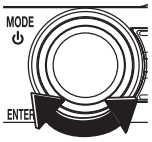


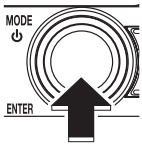
『5』ボタンを長押しします（1 秒超）。

テキスト情報の表示



1. 『LIST』ボタンを長押しします（1 秒超）。





2. 『MODE』スイッチを回して希望の表示項目を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
表示項目は次の順番で変わります。
FL/TR NO（フォルダー番号 / ファイル番号）↔ TIME（再生時間）↔ FOLDER（フォルダー名）↔ FILE（ファイル名）↔ ALBUM（アルバムのタイトル）* ↔ TRACK（トラックのタイトル）↔ ARTIST（アーティスト名）↔ FL/TR NO...
* WMA ファイルを再生しているときには表示されません。

知　識

- テキスト情報がディスプレイウィンドウに入りきらないくらい長い場合は、『FUNC』ボタンを長押しし（1 秒超）、次のページに切り替えます。
- 英数字や記号以外の文字で記録されたテキストは『*』（アスタリスク）で表示されます。
- 音楽ファイルに登録されたテキスト情報がない場合は、ディスプレイに『NO TITLE』と表示されます。

ディスプレイに『ERROR』と表示される場合

ディスプレイウィンドウには、状態によって以下のメッセージが（点滅）表示されます。

表示	説明
READING	このメッセージは、USB デバイスのファイルフォーマットを読み取る際に表示されます。
USB ERROR 1	このメッセージは、プレーヤーが何らかの理由で操作できない場合に表示されます。USB デバイスをオーディオシステムから接続解除してください。
USB ERROR 2	このメッセージは、接続された USB デバイスが無効な場合に表示されます。別の USB デバイスを接続してください。
USB ERROR 3	このメッセージは、USB ハブが接続された場合に表示されます。USB ハブをオーディオシステムから取り外してください。
NO MUSIC	このメッセージは、空の USB デバイス、または再生拡張機能付きのファイルを含まない USB デバイスが接続された場合に表示されます。
READ ERROR	このメッセージは、USB デバイスの問題が検出された場合に表示されます。USB デバイスの接続を解除し、USB デバイス自体を点検してください。
NO SUPPORT	このメッセージは、USB デバイスに MP3/WMA データ（MP3/WMA 拡張ファイルを含む）がない場合、または SKIP FILE のみがある場合に表示されます。

Bluetooth® オーディオの操作

本機に Bluetooth® 対応のオーディオプレーヤーまたは携帯電話（以降「ポータブルデバイス」と言う）を接続することで、システムから操作したり、音楽を聴いたりすることができるようになります。
加えて、本機とポータブルデバイスはワイヤレス接続のため、ユーザーがケーブル接続に関連する問題に直面することはありません。
本機は Bluetooth® に対応しています。Bluetooth® はワイヤレスデータシステムであるため、ユーザーはポータブルデバイスをケーブルで接続することなく音楽を聴くことができます。
ポータブルデバイスが Bluetooth® に対応していない場合は、この機能を利用することはできません。

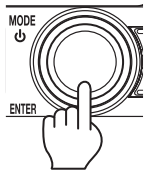
⚠ 注 意

- 運転中にポータブルデバイスを接続しないでください。

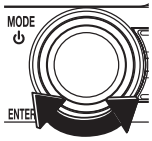
アドバイス

- 車内にポータブルデバイスを放置しないでください（炎天下の車内は非常に高温になることがあります）。
- ポータブルデバイスは、本機のすぐ近くに設置しないでください。デバイスと本機の距離が近すぎると、音質が低下し、接続問題が発生する場合があります。

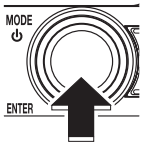
音楽の再生



1.『MODE』スイッチを押します。



2.『MODE』スイッチを回して『BT-AUDIO』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
接続された Bluetooth® 対応のポータブルデバイス上の音楽が再生されます。
登録したデバイスが接続されていない場合、ディスプレイウィンドウには『NO CONNECT』と表示されます。



知　識

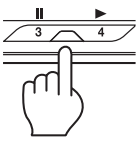
- Bluetooth® オーディオの操作は、ポータブルデバイスの互換性により異なります。
- 本機によるポータブルデバイスの操作は、ポータブルデバイスの仕様によって異なります。
- 本機に接続された Bluetooth® 対応のポータブルデバイスにより、曲が再生されなかったり、一時停止する場合があります。
- プレーヤーが AVRCP Ver.1.0 対応のポータブルデバイスに接続されている場合、ディスプレイウィンドウには『STREAMING』と表示され、デバイスの機能が一部制限される場合があります。

参照ページ
6-74 Bluetooth® 対応機器の登録

再生停止

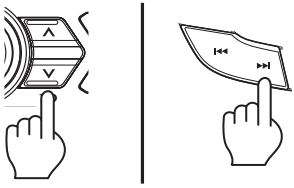
別のオーディオモードに切り替えます。

曲の一時停止



曲を一時停止するには、『3』ボタンを押します。
再開するには、『4』ボタンを押します。

トラックの選択



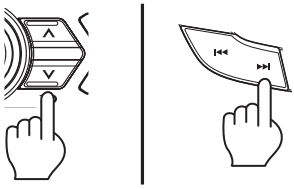
『トラック』ボタン（『∧∨』）を押して希望のトラックを選択します。

∧	次のトラックに進みます。
∨	再生中のトラックの先頭に戻ります。前のトラックに戻るには、再度ボタンを押します。

知　識

- 本機によるポータブルデバイスの操作は、ポータブルデバイスの仕様によって異なります。

曲の早送り、早戻し



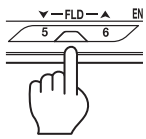
トラックを早送りまたは早戻しするには、『トラック』ボタン（『∧∨』）を長押しします（0.8 秒以上）。

∧	早送り
∨	早戻し。早送りや早戻しを停止するには、ボタンを解放します。

知　識

- 本機によるポータブルデバイスの操作は、ポータブルデバイスの仕様によって異なります。

アルバムの選択



『5』または『6』ボタンを押して、アルバムを選択します。

▲	次のアルバムに進みます。
▼	前のアルバムに戻ります。

知 識

- 本機によるポータブルデバイスの操作は、ポータブルデバイスの仕様によって異なります。

リピート再生



『1』ボタンを押すと、再生中のトラックと同じファイルを繰り返します。ディスプレイウィンドウに『 ⇄ 』が表示されます。
キャンセルするには、ボタンを 2 回押します。『 ⇄ 』が消えます。
『1』ボタンを 2 回押すと、再生中のアルバムと同じアルバムを繰り返します。プレーヤーは最後のファイルを再生後、同じアルバムの最初のファイルの再生を開始します。ディスプレイウィンドウに『FLD ⇄ 』が表示されます。
キャンセルするには、再度ボタンを押します。『FLD ⇄ 』が消えます。

知 識

- 本機によるポータブルデバイスの操作は、ポータブルデバイスの仕様によって異なります。

ランダム再生



Bluetooth® オーディオ内の全てのトラックをランダムに再生するには、『2』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに『 ⤮ 』が表示されます。
キャンセルするには、ボタンを 2 回押します。『 ⤮ 』が消えます。
再生中のアルバムのトラックをランダムに再生するには、『2』ボタンを 2 回押します。プレーヤーは最後のトラックを再生後、同じアルバムの最初のトラックの再生を開始します。
ディスプレイウィンドウに『FLD ⤮ 』が表示されます。
キャンセルするには、再度ボタンを押します。『FLD ⤮ 』が消えます。

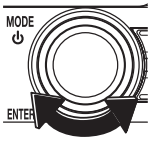
知 識

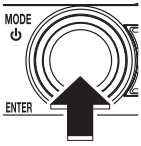
- 本機によるポータブルデバイスの操作は、ポータブルデバイスの仕様によって異なります。

テキスト情報の表示



1. 『LIST』ボタンを長押しします（1 秒超）。





2. 『MODE』スイッチを回して希望の表示項目を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
表示項目は次の順番で変わります。
TR NO/TIME（トラック番号 / 再生時間）↔ ALBUM（アルバムのタイトル）↔ TRACK（トラックのタイトル）↔ ARTIST（アーティスト名）↔ TR NO/TIME...

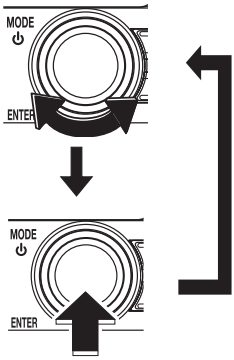
知　識

- テキスト情報がディスプレイウィンドウに入りきらないくらい長い場合は、『FUNC』ボタンを長押しし（1 秒超）、次のページに切り替えます。
- 英数字や記号以外の文字で記録されたテキストは『*』（アスタリスク）で表示されます。
- 音楽ファイルに登録されたテキスト情報がない場合は、ディスプレイウィンドウに『NO TITLE』と表示されます。

登録済みポータブルデバイスの表示



1. 『FUNC』ボタンを押します。



2. 『MODE』スイッチを回して『BLUETOOTH』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

3. 『MODE』スイッチを回して『LIST AUDIO』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

4. 『MODE』スイッチを回して装置名を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

5. 『MODE』スイッチを回して希望の表示項目を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
SELECT：登録したポータブルデバイスを接続します。
ディスプレイウィンドウに『SEARCHING』と表示されます。
DISCONNECT：登録したポータブルデバイスの接続を解除します。ディスプレイウィンドウに『DISCONNECT?』と表示されたら、『ENTER』ボタンを押します。
DELETE：登録したポータブルデバイスを削除します。
ディスプレイウィンドウに『DELETE?』と表示されたら、『ENTER』ボタンを押します。
METHOD：接続方法を切り替えます。本機を操作してポータブルデバイスを接続するには、『FROM VEHICLE』を選択します。ポータブルデバイスから本機を接続するには、『FROM AUDIO』を選択します。

ディスプレイに『ERROR』と表示される場合

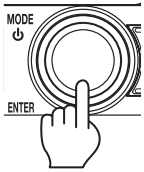
ディスプレイウィンドウには、状態によって以下のメッセージが（点滅）表示されます。

表示	説明
NO CONNECT	このメッセージは、本機がポータブルデバイスに接続されていない場合に表示されます。

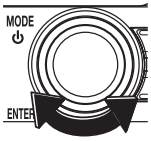
AUX の操作

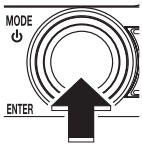
お持ちのポータブルオーディオデバイスの 3.5 mm のヘッドホンジャックを『AUX 入力端子』に接続することで、本機を通して音楽を聴くことができます。

1. ミニプラグケーブルを使用して、ポータブルオーディオデバイスを『AUX 入力端子』に接続します。



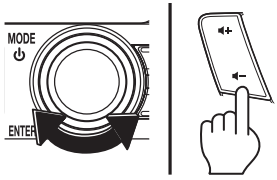
2.『MODE』スイッチを押します。





3.『MODE』スイッチを回して『AUX』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
また、ミニプラグケーブルを『AUX 入力端子』に接続することで AUX モードになり、ポータブルオーディオデバイスを使用できるようになります。
ミニプラグケーブルが本機から接続解除されると、AUX モードはキャンセルされます。

音量の調整



『音量調整』ノブを時計回りまたは反時計回りに回して音量を調整します。
- 時計回り：音量が上がります。
- 反時計回り：音量が下がります。

ステアリングホイールの音量調整スイッチでも操作できます。
- 音量調整スイッチ（大）：ボタンを押すと音量が上がります。
- 音量調整スイッチ（小）：ボタンを押すと音量が下がります。

⚠ 注 意

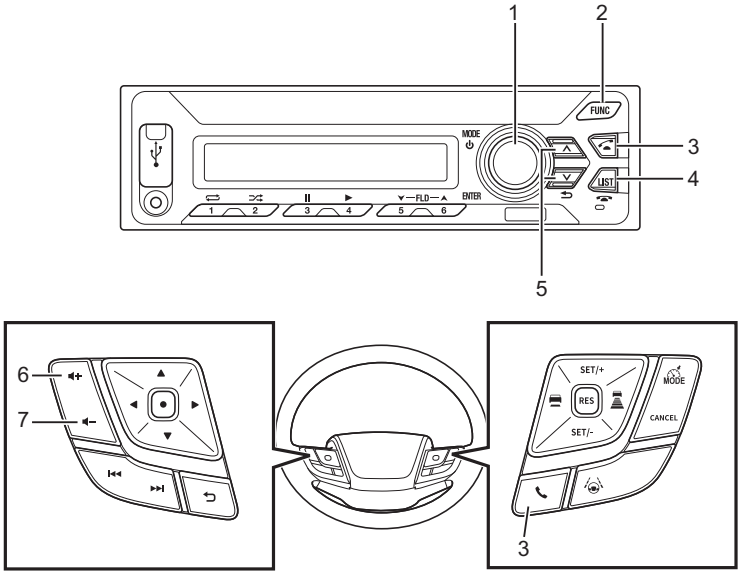
- **ポータブルオーディオデバイスとミニプラグケーブルは、運転の妨げにならない場所に配置するか、邪魔にならない位置に一時的に固定してください。運転を妨げ、交通事故を引き起こす可能性があります。**
- **ミニプラグケーブルの端子に触れないでください。**
- **運転中にポータブルオーディオデバイスの接続、操作、または取り外しを行わないでください。**

知　識

- AUX モードで調整され、設定された音量は、AUX モードでのみ有効です。
- ポータブルオーディオデバイスの電源には、バッテリーまたはデバイスとともに支給されるその他の電源を使用してください。
- AUX デバイスを本体から制御することはできません。
- スピーカーの損傷を防ぐため、AUX の音量は下げてください。

ハンズフリー操作 ★

本機は Bluetooth® に対応しています。Bluetooth® はワイヤレスデータシステムであるため、ユーザーは携帯電話をケーブルで接続したりケーブルに配置することなく電話をかけることができます。
ご使用の携帯電話が Bluetooth® に対応していない場合、本機は機能しません。



No.	名称
1	MODE スイッチ ENTER ボタン 音量調整ノブ
2	FUNC ボタン
3	通話ボタン
4	終話ボタン
5	レベル調整ボタン
6	音量調整スイッチ（大）
7	音量調整スイッチ（小）

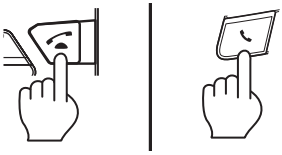
知　識

- まず、以下の操作を行う前に、携帯電話を本機に接続します。『Bluetooth® 対応機器の登録』を参照してください。
- 車内に携帯電話を放置しないでください。車内温度が高くなり、電話を損傷する場合があります。
- 以下の条件下では、システムが機能しない場合があります。
  - 携帯電話の電源がオフになっているとき
  - 現在の位置が通信エリア外である場合
  - 携帯電話が本機に接続されていないとき
  - 携帯電話のバッテリー残量が少ないとき

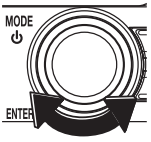
参照ページ
6-74 Bluetooth® 対応機器の登録

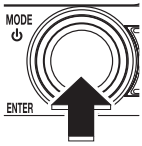
ハンズフリーシステムの操作

電話番号を入力して電話をかける

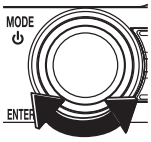


1. 『通話』ボタンを押します。

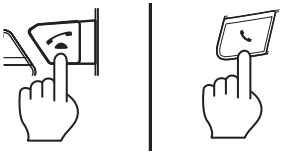


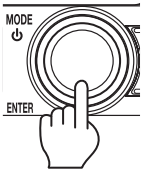


2. 『MODE』スイッチを回して『ENTER NUMBER』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに『INPUT NUMBER』と表示されます。



3. 『MODE』スイッチを回して電話番号を選択します。
電話番号は一度に 1 桁ずつ入力できます。
数字（0 ～ 9）と記号（*、#、+）を使用できます。記号（+）は、最初の 1 桁にのみ使用できます。
『レベル調整』ボタン（ ∧ ）：次の桁に進みます。
『レベル調整』ボタン（ ∨ ）：入力した桁を削除し、前の桁に戻ります。



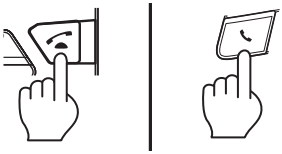


4. 電話番号の入力後、『通話』ボタンまたは『ENTER』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに『CALLING』と表示され、選択した電話番号に電話がかけられます。
相手が電話に出たら、ハンズフリーモードで通話することができます。

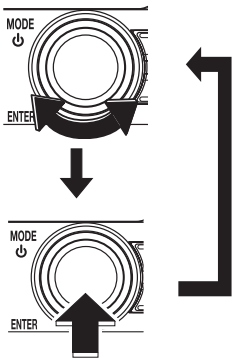
⚠ 注 意

- **運転中に電話番号を入力しないでください。安全な場所に停車してから電話番号を入力してください。**

不在着信履歴から電話をかける



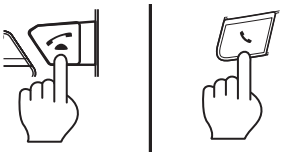
1. 『通話』ボタンを押します。



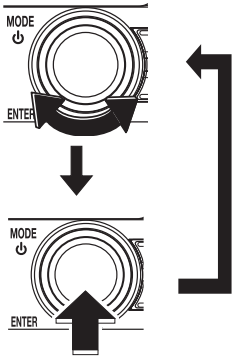
2.『MODE』スイッチを回して『MISSED』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに最後の不在着信の電話番号が表示されます。

3.『MODE』スイッチを回して希望の電話番号を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに『CALLING』と表示され、選択した電話番号に電話がかけられます。
『通話』ボタンを押して電話をかけることもできます。
相手が電話に出たら、ハンズフリーモードで通話することができます。

着信履歴から電話をかける



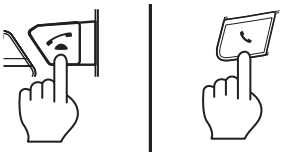
1.『通話』ボタンを押します。



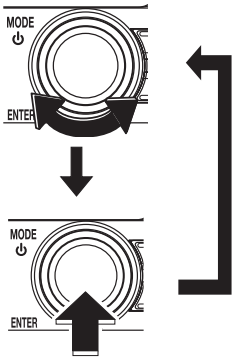
2.『MODE』スイッチを回して『INCOMING』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
最後に電話をかけてきた相手の電話番号が表示されます。

3.『MODE』スイッチを回して希望の電話番号を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに『CALLING』と表示され、選択した電話番号に電話がかけられます。
『通話』ボタンを押して電話をかけることもできます。
相手が電話に出たら、ハンズフリーモードで通話することができます。

発信履歴から電話をかける



1.『通話』ボタンを押します。



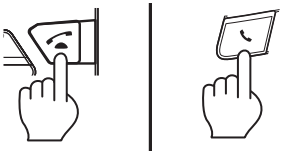
2.『MODE』スイッチを回して『OUTGOING』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに相手の電話番号が表示されます。

3.『MODE』スイッチを回して希望の電話番号を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
ディスプレイウィンドウに『CALLING』と表示され、選択した電話番号に電話がかけられます。
『通話』ボタンを押して電話をかけることもできます。
相手が電話に出たら、ハンズフリーモードで通話することができます。

電話を受ける

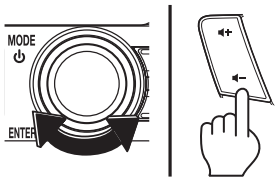
電話機では、着信するとディスプレイウィンドウに『INCOMING』に続いて相手の電話番号が表示されます。

- ディスプレイウィンドウに番号のみが表示されます。
- プライベート通話がある場合は、ディスプレイウィンドウに『UNAVAILABLE』と表示されます。
- 電話がかかってきたときに『終話』ボタンを押すことで、着信を拒否することができます。
- 本機は帯域内呼び出し音に対応しています（電話の呼び出し音を本体に転送します）。電話が帯域内呼び出し音に対応していない場合、本機は内蔵呼び出し音を使用します。



『通話』ボタンを押し、ハンズフリーを使用して通話します。
通話が終わったら、『終話』ボタンを押します。

音量の設定



通話音量：
電話中に『音量調整』ノブを回します。
・時計回り：音量を上げます。
・反時計回り：音量を下げます。調整された音量の値が保存されます。
呼び出し音量：
電話がかかってきたときに『音量調整』ノブを回します。
・時計回り：音量を上げます。
・反時計回り：音量を下げます。調整された音量の値が保存されます。

発信・通話・着信中に音量調整したい場合は、通話音量、呼び出し音量ともに、ステアリングホイールの音量調整スイッチでも操作できます。
音量調整スイッチ（大）：ボタンを押すと音量が上がります。
音量調整スイッチ（小）：ボタンを押すと音量が下がります。

知　識

・各携帯電話の音量とマイクゲイン設定は、仕様によって異なります。

内蔵マイクの感度設定

通話相手にとって声が低すぎたり聞き取りづらかったりする場合や、エコーやハウリングがある場合は、マイク感度を調整できます。



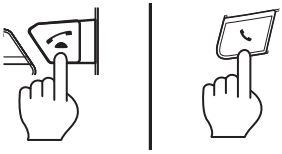
電話中に『レベル調整』ボタンを押します。
『レベル調整』ボタン（『 ∧ 』）：感度を上げます（音声伝送効率が高くなります）。
『レベル調整』ボタン（『 ∨ 』）：感度を下げます（音声伝送効率が低くなります）。
設定は、0 ～最大（10）の範囲内で調整できます。（デフォルト：5）

知　識

・ボタンの操作中に、ディスプレイウィンドウに『MIC LEVEL』と表示されます。『MIC LEVEL』は操作完了後 2 秒で消え、ディスプレイは元の状態に戻ります。

携帯電話での通話（プライベートモード）

電話を本機（ハンズフリーモード）から携帯電話に切り替えることができます。



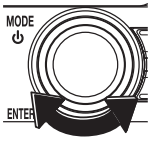
電話中に『通話』ボタンを長押しします（1秒超）。

トーン番号の入力

電話中にトーン番号を送信できます。



1. 電話中に『FUNC』ボタンを押します。



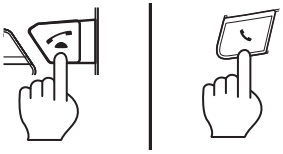
2.『MODE』スイッチを回してトーン番号を選択します。電話番号は一度に 1 桁ずつ入力できます。
数字（0 ～ 9）と記号（*、#、+）を使用できます。記号（+）は、最初の 1 桁にのみ使用できます。



3.『レベル調整』ボタン（『 ∧ 』）を押します。
選択したトーン番号が送信されます。
次のステップに進み、必要に応じて再度トーン番号を選択します。

通話中着信時の通話

ディスプレイウィンドウに通話中の電話が示される場合、通話中着信機能では、最初の電話を保留にして 2 番目の電話を受信し、応答することが可能です。



電話中に呼び出し音が鳴ったら、『通話』ボタンを押します。

- 通話中の電話を保留にして、2 番目の相手とつながります。
- 通話中着信機能をオフにしたい場合は、『終話』ボタンを押します。
- 通話中着信機能がオフになると、保留中の最初の相手とつながります。
- 再度『通話』ボタンを押すと、通話中着信でつながっている相手を切り替えることができます。

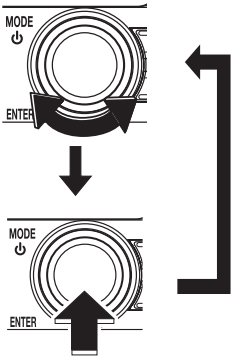
知 識

- この機能は、ご使用の電話が通話中着信機能に対応している場合にのみ使用できます。

登録済み携帯電話の表示



1. 『FUNC』ボタンを押します。



2. 『MODE』スイッチを回して『BLUETOOTH』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

3. 『MODE』スイッチを回して『LIST PHONE』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

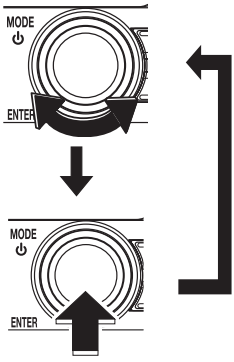
4. 『MODE』スイッチを回して携帯電話の名前を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

5. 『MODE』スイッチを回して希望の表示項目を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
SELECT：登録した携帯電話を接続します。
ディスプレイウィンドウに『SEARCHING』と表示されます。
DISCONNECT：登録した携帯電話の接続を解除します。ディスプレイウィンドウに『DISCONNECT?』と表示されたら、『ENTER』ボタンを押します。
DELETE：登録した携帯電話を削除します。
ディスプレイウィンドウに『DELETE?』と表示されたら、『ENTER』ボタンを押します。

ハンズフリーの音量調整



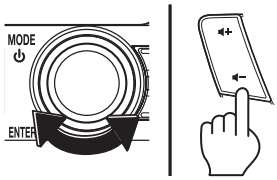
1. 『FUNC』ボタンを押します。



2. 『MODE』スイッチを回して『BLUETOOTH』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

3. 『MODE』スイッチを回して『HF SOUND』を選択し、『ENTER』ボタンを押します。

4. 『MODE』スイッチを回して調整項目を選択し、『ENTER』ボタンを押します。
CALL VOLUME：通話音量を調整します。
RINGTONE：呼び出し音の音量を調整します。



5.『音量調整』ノブを回すか、音量調整スイッチを押します。
時計回り：音量を上げます。
反時計回り：音量を下げます。調整された音量の値が保存されます。
着信中または通話中に音量を調整するには、『音量の設定』を参照してください。

参照ページ
6-98 音量の設定

オーディオシステムの使用★

⚠ 注 意

- **ラジオの操作は、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。**
- **運転中の音量は車外の音が聞こえる程度に調節してください。車外の音が聞こえないと思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **ラジオのアンテナ付近には無線機のアンテナを取り付けないでください。ラジオの音に雑音等が入る原因になります。**

アドバイス

- エンジンが停止しているときにラジオを長時間使用しないでください。バッテリー上がりを招くおそれがあります。
- 水やジュースなどをこぼさないようにしてください。
- 分解やオイルの塗布はしないでください。

ラジオ

通常、ラジオ受信の問題はラジオに問題があるわけではありません。単に、車両の外の状態の正常な結果です。
たとえば、近くのビルや地形は、FM の受信を妨害することがあります。電線や電話線は、AM 信号を妨害することがあります。
もちろん、無線信号の範囲は制限されています。放送局から離れるほど、信号は弱くなります。加えて、車両の移動に伴って受信状況は常に変わり続けます。
ここに、ご使用のラジオの問題ではない、よくある受信時の問題をいくつかあげます。

FM 送信

放送局のフェージングおよびドリフト - 通常、FM の有効範囲は約 25 マイル（40 km）です。この範囲の外では、ラジオの送信機からの距離が離れるほどフェージングやドリフトが増加します。これは、多くの場合、ひずみを伴います。
マルチパス - FM 信号は反射するため、2 つの信号が同時にアンテナに届くことができます。この場合、信号は互いに打ち消しあい、一時的なフラッタリングや受信が途絶えることがあります。
雑音およびフラッタリング - これらは、信号がビル、木、またはその他の大型物体にブロックされた場合に発生します。ベースレベルを上げると、雑音やフラッタリングが低減します。
放送局の入れ替え - 聴取している FM 信号が中断されたり弱まったりした場合で、FM 帯域上で近くに別の強い放送局がある場合、ご使用のラジオでは、再度元の信号を受信するまで、第 2 放送局を選局する場合があります。

AM 送信

フェージング - AM 放送は、特に夜間、上層大気の状態が反映されます。これらの反射信号はラジオ放送局から直接受信した信号と干渉し、ラジオ放送局が交互に強く聞こえたり弱く聞こえたりします。
放送局の干渉 - 反射信号とラジオ放送局から直接受信した信号がほとんど同じ周波数の場合、互いに干渉することがあり、放送を聴くのが難しくなります。
雑音 - AM は、高圧電線、雷、電動モーターなどの電気ノイズの外部ソースの影響を受けやすいです。これにより、雑音が生じます。

USB デバイス

USB メモリー規格

互換性のあるファイルシステム：	**FAT16/32**
再生可能なオーディオフォーマット：	**MP3/WMA 互換性：USB2.0（フルスピード）**
互換性のあるデバイス：	**USB マスストレージクラス**

このシステムは、外部ハードドライブユニット（ポケットハードディスクドライブ）には対応していません。
HUB などを使用した接続には対応してません。

再生可能な MP3 ファイル規格

対応している規格：		MPEG-1 オーディオレイヤー III、MPEG-2 オーディオレイヤー III
対応しているサンプリング周波数：	MPEG-1:	32、44.1、48（kHz）
	MPEG-2：	16、22.05、24（kHz）
対応しているビットレート：	MPEG1:	32、40、48、56、64、80、96、112、128、160、192、224、256、320（kbps）
	MPEG2:	8、16、24、32、40、48、56、64、80、96、112、128、160（kbps）

可変ビットレート（VBR）に対応しています。
フリーフォーマットには対応していません。
DRM（Digital Rights Management、デジタル著作権管理）には対応していません。
対応しているチャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

再生可能な WMA ファイル規格

対応している規格：	WMA Ver.7、WMA Ver.8、WMA Ver.9
対応しているサンプリング周波数：	32、44.1、48（kHz）
対応しているビットレート：	Ver.7、8：CBR 48、64、80、96、128、160、192（kbps）
Ver.9（9.1/9.2）：	CBR 48、64、80、96、128、160、192、256、320（kbps） 2ch 再生のみ対応しています。

可変ビットレート（VBR）に対応しています。
可逆圧縮には対応していません。

ID3 タグ /WMA タグ

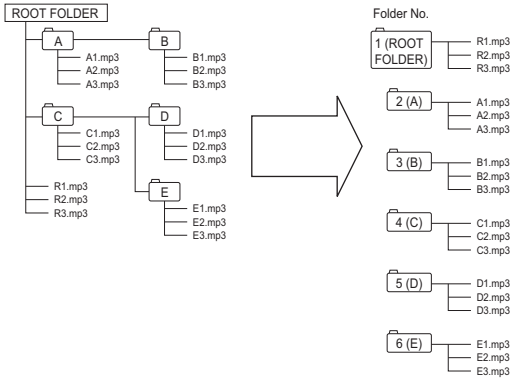
MP3/WMA ファイルには、情報の入力が可能な「ID3 タグ /WMA タグ」があり、これにより曲のタイトルやアーティストなどを保存できます。
このプレーヤーは、ID3 Ver.1.0、1.1、2.2、2.3、および WMA タグに対応しています。

MP3/WMA のファイル / フォルダー名の表示順

同じレベル内の MP3/WMA フォルダーおよびファイルの名前は、以下の順番で表示されます。

1. 最初に、MP3/WMA フォルダーが数字、文字の昇順で表示されます。
   ディスクのルート直下に保存されたファイルは、『ROOT FOLDER』に保存されます。
2. 次に、ファイルが数字、文字の昇順で表示されます。
   ここでは、ディスクがすでに本機に読み込まれているものとします。

【MP3/WMA ファイル構造の例】
本機では、以下に示すように、ユーザーが作成したフォルダーを再構成します。



知　識

- 以下の動作は、上記のサンプル MP3/WMA ファイル構造に基づいています。
- 通常、ROOT FOLDER 内のトラックは、最初のファイルから順番に再生されます。

Bluetooth® について

Bluetooth® ワードマークとロゴは Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。
DENSO TEN Limited（日産車両に設置された特定のラジオのメーカー）によるこれらのマークの利用は、ライセンスに基づいています。その他の商標および商品名は、それぞれの所有者の所有物です。

互換性のある Bluetooth® 仕様 :	**Bluetooth® Specification Ver.5.1 + EDR**
互換性プロファイル :	**Hands Free Profile (HFP) Ver.1.7.2** **Advanced Audio Distribution Profile (A2DP) Ver.1.3.2** **Audio/Video Remote Control Profile (AVRCP) Ver.1.6.2**

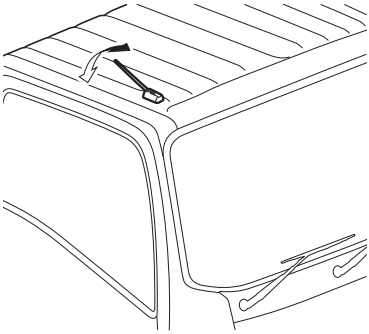
Bluetooth® ハンズフリー / オーディオの操作は、携帯電話の互換性により異なります。Bluetooth® ハンズフリーの性能は携帯電話のネットワーク、ハンドセット、および運転状況の影響を受ける場合があります。
システムの機能は、ご使用の携帯電話の機種により、部分的に制限される場合があります。
本機によるポータブルデバイスの操作は、ポータブルデバイスの仕様によって異なります。

商標

- Windows Media は、米国またはその他の国や地域における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。
- 本製品は、Microsoft 独自の知的財産権によって保護されています。
- Microsoft の許可なく、本製品以外でこの技術を使用または配布することは禁止されています。
- Microsoft、Windows は、米国またはその他の国や地域における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

- 本書に記載されているその他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

アンテナ



アドバイス

- アンテナの折れを防ぐため、軒の低いところを通るときや、洗車のときはアンテナを倒してください。

知　識

【ラジオの受信について】

- 車両の移動にともないアンテナの位置も変わるため、電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することができない場合があります。
- FM 放送は AM 放送に比べ、音質が良く、ステレオ放送にも対応していますが、FM 電波の性質上、移動する車両での最良な受信状態を維持することができない場合があります。

FM 電波の直進性

- FM 電波は AM 電波に比べ直進性が強いため、山や建物などの影響を受けやすく、AM 電波よりも受信範囲が狭くなります。

音の消失現象

- FM 電波は物に反射されやすく、ビルや建物などが多い地域を走行したときに音が途切れたり雑音が生じることがあります。

音のひずみ現象

- 放送局から直接受信している電波とビルや建物から反射した電波を同時に受信した場合に雑音や音のかすれなどの現象が起こることがあります。

点検・整備の前に 7

- 点検整備について 7-2
- 点検･調整をするときの注意 7-3
- 廃棄部品、廃棄油脂液類 7-4
- 日産純正部品について 7-4
- 車載工具 7-6
- ジャッキ 7-15
- 点検口★ 7-22
- キャブチルト★ 7-28

点検整備について

定期点検整備を必ず行ってください

道路運送車両法により、日常（運行前）点検と定期点検はお客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）の他に、日産自動車が指定するメーカー指定点検項目［シビアコンディション（厳しい使われ方）項目および定期交換部品を含む］があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。
本書では、簡単な点検･手入れについてまとめてあります。点検整備の詳細については、別冊の「メンテナンスノート」に従い、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

参照ページ
8-16 定期点検整備一覧
8-17 定期交換部品一覧
9-2 お出かけ前には『日常（運行前）点検』を

アドバイス

- 点検整備を実施していただくことにより、安心してご使用いただけます。また、お車の寿命を延ばすことにもなります。

知　識

【シビアコンディションについて】

- 定期点検整備は 1 か月で 5,000km 程度走行する場合を標準の時期として定めてあります。
  特に走行距離が多い場合、または標準的な使用条件と著しく異なる厳しい使用の場合には部品の劣化度合いが著しく異なることがあり、標準の時期より早めに点検整備をすることが必要です。このように日常厳しい使われ方をする車を常に良好な状態に保つため、定期点検とは別に日産自動車が独自に点検整備を指定しています。
- 次の条件のいずれかひとつにあてはまれば『シビアコンディション』に該当します。
  - 悪路（凸凹路、砂利道、未舗装路など）、雪道、多塵地帯の走行が走行距離の 30% 以上
  - 走行距離が多い（目安：1 か月に 10,000km 以上）
  - 山道、登坂坂道の走行が走行距離の 30%以上
  - 発進･停止の繰り返しが多い、もしくは低速走行が走行距離の 30%以上

点検･調整をするときの注意

⚠ 警 告

- 整備する場所は地面が平坦で固い場所を選び、必ず輪止めをかけてから作業を行ってください。万一、車が動き出すと危険です。
- マニュアルトランスミッション車はパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーは『N』位置にします。
- デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーは『P』位置にします。
- 必ずエンジンを止めて、スタータースイッチは『LOCK』位置にします。インテリジェントキー無車はスターターキーを抜き取り、インテリジェントキー付車はリモコンキーを作動範囲外に置きます。
- 電気系統の作業をするときは必ずバッテリーの⊖端子を外しておきます。
  - 除く AHR 型車（24V バッテリー）は、バッテリーの⊖端子は、12V 側バッテリーの⊖端子を取り外し、次に 24V 側バッテリーの⊖端子の順で両方の端子を取り外してください。
  - AHR 型車（12V バッテリー）は、バッテリー端子を取り外すときは⊖端子から取り外してください。
- ジャッキアップは、『ジャッキ』を参照し適切に行います。
- 火気の近くでは作業しないでください。
- 運転直後のエンジン本体、DPD、尿素 SCR、マフラー、排気管、ラジエーター等の各部は高温になっています。やけどをしないように注意してください。点検するときはエンジン等が冷えた状態で行ってください。
- 各オイル類、オイルフィルター類の交換は、それぞれのオイルが十分冷えてから作業をします。高温の状態で作業するとやけどします。
- 燃料ライン、フューエルフィルターを整備するときは、フューエルキャップを取り外してください。燃料システムには高い圧力がかかっているため、この圧力を抜かないと燃料があふれたり、これに引火し、火災を招くおそれがあります。
- 換気の悪い車庫、屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

参照ページ
7-15 ジャッキ

アドバイス

- 適切な工具を使用してください。
- 除く AHR 型車（24V バッテリー）は、バッテリーの⊖端子を外すときは、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、3 分以上待ってから、初めに 12V 側、次に 24V 側の順で両方の端子を外してください。3 分以内にバッテリーの⊖端子を外すと、エンジンなどの電子制御機器に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- AHR 型車（12V バッテリー）は、バッテリーの⊖端子を外すときは、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、5 分以上待ってから端子を外してください。5 分以内にバッテリーの⊖端子を外すと、エンジンなどの電子制御機器に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- 取り外した部品や工具をエンジンルーム内に置き忘れないでください。万一ベルト類などにからまると装置を損傷、破損するおそれがあります。
- 汚れた水や、ほこりなどはフルード / オイルの有効性を著しく弱め部品損傷の原因になります。
  取り外した部品は、ゴミや異物が混入しないよう十分注意して補給、交換を行ってください。
- 作業後、各部が正常であるか確認します。

廃棄部品、廃棄油脂液類

注　意

- **廃棄部品や、排出した油脂液類は、生活環境に悪影響をおよぼします。処理が問題になりますので《日産販売会社》で点検、交換を行ってください。**

各オイル類、フィルター類、冷却液等の交換作業をするときはあらかじめ受け皿を用意して、その中に排出するようにします。
交換後の各種部品、オイル類、フィルター類冷却液等の廃棄･処理は規定の方法で行ってください。

日産純正部品について

《日産純正部品》は新車に取り付けられている部品と同じ規格で作られており、その品質、性能については日産自動車が保証しています。保守整備に必要な部品、油脂類などは《日産純正部品》をご使用ください。
《日産純正部品》以外の使用によって生じた故障および事故については保証できません。
《日産純正部品》は《日産販売会社》で販売しております。

純正油脂類

オイルおよびグリースの定期的な補給･交換は、車両の性能維持や不具合防止などのために非常に重要な作業です。
日産純正油脂類は、その品質、性能については日産自動車が保証しています。
保守整備に必要な油脂類は日産純正油脂類を使用してください。

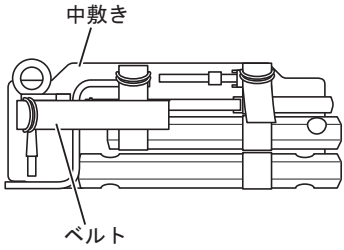
車載工具

アドバイス

- 使用する前に工具の種類、ジャッキの使いかたを確認してください。
- 使用後、取り出した工具は走行中に動かないように所定の場所にしっかりと格納してください。
- 停止表示板は必ず常時携帯してください。

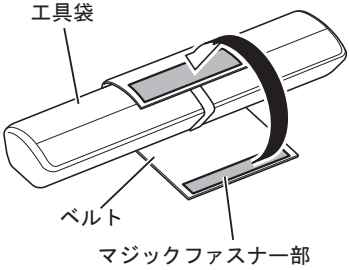
【標準キャブ車（ダブルキャブ車を除く）】

- 工具を使用したあとは、『格納方法』を参照し、確実に工具を中敷きに取り付けてください。



【標準キャブ（ダブルキャブ車）・ハイキャブ・ワイドキャブ車】

- 工具の取り付けを行うとき、フロアトリムに取り付けられているベルトのマジックファスナーを貼り合わせ、工具袋をしっかりと固定してください。



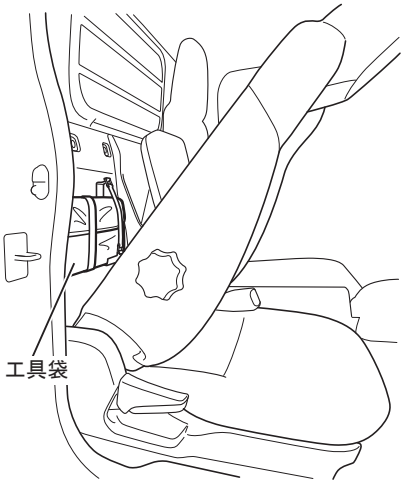
参照ページ
7-10 格納方法

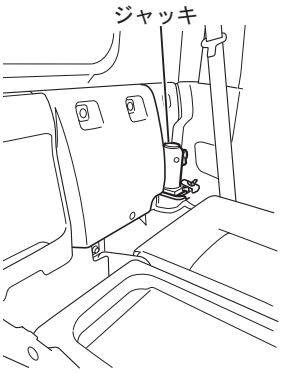
シングルキャブ・スペースキャブ車の格納場所

助手席および運転席のうしろに格納されています。助手席および運転席の背もたれを前に倒して取り出します。

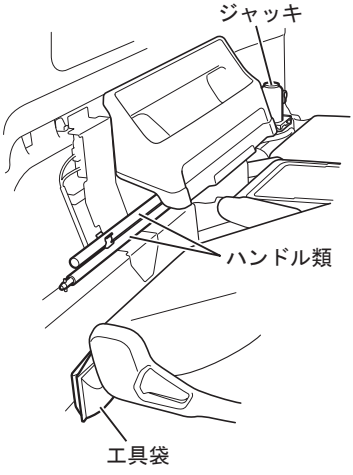
参照ページ
2-38 ドライバーシート
2-42 パッセンジャーシート / センターシート★

標準キャブ車

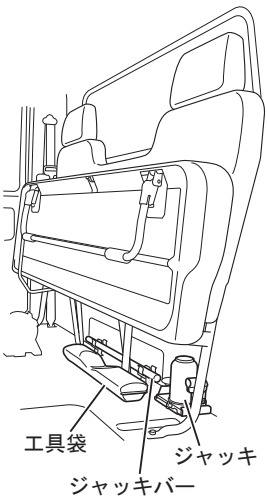




ハイキャブ・ワイドキャブ車



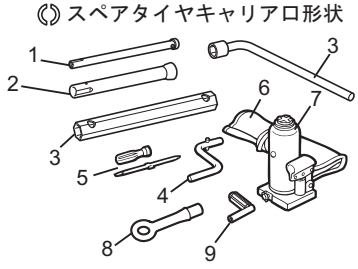
ダブルキャブ車の格納場所



リヤシートの下部に格納されています。

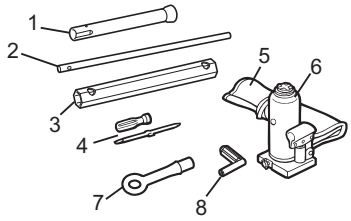
参照ページ
2-43 リヤシート★

車載工具の名称
（シングルキャブ・スペースキャブ車の標準キャブ車）



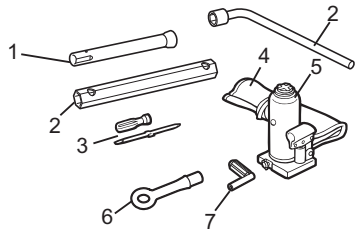
No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル
2	ホイールレンチハンドル
3	ホイールレンチ
4	スペアタイヤキャリアハンドル
5	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
6	工具袋
7	ジャッキ
8	けん引フック
9	電動パーキングブレーキ解除用レバー

◐ スペアタイヤキャリア口形状



No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドル
2	スペアタイヤキャリアハンドル
3	ホイールレンチ
4	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
5	工具袋
6	ジャッキ
7	けん引フック
8	電動パーキングブレーキ解除用レバー

スペアタイヤキャリア無車



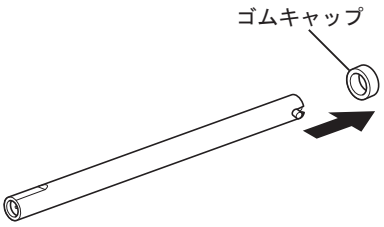
No.	工具の名称
1	ホイールレンチハンドル
2	ホイールレンチ
3	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
4	工具袋
5	ジャッキ
6	けん引フック
7	電動パーキングブレーキ解除用レバー

アドバイス

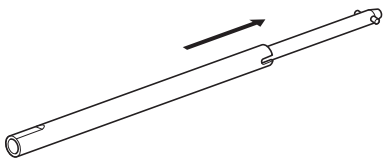
- 車載工具は、必ずすべてのアイテムを搭載するようにしてください。

ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドルの組み立て

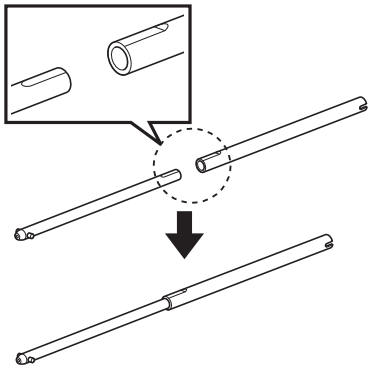
1. 工具袋からジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドルを取り出します。



2. ゴムキャップを外します。

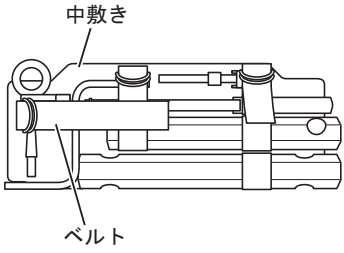


3. ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドル内に格納されているハンドルを取り出します。



4. 平らになっている箇所同士を合わせてはめ込みます。

格納方法



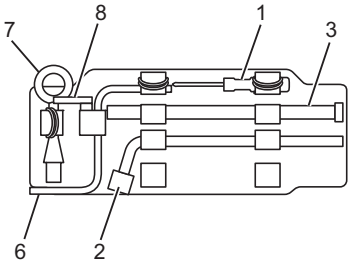
工具を使用したあと、工具をベルトで中敷きに固定して、工具袋に確実に入れます。

アドバイス

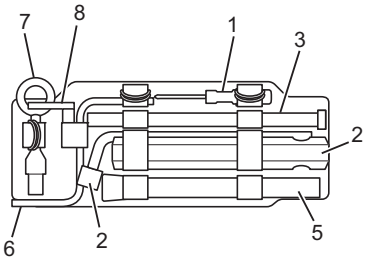
- 中敷きが無かったり、向きを間違えたりすると収納時に工具袋が変形してシートに干渉し、乗り心地の変化やシートの調整不良を招くおそれがあります。

スペアタイヤ付き車

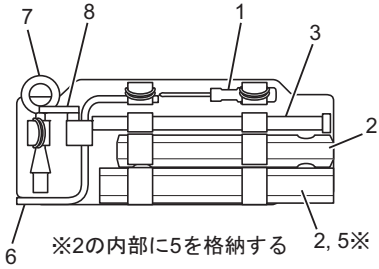
リアシングルタイヤまたはリアシングルタイヤ　フラットロー



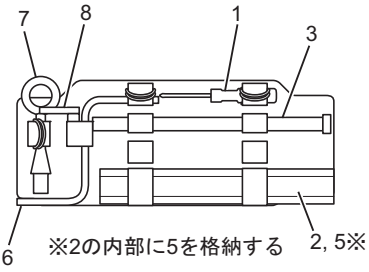
フラットロー　タイプ 1



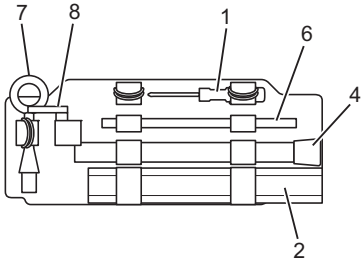
フラットロー　タイプ 2



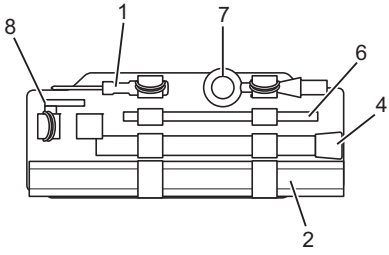
リアダブルタイヤまたはフルフラットロー
スペアタイヤサイド格納型



リアダブルタイヤまたはフルフラットロー
スペアタイヤ荷台後部格納型 / ボルト固定型　タイプ 1

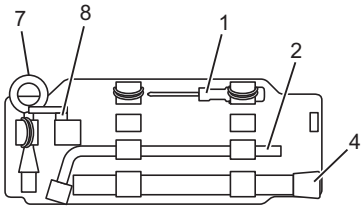


リアダブルタイヤまたはフルフラットロー
スペアタイヤ荷台後部格納型 / ボルト固定型　タイプ 2

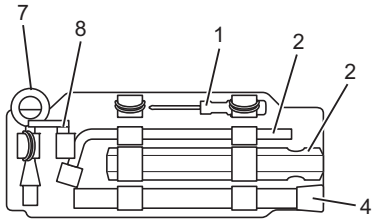


スペアタイヤなし車

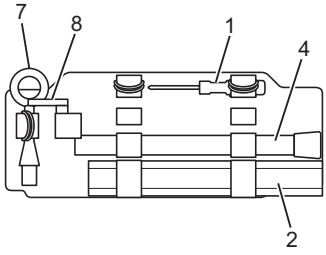
タイプ 1



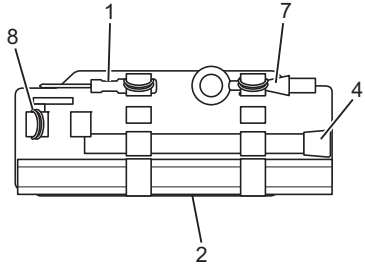
タイプ 2



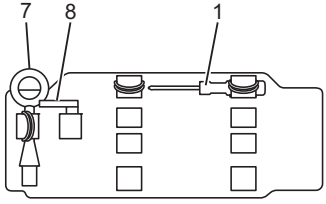
タイプ 3



タイプ 4



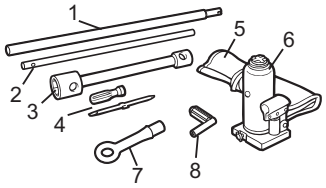
タイプ 5



No.	工具の名称
1	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
2	ホイールレンチ
3	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル
4	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドル
5	ホイールレンチハンドル
6	スペアタイヤキャリアハンドル
7	けん引フック
8	電動パーキングブレーキ解除用レバー

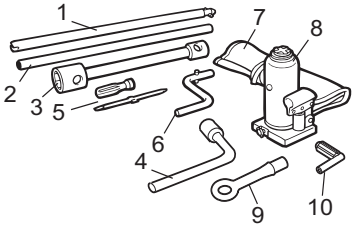
車載工具の名称
（除くシングルキャブ・スペースキャブ車の標準キャブ車）

◐ スペアタイヤキャリア口形状



No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー / ホイールレンチハンドル
2	スペアタイヤキャリアハンドル
3	ホイールレンチ
4	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
5	工具袋
6	ジャッキ
7	けん引フック
8	電動パーキングブレーキ解除用レバー

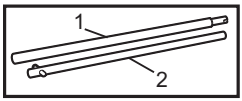
◑ スペアタイヤキャリア口形状



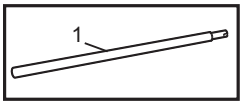
No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー
2	ホイールレンチハンドル
3	ホイールレンチ
4	ホイールレンチ （ショートフラットロー車 : 前輪用）
5	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
6	スペアタイヤキャリアハンドル
7	工具袋
8	ジャッキ
9	けん引フック
10	電動パーキングブレーキ解除用レバー

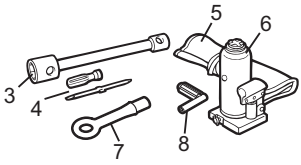
スペアタイヤキャリア無車★

スペアタイヤ付車



スペアタイヤ無車





No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー
2	スペアタイヤキャリアハンドル
3	ホイールレンチ
4	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
5	工具袋
6	ジャッキ
7	けん引フック
8	電動パーキングブレーキ解除用レバー

アドバイス

- 車載工具は、必ずすべてのアイテムを搭載するようにしてください。

ジャッキ

ジャッキの取り扱い

⚠ 警 告

- 傾斜地や、やわらかな地面でのジャッキアップは大変危険です。必ず、平坦で、かたい場所で行ってください。
- ジャッキアップを行うときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、輪止めを確実にかけてください。パーキングブレーキだけでは、後輪をジャッキアップしたときに車が動き大変危険です。
- ジャッキアップを行うときは、車内に人や、荷物を残さないでください。
- ジャッキアップ中は、危険ですからドアを開けたり、エンジンを始動したりしないでください。また、車の下をのぞいたりもぐり込んだりしないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキアップ後、車の下に入って作業するときは、必ずスタンド（ウマ）で車を支えてください。
- 指定のジャッキアップポイント以外にはジャッキをセットしないでください。エンジンやトランスミッションなど、指定箇所以外にジャッキをセットすると、車両故障の原因になります。
  また、セット位置に確実にかかっていることを確認してください。
- 取り外したスペアタイヤはジャッキが外れたときの危険防止のため、ジャッキ近くの車体の下に置いてください。
- ジャッキをかけるときはジャッキやジャッキアップポイント表面の汚れや、油脂類をふき取ってください。汚れているとジャッキが滑って車の下敷きになることがあり非常に危険です。
- 車両に搭載されているジャッキは、タイヤの交換作業またはタイヤチェーン脱着以外の目的では使用しないでください。また、両輪同時のジャッキアップは危険ですので、必ず片輪ずつジャッキアップしてください。
- 二段伸縮タイプのジャッキは上昇停止マーク（黄色塗装）が見えたらジャッキバーの操作をやめてください。ジャッキ故障の原因になります。

アドバイス

- 車型によっては、パンク時に車両の下にジャッキが入らない場合があります。タイヤを木材等に乗り上げさせてジャッキアップを行ってください。このとき、タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車は、リム幅以上の木材を敷かないとタイヤ空気圧センサーが破損するおそれがあります。

ジャッキの操作

上げかた（ジャッキアップ）

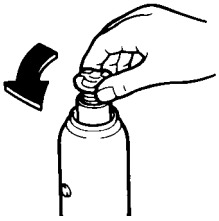
1. 標準キャブ車の組み立て式ジャッキハンドルは、ハンドルを組み立てます。

参照ページ
7-9 ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドルの組み立て

2. ジャッキをジャッキアップポイントの真下に立てます。
ジャッキを立てる位置は平らで固い地面にします。

参照ページ
7-18 前輪ジャッキアップポイント
7-21 後輪ジャッキアップポイント

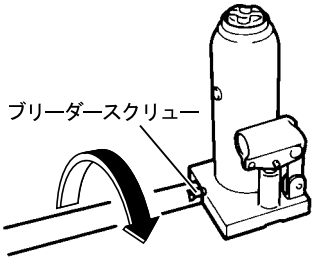
3. ジャッキ頭部を回してジャッキアップポイントの高さに合わせます。左に回すと高くなります。

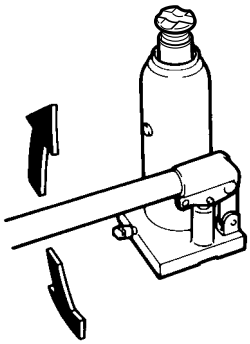


知　識

- 車型によってはジャッキ頭部を伸ばさないで使用するとタイヤが上がりきらないことがあります。

4. ジャッキハンドルの切り欠き部を使用してブリーダースクリューを右へいっぱいに回しておきます。



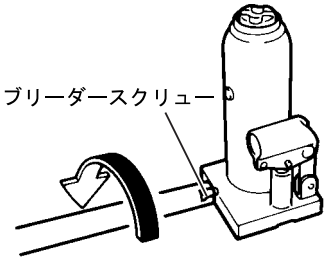


5. ジャッキハンドルをソケットに差し込み、ジャッキハンドルを静かに上下させて少しジャッキアップします。
6. 確実にジャッキアップポイントにかかっていることを確認し、ジャッキアップします。

下ろしかた

アドバイス

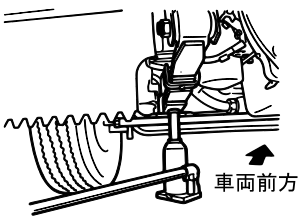
- 車を下げているとき、ジャッキを急に停止させないでください。ジャッキが破損する場合があります。



1. ジャッキハンドルの切り欠き部をブリーダースクリューに合わせます。
2. ブリーダースクリューを左へゆっくり回しジャッキを下ろします。
3. ジャッキが完全に下りたらブリーダースクリューを右へいっぱいに回しておきます。
4. ジャッキ頭部を右へいっぱいに回しておきます。

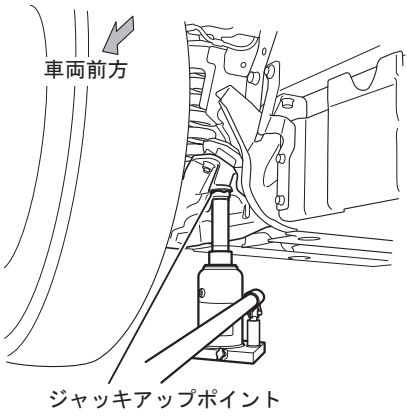
前輪ジャッキアップポイント

前輪独立懸架車以外

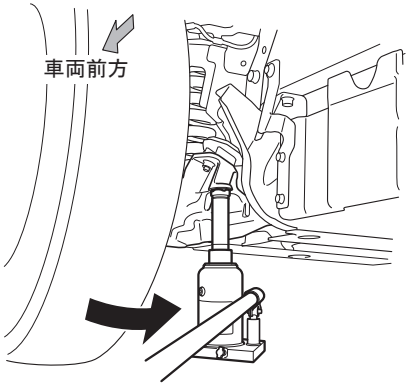


リーフスプリングにセットします。

前輪独立懸架式（コイルスプリングタイプ）車（標準キャブ・ハイキャブ車）



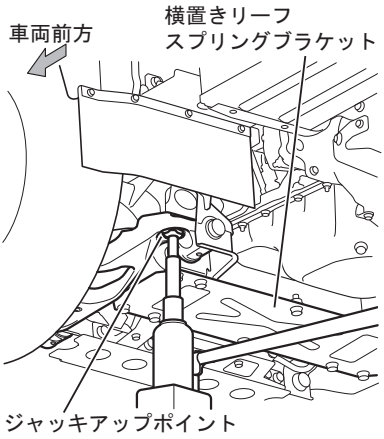
ジャッキアップポイント（ロワーリンク後側）にセットします。



アドバイス

- ジャッキアップ中は、絶対にハンドルを切らないでください。ジャッキが外れるおそれがあります。

前輪独立懸架式（横置きリーフスプリングタイプ）車（標準キャブ・ハイキャブ車）

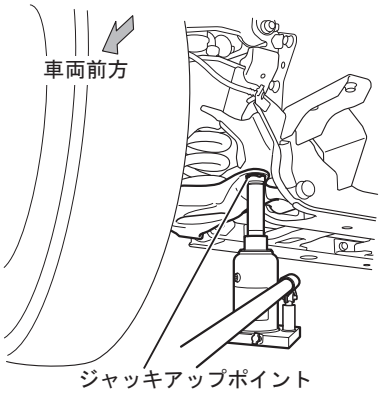


ジャッキアップポイント（ロワーリンク後側）にセットします。

アドバイス

- 横置きリーフスプリングブラケットにジャッキをセットしてジャッキアップしないでください。横置きリーフスプリングブラケットが変形するおそれがあります。

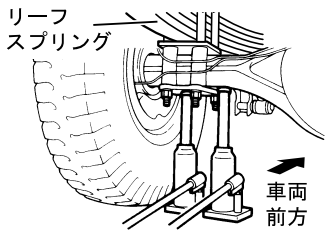
前輪独立懸架式車（ワイドキャブ車）



ジャッキアップポイント（ロワーリンク後側）にセットします。

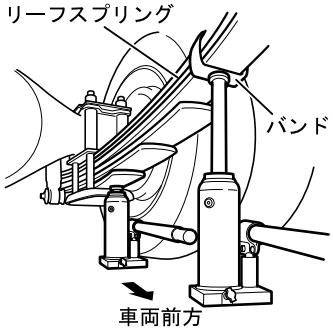
後輪ジャッキアップポイント

リーフスプリング･オーバースラング車（シングルタイヤ車、ダブルタイヤ車、フラットロー車、ロング系フルフラットロー車など）



リーフスプリングまたはアクスルケース下部にセットします。

リーフスプリング･アンダースラング車（ダブルタイヤ車の一部、標準フルフラットロー車など）



リーフスプリング下部または車両前方のバンド部のリベットにセットします。

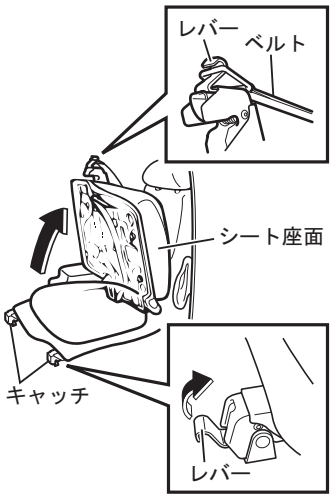
点検口★

知　識

・点検口は、ダブルキャブ車、標準キャブ車（除くチルトキャブ車）に標準装備されています。また、ハイキャブ・ワイドキャブ車は点検口のオプションを選択した場合のみ装備されます。

エンジン点検口★

開けかた

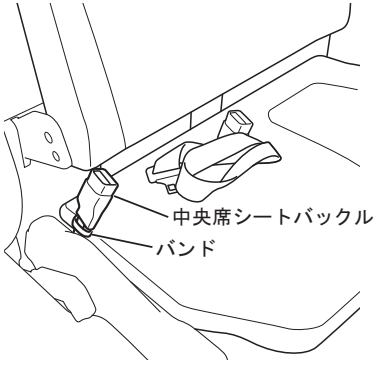


1. 助手席シート座面先端にあるキャッチのレバーを引き上げロックを外します。
2. 助手席シート座面を持ち上げ、背もたれ後方から出ているベルトを右側のキャッチのレバーにかけシート座面を固定します。

⚠ 注 意

- **点検口を開けるときは、シートベルトが点検口に落ち込まないよう注意してください。**
- **点検口を開けるときに、中央席のシートベルトバックルが通常使用位置にあることを確認してください。バックルがシート裏などにはさまった状態で点検口を開けると、バンドが切れ、バックルが点検口にはさまれて損傷するおそれがあります。**

通常使用位置



閉じかた

1. ベルトをキャッチのレバーから外しシート座面を元の位置より 30cm 位の高さから手を離し、ロックします。

2. シート座面をゆすって完全にロックされたことを確認してください。

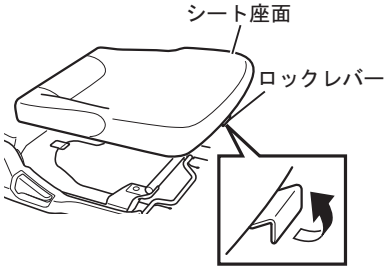
⚠ 注 意

- **シート座面を元の位置に戻すとき、指やシートベルトなどをはさまないように注意してください。**
  また、シート座面が確実にロックされていることを確認してください。ロックが確実にされていないと走行中、座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因となります。

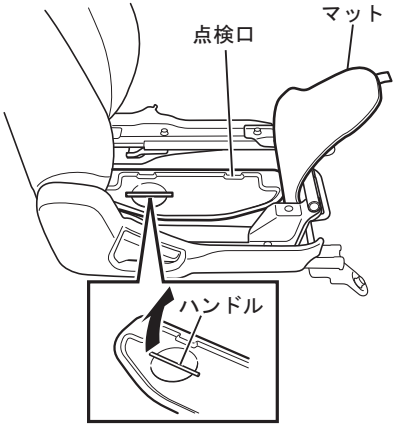
補助点検口★

開けかた

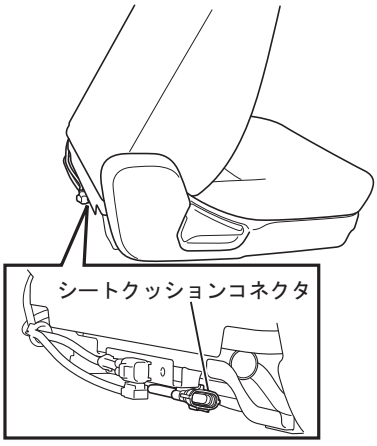
シートヒーター無車



1. ロックレバー（赤色）を手前に引き上げロックを解除し、運転席のシート座面を取り外します。



2. マットをはがし、ハンドルを引き、点検口のふたを外します。



シートヒーター付車

1. ドライバーシートを前方にスライドさせ、背もたれを前方に倒します。
2. シートクッションコネクタを外します。
3. 背もたれを起こし、シートクッションを持ち上げて取り外します。
4. ドライバーシートを後方にスライドさせ、点検口のふたを外します。

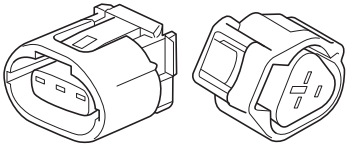
注　意

- **コネクタを取り外す前にシートクッションを取り外すと、コネクタ破損につながります。**
- **クッションを取り付けるときは、シートベルトのバックルをはさみ込まないよう注意してください。**
- **クッションを取り外したり取り付けたりするときは、コネクタを破損しないよう注意してください。**

知　識

- シートクッションコネクタの形状はお車の仕様によって異なります。

シートクッションコネクタ



閉じかた

閉じるときは、開けたときと逆の手順で行います。

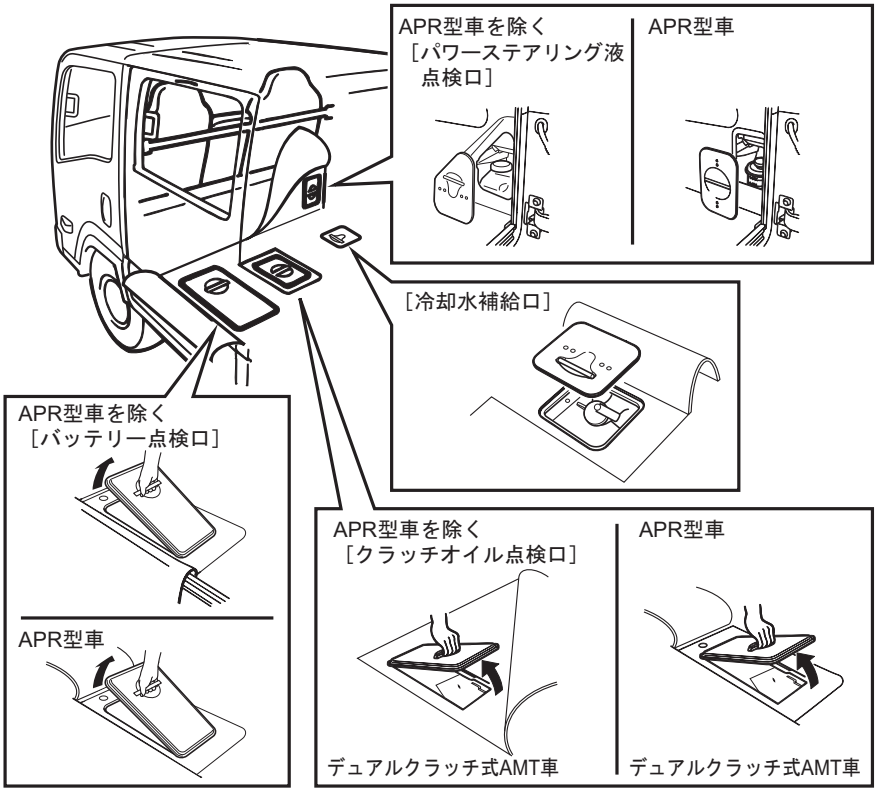
注　意

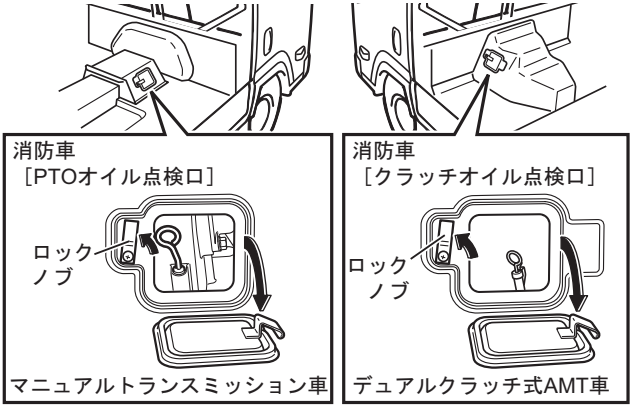
【シートヒーター付車】

- **点検口を閉じたあとは、コネクタが確実に取り付けられていることを確認してください。**

リヤ点検口（ダブルキャブ車）★

各点検口は、リヤシートの足元にあります。点検口を開けるときはまず、フロアーマットをはがして、各点検口のふたにあるハンドルをにぎって外します。
消防車のクラッチオイル点検口および PTO オイル点検口は、ロックノブを解除して点検口のふたを外します。





参照ページ
10-15 冷却水
10-85 デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル★
10-95 パワーステアリングフルード
10-104 バッテリー

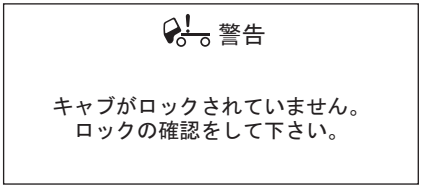
キャブチルト★

⚠ 警 告

- 以下の点を厳守し、キャブチルトの操作は本書で示す手順に従ってください。死亡や傷害、物的損害につながるおそれがあります。
- キャブチルトは、平らな場所で行ってください。
- 屋内などでキャブチルトするときは、前方および天井との空間を十分とってください。
- パーキングブレーキを確実に効かせ、ギヤをニュートラルにしてください。
  - マニュアルトランスミッション車の場合、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを『N』位置にしてください。
  - デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車の場合、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを『P』位置にしシフトインジケーターに「P」が表示されていることを確認してください。
- エンジンは必ず停止状態で行ってください。
- インストルメントパネル、シート、カップホルダー、バックパネルトレイ、床面にものを置いたまま、キャブチルトをしないでください。
- キャブチルトするときは、左右のドアを確実に閉めてください。また、キャブチルト中はドアが重くなりますので、ドアの開閉はしないでください。
- やむをえずキャブをチルトしたままでドアを開閉する場合は、ドアの重さを確実に支え、ゆっくり開閉してください。開閉途中にドアから手を放すことは非常に危険です。ドアがあたってケガをしたり、ドアを損傷するおそれがあります。ドアを閉めた後には、確実に閉まっていることを確認してください。
- ルーフラック上の荷物は必ず降ろしてください。
- バンパー上面に載っているもの（着氷、着雪を含む）を取り除いてからキャブチルトを行ってください。バンパー、ランプ類、その他の部品を破損するおそれがあります。
- キャブチルト操作中は、体や手足がはさまれないよう十分に注意してください。
- 走行直後のハンドルとレバーは非常に高温になっています。十分に注意してください。
- 走行直後のサイレンサー、排気管、DPD、尿素 SCR は高温になっています。キャブチルト操作時は誤って触れないよう十分に注意してください。
- キャブチルトするときは車両の周辺や、キャブ内に人がいないことを確認してください。
- キャブチルトしたときは、チルトステーのロックレバーが確実に固定されたことを確認してください。
- キャブを下ろしたあとは必ず、キャブが確実にロックされたことを確認してください。

キャブチルトの警告・表示

キャブチルト警告



スタータースイッチを『ON』位置にしたとき、キャブが確実にロックされていないとメーターディスプレイに表示され、同時に警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。キャブがロックされていることを確認した後も警告表示と警報音が消えない場合は、走行せずに《日産販売会社》で点検を受けてください。

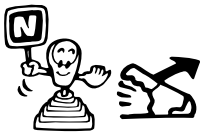
⚠ 警 告

- **キャブを下ろしたあとは必ず、キャブが確実にロックされたことを確認してください。**
- **キャブチルト警告が表示されたままの状態で走行すると、振動などによりキャブがチルトするおそれがあり大変危険です。再度キャブが確実にロックされていることを確認してください。**

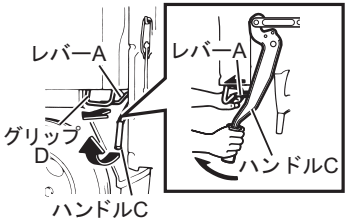
キャブを上げるとき

⚠ 警 告

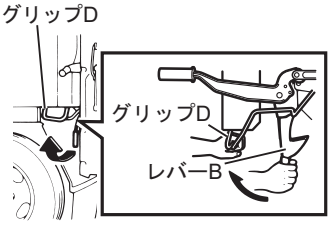
- **キャブチルト中はロックが解除しないよう、チルトステーのロック E およびロック F に触れないように注意してください。**



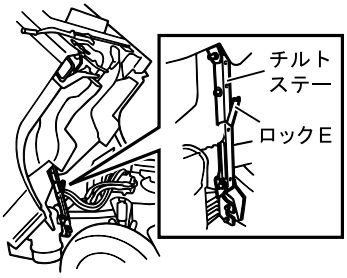
1. パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーがマニュアルトランスミッション車は『N』位置に、デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は『P』位置に入っていることを確認し、ドアを確実に閉めます。



2. グリップ D を持ちながら、レバー A を手前に引き、ハンドル C を持ち上げます。



3. グリップ D を持ちながら、レバー B を手前に引き、キャブを持ち上げます。



4. キャブを持ち上げたとき、キャブを支えながらチルトステーのロック E が確実に固定したことを確認してください。

⚠ 警 告

- **ロック E が確実に固定されていないとキャブが下降して危険です。**

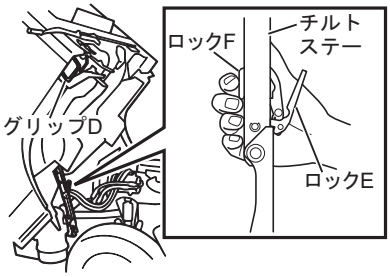
キャブを下げるとき

⚠ 警 告

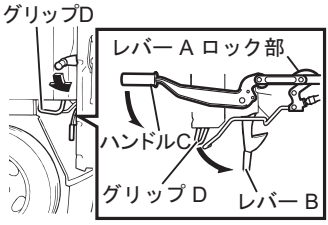
- キャブを下ろしたあとは必ず、キャブが確実にロックされたことを確認してください。

⚠ 注 意

- キャブ内外に荷物を固定、あるいは積んでいる場合、キャブの降下速度が速くなることがありますので注意してください。



1. グリップ D を持ち、キャブを支えながらロック E とロック F を一緒に握りこんで解除し、チルトステーを車両後方に引いて折りたたみます。



2. グリップ D を持ってレバー B がかかるよう少し勢いをつけてキャブを下ろし、レバー B が確実にかかったことを確認してください。

3. ハンドル C を、レバー A のロック部が確実にロックされるまで引き下げます。

4. 以下の 1)、2) 両方の手順を実施して、キャブが確実にロックされていることを確認してください。

1) ハンドル C の操作後、レバー B を引きながらグリップ D を持ち上げても、キャブが持ち上がらないことを確認します。

警告

キャブがロックされていません。
ロックの確認をして下さい。

2) スタータースイッチを『ON』位置にしたとき、キャブチルト警告がメーターディスプレイに表示されず、警報音『ピーーー …（連続）』が鳴っていないことを確認します。

参照ページ
7-29 キャブチルト警告

サービスデータ 8

- メンテナンスデーター一覧 8-2
- 整備基準値一覧 8-3
- タイヤ空気圧一覧 8-3
- 定期点検整備一覧 8-16
- 定期交換部品一覧 8-17
- サービスコネクターについて 8-24

メンテナンスデーター覧

項目		参照ページ
整備基準値一覧		8-3
タイヤ空気圧一覧		8-3
定期点検整備一覧（点検時期）		8-16
定期交換部品一覧（交換時期）	油脂液類（指定銘柄･容量）	8-17
	エレメント類	8-20
	ゴム・樹脂部品など	8-20
	ウインドーウォッシャー液	8-21
	その他	8-21
	グリース	8-22

アドバイス

- エンジンオイルは走行とともに減少します。また、その減少量は運転状況（使用状況）によって異なりますので、定期的にオイルレベルゲージで確認してください。
- 油脂類（オイル、グリース）や液類（冷却水）は潤滑･冷却･防錆などの役割があります。使用している間に減少、汚れ、劣化が生じ各部品の性能低下や故障（焼きつき、作動不良）の原因になります。また、ゴムを使用している部品などは、古くなると劣化が生じ、油や水が漏れたり切れやすくなり、水や埃から部品を保護するブーツ類も破れやすくなります。お車の機能、性能と安全を保持するため、法律で定められた点検（日常点検、定期点検）時やサービスデータの交換時期（走行距離または時期［月･年］のどちらか早い方）に従い点検･補給･交換を行ってください。
- 油脂類（オイル）、液類（バッテリー液、冷却水）、エレメント類、ゴム・樹脂部品などは、標準的な使用条件と著しく異なる場合（毎月の走行距離が多い車、著しく過酷な条件で使用する車、長時間アイドルで停車する車、長時間 PTO 等を使用する車、海岸地帯、寒冷地での使用が多い車など）、劣化状況に応じて標準の時期より早めの交換が必要となることもありますので、《日産販売会社》にご相談ください。

整備基準値一覧

<table>
<tr><th colspan="4">項目</th><th colspan="2">基準値［参考値］</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">アイドリング回転数</td><td colspan="3">4JZ1 型</td><td colspan="2">575 ～ 625r/min（エンジン暖機後）</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="3">RZ4E 型</td><td colspan="2">775 ～ 825r/min（エンジン暖機後）</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="4">ハンドルの遊び</td><td colspan="2">10 ～ 50mm</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="4">パーキングブレーキの引きしろ</td><td colspan="2">6 ～ 8 ノッチ（除く電動パーキングブレーキ付車）</td><td>9-21</td></tr>
<tr><td colspan="4">クラッチペダルの遊び</td><td colspan="2">15 ～ 25mm</td><td>10-77</td></tr>
<tr><td colspan="4">タイヤの空気圧</td><td colspan="2">本文参照</td><td>8-3</td></tr>
<tr><td colspan="4" rowspan="2">タイヤの残溝</td><td colspan="2">一般走行時 1.6mm 以上</td><td rowspan="2">9-14</td></tr>
<tr><td colspan="2">高速走行時 2.4mm または 3.2mm*1 以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ホイールナットの締付けトルク</td><td colspan="2">シングルタイヤ</td><td rowspan="2">前輪：
140 ～ 200N・m
{14 ～ 20kgf・m}</td><td>後輪：
140 ～ 200N・m
{14 ～ 20kgf・m}</td><td rowspan="4">10-71</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ダブルタイヤ（フラットロー）</td><td>AHR・AJR ショートホイールベース</td><td>後輪：
300 ～ 400N・m
{30 ～ 40kgf・m}</td></tr>
<tr><td>ロングホイールベース</td><td rowspan="2">前輪：
450 ～ 550N・m
{45 ～ 55kgf・m}</td><td rowspan="2">後輪：
450 ～ 550N・m
{45 ～ 55kgf・m}</td></tr>
<tr><td colspan="2">ダブルタイヤ（フラットロー除く）</td></tr>
</table>

*1： タイヤサイズ　215/70R17.5 123/121J および 225/80R17.5 123/122L

タイヤ空気圧一覧

タイヤ空気圧一覧は、装着できるタイヤサイズを示すものではなく、装着されているタイヤサイズに対して空気圧を確認するものです。

アドバイス

- 空気圧値は、標準車について記載してあります。
  車両の仕様によって、空気圧が異なりますので運転席側のドア開口部に貼り付けてある空気圧ラベルをご覧になり確認してください。

型式：AHR87AF

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EA4LWAP -EA4LWYP -EB4LCAP -EB4LCYP -EC4LAAP -EC4LAAPF -EC4LAYP	185/75R15 106/104N	145/80R13 88/86N	600(6.00)	450(4.50)
-EA6LAD1P -EA6LADYP -EA6LWAP -EA6LWYP -EB6LAAP -EB6LAYP -EB6LCAP -EB6LCYP -EC6LAAPF	185/75R15 106/104N	185/75R15 106/104N	600(6.00)	400(4.00)
-EA7LWAP	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N	600(6.00)	600(6.00)
-EC7LAAP -EC7LAAPF -EC7LAYP	185/75R15 106/104N	185/75R15 106/104N	600(6.00)	600(6.00)
	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N		

型式：AJR88AF

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-ED4LWA -EE4LAA -ET4LAA -ET4LWA	195/75R15 109/107N	175/80R14 99/98N	600(6.00)	450(4.50)
	205/80R15 109/107N		450(4.50)	
-EE1LAA	185/85R16 111/109N	215/85R16 120/118N	550(5.50)	600(6.00)
-EE4LCA	195/75R15 109/107N	175/80R14 99/98N	600(6.00)	450(4.50)
	205/80R15 109/107N	175/80R14 99/98N	450(4.50)	450(4.50)
-EE6LCA -EE6LAA -EE6LWA -ET6LAA	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N	600(6.00)	400(4.00)
-EE5LAA	205/80R15 109/107N	205/80R15 109/107N	450(4.50)	450(4.50)

型式：AJR88AM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-ED4LWY -ET4LWY -EE4LAY -ET4LAY	195/75R15 109/107N	175/80R14 99/98N	600(6.00)	450(4.50)
	205/80R15 109/107N		450(4.50)	
-EE1AEY -EE1LAY	185/85R16 111/109N	215/85R16 120/118N	550(5.50)	600(6.00)
	195/85R16 114/112N		500(5.00)	
-EE5APY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	500(5.00)	600(6.00)
	205/65R16 109/107N	205/65R16 109/107N	600(6.00)	450(4.50)
-EE5MADY -EE5MAK51 -EE5MAK52	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
-EE6ADY -EE6AK51 -EE6AK52	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	600(6.00)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		
-EE6CDY	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	600(6.00)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)
-EE6LAY -EE6LCY -ET6LAY	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N	600(6.00)	400(4.00)
	205/65R16 109/107N	205/65R16 109/107N		450(4.50)
-FE6AY	205/65R16 109/107N	205/65R16 109/107N	600(6.00)	450(4.50)
	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N		
-HE6LAY	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N	600(6.00)	400(4.00)
	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N		450(4.50)

型式：AJR88AT

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5MAK51 -EE5MAK52	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
-EE6AK51 -EE6AK52	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	600(6.00)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		
-ED6WD21 -ED6WD22	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	450(4.50)

型式：AKR88AC

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-HE5AA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	525(5.25)	525(5.25)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)

型式：AKR88AF

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5AA	185/85R16 111/109N	185/85R16 111/109N	600(6.00)	550(5.50)
	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	
-EE6AA	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	450(4.50)
-EJ5AA -EJ5AY -EZ5AA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
-EJ6AA -EZ6AA	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)

型式：AKR88AM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5ADY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
-EE5AHY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	525(5.25)	525(5.25)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-EE5AHYJ	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-EE5APY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/65R16 109/107N	205/65R16 109/107N		450(4.50)
-EE5AY	185/85R16 111/109N	185/85R16 111/109N	600(6.00)	550(5.50)
	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	
-EE5MADY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-EE6ADY	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	600(6.00)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		
-EE6WA -EE6WY	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	450(4.50)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		450(4.50)
-EJ5AHYJ	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-EJ5MADY -EZ5MADY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-EJ6ADY -EJ6CDY -EZ6ADY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)
-HJ6AY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		

型式：AKR88AT

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5AKR51 -EE5AKR52	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
-EJ5MAK51 -EJ5MAK52 -EZ5MAK51 -EZ5MAK52	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
-EJ6AK51 -EJ6AK52 -EZ6AK51 -EZ6AK52	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)

型式：AKR88C

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-FE5AA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	525(5.25)	525(5.25)
-FN5AA -HJ5AA -HN5AA	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)

型式：AKR88M

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5AHY -EJ5AHY -EN5AHY -EN5APY -FN5AHY -FN5ANY -FN5APY -FN5AY -HN5AY	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
-EJ5AMY -EJ5AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-EJ6AY -EZ6AY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)
-FJ6AY	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	600(6.00)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		

型式：AKR88YM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EN5AHY -EN5APY -FN5AHY -FN5ANY -FN5APY -FN5AY -HN5AY	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)

型式：ALR88AC

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-HE5AA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
-HE6AA	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)
-HU6LWA	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	450(4.50)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		

型式：ALR88AM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5LAY	185/85R16 111/109N	185/85R16 111/109N	600(6.00)	550(5.50)
	205/80R15 109/107N	205/80R15 109/107N	450(4.50)	450(4.50)
-EE6LAY	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N	600(6.00)	400(4.00)
	205/65R16 109/107N	205/65R16 109/107N		450(4.50)
	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	450(4.50)
-FE6AY	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	450(4.50)
-FE6LAY	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N	600(6.00)	400(4.00)
	205/65R16 109/107N	205/65R16 109/107N		450(4.50)
	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N		
-HE5LAY	185/85R16 111/109N	185/85R16 111/109N	600(6.00)	550(5.50)
-HE6AY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)
-HE6LAY	195/75R15 109/107N	195/75R15 109/107N	600(6.00)	400(4.00)
	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N		450(4.50)

型式：AMR88AC

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-HE5AA -HJ5AA -HJ6AA -HZ5AA	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-HE6AA	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)

型式：AMR88AM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5APY -EE5APYJ -HJ5AY -HJ6AY -HZ5AY -HZ5AY-E	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-EZ5AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
-EE5AY	185/85R16 111/109N	185/85R16 111/109N	600(6.00)	550(5.50)
	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	
-EE6AY	205/70R16 111/109N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	450(4.50)
-EJ5AY -HZ6AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-EJ6AY -FJ6AY -FZ6AY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)
-HE5AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-HE6AY -HE6WY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)

型式：AMR88C

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EN5AA -FJ5AA -HJ5AA -HJ6AA	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-EN5AAJ -FJ5AAJ -HJ5AAJ -HJ6AAJ	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-FE6AA	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)

型式：AMR88M

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-EE5APY -EJ5APY -EN5AY -FJ5AY -FJ5APY -HJ5AY -HJ6AY	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-EE5APYJ -EJ5APYJ -FJ5AYJ -EN5AYJ -FJ5APYJ -HJ5AYJ -HJ6AYJ	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-EJ5AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N		
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-EJ5AYJ	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-EJ6AY -FJ6AY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	600(6.00)
	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N		
-FE5AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	550(5.50)	550(5.50)
-FE6AY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)

型式：ANR88AC

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-FE6AA	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)
-HE6AA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		450(4.50)

型式：ANR88AM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-FE6AY -HT6WA	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)
-HE6AY -KE6AA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N		450(4.50)

型式：APR88AC

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm^2)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-FE5AA -HH5WA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-FE6AA -HE6WA	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)
-FJ5AA -FJ5AAS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-FJ5AAJ -FJ5AASJ -KH5WA	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-FL5AA -FL5AAS -HL5AA -HL5AAS -KL5AA -KL5AAS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
-HE5AA	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N		
-HE6AA	225/70R16 117/115N	225/70R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-HJ5AA -HJ5AAS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N		
-HJ5AAJ -HJ5AASJ -KE5AA	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N		
-HJ6AA -HJ6AAS	215/70R17.5 118/116N	215/70R17.5 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
	225/70R16 117/115N	225/70R16 117/115N		
	225/75R16 118/116N	225/75R16 118/116N		
-HJ6AAJ -HJ6AASJ	225/70R16 117/115N	225/70R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
	225/75R16 118/116N	225/75R16 118/116N		
-HL6AA -HL6AAS	215/70R17.5 118/116N	215/70R17.5 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
-KE6AA	225/70R16 117/115N	225/70R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-KJ5AA -KJ5AAS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N		
-KJ5AAJ -KJ5AASJ	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
-KJ6AA -KJ6AAS	215/70R17.5 118/116N	215/70R17.5 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
	225/75R16 118/116N	225/75R16 118/116N		
-KJ6AAJ -KJ6AASJ	225/75R16 118/116N	225/75R16 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
-KL6AA -KL6AAS	215/70R17.5 123/121J	215/70R17.5 123/121J	775(7.75)	775(7.75)

型式：APR88AM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-FE5AY -FJ5AYJ -HE5ADY -HH5WYJ	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-FE6AY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)
	225/70R16 117/115N	225/70R16 117/115N		600(6.00)
-HE6WY	205/75R16 113/111N	205/75R16 113/111N	600(6.00)	450(4.50)
-FJ5AY -HH5WY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N		
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-FJ5AYS -HZ5AY -HZ5AYS -KH5WY	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
-FJ5AYSJ -HZ5AYJ -HZ5AYSJ -KH5WYJ	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-FL5AY -FL5AYS -FN5ADY -FN5ADYS -FN5ANY -FN5APY -FN5APYS -FN5AY -FN5AYS -HL5AY -HL5AYS -HN5AA -HN5AAS -HN5ADY -HN5ADYS -HN5ANY -HN5AY -HN5AYS -KL5AY -KL5AYS -KN5AA -KN5AAS -KN5AY -KN5AYS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
-FL6AY -FL6AYS -HL6AY -HL6AYS	215/70R17.5 118/116N	215/70R17.5 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
-HE5AY -KE5AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N		
-HE6AY	195/85R16 114/112N	195/85R16 114/112N	600(6.00)	600(6.00)
	225/70R16 117/115N	225/70R16 117/115N		

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-HJ5AY -HJ5AYS -KJ5AY -KJ5AYS -KZ5AY -KZ5AYS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N		
	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N		
-HJ5AYJ -HJ5AYSJ -KJ5AYJ -KJ5AYSJ -KZ5AYJ -KZ5AYSJ	205/85R16 117/115N	205/85R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
	215/85R16 120/118N	215/85R16 120/118N		
-HJ6AY -HJ6AYS	215/70R17.5 118/116N	215/70R17.5 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
	225/75R16 118/116N	225/75R16 118/116N		
-HJ6AYJ -HJ6AYSJ -KJ6AYJ -KJ6AYSJ	225/75R16 118/116N	225/75R16 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
-HZ4AY -HZ4AYS	205/85R16 117/115N	205/70R16 111/109N	600(6.00)	600(6.00)
-KE6AY	225/70R16 117/115N	225/70R16 117/115N	600(6.00)	600(6.00)
-KJ6AY -KJ6AYS	215/70R17.5 118/116N	215/70R17.5 118/116N	600(6.00)	600(6.00)
	225/75R16 118/116N	225/75R16 118/116N		
-KL6AY -KL6AYS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)
	215/70R17.5 123/121J	215/70R17.5 123/121J	775(7.75)	775(7.75)

型式：APR88M

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-FN5ADY -FN5ADYS -FN5ANY -FN5APY -FN5APYS -FN5AY -FN5AYS -HN5AA -HN5AAS -HN5ADY -HN5ADYS -HN5ANY -HN5AY -HN5AYS -KN5AA -KN5AAS -KN5AY -KN5AYS	205/80R17.5 120/118N	205/80R17.5 120/118N	600(6.00)	600(6.00)

型式：APR88YAM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm^2)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-HN5AY -HN5AYS -KN5AY -KN5AYS	215/70R17.5 123/121J	215/70R17.5 123/121J	775(7.75)	775(7.75)
	225/80R17.5 123/122L	225/80R17.5 123/122L	675(6.75)	675(6.75)
-HN6AY -HN6AYS -KN6AY -KN6AYS	215/70R17.5 123/121J	215/70R17.5 123/121J	775(7.75)	775(7.75)
-HR5AY -HR5AYS -KR5AY -KR5AYS	225/80R17.5 123/122L	225/80R17.5 123/122L	675(6.75)	675(6.75)

型式：APR88YM

類別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm^2)	
	前輪	後輪	前輪	後輪
-FN5ADY -FN5ADYS -FN5ANY -FN5ANYS -FN5APY -FN5APYS -FN5AY -FN5AYS -FN6AY -FN6AYS -FR5AA -FR5AAS -FR5AMYS -FR6AA -FR6AAS -HN5ADY -HN5ADYS -HR5AA -HR5AAS -HR5AY -HR5AYS -HR6AA -HR6AAS -KR5AA -KR5AAS -KR5AY -KR5AYS -KR6AA -KR6AAS -LN5AY -LN5AYS -LR5AY -LR5AYS	225/80R17.5 123/122L	225/80R17.5 123/122L	675(6.75)	675(6.75)
-HN5ANY -HN5ANYS -HN5AY -HN5AYS -KN5AY -KN5AYS	215/70R17.5 123/121J	215/70R17.5 123/121J	775(7.75)	775(7.75)
	225/80R17.5 123/122L	225/80R17.5 123/122L	675(6.75)	675(6.75)
-HN6AY -HN6AYS -KN6AY -KN6AYS	215/70R17.5 123/121J	215/70R17.5 123/121J	775(7.75)	775(7.75)

定期点検整備一覧

本書では、簡単な点検･手入れについてまとめてあります。点検整備の詳細については、別冊の「メンテナンスノート」に従い、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

点検箇所	点検項目	点検時期		参照ページ
		事業用	自家用	
パワーステアリング装置	油漏れ及び油量	3 か月ごと	1 年ごと	10-97
ブレーキ･ペダル	遊び及び踏み込んだときの床板とのすき間	3 か月ごと *1	6 か月ごと	10-56
駐車ブレーキ機構	引きしろ	3 か月ごと *1	6 か月ごと	9-21
	ブレーキの効き具合	3 か月ごと	6 か月ごと	10-58
リザーバ･タンク	液量	3 か月ごと	1 年ごと	9-18
ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー	ドラムとライニングとのすき間	3 か月ごと *1	6 か月ごと	10-62
	シューの摺動部分及びライニングの摩耗	3 か月ごと	1 年ごと	10-62
ブレーキ・ディスク及びパッド	パッドの摩耗	3 か月ごと *1	1 年ごと *2	10-60
	ディスクの摩耗及び損傷	1 年ごと	1 年ごと	10-60
タイヤ･ホイール	タイヤの状態	3 か月ごと	1 年ごと	9-12
	ホイール･ナット及びホイール･ボルトの緩み	3 か月ごと *1	6 か月ごと	10-71
クラッチ	ペダルの遊び及び切れたときの床板とのすき間	3 か月ごと *1	6 か月ごと	10-77
	作用	3 か月ごと	6 か月ごと	9-23
	液量	3 か月ごと	1 年ごと	10-78
トランスミッション及びトランスファー	油漏れ及び油量	3 か月ごと *1	6 か月ごと	10-80
デファレンシャル	油漏れ及び油量	3 か月ごと *1	6 か月ごと	10-92
バッテリ	ターミナル部の接続状態	3 か月ごと	1 年ごと	10-110
エンジン本体	低速及び加速の状態	3 か月ごと	1 年ごと	9-24
	エア･クリーナ･エレメントの状態	3 か月ごと *1	6 か月ごと	10-33
エンジン潤滑装置	油漏れ	3 か月ごと *1	6 か月ごと	9-8
冷却装置	ファン･ベルトの緩み及び損傷	3 か月ごと *1	6 か月ごと	9-11
	水漏れ	1 年ごと	1 年ごと	9-4

点検箇所	点検項目	点検時期		参照ページ
		事業用	自家用	
DPD	フィルターの状態	1 年ごと	1 年ごと	10-55
	配管の状態			
エアコンフィルター	フィルターの汚れ、目詰まり	3 か月ごと	6 か月ごと	10-103
その他	シャシ各部の給油脂状態	3 か月ごと *1	6 か月ごと	8-22

*1： 使用状況が厳しい車両（シビアコンディション時）は、日産自動車が 1 か月ごとの点検を指定しています
*2： 使用状況が厳しい車両（シビアコンディション時）は、日産自動車が 6 か月ごとの点検を指定しています

定期交換部品一覧

アドバイス

- 交換時期に使用期間と走行距離が併記されている場合は、どちらか早い方に従い交換を行ってください。

油脂液類

アドバイス

- オイルの容量は、交換時の目安として記載してあります。交換後は規定の位置まで入っていることを確認してください。

エンジンオイル

車型または型式	交換時期	容量［参考値］	指定銘柄		備　考	参照ページ
4JZ1 型	エンジンオイル＆フィルター表示（橙）点灯時または 1 年ごと *1	8.3L	・日産純正 ディーゼルエンジンオイル DL-1	DPD 対応	フィルター容量 0.7L を含む	10-7
RZ4E 型	エンジンオイル＆フィルター表示（橙）点灯時または 20,000km（または 1 年）ごと *2	6.4L	・日産純正 ディーゼルエンジンオイル DL-1	DPD 対応	フィルター容量 0.2L を含む	10-7

*1： 点灯時期は、お車の使用状況により異なります（最長 40,000km 走行で点灯）
*2： 点灯時期は、お車の使用状況により異なります（最長 20,000km 走行で点灯）

トランスミッションオイル

車型または型式		交換時期	容量［参考値］	指定銘柄	備　考	参照ページ
MYY 型	5 速	50,000km（または 2 年）ごと	2.8L［3.1L］	GL3 級 ・ベスコギヤオイルトランスアクスル 5W-30	レベルプラグの口元まで給油 ［］内はサイド PTO 付	10-82
	6 速		3.5L［3.8L］			
	フロント PTO ギヤオイル		5.5 ～ 6.0L		消防車	10-95
MYR 型（デュアルクラッチ式 AMT）	9 速	50,000km（または 2 年）ごと	5.1L［5.4L］	GL3 級 ・ベスコギヤオイルトランスアクスル 5W-30	レベルプラグの口元まで給油 ［］内はサイド PTO 付	10-82
	クラッチオイル		3.3L <6.2L>	・ベスコ ATF III	〈〉内は全容量	10-88
R6B45 型（オートマチックトランスミッション）◎		100,000km（または 5 年）ごと *1	9.3L <9.5L>	・日産純正マチックフルード S	〈〉内は全容量	—

◎：交換には分解作業が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
*1：使用状況が厳しい車両（シビアコンディション時）は 80,000km ごとの交換

リヤアクスルデファレンシャルオイル

車型または型式	交換時期	容量［参考値］	指定銘柄	備　考	参照ページ
φ220	50,000km（または 2 年）ごと	2.4L	・日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API:GL-5、SAE:80W-90）	レベルプラグの口元まで給油	10-92
φ292		3.0L			
φ320		3.4L			

パワーステアリングフルード

車型または型式	交換時期	容量［参考値］	指定銘柄	備　考	参照ページ
全車	50,000km（または 1 年）ごと	1.5L	・ベスコ ATF III	交換油量でなくタンク、配管等の目安内容量	10-97

ブレーキフルード

車型または型式			交換時期	容量［参考値］	指定銘柄	備　考	参照ページ
全車	自家用	4 輪ディスクブレーキ	2 年ごと	0.9L	・日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）	—	9-18
		上記以外		0.7L			
	事業用	4 輪ディスクブレーキ	1 年ごと	0.9L			
		上記以外		0.7L			

クラッチフルード

車型または型式		交換時期	容量［参考値］	指定銘柄	備　考	参照ページ
除くオートマチックトランスミッション車	自家用	2 年ごと	0.1L	・日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）	リザーブタンクはブレーキ液と共通	10-78
	事業用	1 年ごと				

エンジン冷却水

車型または型式			交換時期	容量［参考値］	指定銘柄	備　考	参照ページ
シングルキャブ・スペースキャブ車	標準キャブ・ハイキャブ車		300,000km（または 5 年）ごと	12.4L	・日産純正ロングライフクーラント	寒冷地仕様以外 濃度 30% 寒冷地仕様 濃度 50%	10-20
	ワイドキャブ車			13.4L			
ダブルキャブ車（除く消防車）	標準キャブ・ハイキャブ車	4JZ1 型エンジン車		12.8L			
		RZ4E 型エンジン車		12.1L			
	ワイドキャブ車			13.4L			
消防車				14.8L			

エレメント類

整備項目	車型 または型式	交換時期	参照 ページ
エアクリーナーエレメント	4JZ1 型 エンジン車	80,000km（または 2 年）ごと	10-33
	RZ4E 型 エンジン車	60,000km（または 2 年）ごと	
エンジンオイルフィルターエレメント	4JZ1 型 エンジン車	エンジンオイル＆フィルター表示（橙）点灯時または 1 年ごと *1	10-11
	RZ4E 型 エンジン車	エンジンオイル＆フィルター表示（橙）点灯時または 20,000km（または 1 年）ごと *2	
フューエルフィルターエレメント プレフューエルフィルターエレメント	4JZ1 型 エンジン車	燃料フィルター表示（橙）点灯時または 2 年ごと *3	10-41
	RZ4E 型 エンジン車	燃料フィルター表示（橙）点灯時または 40,000km（または 1 年）ごと *4	

*1： 点灯時期は、お車の使用状況により異なります（最長 40,000km 走行で点灯）
*2： 点灯時期は、お車の使用状況により異なります（最長 20,000km 走行で点灯）
*3： メーターディスプレイで設定した交換時期（30,000~80,000km）で点灯
*4： メーターディスプレイで設定した交換時期（30,000~40,000km）で点灯

ゴム・樹脂部品など

項目			交換時期	備考
パワーステアリングホース		自家用	4 年ごと	—
		事業用	2 年ごと	
パワーステアリング内部のゴム部品			4 年ごと	—
ブレーキホース		自家用	4 年ごと	—
		事業用	2 年ごと	
マスターシリンダー			4 年ごと	—
ホイールシリンダー及びディスクキャリパーのカップ、ブーツ等ゴム部品		自家用	4 年ごと	—
		事業用	2 年ごと	
ハイドロリックユニット			10 年ごと	—
フューエルホース	4JZ1 型エンジン車	自家用	4 年ごと	—
		事業用	2 年ごと	
	RZ4E 型エンジン車	自家用	2 年ごと	—
		事業用	1 年ごと	—

ウインドーウォッシャー液

ウインドーウォッシャー液の混合割合

容量 ［参考値］	時期	水道水	ウインドー ウォッシャー液	凍結温度	参照 ページ
標準キャブ・ハイキャブ車：3.1L ワイドキャブ車：3.4L	通常	2	1	-10 ℃程度	10-98
	冬期	1	1	-20 ℃程度	
	厳寒	0	原液を使用	-50 ℃程度	

その他

項目	交換時期	備考
スターターモーター	—	スターター表示（橙）点灯時 *1
スターターリレー	—	
ICR リレー	—	スターター表示（橙）点灯時「RZ4E 型エンジン搭載車」のみ
ドージングモジュール（尿素 SCR システム）	750,000km ごと	—
NOx センサー（尿素 SCR システム）	300,000km ごと	—
O2 センサー	250,000km（または 15 年）ごと	「RZ4E 型エンジン搭載車」を除く
	240,000km（または 15 年）ごと	「RZ4E 型エンジン搭載車」のみ
PM センサー	250,000km（または 15 年）ごと	—

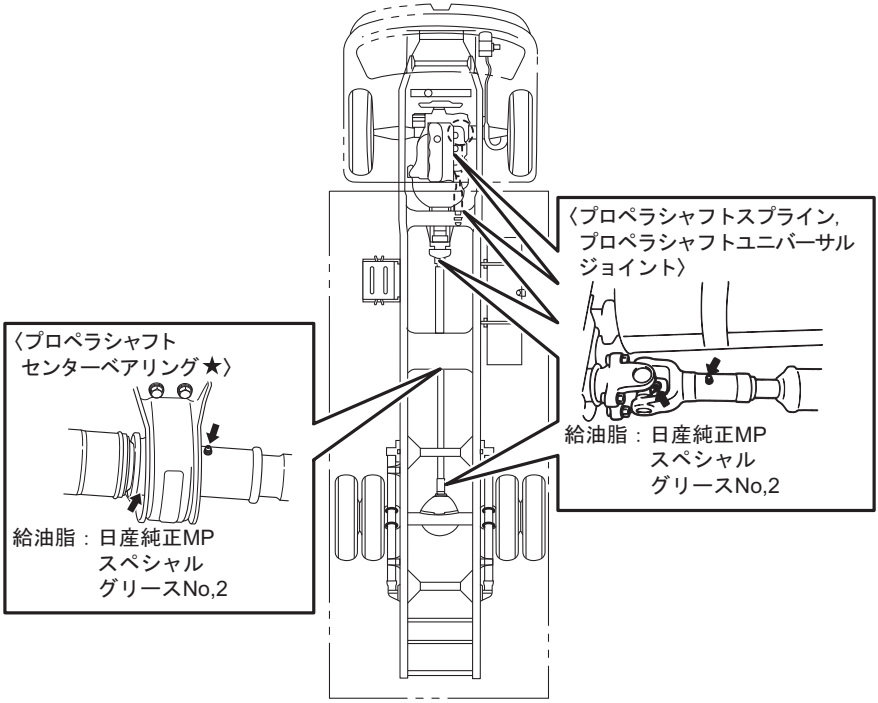
*1： 150,000 回作動時に点灯（消防車は 70,000 回作動時に点灯）

グリース

アドバイス

- 給脂を行う際、部位により要求されるグリースの種類（性質）が異なります。各部位ごとの指定グリースを確認したうえで適切なグリースを使用してください。
- グリースニップルがある箇所については、給脂の際は必ずグリースニップルから行ってください。
- グリースニップルに泥やほこり等の汚れが付着している場合は、汚れを取ってから給脂してください。

25,000km（または 6 か月）ごとに〈日産純正 MP スペシャルグリース No,2〉を次の箇所に給脂します。

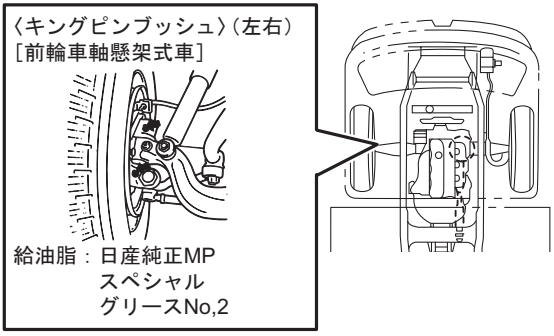


アドバイス

【プロペラシャフトへの給脂について】

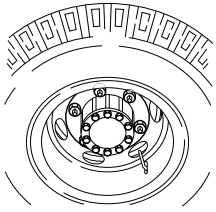
- すべてのユニバーサルジョイントに、4 か所のオイルシール部から新しいグリースがはみ出るまで給脂してください。
- プロペラシャフト給脂部（ユニバーサルジョイント・スプライン・センターベアリング）への給脂後は、はみ出したグリースを必ずふき取ってください。

6 か月ごとに〈日産純正 MP スペシャルグリース No,2〉を次の箇所に給脂します。



24,000km 走行（または 1 年）ごとにベアリンググリース〈日産純正 MP スペシャルグリース No,2〉を次の箇所に給脂します。

ホイールハブベアリング



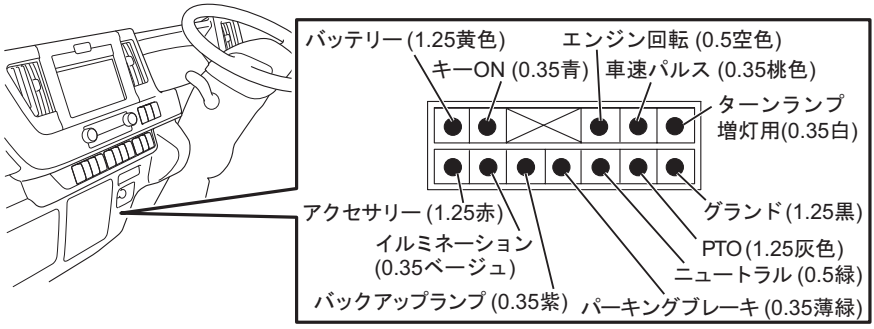
2 か所 (後輪ドラムブレーキ車のリヤホイールハブベアリングのみ)
分解作業が必要なので最寄りの《日産販売会社》へお申し付けください。

サービスコネクターについて

電装品を追加して接続するときに使用するサービスコネクターがリレーボックス右横に設置してあります。

⚠ 警 告

- **カーナビゲーションシステムや無線機、その他市販のオーディオなど電装品の電気配線は、サービスコネクターより指定の方法で行ってください。不適切な配線を行うと、他の電装品に悪影響を与え故障の原因になるおそれや、電線の過熱により火災を招く危険があります。また、SRS エアバッグが思いかけずにふくらんだりして危険です。電装品の取り付け、取り外しは必ず《日産販売会社》で行ってください。**



日常点検 9

- お出かけ前には『日常（運行前）点検』を 9-2
- 日常（運行前）点検一覧 9-3
- 前回の運転で異常のあった箇所の点検 9-4
- エンジン冷却水量の点検 9-4
- ランプ類の汚れ、損傷がないか点検 9-7
- ウインドーウォッシャー液量の点検 9-8
- エンジンオイルの点検 9-8
- ファンベルトの点検 9-11
- タイヤの点検 9-12
- バッテリー液量の点検 9-16
- ブレーキフルードの点検 9-18
- ランプ類の点灯・点滅の点検 9-19
- エンジンのかかり具合･異音の点検 9-21
- ワイパー･ウインドーウォッシャーの点検 9-21
- パーキングブレーキレバーの引きしろの点検 9-21
- クラッチの作用の点検 9-23
- ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合の点検 9-23
- エンジンの低速と加速の状態の点検 9-24

お出かけ前には『日常（運行前）点検』を



本章では、『日常（運行前）点検』のしかたについてまとめています。
日常点検は、道路運送車両法により運転者に義務づけられています。1 日 1 回、お車を運転する前に日常点検を行い、異常がないことを確認してください。安全で快適な運転のため、お車の走行距離、運行時の状態などを把握し、適切な点検時期および、点検に応じた整備を行ってください。
点検の結果、異常がある場合、あるいは、前日または前回の運転で異常のあった箇所は《日産販売会社》で修理を受けてから運転するようにしてください。
点検後の処置方法や、日常点検以外の簡単な車両の整備・手入れのしかたについては、『10 章 車両の整備・手入れ』を参照してください。

参照ページ
10-1 車両の整備・手入れ

⚠ 警 告

【タイヤの点検】

- **タイヤ空気圧モニタリングシステムは日常点検に代わるものではありません。タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車の場合も、日常点検で必ずタイヤ空気圧を確認してください。**

日常（運行前）点検一覧

1. 前回の運転で異常のあった箇所の点検

点検項目	参照ページ
前回の運転で異常のあった箇所の点検	9-4

2. 車のまわりを 1 周して

点検項目	参照ページ
冷却水量 *1	9-4
ランプ類の汚れ、損傷	9-7
ウォッシャー液の量 *1	9-8
エンジンオイル量 *1	9-8
ファンベルトの張り具合、損傷 *1	9-11
タイヤの空気圧	9-12
タイヤの亀裂、損傷	9-14
タイヤの異常な摩耗	9-14
タイヤの溝の深さ *1	9-14
バッテリー液量 *1	9-16
ブレーキの液量	9-18
ランプ類の点灯、点滅	9-19

*1： 走行距離や運行時の状況等から判断した適切な時期に行う点検項目を示します。

3. エンジンを始動して

点検項目	参照ページ
エンジンのかかり具合と異音の有無 *1	9-21
ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーのふき取り具合 *1	9-21
パーキングブレーキレバーの引きしろ	9-21

*1： 走行距離や運行時の状況等から判断した適切な時期に行う点検項目を示します。

4. 走行して

点検項目	参照ページ
クラッチの作用 *2 *3	9-23
ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合	9-23
低速および加速の状態 *1	9-24

*1： 走行距離や運行時の状況等から判断した適切な時期に行う点検項目を示します。
*2： 日産自動車が推奨する点検項目を示します。
*3： 事業用のみの点検項目を示します。

前回の運転で異常のあった箇所の点検

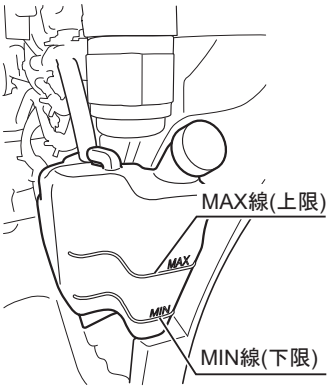
前日または、前回の運転で異常があった箇所を点検してください。異常があった箇所は《日産販売会社》で修理を受けてから運転するようにしてください。

エンジン冷却水量の点検

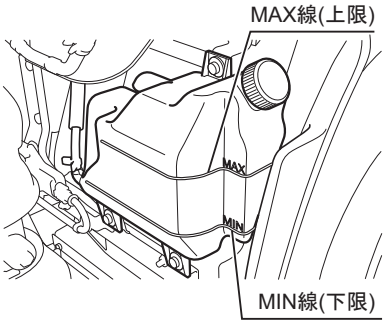
リザーブタンクは、右前輪後方にあります。エンジンが十分に冷えていることを確認し、リザーブタンクの水量を点検します。『MIN』線と『MAX』線の間にあれば適量です。不足しているときは『MAX』線まで冷却水を補給します。また、ラジエーターキャップを取り外し、冷却水がラジエーターの口元いっぱいまで入っているか点検してください。

参照ページ
10-18 冷却水の補給

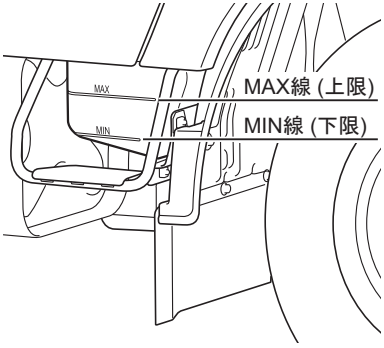
シングルキャブ・スペースキャブ車
（標準キャブ・ハイキャブ車）



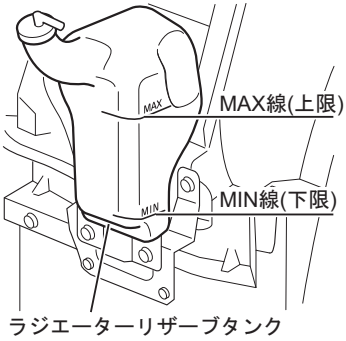
（ワイドキャブ車）



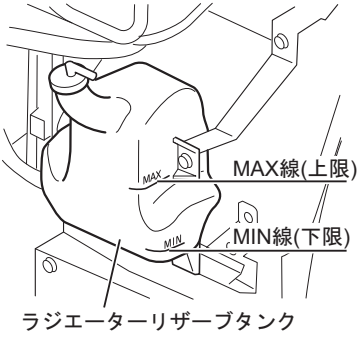
ダブルキャブ車
（標準キャブ車）

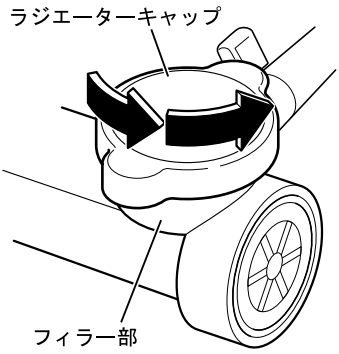


（ハイキャブ車）



（ワイドキャブ車）





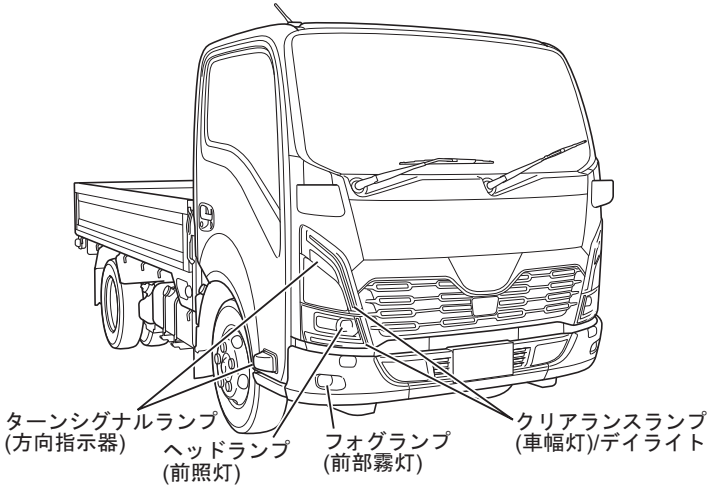
⚠ 注 意

- ラジエーターキャップは 2 段階に回すダブルアクション式です。ラジエーターキャップを取り外すときは 2 段目まで回してください。2 段目まで回りきっていない状態で外すと、ラジエーターキャップおよびラジエーターのフィラー部を破損させる原因になります。

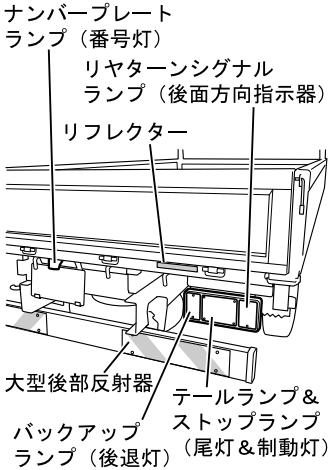
ランプ類の汚れ、損傷がないか点検

各ランプのレンズに汚れや変色、損傷がないか、また確実に取り付けられているか点検します。
汚れている場合は清掃してください。
損傷している場合は交換が必要です。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

フロント側



リヤ側



⚠ 注 意

- **リフレクターは、はがしたり汚したりしないでください。他の車などからの視認性が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。**

ウインドーウォッシャー液量の点検

ウインドーウォッシャータンク内の液量を確認します。
液量が不足している場合は、補給します。

参照ページ
10-98 ウインドーウォッシャー液の補給

エンジンオイルの点検

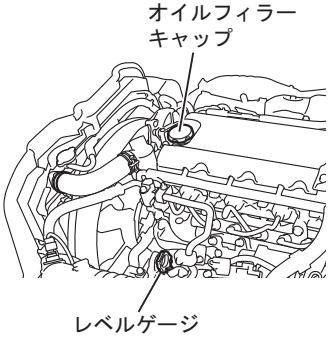
アドバイス

- エンジンオイルには次の大切な働きがあります。
  - エンジン各部の摩耗を防ぎます。
  - エンジン各部の冷却を行います。
  - エンジン各部をクリーニングします。
  - 燃焼室の気密性を保ち、さびの発生を防ぎます。
    エンジンオイルの交換は定期的に行ってください。
- オイルレベルゲージの『点検用 MAX』位置以上にエンジンオイルがあると、エンジン故障の原因となります。オイル量が『点検用 MAX』を超えた場合は交換時期に関わらず、必ずエンジンオイルを交換してください。
- エンジンオイル中へ燃料が徐々に混ざり、エンジンオイルが薄まりますので、必ず指定された期間でエンジンオイルを交換してください。

知　識

- 点検は平坦な場所で、エンジンの始動前に行ってください。
- エンジン運転中では正確なオイル量は量れません。
- エンジン運転後にオイル量を量るときは、エンジン停止後 20 ～ 30 分たってから行ってください。

4JZ1 型エンジン車



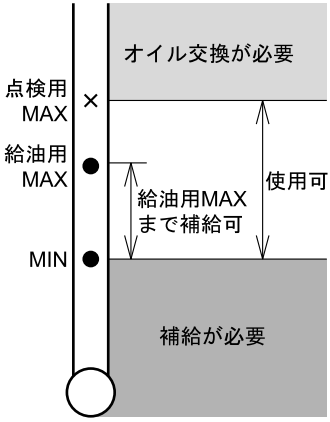
RZ4E 型エンジン車



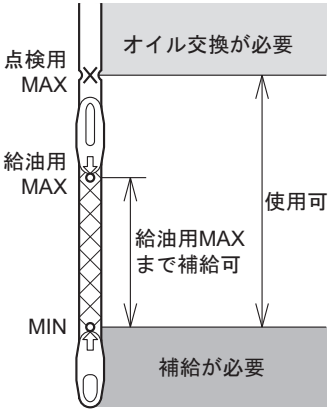
オイルレベルゲージを抜き、先端を布でぬぐってから再びいっぱいに差し込み静かに引き抜きます。
『点検用 MAX』と『MIN』の範囲にオイルが付着すれば適量です。
また、エンジンオイルの漏れがないか、汚れていないかも点検してください。

エンジンオイル量の点検

4JZ1 型エンジン車

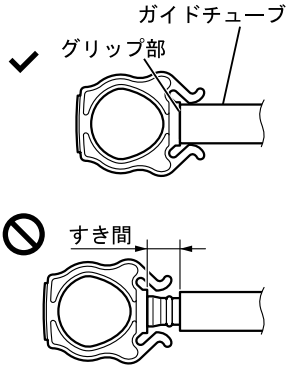


RZ4E 型エンジン車



1. オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルをふき取ります。
2. 再びいっぱいに差し込んで静かに抜き取ります。オイルが『点検用 MAX』と『MIN』間にあれば良好です。
3. オイルが不足していれば『給油用 MAX』まで補給します。オイル量が『点検用 MAX』を超えた場合は必ずオイル交換してください。

参照ページ
10-5 エンジンオイルの補給
10-7 エンジンオイルの交換



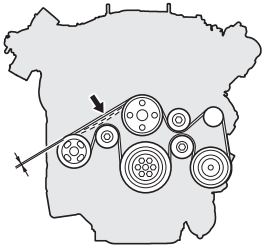
4. 点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込みます。

アドバイス

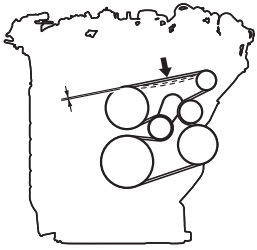
- オイルレベルゲージは曲げないよう、注意して差し込んでください。オイルレベルゲージが変形するおそれがあります。
- オイルレベルゲージはグリップ部がガイドチューブに突きあたるまで差し込んでください。すき間があるとエンジン内に水が浸入して故障するおそれがあります。

ファンベルトの点検

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



ベルトの中央部を手で押し、ベルトが少したわむ程度であるかを点検します。
またベルトに損傷がないかも点検してください。
亀裂･損傷があるときは、ベルトを交換します。交換には分解作業が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

アドバイス

- ベルトの交換には分解作業が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知　識

- ベルトは自動調整式なので調整する必要はありません。

タイヤの点検

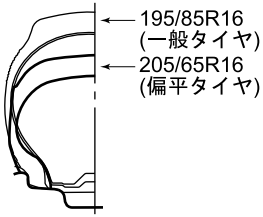
タイヤの空気圧の点検

警　告

- **タイヤ空気圧モニタリングシステムは日常点検に代わるものではありません。タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車の場合も、日常点検で必ずタイヤ空気圧を確認してください。**
- **空気圧不足のまま走行するとバースト（破裂）の原因となり危険です。また、バーストした場合、タイヤが燃え、車両火災の原因になるおそれがあります。**
- **空気圧不足のまま走行したり、パンクしたまま走行すると、ホイールナットがゆるんで脱落したり、ホイールボルトが折損するなど車輪脱落事故の原因となります。**

注　意

- **空気圧が高すぎたり、低すぎたりすると乗り心地が悪くなり積荷も傷みやすくなります。常に基準の空気圧に調整してください。**



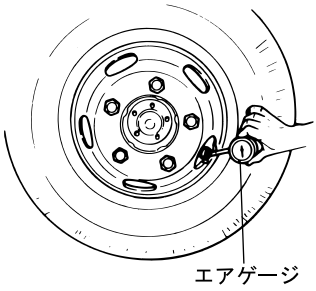
アドバイス

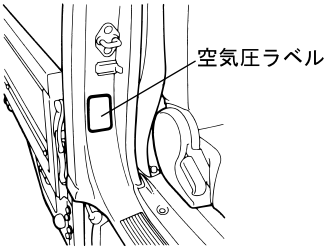
【偏平タイヤについて】

- トラック用偏平タイヤ（75, 70, 65 シリーズ）は、一般タイヤに比べタイヤ内の空気の体積が 20 ～ 30%少ないため、空気が抜けていくと一般のタイヤよりも早く運転操作に支障が出てきます。エアゲージを使ってこまめに空気圧チェックを行ってください。

知　識

- 空気圧を測定するには、最寄りのガソリンスタンドを利用するか《日産販売会社》でエアゲージをお求めください。
- ダブルタイヤの内側と外側タイヤで空気圧の差をつけないでください。

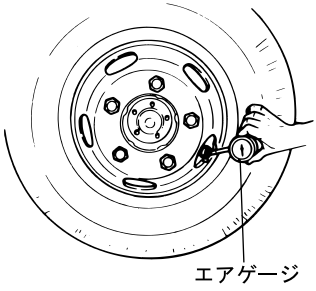




エアゲージを使用してタイヤ（スペアタイヤも含む）の空気圧を測定します。空気圧が不良のときは、標準空気圧に調整してください。空気圧の点検･測定および充填時は走行前のタイヤが冷えているとき行います（走行すると約 1 割程度空気圧が上昇します）。
空気圧の点検･測定後、エアの充填後は、必ずバルブキャップを取り付けてください。
空気圧は車型とタイヤサイズによって異なりますので運転席ドア開口部の空気圧ラベルか、『タイヤ空気圧一覧』を参照してください。

参照ページ
8-3 タイヤ空気圧一覧

スペアタイヤの空気圧

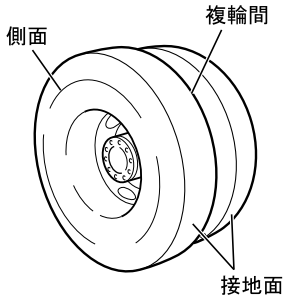


スペアタイヤの空気圧は少し高めにしておき、交換したときに正しく調整してください。
走行中のタイヤは高温となり、空気圧は高くなります。やむを得ず走行直後に空気圧を調整するときは、約 20kPa {約 0.2kgf/cm^2} を加えた値に調整してください。

タイヤの亀裂、損傷の点検

アドバイス

- 亀裂や損傷のあるタイヤは使用しないでください。バースト（破裂）の原因となり危険です。



タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷、片寄った摩耗がないか点検します。タイヤの溝に金属片や釘などが刺さっていないか、複輪間に石などがかみ込んでいないか点検します。
亀裂や損傷がある場合は、タイヤを交換してください。

参照ページ
10-66 タイヤの交換

タイヤの溝の深さ、異常摩耗の点検

警　告

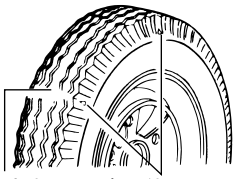
- **摩耗したタイヤは、走行中にパンクやバースト（破裂）を起こしやすく危険です。**

注　意

- **残り溝が少ないとスリップや高速走行時のハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**

知　識

- ハイドロプレーニング現象とは水の溜まった道路を高速で走行するとタイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象です。


摩耗限度表示　表示位置マーク

タイヤ接地面の摩耗限度表示（ウェアインジケーター）が表れていないか、またタイヤ接地面全周にわたり、溝の深さが基準値にあるかデプスゲージで点検します。
溝の深さが基準値以下になったら新品タイヤに交換してください。

参照ページ
10-66 タイヤの交換

残り溝が 1.6mm になると図の位置に摩耗限度表示（ウェアインジケーター）があらわれます。
また、偏摩耗などの異常な摩耗がないか点検します。

溝の深さ		タイヤサイズ
一般道路走行時	1.6mm 以上	全　車
高速道路走行時	2.4mm 以上	下記以外
	3.2mm 以上	215/70R17.5 123/121J 225/80R17.5 123/122L

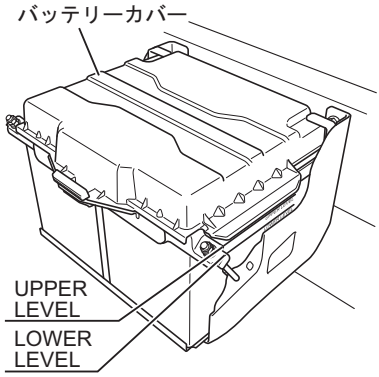
長期使用タイヤの点検

タイヤはゴム製品であり、長期使用すると（スペアタイヤなど、タイヤをホイールに組み付けて保管していても）徐々に経時変化します。使用開始後 5 ～ 7 年を目安に引き続きご使用の場合は、安定走行を確保するため必ず点検を受けてください。

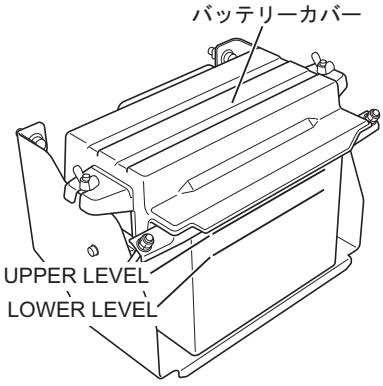
バッテリー液量の点検

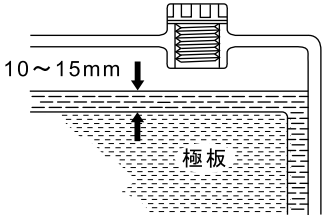
シングルキャブ・スペースキャブ車

除く AHR 型車（24V バッテリー）



AHR 型車（12V バッテリー）

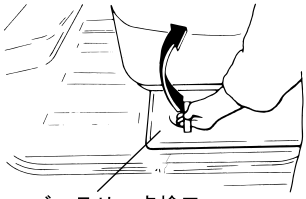




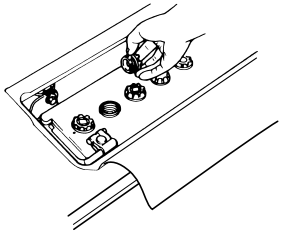
バッテリーは外側のシャシ中央付近にあります。
バッテリーケース内の液面が規定内にあるか点検します。
液面が『UPPER LEVEL』と『LOWER LEVEL』の範囲内にあれば適量です。液面がわかりにくいときは車を上下にゆすってください。
レベル表示のないものは、液面が極板上 10 ～ 15mm にあれば適量です。
液量が不足している場合は、補給します。

参照ページ
10-110 バッテリー液の補給

ダブルキャブ車



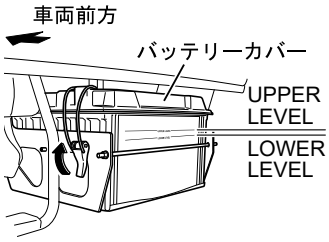
バッテリー点検口

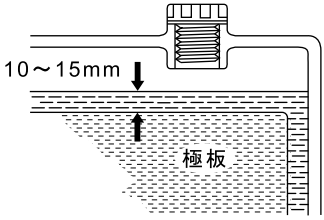


後席左下にあるバッテリー点検口を開けて点検してください。
キャップを外して中をのぞき、液面が極板上 10 ～ 15mm にあれば適量です。
液量が不足している場合は、補給します。

参照ページ
7-26 リヤ点検口（ダブルキャブ車）★
10-110 バッテリー液の補給

消防車

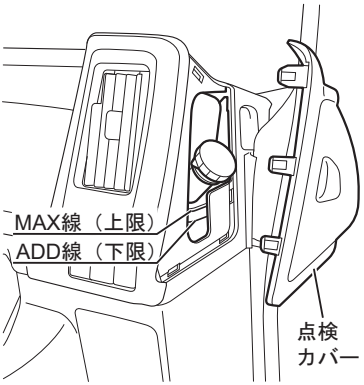




バッテリーは外側のキャブ後方左側にあります。
バッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が規定内にあるか点検します。
液面が『UPPER LEVEL』と『LOWER LEVEL』の範囲内にあれば適量です。液面がわかりにくいときは車を上下にゆすってください。
レベル表示のないものは、液面が極板上 10 ～ 15mm にあれば適量です。
液量が不足している場合は、補給します。

参照ページ
10-110 バッテリー液の補給

ブレーキフルードの点検



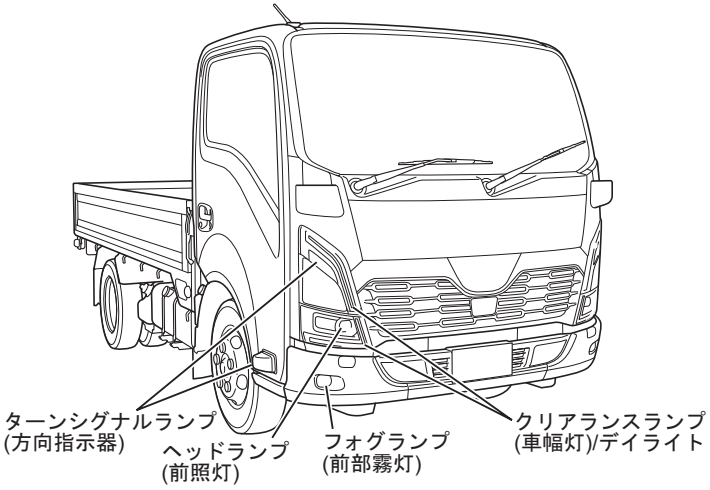
メーターパネル右側の点検カバーに指をかけ、車両前方に押しながら回転させるようにして取り外します。リザーブタンク内の液面が MAX 線（上限）と ADD 線（下限）の間にあるかを点検します。
液面がわかりにくい場合は、車両をゆすってください。
ブレーキフルードが ADD 線より下に減っているときはキャップを開き、日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）を補給します。このとき MAX 線以上には補給しないでください。
また、補給後はキャップを確実に閉めてください。

ランプ類の点灯・点滅の点検

スタータースイッチを『ON』位置にし、ヘッドランプ（前照灯）、ターンシグナルランプ（方向指示器）、その他のランプ類の点灯、点滅を点検します。
また、ブレーキペダルを踏み、ストップランプ（制動灯）が点灯すること、シフトレバーを『R（後退）』に入れてバックアップランプ（後退灯）が点灯することを点検します。
ランプが点灯、点滅しない場合は、『ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）』を参照して、点検やランプの交換を行ってください。

参照ページ
10-111 ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）

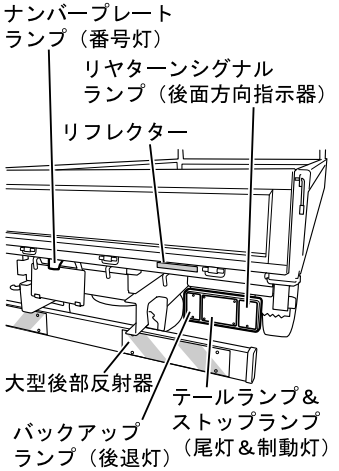
フロント側



⚠ 注 意

- リフレクターは、はがしたり汚したりしないでください。他の車などからの視認性が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤ側



エンジンのかかり具合･異音の点検

スタータースイッチを操作してエンジンを始動させます。
このときにエンジンがただちに始動し、また異音が出ないことを確認します。

参照ページ
4-46 エンジンの始動方法

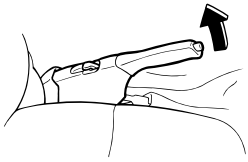
ワイパー･ウインドーウォッシャーの点検

ウインドーウォッシャー液を噴射し、ワイパーを作動させたとき、ふき残しがないか点検してください。また、『(間欠)』、『LO（低速）』および『HI（高速）』の各作動が不良でないか点検します。このとき、ウインドーウォッシャー液の噴射状態も点検してください。
ワイパーブレードの交換が必要な場合は、『ワイパーブレードの交換』を参照してください。

参照ページ
10-99 ワイパーブレードの交換

パーキングブレーキレバーの引きしろの点検

除く電動パーキングブレーキ付車



パーキングブレーキ警告灯（赤）

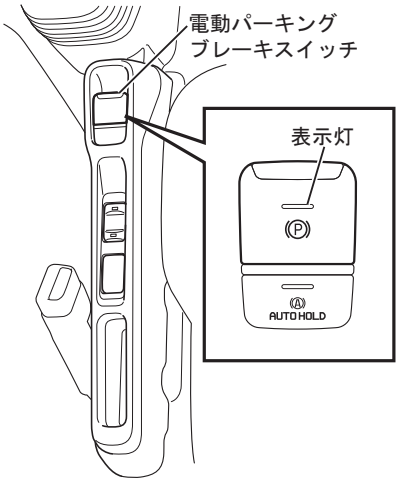


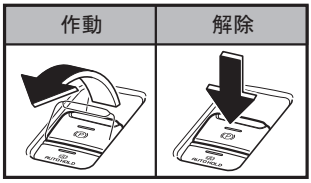
1. 地面が平坦で固い場所に車両を止め、輪止めをして車両が動かないようにします。
2. レバーをいっぱいに引いたとき、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないか点検します。
   レバーをいっぱいに戻した状態から静かに引き上げ、ノッチ数（カチカチ音）を数えます。
   また、このときパーキングブレーキレバーがしっかりとロックされていることを点検してください。
3. レバーを引いている状態でパーキングブレーキ警告灯が点灯することを点検します。

レバーを戻した状態から静かに引いたときのノッチ数（操作力約 147N {約 15kgf}）

レバーの引きしろ
6 ～ 8 ノッチ

電動パーキングブレーキ付車





1. 地面が平坦で固い場所に車両を止め、輪止めをして車両が動かないようにします。
2. 電動パーキングブレーキスイッチを引き上げてパーキングブレーキを作動させます。またその際モーター音がするかを点検します。

パーキングブレーキ警告灯（赤）



電動パーキングブレーキ警告灯（橙）



3. パーキングブレーキを作動させた状態でパーキングブレーキ警告灯が点灯すること、電動パーキングブレーキ警告灯が消灯していることを点検します。

注 意

- **電動パーキングブレーキは自動解除機能を備えているため、点検時にはアクセルペダルを踏み込まないでください。アクセルペダルの踏み込みによって自動解除機能が作動します。またパーキングブレーキの点検をする際は必ず輪止めを装着して実施してください。意図しない解除によって思わぬ事故に繋がります。**

参照ページ
4-74 電動パーキングブレーキの自動作動と自動解除

クラッチの作用の点検

アイドリング状態でクラッチペダルを踏み込んだとき、異音がしないか、クラッチペダルが異常に重くないか点検します。また、シフトレバーが 1 速や後退の位置に容易に変速できるかを点検します。
ゆっくり走り出したとき、すべりがなく接続が滑らかであるかも点検します。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

アドバイス

- 大きく急発進しないよう注意してクラッチペダルをつないでください。

ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合の点検

注 意

- **走行点検は見通しの良い広い道路で行い、後続車や周囲のものに十分注意してください。**

ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだとき、床板とのすき間（踏み残りしろ）や踏みごたえが適当であるかを点検します。
乾燥路をゆっくり走行してブレーキを踏み、効きが十分で、片効きしないか点検します。

アドバイス

- しばらく踏んでいるとすき間が小さくなったり、フワフワする感じがある場合は、ブレーキフルード内に空気が混入しているおそれがあります。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。
- 走行中または、制動中にブレーキからキーキー音がしたら原因として、次のことが考えられます。
  - ブレーキパッドの摩耗
    ブレーキパッドが全摩耗に近づいていることを警告しています。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。
  - 砂や砂利、泥の付着
    砂や砂利、泥などが付着し、回転部分とこすれてキーキー音が発生することがあります。洗車をして付着物を洗い落としてください。洗車後もキーキー音がする場合は、早めに《日産販売会社》で点検を受けてください。

知　識

- 床面とのすき間を点検するときにはエンジンを始動し、空ぶかしを数回して、初回の踏み込みで点検してください。2 回、3 回と繰り返し踏み込むと正しい点検にはなりません。

エンジンの低速と加速の状態の点検



1. スタータースイッチを操作してエンジンを始動させ、暖機運転を行います。

参照ページ
4-46 エンジンの始動方法

2. アイドリング回転数が標準アイドリング回転数内で円滑に回転しているか確認します。
ただし以下の状態を除きます。
- DPD 再生中
- 冷却水温が低いとき

参照ページ
4-52 アイドリングコントロールノブ★
4-190 DPD スイッチ

3. 走行状態で徐々に加速したとき、アクセルペダルにひっかかりが無いか、エンジン回転が円滑に上がるか、ノッキングは無いかを確認します。

車両の整備・手入れ 10

エンジン関連の整備・手入れ

- エンジン 10-3
- エンジンオイル 10-3
- エンジンオイルフィルター 10-10
- 冷却水 10-15
- ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄 10-31
- ファンベルト 10-32
- エアクリーナー 10-32
- フューエルフィルター 10-37
- DPD（ディーゼル･パティキュレート･ディフューザー） 10-55

シャシ関連の整備・手入れ

- ブレーキ 10-56
- ブレーキフルード 10-57
- パーキングブレーキ 10-58
- ディスクブレーキ★ 10-60
- ドラムブレーキ★ 10-61
- タイヤ 10-63
- タイヤのローテーション 10-63
- タイヤの交換 10-66
- スペアタイヤ 10-74
- クラッチ★ 10-77
- クラッチフルード★ 10-78
- トランスミッションオイル 10-79
- オートマチックトランスミッションオイル★ 10-84
- デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル★ 10-85
- デファレンシャルオイル 10-89

● フロント PTO ギヤオイル（消防車）★ 10-94
● パワーステアリングフルード 10-95

その他の整備・手入れ

● ウインドーウォッシャー液 10-98
● ワイパーブレードとウインドーガラス 10-99
● エアコンフィルター 10-102
● バッテリー 10-104
● ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器） 10-111
● 車外の手入れ 10-118
● 車内の手入れ 10-122

エンジン関連の整備・手入れ

エンジン

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

エンジンのかかり具合･異音の点検

参照ページ
9-21 エンジンのかかり具合･異音の点検

エンジンの低速と加速の状態の点検

参照ページ
9-24 エンジンの低速と加速の状態の点検

エンジンオイル

エンジンオイルは、エンジン内の冷却作用、エンジン内のゴミを洗い流す清浄作用の役割をしています。エンジンの性能や寿命、燃費に大きな影響を与えますので指定オイルを使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

アドバイス

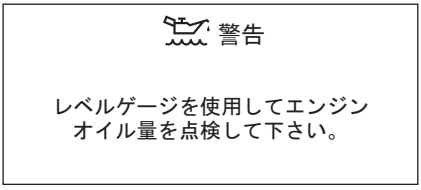
- エンジンオイルは走行とともに減少します。また、その減少量は運転状況（使用状況）によって異なりますので、定期的にオイルレベルゲージで確認してください。
- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などを行います。作動工程の中で蒸発･排出･燃焼などによりオイルの劣化や減少を招き、点検およびオイルの補充や交換を行わず使用し続けると、エンジンの焼きつき、破損を招くおそれがあります。使用条件により異なりますが、指定時期以前でもオイルの劣化や減少がある場合は補充、交換を行ってください。
- DPD 対応オイルを使用されない場合はエンジンおよび、DPD の故障、燃費の悪化原因となります。必ず DPD 対応オイルを使用してください。

知　識

- DPD は、DPD フィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積すると自動的に再生（PM の燃焼）を行います。この再生（PM の燃焼）を行うために、エンジン燃焼室での爆発後に燃料噴射を行い、微量の燃料をフィルターに吹き付けています。このためエンジンオイル中へ燃料が徐々に混ざり、エンジンオイルが注入時よりも増える場合がありますが故障ではありません。

エンジンオイルの警告・表示

エンジンオイルレベル（点検）警告



エンジンオイル量が低下または『点検用 MAX』位置を超えたときにメーターディスプレイに表示されます。エンジンオイルレベル（点検）警告が表示されたときは、レベルゲージを使用してエンジンオイルの油量を点検してください。

参照ページ
9-8 エンジンオイルの点検
10-11 エンジンオイルフィルターの交換

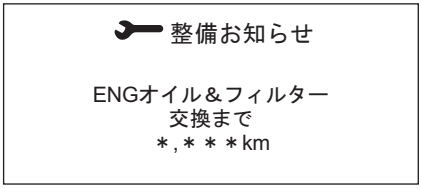
アドバイス

- 次の場合、エンジンオイルの油量が正常でもエンジンオイルレベル（点検）警告が表示される場合があります。
  - 車両が傾いているとき（車両の傾きが戻ったときに消えれば正常です）
  - エンジンオイル交換直後（表示されたときは、水温計の針が中央付近になるまで暖機運転を行ってからエンジンを停止し、20 ～ 30 分後に消えれば正常です）
  - RZ4E 型エンジン車の場合、エンジンオイルの油量が正常でも、エンジンオイルに燃料が混ざって希釈され、エンジンオイルが劣化することがあります。この場合はエンジンオイルレベル（点検）警告が表示され続けるため、エンジンオイルを交換してコントロールユニット内の情報を更新してください。
- 消灯しないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

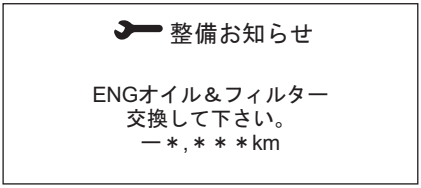
参照ページ
10-7 エンジンオイルの交換

エンジンオイル＆フィルター警告・表示

残距離



超過距離



エンジンオイル＆フィルターのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、エンジンオイル＆フィルター交換までの残距離または、超過距離が表示されます。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「ENG オイル & フィルター 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- エンジンオイル＆フィルター交換までの残距離は、お車の使用状況に合わせて変わります。使用状況によっては、実際の走行距離と残距離の減少が合わない場合もありますが異常ではありません。
- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-11 エンジンオイルフィルターの交換

エンジンオイルの点検

参照ページ
9-8 エンジンオイルの点検

エンジンオイルの補給

警　告

- 補給のときは、布などを近くにおき、オイルをこぼさないようにしてください。
  もし、オイルがエンジンに付着した場合は、ていねいにふき取ってください。オイルに引火し、火災を招くおそれがあります。
- 布や軍手などの可燃物をエンジンルームに置き忘れないようにしてください。火災を招くおそれがあります。

アドバイス

- 補給のときは、注入口からゴミなどが入らないようにしてください。異物の混入はエンジンを破損するおそれがあります。
- 『給油用 MAX』以上のオイル補給は、エンジン不調の原因となるおそれがありますので、必ずレベルゲージで、オイル量を確認してください。

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



エンジンオイルが『MIN』付近のときは、注入口のキャップを外し、オイルレベルゲージを抜いてからオイルを補給します。補給後、キャップとオイルレベルゲージを確実に取り付けてください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルについては、全シーズンを通して、日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 をご使用ください。

エンジンオイルの粘度グレード	
SAE 5W-30	日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1

警　告

- **給油のときは、布などを近くにおき、オイルをこぼさないようにしてください。もし、オイルがエンジンに付着した場合は、ていねいにふき取ってください。オイルに引火し、火災を招くおそれがあります。**
- **布や軍手などの可燃物をエンジンルームに置き忘れないようにしてください。火災を招くおそれがあります。また、工具なども置き忘れないようにしてください。**
- **運転後、エンジンオイルを交換するとき、油温が高くなっています。交換するとき、やけどをしないよう注意してください。**

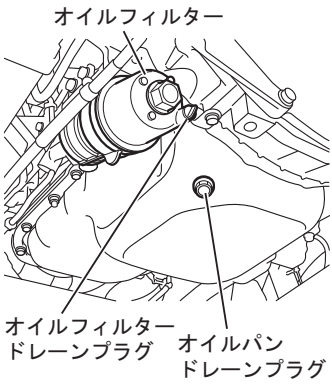
アドバイス

- エンジンオイルを交換するときは、同時にエンジンオイルフィルターも交換してください。
- 急激なエンジンの空吹かしはエンジン故障の原因になりますので行わないでください。
- 『給油用 MAX』以上のオイル補給は、エンジン不調の原因となるおそれがありますので、必ずオイルレベルゲージで、オイル量を確認してください。
- DPD 対応オイルを使用されない場合は、エンジンおよび、DPD の故障、燃費の悪化原因となります。必ず DPD 対応オイルを使用してください。
- 排出したオイルの廃棄･処理は規定の方法で行ってください。

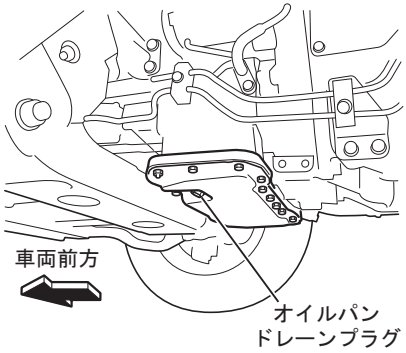
知　識

- オイル注入時はレベルゲージを抜いて行ってください。

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



1. 異物が混入しないようオイルフィラーキャップのまわりを清掃します。オイルフィラーキャップを取り外します。
2. オイルパンとオイルフィルターの下にオイルの受け皿を置きます。
3. オイルパンドレーンプラグとオイルフィルタードレーンプラグ（4JZ1 型エンジン車）を取り外し、オイルを排出します。
4. 各ドレーンプラグが確実に締め付けられていることを確認します。

オイルパンドレーンプラグ締付けトルク
83N・m {8.5kgf・m}

アドバイス

- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
- オイルフィルターのドレーンプラグは手で締め付けてください。プライヤーなどの工具で締め付けると破損します。

5. オイルレベルゲージを抜き、オイルフィラーから指定のエンジンオイルを静かに給油します。
6. オイルレベルゲージとフィラーキャップを取り付け、給油後、5 分以上たってからエンジンを始動し暖機運転をします。このときオイルフィルターやドレーンプラグのまわりからオイルが漏れていないか点検します。

アドバイス

- 急激なエンジンの空吹かしはエンジン故障の原因になります。行わないでください。

7. エンジン停止後、20 ～ 30 分してからオイルレベルゲージでオイル量を点検します。

8. 点検後、オイルレベルゲージを確実に差し込みます。

9. RZ4E 型エンジン車は、次の手順でエンジンのコントロールユニット内の情報を更新します。

1) エンジンが停止していることを確認します。

2) パーキングブレーキが確実に効いていて、シフトレバーが『N』位置になっていることを確認します。

3) スタータースイッチを『ON』位置にします。

⚠ 注 意

- **情報の更新が完了するまで、エンジンを始動しないでください。エンジンを始動すると、更新を完了することができません。**

警告

レベルゲージを使用してエンジンオイル量を点検して下さい。

4) アクセルペダルを完全に踏み込み、エンジンオイルレベル（点検）警告が消灯するまで踏み続けます（約 60 秒）。

⚠ 警 告

- **アクセルペダルを踏むときは、必ずエンジンを停止してください。エンジンがかかっていると、車両が急に動き出し、重大な事故につながるおそれがあります。**

5) エンジンオイルレベル（点検）警告が消灯すれば、情報の更新は完了です。

知　識

- 情報の更新が正常に完了しないときは、《日産販売会社》にご相談ください。

エンジンオイルフィルター

エンジンオイルフィルターは、エンジンオイルに混入した汚れやゴミなどを取り除く役割をしています。エンジンの性能や寿命に大きな影響を与えますので《日産純正部品》を使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

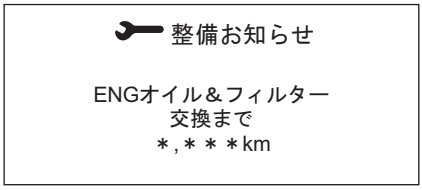
アドバイス

- 交換の際は、日産純正オイルフィルターを使用してください。他の物を使用すると故障の原因となるおそれがあります。
- オイルフィルターの交換は、エンジンオイルの交換と同時に行ってください。
- 排出したオイル、エレメントの廃棄･処理は規定の方法で行ってください。

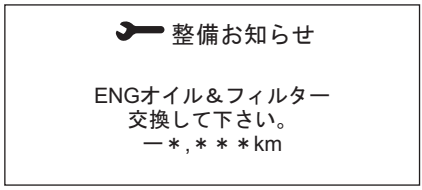
エンジンオイルフィルターの警告・表示

エンジンオイル＆フィルター警告・表示

残距離



超過距離



エンジンオイル＆フィルターのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、エンジンオイル＆フィルター交換までの残距離または、超過距離が表示されます。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「ENG オイル & フィルター 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- エンジンオイル＆フィルター交換までの残距離は、お車の使用状況に合わせて変わります。使用状況によっては、実際の走行距離と残距離の減少が合わない場合もありますが異常ではありません。
- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

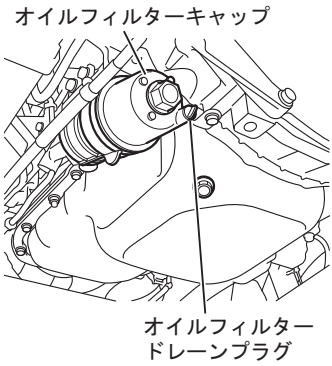
参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-3 エンジンオイル
10-11 エンジンオイルフィルターの交換

エンジンオイルフィルターの交換

アドバイス

- オイルフィルターを取り付けるとき、パッキンをかみ込ませないようにしてください。オイル漏れの原因になります。
- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
- 急激なエンジンの空吹かしはエンジン故障の原因になります。行わないでください。
- 交換後はエンジンの試運転を行い、フィルター周辺からオイル漏れのないことを確認してください。

4JZ1 型エンジン車



1. オイルフィルターの下にオイルの受け皿を置きます。
2. オイルフィルターのドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. オイルフィルターキャップを取り外し、エレメントを取り外します。
4. フィルターボデー内部を洗浄し、新しいエレメントを取り付けます。O- リングおよびパッキン類も同時に交換してください。
5. ドレーンプラグを取り付け、オイルフィルターキャップを規定のトルクで取り付けます。

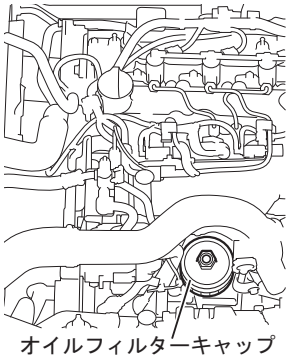
オイルフィルターキャップ締付けトルク
20N・m {2.0kgf・m}

アドバイス

- ドレーンプラグは手で締め付けてください。プライヤーなどの工具で締め付けると破損します。

RZ4E 型エンジン車

1. オイルフィルターの下にオイルの受け皿を置きます。

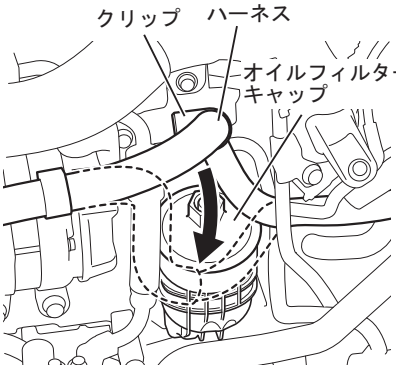


2. ソケットレンチを使ってオイルフィルターキャップをゆるめ、約 30 秒待ちます。

アドバイス

- ゆるめた直後にオイルフィルターキャップを取り外すと、エンジンオイルがあふれることがあります。

3. 布などでオイルフィルターエレメントを包みながら、オイルフィルターキャップを取り外します。



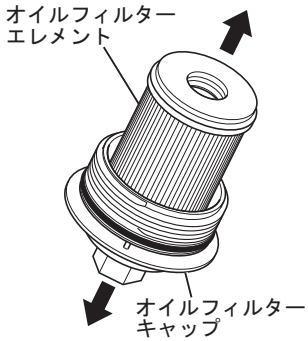
知　識

- ハーネスが干渉してオイルフィルターキャップが取り外せない場合は、ハーネスのクリップを取り外してハーネスを手前にずらします。

4. 取り外したオイルフィルターの周囲に付着したエンジンオイルを拭き取ります。

アドバイス

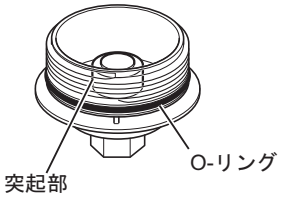
- エンジンオイルが付着していると、ゴム部品が劣化する原因となります。



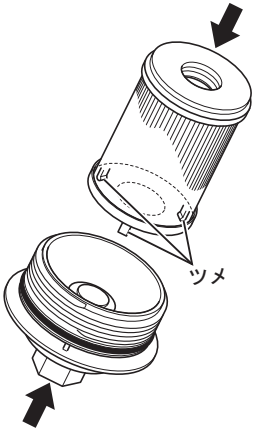
5. オイルフィルターキャップからエレメントを取り外します。

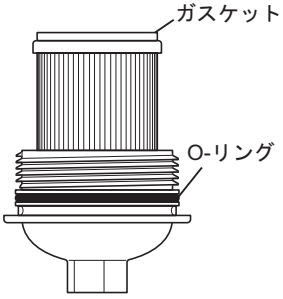
アドバイス

- 取り外したエレメントからエンジンオイルがこぼれることがあります。布などで拭き取ってください。



6. 布などを使ってオイルフィルターキャップ内側の突起部を拭き取ります。
7. オイルフィルターキャップの O- リングを外し、O- リングの取り付け面を綺麗に拭き取ります。
8. オイルフィルターキャップに新しい O- リングを取り付けます。
9. 新品のエレメントをツメがひっかかるまで、オイルフィルターキャップにしっかりと押し込みます。
10. エレメントとオイルフィルターキャップがまっすぐに取り付けられていることを確認します。





11. ガスケットとオイルフィルターキャップの O- リングに薄くエンジンオイルを塗布します。

アドバイス

- オイルフィルターキャップを取り付けるときにパッキンや O- リングが他の部分にはさまれないように注意してください。オイル漏れの原因となります。

12. オイルフィルターキャップを規定のトルクで取り付けます。

オイルフィルターキャップ締付けトルク
20N・m {2.0kgf・m}

知　識

- ハーネスを取り外した場合は、ハーネスを元の位置に戻してクリップを取り付けます。

冷却水

冷却水は、単なる水ではなく水道水と、ロングライフクーラント〈日産純正ロングライフクーラント〉を適正な濃度で混合したものです。エンジン内部の燃焼や摩擦によって発生する熱を冷やす役割をしています。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

警　告

- 冷却水の点検･補給･交換はエンジンが十分に冷えているときに行ってください。
- 冷却水が高温のときラジエーターやリザーブタンクのキャップを外さないでください。むやみに外すと蒸気が吹き出し、やけどをします。また冷却水温度も高温になっていますので、熱湯などによるやけどをするおそれがあります。点検･補給･交換は冷却水温度が下がっているときに行ってください。



- やむを得ずラジエーターやリザーブタンクのキャップを外すときは適正温度（80 ℃）に下がるのを待ち、厚手の布を重ねてキャップにかぶせ、徐々にキャップをゆるめてください。
- 冷却水は毒性があるので飲まないでください。誤って飲み込んだ場合は、ただちにおう吐し病院で手当を受けてください。
- 万一、冷却水が目に入った場合は、すぐに大量の水で 15 分間以上洗い流してください。また、刺激などの異常があれば病院で手当を受けてください。
- 冷却水が皮膚に付着した場合は、大量の水および石けんで洗い流してください。また、異常があれば病院で手当を受けてください。
- 冷却水は可燃物です。火気を近づけないでください。また、マニホールドなど高温部にかかると発火するおそれがあります。かからないように注意してください。

アドバイス

- 冷却水は定期的に交換してください。
  定期的に交換しないと、冷却水の劣化によりさびが発生し、水漏れやラジエーター、ヒーターコアの詰まり、尿素 SCR システムの故障の原因となります。

知　識

【冷却水】

- 水道水とロングライフクーラント〈日産純正ロングライフクーラント〉とを適正な濃度で混合したものです。

ロングライフクーラントの取り扱い

冷却水の凍結によるエンジン損傷の防止および腐食を防止するため、日産自動車が指定したロングライフクーラント（LLC）と水道水を適正な濃度で混合します。

使用地域	外気温度	ロングライフクーラント濃度
温暖地域 （寒冷地仕様以外）	-12 ℃まで	30%
寒冷地域 （寒冷地仕様）	-30 ℃まで	50%

⚠ 警 告

- ロングライフクーラント（LLC）は毒性があるので飲まないでください。誤って飲み込んだ場合は、ただちにおう吐し病院で手当を受けてください。
- 万一、ロングライフクーラントが目に入った場合は、すぐに大量の水で 15 分間以上洗い流してください。また、刺激などの異常があれば病院で手当を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、大量の水および石けんで洗い流してください。また、異常があれば病院で手当を受けてください。
- 保管するときはキャップを確実に閉め、お子様の手の届かないところに置いてください。
- ロングライフクーラント（LLC）は可燃物です。火気を近づけないでください。また、マニホールドなど高温部にかかると発火をするおそれがあります。かからないよう注意してください。

⚠ 注 意

- ロングライフクーラント（LLC）は、必ず〈日産純正ロングライフクーラント〉を使用してください。
- 日産自動車が指定したロングライフクーラント（LLC）を使用しない場合、エンジンやラジエーター、ヒーターコア、尿素 SCR システムを損傷するおそれがあります。

アドバイス

- 新車出荷時のロングライフクーラント（LLC）は、温暖地域（寒冷地仕様以外）では 30%、寒冷地域（寒冷地仕様）は 50% の濃度で充填しています。
- ロングライフクーラント（LLC）と混合する水は、井戸水、河川の水でなく必ず水道水（軟水）を使用してください。
- 指定されたロングライフクーラント濃度以外で使用しないでください。
  ロングライフクーラント濃度 60%以上ではオーバーヒートしやすくなり、30% 以下では腐食防止が不十分となります。
- 指定されたロングライフクーラント濃度以外での使用は凍結性能が悪くなり、冷却水が凍結するおそれがあります。状況に応じて濃度を調整してください。
- 冷却水の量が急激に減るときは、ただちに《日産販売会社》で点検整備を受けてください。

冷却水の点検

冷却水量の点検

参照ページ
9-4 エンジン冷却水量の点検

水漏れの点検

ラジエーターやラジエーターホースなどに水漏れがないか点検します。駐車していた地面に水漏れしたシミがないか確認します。水漏れがあったときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

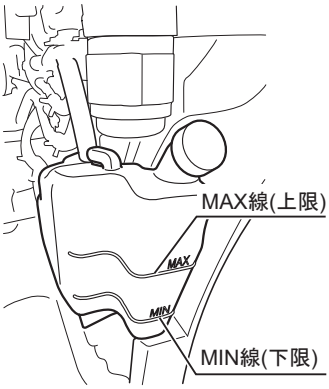
⚠ 注 意

- **水漏れしたまま使用した場合は、エンジン焼き付きの原因になります。**

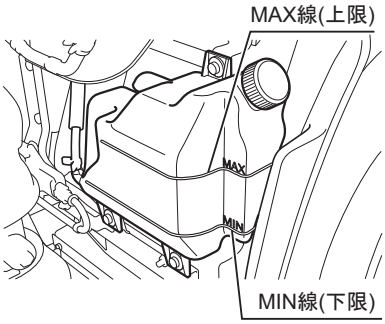
冷却水の補給

冷却水が不足しているときは、リザーブタンクのキャップを開けて『MAX』線まで冷却水を補給します。補給後はキャップを確実に閉めてください。

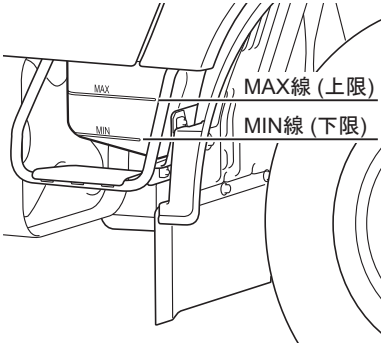
シングルキャブ・スペースキャブ車
（標準キャブ・ハイキャブ車）



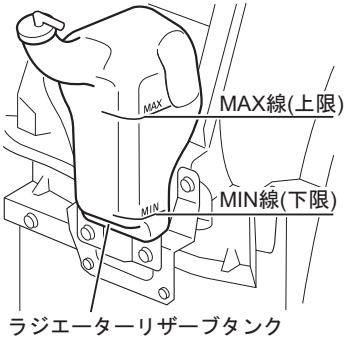
（ワイドキャブ車）



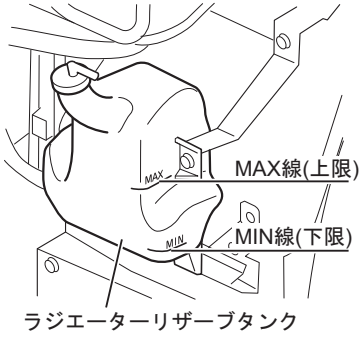
ダブルキャブ車
（標準キャブ車）



（ハイキャブ車）



（ワイドキャブ車）



アドバイス

- 冷却水量はリザーブタンクで確認してください。ただし、リザーブタンクの冷却水量が急激に減ったとき、増えたときは、ラジエーターキャップを開け、ラジエーター本体の冷却水量を確認してください。
- エンジンの温度が高いとき、排気マニホールドに冷却水がかからないように注意してください。
  排気マニホールドを破損するおそれがあります。
- 冷却水量の変化が著しいときは《日産販売会社》で点検を受けてください。

冷却水の交換

ラジエーターキャップや冷却水路の洗浄も行います。また、ラジエーターやインタークーラーの清掃も行います。
交換は次の順序で行えますが、できるだけ《日産販売会社》で行ってください。

参照ページ
10-31 ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄

注 意

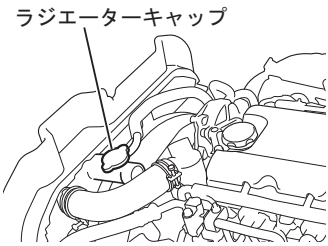
- **冷却水を排出後のラジエーターに水が入っていない状態でエンジンを始動しないでください。エンジンの焼き付きなどを起こす原因になります。**
- **冷却水の交換は手順に従い行ってください。正しい手順で交換が行われない場合、冷却水路にエアが残りエンジンがオーバーヒートする原因になります。**
- **ラジエーターキャップは 2 段階に回すダブルアクション式です。ラジエーターキャップの取り外し、取り付けは 2 段目まで確実に回してください。**

アドバイス

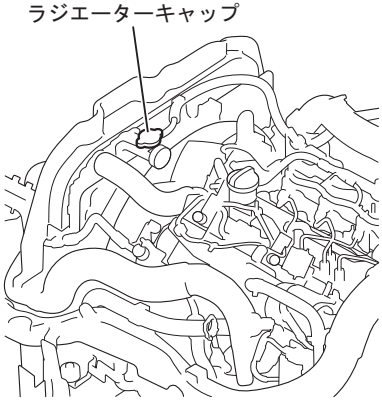
- ラジエーターのドレーンコック、ドレーンプラグは手で締め付けてください。プライヤーなどの工具で締め付けると破損します。
- ロングライフクーラント（LLC）は指定した物以外を使用すると腐食などによりエンジン寿命が短くなる場合があります。
- 排出した冷却水の廃棄･処理は規定の方法で行ってください。

排水のしかた

4JZ1 型エンジン車



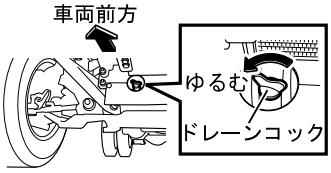
RZ4E 型エンジン車



1. エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。

⚠ 注 意

- **ラジエーターキャップは 2 段階に回すダブルアクション式です。ラジエーターキャップを取り外すときは 2 段目まで回してください。2 段目まで回りきっていない状態で外すと、ラジエーターキャップおよびラジエーターのフィラー部を破損させる原因になります。**

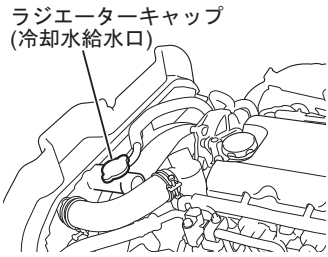


2. ラジエーターのドレーンコックを開けて、冷却水を排出します。リザーブタンクの冷却水も排出します。

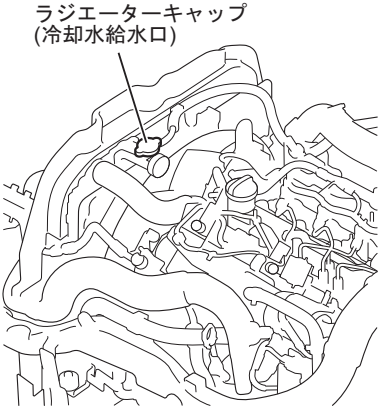
3. ラジエーターのドレーンコックを閉めます。

冷却水路の洗浄

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



1. ラジエーターに水道水を冷却水給水口の口元いっぱいまで給水します。

⚠ 注 意

- **水道水は、エアが混入しないように、ゆっくりと給水してください。**

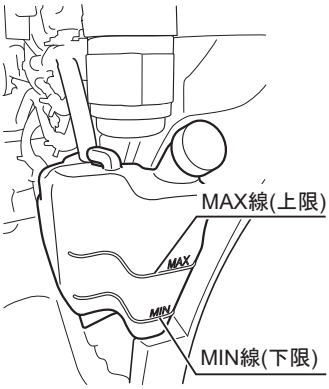
2. ラジエーターキャップを点検、清掃します。
キャップに異常がある場合はキャップを交換してください。

3. ラジエーターキャップを確実に取り付けます。

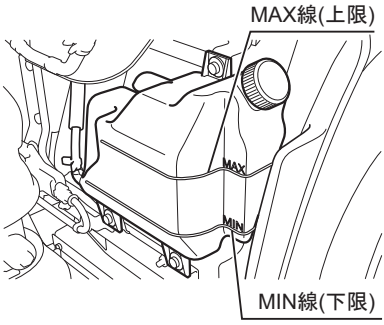
4. 冷却水は小さな亀裂からでも漏れる場合があるため、傷ついたホース類は交換してください。

5. 水道水をリザーブタンクの『MAX』線まで給水し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

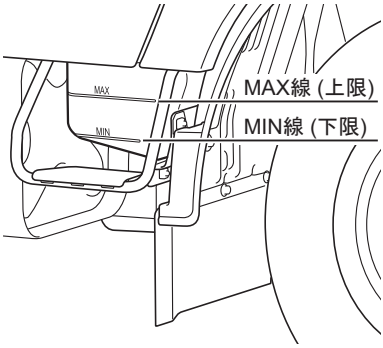
シングルキャブ・スペースキャブ車
（標準キャブ・ハイキャブ車）



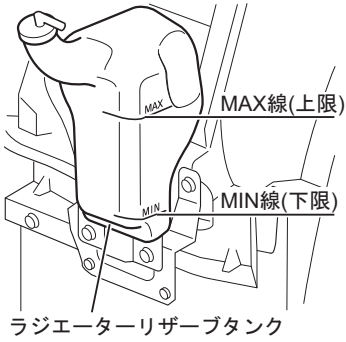
（ワイドキャブ車）



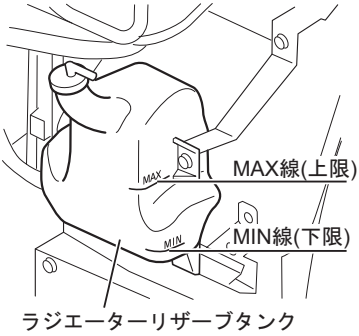
ダブルキャブ車
（標準キャブ車）



（ハイキャブ車）



（ワイドキャブ車）



6. エンジンを始動し、20 分間アイドリング運転させた後、エンジンを停止してエンジンが十分に冷えてから水道水を排水します。

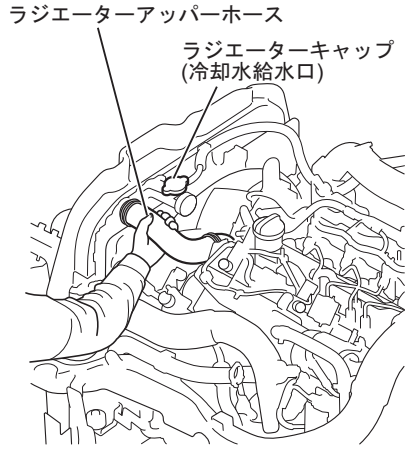
参照ページ
10-21 排水のしかた

給水のしかた

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



1. エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。

⚠ 注 意

- **ラジエーターキャップは 2 段階に回すダブルアクション式です。ラジエーターキャップを取り外すときは 2 段目まで回してください。2 段目まで回りきっていない状態で外すと、ラジエーターキャップおよびラジエーターのフィラー部を破損させる原因になります。**

2. RZ4E 型エンジン車は、ラジエーターのドレーンコックを締め付けます。

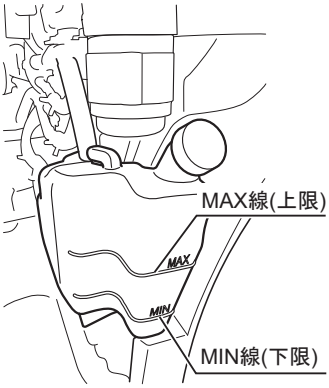
3. ラジエーターに冷却水を冷却水給水口の口元いっぱいまで給水します。

⚠ 注 意

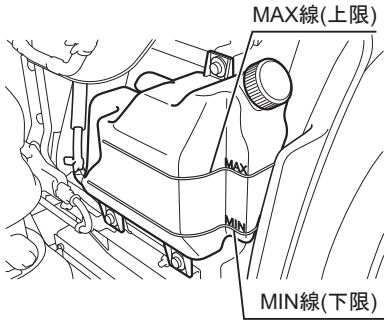
- **冷却水は、エアが混入しないように、ゆっくりと給水してください。**

4. ラジエーターアッパーホースを 2 ～ 3 回押します。
   押すことによりホース内のエアが抜け、冷却水位が下がった場合は、冷却水を冷却水給水口の口元まで補充してください。冷却水位が下がらなくなるまで、繰り返します。
5. ラジエーターキャップを確実に取り付けます。
6. 冷却水をリザーブタンクの『MAX』線まで給水し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

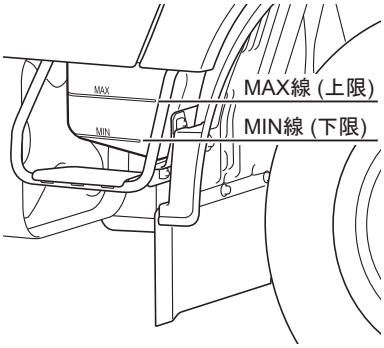
シングルキャブ・スペースキャブ車
（標準キャブ・ハイキャブ車）



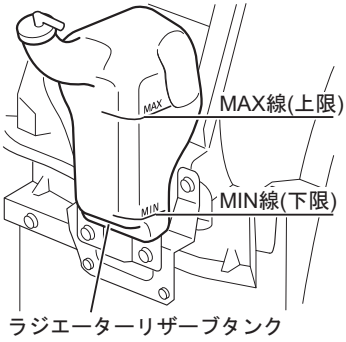
（ワイドキャブ車）



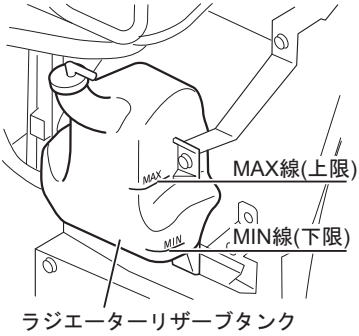
ダブルキャブ車
（標準キャブ車）



（ハイキャブ車）

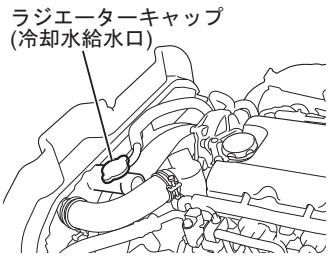


（ワイドキャブ車）

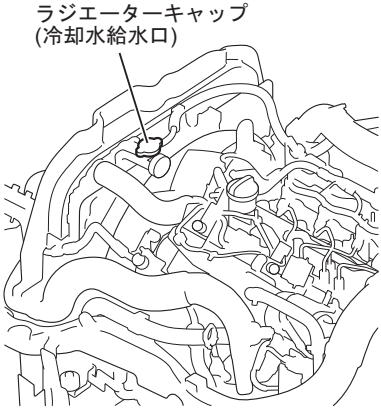


7. エンジンを始動し、5 分間以上アイドリング運転し、エンジンを停止します。

4JZ1 型エンジン車



RZ4E 型エンジン車



8. エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。
冷却水位が下がっている場合は、冷却水を冷却水給水口の口元まで補充してください。極端に不足している場合は、ラジエーター、冷却水路または、リザーブタンクホースから冷却水が漏れていないか点検してください。水漏れがあったときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

9. ラジエーターキャップを確実に取り付けます。

10. 水温計の針が中央に達しサーモスタットが開くまで暖機運転を行います。暖機促進のため、エアコンは OFF にしてください。
エンジンを始動し、エンジン回転を約 2,000r/min にします。水温計の針が中央に達してからさらに 5 分間エンジン回転を維持し、暖機運転を継続してください。
サーモスタットが開弁していることを以下の方法で確認してください。
- アッパーホースが熱くなっていること
- ヒーターを作動させ、温風がでること

11. 5 分間アイドリング運転を行い、エンジンを停止します。

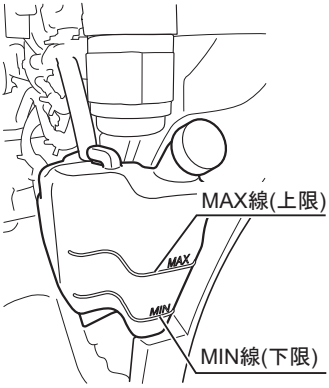
12. エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。
冷却水位が下がっている場合は、冷却水を冷却水給水口の口元まで補充してください。
極端に不足している場合は、ラジエーターから冷却水が漏れているか、冷却水路または、リザーブタンクホースの漏れを点検してください。水漏れがあったときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

13. 冷却水給水口の口元で冷却水位が下がらなくなるまで、手順 9~11 を繰り返します。

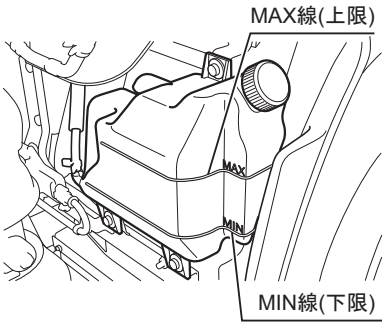
14. ラジエーターキャップを確実に取り付けます。

15. 冷却水をリザーブタンクの『MAX』線まで補充し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

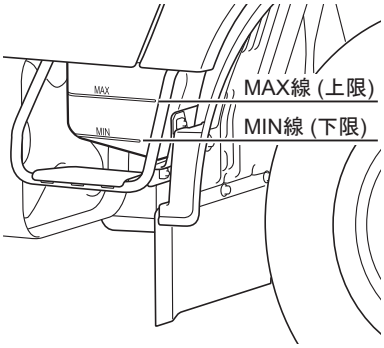
シングルキャブ・スペースキャブ車（標準キャブ・ハイキャブ車）



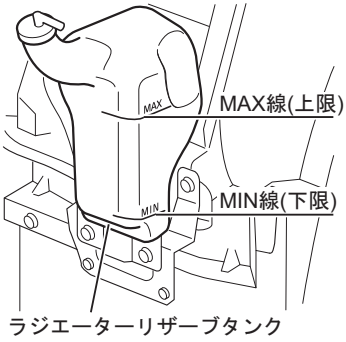
（ワイドキャブ車）



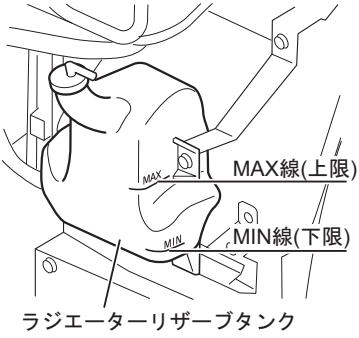
ダブルキャブ車
（標準キャブ車）



（ハイキャブ車）

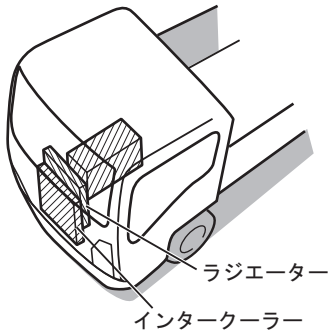


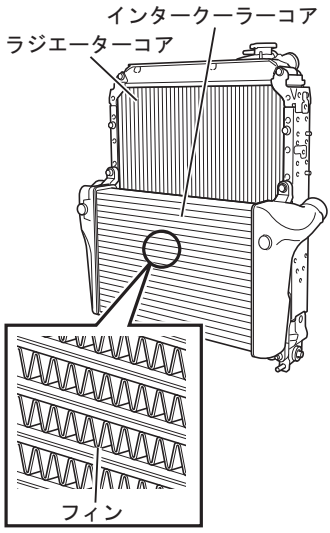
（ワイドキャブ車）



16. 翌朝、リザーブタンクの冷却水位を確認します。水位が下がっている場合は、冷却水をリザーブタンクの『MAX』線まで補充し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄





ラジエーターコアやインタークーラーコアが泥やほこりで汚れていると冷却性能が低下したり、コアの腐食原因になります。定期的に水道水で水洗いをしてください。

⚠ 警 告

- 洗浄をするときは、必ずエンジンを停止してスタータースイッチを『LOCK』位置にします。インテリジェントキー無車はスターターキーを抜き取り、インテリジェントキー付車はリモコンキーを作動範囲外に置いてから作業を行ってください。
- 運転直後のエンジン本体、排気管、ラジエーター等の各部は高温になっています。やけどをしないように注意してください。洗浄するときはエンジン等が冷えた状態で行ってください。

⚠ 注 意

- ラジエーターやインタークーラーおよび周辺部位を高圧洗浄しないでください。故障の原因になります。
- ラジエーターコアやインタークーラーコアを洗浄するときは、フィンなどをつぶしたり、傷つけたりしないでください。
- フィンは非常に弱いため、変形しないよう注意してください。フィンが変形すると冷却性能が低下します。
- 洗浄時は周辺の電装品や配線に水がかからないよう、処理をしてから洗浄してください。
- ラジエーターコアやインタークーラーコアを洗浄しても汚れが落ちないときは最寄りの《日産販売会社》で点検整備を受けてください。

ファンベルト

ファンベルトは、電気関係･補機類などにエンジンの駆動力を伝達させ、それぞれの機構を作動させる役割をしています。交換する場合は、《日産純正部品》を使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

ファンベルトの点検

参照ページ
9-11 ファンベルトの点検

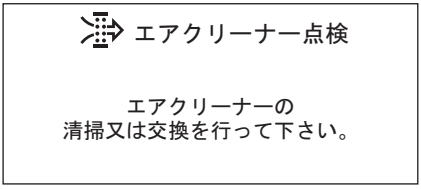
エアクリーナー

エアクリーナーは、エンジンに送る空気のゴミなどを取り除いてきれいにしています。エンジンの性能や寿命、燃費に大きな影響を与えますので《日産純正部品》を使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

エアクリーナーの警告・表示

エアクリーナエレメント（点検）警告



エアクリーナーエレメントの清掃時期が近づいたとき、メーターディスプレイに表示されます。
エレメントの清掃をしてください。

参照ページ
10-33 エアクリーナーの清掃･交換

知　識

- シートや幌は、エアインテークダクト（空気取り入れ口）を塞がないようゴムなどでしっかり固定してください。エアインテークダクト（空気取り入れ口）が塞がれると、空気を取り入れられなかったり、雨天時にシートや幌をつたって多量の雨水が入ることにより、「エアクリーナー点検」が表示されることがあります。

参照ページ
2-82 シートや幌は正しく固定していますか

エアクリーナーの点検

エレメントを取り出し、汚れによる詰まりがないかを点検します。

知　識

- 定期点検時にエレメントの汚れが少ない場合は、エレメントを清掃する必要はありません。

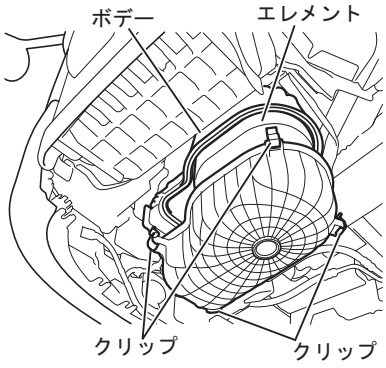
参照ページ
10-33 エアクリーナーの清掃･交換

エアクリーナーの清掃･交換

アドバイス

- 交換の際は、日産純正エレメントを使用してください。他の物を使用すると故障の原因となるおそれがあります。

標準キャブ・ハイキャブ車



1. クリップ 4 か所を外し、カバーを取り外します。
2. エレメントをボデーから取り外します。

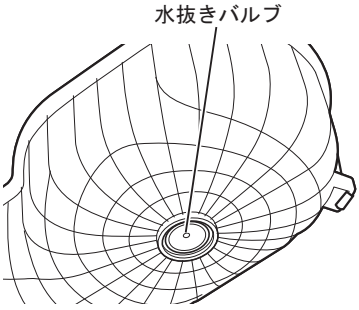


3. エレメントを清掃します。
エレメントの補強リブがある側から圧縮空気（空気圧は 690kPa {7kgf/cm^2} 以下）を吹き付けて、ほこりを落とします。汚れがひどいときはエレメントを交換してください。

アドバイス

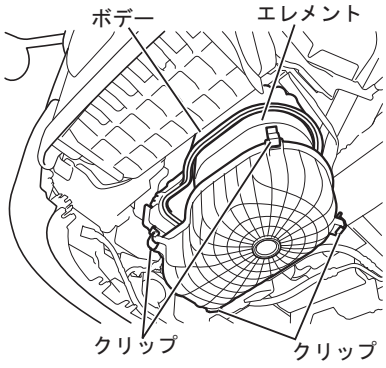
- エレメントは油煙（ススなど）で汚れていても水洗いはしないでください。
- 変形、破損するおそれがあるので、水で濡れたエレメントには触れないでください。点検、清掃は乾いてから行ってください。

4. カバーの汚れを取り除きます。



5. カバー下側の水抜きバルブを内側、外側とも清掃します。また、水抜きバルブの外周がカバーに密着しているか確認します。水抜きバルブが変形してすき間がある場合は、水抜きバルブを交換します。

6. エレメントを取り付けます。
エレメントは奥まで取り付け斜めになっていないか確認してください。

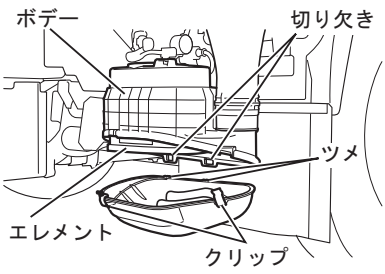


7. カバーを取り付けます。
クリップ（4 か所）を確実にかけてください。

アドバイス

- カバーが閉めにくいときは、エレメントが正しく取り付けてあるか確認してください。

ワイドキャブ車



1. クリップ 2 か所を外し、カバーを取り外します。
2. エレメントをボデーから取り外します。



3. エレメントを清掃します。
   エレメントの補強リブがある側から圧縮空気（空気圧は 690kPa {7kgf/cm^2} 以下）を吹き付けて、ほこりを落とします。汚れがひどいときはエレメントを交換してください。

アドバイス

- エレメントは油煙（ススなど）で汚れていても水洗いはしないでください。
- 変形、破損するおそれがあるので、水で濡れたエレメントには触れないでください。点検、清掃は乾いてから行ってください。

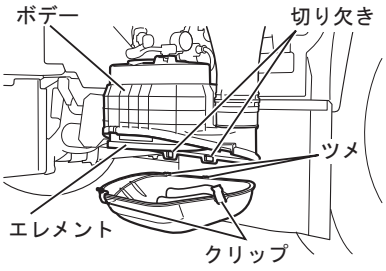
4. カバーの汚れを取り除きます。



5. カバー下側の水抜きバルブを内側、外側とも清掃します。また、水抜きバルブの外周がカバーに密着しているか確認します。水抜きバルブが変形してすき間がある場合は、水抜きバルブを交換します。



6. エレメントを取り付けます。
   エレメントは赤線までしっかりと取り付け、斜めになっていないか確認してください。





7. カバーを取り付けます。
取り付けるときは、カバーのツメとボデーの切り欠き部を合わせてから、クリップ（2 か所）を確実にかけてください。

アドバイス

- カバーが閉めにくいときは、エレメントが正しく取り付けてあるか確認してください。

知　識

- クリップをかけるときは、クリップの図の位置を押すと容易にかけることができます。

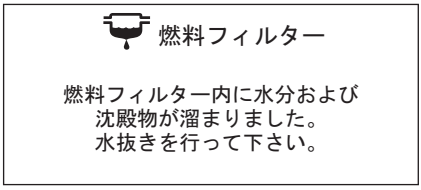
フューエルフィルター

フューエルフィルターは、燃料の中のゴミや水分などを取り除く役割をしています。エンジンの性能や寿命、燃費に大きな影響を与えますので《日産純正部品》を使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

フューエルフィルターの警告・表示

燃料フィルター（水抜き）警告



プレフューエルフィルター内に水がたまるとメーターディスプレイに表示されます。表示された場合は、水抜きを行い、表示が消えていることを確認してください。

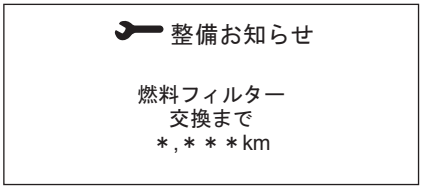
⚠ 注 意

- **水分を排出しないと、凍結などにより車を損傷させる原因となります。**
- **エンジン回転中に表示された場合は、ただちにプレフューエルフィルターの水抜きを行ってください。表示された状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプを破損するおそれがあります。ただちに《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。**

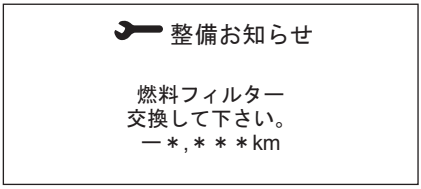
参照ページ
10-38 水抜きのしかた

燃料フィルター警告・表示

残距離



超過距離



フューエルフィルターの点検時期が近づいたときに表示し、フューエルフィルター交換までの残距離または、超過距離が表示されます。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「燃料フィルター 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

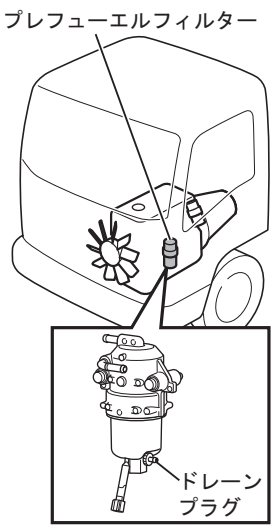
参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-41 フューエルフィルターの交換

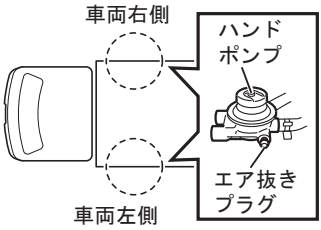
水抜きのしかた

注　意

- 燃料が車体などに付着した場合はきれいにふき取ってください。
- 水を抜いた直後のエンジンの始動は通常より多少時間がかかります。10 秒以内で始動しない場合は少し時間をおき、再始動してください。
- 排出された水には燃料が含まれているため、廃棄、処理の際は規定の方法で行ってください。

4JZ1 型エンジン車





1. プレフューエルフィルター下部のドレーンプラグをゆるめ、ハンドポンプを上下に手で 10 ～ 20 回作動させます。このときドレーンプラグより水と若干の燃料が出て来ます。ハンドポンプのエア抜きプラグはゆるめないでください。

知　識

- ハンドポンプは車両の仕様に応じて、車両の左右どちらかに搭載されています。

2. ドレーンプラグを確実に締め付け、再びハンドポンプを数回作動させます。

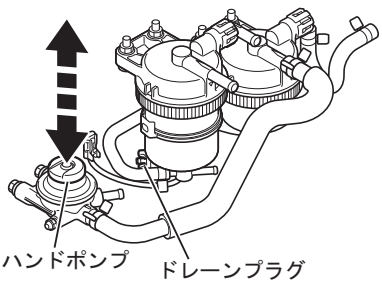
3. エンジン始動後にドレーンプラグから燃料漏れのないこと、『燃料フィルター（水抜き）』が消えていることを確認してください。

参照ページ
10-37 燃料フィルター（水抜き）警告

⚠ 注　意

- **燃料が車体などに付着した場合はきれいにふき取ってください。**
- **水を抜いた直後のエンジンの始動は通常より多少時間がかかります。10 秒以内で始動しない場合は少し時間をおき、再始動してください。**

RZ4E 型エンジン車



プレフューエルフィルター

1. 燃料受け皿を準備し、ホースをドレーンプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。
2. ドレーンプラグをゆるめ、ハンドポンプを 10 ～ 20 回作動させます。

知　識

- ドレーンプラグから燃料がほとんど排出されない場合は、ドレーンプラグを外すことで燃料を排出できます。

3. ドレーンプラグを締め、ハンドポンプを数回作動させます。
4. エンジン始動後にドレーンプラグから燃料漏れのないこと、『燃料フィルター（水抜き）』が消えていることを確認してください。

フューエルフィルターの交換

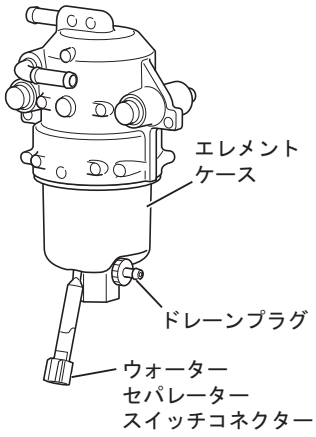
警 告

- **エレメントケース取り付け時、O- リングをかみ込ませないように注意してください。O- リングをかみ込ませると燃料漏れの原因になります。また、交換後は、エンジンの試運転を行い、フィルターまわりから燃料漏れのないことを確認してください。燃料漏れは火災の原因になります。**

アドバイス

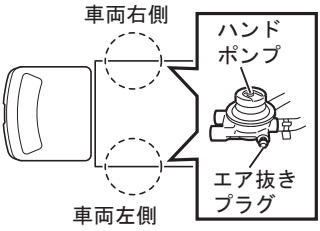
- フィルター交換時はパッキンも同時に交換してください。
- 交換したフィルターの廃棄･処理は規定の方法で行ってください。

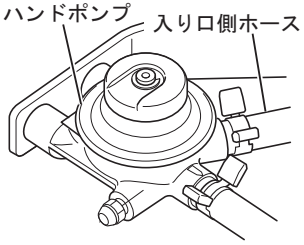
4JZ1 型エンジン車



プレフューエルフィルター

1. エレメントケースの底部にあるドレーンプラグをゆるめます。





2. クリップを外し、ハンドポンプの入り口側のホースを外します。

知　識

- ハンドポンプは車両の仕様に応じて、車両の左右どちらかに搭載されています。

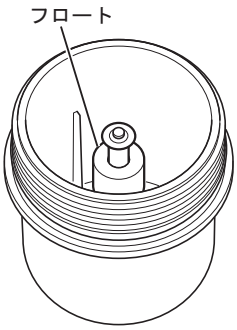
3. ハンドポンプを数回押すと、エレメントケース内の燃料がドレーンプラグから排出されます。

4. ハンドポンプの入り口側のホースを取り付けます。

アドバイス

- ホースに黄色印（丸印 / 長方形印）がある場合は、印を車両の上方に向けて取り付けてください。

5. ウォーターセパレータースイッチコネクターを外します。



6. エレメントケースの底部の六角部分を工具（ソケットレンチ等：27mm）を使用して反時計回りにゆるめてエレメントケースを取り外します。

アドバイス

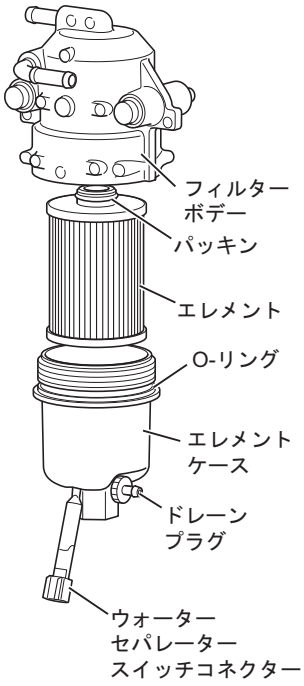
- エレメントケース内の底部にあるフロートがスムーズに動くことを確認してください。
- ウォーターセパレータースイッチコネクターを接続してエレメントケースを逆さまにし、『燃料フィルター（水抜き）』が表示されることを確認します。
- エレメントケース内の底部に異物や汚れ等ある場合は清掃してください。

参照ページ
10-37 燃料フィルター（水抜き）警告

7. エレメントを下に引き抜き、O- リングを取り外します。
フィルターボデー内周面に異物が堆積している場合、きれいな布等でふき取ります。

アドバイス

- 異物の清掃はエアブロー等はしないで、きれいな布でふき取ってください。エアブローによって異物が燃料通路に入るとエンジンが故障するおそれがあります。



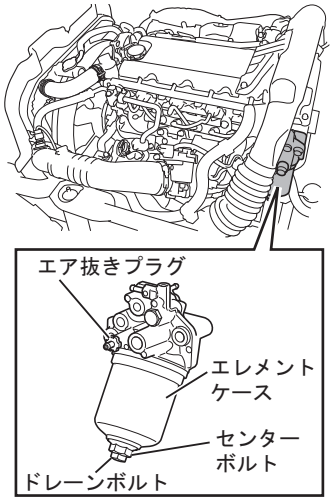
8. ねじ部で傷つけないように注意しながら新品の O- リングをエレメントケースに取り付けます。
9. 新品のエレメントのパッキンにきれいな軽油を薄く塗布してフィルターボデーに突きあたるまで挿入します。
10. エレメントケースの O- リング部にきれいな軽油を薄く塗布してフィルターボデーに突きあたるまで時計方向に回します。
    エレメントケースが突きあたらない場合はエレメントの挿入が不十分なのでエレメントを回しながら再度挿入します。
11. エレメントケースを取り付けます。

エレメントケース締付けトルク
33N・m {3.4kgf・m}

12. ドレーンプラグを締め付け、ウォーターセパレータースイッチコネクターを接続します。
13. 燃料のエア抜きを行います。

参照ページ
10-52 エア抜きのしかた

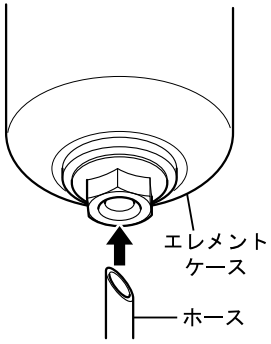
フューエルフィルター



知　識

- ドレーンボルトを外しただけでは燃料は排出できません。
- 燃料を排出する際に、ホースが必要となります。外径が 8mm のホースを準備してください。
- ホースは、フューエルフィルターから受け皿までとどく長さを準備してください。
- ホースの先端を斜めにカットすると燃料の排出が容易になります。

1. エレメントケースの底部にあるドレーンボルトを外します。



2. ドレーンボルトを外した穴にホースを差し込み、ホースの反対側に受け皿を置きます。

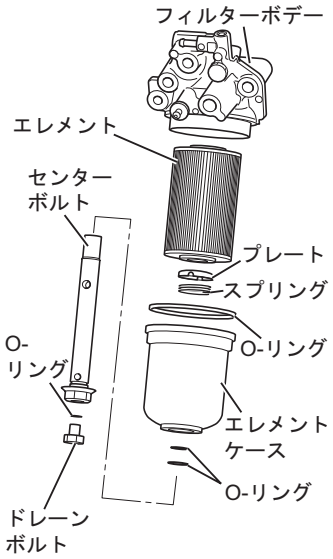
3. エア抜きプラグをゆるめ、燃料を排出します。

4. センターボルトをゆるめ、エレメントケースとエレメントを外します。

5. フィルターボデー内周面やセンターボルトに異物が付着している場合、きれいな布等でふき取ります。

アドバイス

- 異物の清掃はエアブロー等はしないで、きれいな布でふき取ってください。エアブローによって異物が燃料通路に入るとエンジンが故障するおそれがあります。



6. 新品のエレメントを取り付けます。O-リングも同時に交換してください。O-リングには、きれいな軽油を薄く塗布して組み付けます。

7. センターボルト、ドレーンボルトを規定のトルクで締め付けます。

センターボルト締付けトルク
45N・m {4.6kgf・m}

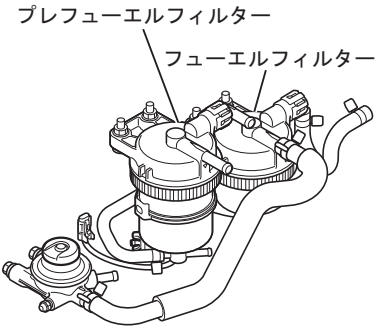
ドレーンボルト締付けトルク
25N・m {2.5kgf・m}

8. エア抜きプラグはフィルターボデーとのすき間がなくなるまで締め付けます。

9. 燃料のエア抜きを行います。

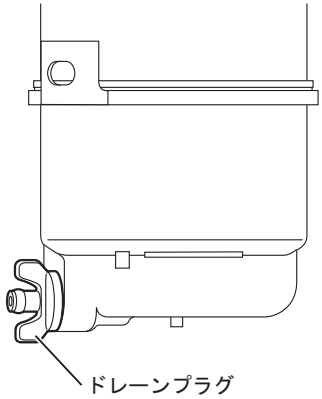
参照ページ
10-52 エア抜きのしかた

RZ4E 型エンジン車



フューエルフィルターとプレフューエルフィルターの 2 つを装着しています。交換するときは両方のフィルターを同時に交換してください。車種によりフューエルフィルターの位置や向きが異なります。

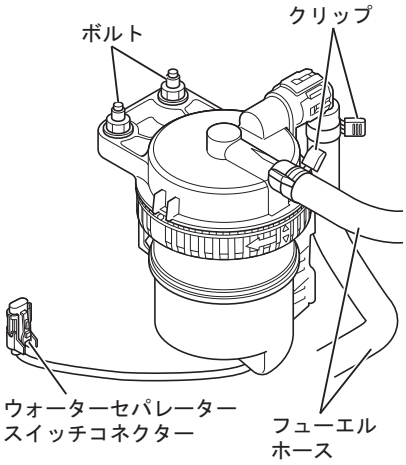
プレフューエルフィルター



1. 燃料受け皿を準備し、ホースをドレーンプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。
2. ドレーンプラグをゆるめて燃料を排出します。排出後はドレーンプラグを締めてください。

知　識

- ドレーンプラグから燃料がほとんど排出されない場合は、ドレーンプラグを外すことで燃料を排出できます。

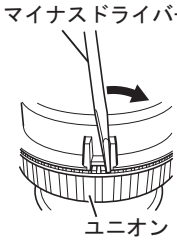


3. フィルターボデーに接続されているフューエルホースのクリップをつまみ、フューエルホースを取り外します。

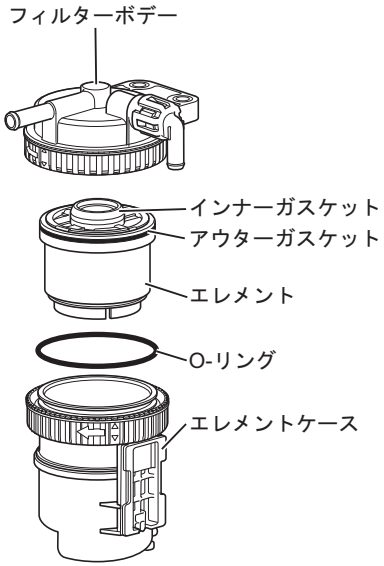
注　意

- **フューエルホース内に異物が入らないようにしてください。異物が侵入するとエンジンが損傷する恐れがあります。**

4. ウォーターセパレータースイッチコネクターを外し、取り付けボルトをゆるめ、プレフューエルフィルターを取り外します。



5. フィルターボデーの溝にマイナスドライバーを差し込み、ユニオンを回して軽くゆるめます。その後、ユニオンを手で回して途中までゆるめます。



6. ユニオンをさらにゆるめ、エレメントケースを取り外します。次にエレメントを取り外します。

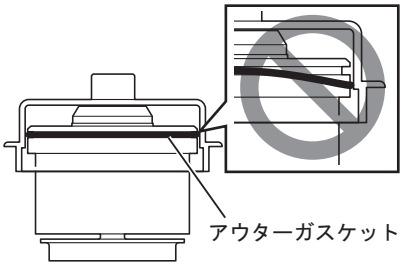
7. エレメントケースから O- リングを取り外します。

8. フィルターボデー内周面に異物が堆積している場合、きれいな布等でふき取ります。また、エレメントケース内の異物や汚れも清掃してください。

⚠ 注 意

- **異物の清掃はエアブロー等はしないで、きれいな布でふき取ってください。エアブローによって異物が燃料通路に入るとエンジンが故障するおそれがあります。**

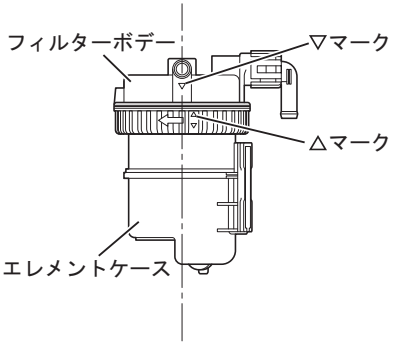
9. 新品の O- リングをエレメントケースに取り付け、O- リングに軽油を薄く塗布します。



10. 新しいエレメントのインナーガスケットとアウターガスケットに軽油を薄く塗布します。
エレメントをエレメントケースに挿入します。

⚠ 注 意

- **エレメントをエレメントケースに挿入した後、アウターガスケットがエレメントの溝に確実にはまり込んでいることを確認してください。取り付けが不完全な場合、燃料通路内に異物が侵入し、エンジンが損傷するおそれがあります。**



11. エレメントを手で押さえながら、エレメントケースをフィルターボデーに取り付けます。
フィルターボデーとエレメントケースを図の位置まで合わせた後、フィルターボデーとエレメントケースを持ちながら、フィルターボデーのツメをエレメントケースの切り欠きに合わせてユニオンを途中まで締め付けます。

12. ユニオンの △ マークがフィルターボデーの ▽ マークの右側に来るまでユニオンを締め付けてください。

13. プレフューエルフィルターをボルトとナットで取り付けます。

プレフューエルフィルター締付けトルク
13.7 - 23.5 N·m (1.4 - 2.4 kgf·m)

14. フューエルホースをフィルターボデーに接続します。

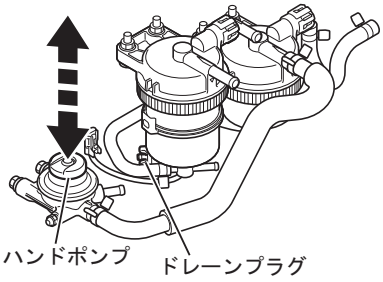
⚠ 警 告

- **フューエルホースに亀裂等の破損がないか確認してください。フューエルホースに亀裂等の破損がある場合は、速やかに最寄りの≪日産販売会社≫で点検を受けてください。**

15. 燃料のエア抜きを行います。

参照ページ
10-52 エア抜きのしかた

フューエルフィルター

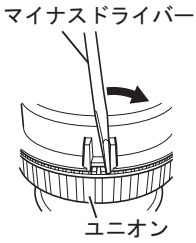


1. 燃料受け皿を準備し、ホースをドレーンプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。

2. ドレーンプラグをゆるめて燃料を排出します。排出後はドレーンプラグを締めてください。

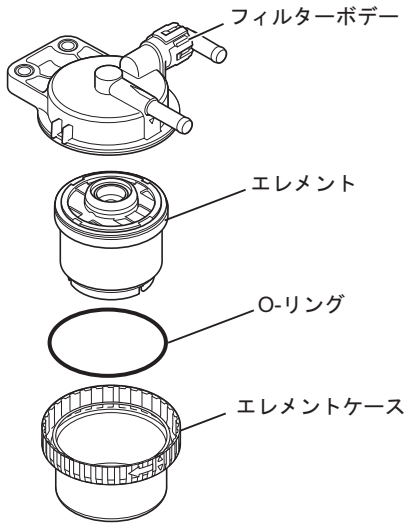
知　識

- ドレーンプラグから燃料がほとんど排出されない場合は、ドレーンプラグを外すことで燃料を排出できます。



3. フィルターボデーの溝にマイナスドライバーを差し込み、ユニオンを回して軽くゆるめます。その後、ユニオンを手で回して途中までゆるめます。

4. ユニオンを手で回してフィルターボデーを引き抜きます。
このとき、フィルターボデーとエレメントケースの合わせ位置を確認してください。



5. フィルターボデーからエレメントを取り外します。

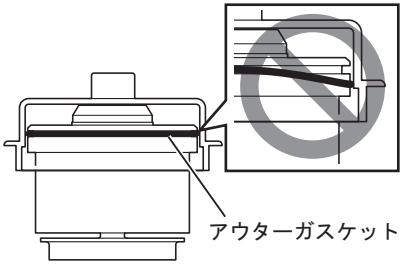
6. エレメントケースから O- リングを取り外します。

7. フィルターボデー内周面に異物が堆積している場合、きれいな布等でふき取ります。また、エレメントケース内の異物や汚れも清掃してください。エレメントケース内の底部にあるフロートがスムーズに動くことを確認してください。

⚠ 注 意

- **異物の清掃はエアブロー等はしないで、きれいな布等でふき取ってください。エアブローによって異物が燃料通路に入るとエンジンが故障するおそれがあります。**

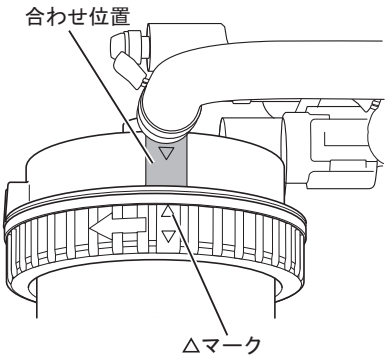
8. 新品の O- リングをエレメントケースに取り付け、O- リングに軽油を薄く塗布します。



9. 新しいエレメントのインナーガスケットとアウターガスケットに軽油を薄く塗布し、エレメントをフィルターボデーに挿入します。

⚠ 注 意

- **エレメントをフィルタボデーに挿入した後、アウターガスケットがエレメントの溝に確実にはまり込んでいることを確認してください。取り付けが不完全な場合、燃料通路内に異物が侵入し、エンジンが損傷する恐れがあります。**



10. エレメントを手で押さえながら、エレメントケースをフィルターボデーに取り付けます。フィルターボデーとエレメントケースの位置を合わせた後、フィルターボデーのツメをエレメントケースの切り欠きに合わせ、ホース接続部の右側にユニオンの △ マークが来るまでユニオンを締め付けてください。

11. 燃料のエア抜きを行います。

参照ページ
10-52 エア抜きのしかた

12. エンジンを始動し、フューエルフィルターからの燃料漏れがないことを確認してください。

⚠ 警 告

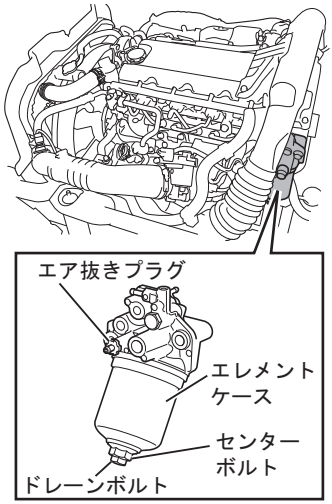
- **フューエルホースに亀裂等の破損がないか確認してください。フューエルホースに亀裂等の破損がある場合は、速やかに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。**

エア抜きのしかた

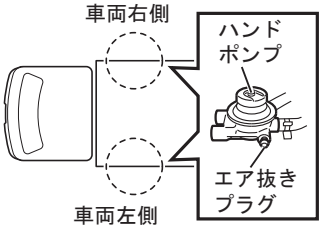
アドバイス

- エア抜き作業が不十分なときには、エンジン不調になるおそれがありますのでエンジン始動後の手順を必ず実施してください。

4JZ1 型エンジン車



1. フューエルフィルターのエア抜きプラグ部の下に燃料受け皿を準備し、透明なホース等をエア抜きプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。エア抜きプラグを十分にゆるめます。



2. フューエルフィルターのエア抜きプラグ部からエア混じりの燃料が出なくなるまでハンドポンプを 20 回以上上下に動かします。

知　識

- ハンドポンプは車両の仕様に応じて、車両の左右どちらかに搭載されています。

3. フューエルフィルターのエア抜きプラグを十分に締め付け、プラグ部周辺に付着した燃料をきれいにふき取ります。

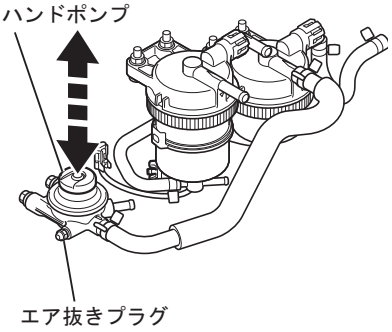
4. 更にハンドポンプを重くなるまで上下させ、燃料系統のエアを燃料噴射ポンプへ送ります。

5. アクセルペダルは踏まずにスターターを回し、エンジンを始動させます。

6. エンジン始動後、アイドリング回転を 5 秒間保持します。

7. アクセルペダルをいっぱいに踏み込み、最高回転まで吹き上げます。
（この操作を数回繰り返してください。）
8. 燃料漏れがないことを確認します。

RZ4E 型エンジン車



エンジン始動前

1. ハンドポンプのエア抜きプラグ部の下に燃料受け皿を準備し、エア抜きプラグのゴムキャップを取り外します。透明なホース等をエア抜きプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。エア抜きプラグを十分にゆるめます。
2. ハンドポンプの作動力が強くなるまで、ハンドポンプを作動させてエア抜きを行ってください。
3. ハンドポンプのエア抜きプラグを十分に締め付け、プラグ部周辺に付着した燃料をきれいにふき取ります。

エア抜きプラグ締付けトルク
7.5N・m {0.76kgf・m}

4. 更にハンドポンプを重くなるまで上下させ、燃料系統のエアを燃料噴射ポンプへ送ります。
5. アクセルペダルを踏まずにスタースイッチを回し、エンジンを始動します。

参照ページ
4-46 エンジンの始動方法

6. エンジンが始動できない場合は、手順 1 からやり直してください。

エンジン始動後

1. エンジン始動後、1 分間アイドリング状態を維持してください。アイドリング時にエンジンが止まった場合は、手順 3 を行ってから再度エンジンを始動してください。
2. アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとエンジン回転数が上がります。エンジン回転数が最高速度に達したら、すぐにアクセルペダルを放し、アイドル状態に戻してください。この操作を 3 回繰り返します。

アドバイス

- エア抜き作業が不十分なときには、エンジン不調になるおそれがありますのでエンジン始動後の手順を必ず実施してください。

DPD（ディーゼル･パティキュレート･ディフューザー）

DPD は排気ガス中の PM（粒子状物質）を浄化するものです。DPD の性能を維持するために、定期的に点検、清掃を行う必要があります。これは、燃焼により除去できる PM とは別にアッシュ（灰）がフィルター内に堆積していくためです。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

DPD の点検、清掃

排気圧力と配管の点検を《日産販売会社》で行ってください。点検結果によってはフィルターや配管の清掃が必要となります。

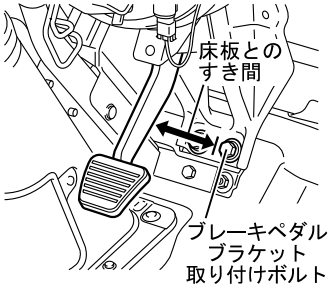
アドバイス

- 点検、清掃が行われない場合、DPD およびエンジンの故障、燃費の悪化や再生頻度が増加する原因となります。
- アッシュ（灰）は、主にエンジンオイルの添加剤成分から生成されます。アッシュ（灰）の生成を最小限に抑えるためにも、日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 を使用してください。日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 以外を使用すると DPD フィルターの清掃までの期間が短くなるおそれがあります。

シャシ関連の整備・手入れ

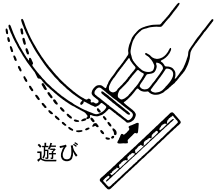
ブレーキ

ブレーキペダルの踏みしろ（遊び量）の点検



ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで軽く押し、遊びの量を点検します。次にエンジンを始動し、ブレーキペダルを力強く（約 490N {約 50kgf} の力で）踏んだときの床板とのすき間（ブレーキペダルブラケット取り付けボルト 2 本の中間位置からブレーキペダルアームまで）を点検します。

ブレーキペダルの遊び
3 ～ 7mm



キャブ仕様	ブレーキ仕様	車両最大許容総重量	踏み込んだときの床板とのすき間
標準キャブ	前輪ディスク / 後輪ドラムブレーキ	ー	25mm 以上
	4 輪ディスクブレーキ	5.0 トン以下	20mm 以上
		6.0 トン以上	35mm 以上
ハイキャブ（消防車を除く）	4 輪ディスクブレーキ	5.0 トン以下	35mm 以上
		6.0 トン以上	45mm 以上
ハイキャブ（消防車）	4 輪ディスクブレーキ	ー	45mm 以上
ワイドキャブ	4 輪ディスクブレーキ	ー	45mm 以上

知　識

- 遊びを点検するときには、エンジンを停止し、ペダルを 4 ～ 5 回繰り返し踏み込んでから行ってください。

ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合の点検

参照ページ
9-23 ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合の点検

ブレーキフルード

ブレーキフルードは、ブレーキをスムーズに作動させるオイルです。交換する場合は指定オイルを使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

⚠ 警 告

- ブレーキフルードが著しく減っているときは、配管からの漏れが考えられます。液漏れの有無を点検して、液漏れがあるときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- ブレーキフルードは吸湿性が強いので、点検、補給時や保管中に水分が混入しないようにしてください。水分が混入するとブレーキフルードの沸点が低下しベーパーロックの発生原因になり、ブレーキの効き不良を起こし、非常に危険です。
- エンジンオイル、ギヤオイルなど他のオイルを混入させないでください。ブレーキ機能の低下や機構の損傷の原因になり、非常に危険です。

⚠ 注 意

- 補給のとき、ゴミや水がタンクの中に入らないよう注意してください。ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- ブレーキフルードを塗装面や皮ふに付着させないように注意してください。もし付着したり、こぼした場合は、水で洗い流し、早くふき取ってください。
- ブレーキフルードの減りが著しい場合は、ブレーキ系統の故障やパッドの摩耗あるいはクラッチ系統の故障が考えられます。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

アドバイス

- ブレーキフルードは塗装やプラスチック、ビニール、ゴムなどを溶解したり、金属を腐食させる性質が強いので、こぼしたときはすぐにふき取り、よく水洗いをしてください。

ブレーキフルードの点検

参照ページ
9-18 ブレーキフルードの点検

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは停車中の車両を駐車させ、タイヤをロックする役割をしています。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

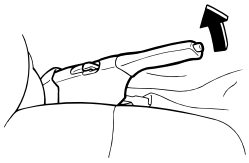
参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

パーキングブレーキレバーの引きしろ

参照ページ
9-21 パーキングブレーキレバーの引きしろの点検

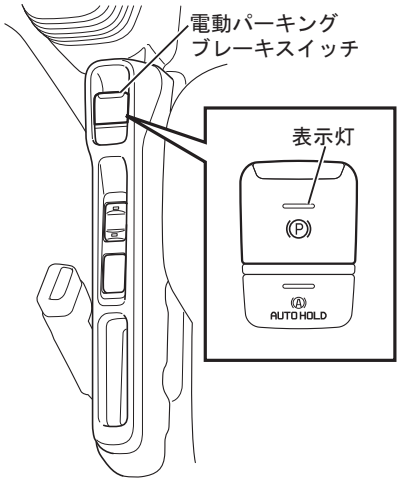
パーキングブレーキの効き具合

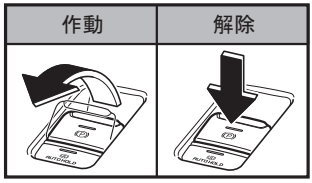
除く電動パーキングブレーキ付車



乾燥した坂道で停止状態が保持できるかを点検します。坂道のない場合は、低速状態でパーキングブレーキレバーを引き、効き具合を点検してください。

電動パーキングブレーキ付車





1. 引きしろの点検を行います。

知　識

- パーキングブレーキの効き具合は、引きしろの点検とあわせて行ってください。

参照ページ
9-21 パーキングブレーキレバーの引きしろの点検

2. 乾燥した坂道で停止状態が保持できるかを点検します。坂道がない場合は、以下の方法でパーキングブレーキが効いていることを確認してください。
- マニュアルトランスミッション車は、パーキングブレーキをかけた状態でギヤを入れ、ゆっくりとブレーキペダル、クラッチペダルの順に離します。
- デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、パーキングブレーキをかけた状態でシフトレバーを『D』位置に入れ、ゆっくりとブレーキペダルを離します。

⚠ 注　意

- **パーキングブレーキの効き具合を確認する際は、車両が急に動き出さないように注意しながら実施してください。車両が動き出すと思わぬ事故に繋がります。**
- **電動パーキングブレーキは自動解除機能を備えているため、点検時にはアクセルペダルを踏み込まないでください。アクセルペダルの踏み込みによって自動解除機能が作動します。またパーキングブレーキの点検をする際は必ず輪止めを装着して実施してください。意図しない解除によって思わぬ事故に繋がります。**

参照ページ
4-74 電動パーキングブレーキの自動作動と自動解除

ディスクブレーキ★

ブレーキパッドとローターのすき間は自動的に調整されます。
ブレーキパッドが摩耗して、ローターとのすき間が大きくなると、ブレーキの効きが悪くなります。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

警 告

- **ブレーキパッドの使用限度を超えたまま走行しないでください。ブレーキ部品の破損の原因になり、またブレーキの効きが悪くなり危険です。**

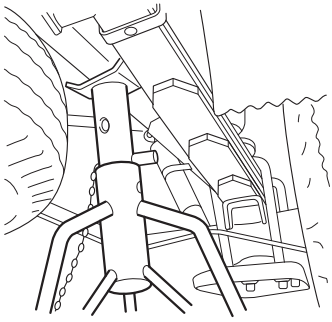
アドバイス

- ブレーキパッドには摩耗インジケーターがついています。ブレーキパッドが交換時期まで摩耗すると、インジケーターからキーキー音が発生します。走行中にブレーキからキーキー音がした場合は、ただちに《日産販売会社》へご連絡ください。

ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキパッドとローターのすき間は自動的に調整されます。
キーキー音がしていなくても、ブレーキパッドの摩耗状態の点検は以下の方法で行ってください。

取り外し



1. パーキングブレーキを効かせ、タイヤに輪止めをします。

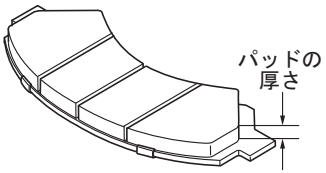
参照ページ
4-68 パーキングブレーキ★
4-71 電動パーキングブレーキ★

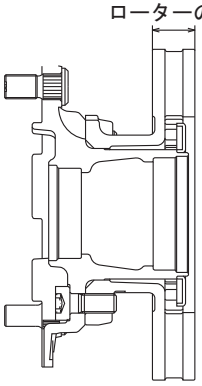
2. タイヤが浮き上がらない程度までジャッキアップを行います。
3. スタンド（ウマ）で車両を支えてください。

4. タイヤを取り外します。

参照ページ
10-66 タイヤの取り外し

5. ブレーキパッドおよびローターの厚さを点検します。





ブレーキサイズ（直径 × 厚さ）	ローターの厚さ		パッドの厚さ	
	基準値	限度値	基準値	限度値
φ 275× 30mm	30.0 mm	28.0 mm	14.0 mm	1.0 mm
φ 293× 40mm	40.0 mm	37.0 mm	13.0 mm	1.0 mm
φ 310×42mm	42.0 mm	39.0 mm	13.0 mm	1.0 mm

ドラムブレーキ★

ライニングとドラムのすき間は自動的に調整されます。
ブレーキライニングが摩耗して、ドラムとのすき間が大きくなると、ブレーキの効きが悪くなります。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

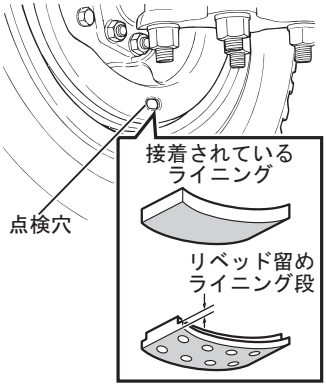
警 告

- **ブレーキライニングの使用限度を超えたまま走行しないでください。ブレーキ部品の破損の原因になり、またブレーキの効きが悪くなり危険です。**
- **ブレーキドラムとライニングのすき間が大きすぎると、ブレーキの効き不良を起こし、小さすぎると過熱してフェード現象により効きが悪くなり、また発火するおそれがあり危険です。**

ブレーキライニングの摩耗の点検

アドバイス

- ライニングギャップが十分にない場合、ライニング側面にひび割れなどの損傷がある場合またはライニング端面の段差の残り代が基準値から外れる場合は最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。



ドラムとライニングのすき間は自動的に調整されます。
定期的な点検は以下の方法で行ってください。

1. ブレーキバックプレートの点検穴のゴム栓を取り外します。
2. 点検穴からシックネスゲージをブレーキドラムとブレーキライニングの間に入れ、すき間が十分にあるか点検します。
3. ブレーキライニングの側面にひび割れなどの損傷がないかを、全周にわたり点検します。
4. ブレーキライニング側面の段差の残り代が基準値以上に残っているか点検します。

基準値
1 mm

タイヤ

タイヤは、お車の安全で快適な走行を支える大切なものです。タイヤの脱落は、路上故障や他の交通の妨げとなるばかりでなく、場合によっては重大な事故を引き起こすことがあります。日頃から、正しい点検･整備を必ず行ってください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

⚠ 警 告

- ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイール、ハブなどに異常を発見した場合は、そのまま走行せずに、ただちに《日産販売会社》にご連絡ください。
- 左タイヤに異常があった場合は、右タイヤも入念に点検を行うなど、異常が発見された場合はその他のタイヤの点検も確実に行ってください。

タイヤの点検

参照ページ
9-12 タイヤの点検

タイヤのローテーション

タイヤは取り付け位置によりそれぞれ異なった摩耗をします。摩耗を均一にし寿命を延ばすために定期的に位置交換をします。

⚠ 警 告

- 前後が異なるサイズのタイヤを使用している車両では前後タイヤ間のローテーションは行わないでください。タイヤの許容限度を超えた荷重がかかりタイヤ、ディスクホイール等が故障する原因となり危険です。
- ディスクホイールを取り外した際は、ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイールなどの関連部品に異常がないか必ず点検してください。
- ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイール、ハブなどに異常を発見した場合は、そのまま走行せずに、ただちに《日産販売会社》にご連絡ください。車輪脱落事故などの原因となります。
- ディスクホイール取り付け後の走行による初期なじみにより、ディスクホイールの締め付け力が低下します。取り付け後、50 ～ 100km 走行を目安に、ホイールナットの増し締めを行ってください。

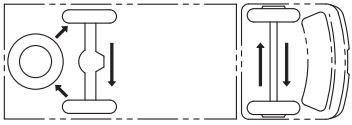
参照ページ
10-71 ホイールナットの増し締め

知　識

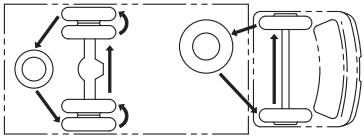
【タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車】
・タイヤ空気圧センサーはスペアタイヤにも取り付けられています。

スペアタイヤも含め摩耗を均一にして寿命を伸ばすため、約 9,000km（ワイドロー車は約 6,000km）走行ごとに図のようにタイヤの取り付け位置の入れ換えを行ってください。ラグタイヤや冬用タイヤを使用している場合は、入れ換えの時期をできるだけ短縮して行ってください。また、ローテーションを行ったときは、タイヤの空気圧もチェックしてください。

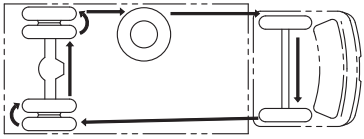
【シングルタイヤ(AJR)車】



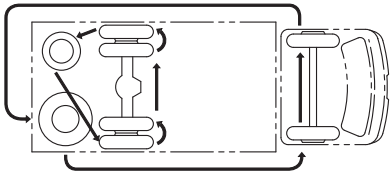
【標準フラットロー】



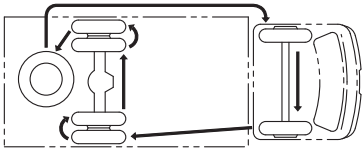
【スペアタイヤ横吊りタイプ車】



【ロング系フラットロー車】



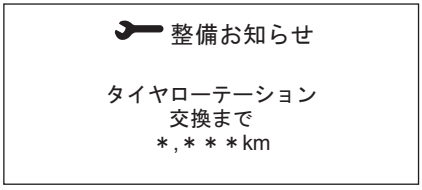
【スペアタイヤ後吊りタイプ車】



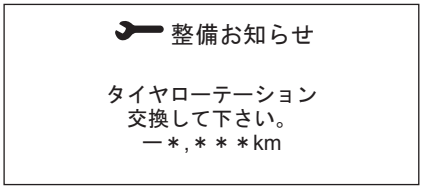
タイヤのローテーションの警告・表示

タイヤ交換（ローテーション）警告・表示

残距離



超過距離



タイヤローテーション時期が近づいたときに表示し、タイヤ交換・ローテーション時期までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「タイヤローテーション 交換して下さい。」が表示されたときは、タイヤ交換またはローテーションを行ってください。

知　識

- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-63 タイヤのローテーション

タイヤの交換

警 告

- **タイヤ、ホイールを交換するときは《日産販売会社》にご相談ください。専用以外のホイールの使用、種類の違うタイヤを混ぜての使用、指定サイズ以外のタイヤの使用、または交換する際にタイヤ、ディスクホイールの点検を怠ると思わぬ事故や車の安全走行に悪影響をおよぼします。**

アドバイス

【タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車】

- タイヤ空気圧センサーはホイールの内側に取り付けられています。センサーが装着されていないタイヤに交換する場合は、センサーを取り付け直す必要があります。最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
- タイヤ空気圧センサー付きタイヤを交換する場合は、交換後一定時間走行すると自動で位置学習を行うため、センサーの再設定は不要です。

タイヤの取り外し

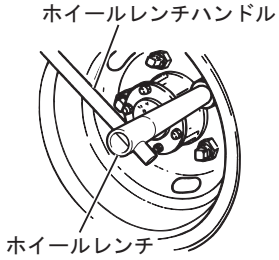
警 告

- **ジャッキアップは、『ジャッキ』を参照し適切に行います。**
- **取り出したスペアタイヤはジャッキが外れたときの危険防止のため、ジャッキ近くの車体の下に置いてください。**

参照ページ
7-15 ジャッキ

⚠ 注 意

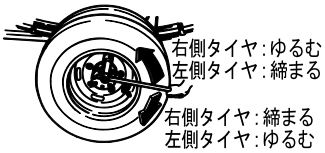
- **運転直後の排気管やマフラーは高温となっているため触れないように注意してください。**
- **タイヤは非常に重いので脱着のときはケガをしないようにしてください。**
- **右側タイヤは右ねじ、左側タイヤは左ねじです。ホイールボルト、インナーホイールナットに表示しているねじの方向『R』マーク、『L』マークを確認してください。**
- **誤ってゆるめるつもりで勢いをつけて締めるなどすると過締め付けとなり、ホイールボルトが伸びたり、ディスクホイールのホイールナットあたり面を傷めたりします。**

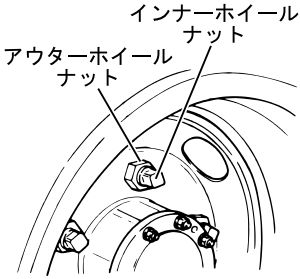


1. 標準キャブ車の組み立て式ホイールレンチハンドルは、ハンドルを組み立てます。

参照ページ
7-9 ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドルの組み立て

2. フロントタイヤを取り外すときは、パーキングブレーキを効かせ、リヤタイヤに輪止めをします。リヤタイヤを取り外すときは、パーキングブレーキを効かせ、フロントタイヤに輪止めをします。
3. ジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけます。
4. タイヤが浮き上がらない程度までジャッキアップを行います。





5. ホイールレンチとホイールレンチハンドルを左図のように組み合わせ、ホイールナットを約 1 回転ゆるめます。
車両前進方向に向かって
- 右側タイヤのナット（銀色、刻印：『R』）は左回りに回すとゆるみます。
- 左側タイヤのナット（銀色、刻印：『L』）は右回りに回すとゆるみます。

後輪がダブルタイヤの場合はアウターホイールナット（六角ナット）で外タイヤ、インナーホイールナット（四角ナット）で内タイヤを止めています。インナーホイールナットをゆるめるときはアウターホイールナットをゆるめてからホイールレンチの反対側（四角側）で約 1 回転ゆるめてください。

6. タイヤが地面から少し離れるまで、静かにジャッキアップします。
このとき車体を軽くゆすってみて、ジャッキが確実に車体を支えているか確認します。不安定なときは、ジャッキをかけなおしてください。

7. ホイールナットを外し、タイヤを交換します。

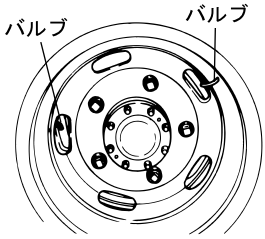
タイヤの取り付け

⚠ 警 告

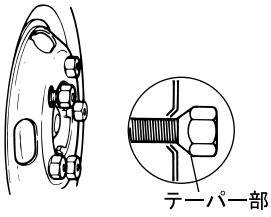
- ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイール、ハブなどに異常を発見した場合は、そのまま走行せずに、ただちに《日産販売会社》にご連絡ください。車輪脱落事故などの原因となります。

⚠ 注 意

- タイヤが地面から離れた状態で交換をしてください。適切な締め付けができず、ホイールナットのゆるみの原因となります。
- タイヤとハブの取り付け面や、ホイールの合わせ面、ホイールナットのあたり面の泥、さびを取り除いてください。適切な締め付けができず、ホイールナットがゆるむ原因となります。
- ホイールナットのあたり面やハブへの取り付け面に経年使用に伴う著しい摩耗がある場合、ホイールナットのゆるみの原因となります。



1. タイヤを組み付けます。
後輪がダブルタイヤの場合は、内輪と外輪のバルブ位置が重ならないように組み付けます。

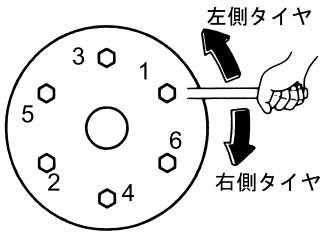


2. ナットはテーパー部を内側にして、タイヤがガタつかない程度に仮締めします。

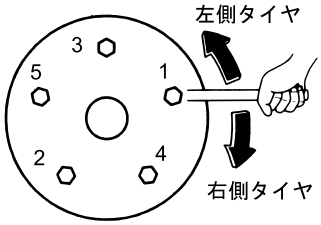
⚠ 警 告

- ホイールボルトやホイールナットにエンジンオイルなどの潤滑剤を塗布しないでください。
締付けトルクに対して締め付け力が大きくなりすぎて、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、車輪脱落事故などの原因となります。

ホイールナット：6 個



ホイールナット：5 個



3. 図の番号順に、2 ～ 3 回にわけて徐々にホイールナットを締め付けます。後輪がダブルタイヤの場合はインナーホイールナット（内側タイヤ）を締め付けてからアウターホイールナット（外側タイヤ）を締め付けます。

4. 最後はホイールレンチハンドルの端に規定の力（締付けトルク）をかけて締め付けます。

車種 / 項目		前輪ホイールナット		レンチにかける荷重	後輪ホイールナット		レンチにかける荷重
		締付けトルク	個数		締付けトルク	個数	
シングルタイヤ		140 ～ 200N・m {14 ～ 20kgf・m}	6	約 30kg	140 ～ 200N・m {14 ～ 20kgf・m}	6	約 30kg
ダブルタイヤ（フラットロー）	AHR・AJR ショートホイールベース				300 ～ 400N・m {30 ～ 40kgf・m}		約 60kg
	ロングホイールベース	450 ～ 550N・m {45 ～ 55kgf・m}	5	約 90kg	450 ～ 550N・m {45 ～ 55kgf・m}	5	約 90kg
ダブルタイヤ（フラットロー除く）			5 または 6			5 または 6	

※ ホイールレンチの端に手で体重をかけ、反動をつけて回すことにより約 900N { 約 90kgf} の力がかかります。（体重 60kg の人の場合）

警 告

- ディスクホイール取り付け後の走行による初期なじみにより、ディスクホイールの締め付け力が低下します。取り付け後、50 ～ 100km 走行を目安に、ホイールナットの増し締めを行ってください。

参照ページ
10-71 ホイールナットの増し締め

アドバイス

- タイヤ交換後は左右にハンドルを切ってみて周辺の部品との干渉がないことを確認してください。不明な点は最寄りの《日産販売会社》にお問い合わせください。

ホイールナットの増し締め

警 告

- ディスクホイール取り付け後の走行による初期なじみにより、ディスクホイールの締め付け力が低下します。取り付け後、50 ～ 100km 走行を目安に、トルクレンチなどを使用してホイールナットの増し締めを行ってください。
- 締め付けを行った後もナットがたびたびゆるむなど、異常があった場合は、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

注 意

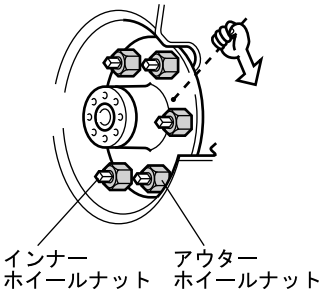
- 右側タイヤは右ねじ、左側タイヤは左ねじです。ホイールボルト、インナーホイールナットに表示しているねじの方向『R』マーク、『L』マークを確認してください。
- ホイールナットは、ホイールボルトレンチを奥まで確実に差し込み規定の締付けトルクでしっかりと締め付けてください。パイプ、足などを使って必要以上に締め付けると部品を破損するおそれがあります。
- 勢いをつけて締めるなどすると過締め付けとなり、ホイールボルトが伸びたり、ディスクホイールのホイールナットあたり面を傷めたりします。
- ホイールナットの締め付け不足および締め過ぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、車輪の脱落を招くおそれがありますので十分注意してください。
- タイヤを新品と交換する場合は、異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車の安全走行に悪影響をおよぼしますので、避けてください。

シングルタイヤの場合

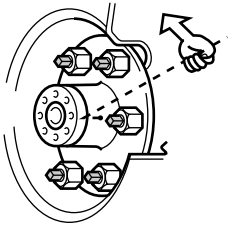
ホイールナットを締め付け方向に規定の締付けトルクで締め付けます。

ダブルタイヤの場合

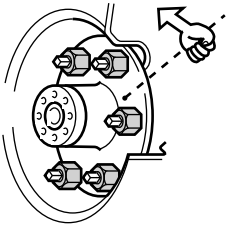
左リヤダブルタイヤの増し締め例



1. アウターホイールナットをゆるめます。



2. インナーホイールナットを規定の締付けトルクで締付けます。



3. アウターホイールナットを規定の締付けトルクで締付けます。

車種 / 項目		前輪ホイールナット		レンチにかける荷重	後輪ホイールナット		レンチにかける荷重
		締付けトルク	個数		締付けトルク	個数	
シングルタイヤ		140 ～ 200N・m {14 ～ 20kgf・m}	6	約 30kg	140 ～ 200N・m {14 ～ 20kgf・m}	6	約 30kg
ダブルタイヤ（フラットロー）	AHR・AJR ショートホイールベース				300 ～ 400N・m {30 ～ 40kgf・m}		約 60kg
	ロングホイールベース	450 ～ 550N・m {45 ～ 55kgf・m}	5	約 90kg	450 ～ 550N・m {45 ～ 55kgf・m}	5	約 90kg
ダブルタイヤ（フラットロー除く）			5 または 6			5 または 6	

※ ホイールレンチの端に手で体重をかけ、反動をつけて回すことにより約 900N { 約 90kgf} の力がかかります。（体重 60kg の人の場合）

スペアタイヤ

タイヤが何らかの原因で使用できなくなったときや、タイヤローテーションのために使用する予備タイヤです。

警 告

- **チェーンをねじれたまま巻き上げると走行中に振動でゆるみスペアタイヤが落下する可能性があり危険です。**
- **スペアタイヤをキャリアに取り付けた後はガタがなく確実に固定されていることを確認してください。ガタがあると走行中に振動でゆるみスペアタイヤが落下する可能性があり危険です。**

アドバイス

【タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車】

- タイヤ空気圧センサー付きタイヤを交換する場合は、交換後一定時間走行すると自動で位置学習を行うため、センサーの再設定は不要です。

知 識

【タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車】

- タイヤ空気圧センサーはスペアタイヤにも取り付けられています。

【フラットロー車】

- スペアタイヤが搭載されている場合、車両に装着されている前後輪と同一サイズのスペアタイヤが前輪用、後輪用別々に格納されています。

スペアタイヤの点検

1. スペアタイヤが確実に取り付けられているかを、タイヤを足等で強く押して点検します。
2. ガタがあるときは、ブラケットや吊板に変形などの異常がないことを確認し、再度締め上げます。ガタがなくならないときは、そのまま走行せず最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

スペアタイヤの取り外し･取り付け

知　識

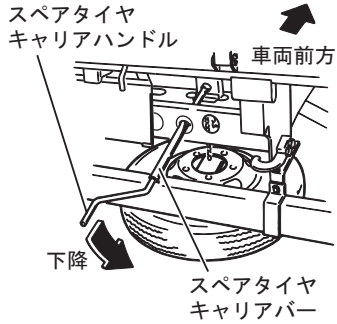
- 標準キャブ車の組み立て式スペアタイヤキャリアハンドルは、ハンドルを組み立ててから使用します。

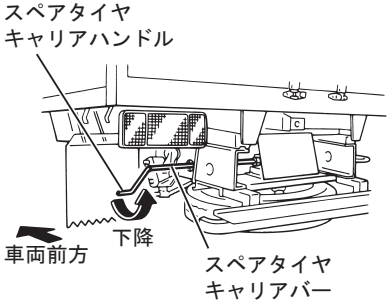
参照ページ
7-9 ジャッキバー / スペアタイヤキャリアハンドル / ホイールレンチハンドルの組み立て

取り外し

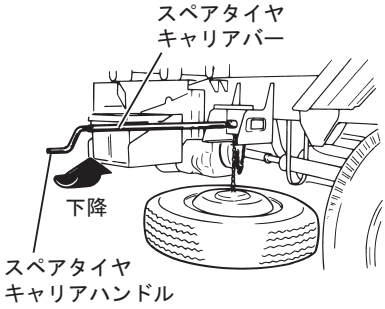
スペアタイヤキャリアバーに、スペアタイヤキャリアハンドルを組み合わせてキャリアの穴に差し込み、左に回してスペアタイヤを取り出します。

荷台後部に格納してあるもの





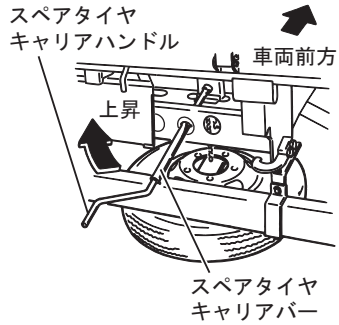
荷台サイドに格納してあるもの



取り付け

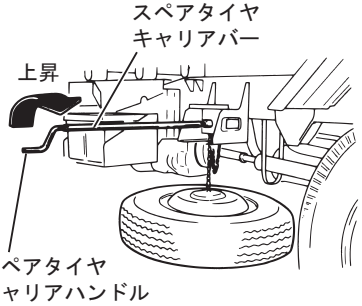
1. ディスクホイールは凸側を上にして、キャリア吊板のつめを、しっかりと合わせます。
2. チェーンがねじれていないことを確認します。
3. スペアタイヤキャリアバーとスペアタイヤキャリアハンドルを組み合わせてキャリアの穴に差し込み、右に回して巻き上げます。巻き上げるときはチェーンがねじれないようにします。キャリアと吊板が直角になるように取り付けてください。

荷台後部に格納するもの





荷台サイドに格納するもの



4. 巻き上げ後、スペアタイヤキャリアバーを 196N {20kgf} 以上の力で締め上げタイヤを固定します。固定後、スペアタイヤキャリアバーは逆回転させずにそのまま抜いてください。
5. スペアタイヤ取り付け後、足等で強く押してガタがないことを確認します。ガタがあるときは、ブラケットや吊板に変形などの異常がないことを確認し、再度締め上げます。ガタがなくならないときは、そのまま走行せず最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

クラッチ★

クラッチは使用しているうちにクラッチディスクが摩耗して、クラッチペダルの遊びが少なくなります。そのままにしておくとクラッチが滑りやすくなります。また、ペダルの遊びが大きすぎると、クラッチの切れが悪くなり、変速しにくくなります。

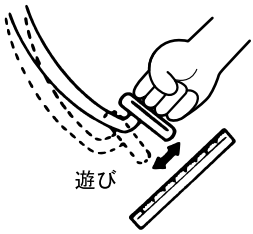
参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

クラッチの点検

クラッチの作用の点検

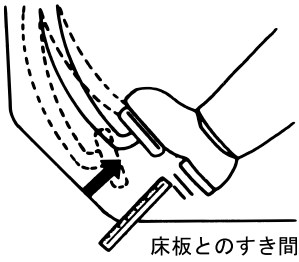
参照ページ
9-23 クラッチの作用の点検

クラッチペダルの遊び



クラッチペダルを軽く手で押し込み、抵抗を感じるまでの遊び量を点検します。

ストロークの確認



1. パーキングブレーキが確実に引いてあることを確認し、エンジンをアイドリング状態でクラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
2. シフトレバーを 1 速に入れペダルを静かに戻していき、クラッチがつながる直前までのペダルの位置と床とのすき間を点検します。
   すき間が 20mm 以上あれば正常です。

点検項目	基準値［参考値］
クラッチペダルの遊び	15 ～ 25mm
クラッチがつながる直前の床板とのすき間	20mm 以上

クラッチフルード★

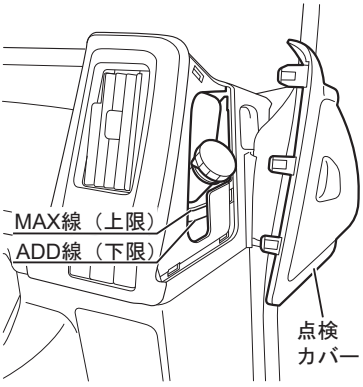
クラッチフルードは、油圧によってクラッチの断続を行う役割をしています。交換する場合は指定オイルを使用してください。クラッチフルードのリザーブタンクは、ブレーキフルードのリザーブタンクと共通です。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

⚠ 注 意

- 補給のとき、ゴミや水がタンクの中に入らないよう注意してください。ブレーキ、クラッチが効かなくなるおそれがあります。
- クラッチフルードを塗装面や皮ふに付着させないように注意してください。もし付着したり、こぼした場合は、水で洗い流し、早くふき取ってください。
- クラッチフルードは、吸湿性が強いので、保管する場合は、キャップを確実に閉めてください。
- クラッチフルードは、他の銘柄品と混ぜて使用しないでください。
- クラッチフルードの減りが著しい場合は、ブレーキ系統の故障やパッドの摩耗あるいはクラッチ系統の故障が考えられます。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

クラッチフルードの点検



メーターパネル右側の点検カバーに指をかけ、車両前方に押しながら回転させるようにして取り外します。クラッチフルードがADD 線より下に減っているときはキャップを開き、日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）を補給します。このときMAX 線以上には補給しないでください。また、補給後はキャップを確実に閉めてください。

トランスミッションオイル

トランスミッションは、エンジンの動力を伝える装置です。トランスミッションオイルは、トランスミッション内部を潤滑し、内部のギヤを保護しています。また、ギヤの摩耗や焼き付きを防ぎます。交換する場合は指定オイルを使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

デュアルクラッチ式 AMT 車はクラッチオイルの点検、交換要領が異なります。

参照ページ
10-85 デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル★

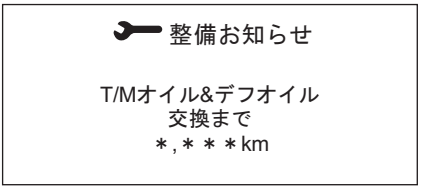
アドバイス

- オイル量は、交換時の目安として記載してあります。交換後は規定の位置まで入っていることを確認してください。
- 排出したオイルの廃棄･処理は、規定の方法で行ってください。

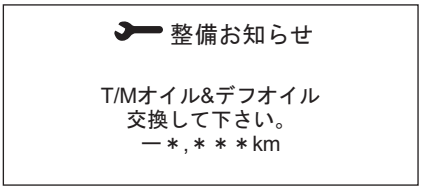
トランスミッションオイルの警告・表示

トランスミッションオイル＆デフオイル警告・表示

残距離



超過距離



トランスミッションオイル＆デフオイルのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、トランスミッションオイルとデフオイルの交換までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「T/M オイル＆デフオイル 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-82 トランスミッションオイルの交換
10-89 デファレンシャルオイル

トランスミッションオイルの点検

注　意

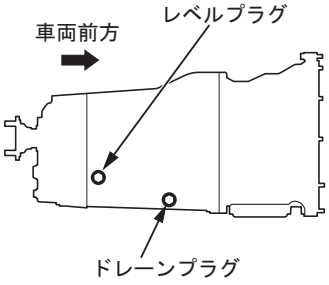
- エンジンが高温のときに点検をするときは、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分に注意してください。

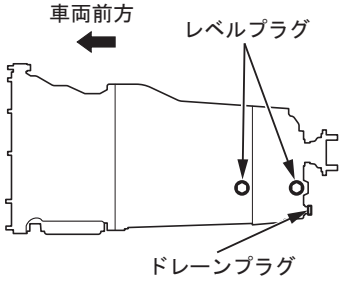
アドバイス

- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
- トランスミッションはアルミケースのため、レベルプラグおよびドレーンプラグを取り付けるときは、特にプラグの締め過ぎに注意してください。規定トルク以上で締め付けるとねじ部を破損するおそれがあります。

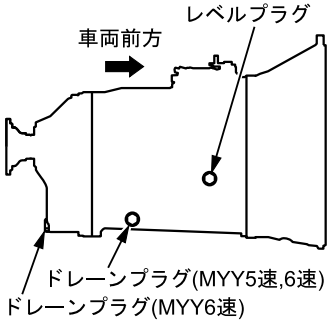
1. 水平な場所に停車し、車両をリフトアップしてスタンド（ウマ）で車両を支えてください。
2. レベルプラグを外し、レベルプラグ穴いっぱいまでオイルがあるか、点検してください。
   オイル量はレベルプラグ穴の口元まであれば正常です。

MYR 型（デュアルクラッチ式 AMT）





MYY 型



3. 不足のときは必ずベスコギヤオイルトランスアクスルを補給してください。

4. レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

レベルプラグ締付けトルク
39N・m {4.0kgf・m}

また、トランスミッションオイルの漏れがないか、点検してください。

トランスミッションオイルの交換

注 意

- **エンジンが高温のときに点検をするときは、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分に注意してください。**
- **交換作業をするときは、トランスミッションオイルを飛散させないよう十分注意してください。もし、オイルが付着した場合は、ていねいにふき取ってください。**

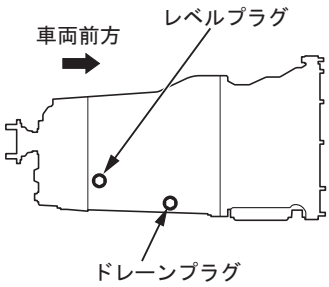
アドバイス

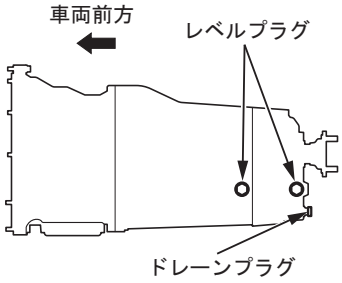
- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
- トランスミッションはアルミケースのため、レベルプラグおよびドレーンプラグを取り付けるときは、特にプラグの締め過ぎに注意してください。規定トルク以上で締め付けるとねじ部を破損するおそれがあります。

1. ドレーンプラグの下にオイルの受け皿を置きます。

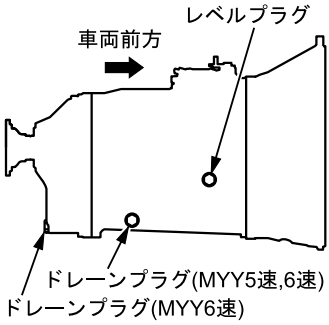
2. レベルプラグとドレーンプラグを取り外してオイルを排出します。

MYR 型（デュアルクラッチ式 AMT）





MYY 型



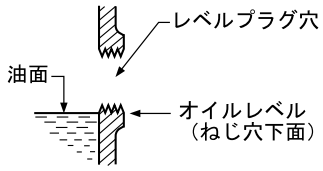
3. ドレーンプラグを規定のトルクで締め付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク
39N・m {4.0kgf・m}

4. ベスコギヤオイルトランスアクスルをレベルプラグ穴から給油します。

5. 給油後、レベルプラグ穴いっぱいまで油量があることを確認します。

6. レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。



レベルプラグ締付けトルク
39N・m {4.0kgf・m}

オートマチックトランスミッションオイル★

オートマチックトランスミッションは、エンジンの動力を伝える装置です。オートマチックトランスミッションオイルは、トランスミッション内部を潤滑し、内部のギヤを保護しています。また、ギヤの摩耗や焼き付きを防ぎます。交換する場合は指定オイルを使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

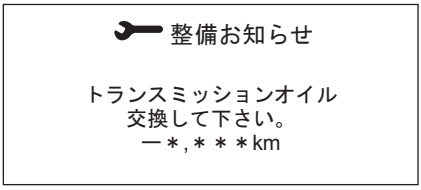
オートマチックトランスミッションオイルの警告・表示

トランスミッションオイル警告・表示

残距離



超過距離



オートマチックトランスミッションオイルのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、オートマチックトランスミッションオイルの交換までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「トランスミッションオイル交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ

デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル★

デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルは、エンジンの動力を伝えるフルードカップリングと変速時に動力の断続をするクラッチとを作動させる役割をしています。交換する場合は指定オイルを使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

トランスミッションオイルは点検、交換要領が異なります。

参照ページ
10-79 トランスミッションオイル

アドバイス

- オイルの質および、量はデュアルクラッチ式 AMT の性能と耐久性に大きく影響しますので指定オイルベスコ ATF Ⅲを過不足のないように入れてください。
  - オイルが多すぎると油漏れの原因になります。
  - オイルが少なすぎると誤作動を起こします。
- クラッチオイルを点検するときは、レベルゲージおよびその周りを清掃し、ゴミなどが入らないよう確実に取り除いてください。トランスミッション故障の原因になります。また、点検後もレベルゲージを清掃してから取り付けてください。
- ロングライフクーラント（LLC）や不凍液（エチレングリコール系）や水分、または他のオイルなどが混入しないようにしてください。機能低下や故障の原因になります。

デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの警告・表示

デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル警告・表示

残距離

整備お知らせ

クラッチオイル
交換まで
＊,＊＊＊km

超過距離

整備お知らせ

クラッチオイル
交換して下さい。
ー＊,＊＊＊km

クラッチオイルのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、クラッチオイル交換時期までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「クラッチオイル 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-88 デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの交換

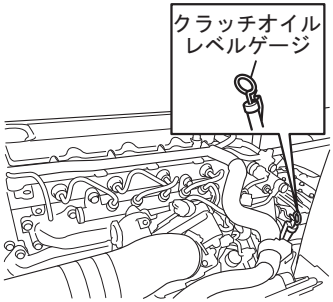
デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの点検

注　意

- **エンジンが高温のときに点検をするときは、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分に注意してください。**

アドバイス

- 次に示す手順は簡易的な点検方法です。正確なデュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの点検と補給には専用の設備による測定が必要になります。デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル量の過不足をなくすため、《日産販売会社》で点検と補給を行ってください。



レベルゲージの位置は、エンジン後方のトランスミッション左側にあります。
シングルキャブ・スペースキャブ車はキャブをチルトアップして、ダブルキャブ車はクラッチオイル点検口を開けて点検してください。

参照ページ
7-26 リヤ点検口（ダブルキャブ車）★
7-28 キャブチルト★

1. 車両を水平な場所に停車し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

2. エンジンを始動し暖機運転を行います。

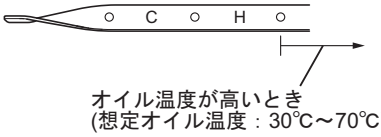
参照ページ
4-53 暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車）

3. キャブをチルトアップします。

参照ページ
7-28 キャブチルト★

4. アイドリング状態のまま、レベルゲージを引き抜き、きれいな布でふきます。

5. 再びクラッチオイルレベルゲージを差し込んで静かに引き出し、オイルが『H』範囲の最大値以上のレベルにあるか点検します。



知　識

- レベルゲージの範囲は、専用の設備を備えた《日産販売会社》でのデュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの交換、修理を行う際の目安になっています。

6. オイルが少ないときは、クラッチオイルレベルゲージのガイドチューブからベスコ ATF Ⅲを補給します。また、クラッチオイルの漏れがないか点検してください。

7. クラッチオイルレベルゲージを確実に差し込みます。
8. 一旦走行し、再度クラッチオイルレベルゲージでオイル量を点検します。

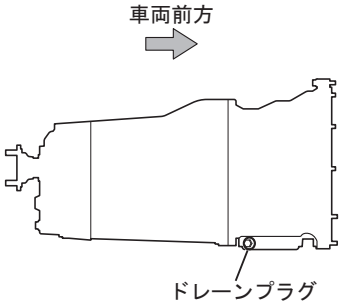
デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの交換

アドバイス

- オイル量は、交換時の目安として記載してあります。交換後は『デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの点検』を参照し、規定の位置まで入っていることを確認してください。
- 次に示す手順は簡易的な交換方法です。正確なデュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの交換と点検には専用の設備による測定が必要になります。デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル量の過不足をなくすため、《日産販売会社》で交換と点検を行ってください。
- 排出したオイルの廃棄･処理は、規定の方法で行ってください。

知　識

- フルードカップリングや油圧回路にオイルが残るためオイルを完全に抜き取ることはできません。



1. ドレーンプラグの下にオイル受けを用意します。
2. キャブチルトを行います。

参照ページ
7-28 キャブチルト★

3. レベルゲージを抜きます。
4. ドレーンプラグを外し、オイルを排出します。
5. ドレーンプラグを規定のトルクで締め付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク
40N・m {4.1kgf・m}

6. 指定のクラッチオイルをレベルゲージのガイドチューブから補給します。

7.『デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの点検』を参照し、手順に従い、オイル量を確認します。

参照ページ
10-86 デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの点検

デファレンシャルオイル

デファレンシャルは、タイヤに動力を伝える装置です。デファレンシャルオイルは、デファレンシャル内部を潤滑し、内部のギヤを保護しています。ギヤの摩耗や焼き付きを防ぎます。交換する場合は指定オイルを使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

アドバイス

- オイル量は、交換時の目安として記載してあります。
- 交換後は規定の位置まで入っていることを確認してください。
- 排出したオイルの廃棄･処理は、規定の方法で行ってください。

デファレンシャルオイルの警告・表示

トランスミッションオイル＆デフオイル警告・表示（除くオートマチックトランスミッション車）

残距離

整備お知らせ

T/Mオイル&デフオイル
交換まで
＊,＊＊＊km

超過距離

整備お知らせ

T/Mオイル&デフオイル
交換して下さい。
ー＊,＊＊＊km

トランスミッションオイル＆デフオイルのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、トランスミッションオイルとデフオイルの交換までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「T/M オイル＆デフオイル 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-79 トランスミッションオイル
10-92 デファレンシャルオイルの交換

デファレンシャルオイル警告・表示（オートマチックトランスミッション車）

残距離

整備お知らせ

デファレンシャルオイル
交換まで
＊,＊＊＊km

超過距離

整備お知らせ

デファレンシャルオイル
交換して下さい。
ー＊,＊＊＊km

デファレンシャルオイルのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、デファレンシャルオイルの交換までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「デファレンシャルオイル 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

知　識

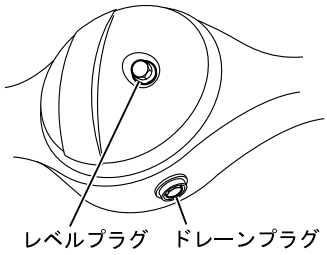
- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

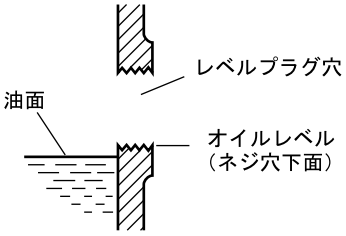
参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-92 デファレンシャルオイルの交換

デファレンシャルオイルの点検

アドバイス

- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。





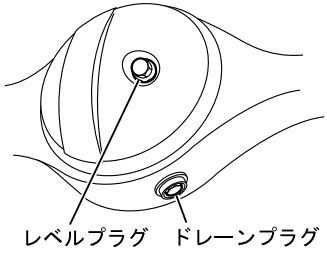
1. 水平な場所に停車し、車両をリフトアップしてスタンド（ウマ）で車両を支えてください。
2. レベルプラグを外し、レベルプラグ穴いっぱいまでオイルがあるか、点検してください。
3. 不足のときは日産純正デフオイルハイポイドスーパー (API:GL-5、SAE:80W-90) を補給してください。また、デファレンシャルギヤオイルの漏れがないか、点検してください。
4. レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

レベルプラグ締付けトルク
78N・m {8.0kgf・m}

デファレンシャルオイルの交換

アドバイス

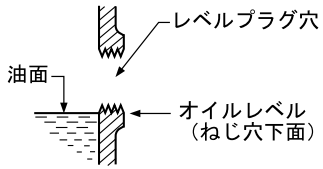
- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。



1. ドレーンプラグの下にオイルの受け皿を置きます。
2. 各プラグを取り外してオイルを排出します。
3. ドレーンプラグを規定のトルクで締め付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク
78N・m {8.0kgf・m}

4. 指定のデファレンシャルオイルをレベルプラグ穴から給油します。



5. 給油後、レベルプラグ穴いっぱいまで油量があることを確認します。

6. レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

レベルプラグ締付けトルク
78N・m {8.0kgf・m}

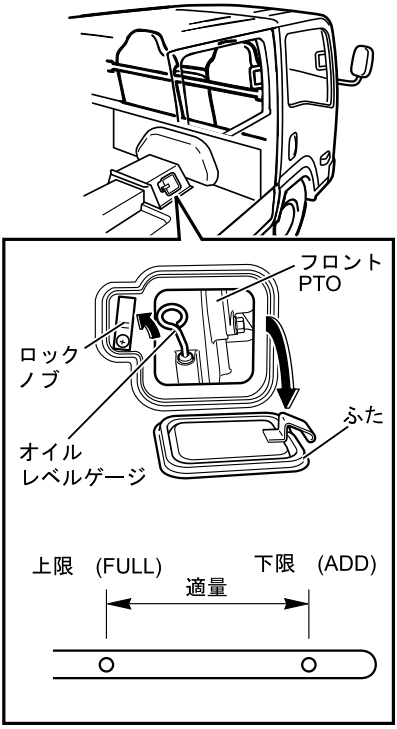
フロント PTO ギヤオイル（消防車）★

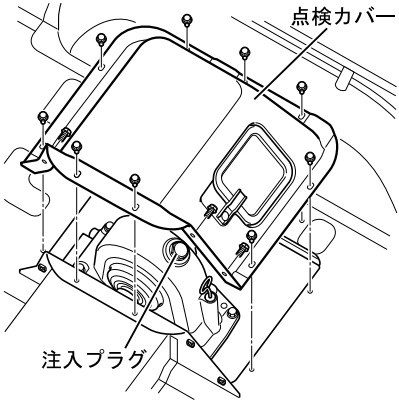
参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

フロント PTO ギヤオイルの点検

フロア中央にあるフロント PTO 点検口のふたを外し、オイルレベルゲージでオイルの量を確認してください。
フロント PTO 点検口は、点検口のロックノブを解除してふたを外します。
『上限』と『下限』の範囲にオイルが付着すれば適量です。オイルの量が不足している場合は点検カバーを外してからフロント PTO 頭部の注入用プラグを外し、ベスコギヤオイルトランスアクスルを補給してください。

マニュアルトランスミッション車





知 識

- デュアルクラッチ式 AMT 車にはフロント PTO 点検口はありません。

フロント PTO ギヤオイルの交換

知　識

- 排出したオイルの廃棄･処理は、規定の方法で行ってください。

排出したオイルの処理が問題となりますので《日産販売会社》で行ってください。

パワーステアリングフルード

パワーステアリングフルードは、ステアリングをスムーズに作動させるオイルです。
交換する場合は指定オイルを使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

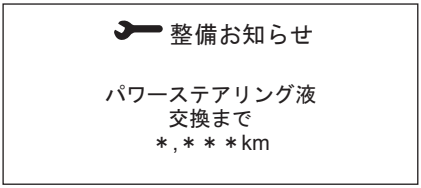
注　意

- **他銘柄との混用は化学変化を起こし故障の原因となりますので、行わないでください。**
- **パワーステアリングフルードを塗装面や皮ふに付着させないように注意してください。もし付着したり、こぼした場合は、早くふき取ってください。**
- **パワーステアリングフルードの減りが著しい場合は、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。**

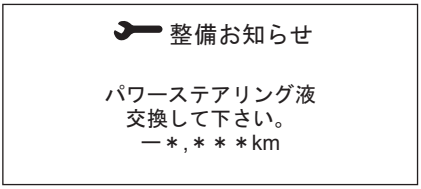
パワーステアリングフルードの警告・表示

パワーステアリングフルード警告・表示

残距離



超過距離



パワーステアリングフルードのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、パワーステアリングフルード交換時期までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを『ON』位置にしたときに橙色で表示され、メーターディスプレイスイッチの『ENTER』を短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「パワーステアリング液 交換して下さい。」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検･整備を受けてください。

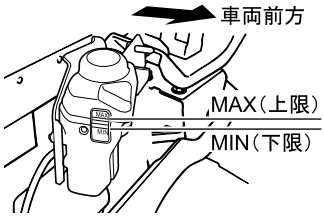
知　識

- メンテナンス時期の確認および設定は、メーターディスプレイの「整備お知らせ」から行えます。

参照ページ
3-57 整備お知らせ
10-97 パワーステアリングフルードの補給

パワーステアリングフルードの点検

タイプ A



タイプ B



リザーブタンク内の液面が冷間時、MAX 線（上限）と MIN 線（下限）の範囲内にあれば適量です。
不足しているときは、MAX 線（上限）までパワーステアリングフルードを補給します。
また、パワーステアリング装置からパワーステアリングフルードの漏れがないかも点検します。
リザーブタンクはキャブ右側後方にあります。点検方法は次表を参照してください。

車型		点検方法
APR 型車を除く	シングルキャブ車	キャブ右側後方から
	スペースキャブ車	キャブ右側前方から
	ダブルキャブ車	リヤ点検口を開けて
APR 型車	シングルキャブ車	キャブをチルトして
	ダブルキャブ車	リヤ点検口を開けて

参照ページ
7-26 リヤ点検口（ダブルキャブ車）★
7-28 キャブチルト★

パワーステアリングフルードの補給

アドバイス

- パワーステアリングフルード補給時はキャップ周辺を清掃し、補給容器はきれいなものを使用してください。異物が混入するとパワーステアリングの故障の原因となります。

補給口のキャップを取り外し、パワーステアリングフルードを MAX 線（上限）まで補給します。

その他の整備・手入れ

ウインドーウォッシャー液

ウインドーウォッシャー液は、汚れなどを落とす役割をしています。

ウインドーウォッシャーの点検

参照ページ
9-21 ワイパー・ウインドーウォッシャーの点検

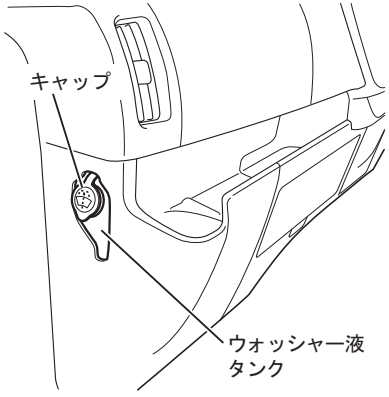
ウインドーウォッシャー液量の点検

参照ページ
9-8 ウインドーウォッシャー液量の点検

ウインドーウォッシャー液の補給

アドバイス

- 新車出荷時には水道水のみを入れてあります。時期に合わせて濃度を調整してください。
- 粗悪品、不凍液、石けん水は、使用しないでください。ノズルの詰まりや、塗装面に悪影響を与えるおそれがあります。
- タンクが空のままでウォッシャーを使用しないでください。モーターが破損することがあります。



ウォッシャー液タンクは助手席インストルメントパネル左側にあります。キャップを取り外して混合したウインドーウォッシャー液を補給します。

ウインドーウォッシャー液の混合割合

容量［参考値］	時期	水道水	ウインドーウォッシャー液	凍結温度
標準キャブ・ハイキャブ車：3.1L ワイドキャブ車：3.4L	通常	2	1	-10 ℃程度
	冬期	1	1	-20 ℃程度
	厳寒	0	原液を使用	-50 ℃程度

ワイパーブレードとウインドーガラス

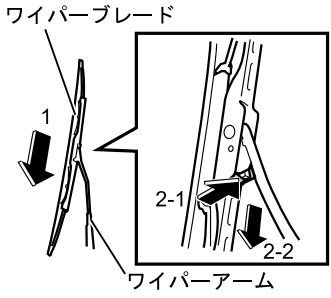
ワイパーブレードは、雨や雪または汚れなどをふき取り視界を確保する役割をしています。交換する場合は《日産純正部品》を使用してください。

ワイパーの点検

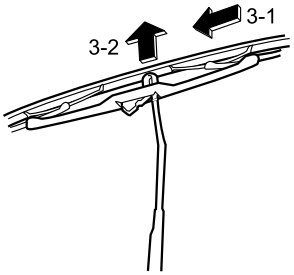
参照ページ
9-21 ワイパー・ウインドーウォッシャーの点検

ワイパーブレードの交換

取り外し

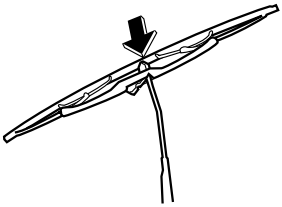


1. ワイパーアームを起こします。
2. ワイパーブレードのツメをワイパーアーム側に押しつけながらブレードを下側方向（アーム付け根側）に押して外します。



3. ブレードとアームをほぼ直角にして
アームからブレードを抜き取ります。

取り付け



1. ブレードをアームとほぼ直角にして差
し込みます。



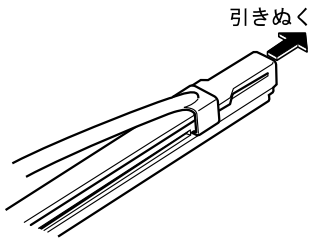
2. ブレードをアームと同じ方向にしてブ
レードがアームにロックするまで上方
向に引き上げます。

アドバイス

- ワイパーブレードを取り外したとき、ワイパーアームを倒すと、フロントウインドーガラスに傷をつけるおそれがありますので注意してください。
- ワイパーブレードの取り付け後は、必ずロックされていることを確認してください。ワイパースイッチを入れたときワイパーブレード本体が不安定な状態になり危険です。

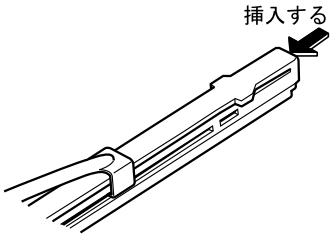
ワイパーゴムの交換

取り外し

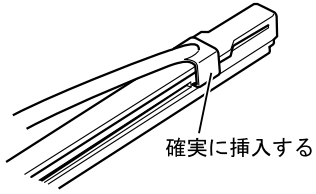


1. ワイパーブレードをワイパーアームから取り外します。
2. ワイパーゴムを矢印の方向に引き、ワイパーブレードから引き抜きます。

取り付け



1. 新しいワイパーゴムをワイパーブレードに挿入します。



2. ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの穴に入るまで挿入し、確実に入っていることを確認します。
3. ワイパーブレードをワイパーアームに取り付けます。

ウインドーガラスの手入れ



ワイパーのふき取りが悪くなった場合はガラスクリーナを使って清掃してください。

エアコンフィルター

エアコンフィルターの点検

フィルターを取り出し、ホコリや汚れによるつまりがないかを点検します。

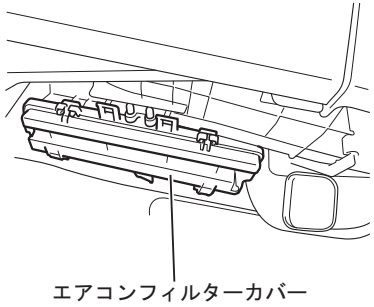
知　識

- 定期点検時にフィルターの汚れが少ない場合は、フィルターを清掃する必要はありません。

参照ページ
10-103 エアコンフィルターの清掃

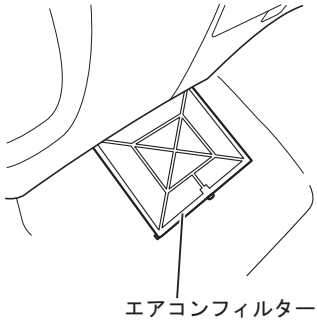
エアコンフィルターの清掃

フィルターの取り外し



フロント側のエアコン・リヤクーラー★

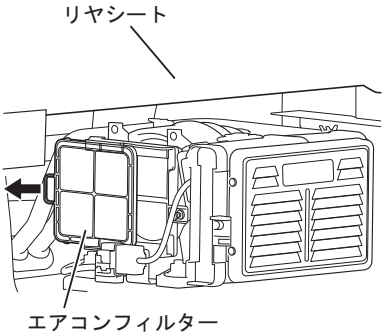
1. 助手席側インストルメントパネル下側からフィルターカバーを取り外します。



2. フィルターを引き抜きます。
3. フィルターの表面についたホコリや汚れを掃除機などを使ってきれいにしてください。

アドバイス

- フィルターに損傷を与えないよう硬質ブラシの使用は避けてください。



リヤヒーター★

1. フィルターを引き抜きます。
2. フィルターの表面についたホコリや汚れを掃除機などを使ってきれいにしてください。

アドバイス

- フィルターに損傷を与えないよう硬質ブラシの使用は避けてください。

フィルターの取り付け

1. 取り付けは、逆の順序で行ってください。

アドバイス

- フィルターの取り付けは確実に行ってください。走行中のカタカタ音の原因、また、外れたとき大変危険です。
- フィルターを外したままで、または確実に取り付けていない状態で使用しないでください。エアコンの内部にゴミやほこり、水、雪などが入り、故障の原因となります。

バッテリー

バッテリーは、エンジン始動時をはじめ、各種ランプ類、アクセサリーなど多くの電装品を働かせる役目をしています。交換する場合は、《日産純正部品》を使用してください。

参照ページ
8-2 メンテナンスデーター覧

バッテリーの取り扱い上の注意

危 険

- **バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で使用、充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発をするおそれがあります。**
- **万一、バッテリー液が目に入った場合は、すぐに大量の水で洗い流し、病院で手当を受けてください。**
- **バッテリーの近くで工具など金属性のものを扱うときは⊕端子に触れないように注意してください。車体が⊖ですから、ショートして危険です。**
- **バッテリーからは、非常に燃えやすい可燃性ガスが発生しています。近くで火花を飛ばしたり火気を使用することはやめてください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です。また、こぼれたバッテリー液をふき取るときは、ぬれた布を使ってふき取ってください。**

警 告

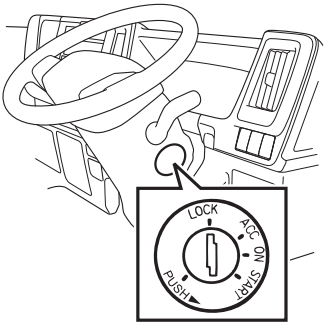
- **バッテリー点検時は必ずエンジンを停止させてください。**
- **バッテリー液は、希硫酸です。手、衣類、金属部に付着させないようにご注意ください。万一付いてしまったときはすぐに水で洗い流してください。**
- **端子を外す場合は、⊖端子から外してください。また、取り付ける場合は、⊖端子を最後に取り付けてください。**
- **バッテリーケーブルを取り付けるときは、⊕端子と⊖端子を逆に取り付けないでください。過電流が流れ、ジェネレーターや車体配線が焼損する原因になります。**
- **点検、補給するときは、バッテリー液をナイロンチューブ、ハーネス、エアタンクなどに飛散させないようにし、付いてしまったときはすぐに水で洗い流してください。特にナイロンチューブは酸に対して弱いため、破損するおそれがあります。**
- **バッテリーチャージャーを使用するときは、必ずバッテリー端子を外してください。**

アドバイス

- 除く AHR 型車（24V バッテリー）は、バッテリーを交換するときは、必ず車両に搭載されているバッテリーと同じサイズ（型式）を準備し、2 個同時に交換してください。サイズ（型式）が異なるバッテリーに交換したり、1 個だけ新品に交換したりすると、バッテリーの早期劣化や ecostop が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- AHR 型車（12V バッテリー）は、バッテリーを交換するときは、必ず車両に搭載されているバッテリーと同じサイズ（型式）を準備し、交換してください。サイズ（型式）が異なるバッテリーに交換すると、バッテリーの早期劣化や ecostop が正常に作動しなくなるおそれがあります。

バッテリーは常に清潔にするように心がけてください。汚れたままにすると、バッテリー液中に不純物が混入し、極板を傷めたり、バッテリー上面で漏電し、バッテリーの寿命を短くする原因になります。

点検･整備をするときは



バッテリーを含め、電気系統の点検･整備は次の手順に従って行います。

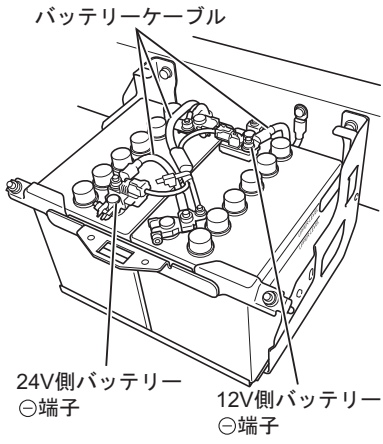
1. 各スイッチを『OFF』にします。

2. 除く AHR 型車（24V バッテリー）は、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、3 分以上待ってから 12V 側バッテリーの⊖端子を取り外します。次に 24V 側バッテリーの⊖端子を取り外します。
AHR 型車（12V バッテリー）は、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、5 分以上待ってからバッテリーの⊖端子を取り外します。

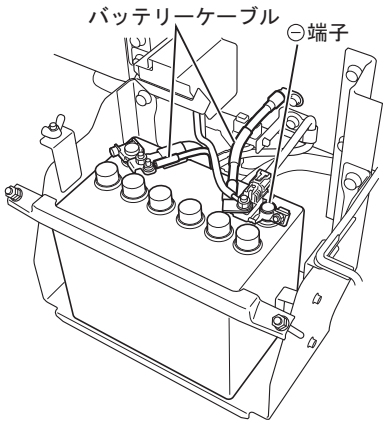
アドバイス

- バッテリーの⊖端子を接続したまま点検・整備を行わないでください。また、除く AHR 型車（24V バッテリー）は 12V 側、24V 側の順に行い両方の端子を取り外してください。電子制御機器を破損するおそれがあります。

バッテリーを取り外すときは



除く AHR 型車（24V バッテリー）
バッテリーを取り外すときは、バッテリーケーブルの⊖端子側から 12V 側、24V 側の順に行い両方の端子を取り外してください。万一、⊖端子側のケーブルがバッテリーに接続された状態で工具などがバッテリーの⊕端子と車体などに接触するとショートを起こし危険です。また、電気系統の故障の原因になります。



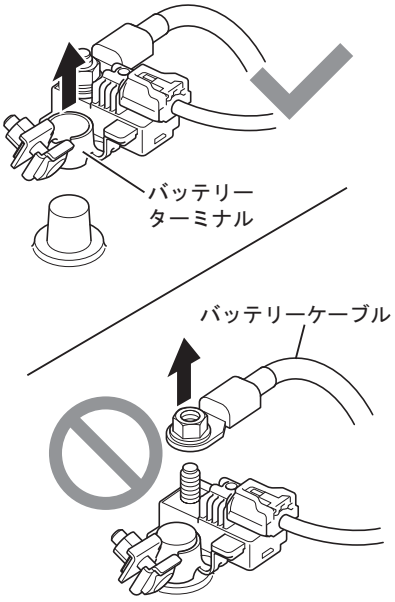
AHR 型車（12V バッテリー）
バッテリーを取り外すときは、バッテリーケーブルの⊖端子側から取り外してください。万一、⊖端子側のケーブルがバッテリーに接続された状態で工具などがバッテリーの⊕端子と車体などに接触するとショートを起こし危険です。また、電気系統の故障の原因になります。

アドバイス

- バッテリーの⊖端子を外すときは、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、除く AHR 型車（24V バッテリー）は 3 分以上、AHR 型車（12V バッテリー）は 5 分以上待ってから行ってください。規定時間待たずにバッテリーの⊖端子を外すと、エンジンなどの電子制御機器に悪影響をおよぼすおそれがあります。

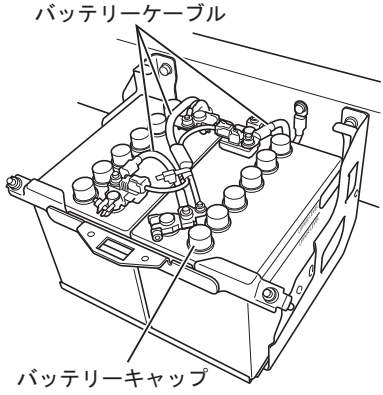
知　識

- バッテリーの⊖端子を外すときは、バッテリーケーブルを外さずにバッテリーのターミナル部を外してください。

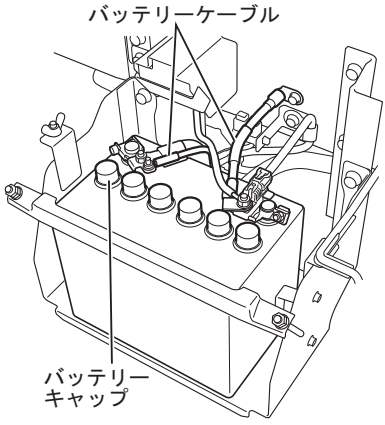


バッテリーを充電するときは

除く AHR 型車（24V バッテリー）



AHR 型車（12V バッテリー）

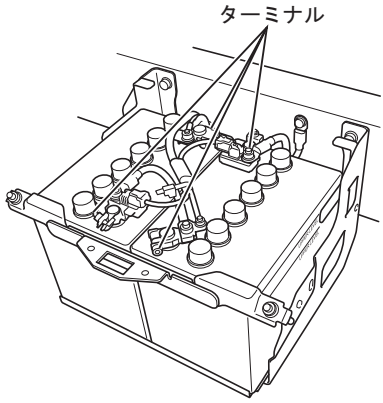


- バッテリーを充電するときは、車両からバッテリーを取り外します。バッテリーキャップを取り外し、風通しの良い場所で充電をしてください。バッテリーを車両に取り付けたまま充電するときは、バッテリーケーブルを取り外してから行ってください。
- 充電器をバッテリーに接続するときや取り外すときは充電器のスイッチを必ず切ってから行ってください。
- 急速充電を行うときは、必ずバッテリーケーブルを取り外して行ってください。バッテリーケーブルを接続したまま急速充電を行うとジェネレーターが焼損するおそれがあります。

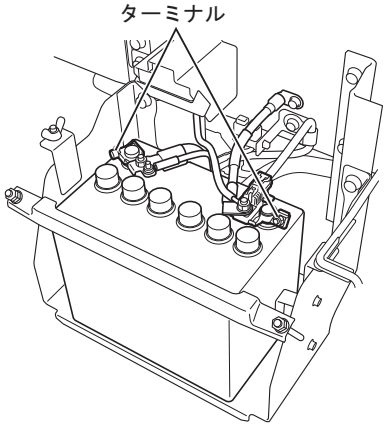
バッテリーを取り付けるときは

1. バッテリーを車両に取り付けるときは、バッテリーの向きに注意し、ガタつきがないようにしっかりと取り付けてください。取り付けが不完全な場合、走行中の振動などでバッテリーケースや極板を傷める原因になります。

除く AHR 型車（24V バッテリー）



AHR 型車（12V バッテリー）



2. 除く AHR 型車（24V バッテリー）は、バッテリーケーブルを取り付けるときは、バッテリーの⊕端子側から行い、24V 側のバッテリー⊖端子を取り付け、最後に 12V 側のバッテリー⊖端子を取り付けてください。
AHR 型車（12V バッテリー）は、バッテリーケーブルを取り付けるときは、バッテリーの⊕端子側から行ってください。

バッテリー端子締付けトルク
3 ～ 6N・m {0.3 ～ 0.6kgf・m}

アドバイス

- バッテリー端子を締め付けるときは、バッテリーケーブルを無理に曲げないように配策してください。

知　識

- バッテリーケーブルが接続されていないか、バッテリー電圧が低い場合、VDC 警告灯が点灯することがあります。VDC 警告灯が点灯している間は VDC は停止しますが、しばらくの間車両を通常通り走行させると VDC 警告灯が消灯し、VDC が再開します。運転してもしばらく VDC 警告灯が点灯したままになっている場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

バッテリーから直接電源を取り出すときは

バッテリーから直接 12V の電源を取り出さないでください。
バッテリーから電源を取り出したいときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

バッテリー液量の点検

参照ページ
9-16 バッテリー液量の点検

バッテリー液の補給

アドバイス

- バッテリー液を補給するときは、『UPPER LEVEL』を超えて補給しないでください。バッテリー液がこぼれてバッテリー端子などの腐食の原因になります。バッテリー液をこぼした場合は、すぐに水できれいに洗い流してください。
- バッテリー液を補給したときは、必ず充電（走行）してください。特に冬季はバッテリー液が凍結し、バッテリーケースを破損させるおそれがあります。
- バッテリー液の減少が激しい場合は、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

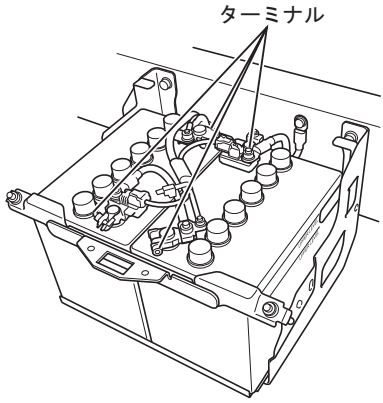
バッテリー液が不足している場合は、バッテリーカバーを外しキャップをとり、蒸留水を『UPPER LEVEL』の線または、極板上 10 ～ 15mm 近くまで補給してください。
補給後、キャップとバッテリーカバーは確実に取り付けてください。

ターミナル部の点検

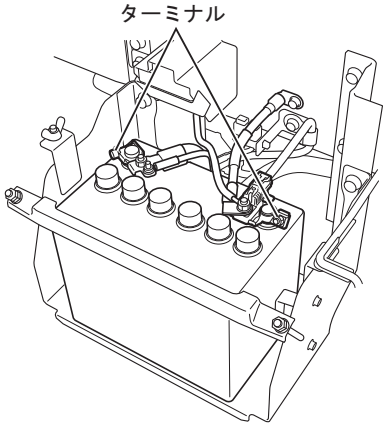


1. ターミナル部にゆるみや腐食がないか点検します。
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときはぬるま湯で洗い流し、よくふき取ります。腐食がひどいときはワイヤーブラシやサンドペーパーで磨いてください。

除く AHR 型車（24V バッテリー）



AHR 型車（12V バッテリー）



3. 清掃後はゆるみが生じないように確実にバッテリーケーブルを取り付けます。バッテリケーブルを取り付け後、ターミナル部に薄くグリースを塗布します。バッテリー上がりのときの処置は『バッテリーがあがったとき』を参照してください。

バッテリー端子締付けトルク
3 〜 6N・m {0.3 〜 0.6kgf・m}

アドバイス

- バッテリー端子を締め付けるときは、バッテリーケーブルを無理に曲げないように配策してください。

参照ページ
11-7 バッテリーがあがったとき

ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）

車両にはさまざまなところにランプ類（灯火類）が用いられています。ランプ切れは、思わぬ事故につながるおそれがあります。お車を安全にお使いいただくために、ランプの状態は必ず確認してください。交換する場合は《日産純正部品》を使用してください。

ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）の点検

1. ランプの汚れ、損傷がないか点検します。

参照ページ
9-7 ランプ類の汚れ、損傷がないか点検

2. ランプ類が点灯・点滅するか点検します。

参照ページ
9-19 ランプ類の点灯・点滅の点検

3. バルブ（電球）が球切れしていないか点検します。

4. 球切れしているときは交換します。必ずスタータースイッチを『LOCK』位置にし、各スイッチを『OFF』にしてから行ってください。

5. 球切れしていないときは、配線の異常などが考えられますので最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

⚠ 警 告

- **バルブは規定のものを使用してください。規定以外のものを使用すると装置の作動不良や火災の原因になります。**
- **不灯のまま走行すると、事故などの原因になります。走行しないでください。**
- **LED を採用したランプが点灯しなくなったときは、分解･修理しないで最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。むやみに分解･修理しますと部品の故障や感電のおそれがあります。**

ランプ（バルブ）の容量

部位	ランプ名称		バルブの容量		
			標準キャブ	ハイキャブ	ワイドキャブ
前側	ヘッドランプ（前照灯）		LED		
	フォグランプ（前部霧灯）★		LED		
	ターンシグナルランプ（前面方向指示器）		LED		
	クリアランスランプ（車幅灯）/ デイライト		LED		
	ターンシグナルランプ（側面方向指示器）		LED		
後側	テール / ストップランプ（尾灯 / 制動灯）	LED タイプ	LED		
		バルブタイプ	5/21W		
	ターンシグナルランプ（後面方向指示器）	LED タイプ	LED		
		バルブタイプ	21W		
	バックアップランプ（後退灯）	LED タイプ	LED		
		バルブタイプ	21W		
	ナンバープレートランプ（番号灯）		10W		
室内	マップランプ		LED		
	リヤマップランプ（後席室内灯）★		LED		
	ステップランプ★		5W		
	室内灯★		—	LED	

※ 記載されていないランプ（バルブ）類の交換については、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

※ LED を採用したランプの点検･整備は、《日産販売会社》で行ってください。むやみに分解･修理しますと部品の故障や感電のおそれがあります。

注 意

- **指定容量（W）以外のランプ（バルブ）を使用するとランプ（バルブ）や配線などの過熱により、レンズやケースなどが変形し、火災の原因となります。**
- **消灯直後のランプ（バルブ）類は高温になっています。ランプ（バルブ）類を交換するときはやけどに注意し、十分に冷えたことを確認してから行ってください。**
- **ランプ（バルブ）類が不灯のまま走行しないでください。思わぬ事故を起こす原因になります。**

アドバイス

- ターンシグナルランプなどの対になっているランプ（バルブ）の片側が切れた場合、もう一方のランプ（バルブ）も使用限度が近づいています。左右同時に交換することをお奨めします。

知 識

- ヘッドランプなどのランプ類（灯火装置）は、雨天での走行や洗車時に一時的にレンズの内側が曇る場合があります。また、ランプ内と外気との温度差によりレンズ内側に結露が発生する場合もあります。これは雨天時など窓ガラスが曇る現象と同様で異常ではありません。またランプを点灯させしばらく時間がたち曇りが取れれば異常ではありません。

ヘッドランプ、フォグランプ★、クリアランスランプ / デイライトの交換

アドバイス

- LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

ターンシグナルランプの交換

アドバイス

【フロントターンシグナルランプ、サイドターンシグナルランプ】

- LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

リヤターンシグナルランプ、テールランプ&ストップランプ、バックアップランプの交換

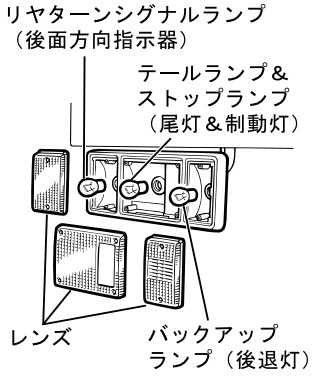
アドバイス

【LED タイプ】

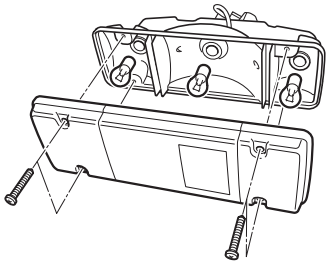
- LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

角型ランプ装着車

タイプ 1



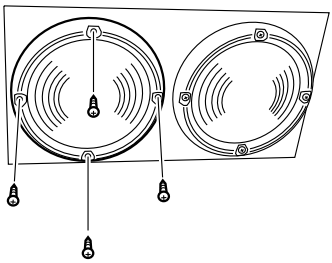
タイプ 2



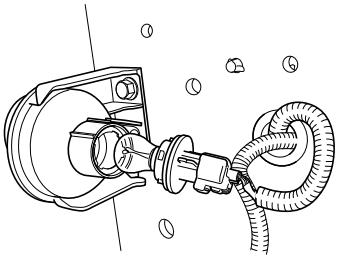
1. ねじをゆるめてレンズを外します。
2. バルブ（電球）を押しながら左に回して外します。
3. 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

丸型ランプ装着車

リヤターンシグナルランプ（後面方向指示器）、テール＆ストップランプ（尾灯＆制動灯）

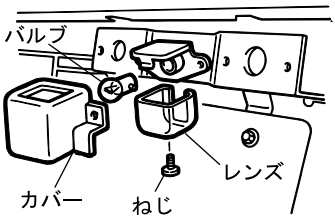


バックアップランプ（後退灯）



1. リヤターンシグナルランプ、テール＆ストップランプは、ねじをゆるめてレンズを外します。バックアップランプは、ランプの裏からソケットを取り外します。
2. バルブ（電球）を押しながら左に回して外します。
3. 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

ナンバープレートランプの交換



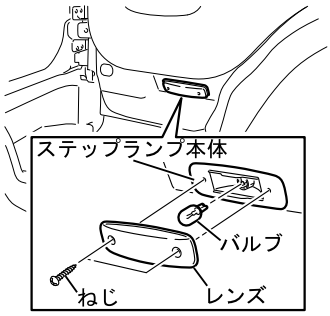
1. ねじをゆるめてカバーを外します。
2. レンズ取り付けねじをゆるめレンズを外します。
3. バルブ（電球）を押しながら左に回して外します。
4. 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

マップランプの交換

アドバイス

- LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

ステップランプの交換★



1. レンズのねじをゆるめ、レンズを取り外します。
2. ステップランプ本体を外し、バルブ（電球）を引き抜いて外します。
3. 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

室内灯の交換★

アドバイス

- LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

車外の手入れ

洗車



車体に異物がついたままにしておくと塗装面やメッキ部に化学変化が生じシミ、変色、さび、または部品の腐食などの原因となったり、車両各部の作動部分にはさまったり、抵抗を与えたりし、機能的な悪影響を与える場合があります。次のような場合には、必ず洗車をして異物を洗い落としてください。

- 塗装面にコールタールや油煙などの油分、ばい煙、鉄粉、虫のしがい、鳥のふん、樹液などが付着したとき。
- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布してある道路を走行したとき。
- 泥、ほこりなどにより著しく汚れたとき。

アドバイス

- 洗車をするときに、車体に体重をかけるなどして、強い力で押したときに、場所によっては車体がへこむおそれがあります。

洗車のしかた





⚠ 注 意

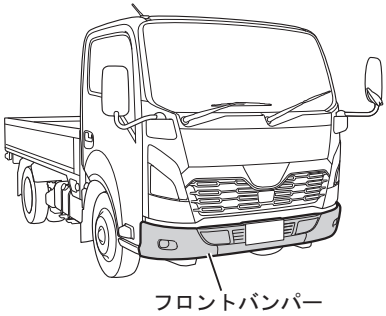
- ホースなどで水をかけるときは、エアインテークダクト（空気取り入れ口）に水が入らないようにしてください。
- エンジンルーム内の電気部品やコネクターなどに水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジンの不調、さび、電気部品の故障などの原因になります。
- 室内に直接水をかけて洗浄しないでください。電子制御機器および電気部品の誤作動や故障の原因となり、また床がさびる原因となります。
- ワイヤーブラシなどの硬い物を使用しないでください。注意･警告ラベルの剥がれ、破れの原因となります。また、塗装などに傷がつくおそれがあります。

【高圧洗浄機を使用するときは】

- 高温、高圧のものは避けてください。樹脂部品の変形、破損、また室内への水漏れのおそれがあります。
- 洗車ノズルと車体との距離は 40cm 以上離し、ドアガラスに対してはノズルを垂直に向けてください。
- 配線コネクターや配線ボックスに直接水をかけないでください。故障の原因となります。
- 排気管の出口に洗車ノズルを向けないでください。排気管内のセンサーに水がかかり、故障の原因となります。
- 前輪独立懸架車以外は、高圧洗浄機で足回りを洗浄した場合、キングピンに給脂してください。高圧洗浄によりグリースが切れ、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。
- エアコンのコンデンサー周辺は洗浄しないでください。コンデンサーフィンが変形し、エアコン能力の低下や不具合が発生するおそれがあります。
- 注意･警告ラベルなどに直接水をかけないでください。ラベルの剥がれ、破れの原因となります。

アドバイス

- 濃彩色車やメタリック車は自動洗車機を使用すると塗装面にブラシの傷がつき光沢がなくなり、スリ傷がめだちやすくなります。
- ミラーやアンテナを格納した状態で洗車をしてください。
- 洗車をするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸または、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみ･塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- 洗剤分は完全に洗い流し、ふき取ってください。特に強アルカリ系（工業用洗剤など）の洗剤を使用した場合、ふき取りが不完全な状態で放置するとコンビネーションランプのレンズ周辺に細かいヒビが発生するおそれがあります。使用する前に洗剤の取扱説明書を良くお読みください。
- 樹脂製フロントバンパーは雨などによって大気中のホコリなどが付着した場合、汚れが落ちにくくなることがあります。
  市販のクリーナを使用して汚れを落とし、樹脂製品用ワックスをかけてください。



1. 水道の水圧を上げ、車体の下回り、足回り、車台番号部を洗います。

2. 各部を完全に閉め、中性洗剤で洗います。

3. タイヤはブラシに洗剤をつけて洗います。

4. 洗剤分を完全に洗い流したあとセーム皮などで、はん点が残らないように、水分をふき取ります。

参照ページ
0-3 車台番号

車の保管について

お車の美しさをながく保つためには保管場所にも注意してください。
次のような場所での保管や長時間の駐車は塗装面に化学変化を生じ、シミ、変色、さび、または部品の腐食などを起こす原因となります。
- 油分、ばい煙、油煙、鉄粉などの付着が多い場所
- 薬品などの化学物質を排出する工場周辺
- 海岸地帯
- 虫のしがい、鳥のふん、樹液などの付着が多い場所

ワックスのかけかた

注　意

- **ウインドーガラスにはワックスをかけないでください。光が乱反射して視界を妨げ危険です。**

アドバイス

- 磨き粉（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。塗装や樹脂部品の表面に傷が付くことがあります。
- ゴム部にワックスが付着すると白くなり取れなくなります。

知　識

- ウインドーガラスにワックスをかけないでください。ワックス皮膜による雨天での視界不良や、ワイパーのビビリの原因になります。
- ウインドーガラスにエンジンオイル、グリースが付着したときは、シミ、変色などの原因になりますので早めに取り除いてください。

月に 1 ～ 2 回、または水はじきが悪くなったときに塗装面とメッキ部にかけてください。ワックスがけは日陰で、塗装面が 40 ℃以下のときに行ってください。
ワックスの使用方法は日産純正オートワックスの容器をご覧ください。

車内の手入れ

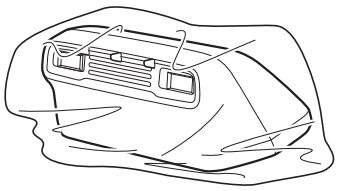
カークリーナや電気掃除機などでほこりを取り除き、水または、ぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ります。

⚠ 警 告

- 車内の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアーカーペット下にある電気部品、プリテンショナー付シートベルト、SRS エアバッグの本体や構成部品、電気配線などに水がかかると、車両故障や装置の誤作動の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり、危険です。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
  また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの強度や性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり、危険です。清掃するときは中性洗剤をうすめたぬるま湯などを使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

⚠ 注 意

- 車内の手入れをするときは、ベンジンやガソリン、アルコールなどの有機溶剤や染色剤、漂白剤、酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみ、塗装のはがれ、溶解、変形などの原因になります。また、各種クリーナ類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。よく確認のうえ使用してください。
- 車内の手入れをするときは、つや出しワックスやつや出しクリーナーを使用しないでください。車内の装置や部品がフロントガラスに映りこんで運転者の視界を妨げ、事故につながるおそれがあります。
- 芳香剤（液体･固体･ゲル状･プレートタイプなど）を内装品（エアコンやオーディオなど）に直接ふれたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ･塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが含まれているガラスクリーナを使用しないでください。清掃は水または、ぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- フロントガラスの内側を清掃するときは、ダッシュボード上のカメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。



- シートの下に手を入れて清掃するときや物を拾うときは、シートレールやシートフレームにあたりケガをするおそれがありますので十分に注意してください。

シートベルトの手入れ

シートベルトの汚れなどは、シートベルトの巻き取り不良の原因になりますので、日頃の点検手入れを行ってください。

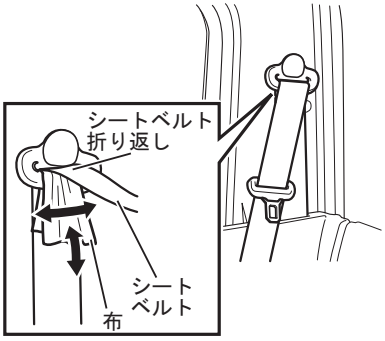
⚠ 注 意

- **シートベルトの漂白や染色、またガソリンやシンナー、アルコールなどの揮発剤で汚れを落とすことはシートベルト地を弱める原因になります。**
- **バックルの中に異物が入ったとき、異物を取り除くためにシートベルトの分解をすることはやめてください。必ず《日産販売会社》で点検、整備を受けてください。**

ベルト折り返し部の汚れ

アドバイス

- 布を折り返し部に通すときや、しつこい汚れを落とすために工具などを使用しないでください。樹脂部分やシートベルトを破損するおそれがあります。



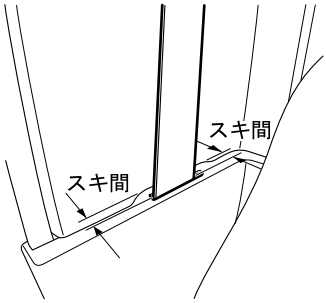
1. 5cm 程の幅の布（木綿の手ぬぐい、ガーゼなど）を短冊にしてください。
2. ぬるま湯に約 5% 程度の中性洗剤を混ぜてください。
3. 布をぬるま湯にひたし、シートベルトの折り返し部に通し、汚れが見えなくなるまで縦横にこすってください。
4. 布を抜き、乾いた布を使用して水分を十分にふき取り日陰で乾燥させてください。
5. シートベルトの巻き取り状態を確認してください。

ベルト部の汚れ

アドバイス

- 各部分の手入れをしてもシートベルトの巻き取り状態が悪いときは、ベルト部分がピラートリムと干渉しているおそれがありますので、《日産販売会社》で点検、整備を受けてください。
- 巻き取り状態が悪い場合や、取り付け部のゆるみ、金属部分の変形、ベルトの傷、糸のほつれ、色あせなどを点検し、異常があれば《日産販売会社》で新品と交換してください。





1. ベルト部を全て引出し、裏表の色の違いを比較してください。
2. ぬるま湯に約 5% 程度の中性洗剤を混ぜてください。
3. 爪等を洗うときに使用するブラシ（毛先がナイロン等の柔らかいもの）をぬるま湯にひたし、汚れを落としてください。
4. 乾いた布を使用してベルト部の水分を十分にふき取り日陰で乾燥させてください。
5. シートベルトの巻き取り状態を確認してください。

シート（布地）、カーペットの手入れ

ほこりやゴミは、家庭用の電気掃除機で吸い取ってください。
カーペットは取り外さないでください。飲食物やその他のシミは家庭用品に準じた方法で取り除いてください。
洗剤は中性洗剤または高級アルコール系合成洗剤と表示しているものをお使いください。

万一のとき 11

- 走行中、車が故障したとき 11-2
- 走行中エンジンが停止したとき 11-4
- ブレーキが効かなくなったとき 11-4
- パンクしたとき 11-5
- 踏切内で動けなくなったとき 11-6
- エンストをして再始動ができなくなったとき 11-7
- バッテリーがあがったとき 11-7
- 燃料切れしたとき 11-10
- 尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき 11-11
- シフトレバーが『P』の位置から動かなくなったとき 11-12
- 電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき 11-14
- 悪路に落ち込んだとき 11-16
- オーバーヒートしたとき 11-17
- インテリジェントキーが正常に作動しないとき 11-19
- 警告灯、表示灯が点灯（点滅）したとき 11-21
- 警告ブザーが鳴ったとき 11-21
- ヒューズとリレーの交換 11-39
- ヒューズ、リレーの配置 11-42
- スローブローヒューズが溶断したとき 11-46
- 事故をおこしたとき 11-47
- けん引するとき 11-48

走行中、車が故障したとき



1. ハザードランプ（非常点滅灯）を点滅させて、すぐに安全で交通の妨げにならない場所（路肩、路側帯）に車を寄せます。車両後方に発炎筒または、停止表示板（停止表示灯）を置き表示してください。（高速道路や、自動車専用道路では義務付けられています。）
2. 同乗者を車から降ろし安全な場所に待機させてください。
3. 安全な場所を歩き、最寄りの電話または、非常電話を使って故障状況などを連絡してください。

警　告

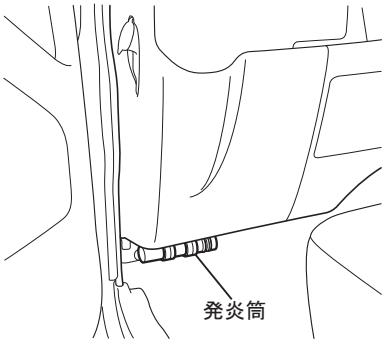
【万一、燃料が漏れたら】

- **車から燃料が漏れているときに、火気があると火災を起こすおそれがあります。エンジンをすぐに停止させてください。また、発炎筒は離れた場所で使用してください。**

知　識

- 《日産販売会社》については、「メンテナンスノート巻末」に全国の日産販売会社の所在地が記載されています。

発炎筒（緊急保安炎筒）



助手席の左足元に発炎筒（緊急保安炎筒）があります。踏切、高速道路など危険が予想される場所で故障した場合に着火して非常事態を知らせます。発炎は約 5 分間です。

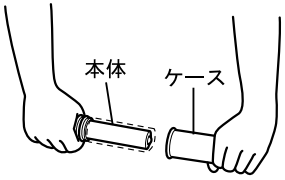
警 告

- **トンネル内では視界が悪くなり危険なので使用しないでください。この場合は停止表示板、ハザードランプ（非常点滅灯）および懐中電灯などを使用し、合図をしてください。**
- **発炎のおそれがありますのでお子様にさわらせないように注意してください。**
- **点火するとき、筒先を顔や体に向けないでください。やけどをするおそれがあります。**
- **ガソリンや可燃物のそばでは使用しないでください。引火をするおそれがあり危険です。**
- **一度使用したり、有効期限を過ぎたものは必ず新しいものと交換してください。**
- **豪雨のとき使用する場合はできるだけ降雨方向に向けないようにご注意ください。**

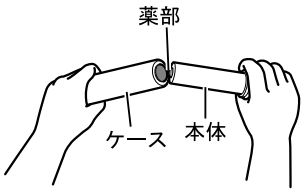
アドバイス

- 有効期限が過ぎたもの、破損したものは新品と交換してください。

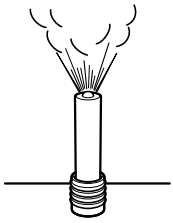
着火のしかた



1. ひねりながら本体を取り外します。



2. 本体の先端の薬部とケース先端のスリ薬部を擦り着火します。



3. 平らな場所に立てます。

走行中エンジンが停止したとき



ブレーキ倍力装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなります。あわてないでブレーキペダルを踏んで減速し、ただちに安全な場所に停車して点検してください。エンジンが始動できないときは、ただちに《日産販売会社》で点検･修理を受けてください。

⚠ 警 告

- **運転操作に変化が生じますので次の方法で安全な場所に停車してください。**
  - **ブレーキ倍力装置が作用しなくなり、ブレーキの効きが大変悪くなります。ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。**
  - **パワーステアリング（ハンドル操作力軽減装置）装置が効かなくなるため、ハンドル操作が重くなります。通常よりハンドルを強めに操作してください。**

ブレーキが効かなくなったとき



電動パーキングブレーキ付車

不測の事態でブレーキが効かなくなった場合は、シフトレバーでギヤを 3 速→ 2 速→ 1 速へ素早くシフトダウンしてスピードを落とし、ハンドルをしっかり握りながら電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けて、道路の左側に車を止めてください。

除く電動パーキングブレーキ付車

不測の事態でブレーキが効かなくなった場合は、シフトレバーでギヤを 3 速→ 2 速→ 1 速へ素早くシフトダウンしてスピードを落とし、ハンドルをしっかり握りながらパーキングブレーキレバーを徐々に引き、道路の左側に車を止めてください。

注 意

【除く電動パーキングブレーキ付車】

- 高速からいきなり、パーキングブレーキレバーをいっぱいに引くことは大変危険です。シフトダウンして十分にスピードを落としてからパーキングブレーキレバーを徐々に引くようにしてください。

知 識

- 山岳路などでは緊急避難場所（道路の左側の砂山のうねりが重なっている所）に乗り上げるか、最悪の場合には、ガードレールや崖などに車体の側面をこすりつけたり、道路側溝に前後の片輪を落としたりして車を止めてください。

パンクしたとき

警 告

- パンクしたまま走行すると、ホイールボルトに無理な力がかかり、ボルト折損による車輪脱落事故などの原因となります。

【タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車】

- パンクの状況によっては、タイヤ空気圧センサーが破損している場合があります。最寄りの《日産販売会社》でセンサーの点検を受けてください。

アドバイス

【タイヤ空気圧モニタリングシステム装着車】

- タイヤ空気圧センサー付きタイヤを交換する場合は、交換後一定時間走行すると自動で位置学習を行うため、センサーの再設定は不要です。



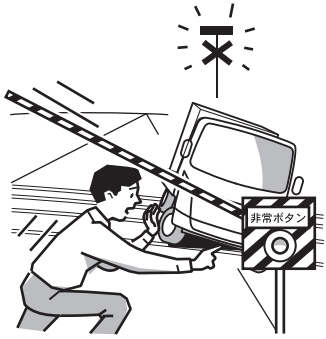
走行中にタイヤがパンクしたときは、急ブレーキをさけ、ハンドルをしっかりと握り、停車します。
タイヤの交換は、他の運転者や通行者の妨害にならない、平坦地を選んで行います。

アドバイス

- あわてずに、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ（急ブレーキはハンドルを取られることがあり危険です。）、スピードを落とし、安全な場所に停車し、タイヤ交換をしてください。

参照ページ
7-15 ジャッキ
10-66 タイヤの交換
10-74 スペアタイヤ

踏切内で動けなくなったとき



注 意

- **脱輪などにより車を動かすことができず、踏切から脱出できないと判断したときは、踏切に備えられた報知装置で緊急事態を知らせてください。報知装置がない場合は、発炎筒（緊急保安炎筒）を使用してください。**

参照ページ
11-2 発炎筒（緊急保安炎筒）

エンストをして再始動ができなくなったとき

スターターの回らないマニュアルトランスミッション車は、シフトレバーを『N』位置に操作し、安全な場所まで押して脱出してください。
デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は、シフトレバーを『N』位置に操作してシフトインジケーターの表示が「N」の場合は安全な場所まで押して脱出してください。

参照ページ
4-99 デュアルクラッチ式 AMT の故障時
11-48 けん引するとき

注 意

- **非常の場合、マニュアルトランスミッション車でスターターが回るときは、シフトレバーを状況に応じて『R（後退）』、『1（1 速）』『2（2 速）』位置に操作します。次にクラッチペダルから足を離したままスタータースイッチを回し続けて車を移動させます。**

知 識

- HSA 装着車は、HSA OFF スイッチを押し、HSA を解除してください。
- オートブレーキホールド装着車は、オートブレーキホールドスイッチを押し、オートブレーキホールドを解除してください。

参照ページ
4-133 HSA OFF スイッチ
4-145 オートブレーキホールドスイッチ

バッテリーがあがったとき

ブースターケーブル（別売）を使い、他車のバッテリーを利用し、次の順序でエンジンを始動させます。

注 意

- **安全および車両保護のため、車を押したり、けん引したりしてエンジンを始動しないでください。エンジンを破損するおそれがあります。**
- **救援車は故障車と同じ電圧のバッテリーを装着している車を使用してください。**
- **⊕極と⊖極を接触させないでください。**
- **ブースターケーブルを接続するとき、クリップどうしを接触させないでください。**
- **バッテリーの充電は《日産販売会社》などへ依頼してください。**
- **エンジンをかけた状態でバッテリー端子を外さないでください。電気系統の故障原因となります。**

1. 故障車のバッテリー液量を点検します。

参照ページ
9-16 バッテリー液量の点検

2. 同じ電圧（除く AHR 型車：24V、AHR 型車：12V）の車を救援車にします。

3. バッテリーカバーを外し、図の番号順にブースターケーブルを接続します。

4. ブースターケーブル接続後、救援車のエンジンを始動します。

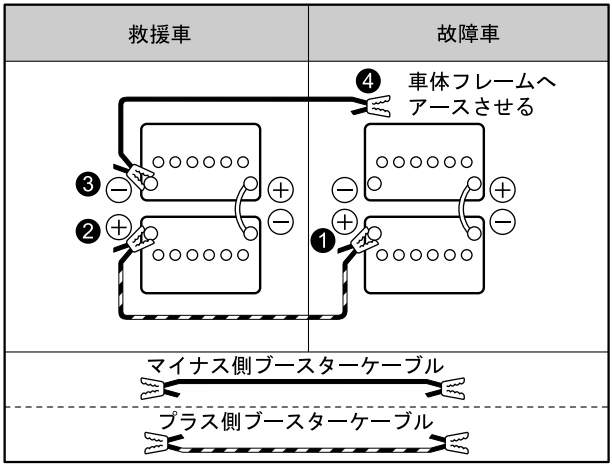
5. 救援車のエンジン回転を少し高めにし、故障車のエンジンを始動します。

6. エンジンが始動できれば接続したときと逆の順序でブースターケーブルを外します。

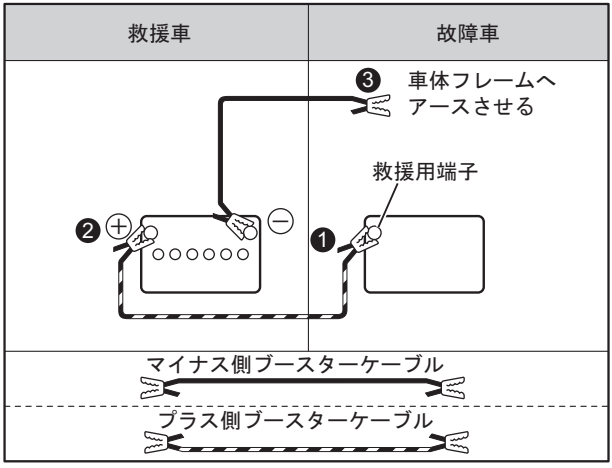
知 識

- 寒冷地などでエンジンが始動しにくいときは、正常車（救援車）のエンジンを始動して数分たってから故障車のエンジンを始動してください。

除く AHR 型車（24V バッテリー）



AHR 型車（12V バッテリー）



警 告

- **ブースターケーブルを接続する前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限『LOWER LEVEL』以下のままで使用、充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー液を補充してから作業してください。**
- **故障車のフレーム❹にブースターケーブルを接続するとき火花が飛ぶことがあります。このためバッテリー近くに接続するとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがありますので、なるべく離れた位置を選んでください。**
- **ブースターケーブルの⊕側を⊖側と接触させたり、ボデーに接触させたりしないでください。**
- **火気を近づけないでください。**

燃料切れしたとき

燃料切れしたときは、燃料系統に空気が混入し燃料を補給しただけではエンジンの始動はできません。次の要領で燃料系統のエア抜きをします。

警 告

- **車体やキャブ下エンジンルームに付着した燃料はきれいにふき取ってください。火災の原因になります。**

注 意

- **エンジンの始動は、必ず運転席に座って行ってください。**
  窓越し、またはドアを開けて運転席に座っていない状態ではシフトレバーの『N』位置を確認できないため、マニュアルトランスミッション車では万一シフトレバーが『N』位置以外でエンジンを始動すると、車が動くので注意してください。

エア抜きのしかた

アドバイス

- エア抜き作業が不十分なときには、エンジン不調になるおそれがありますのでエンジン始動後の手順を必ず実施してください。

1. ハンドポンプのエア抜きプラグ部の下に燃料受け皿を準備し、エア抜きプラグのゴムキャップを取り外します。透明なホース等をエア抜きプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。エア抜きプラグを十分にゆるめます。

知　識

- ハンドポンプは車両の仕様に応じて、車両の左右どちらかに搭載されています。

2. ハンドポンプのエア抜きプラグ部からエア混じりの燃料が出なくなるまでハンドポンプを 20 回以上上下に動かします。

3. ハンドポンプのエア抜きプラグを十分に締め付け、プラグ部周辺に付着した燃料をきれいにふき取ります。

エア抜きプラグ締付けトルク
7.5N・m {0.76kgf・m}

4. 更にハンドポンプを重くなるまで上下させ、燃料系統のエアを燃料噴射ポンプへ送ります。

5. アクセルペダルは踏まずにスターターを回し、エンジンを始動させます。

6. エンジン始動後、アイドリング回転を 4JZ1 型エンジン車は 5 秒間、RZ4E 型エンジン車は 1 分間保持します。

7. アクセルペダルをいっぱいに踏み込み、最高回転まで吹き上げます。
（この操作を数回繰り返してください。）

尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき

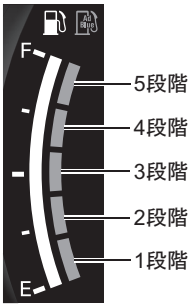
メーターディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示され、尿素水（AdBlue® 相当）を補給してエンジンを始動するときは、次の手順に従って行います。

参照ページ
4-200 再始動禁止中（尿素水補給）警告

アドバイス

- 尿素水（AdBlue® 相当）は、5L 以上補給してください。
- メーターディスプレイの表示が消えず、警報音も鳴りやまないとエンジンの始動はできません。

再始動の手順



AdBlue 再始動禁止中

尿素水が空のためエンジンの
再始動が出来ません。
指定の尿素水を補給して下さい。

1. スタータースイッチを『LOCK』位置にし、尿素水（AdBlue® 相当）を 5L 以上補給します。

参照ページ
4-198 尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
4-198 指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れてください
4-203 尿素水（AdBlue® 相当）の補給

2. 尿素水（AdBlue® 相当）を補給後、スタータースイッチを『LOCK』から『ON』位置にして同時にメーターディスプレイの表示が消え、警報音『ピーーー …（連続）』が鳴りやむのを待ちます。

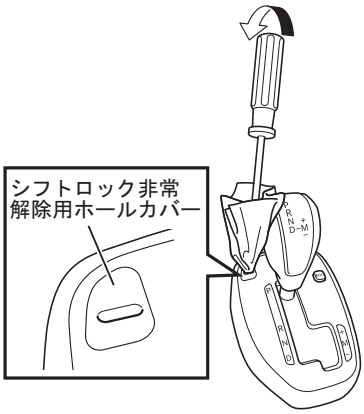
3. メーターディスプレイの表示と警報音『ピーーー …（連続）』が鳴りやまないときは、スタータースイッチを『LOCK』位置に戻し、さらに尿素水（AdBlue® 相当）を補給し、手順 2 からやり直します。

4. エンジンを始動します。

シフトレバーが『P』の位置から動かなくなったとき

シフトレバーが『P』の位置から動かなくなったときは、以下の操作をしてください。

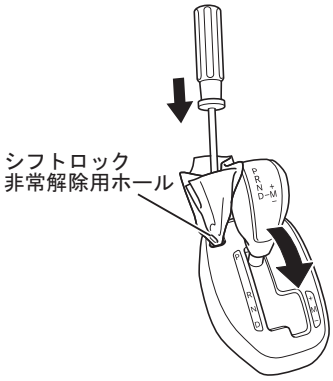
1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認してください。



2. シフトロック非常解除用カバーをマイナスドライバー等で外します。

アドバイス

- シフトレバーに傷がつかないようマイナスドライバーなどは、布などで覆ってから作業してください。



3. シフトロック非常解除用ホールにマイナスドライバーなどを奥まで押し込みながらシフトレバーを操作します。

アドバイス

- 取り外したシフトロック非常解除用カバーは、なくさないよう必ず元の位置に取り付けてください。

警 告

- **バッテリー上がり時以外での作動不良は、シフトロック機能の故障が考えられます。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。**

アドバイス

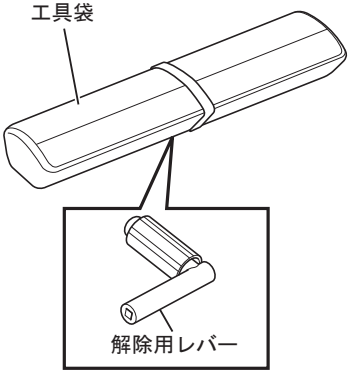
- バッテリー上がり時に、シフトレバーを『P』位置から動かす場合も同様の操作をしてください。

電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき

バッテリーが上がったときや電動パーキングブレーキが故障したときは、次の手順でパーキングブレーキを解除できます。

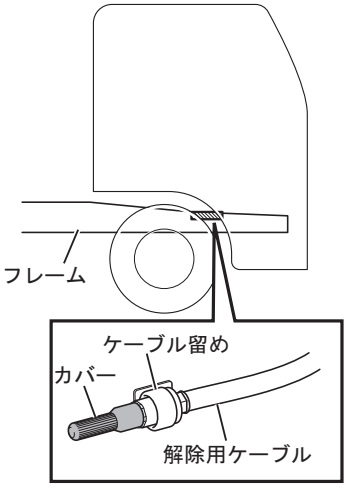
⚠ 注 意

- **手動でのパーキングブレーキ解除は、けん引専用車によるけん引、または車両を一時的に移動させるとき以外には行わないでください。**
- **手動でパーキングブレーキを解除する場合、坂道では行わないでください。**
- **手動で解除したあとは、車両を安全な場所に移動させ、ただちに最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。**



1. マニュアルトランスミッション車はギヤイン駐車して、デュアルクラッチ式AMT車およびオートマチックトランスミッション車はシフトレバーを『P』位置にして確実に輪止めをします。
2. 電動パーキングブレーキ解除用レバーを車載工具から取り出します。

参照ページ
7-6 車載工具



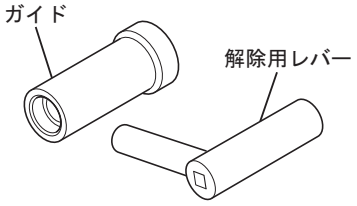
3. 解除用ケーブルをケーブル留めから取り出します。

知　識

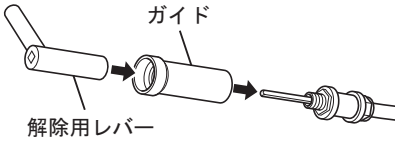
- 解除用ケーブルはお車の仕様によって配置が異なります。右前方フレームの側面または上面に配置されています。
- ハンドルを切る、またはキャブチルトすることで解除用ケーブルにアクセスしやすくなります。

参照ページ
7-28 キャブチルト★

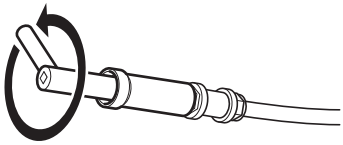
4. 解除用ケーブル先端のカバーを取り外します。



5. 電動パーキングブレーキ解除用レバーからガイドを取り外します。



6. 解除用ケーブル先端へガイド、電動パーキングブレーキ解除用レバーの順に取り付けます。



7. 電動パーキングブレーキ解除用レバーを押し込みながら 35 回左に回します。

知　識

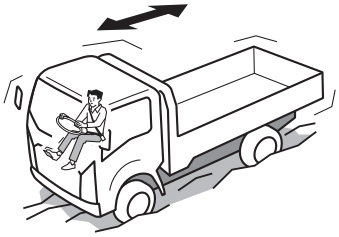
- パーキングブレーキが解除されなかった場合は、解除されるまで、電動パーキングブレーキ解除用レバーを 5 回ずつ追加で左に回します。

8. パーキングブレーキ解除後は、カバーを解除用ケーブルの先端に取り付け、解除用ケーブルをケーブル留めに戻します。

アドバイス

- ケーブル留めは変形させないでください。解除用ケーブルが取り出せなくなったり、ケーブルに無理な力が加わり破損につながります。

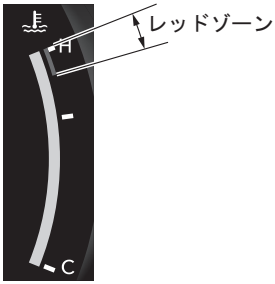
悪路に落ち込んだとき



むやみにアクセルペダルを踏むと、穴が深くなり、かえって脱出が困難になります。タイヤの下に石や木または毛布などをあてがい脱出するか、前進、後退を繰り返し、慣性を利用して脱出します。

オーバーヒートしたとき

水温計（テンプメーター）

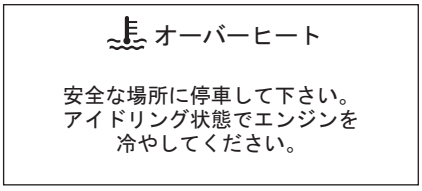


エンジンの力が落ち、水温計（テンプメーター）の指針がレッドゾーンを示したときはエンジンのオーバーヒートを示しています。このとき、「オーバーヒート」がメーターディスプレイに表示され、警報音『ピーーー …（連続）』が鳴ります。ただちにオーバーヒートの処置をとってください。

⚠ 注 意

- **「オーバーヒート」が表示されたまま運転を行うと、エンジン焼き付きの原因となります。**

オーバーヒート





油温計（消防車のみ）

指針が 120 ℃以上を示すときはエンジンがオーバーヒートしているおそれがあります。状況に応じてオーバーヒートの処置をとってください。

オーバーヒートしたときの点検･処置

1. ハザードランプ（非常点滅灯）を点滅させて、すぐに安全で交通の妨げにならない場所（路肩、路側帯）に車を移動させ停車させます。
2. エンジンはかけたままアイドリング状態にして、しばらくエンジンを冷やします。

アドバイス

- すぐにエンジンを止めるとエンジン焼き付きの原因になります。

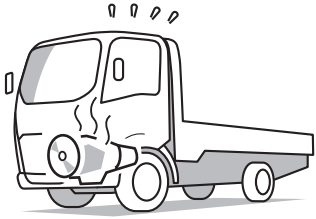
3. 水温計の指針が中央付近まで下がってきたら、エンジンを止めます。

警 告

- **冷却水が高温のときラジエーターやリザーブタンクのキャップを外さないでください。むやみに外すと蒸気が吹き出し、やけどをします。また冷却水温度も高温になっていますので、熱湯などによるやけどをするおそれがあります。点検･補給･交換は冷却水温度が下がっているときに行ってください。**



- **やむを得ずラジエーターやリザーブタンクのキャップを外すときは適正温度（80 ℃）に下がるのを待ち、厚手の布を重ねてキャップにかぶせ、徐々にキャップをゆるめてください。**
- **冷却水は毒性があるので飲まないでください。また目に入った場合は直ぐに洗い流してください。**
- **冷却水は引火性がありますので火気を近づけないでください。**



アドバイス

- ラジエーター冷却用のファンが回っていないときは、ただちにエンジンを止めてください。

4. エンジン本体が十分に冷えてから冷却水のリザーブタンクおよび、ラジエーター内の冷却水の量を点検し、不足している場合はラジエーターおよび、リザーブタンクに冷却水を補充してください。また、ファンベルトのゆるみ、損傷を点検してください。
5. ラジエーター、インタークーラーの前面にゴミなどが付着していないか、またコアを塞いでいる物がないか点検し、付着しているときは洗浄･除去を行います。
6. 点検後、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

アドバイス

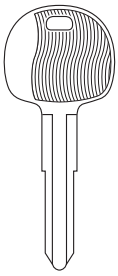
- 冷却水を補給するときは、水温計の指針が中央より下側にあることを確認してから行ってください。エンジンが十分に冷えていないときの補給はエンジン本体の故障や、破損を招くおそれがあります。
- 緊急時に水道水だけを補充したときは、早めに冷却水の濃度を調整してください。
- オーバーヒートしたエンジンに急に水を補給すると、エンジン破損のおそれがあります。エンジンを回転させながらゆっくりと補給してください。

参照ページ
10-15 冷却水
10-32 ファンベルト
10-31 ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄

インテリジェントキーが正常に作動しないとき

リモコンキーの電池が切れたときや周囲の電波状況により、インテリジェントキーのシステムがリモコンキーを認識できなくなります。その場合、次の要領でドアの施錠･解錠やエンジンの始動を行います。

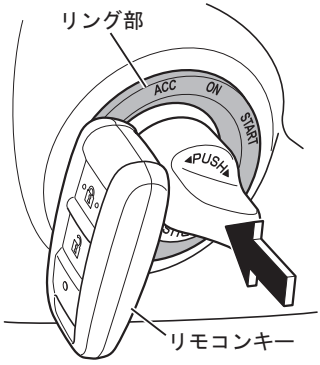
ドアの施錠･解錠



キーを使用して、ドアの施錠･解錠を行ってください。

参照ページ
2-26 ドアの施錠･解錠
2-28 助手席スライドドアの施錠･解錠★

エンジンの始動



キー照合完了

スタータースイッチを
ONにして下さい。

キーを認証してください

キーをスタータースイッチに
かざしてください。

1. パーキングブレーキレバーを確実に効かせ、シフトレバーがマニュアルトランスミッション車は『N』位置、デュアルクラッチ式 AMT 車およびオートマチックトランスミッション車は『P』位置にあることを確認してブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。
2. リモコンキーをスタータースイッチのリング部に当てスタータースイッチを押します。
   - 「キー照合完了」がメーターディスプレイに表示されます。
   - キーを認識できないときは、「キーを認証してください」がメーターディスプレイに表示され、ブザー『ピーーー …（連続）』が鳴りますので、リモコンキーがリング部に当たっているか確認してください。

3.「キー照合完了」がメーターディスプレイに表示されていることを確認し、10秒以内にスタータースイッチを回してエンジンを始動します。
- 10秒以内にエンジンの始動を行わなかった場合は、再度手順2からやり直してください。

参照ページ
4-43 エンジンの始動・停止のしかた

アドバイス

- 手順通り行ってもエンジンが始動できないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

警告灯、表示灯が点灯（点滅）したとき





アドバイス

- 警告灯の点灯（点滅）を無視して運転を続けないでください。必ず、メーター、警告灯、表示灯の見かたを参照して点灯、点滅時の処置を行ってください。

参照ページ
3-2 メーター配置
3-7 警告灯 / 表示灯一覧

警告ブザーが鳴ったとき

車の状態や各機能の作動状況などをお知らせするために警告ブザーが鳴ります。以下の表を確認し、必要に応じて参照ページに記載している処置を行ってください。

⚠ 注 意

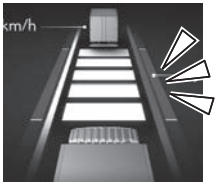
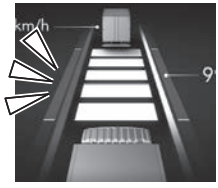
- **処置を行っても警告ブザーが鳴りやまない場合は、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。**
- **システムに異常があるときは、警報音が鳴らない場合があります。そのような場合はシステムの点検が必要です。最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。**

警報音★

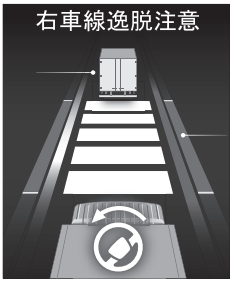
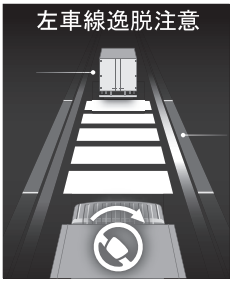
走行しているとき

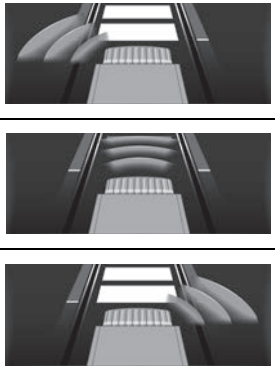
警告灯やメーターディスプレイ表示が表示されている場合

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーーー …（連続）	オーバーヒート 安全な場所に停車して下さい。 アイドリング状態でエンジンを冷やしてください。	●	**オーバーヒート警報** エンジンがオーバーヒートしたとき	3-4 11-17
ピーーー …（連続）	BRAKE BOOSTER	●	**ブレーキバキューム警報** ・運転中、またはスタータースイッチを『ON』位置にしたときにブレーキ倍力装置のバキュームが不足したとき ・充電系統に異常が生じたとき（ジェネレーター本体の故障および、ファンベルトの緩みや切れなど） ・排気ブレーキ使用中に排気ブレーキに異常があるとき	3-35
ピーーー …（連続）	 油圧異常 安全な場所に停車して下さい。 エンジンオイルの量を点検し 正常で漏れが無い場合は 販売会社へご連絡下さい。	●	**油圧異常警報** エンジンオイルの圧力に異常があるとき	3-36 3-37
ピーーー …（連続）	再始動禁止中 尿素水品質に異常があり エンジンの再始動が出来ません。 販売会社へご連絡下さい。 AdBlue 品質異常 尿素水品質が異常です。 販売会社へご連絡下さい。	●	**再始動禁止中警告（尿素品質異常）** 「AdBlue 品質異常」が表示された後、適切な処置をせずに走行を続けたとき	4-202

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーーー …（連続）	尿素水噴射システム異常 尿素噴射システムが異常です。 販売会社へご連絡下さい。	●	**尿素水噴射異常警告** 「尿素水噴射システム異常」が表示された後、適切な処置をせずに走行を続けたとき	4-202
ピピピピピ…（連続）	ブレーキ！！ 	●	**プリクラッシュブレーキ警報（緊急ブレーキ作動）** ・前方に障害物を検知し、衝突回避が困難でプリクラッシュブレーキシステムが自動的に緊急ブレーキを作動させるとき ・右左折時に横断する歩行者を検知し、衝突回避が困難でプリクラッシュブレーキシステムが自動的に緊急ブレーキを作動させるとき	5-13
ピピピピピ…（連続）	前方注意 	●	**誤発進抑制機能警報** 誤発進抑制機能が作動したとき	5-41
ピピピピピ…（連続）	 	●	**車線逸脱警報（LDWS）** 車線逸脱警報システムが車線逸脱を感知したとき	5-93

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピピピピピ…（連続）	 （緑） ハンドル手放し検知 ハンドルを握って下さい。 （赤）	●	**手放し警報** 車線維持支援システムが『ON』の状態で作動中のときに、ハンドルから手を放して約 20 秒経過したとき	5-106
ピピピピピ…（連続）	ふらつき注意 前方に注意して下さい。	●	**ふらつき警報** ふらつき警報が作動したとき（4JZ1 型エンジン車）	5-113
	ふらつき注意 休憩しませんか？	●	**ふらつき警報** ふらつき警報が作動したとき（RZ4E 型エンジン車）	
ピピピッ ピピピッ…（連続）	車間距離警報 ブレーキ！！	●	**プリクラッシュブレーキ警報（注意喚起）** ・前方に障害物を検知し、運転者にブレーキ操作を促すとき ・右左折時に横断する歩行者を検知し、運転者にブレーキ操作を促すとき	5-13

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピピピッ ピピピッ … （連続）	 	●	**車線逸脱抑制機能** ハンドルから手を放したまま一定時間内に車両が再度車線を逸脱しそうになったとき	5-101
ピーッ ピーッ … （連続）	ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻すか オートモードで走行して下さい。	●	**デュアルクラッチ式 AMT 警報** ・不適切なギヤ段での走行を続けたときや、上り坂を低速で走行したとき ・過度な発進･停止を繰り返したとき	4-97
ピッ ピッ ピッ … （連続）	 （白） ハンドル手放し検知 ハンドルを握って下さい。 （赤）	●	**手放し警報** 車線維持支援システムが『ON』の状態で作動中のときに、ハンドルから手を放して約 25 秒経過したとき	5-106
ピッ ピッ ピッ … （連続）	 （点滅）	●	**VDC 警報** VDC が作動しているとき	4-172

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーピーピー	シフトレバー R 禁止 停車した状態でシフトレバーをRにして下さい。	●	**シフトレバー R 禁止** 走行中にシフトレバーを『R』位置に操作したとき	4-97
ピーピー	 （点滅）	●	**シートベルト未装着警報** スタータースイッチが『ON』位置のときに運転席、助手席、中央席ののいずれかがシートベルト未装着で、車速 20km/h を超えたとき	1-4
ピピピッ	車間注意 車間距離をとって下さい。	●	**車間距離警報** 先行車に接近し、運転者のブレーキ操作が必要なとき	5-21
ピピピッ		●	**ブラインドスポットモニター警報** 衝突の可能性が高いとき	5-28
ピピッ	クラッチ滑り注意 長時間半クラッチを使用しないで下さい。	●	半クラッチ警報 半クラッチの状態が一定時間継続したとき	4-82
ピピッ	クラッチ滑り注意 クラッチペダルに足を乗せたまま走行しないで下さい。	●	**クラッチペダル足乗せ警報** クラッチペダルに足を乗せたまま走行したとき	4-82

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピピッ	シフトチェンジ注意 トランスミッションの故障につながるシフトチェンジです。	●	**シフトチェンジ注意警報** 走行速度に適していないギヤ段への変速操作が行われたとき	4-82
ピッ	先行車発進	●	**先行車発進お知らせ機能警報** 先行車が発進して約 5 m 以上進んでも自車が発進しないとき	5-36
ピッ	 （点滅）	●	**制限速度超過警報** 走行中、カメラが認識した制限速度を超過したとき	5-73
ピッ	高さ注意	●	**高さ注意警報** 走行中、カメラが高さ制限標識を認識したとき	5-73
ピッ	 （点滅） 進入禁止 	●	**進入禁止警報** 走行中、カメラが認識した進入禁止標識を通過したとき	5-74

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

警告灯やメーターディスプレイ表示が表示されていない場合

警報音	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーッ ピーッ …（連続）	●	**デュアルクラッチ式 AMT 警報** アンダーランまたはオーバーランするギヤ段に変速しようとしたとき、不適切な発進ギヤ段へ切り替えるシフトアップ・シフトダウン操作をしたとき（マニュアルモード）	4-96
ピーーー …（連続）	●	**デュアルクラッチ式 AMT 警報** オーバーランしたとき	4-96
ピピッ …（連続）	●	**オートマチックトランスミッション警報** アンダーランまたはオーバーランするギヤ段に変速しようとしたとき、不適切な発進ギヤ段へ切り替えるシフトアップ・シフトダウン操作をしたとき（マニュアルモード）	4-115
ピピッ	●	**車線維持支援システムキャンセル警報** 運転者の意図しない状況で、車線維持支援システムが解除されたとき	5-110

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

停車しているとき

警告灯やメーターディスプレイ表示が表示されている場合

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーーー …（連続）	ドアロック不可 キーが車内にあります。	△	**キー閉じ込み防止警報（手動施錠時）** リモコンキーを車内に置いたまま、運転席または助手席のドアのロックボタンを押し、ドアハンドルを引き上げたまま閉めて施錠しようとしたとき（インテリジェントキー付車）	2-21
ピーーー …（連続）	ドアロック不可 キーが車内にあります。	△	**キー閉じ込み防止警報（リクエストスイッチ操作時）** リモコンキーを車内に置いたまま、リクエストスイッチを押してドアを施錠しようとしたとき（インテリジェントキー付車）	2-21
ピーーー …（連続）	ドアロック不可 スタータースイッチをLOCKにして下さい。	△	**スタータースイッチ切り忘れ警報（リクエストスイッチ操作時）** スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、リクエストスイッチを押してドアを施錠しようとしたとき（インテリジェントキー付車）	2-22
ピーーー …（連続）	キー検知不可 キーが車内に見つかりません。	●	**リモコンキー持ち出し警報** スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、リモコンキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき（インテリジェントキー付車）	2-22
ピーーー …（連続）	ドアロック不可 ドアが開いています。	△	**半ドア警報** 運転席、または助手席のドアが半ドアのまま、リクエストスイッチを押す、またはリモコンキーを操作してドアを施錠しようとしたとき（インテリジェントキー付車）	2-23

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーーー …（連続）	キーを認証してください キーをスタータースイッチにかざしてください。	●	**リモコンキー無し始動操作警報** リモコンキーの電池切れや周囲の電波状況により、キーが認識できず、スタータースイッチが『ON』にできないとき（インテリジェントキー付車）	2-23
ピーーー …（連続）	キー電池残量低下 キーの電池残量が低下しています。電池を交換して下さい。	●	リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警報 リモコンキーの電池残量が少なくなったとき（インテリジェントキー付車）	2-24
ピーーー …（連続）	キーシステム異常 キーシステムが異常です。販売会社へご連絡下さい。	●	**インテリジェントキーシステム異常警報** インテリジェントキーシステムに問題が起こっていて、正常に作動できないとき（インテリジェントキー付車）	2-24
ピーーー …（連続）	Ⓐ アイドリングストップ警報 キーを操作してエンジンを始動して下さい。	●	**アイドリングストップ警報** ecostop のエンジン自動停止中にキー操作などによりエンストしたとき	4-57
ピーーー …（連続）	（橙） 車両動き出し注意 パーキングブレーキを引いて下さい。	●	**HSA 動き出し警報** HSA を効かせたまま停車中に車が動きだしたとき	4-135
ピーーー …（連続）	（橙） Ⓐ 車両動き出し注意 パーキングブレーキを引いて下さい。	●	**オートブレーキホールド動き出し警報** オートブレーキホールド を効かせたまま停車中に車が動きだしたとき	4-148

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーーー …（連続）	警告 キャブがロックされていません。 ロックの確認をして下さい。	●	**キャブチルト警報** キャブが確実にロックされていないまま、スタータースイッチを『ON』位置にしたとき	7-29
ピーッ ピーッ …（連続）	 （点灯）	●	**車両動き出し警報** 電動パーキングブレーキの作動中に車が動きだしたとき	4-79
	車両ずり下がり検知 ブレーキペダルを踏んで下さい。			
ピーッ ピーッ …（連続）	ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻すかシフトレバーをPに戻して下さい。	●	**デュアルクラッチ式 AMT 警報** ブレーキを効かせたまま、アクセルペダルを踏み続けたとき	4-97
	ミッション油温上昇 アクセルペダルを戻しブレーキを踏んで下さい。		**デュアルクラッチ式 AMT 警報** 坂道でアクセルペダルを踏み続けて停車しているとき	4-97
ピーッ ピーッ …（連続）	 （橙）	●	**HSA ドア開警報** HSA を効かせたまま、パーキングブレーキレバーを引かずにドアを開けたとき	4-135
	離席注意 HSA作動中です。 離席する時にはパーキングブレーキを引いて下さい。			

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーッ ピーッ … （連続）	 （橙） HSA 長時間作動注意 HSAが長時間作動しています。 パーキングブレーキを 引いて下さい。	●	**HSA 長時間警報** HSA を効かせたままで停車したとき	4-135
ピーッ ピーッ … （連続）	 （橙） HSA 異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	●	**HSA 故障警報** HSA が故障したとき（HSA 作動時）	4-135
ピーッ ピーッ … （連続）	 （橙） 離席注意 AUTO HOLD作動中です。 離席する時には パーキングブレーキを 引いて下さい。	●	**オートブレーキホールドドア開警報** オートブレーキホールドを効かせたまま、パーキングブレーキを効かせずにドアを開けたとき （電動パーキングブレーキのキーオフ自動作動が自動作動 OFF または離席連動 OFF に設定されている場合のみ）	4-148
ピーッ ピーッ … （連続）	 （橙） ブレーキ保持システム異常 エンジンを再始動して下さい。 再度表示された場合は 販売会社へご連絡下さい。	●	**オートブレーキホールド故障警報** オートブレーキホールドが故障したとき（オートブレーキホールド作動時）	4-148

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーッ ピーッ … （連続）	PTO 作動準備中 PTOの作動を準備しています。	●	**PTO 作動準備中警報（デュアルクラッチ式 AMT 車のみ）** ダンプレバー、PTO コントロールレバー操作時または、PTO スイッチを押して、PTO が作動準備中のとき	4-212
	PTO 解除中 PTOの作動を解除しています。	●	**PTO 解除中警報（デュアルクラッチ式 AMT 車のみ）** ダンプレバー、PTO コントロールレバーまたは PTO スイッチを使用して PTO の解除操作を行い、PTO が解除中のとき	4-212
ピッ ピッ ピッ …（連続）	ライト消し忘れ注意 ライトの消し忘れにより バッテリーがあがる可能性が あります。	●	**ライト消し忘れ注意** スタータースイッチが『LOCK』位置の状態で、ライト点灯表示灯の点灯中にドアを開けたとき	4-122
ピッ … ピッ … （連続）	PTO 作動中 PTOが作動しています。	●	**PTO 作動中警報 (デュアルクラッチ式 AMT 車のみ）** PTO が作動しているとき（PTO 非常用スイッチ使用時を除く）	4-212
ピーッ ピーッ … （約 6 秒）	Ⓟ （点滅→点灯）	●	**パーキングブレーキ作動警報（離席連動）** 離席連動によって電動パーキングブレーキが自動作動したとき	4-79
	Ⓟ パーキングブレーキ自動作動 離席を検知したことにより パーキングブレーキが 作動しました。			
ピーッ	ブレーキを踏んで下さい i	●	**ブレーキペダル踏み忘れ警報** オートブレーキホールド作動中にブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチをオフしたとき	4-148
ピッピッ ピッ	キー検知不可 キーが車内に見つかりません。	○	**リモコンキー持ち出し警報** スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、リモコンキーを車外に持ち出しドアを閉めたとき（インテリジェントキー付車）	2-22

警報音	警告灯 / メーターディスプレイ表示	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピッピッピッ	(A) アイドリングストップ警報 ギヤをニュートラルにして クラッチペダルを踏んで下さい。	●	**アイドリングストップ警報** ecostop のエンジン自動停止中にギアイン操作をしたとき（マニュアルトランスミッション車）	4-57
ピッピッピッ	(A) START エンジン再始動 ドアが開いたため エンジンを再始動しました。	●	**エンジン再始動警報** ecostop によるエンジン自動停止中に、運転席ドアを開けたとき	4-57
	(A) START エンジン再始動 シートベルト非装着のため エンジンを再始動しました。	●	**エンジン再始動警報** ecostop によるエンジン自動停止中に、運転席シートベルトを外したとき	4-57
ピピッ	キー照合完了 スタータースイッチを ONにして下さい。	●	**イモビライザー照合完了通知** リモコンキーが認識でき、スタータースイッチが『ON』にできるようになったとき（インテリジェントキー付車）	2-23

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

警告灯やメーターディスプレイ表示が表示されていない場合

警報音	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピーッ ピーッ …（連続）	●	**キー抜き忘れ警報** スタータースイッチが『ACC』、『LOCK』位置にあるとき、キーを差し込んだまま運転席ドアを開けたとき （インテリジェントキー無車）	2-28
ピーッ ピーッ …（連続）	△	**バック警報** シフトレバーを『R』位置に操作したとき（音声警報なし車）	4-81
ピーッ ピーッ …（連続）	●	**デュアルクラッチ式 AMT 警報** 不適切な発進ギヤ段へ切り替えるシフトアップ・シフトダウン操作をしたとき（マニュアルモード）	4-96
ピッピッ	○	**スタータースイッチ切り忘れ警報（手動施錠時）** ・スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、運転席のドアのロックボタンを押した（自動的に解錠され、左右のターンシグナルランプが 2 回点滅します）（インテリジェントキー付車） ・スタータースイッチが『ACC』、または『ON』位置のまま、ドアロック状態でドアを開けてから閉めようとした（自動的に解錠され、左右のターンシグナルランプが 2 回点滅します）（インテリジェントキー付車）	2-22

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

音声警報★

音声警報	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピロピロピローン 左へ曲がります･ご注意ください（連続）	○	**左折警報** ターンシグナルスイッチを左折側にしたとき	—
ピーピーピー･ニュートラル待機をお奨めします（連続）*1	●	**省燃費アドバイス警報（デュアルクラッチ式 AMT 車のみ）** 長時間ギヤが入ったまま、パーキングブレーキを引き停止していたとき	3-41
ピーッピーッピーッ･パーキングブレーキを確認してください（連続）*1	●	**パーキングブレーキ戻し忘れ警報** パーキングブレーキを効かせたまま走行したとき	4-71 4-79
		パーキングブレーキ作動警報（走行中）（電動パーキングブレーキ付車） 走行中に電動パーキングブレーキスイッチを引き上げたとき	4-79
		パーキングブレーキ引き忘れ警報 パーキングブレーキを効かせずにスタータースイッチを『ACC』または『LOCK』位置にしたとき（電動パーキングブレーキ付車は自動作動を OFF にしているとき）	4-71 4-79
車が動きます ご注意ください ピーピーピー･バックします（連続）*2	○	**バック警報** シフトレバーを『R』位置に操作したとき	4-81
ピーピーピー･安全な場所に停車して、警告灯が消灯するまでお待ちください（連続）*1	●	**デュアルクラッチ式 AMT 警報** デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイルの温度が異常に高くなったとき	4-97
ピーピーピー･ギヤを入れたまま降りないでください（連続）*1	●	**デュアルクラッチ式 AMT 警報** スタータースイッチが『ON』位置のときにギヤが入ったままドアを開け、車から離れようとしたとき	4-97

音声警報	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピー 前方に注意してください	●	**ドライバーステータスモニター前方注意警報** 走行中、以下の状況が一定時間継続しているとシステムが判断したとき ・顔や視線が進行方向を向いていない ・運転姿勢が大きく崩れている	5-117 5-118
		ドライバーステータスモニター視線検知警報 走行中、以下の状況が一定時間継続しているとシステムが判断したとき ・視線が進行方向を向いていない	
ピー 休憩しませんか	●	**ドライバーステータスモニター集中力低下警報** 走行中、以下の状況が一定時間継続しているとシステムが判断したとき ・長い時間目を閉じている ・目が十分に開いておらず、眠そうな目つきをしている	5-118
姿勢を正してください	●	**ドライバー異常時対応システム（EDSS）ドライバー異常検知時** ドライバー異常が検知されたとき	5-137
非常ブレーキが作動しました	△	**ドライバー異常時対応システム（EDSS）非常ブレーキ作動時** 非常ブレーキが作動したとき	5-137
非常ブレーキが作動しました。警察救急に連絡してください	△	**ドライバー異常時対応システム（EDSS）停車後** 非常ブレーキが作動し、車両が停車したとき	5-137
ピーッ ETC カードが挿入されていません *3	●	**ETC カード挿入異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピッピッ カードを読めません。コード 02 *4	●	**データ処理異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピッピッ カードを読めません。コード 03 *4	●	**ETC カード異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピーッ 異常が発生しました。ETC をご利用できません。コード 04 *4	●	**ETC2.0 車載器故障** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62

音声警報	警報場所	原因 / 作動条件	参照ページ
ピッピッ ETC カードに書き込みできません。コード 11 *4	●	**データ処理異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピッピッ カードを読めません。コード 05 *4	●	**ETC カード情報の異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピーッ ETC をご利用できません。コード 06	●	**ETC2.0 車載器情報の異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピーッ ETC をご利用できません。コード 07	●	**通信異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピーッ アンテナの接続が異常です。ETC をご利用できません。コード 07 *4	●	**アンテナ接続の異常** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62
ピッピッ ETC セットアップされていません	●	**ETC2.0 車載器の未セットアップ状態** ETC2.0 車載器に異常が発生したとき	6-62

●：キャブ内　○：キャブ外　△：キャブ内およびキャブ外

*1： 警告ブザー（ピーピーピー）は 1 回目の音声警報時のみ

*2： 警報内容「車が動きます」は 1 回目の音声警報時のみ

*3： ETC カードを挿入せずに ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときも警報を行います。

*4： 音声案内後、ETC カードを抜き取るまで、ブザー音『ピッピッピッ ……』が鳴り続けます。

知　識

・ライティングスイッチを『 』または『 』位置にすると、車外の警報音を減音します（左折･バック警報のみ）。

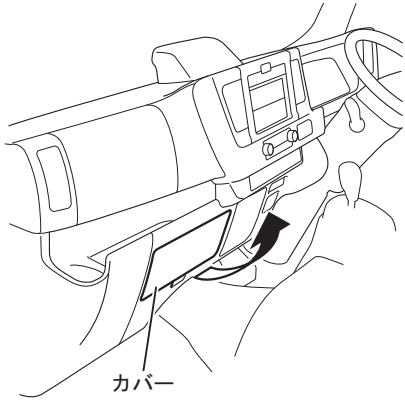
ヒューズとリレーの交換

ランプが点灯または点滅しない場合や、電気系統の装置が作動しないときはヒューズが切れていないかを点検します。

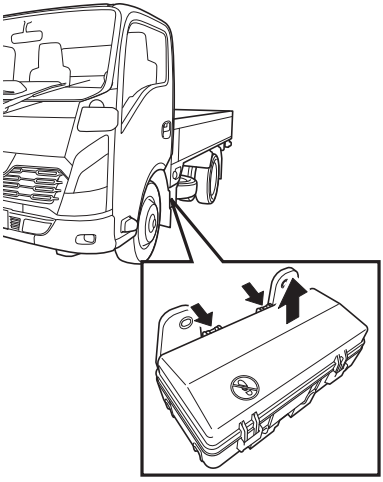
ヒューズとリレーの位置

ヒューズはインストルメントパネル中央下部、左側キャブ後方、バッテリーキャリア部およびアクセサリソケット右下部にあります。点検、交換はカバーを開けて行います。

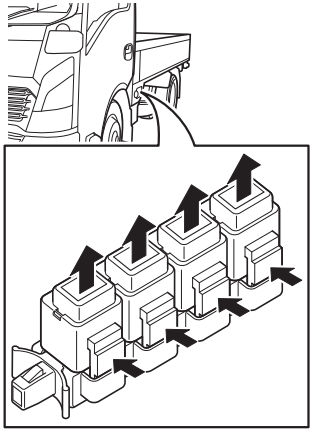
インストルメントパネル



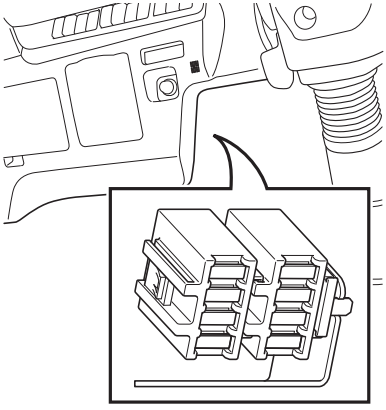
左側キャブ後方



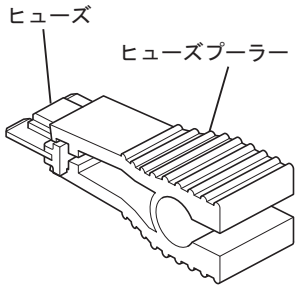
バッテリーキャリア部

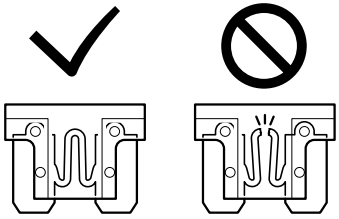


アクセサリソケット右下部



ヒューズの交換





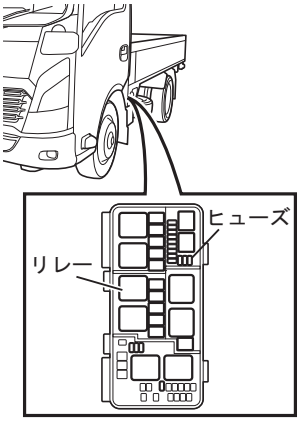
正常　　断線

1. ヒューズ交換は、スタータースイッチを『LOCK』位置にし、パーキングブレーキを効かせてから実施してください。
2. ヒューズにヒューズプーラーを差し込んで引き抜きます（ヒューズプーラーは室内のヒューズボックス内にあります）。
3. ヒューズが左図の右側のようでしたら、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。（予備ヒューズは室内のヒューズボックス内にあります。）

⚠ 警　告

- **ヒューズは必ず指定容量のものを使用してください。指定容量以外のものや、針金、銀紙などを使用すると故障や火災の原因になります。**
- **交換したヒューズがすぐ切れるときや、ヒューズ切れの原因がわからないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。**
- **スタータースイッチが『LOCK』位置以外のときや HSA またはオートブレーキホールド作動中の駐･停車時などはヒューズの点検、交換はしないでください。思わぬ事故や故障の原因になります。**
- **ヒューズの点検は平坦な場所で、輪止めなどを使用して行ってください。**

リレーの交換



リレーを交換するときは最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

アドバイス

- 故障時以外、開閉の必要はありません。
- 万一、カバーの上に水や、ジュースなどをこぼしたときはこれらがリレーボックス内に落下しにくい構造になっていますが、カバーを開ける前にまず、ふき取ってください。
- 走行中、カバー周辺が温かくなることがありますが、異常ではありません。

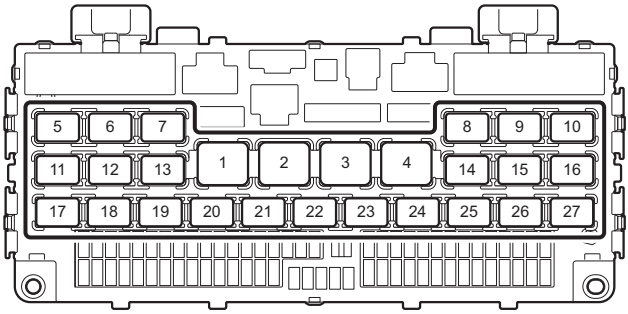
ヒューズ、リレーの配置

ヒューズ配置（キャブ内、アクセサリソケット右下部）

知　識

・ヒューズ配置については、カバー裏に貼り付けてあるラベルをご覧ください。

リレー配置（キャブ内）



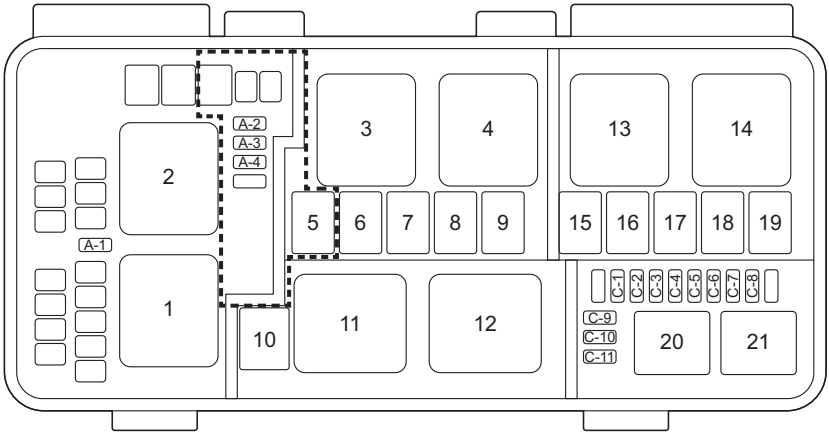
No.	リレー名称
1	アクセサリー
2	イグニッション メイン
3	ブロアモーター
4	ワイパー キー ON
5	—
6	パワーウインドー
7	パワーウインドー（リヤ）
8	バックアップランプ
9	ISS スタート 2
10	イグニッション 12V
11	DRL
12	ミラーオープン
13	ミラークローズ
14	テールランプ
15	ISS スタート 1
16	ヘッドランプ HI

No.	リレー名称
17	スターター ※2
18	ヘッドランプ LO
19	フライホイール PTO アクセル ※1
20	フライホイール PTO ニュートラル ※1
21	ヘッドランプ クリーナー ※1
22	イグニッション 12V
23	ウォッシャーモーター
24	ホーン
25	—
26	—
27	フォグランプ

※1：4JZ1 型エンジン車

※2：RZ4E 型エンジン車

ヒューズ、リレー配置（キャブ外、左側キャブ後方）



No.	リレー名称
1	スターター
2	スターター 2
3	SCR ヒーター
4	12V_IGN※1
5	リヤ パワーウインドー※2
6	ニュートラルバケット※1
	H/L クリーナー※2
7	—
8	—
9	電動パーキングブレーキ
10	マーカーランプ
11	グロー

No.	リレー名称
12	DCU
13	シャシ IGN
14	ECM
15	—
16	—
17	ニュートラル※1
18	スターターカット
19	コンデンサーファン
20	A/C コンプレッサー
21	ニュートラル※1
	PTC ヒーター 2※2

No.	ヒューズ名称	容量
A-1	A/C※1	15A
	A/C※2	20A
A-2	キャブ 12V (+B)※1	15A
	ECM (+B)※2	15A
A-3	SCR (+B)	20A
A-4	EDU (+B)※1	10A
C-1	PTC ヒーター 1※2	20A
C-2	PTC ヒーター 2※2	20A
C-3	イコライザー (IG)※1	15A
C-4	ECM (IG)	15A

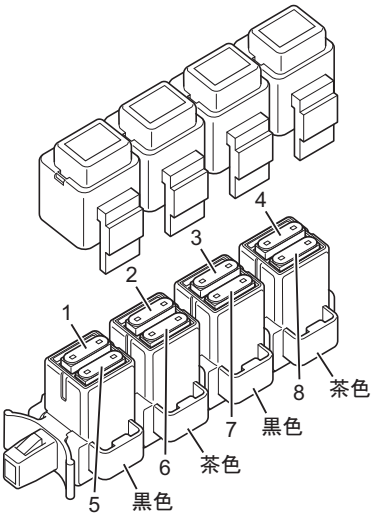
No.	ヒューズ名称	容量
C-5	SCR (IG)	15A
C-6	ECM メイン※1	10A
	ECM メイン※2	15A
C-7	PM センサー※1	10A
C-8	シャシ IGN※1	15A
C-9	タイヤ空気圧モニタリングシステム (+B)※1	15A
C-10	サービスバッテリー	10A
C-11	マーカーランプ	10A

※1：4JZ1 型エンジン車
※2：RZ4E 型エンジン車

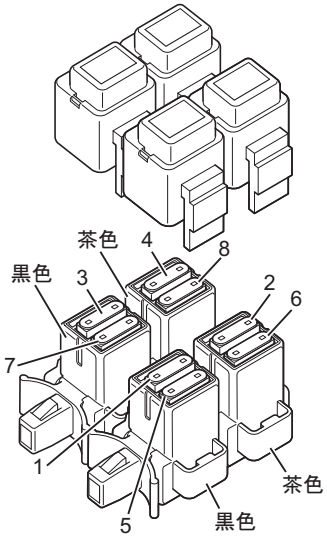
ヒューズ配置（キャブ外、バッテリーキャリア部）

4JZ1 型エンジン車

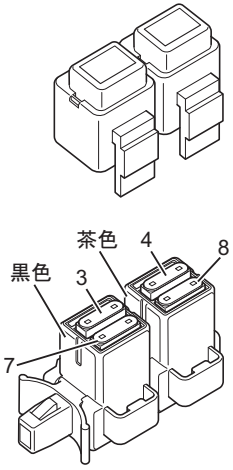
タイプ 1



タイプ 2



RZ4E 型エンジン車

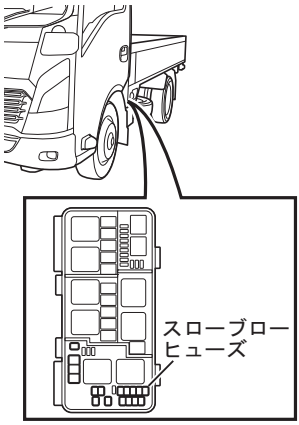


No.	ヒューズ名称	容量
1	センサー電源 (24V)	10A
2	内部抵抗測定 (24V)	10A
3	センサー電源 (12V)	10A
4	内部抵抗測定 (12V)	10A
5	スペアヒューズ	10A

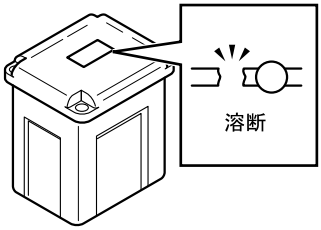
No.	ヒューズ名称	容量
6	スペアヒューズ	10A
7	スペアヒューズ	10A
8	スペアヒューズ	10A

※：24V 用ヒューズは根元に黄色テープ付き

スローブローヒューズが溶断したとき



スローブローヒューズは電気回路の保護を目的とし、万一の故障時交換を早くできるように配置されています。
バッテリーからの電気回路に許容以上の負荷がかかると、ワイヤリングハーネスが損傷する前に、スローブローヒューズが溶断し、電気回路を保護します。



点検
ヘッドライトやその他の電気系統の装置が作動せず、ヒューズにも問題がない場合は、スローブローヒューズを点検してください。
スローブローヒューズが左図のようになっている場合は、ヒューズが溶断しています。
ただちに最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

⚠ 警 告

- **スローブローヒューズは必ず指定容量のものを使用してください。指定容量以外のものや、針金、銀紙などを使用すると故障や火災の原因になります。**
- **交換したスローブローヒューズがすぐ溶断するときや、溶断の原因がわからないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。**
- **スタータースイッチが『ON』位置のときや HSA またはオートブレーキホールド作動中の駐･停車時などはスローブローヒューズの点検、交換はしないでください。思わぬ事故や故障の原因になります。**
- **スローブローヒューズの点検は平坦な場所で、輪止めなどを使用して行ってください。**

アドバイス

- 故障時以外、開閉の必要はありません。
- 万一、カバーの上に水や、ジュースなどをこぼしたときはこれらがリレーボックス内に落下しにくい構造になっていますが、カバーを開ける前にまず、ふき取ってください。
- 走行中、カバー周辺が温かくなることがありますが、異常ではありません。

事故をおこしたとき

落ち着いて次の処置をとってください。

1. 事故の続発を防ぎます。
   ハザードランプ（非常点滅灯）を点滅させて、すぐに安全で交通の妨げにならない場所（路肩、路側帯）に車を移動し、エンジンを停止させます。
2. 負傷者の救護
   負傷者がいる場合は医師、救急車などが到着するまで可能な応急手当をしてください。特に頭部にケガをしているときは、そのまま動かさないようにしてください。事故の続発の危険があるときは、安全な場所へ移動させてください。
3. 警察への連絡
   事故の発生場所、状況、負傷者とその負傷の程度を連絡し、指示を受けてください。
4. 相手方の確認（住所、氏名、電話番号）と事故状況の確認
5. ご購入された販売店、保険会社への連絡

アドバイス

- 小さな事故、軽いケガでも必ず警察へ届け医師の診察を受けてください。特に、頭部への衝撃を受けたときは、外傷がなくても後になって後遺症が出るおそれがあります。

けん引するとき

故障車の移動はできるだけ専門業者にレッカー車などを依頼してください。やむを得ないときは次の手順で行ってください。

⚠ 警 告

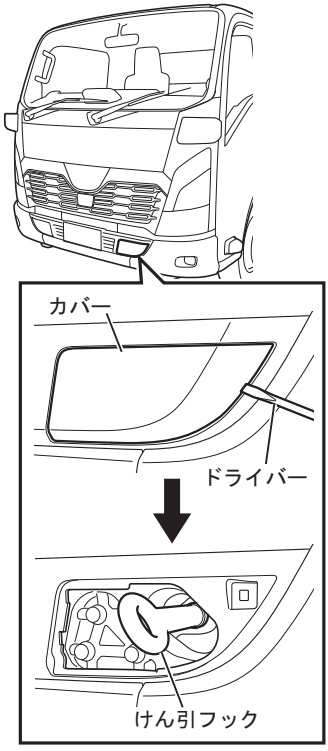
- プロペラシャフトを外すときは、必ず輪止めをしてください。車両が動き出し重大な事故を引き起こすおそれがあります。

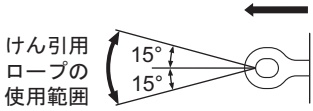
⚠ 注 意

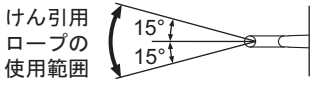
- 故障車をけん引するときは、積み荷をすべて降ろし、空車状態でけん引してください。
- マニュアルトランスミッション車の場合、シフトレバーを『N』位置にし、車速 40km/h 以下、走行距離 10km 以内で安全な場所までけん引してください。
  安全な場所まで移動した後、トランスミッション保護のためプロペラシャフトを外してけん引してください。そのままけん引すると、トランスミッションの故障の原因となります。
- デュアルクラッチ式 AMT 車の場合、シフトレバーを『N』位置にしシフトインジケーターに「N」が表示されていることを確認してから、車速 40km/h 以下、走行距離 2km 以内で安全な場所までけん引してください。
  安全な場所まで移動した後、トランスミッション保護のためプロペラシャフトを外すか、後輪を吊り上げてけん引してください。そのままけん引すると、デュアルクラッチ式 AMT の故障の原因となります。
- オートマチックトランスミッション車の場合、シフトレバーを『N』位置にしシフトインジケーターに「N」が表示されていることを確認してから、車速 30km/h 以下、走行距離 80km 以内で安全な場所までけん引してください。
  安全な場所まで移動した後、トランスミッション保護のためプロペラシャフトを外してけん引してください。そのままけん引すると、トランスミッションの故障の原因となります。
- なるべくエンジンを始動した状態でけん引してください。
  エンジンが始動されていないと
  - ブレーキの効きが悪くなります。
  - ハンドル操作が重くなります。
  - ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり大変危険です。（キーを抜いてしまっているとき。）
- 前輪または後輪を吊り上げてスタータースイッチを『ON』位置にしてけん引するときは、VDC OFF スイッチを使用して、ASR の機能を停止させてください。停止させずにけん引すると、ASR が作動し、思わぬ事故の原因になります。
- 自車の車両重量より重い故障車をけん引しないでください。
- けん引フックは良路でけん引するときや、けん引されるときに使用してください。

参照ページ
4-170 VDC OFF スイッチ

フロント側







1. フロント側けん引フックは車載工具として車載されています。以下の手順で取り付けます。

参照ページ
7-6 車載工具

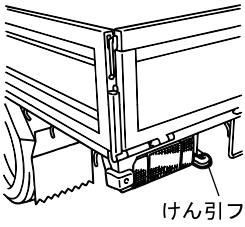
1) 切り欠き部をマイナスドライバーなどでこじってカバーを取り外します。

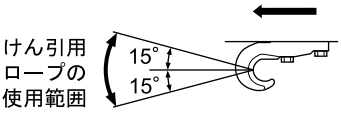
2) 車載工具のけん引フックを取り付けます。けん引フックは止まるまでねじ込んで取り付けてください。

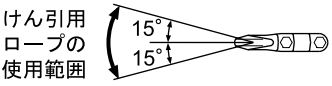
アドバイス

- けん引フック取り付け時、フックのねじ部やフレームの取り付け穴にゴミや異物が付着している場合は、取り除いてください。
- けん引フックを充分にねじ込んで使用してください。しっかり取り付けられていないと、フックを損傷させるおそれがあります。

リヤ側







2. 車をけん引するまたはけん引される場合は、車両の前後にある、けん引フックにロープを同じ側にしっかりかけます。

アドバイス

- フロント側けん引フックに牽引ロープを取り付ける際は、かぎ型金具付きのけん引ロープを使用してください。
- けん引ロープは、けん引に耐えるものを使用して確実にフックに取り付けてください。

3. ロープは 5m 以内にして中間に白い布（30cm 平方以上）をつけます。

4. けん引中は、けん引車のストップランプ（制動灯）によく注意して、ロープをたるませないようにし、強いショックや横方向への力を与えないように注意します。

⚠ 注 意

- **15° 以上の角度でけん引しないでください。各部に無理がかかり車を破損するおそれがあります。**
- **けん引フックにロープをかけてください。けん引フック以外の部分を使ってけん引すると、車を破損するおそれがあります。**
- **けん引するときは、けん引ロープやフックの近くに人がいないことを確認して、けん引してください。ロープなどの破損によって、近くにいる人がケガをするおそれがあります。**
- **溝やぬかるみなどに入ったときは、積み荷を降ろし、フックでのけん引をさけてアクスルでけん引します。**
- **HSA 装着車では HSA OFF スイッチを押し、HSA を解除してください。**
- **オートブレーキホールド装着車は、オートブレーキホールドスイッチを押し、オートブレーキホールドを解除してください。**

5. フロント側のけん引フックを使用した場合は、けん引後にフックを取り外しカバーを取り付けます。

アドバイス

【こんなときはレッカー車に連絡を】

- 長い坂道を下るときブレーキが過熱し、効かなくなるおそれがあります。
- トランスミッション、デファレンシャルが故障したとき。
- 高速道路で故障したとき。

参照ページ
4-133 HSA OFF スイッチ
4-145 オートブレーキホールドスイッチ

あ

アイドリングコントロールノブ★ 4-52
アクセサリーソケット 6-31
悪路に落ち込んだとき 11-16
アナログタコグラフ★ 4-236
アンテナ 6-107

い

インテリジェントキー★ 2-14
インテリジェントキーが正常に作動しないとき 11-19

う

ウインドー 2-66
ウインドーウォッシャー液 10-98
ウインドーウォッシャー液量の点検 9-8
運転するときは 4-10
運転する前に 4-3

え

エアクリーナー 10-32
エアコンフィルター 10-102
エンジン 10-3
エンジンオイル 10-3
エンジンオイルの点検 9-8
エンジンオイルフィルター 10-10
エンジンのかかり具合･異音の点検 9-21
エンジンの始動・停止のしかた 4-43
エンジンの低速と加速の状態の点検 9-24
エンジン冷却水量の点検 9-4
エンストをして再始動ができなくなったとき 11-7
炎天下や夏季の運転 4-42

お

オーディオシステムの使用★ 6-102
オートエアコン★ 6-13
オートクルーズ★ / 全車速車間クルーズ★ 5-46
オートブレーキホールド★ 4-144
オートマチックトランスミッションオイル★ 10-84
オートマチックトランスミッション車★ 4-104
オーバーヒートしたとき 11-17
オイルパンヒーター用コンセント★ 4-66
お車の故障を防ぐために 0-18
お子様を乗せるときは 1-19
お出かけ前には『日常（運行前）点検』を 9-2

か

カップホルダー 6-39
可変スピードリミッター★ 4-175
可変配光型ランプ★ 5-145
カメラカバーポケット 6-34
寒冷地や冬季の運転 4-32

き

キー 2-2
キーレスエントリー★ 2-11
キャブチルト★ 7-28
緊急制動表示灯（ESS） 4-173

く

クーラーガス（冷媒量） 6-28
クラッチ★ 10-77
クラッチの作用の点検 9-23
クラッチフルード★ 10-78
グリップおよびステップ 2-35
グローブボックス（小物入れ）★ 6-35

け

警告灯、表示灯が点灯（点滅）したとき	11-21
警告灯 / 表示灯	3-34
警告灯 / 表示灯一覧	3-7
警告ブザーが鳴ったとき	11-21
警告ラベルについて	0-6
けん引するとき	11-48

こ

誤発進抑制機能★	5-40

さ

サービスコネクターについて	8-24
作業用ブレーキロック★	4-207
左折＆バック音声警報 ON/OFF スイッチ★	4-130
サンバイザー（日よけ）	6-31

し

シート	2-36
シートサイドトレイ★	6-38
シートバックスペース★	6-41
シートバックポケット	6-37
シートベルト	1-2
事故をおこしたとき	11-47
シフトレバー	4-81
シフトレバーが『P』の位置から動かなくなったとき	11-12
車外ツールボックス★	2-86
車外の手入れ	10-118
車間距離警報	5-20
車載工具	7-6
車線逸脱警報（LDWS）	5-90
車台番号･エンジン番号	0-3
ジャッキ	7-15
車内の手入れ	10-122
車両データの記録について	0-17
助手席カップホルダー＆ポケット	6-35

す

水温計（テンプメーター）	3-4
ステップランプ★	6-30
スピードメーター（速度計）	3-2
スピードリミッター（速度抑制装置）★	4-174
スペアタイヤ	10-74
スローブローヒューズが溶断したとき	11-46

せ

制動力アシスト機能★ 4-164
整備基準値一覧 8-3
前回の運転で異常のあった箇所の点検 9-4
先行車発進お知らせ機能 5-36
全国サービス網 0-2
先進運転支援システムについて 5-2
センターコンソールボックス（小物入れ）★ 6-36
センターシートバックトレイ★ 6-39
センターポケット 6-34

そ

走行中、車が故障したとき 11-2
走行中エンジンが停止したとき 11-4

た

タイヤ 10-63
タイヤ空気圧一覧 8-3
タイヤ空気圧モニタリングシステム★ 4-231
タイヤの交換 10-66
タイヤの点検 9-12
タイヤのローテーション 10-63
タコメーター（エンジン回転計） 3-3
暖機システム（RZ4E 型エンジン車） 4-54
暖機スイッチ（4JZ1 型エンジン車） 4-53

ち

駐車や停車するときは 4-25
チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル） 2-48

て

定期交換部品一覧 8-17
定期点検整備一覧 8-16
ディスクブレーキ★ 10-60
デジタルタコグラフ★ 4-237
デファレンシャルオイル 10-89
デュアルクラッチ式 AMT ★ 4-87
デュアルクラッチ式 AMT クラッチオイル★ 10-85
点検･調整をするときの注意 7-3
点検口★ 7-22
点検整備について 7-2
電動パーキングブレーキ★ 4-71
電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき 11-14

と

ドア 2-25
灯火装置 4-120
ドライバー異常時対応システム（EDSS）★ 5-132
ドライバーステータスモニター★ 5-116
ドラムブレーキ★ 10-61
トランスミッションオイル 10-79

に

荷台★ 2-78
日常（運行前）点検一覧 9-3
日産純正部品について 7-4
尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき 11-11
尿素水量計 3-6
尿素 SCR システム 4-197
妊娠中のかたや疾患のあるかたを乗せるときは 1-25

ね

燃料給油口 2-74
燃料切れしたとき 11-10

は

パーキングブレーキ 10-58
パーキングブレーキ★ 4-68
パーキングブレーキレバーの引きしろの点検 9-21
廃棄部品、廃棄油脂液類 7-4
排気ブレーキスイッチ（4JZ1 型エンジン車） 4-159
バックパネルトレイ（小物入れ）★ 6-39
バックブザー OFF スイッチ★ 4-129
バッテリー 10-104
バッテリー液量の点検 9-16
バッテリーがあがったとき 11-7
パワーステアリングフルード 10-95
ハンガーフック★ 6-42
パンクしたとき 11-5
ハンズフリー操作★ 6-93

ひ

ヒーター / マニュアルエアコン★ 6-6
ヒューズ、リレーの配置 11-42
ヒューズとリレーの交換 11-39
標識認識機能★ 5-69
標識連動型スピードリミッター★ 5-83

ふ

ファンベルト 10-32
ファンベルトの点検 9-11
踏切内で動けなくなったとき 11-6
フューエルフィルター 10-37
フューエルメーター（燃料計） 3-5
ブラインドスポットモニター★ 5-25
ふらつき警報 5-112
プリクラッシュブレーキ（PCB） 5-11
プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステム 1-9
ブレーキ 10-56
ブレーキアシストシステム★ 4-164
ブレーキが効かなくなったとき 11-4
ブレーキフルード 10-57
ブレーキフルードの点検 9-18
ブレーキペダルの踏みしろおよびブレーキの効き具合の点検 9-23
フロント吹き出し口 6-3
フロント PTO ギヤオイル（消防車）★ 10-94

へ

ペダル類 4-67
ヘッダートレイ★ 6-38

ほ

ホーンボタン 4-129
ポケット（小物入れ）★ 6-33
保証について 0-2

み

ミラー 2-49

め

メーターディスプレイ 3-42
メーター配置 3-2
メンテナンスデーター覧 8-2

ら

ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄 10-31
ラジオ（USB/Bluetooth® 付き）★ 6-66
ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器） 10-111
ランプ類の点灯・点滅の点検 9-19
ランプ類の汚れ、損傷がないか点検 9-7

り

リヤクーラー★ 6-26
リヤトレイ★ 6-41
リヤヒーター★ 6-27
リヤ吹き出し口★ 6-4

る

ルームランプ（室内灯） 6-28

れ

レーンキープアシスト★ 5-96
冷却水 10-15

わ

ワイパー・ウインドーウォッシャーの点検 9-21
ワイパー・ウォッシャースイッチ 4-127
ワイパーブレードとウインドーガラス 10-99

A

ABS 4-160
ASR 4-165

D

DPD 4-184
DPD（ディーゼル・パティキュレート・ディフューザー） 10-55

E

EBD 4-164
ECONO モードスイッチ（マニュアルトランスミッション車）★ 4-131
ecostop（エコストップ）★ 4-55
ETC2.0 車載器★ 6-42

H

HSA（坂道発進補助装置）★ 4-132

P

PTO ★ 4-211

S

START ASSIST スイッチ（マニュアルトランスミッション車）★ 4-131

U

USB チャージャー★ 6-32

V

VDC 4-167